

口演，論文，著書など

医学部

目 次

第一内科学教室（呼吸器）	3	解剖学教室（肉眼解剖学）	126
第一内科学教室（腎臓・リウマチ膠原病）	9	解剖学教室（顕微解剖学）	127
第一内科学教室（神経）	14	統合生理学教室	130
第二内科学教室（循環器）	17	細胞生理学教室	130
第二内科学教室（血液）	26	生化学教室（1）	131
第三内科学教室（消化器）	26	生化学教室（2）	132
第三内科学教室（糖尿病・内分泌・代謝）	33	薬理学教室	132
腫瘍内科学教室	36	病理学教室	134
高齢医学教室	40	感染症学教室（微生物学）	139
精神神経科学教室	44	感染症学教室（寄生虫学）	145
小児科学教室	46	衛生学公衆衛生学教室	146
外科学教室（消化器・一般）	49	法医学教室	152
外科学教室（呼吸器・甲状腺）	54	共同研究施設 放射性同位元素部門	152
外科学教室（乳腺）	59	フローサイトメトリ部門	153
小児外科学教室	61	実験動物施設部門	153
救急医学教室	62	生物学教室	155
脳神経外科学教室	64	物理学教室	156
心臓血管外科学教室	71	化学教室	156
整形外科学教室	73		
皮膚科学教室	80		
形成外科学教室	85		
泌尿器科学教室	89		
眼科学教室	94		
耳鼻咽喉科・頭頸科学教室	102		
産科婦人科学教室	106		
放射線医学教室	112		
麻酔科学教室	116		
臨床検査医学教室	118		
総合医療学教室	121		
リハビリテーション医学教室	123		
「リハビリテーション室」	125		
医学教育学教室	126		

第一内科学教室
(呼吸器内科)

口 演

1. Ishii H, Nakata K¹(¹Niigata University Medical and Dental Hospital): Clinical features of secondary pulmonary alveolar proteinosis complicated with myelodysplastic syndrome in Japan. The 2nd Japanese Society of Hematology International Symposium 2011. Nagasaki, Apr. 23, 2011.
2. Ishii H, Nakata K¹, Tazawa R¹, et al. (¹ Niigata University Medical and Dental Hospital): Clinical features of secondary pulmonary alveolar proteinosis complicated with myelodysplastic syndrome in Japan. American Thoracic Society 2011 International Conference. Denver, May 16, 2011.
3. Higaki M, Wada H, Yasutake T, Mikura S, Honda K, Nakamura M, Niikura M¹, Kobayashi F¹, Kamiya S¹, Goto H(¹Division of Medical Microbiology, Kyorin University School of Medicine): IL-10 resolves the neutrophilic inflammation in mice exposed to cigarette smoke. European Respiratory Society Annual Congress 2011. Amsterdam, Sep. 24-28, 2011.
4. Honda K, Wada H, Tamura M, Takada S, Koide T, Nakamura M, Ishii H, Kurai D, Saraya T, Fujii K¹, Hagiwara I², Yamamoto Y³, Goto H(¹Kaneka Corporation, ²Honda Engineering & Department of Respiratory Medicine, Jichi Medical School Hospital, ³Department of Bionics, Tokyo University of Technology): Reduction of oxidative stress in successfully treated patients with community acquired pneumonia (CAP), as measured by redox status of coenzyme Q10. European Respiratory Society Annual Congress 2011. Amsterdam, Sep. 24-28, 2011.
5. Wada H, Honda K, Nakamura M, Goto H, Kawai S¹(¹Division of Rheumatology, Department of Internal Medicine, Toho University School of Medicine): Delayed epidemic peak of pandemic influenza (H1N1-2009) among hospital workers: The association between handy hygien behavior and the consumption of disposable hand paper. European Respiratory Society Annual Congress 2011. Amsterdam, Sep. 24-28, 2011.
6. Saraya T, Nakata K¹, Nakagaki K², Motoi N¹, Kaji M¹, Fujioka Y³, Kurai D, Wada H, Ishii H, Taguchi H⁴, Kurata S⁴, Kamiya S⁴, Goto H(¹ Niigata University Medical and Dental Hospital, Bioscience Medical Research Center, ² Department of Animal Science, Nippon Veterinary Life Science University, Medical Research Laboratories, ³ Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ⁴ Division of Medical Microbiology, Kyorin University School of Medicine): A novel mouse model reveals a mechanism for lung inflammation caused by *Mycoplasma pneumoniae* antigens. The 5th Meeting of the Asian Organization for Mycoplasmaology, Nagasaki, Oct. 19-21, 2011.
7. 皿谷健, 石井晴之, 田村仁樹, 小出卓, 高田佐織, 長友禎子, 渡辺雅人, 横山琢磨, 和田裕雄, 後藤元: 結核性胸膜炎の臨床像及びスコアリングを用いた診断に関する検討: 細菌性胸膜炎との比較. 第85回日本感染症学会総会, 東京, 平成23年4月21-22日.
8. 倉井大輔, 荒木光二¹, 石井晴之, 和田裕雄, 皿谷健, 横山琢磨, 渡辺雅人, 高田佐織, 小出卓, 田村仁樹, 長友禎子, 中本啓太郎, 中島明, 中村益夫, 本多紘二郎, 乾俊哉, 後藤元(¹杏林大・臨床検査部): Clostridium 属の血液培養陽性症例の検討. 第85回日本感染症学会総会, 東京, 平成23年4月21-22日.
9. 田中康隆, 長友禎子, 田村仁樹, 小出卓, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 和田裕雄, 石井晴之, 後藤元: 急性好酸球性肺炎の高分解能CT所見一画像所見と臨床像との対比を含めて一. 第51回日本呼吸器学会総会, 東京, 平成23年4月22-23日.
10. 高田佐織, 皿谷健, 田村仁樹, 小出卓, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 和田裕雄, 石井晴之, 後藤元: 悪性腫瘍に合併した心タンポナーデの vital sign を含めた臨床的検討. 第51回日本呼吸器学会総会, 東京, 平成23年4月22-23日.
11. 皿谷健: 当院で過去5年間に経験した27人の結核性胸膜炎の臨床像及びスコアリングを用いた診断に関する検討. 第51回日本呼吸器学会総会, 東京, 平成23年4月22-23日.
12. 皿谷健, 中田光¹, 中垣和英², 元井奈都紀¹, 倉井大輔, 平尾晋, 和田裕雄, 石井晴之, 田口晴彦³, 神谷茂⁴, 後藤元(¹新潟大・医歯学総合病院・生命科学医療センター, ²日本獣医生命科学大・獣医学科・野生動物学教室, ³杏林大・保健学部免疫学教室, ⁴杏林大・感染症学教室): TLR2 を介した肺胞マクロファージの innate immunity 活性の差がマイコプラズマ肺炎の重症度を規定する: マイコプラズマ肺炎マウスモデルを使用した検討. 第51回日本呼吸器学会総会, 東京, 平成23年4月22-23日.
13. 石井晴之, 中田光¹, 皿谷健, 井上義一¹, 一和多俊男¹, 富井啓介¹, 後藤元(¹肺胞蛋白症の難治化要因の解明と診断, 治療, 管理の標準化と指針の確立に関する研究班(厚労科研): 続発性肺胞蛋白症の臨床的特徴(続報) 一邦生前診断40例と海外報告53例との比較も含む一. 第51回日本呼吸器学会総会, 東京, 平成23年4月22-23日.
14. 田村仁樹, 皿谷健, 高田佐織, 肥留川一郎, 小出卓, 横山琢磨, 渡辺雅人, 倉井大輔, 和田裕雄, 石井晴之, 後藤元: 抗腫瘍薬による薬剤性肺障

- 害の臨床的検討．第 51 回日本呼吸器学会総会，東京，平成 23 年 4 月 22-23 日．
15. 肥留川一郎，皿谷健，長友禎子，中村益夫，田村仁樹，本多紘二郎，和田裕雄，石井晴之，田中良太¹，呉屋朝幸¹，藤原正親²，後藤元(¹杏林大・医・呼吸器外科，²杏林大・医・病理学教室)：空洞内部に菌球陰影を認めた肺放線菌症の一例．第 194 回日本呼吸器学会関東地方会，東京，平成 23 年 5 月 28 日．
 16. 長友禎子，皿谷健，肥留川一郎，中村益夫，本多紘二郎，田村仁樹，石井晴之，武井秀史¹，中里陽子¹，呉屋朝幸¹，藤原正親²，後藤元(¹杏林大・医・呼吸器外科，²杏林大・医・病理学教室)：咯血を契機に発見された気管支壁原発の神経鞘腫の一例．第 194 回日本呼吸器学会関東地方会，東京，平成 23 年 5 月 28 日．
 17. 長友禎子，肥留川一郎，乾俊哉，本多紘二郎，中村益夫，蘇原慧伶，中島明，田中康隆，田村仁樹，小出卓，高田佐織，横山琢磨，石井晴之，後藤元：左冠状動脈から起始した蔓状血管腫の一例—変化する気管支粘膜所見—．第 34 回日本呼吸器内視鏡学会総会，浜松，平成 23 年 6 月 16-17 日．
 18. 皿谷健：マイコプラズマ肺炎の基礎と臨床．第 514 回呼吸器臨床談話会，東京，平成 23 年 6 月 24 日．
 19. 滝澤始：COPD 治療の最近の話題．調布市医師会学術講演会，調布，平成 23 年 7 月．
 20. 滝澤始：呼吸不全の病態と管理（薬物療法を含む）．3 学会合同呼吸療法認定士認定講習会，東京，平成 23 年 9 月．
 21. 石井晴之：本邦の血液疾患における続発性肺胞蛋白症．厚労科研難治性疾患克服研究事業・研究班分科会会議，広島，平成 23 年 9 月 7 日．
 22. 皿谷健：呼吸器感染症の case based approach. 第 6 回 ICD 連携の会，東京，平成 23 年 10 月 6 日．
 23. 田村仁樹，渡辺雅人，本多紘二郎，中島明，蘇原慧伶，中本啓太郎，長友禎子，田中康隆，小出卓，高田佐織，和田裕雄，石井晴之，滝澤始，後藤元：市中肺炎におけるプロカルシトニン (PCT) 測定の臨床的意義の検討．第 60 回日本感染症学会東日本地方会，山形，平成 23 年 10 月 26-28 日．
 24. 下田真史，倉井大輔，本多紘二郎，蘇原慧伶，田村仁樹，皿谷健，渡辺雅人，和田裕雄，石井晴之，後藤元：HTLV-1 キャリアにて経過観察中，ニューモシスチス肺炎を合併した 1 例．第 60 回日本感染症学会東日本地方会，山形，平成 23 年 10 月 26-28 日．
 25. 辻本直貴，倉井大輔，長友禎子，田村仁樹，皿谷健，渡辺雅人，石井晴之，後藤元：腹部所見に乏しく診断までに 5 ヶ月半を有した結核性腹膜炎の 1 例．第 60 回日本感染症学会東日本地方会，山形，平成 23 年 10 月 26-28 日．
 26. 倉井大輔，長友禎子，田村仁樹，皿谷健，渡辺雅人，後藤元：G 群レンサ球菌と結核菌の合併感染による膿胸の 1 例．第 60 回日本感染症学会東日本地方会，山形，平成 23 年 10 月 26-28 日．
 27. 金重真奈美，皿谷健，安武哲生，後藤元：気管粘膜病変を認めた水痘肺炎の 1 例．第 60 回日本感染症学会東日本地方会，山形，平成 23 年 10 月 26-28 日．
 28. 大熊康介，皿谷健，本多紘二郎，田村仁樹，肥留川一郎，後藤元：皮膚筋炎による間質性肺炎の治療中に空洞性病変を伴う CMV 肺炎及びノカルジア肺炎を合併した 1 例．第 60 回日本感染症学会東日本地方会，山形，平成 23 年 10 月 26-28 日．
 29. 皿谷健，荒木光¹，後藤元(¹杏林大学・臨床検査部)：抗 TNF α 抗体療法後に *Mycobacterium intracellulare* による腱滑膜炎が顕在化したと考えられたリウマチ患者の一例．第 60 回日本感染症学会東日本地方会，山形，平成 23 年 10 月 26-28 日．
 30. 後藤元：呼吸器感染症の分離菌と薬剤感受性の年次推移．第 60 回日本感染症学会東日本地方会，山形，平成 23 年 10 月 26-28 日．
 31. 田中康隆，石井晴之，滝澤始，後藤元：長引く咳—画像で見逃しやすい症例—．第 15 回三鷹市医師会呼吸器病研究会，三鷹，平成 23 年 11 月 2 日．
 32. 滝澤始：長引く咳—あなたはどうか対処していますか？—．第 15 回三鷹市医師会呼吸器病研究会，三鷹，平成 23 年 11 月 2 日．
 33. 中村益夫，和田裕雄，秋山陽子²，塩沢千加子²，柳下由弥²，竹田紘崇¹，櫻井俊光¹，岡島康友²，滝澤始，後藤元(¹杏林大・医・附属病院リハビリテーション室，²杏林大・医・附属病院看護部)：外来での COPD アセスメントテスト COPD assessment test (CAT) の使用経験．第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会総会，松本，平成 23 年 11 月 3-4 日．
 34. 櫻井俊光¹，竹田紘崇¹，和田裕雄，秋山陽子²，岡島康友²，後藤元(¹杏林大・医・附属病院リハビリテーション室，²杏林大・医・附属病院看護部)：筋力・呼吸機能に変化がないが ADL に変化を来した HOT 導入患者 2 症例の比較．第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会総会，松本，平成 23 年 11 月 3-4 日．
 35. 竹田紘崇¹，櫻井俊光¹，須崎由香¹，和田裕雄，秋山陽子²，岡島康友²，滝澤始，後藤元(¹杏林大・医・附属病院リハビリテーション室，²杏林大・医・附属病院看護部)：杏林大学 HOT 外来の 2 年間の動向．第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会総会，松本，平成 23 年 11 月 3-4 日．
 36. 和田裕雄，中村益夫，秋山陽子¹，内田麻耶¹，馬場梨絵¹，竹田紘崇²，櫻井俊光²，岡島康友¹，滝澤始，後藤元(¹杏林大・医・附属病院看護部，²杏林大・医・附属病院リハビリテーション室)：点数化による呼吸困難の検出の試み．第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会総会，松本，平成 23 年 11 月 3-4 日．

37. 乾俊哉, 横山琢磨, 中島明, 本多紘二郎, 田中康隆, 田村仁樹, 小出卓, 高田佐織, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元: 進行非小細胞非扁平上皮肺癌に対する 1st line での CDDP+pemetrexed 使用症例の臨床的検討. 第 52 回日本肺癌学会総会, 大阪, 平成 23 年 11 月 3-4 日.
38. 滝口裕一¹, 多田祐司², 堺田恵美子¹, 横山琢磨, 青江啓介³, 岡本浩明⁴, 齋藤博⁵, 高山浩一⁶, 大橋康雄⁷, 渡邊古志郎⁸, 江口研二⁹ (¹千葉大・先端科学療法学, ²千葉大・呼吸器内科, ³山口宇部医療センター・腫瘍内科, ⁴横浜市立市民病院・呼吸器内科, ⁵愛知がんセンター・呼吸器内科, ⁶九州大・呼吸器科, ⁷東京大・生物統計学, ⁸胸部腫瘍臨床研究機構, ⁹帝京大・腫瘍内科): 非小細胞肺癌 (NSCLC) 患者の悪液質の病態に関する前向き研究 (TORG0912): 中間報告. 第 52 回日本肺癌学会総会, 大阪, 平成 23 年 11 月 3-4 日.
39. 石井晴之: 骨髄異形成症候群に合併した続発性肺胞蛋白症本邦報告例のまとめ. MDS-SPAP conference 2011, 東京, 平成 23 年 11 月 5 日.
40. 檜垣学, 和田裕雄, 滝澤始, 後藤元: 喫煙暴露マウスにおける interleukin-10 の役割. 第 15 回東京呼吸病態研究会, 東京, 平成 23 年 11 月 8 日.
41. 大西宏明¹, 松島早月¹, 石山由佳子¹, 大塚弘毅¹, 米谷正太¹, 荒木光二², 竹啓², 川村千鶴子², 倉井大輔, 岸野智則¹, 和田裕雄, 後藤元, 渡邊卓¹ (¹杏林大・臨床検査医学, ²杏林大・臨床検査部): *Mycobacterium kyorinense* 感染症の臨床像のスペクトラム. 第 58 回日本臨床検査医学会総会, 岡山, 平成 23 年 11 月 17-20 日.
42. 中島明, 小出卓, 乾俊哉, 小川ゆかり, 田村仁樹, 高田佐織, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元: 黒色調を呈した膿性胸水の一例. 第 197 回日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 平成 23 年 11 月 19 日.
43. 滝澤始: 呼吸器診療におけるマクロライドインフルエンザを中心に. 日野市医師会学術講演会, 日野, 平成 23 年 11 月.
44. 石井晴之: 本邦における肺胞蛋白症の疫学調査. 気仙沼市立病院内科外来講演会, 気仙沼, 平成 24 年 2 月 22 日.
45. 皿谷健: 呼吸器感染症診断に役立つ臨床微生物検査. 平成 23 年度第 9 回微生物検査研究班研修会, 東京, 平成 24 年 2 月 24 日.
46. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の臨床的特徴. 鹿児島大学医学部呼吸器内科カンファレンス, 鹿児島, 平成 24 年 3 月 6 日.
- 論文
1. Takizawa H: Impact of air pollution on allergic diseases. Korean J Intern Med. 26(3): 262-73, 2011.
2. Kamitani S¹, Yamauchi Y¹, Kawasaki S¹, Takami K¹, Takizawa H, Nagase T¹, Kohyama T¹ (¹Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo Graduate School of Medicine): Simultaneous stimulation with TGF- β 1 and TNF- α induces epithelial mesenchymal transition in bronchial epithelial cells. Int Arch Allergy Immunol 155(2): 119-28, 2011.
3. Mikura S, Wada H, Okazaki M¹, Nakamura M, Honda K, Yasutake T, Higaki M, Ishii H, Watanabe T², Tsunoda T³, Goto H (¹Department of Clinical Laboratory, Kyorin University School of Medicine, ² Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Medicine and Public Health, Kyorin University School of Medicine): Risk factors for bacteraemia attributable to *Pseudomonas aeruginosa* resistant to imipenem, levofloxacin, or gentamicin. J Hosp Infect 79(3): 267-268, 2011.
4. Honda K, Saraya T, Tamura M, Yokoyama T, Fujiwara M¹, Goto H (¹Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Tumor lysis syndrome and acquired ichthyosis occurring after chemotherapy for lung adenocarcinoma. J Clin Oncol 29(35):e859-60, 2011.
5. Takada S, Wada H, Tamura M, Koide T, Higaki M, Mikura S, Yasutake T, Hirao S, Nakamura M, Honda K, Nagatomo T, Tanaka Y, Sohara E, Watanabe M, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Goto H: Kinetics of C-reactive protein (CRP) and serum amyloid A protein (SAA) in patients with community-acquired pneumonia (CAP), as presented with biologic half-life times. Biomarkers (6):530-535, 2011.
6. Saraya T, Nakata K¹, Nakagaki K², Motoi N³, Iihara K³, Fujioka Y³, Oka T⁴, Kurai D, Wada H, Ishii H, Taguchi H⁵, Kamiya S⁵ and Goto H (¹ Niigata University Medical and Dental Hospital, Bioscience Medical Research Center, ² Department of Animal Science, Nippon Veterinary Life Science University, Medical Research Laboratories, ³Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ⁴Department of Pathology, Kanto Chuo Hospital, ⁵ Division of Medical Microbiology, Kyorin University School of Medicine): Identification of a mechanism for lung inflammation caused by *Mycoplasma pneumoniae* using a novel mouse model. Results Immunol 1(1): 76-87. 2011.
7. Niki Y¹, Hanaki H², Matumoto T, ³ Yagisawa M², Kohno S⁴, Aoki N⁵, Watanabe A³, Sato J³, Goto H, Kurai D, Okazaki M⁶ (¹School of Medicine, Showa University, ²The Kitasato Institute, ³The JSC Surveillance Committee, Japanese Society of Chemotherapy, ⁴Nagasaki University School of Medicine, ⁵Shinrakuen

- Hospital, ⁶Department of Clinical Laboratory, Kyorin University School of Medicine): Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the Japanese Society of Chemotherapy in 2008: general view of the pathogens' antimicrobial susceptibility. *J Infect Chemother* 17(4): 510-523, 2011.
8. Kameda H¹, Tokuda H², Sakai F³, Johkoh T⁴, Mori S⁵, Yoshida Y⁶, Takayanagi N⁷, Taki H⁸, Hasegawa Y⁹, Hatta K¹⁰, Yamanaka H¹¹, Dohi M¹², Hashimoto H¹³, Yamada H¹⁴, Kawai S¹⁵, Takeuchi T¹⁶, Tateda K¹⁷, Goto H(¹ Division of Rheumatology, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Keio University, ²Department of Internal Medicine, Social Health Insurance Central General Hospital, ³Department of Diagnostic Radiology, Saitama International Medical Center, Saitama Medical University, ⁴Department of Radiology, Kinki Central Hospital of Mutual Aid Association of Public Teachers, ⁵Clinical Research Center for Rheumatic Disease and Department of Rheumatology, NHO Kumamoto Saishunsou National Hospital, ⁶Division of Rheumatic Diseases, National Center for Global Health and Medicine, ⁷Department of Respiratory Medicine, Saitama Cardiovascular and Respiratory Center, ⁸The First Department of Internal Medicine, University of Toyama, ⁹Department of Respiratory Medicine, Nagoya University Graduate School of Medicine, ¹⁰Department of General Internal Medicine, Tenri Hospital, ¹¹Institute of Rheumatology, Tokyo Women's Medical University, ¹²Department of Allergy and Rheumatology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, ¹³Division of Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Nihon University School of Medicine, ¹⁴Division of Rheumatology and Allergy, Department of Medicine, St. Marianna University School of Medicine, ¹⁵Division of Rheumatology, Department of Internal Medicine, Toho University School of Medicine, ¹⁶Department of Rheumatology/Clinical Rheumatology, Saitama Medical Center, Saitama University, ¹⁷Department of Microbiology and Infectious Diseases, Toho University School of Medicine): Clinical and radiological features of acute-onset diffuse interstitial lung diseases in patients with rheumatoid arthritis receiving treatment with biological agents: Importance of *pneumocystis pneumonia* in Japan revealed by a multicenter study. *Intern Med* 50(4): 305-313, 2011.
 9. Mikura S, Wada H, Higaki M, Yasutake T, Ishii H, Kamiya S¹, Goto H(¹Division of Medical Microbiology, Kyorin University School of Medicine): Erythromycin prevents the pulmonary inflammation induced by exposure to cigarette smoke. *Transl Res* 158 (1): 30-37, 2011.
 10. Hirao S, Wada H, Nakagaki K¹, Saraya T, Kurai D, Mikura S, Yasutake T, Higaki M, Yokoyama T, Ishii H, Nakata K², Akashi T³, Kamiya S⁴, Goto H(¹Laboratory of Wildlife, College of Veterinary, Nippon Veterinary and Life Science University, ²Niigata University Medical and Dental Hospital, ³Taisho Pharmaceutical Co. , ⁴Division of Medical Microbiology, Kyorin University School of Medicine): Inflammation provoked by *Mycoplasma pneumoniae* extract: implications for combination treatment with clarithromycin and dexamethasone. *FEMS Immunol Med Microbiol* 62 (2): 182-9, 2011.
 11. Ohshima N¹, Matsui H¹, Matsui Y¹, Kawashima M¹, Shimada M¹, Higaki N¹, Shoji S¹, Wada H, Fujita A³, Watanabe H⁴, Yamaguchi N⁵, Matsuoka R⁶, Oki K⁷, Takahashi H⁸, Suzuki M⁹, Yamazaki H¹⁰, Yoshizawa M¹¹, Goto H (¹Center for Pulmonary Diseases, ²Department of Allergy, National Hospital Organization Tokyo National Hospital, ³Department of Pulmonary Medicine, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ⁴Division of Respiratory Medicine, Tokai University Hachioji Hospital, ⁵Yamaguchi Chest Clinic, ⁶Matsuoka Clinic , ⁷Oki Clinic, ⁸Takahashi Clinic, ⁹Department of Pulmonary Medicine, Showa General Hospital, ¹⁰Yamazaki Chest Clinic, ¹¹Department of Respiratory Medicine, Musashino Red Cross Hospital): Addition of leukotriene receptor antagonists to inhaled corticosteroids improved QOL of patients with bronchial asthma surveyed in suburban Tokyo, Japan. *Allergol Int* 60(4): 473-481, 2011.
 12. Urano S¹, Tazawa R¹, Nei T¹, Motoi N¹, Watanabe M, Igarashi T¹, et al. (¹Niigata University Medical and Dental Hospital): A cell free assay system estimating the neutralizing capacity of GM-CSF antibody using recombinant soluble GM-CSF receptor. *J Vis Exp* (52), DOI: 10.3791/2742, 2011.
 13. Ohtsuka K¹, Ohnishi H¹, Kurai D, Matsushima S¹, Morishita Y², Shinonaga M³, Goto H, Watanabe T(¹Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Institute of Clinical Medicine, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, ³Mito Saiseikai General Hospital): Familial Lung Adenocarcinoma Caused by the EGFR V843I Germ-Line Mutation. *J Clin Oncol* 10; 29(8):e191-2, 2011.

14. 中本啓太郎, 小出卓, 長友禎子, 田村仁樹, 檜垣学, 高田佐織, 和田裕雄, 石井晴之, 岡崎充宏¹, 高橋信一², 後藤元(¹杏林大医学附属病院・臨床検査部, ²杏林大・第三内科): Hypermucoviscosity phenotype の *Klebsiella pneumoniae* による肺膿瘍・敗血症性肺塞栓症の重症例. 感染症学雑誌 85(4): 366-369, 2011.
 15. 小出卓, 皿谷健, 中本啓太郎, 中島明, 石井晴之, 藤原正親¹, 柴田英克², 岡輝明³, 呉屋朝幸², 後藤元(¹杏林大・病理部, ²杏林大・呼吸器外科, ³関東中央病院・病理科): 胸腔鏡下肺生検で類上皮細胞性肉芽腫を認めたメシル酸イマチニブの薬剤性肺障害の1例. 日本呼吸器学会雑誌 49(6): 465-471, 2011.
- 著書**
1. 小出卓, 後藤元: 肺炎のガイドライン. 呼吸と循環 59(4). 2011, p. 351-358.
 2. 和田裕雄, 後藤元: 呼吸器疾患と呼吸機能. 吉野秀朗編, 外科医のための循環器必須知識, 東京, メジカルビュー, 2011, p.113-120.
 3. 後藤元: 深在性真菌症診療のキーポイント. Infection File. 32. 2011, p.1-2.
 4. 田村仁樹, 後藤元: 胸膜炎, 膿胸. 臨牀と研究. 88(12). 2011, p.1529-1532.
 5. 皿谷健: 感染対策に役立つ臨床微生物 らくらく完全図解マニュアル 2章 医療従事者が知っておきたい微生物検査の基本. 東京, メデイカ出版, 2011, p.30-36.
 6. 皿谷健: 臨床感染症ブックレット1 病歴と身体所見から感染症を見極める. 東京, 文光堂, 2011, p.103-104.
 7. 皿谷健: 臨床感染症ブックレット2 エンピリック治療の抗菌薬, 確定治療の抗菌薬を選択する. “エンピリック治療に必要な抗菌薬の知識”. 東京, 文光堂, 2011, p.18-28.
 8. 皿谷健: 潜在性結核の発症と予防. medicina 48 (7), 2011, p.1146-1149.
 9. 皿谷健: 臨床医のための消化管内視鏡アトラス. “腸炎ピブリオ”. 東京, 医薬ジャーナル. 2011, p.240-241.
 10. 皿谷健: ケアに役立つ! 呼吸器疾患ナーシング. “細菌性肺炎の治療とケア” “非定型肺炎”. 東京, 総合医学社, 2011, p.126-131.
 11. 皿谷健: 免疫不全者の呼吸器感染症 IV章 免疫不全者の肺症候群ごとの臨床像 P130-144, V章 水痘・帯状疱疹ウイルス肺炎. 東京, 南山堂, 2011, p.267-273.
 12. 皿谷健: 誰もが知っておくべき HIV/AIDS の基礎知識. HIV 感染症と結核治療 11(193). 東京, 南山堂, 2011, p.2280-2284.
 13. 皿谷健: 自己免疫疾患と肺疾患 “混合性結合織炎と肺疾患” 呼吸器内科 5(20), 2011, 388-39.
 14. 和田裕雄, 後藤元: COPD を基礎疾患とした肺炎をどう考えるか. Medicina 49(3), 2011, p.450-454.
 15. 和田裕雄, 檜垣学, 菅間博¹, 伊藤一洋², Barnes P J², 後藤元(¹杏林大・病理学, ²Airway Disease Section, Imperial College London): サーチュインと COPD. 呼吸器内科 20(3), 2011, p.249-256.
 16. 和田裕雄, 安武哲生: 咳嗽のメカニズム. 東京, 全日本病院出版会, 2011, p.5-12.
 17. 滝澤始: 胸部レントゲンを読みたいあなたへ 期待を確信に変える 21 話. 東京, 文光堂, 2011.
 18. 滝澤始: 喘息治療薬の考え方, 使い方. 東京, 中外医学社, 2011.
 19. 金俊行¹, 滝澤始(¹帝京大・医学部附属溝口病院第四内科): ケアに役立つ! 呼吸器疾患ナーシング (5章): 主要な呼吸器疾患の治療とケア気管支喘息の発作時の対応について教えてください. ナーシングケア Q&A38, 東京, 総合医学社, 2011, p.172-173.
 20. 金俊行¹, 滝澤始(¹帝京大・医学部附属溝口病院第四内科): ケアに役立つ! 呼吸器疾患ナーシング (5章): 主要な呼吸器疾患の治療とケア気管支喘息の管理と治療法について教えてください (非発作時). ナーシングケア Q&A38, 東京, 総合医学社, 2011, p.170-171.
 21. 金俊行¹, 滝澤始(¹帝京大・医学部附属溝口病院第四内科): ケアに役立つ! 呼吸器疾患ナーシング (5章): 主要な呼吸器疾患の治療とケア気管支喘息とは. ナーシングケア Q&A38, 東京, 総合医学社, 2011, p.168-169.
 22. 滝澤始: 気管支喘息治療の最近の進歩. SRL 宝函別冊第7回 SRL Update Forum 講演集, 2011, p.13-18.
 23. 石井晴之, 川島正裕¹, 益田公彦¹, 赤川志のぶ¹ (¹国立病院機構東京病院): 発熱と急速に進展する空洞性病変を呈した 80 歳の男性. 呼吸 30 (4): 399-404, 2011.
 24. 石井晴之: 肺胞蛋白症: 最新の知見. 呼吸器内科 20 (5), 2011, 430-438.
 25. 大林王司¹, 滝澤始 (¹帝京大学医学部附属溝口病院第四内科): COPD- 生命予後の改善を目指して - COPD 発症の病因・危険因子 COPD 発症・進展の分子メカニズム COPD 発症・進展にかかわる好中球, マクロファージの関与. 日本臨床 69(10), 2011, p.1741-1747.
 26. 大林王司¹, 滝澤始 (¹帝京大学医学部附属溝口病院第四内科): 免疫低下状態における薬剤性肺障害と感染症の鑑別. 呼吸器内科 20(2), 2011, p.169-172.
 27. 金俊行¹, 滝澤始 (¹帝京大学医学部附属溝口病院第四内科): 気管支喘息包囲網 - 喘息死ゼロへ向けた最後の 10 年へ 気管支喘息と類縁疾患 Churg-Strauss 症候群. 内科 108(3), 2011, p.467-470.
- その他**
1. 石井晴之: 骨髄異形成症候群に合併した続発性

肺胞蛋白症の予後解析. 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服事業『肺胞蛋白症の難治化要因の解明と診断, 治療, 管理の標準化と指針の確立』に関する研究. 第 2 回班会議, 大阪, 平成 23 年 12 月 11 日.

2. 石井晴之: 本邦における生前診断された続発性肺胞蛋白症の臨床的特徴に関する研究. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業『肺胞蛋白症の難治化要因の解明と診断, 治療, 管理の標準化と指針の確立』に関する研究. 平成 22 年度研究報告書: 177-178, 2011.
3. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症 (secondary pulmonary alveolar proteinosis: SPAP) の臨床的特徴一本邦生前診断例と海外報告例との比較を含む一. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業『肺胞蛋白症の難治化要因の解明と診断, 治療, 管理の標準化と指針の確立』に関する研究. 平成 22 年度研究報告書: 227-231, 2011.

平成 22 年度教室業績医学部内科学 (呼吸器) 追加工

1. Hirao S, Wada H, Mikura S, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Fujita A¹, Akashi T², Kamiya S³, Nakagaki K⁴, Goto H (Department of Pulmonary Medicine, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, ²Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., ³Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine, ⁴Department of Animal Science, Nippon Veterinary Life Science University, Medical Research Laboratories): The effect of co-treatment with clarithromycin and dexamethasone on RAW 264.7 cells and the murine model of *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia. America Thoracic Society 2010 International Conference, New Orleans, May 14-19, 2010.
2. 中本啓太郎, 小出卓, 辻本直貴, 佐田充, 蘇原慧伶, 田中康隆, 小屋敷恵美, 長友禎子, 田村仁樹, 高田佐織, 山元正之, 渡辺雅人, 横山琢磨, 皿谷健, 倉井大輔, 和田裕雄, 石井晴之, 岡崎充宏¹, 後藤元 (杏林大・医・細菌検査室): 敗血症性肺塞栓症を契機に発見された *Hypermucoviscous Klebsiella pneumoniae* による肝膿瘍の 1 例. 第 84 回日本感染症学会総会, 京都, 平成 22 年 4 月 5-6 日.
3. 後藤元: 非定型病原体の最新エビデンス. 第 84 回日本感染症学会総会, 京都, 平成 22 年 4 月 5-6 日.
4. 和田裕雄, 豊田恵美子¹, 山元正之, 菅原恵子¹, 岡崎充宏², 渡辺卓², 庄司俊輔¹, 四元秀毅¹ (国立病院機構東京病院呼吸器科, ²杏林大・医・臨床検査医学): 新規抗酸菌 *Mycobacterium kyorinense* による呼吸器感染症. 第 107 回日本内科学会講演会, 東京, 平成 22 年 4 月 9-11 日.
5. 和田裕雄, 平尾晋, 三倉真一郎, 安武哲生, 檜垣

学, 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 明石敏¹, 中垣和英², 神谷茂³, 後藤元 (大正製薬株式会社, ²日本生命科学大・獣医・野生動物学, ³杏林大・医・感染症): マイコプラズマ抽出液の刺激による RAW264.7 細胞の IL-6 および TNF-alpha 産生炎症惹起作用の検討. 第 50 回日本呼吸器学会総会, 京都, 平成 22 年 4 月 23-5 日.

6. 平尾晋, 和田裕雄, 皿谷健, 檜垣学, 三倉真一郎, 安武哲生, 倉井大輔, 明石敏¹, 中垣和英², 神谷茂³, 後藤元 (大正製薬株式会社, ²日本生命科学大・獣医・野生動物学, ³杏林大・医・感染症): クラリスロマイシンとデキサメサゾンの共投与がマイコプラズマ肺炎に及ぼす影響の検討. 第 50 回日本呼吸器学会総会, 京都, 平成 22 年 4 月 23-5 日.
7. 倉井大輔, 和田裕雄, 皿谷健, 中垣和英¹, 神谷茂², 藤岡保範³, 後藤元 (日本生命科学大・獣医・野生動物学, ²杏林大・医・感染症, ³杏林大・医・病理学): クラリスロマイシンとデキサメサゾンの共投与がマイコプラズマ肺炎に及ぼす影響の検討. 第 50 回日本呼吸器学会総会, 京都, 平成 22 年 4 月 23-5 日.
8. 渡辺彰¹, 後藤元, 相馬一玄² (東北大学加齢医学研究所・抗感染症薬開発研究部門, ²北里大・医・救命救急医学): MRSA 肺炎に対するリネゾリドの有用性の検討: 最終結果の報告. 第 58 回日本化学療法学会総会, 長崎, 平成 22 年 6 月 2-4 日.
9. 後藤元: ガイドラインから考える院内肺炎. 第 392 回旭川肺を診る会, 旭川, 平成 22 年 6 月 17 日.
10. 小出卓, 中本啓太郎, 蘇原慧伶, 中島明, 中村益夫, 本多紘二郎, 田中康隆, 長友禎子, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 和田裕雄, 石井晴之, 後藤元, 藤原正親¹, 岡輝明² (杏林大・医・病理部, ²関東中央病院病理部): メシル酸イマチニブ (グリベック) による薬剤性肺障害と考えられる 1 例. 第 190 回日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 平成 22 年 7 月 17 日.
11. 後藤元: ガイドラインから考える院内肺炎. 感染症セミナー, 東京, 平成 22 年 9 月 7 日.
12. 荒木光二¹, 皿谷健, 辻本直貴, 高田佐織, 奥山貴洋¹, 米谷正太², 牧野博¹, 大藤弥穂¹, 大塚弘毅², 大西宏明², 後藤元, 渡辺卓² (杏林大・臨床検査部, ²杏林大・臨床検査医学): micafungin 非感受性 *Candida glabrata* によるカンジダ血症の一例. 第 57 回日本臨床検査医学会総会, 東京, 平成 22 年 9 月 9-12 日.
13. 小田未来, 渡辺雅人, 石田学, 肥留川一郎, 乾俊哉, 中本啓太郎, 高田佐織, 横山琢磨, 石井晴之, 後藤元, 田中康隆, 呉屋朝幸¹, 藤原正親², 岡輝明³ (杏林大・医・呼吸器外科, ²杏林大・医・病理部, ³関東中央病院病理部): 左上葉に大細胞癌, リウマチ結節, 及び腺癌が同時にみられた関

第一内科学教室
(腎臓・リウマチ膠原病内科)

口 演

- 節リウマチの一例. 第 191 回日本呼吸器学会関東地方会, 宇都宮, 平成 22 年 9 月 18 日.
14. 和田裕雄, 稲岡祥幸¹, 秋山陽子², 武田宏崇³, 福地義之助⁴, 後藤元(¹杏林大・医・放射線科, ²杏林大・医・付属病院看護部, ³杏林大・医・付属病院リハビリテーション室, ⁴順天堂大・医・呼吸器内科): CT の 3 次元再構成像より求めた全肺気量と死腔量: スパイログラムとの比較. 第 20 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 長崎, 平成 22 年 10 月 1-2 日.
 15. 後藤元: 最近の呼吸器感染症の動向. 最近の呼吸器感染症の動向, 第 11 回杏林大学医学部同窓会全国支部長会, 東京, 平成 22 年 10 月 17 日.
 16. 後藤元: 呼吸器感染症の分離菌と薬剤感受性の年次推移. 第 57 回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 平成 22 年 10 月 21-22 日.
 17. 高田佐織, 横山琢磨, 肥留川一郎, 中島明, 本多紘二郎, 田中康隆, 田村仁樹, 和田裕雄, 石井晴之, 後藤元: 進行非小細胞癌に対する 1st line で pemetrexed 使用症例の臨床的検討. 第 51 回日本肺癌学会総会, 広島, 平成 22 年 11 月 3-4 日.
 18. 大塚弘毅¹, 大西宏明¹, 倉井大輔, 藤原正親², 森下由起雄³, 篠永真弓⁴, 後藤元, 呉屋朝幸⁵, 渡辺卓¹(¹杏林大・医・臨床検査医学, ²杏林大・医・病理部, ³筑波大・医・病理, ⁴水戸済生会総合病院・呼吸器外科, ⁵杏林大・医・呼吸器外科): EGFR V843I germ-line 変異による遺伝性肺癌症候群. 第 51 回日本肺癌学会総会, 広島, 平成 22 年 11 月 3-4 日.
 19. 田村仁樹, 横山琢磨, 肥留川一郎, 小出卓, 高田佐織, 和田裕雄, 石井晴之, 後藤元: 化学療法歴のある非小細胞非扁平上皮肺癌での pemetrexed の治療成績. 第 51 回日本肺癌学会総会, 広島, 平成 22 年 11 月 3-4 日.
 20. 後藤元: 呼吸器感染症一耐性菌との闘い. 第 9 回新山手病院業績発表会, 東京, 平成 22 年 11 月 27 日.
 21. 横山琢磨: 肺がんの診断から治療に至るまで— COPD のリスクを含めて—. 第 13 回三鷹市医師会呼吸器病研究会, 三鷹, 平成 22 年 12 月 8 日.
 22. 本多紘二郎, 田村仁樹, 皿谷健, 肥留川一郎, 中村益夫, 長友禎子, 横山琢磨, 倉井大輔, 石井晴之, 浅野祐介¹, 藤原正親¹, 後藤元(¹杏林大・医・病理部): Bevacizumab を含む化学療法にて腫瘍崩壊症候群および後天性魚鱗癬を合併した肺腺癌の一例. 第 160 回日本肺癌学会関東支部会, 東京, 平成 23 年 3 月 12 日.
 23. 和田裕雄, 後藤元, 萩原真一¹, 山本順寛²(¹ホンダエンジニアリング健康管理センター, 自治医科大・呼吸器内科, ²東京工科大・バイオニクス): 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) と加齢とがコエンザイム Q10 のレドックス状態に与える影響. 第 7 回呼吸器バイオマーカー研究会, 東京, 平成 23 年 3 月 12 日.
1. 有村義宏: 慢性腎臓病 (CKD) と高尿酸血症. 西東京・痛風高尿酸血症講演会, 西東京, 平成 23 年 4 月 14 日.
 2. 有村義宏: ANCA 関連血管炎—最近の臨床—. 第 3 回滋賀県腎と免疫セミナー, 滋賀, 平成 23 年 5 月 7 日.
 3. Komagata Y, Nomura K, Kawashima S, Yoshihara K, Kaname S, Arimura Y, Yamada A: Difference in clinical feature between MPO- and PR3-ANCA-positive Wegener's granulomatosis. 15th International Vasculitis & ANCA Workshop, North Carolina, May 15-18, 2011.
 4. Kawashima S, Komagata Y, Arimura Y, Yamada A: In situ-immune complex (MPO-anti MPO antibody) relates to glomerular capillary in human-MPO-ANCA associated glomerulonephritis. 15th International Vasculitis & ANCA Workshop, North Carolina, May 15-18, 2011.
 5. 山田明, 要伸也, 福岡利仁, 清水英樹: なぜいま腎臓病なのか. 腎臓について考えるフォーラム (第 6 回三鷹市民公開講座), 三鷹, 平成 23 年 5 月 21 日.
 6. 要伸也: 腎臓病とは?. 三鷹市民フォーラム, 三鷹, 平成 23 年 5 月 22 日.
 7. 有村義宏: CKD と高尿酸血症. 第 14 回多摩薬業連携協議会フォーラム, 立川, 平成 23 年 5 月 30 日.
 8. 清水英樹¹, 吉田成孝¹, 長瀬美樹¹, 堀雄一¹, 要伸也, 山田明, 藤田敏郎¹ (¹東京大・腎臓内分泌内科): 糖尿病性糸球体硬化モデル作成にむけて. 第 54 回日本腎臓学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15-17 日.
 9. 福岡利仁, 岡田陽子, 小路仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 非糖尿病性腎症における Aliskiren の効果. 第 54 回日本腎臓学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15-17 日.
 10. 軽部美穂, 要伸也, 福岡利仁, 吉原堅, 駒形嘉紀, 有村義宏, 山田明: 持続性蛋白尿を示す不完全寛解ループス腎炎に対するタクロリムスの継続効果. 第 54 回日本腎臓学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15-17 日.
 11. 川嶋聡子, 福岡利仁, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: MPO-ANCA 関連腎炎における糸球体毛細血管傷害の病理組織学的検討—MPO・免疫グロブリンの関与—. 第 54 回日本腎臓学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15-17 日.
 12. 河原崎千晶¹, 清水英樹¹, 藤田恵¹, 村岡和彦¹, 堀雄一¹, 要伸也, 西山伸宏², 山田明, 片岡一則², 安東克之¹, 藤田敏郎¹ (¹東京大・腎臓内分泌内

- 科,²東京大・工学部マテリアル工学科): ナノバイオテクノロジーを用いた腎糸球体特異的なチロシン水酸化酵素 siRNA 導入の腎機能改善効果. 第 54 回日本腎臓学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15-17 日.
13. 清水英樹¹, 堀雄一¹, 要伸也, 宮田完二郎², 西山伸宏², 山田明, 片岡一則², 藤田敏郎¹ (¹東京大・腎臓内分泌内科, ²東京大・工学部マテリアル工学科): マウス実験腎炎における siRNA 治療にむけた新規キャリアの最適化. 第 54 回日本腎臓学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15-17 日.
 14. 村岡和彦, 清水英樹, 河原崎宏雄, 河原崎千晶, 藤田恵, 安東克之, 藤田敏郎: ループス腎炎マウスの胃障害進展におけるアルドステロンの役割についての検討. 第 54 回日本腎臓学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15-17 日.
 15. 藤田恵, 河原崎千晶, 村岡和彦, 清水英樹, 安東克之, 藤田敏郎: 脳内酸化ストレス・アルドステロンを介した中枢性交感神経活動亢進が慢性腎臓病に関与している. 第 54 回日本腎臓学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15-17 日.
 16. 秋葉美沙, 藤田直己, 干々和京介, 片山満代, 濱井章, 山田佐紀子, 則竹敬子, 福岡利仁, 吉原堅, 要伸也, 山田明: 保存期における“じんぞう教室”の活動報告と効果の検証. 第 56 回日本透析医学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 6 月 17-19 日.
 17. 遠藤彰子, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 吉原堅, 小杉繁¹, 杉崎弘章¹, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明 (府中腎クリニック¹): 特発性寒冷凝集素症を発症した長期透析患者の一例. 第 56 回日本透析医学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 6 月 17-19 日.
 18. 有村義宏: CKD と高尿酸血症. 立川市・国立市・昭島市医師会学術講演会, 立川, 平成 23 年 6 月 21 日.
 19. 有村義宏: 中小型血管炎の臨床研究分科会活動計画. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 難治性血管炎に関する調査研究班 平成 23 年度第 1 回班会議. 東京, 平成 23 年 7 月 1 日.
 20. 有村義宏: 抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎—最近の進歩—, 第 18 回城北リウマチ膠原病医会, 東京, 平成 23 年 7 月 2 日.
 21. 吉澤亮, 清水英樹, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 血漿交換が有効であったループス腎炎の 1 症例. 三多摩腎疾患治療医会第 61 回研究会, 三鷹, 平成 23 年 7 月 3 日.
 22. 有村義宏: 痛風・高尿酸血症—最近の話題—, 足立区薬剤師会研修会, 東京, 平成 23 年 7 月 14 日.
 23. 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 乾癬性関節炎に対するトシリズマブの臨床効果. 第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 神戸, 平成 23 年 7 月 17-20 日.
 24. 駒形嘉紀, 有村義宏, 野村和史, 齋藤督芸, 川嶋聡子, 池谷紀子, 小路仁, 福岡利仁, 軽部美穂, 吉原堅, 要伸也, 中林公正, 山田明: Wegener 肉芽腫症における MPO-ANCA 陽性患者と PR3-ANCA 陽性患者との臨床像の相違. 第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 神戸, 平成 23 年 7 月 17-20 日.
 25. 川嶋聡子, 小西文晴, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 顕微鏡的多発血管炎の剖検例 - 脳梗塞を初発とした ANCA 関連血管炎 -. 第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 神戸, 平成 23 年 7 月 17-20 日.
 26. 福岡利仁, 小路仁, 松田朝子, 軽部美穂, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 高齢関節リウマチ症例の薬物治療と問題点. 第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 神戸, 平成 23 年 7 月 17-20 日.
 27. 小西文晴, 池谷紀子, 齋藤督芸, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: S I A D H を合併した顕微鏡的多発血管炎の一例. 第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 神戸, 平成 23 年 7 月 17-20 日.
 28. 松田朝子, 有村義宏, 磯村杏耶, 齋藤督芸, 川嶋聡子, 池谷紀子, 早川哲, 小路仁, 福岡利仁, 軽部美穂, 吉原堅, 駒形嘉紀, 山田明: Churg-Strahlss 症候群寛解時期の末梢神経障害に対する γ グロブリン大量療法の有効性. 第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 神戸, 平成 23 年 7 月 17-20 日.
 29. 松田朝子, 有村義宏, 小路仁, 福岡利仁, 軽部美穂, 吉原堅, 駒形嘉紀, 山田明: 関節リウマチに対するメトトレキサートとミゾリピンの併用パルス療法療法の有効性の検討. 第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 神戸, 平成 23 年 7 月 17-20 日.
 30. 有村義宏: 血管炎—ANCA 関連血管炎—. 第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 神戸, 平成 23 年 7 月 17-20 日.
 31. 有村義宏: ANCA 関連血管炎—WG, CSS を中心に—. 第 2 回 TAKI 研究会, 川崎, 平成 23 年 7 月 21 日.
 32. 川嶋聡子, 村上華奈子, 岡田陽子, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 中林公正, 山田明: MPO-, PR3-ANCA, 抗 DNA が陽性で pauci-immune 半月体形成性腎炎を呈した RPGN 例. 第 12 回東京腎炎・ネフローゼ研究会, 東京, 平成 23 年 7 月 23 日.
 33. 要伸也: パソプレシン V2 受容体の作用機序と薬理作用. Pharma Medica トルバプタン座談会, 東京, 平成 23 年 7 月 31 日.
 34. 有村義宏: ANCA 関連血管炎—最新の進歩—, 第 128 回沖縄臨床腎懇話会特別講演会, 沖縄, 平成 23 年 9 月 3 日.
 35. 山田明: 膠原病の腎障害の治療と最近の話題. 第 13 回大分腎疾患研究会, 大分, 平成 23 年 9 月 22 日.
 36. 有村義宏: 膠原病と上手につきあっていくため

- に一女性のライフサイクルと膠原病との付き合い方—(第1回膠原病の理解を中心に). 平成23年度 膠原病講演会, 南多摩保健所, 平成23年9月22日.
37. 要伸也: 酸塩基異常症例の解説. 輸液・栄養領域薬剤師研究会, 立川, 平成23年10月6日.
 38. 山田明: 大会長講演「腎臓から全身を見る」. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14-15日.
 39. 清水英樹, 要伸也, 山田明, 堀雄一¹, 片岡一則², 藤田敏郎¹ (東京大・腎臓内分泌内科¹, 東京大・工学部マテリアル工学科²): ナノキャリアを用いた糸球体腎炎の新たな遺伝子治療戦略. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14-15日.
 40. 岡田陽子, 川嶋聡子, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 免疫グロブリン (IgG) の沈着を認めたMPO-ANCA関連腎炎の1例. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14-15日.
 41. 清水英樹, 吉澤亮, 岡田陽子, 福岡利仁, 林建二郎¹, 東原英二¹, 平野和彦², 管間博², 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明 (杏林大・泌尿器科¹, 杏林大・病理部²): ステロイド治療により低蛋白血症と間質性腎炎が改善したIgG4関連疾患の1例. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14-15日.
 42. 吉澤亮, 清水英樹, 福岡利仁, 岡田陽子, 菅田明子¹, 東原英二¹, 平野和彦², 管間博², 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明 (杏林大・泌尿器科¹, 杏林大・病理部²): 汎下垂体機能低下症と前立腺肥大を主症状としたIgG4関連疾患の1症例. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14-15日.
 43. 川嶋聡子, 遠藤彰子, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: Churg-Strauss症候群に合併し内皮下沈着物を伴った膜性腎症の1例. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14-15日.
 44. 小西文晴, 早川哲, 福岡利仁, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 膀胱破裂を伴ったAKIの1例. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14-15日.
 45. 吉原堅, 有村義宏: ANCA関連血管炎—臨床研究の進歩—. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14-15日.
 46. 村上華奈子, 嶋聡子, 岡田陽子: MPO-, PR3-ANCA, 抗DNAが陽性でpauci-immune半月体形成性腎炎を呈したRPGN例. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14-15日.
 47. 有村義宏: 自己免疫性疾患における免疫抑制剤の使い方—血管炎を含めて—. 北陸腎臓フロンティア学術講演会, 金沢, 平成23年10月20日.
 48. 要伸也: ナノキャリアを用いた糸球体疾患治療の可能性. 北陸腎臓フロンティア学術講演会, 金沢, 平成23年10月20日.
 49. 小西文晴, 池谷紀子, 齋藤督芸, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: S I A D Hを合併した顕微鏡的多発血管炎の一例. 第42回臨床体液研究会, 東京, 平成23年10月23日.
 50. 松田朝子, 要伸也, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 有村義宏, 山田明: Fanconi症候群を合併した高FGF23血性低リン血症性骨軟化症の一例. 第43回臨床体液研究会, 東京, 平成23年10月29日.
 51. Kawashima S, Arimura Y, Sano K, Komagata Y, Kaname S & Yamada A: In Situ Immune Complex (MPO-anti MPO antibody) and Complement 3 cause Glomerular Capillary Injury in Human MPO-ANCA Associated Glomerulonephritis: American College of Rheumatology, Chicago, Nov. 6-8, 2011.
 52. Kawashima S, Arimura Y, Sano K, Komagata Y, Kaname S & Yamada A: In situ immune complex (MPO-anti MPO antibody) & Complement 3 cause glomerular capillary injury in human MPO-ANCA associated GN. American Society of Nephrology, Philadelphia, Nov. 8-13, 2011.
 53. 有村義宏, 山田明: シンポジウム 肺と腎臓. 第108回日本内科学会, 横浜, 平成23年11月13日.
 54. 有村義宏: 膠原病と上手につきあっていくために—女性のライフサイクルと膠原病との付き合い方—(第2回療養生活を中心に). 平成23年度 膠原病講演会, 南多摩保健所, 平成23年11月17日.
 55. 宮澤さやか, 小路仁, 磯村杏耶, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 高VEGF血症を呈し難治性腹水を伴った一例. 第40回杏林医学会総会, 三鷹, 平成23年11月19日.
 56. 鈴木美帆¹, 吉澤亮, 齋藤督芸, 清水英樹, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明 (医学部職員教育室): IgG1, C3のみ陽性の膜性腎症を呈した混合性結合組織病 (MCTD) の1例. 第40回杏林医学会総会, 三鷹, 平成23年11月19日.
 57. 有村義宏: ANCA関連血管炎—最近の進歩—. 第26回城南リウマチ会, 東京, 平成23年11月19日.
 58. 佐藤綾, 駒形嘉紀, 宮澤さやか, 横井陽子, 小路仁, 吉原堅, 要伸也, 有村義宏, 山田明, 佐藤徹¹, 川村直弘², 横山琢磨³, 桑名正⁴ (循環器内科¹, 消化器内科², 呼吸器内科³, 慶應義塾大・リウマチ内科⁴): 慢性肺胞出血を呈したASD, PH, 特発性門脈圧亢進症合併SLEの一例. 西東京血管炎研究会, 東京, 平成23年11月24日.
 59. 吉原堅, 川嶋聡子, 池谷紀子, 小路仁, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 当科におけるANCA関連血管炎158例の臨床像の推移. 厚生労働科学研究費補助金政策創薬

研究事業 人工ガンマグロブリンの製剤化への安全性と臨床試験に向けた評価系の確立 班会議, 東京, 平成 23 年 11 月 25-26 日 .

60. 村上華奈子, 池谷紀子, 齋藤督芸, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 腸管囊腫様気腫症を合併した微小変化型ネフローゼ症候群の一例. 三多摩腎疾患治療医会第 62 回研究会, 三鷹, 平成 23 年 12 月 4 日 .
61. 高橋孝幸, 磯村杏耶, 小路仁, 大野明子, 小林洋和, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 千葉厚郎, 山田明: 内側縦束症候群で発症し, 経過中に肥厚性硬膜炎を合併した高齢発症 SLE の 1 例. 第 22 回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 埼玉, 平成 23 年 12 月 11 日 .
62. 有村義宏: 中小型血管炎の臨床研究分科会活動計画. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 難治性血管炎に関する調査研究班一中・小型血管炎臨床研究分科会, 平成 23 年度第 2 回班会議. 東京, 平成 23 年 12 月 16 日 .
63. 有村義宏: ANCA 関連血管炎—最近の進歩—. 第 3 回姫路ミゾリビンプフォーラム, 姫路, 平成 24 年 1 月 26 日 .
64. 福岡利仁: レミケード 200 例投与し, 得られたもの. Remicade Seminar, 東京, 平成 24 年 2 月 15 日 .
65. 有村義宏: 膠原病診療のポイント—血管炎を中心に—. 三鷹医師会学術講演会, 三鷹, 平成 24 年 3 月 1 日 .
66. 福岡利仁, 濱井章, 曹由美, 平松佐紀子, 軽部美穂, 吉原堅, 要伸也, 山田明: 長期 CAPD 継続例の特徴に関する臨牀的検討. 第 7 回多摩 PD 研究会, 東京, 平成 24 年 3 月 10 日 .
67. 千々和京介¹, 平松佐紀子¹, 則竹敬子¹, 加曾利良子², 原洋子³, 矢野由紀⁴ (杏林大付属病院腎透析センター¹, 聖路加国際病院², 亀田総合病院³, 王子病院⁴): 腹膜透析導入期における患者教育の現 —多施設共同研究—. 第 7 回多摩 PD 研究会, 東京, 平成 24 年 3 月 10 日 .
68. Arimura Y: Significance of MPO-positive Cells and MPO Deposition on Capillary Walls in MPO-ANCA-associated Vasculitis. The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012, Tokyo, Mar. 28-31, 2012.
69. Kaname S, Arimura Y, Komagata Y, Nagasawa T, Yamada A: A case of granulomatosis with polyangiitis with a continuously high titier of PR3- ANCA. The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012, Tokyo, Mar. 30, 2012.
70. Arimura Y, Sada K¹, Wada T², Harigai M³, Fujii T⁴, Amano K⁵, Yamada H⁶, Takasaki Y⁷, Homma S⁸, Dobashi H⁹, Ito S¹⁰, Makino H¹(¹Department of Medicine and Clinical Science, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Japan, ²Division of Nephrology, Department of Laboratory Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences Faculty of Medicine, Kanazawa University, Japan, ³Department of Pharmacovigilance, Graduate School of Medical and Dental sciences, Tokyo Medical and Dental University, Japan, ⁴Department of Rheumatology and Clinical Immunology, Kyoto University Graduate School of Medical Japan, ⁵Division of Rheumatology/Clinical Immunology, Department of Medicine, Saitama Medical University, Japan, ⁶Division of Rheumatology, Department of Internal Medicine, St. Marianna Medical School, Japan, ⁷Department of Internal Medicine and Rheumatology Juntendo University School of Medicine, Japan, ⁸Department of Respiratory Medicine, Toho University Omori Medical Center, Japan, ⁹Department of Internal Medicine, Division of Endocrinology and Metabolism, Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan, ¹⁰Division of Rheumatology, Niigata Rheumatic Center, Japan): Multicenter Clinical Studies on ANCA-associated Vasculitis in Japan. The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012, Tokyo, Mar. 28-31, 2012.
71. Kawashima S, Arimura Y, Yokoi Y, Kubota S, Yoshihara K, Komagata Y, Kaname S & Yamada Y: Glomerular Infiltration of MPO positive Cells and MPO Deposition on Glomerular Capillary Walls Cause Necrotizing Glomerulonephritis. The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012, Tokyo, Mar. 28-31, 2012.
72. Kawakami T1, Kimura S1, Takeuchi S1, Doi R1, Mutoh M1, Arimura Y, Soma Y1(1Department of Dermatology, St. Marianna University School of Medicine, Japan): Elevated Serum Anti-lysosomal-associated Membrane Protein-2 Antibody Levels in Patients with Henoch-Schonlein Purpura. The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012, Tokyo, Mar. 28-31, 2012.
73. Yoshizawa R, Shimizu H, Yoshihara K, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y & Yamada A: Comparison of Clinical Characteristics Between Takayasu's Arteritis(TA)and Giant Cell Arteritis(GCA). The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012, Tokyo, Mar. 28-31, 2012.
74. Matsuda T, Arimura Y, Isomura A, Saitou M, Kawashima S, Ikegaya N, Hayakawa T, Koji H, Fukuoka K, Karube M, Yoshihara K, Komagata

Y, Kaname S & Yamada A: Efficacy of High-dose Intravenous Immunoglobulin Therapy for Peripheral Neuropathy in the Remission Stage of Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis. The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012, Tokyo, Mar. 28-31, 2012.

論文

1. 渡部沙也花, 有村義宏, 野村和史, 川嶋聡子, 吉原堅, 要伸也, 山田明: 膜性腎症を合併した MPO-ANCA 関連血管炎の 1 例. 日本腎臓学会誌 53 (1) : 46-52, 2011.
2. 山田明: 全身性エリテマトーデス. 腎と透析 70 (1) : 33-37, 2011.
3. 山田明: 関節リウマチ—知ってるようで知らない病気—. 月刊基金 2011 (6) : 17, 2011.
4. 杉崎弘章, 安藤亮一, 要伸也, 小泉博史, 檜垣昌夫, 吉田雅治, 山田明, 長澤俊彦: 福島原発 (東京電力) 被災による計画停電の透析への影響—東京三多摩地区アンケート調査より—. 日本透析医学会雑誌 26 (2) : 259-268, 2011.
5. 山田明: 慢性疾患と健康診断. Medical Practice 28 (10) : 1871, 2011.
6. 小西文晴, 池谷紀子, 齋藤督芸, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: S I A D H を合併した顕微鏡的多発血管炎の一例. 臨床体液 2011 (38) : 5-9, 2011.
7. 山田明: 内科医が知っておくべき腎臓と全身臓器とのインターアクション. 日本内科学会雑誌 100(9): 2530-2536, 2011.
8. 山田明: 巣状壊死性糸球体腎炎. 「腎臓症候群(第 2 版) (上)—その他の腎臓疾患を含めて—. 別冊日本臨床: 130-132, 2012.
9. 山田明: IgA 腎症, 紫斑病性腎炎. 今日の治療指針 2012: 523-525, 2012.
10. 山田明: 膠原病 —膠原病とはどんな病気?—. 月刊基金 53 (2) : 30-31, 2012.
11. 山田明: 全身性エリテマトーデス. 「腎臓症候群(第 2 版) (下)—その他の腎臓疾患を含めて—. 別冊日本臨床: 545-549, 2012.
12. 山田明: AKI の管理 Q & A 運動後 AKI. 総合医学社, 救急・集中治療 24 (3・4) : 444-447, 2012.
13. 有村義宏: ANCA 関連血管炎に伴う尿細管間質性腎炎. 日本腎臓学会誌 53(4): 604-609, 2011.
14. 駒形嘉紀, 有村義宏: 多発血管炎性肉芽腫症 (Wegener 肉芽腫症) の肺病変. 呼吸器内科 20(5): 402-409, 2011.
15. 山村昌弘, 佐田憲映, 針谷正祥, 藤井隆夫, 有村義宏, 榎野博史: RemIT-JAV 研究: わが国の ANCA 関連血管炎の診察実態の把握を目指して. 脈管学 51 (1) : 79-85, 2011.
16. 有村義宏: 全身性血管炎と肺—ANCA 関連血管炎を中心に—. 呼吸器内科 19(3): 229-235, 2011.
17. 駒形嘉紀, 有村義宏: 結節性多発動脈炎. リウマチ科 45(4): 371-378, 2011.
18. 有村義宏, 川嶋聡子, 吉原堅: II. 自己免疫疾患 4. ANCA 関連腎炎. 日本内科学会雑誌 100(5): 1254-1261, 2011.
19. 有村義宏: 3. 内科医が知っておくべき腎臓と全身臓器とのインターアクション 1) 肺と腎臓. 日本内科学会雑誌 100(9): 2530-2536, 2011.
20. 有村義宏: 壊死性糸球体腎炎. 腎臓症候群 (第 2 版) —その他の腎臓疾患を含めて—. 別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.17: 65-69, 2012.
21. 有村義宏: ANCA 関連腎炎. 腎臓症候群(第 2 版) —その他の腎臓疾患を含めて—. 別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ 18: 468-473, 2012.
22. 有村義宏: 顕微鏡的多発血管炎. 特集 最新の膠原病診療—そのパラダイムシフト—. 日本医師会雑誌 140(11): 2305-2309, 2012.
23. 要伸也, 有村義宏: 強皮症腎クリーゼ. 腎疾患・透析最新の治療 2011-2013: 196-199, 2011.
24. 岡田陽子, 要伸也: 特発性尿細管性蛋白尿, Fanconi 症候群. 腎疾患・透析最新の治療 2011-2013: 221-224, 2011.
25. 要伸也: 降圧薬による腎障害. 腎臓症候群 (第 2 版), 別冊日本臨床, 2012.
26. 要伸也, 濱井章: 第 5 回 できるだけ長く家族で過ごしたい. 透析ケア 18(2): 187-190, 2012.
27. 要伸也: カリウム代謝異常と治療. Nephrology Frontier 10 (4): 28-34, 2011.
28. 要伸也, 伊藤浩, 藤田敏郎: パソプレシン V2 受容体拮抗作用の臨床応用 in Round Table Discussion, Pharma Medica 29 (12) : 62-69, 2011.
29. 駒形嘉紀, 有村義宏: Sjogren 症候群 (SjS) の病因・治療. 日本医事新報 4546:56-57, 2011.
30. Nakabayashi K, Fujioka Y, Nagasawa T, Kimura T, Kojima K, Arimura Y, Yamada A: Dual myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody-and antiglomerular basement membrane antibody-positive cases associated with prior pulmonary fibrosis: a report of four cases. Clin Exp Nephrol 15:226-234, 2011.
31. Nakabayashi K, Fujioka Y, Arimura Y, Fukuoka T, Marumo T, Umino M, Kamiya Y, Okai T, Tsurumaki S, Nagasawa T & Yamada A: Anti-glomerular basement membrane (anti-GBM) disease accompanied by vasculitis that was not positive for antineutrophil cytoplasmic antibodies to myeloperoxidase and proteinase 3: a report of two cases and the incidence of anti-GBM disease at one institution. Clin Exp Nephrol 15:504-513, 2011.
32. Wada T, Hara A, Arimura Y, Sada K, Makino H & the Research Group of Intractable Vasculitis, Ministry of Health Labor, and Welfare of

Japan: Risk Factors Associated with Relapse in Japanese Patients with Microscopic Polyangiitis. The Journal of Rheumatology 39;3 doi:10. 545-551, 2012.

33. Komiya I, Arimura Y, Nakabayashi K, Yamada A, Osaki T¹, Yamaguchi H^{1, 2}, and Kamiya S¹ (Department of Infectious Disease, Kyorin University School of Medicine, Japan, ² Department of Medical Laboratory Sciences, Hokkaido University Graduate School of Health Sciences): Increased concentrations of antibody against heat shock protein in patients with myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic autoantibody positive microscopic polyangiitis. Microbiol Immunol, 55:531-538, 2011.

著書

1. 山田明：関節炎とリウマチ性疾患（訳）。ワシントンマニュアル12. 高久史麿，和田攻監訳。東京，2011. p881-914.
2. 山田明：抗糸球体基底膜（GBM）抗体。臨床検査ガイド2011～2012. 和田攻，大久保昭行，矢崎義雄，大内尉義編著，東京，2011. p686-687.
3. 山田明：尿アルブミン，尿IV型コラーゲン。臨床検査ガイド2011～2012. 和田攻，大久保昭行，矢崎義雄，大内尉義編著，東京，2011. p944-947.
4. 山田明：成人看護学⑦腎・泌尿器。山田明，東原英二，斉藤しのぶ編集。東京，メヂカルフレンド社，2012.
5. 山田明：腎・泌尿器疾患の主な検査 A 尿検査 B 腎機能検査。成人看護学⑦腎・泌尿器。山田明，東原英二，斉藤しのぶ編集。東京，メヂカルフレンド社，2012. p57-67.
6. 山田明：腎・泌尿器疾患の主な治療法 A 血液浄化療法。成人看護学⑦腎・泌尿器。山田明，東原英二，斉藤しのぶ編集。東京，メヂカルフレンド社，2012. p86-91.
7. 山田明：慢性腎臓病（CKD）と急性腎障害（AKI）。成人看護学⑦腎・泌尿器。山田明，東原英二，斉藤しのぶ編集。東京，メヂカルフレンド社，2012. p118-120.
8. 有村義宏：IV。免疫血清検査。パーフェクトガイド 検査値事典，中原一彦 監修。総合医学社，2011. p412-421.
9. 有村義宏：チャーグ・ストラウス症候群。症候群ハンドブック，井村裕夫 総編集，福井次矢，辻省次 編集。中山書店，2011. p. 460-461.
10. 有村義宏，川嶋聡子：IV -6. ANCA 関連腎炎の分子病態機構。病気の分子形態学，日本臨床分子形態学会 編，学際企画株式会社，2011. p. 218-220.
11. 要伸也：術前にチェックしなければならない全身疾患：その他危険因子②CKD。外科医のための循環器必須知識。メディカルレビュー社，東京，2012. p107-112.

その他

1. 山田明：第41回日本腎臓学会東部学術大会主催，東京，平成23年10月14-15日。
2. 木村健二郎，湯澤由紀夫，有村義宏，西慎一，堀江重郎，漆原真樹，片渕律子，香美祥二，北村博司，後藤雅史，小松弘幸，近藤秀治，佐藤光博，富田亮，藤垣嘉秀，安田隆，安田宣成，山本陵平，高橋和男，板橋美津世，猪原登志子，臼井丈一，要伸也，小林正貴，長谷川みどり，原章規，平橋淳一，藤元昭一，武曾恵理，今田恒夫，宇都宮保典，乳原義文，岡田浩一，甲斐平康，清元秀泰，後藤眞，笹富佳江，佐藤壽伸，鶴屋和彦，西野友哉，古市賢吾，渡辺裕輔，奴田原紀久雄，花岡一成，成田一衛，土屋健，望月敏雄，香村衡一，中西浩一，野村信介，西尾妙織，武藤智，石村栄治。厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）診療ガイドライン作成分科会分担研究報告書。進行性腎障害に関する調査研究。平成23年度総括 総括・分担研究報告書。p. 63-65.
3. 有村義宏（分担執筆）：中小型血管炎の臨床研究分科会活動計画。厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）分担平成23年度研究報告書。難治性血管炎に関する調査研究。平成23年度 総括・分担研究報告書。p. 205-207.
4. 有村義宏（分担執筆）：中小型血管炎の臨床研究分科会報告。厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）分担平成23年度研究報告書。難治性血管炎に関する調査研究。平成23年度 総括・分担研究報告書。p. 239-240.
5. 有村義宏（分担執筆）：ANCA 関連血管炎158例の臨床像と予後の推移。厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業：政策創薬総合研究）平成23年度 分担研究報告書。
6. 人工ガンマグロブリンの製剤化への安全性と臨床試験にむけた評価系の確立。平成23年度 総括・分担研究報告書。p. 66-71.
7. 有村義宏，松田朝子，吉原堅，駒形嘉紀，山田明：末梢神経障害を有する寛解期 Churg-Strauss 症候群に対する大量γグロブリン療法の有用性 - 顕微鏡的多発血管炎に対する可能性も含めて -。厚生労働科学研究補助金（創薬基盤推進研究事業：政策創薬総合研究）分担報告書，p. 84-87.

第一内科学教室 （神経内科）

口演

1. 西山和利：チームで診る脳梗塞治療～杏林大学脳卒中センターでの取り組み～。第11回大分急性期脳卒中研究会，大分，平成23年2月18日。
2. 西山和利：末梢神経疾患の超音波画像診断法 Ultrasound imaging on peripheral nervous diseases. 第84回日本整形外科学会学術総会，横浜，平成23年5月12-15日。

3. 西山和利, 山田智美, 栗田浩樹, 脊山英徳, 岡村耕一, 岡野晴子, 小林洋和, 池田隆徳¹, 千葉厚郎, 塩川芳昭 (¹杏林大・医・第二内科): 心原性脳塞栓における CHADS2 スコア /CHA2DS2-VASc スコア及び抗血栓療法に関する検討. 第 52 回日本神経学会総会, 名古屋, 平成 23 年 5 月 18-20 日.
4. 大石知瑞子, 園生雅弘¹, 塚本浩¹, 畑中裕己¹, 清水輝夫¹, 千葉厚郎 (¹帝京大・医・神経内科): sensory CIDP5 例: 体性感覚誘発電位 (SEP) の診断的役割について. 第 52 回日本神経学会総会, 名古屋, 平成 23 年 5 月 18-20 日.
5. 小川有紀, 岡野晴子, 磯村杏耶¹, 小林洋和, 千葉厚郎 (¹杏林大・腎リウマチ膠原病内科): 内側縦束症候群を契機に SLE の診断に至った 72 歳女性例. 第 197 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 平成 23 年 6 月 4 日.
6. 内堀歩, 長田純理, 大石知瑞子, 宮崎泰, 千葉厚郎: 多発性硬化症患者における新規自己抗体の検索. 第 52 回日本神経学会総会, 名古屋, 平成 23 年 5 月 18-20 日.
7. 大野明子, 大石知瑞子, 竹内弘久¹, 千葉厚郎 (¹杏林大・医・消化器外科): 胃瘻造設後早期で嘔吐を契機に門脈ガス血症と虚血性胃炎を認めたパーキンソン症候群の一例. 第 25 回日本神経救急学術集会, 東京, 平成 23 年 6 月 11 日.
8. 岡崎真央¹, 桑原基¹, 鈴木秀和¹, 塩山実章¹, 三井良之¹, 楠進¹, 内堀歩, 千葉厚郎 (¹近畿大・医・神経内科): SLE を伴う抗 Ma-2 抗体陽性傍腫瘍性辺縁系脳炎の 1 例. 第 94 回日本神経学会近畿地方会, 京都, 平成 23 年 6 月 11 日.
9. 大石知瑞子, 大野明子, 千葉厚郎: てんかん重積後にカプグラ症状を呈した非ヘルペス性辺縁系脳炎の一例. 第 5 回日本てんかん学会関東甲信越地方会, 東京, 平成 23 年 6 月 18 日.
10. 田中雅貴, 斎藤明子, 大石知瑞子, 宮崎泰, 千葉厚郎: 鑑別に苦慮した延髄病変の 1 例, 三鷹ニューロカンファレンス, 三鷹, 平成 23 年 6 月 23 日.
11. 園生雅弘¹, 内堀歩, 畑中裕己¹, 大石知瑞子, 千葉厚郎 (¹帝京大・医・神経内科): True neurogenic TOS の 21 歳男性例. 第 48 回 Spinal Cord Club, 東京, 平成 23 年 7 月 8 日.
12. 西山和利, 岡村耕一, 脊山英徳, 岡野晴子, 小林洋和, 松田剛明¹, 山口芳裕¹, 千葉厚郎, 塩川芳昭 (¹杏林大・医・救命救急科): ECASSIII に基づいた rt-PA 静注療法の制限時間緩和が救急外来にもたらす影響に関する検討. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
13. 西山和利, 中山剛志, 本橋尚道, 山田智美, 脊山英徳, 高橋秀寿, 千葉厚郎, 岡島康友, 塩川芳昭, 武田克彦¹ (¹国際医療福祉大学三田病院・神経内科): 大規模急性期脳卒中センターにおける高次脳機能障害スクリーニング～第二報～. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
14. 西山和利: 適正使用指針とその円滑な実施のための取り組みについて. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 31 日.
15. 小林夏紀, 西山和利, 小原健太, 松本由美, 脊山英徳, 小林洋和, 千葉厚郎, 加藤雅江, 塩川芳昭: 癌の合併が脳卒中診療に及ぼす影響に関する臨床検討. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
16. 脊山英徳, 小林洋和, 西山和利, 高橋秀寿, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 杏林大学病院脳卒中センターにおける内頸動脈内膜剥離術 73 例の治療成績. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
17. 綾野水樹, 山田智美, 小林洋和, 西山和利, 脊山英徳, 松本由美, 千葉厚郎, 岡島康友, 塩川芳昭: 脳卒中診療における向精神薬投与群・非投与群の転帰の検討. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
18. 宅美貴子, 西山和利, 本橋尚道, 城間敏子, 脊山英徳, 小林洋和, 高橋秀寿, 岡島康友, 千葉厚郎, 塩川芳昭: 脳血管障害脳幹病巣における神経心理学的検討. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
19. 本橋尚道, 城間敏子, 宅美貴子, 小林洋和, 脊山英徳, 高橋秀寿, 西山和利, 千葉厚郎, 岡島康友, 塩川芳昭: 急性期脳卒中における右半側空間無視の検討. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
20. 畑中良, 岡村耕一, 脊山英徳, 小林洋和, 西山和利, 高橋秀寿, 塩川芳昭: 急性期脳卒中センターにて深部静脈血栓症を合併した 2 症例. 第 40 回脳卒中の外科学会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
21. 岡村耕一, 山口竜一, 脊山英徳, 小林洋和, 西山和利, 高橋秀寿, 塩川芳昭: 杏林大学病院の脳内出血治療における現状と課題. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
22. 脊山英徳, 小林洋和, 西山和利, 高橋秀寿, 土屋一洋¹, 塩川芳昭 (¹杏林大・放射線科): rt-PA 治療における MRI FLAIR 画像の intra arterial hyperintensity sign の意義. 第 30 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 札幌, 平成 23 年 8 月 27 日.
23. 岡村耕一, 脊山英徳, 小林洋和, 西山和利, 高橋秀寿, 塩川芳昭: 頸動脈内膜剥離術における術中超音波検査の有用性. 第 30 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 札幌, 平成 23 年 8 月 27 日.
24. 田中雅貴, 大石知瑞子, 大野明子, 高田佐織¹, 千葉厚郎 (¹杏林大・医・呼吸器内科): 肺大細胞神経内分泌癌に伴った辺縁系脳炎の 78 歳男性例. 第 198 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 平成 23 年 9 月 3 日.
25. Oishi C, Sonoo M¹ & Chiba A (¹Department

- of Neurology Teikyo University School of Medicine) : Utility of somatosensory evoked potentials (SEPs) for cases complaining numbness with little abnormalities in nerve conduction studies (NESs). American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 58th Annual Meeting, San Francisco, California, Sep. 14-17, 2011
26. 内堀歩, 長田純理, 大石知瑞子, 宮崎泰, 千葉厚郎: 無為と歩行障害を主徴とし, 血清中に抗 synapsin 1a 抗体が検出された一例. 第 23 回日本神経免疫学会学術集会, 東京, 平成 23 年 9 月 15-17 日.
 27. 千葉厚郎: パーキンソニズムの診断・治療. 西東京市医師会学術講演会, 西東京, 平成 23 年 9 月 23 日.
 28. 岡村耕一, 山口竜一, 脊山英徳, 小林洋和, 西山和利, 高橋秀寿, 塩川芳昭: 小脳出血手術適応の妥当性について. 第 70 回日本脳神経外科学術総会, 横浜, 平成 23 年 10 月 12-14 日.
 29. 小松原弘一郎, 脊山英徳, 小林洋和, 西山和利, 塩川芳昭: 杏林大学脳卒中センターにおける虚血性脳血管障害死亡例の解析. 第 70 回日本脳神経外科学術総会, 横浜, 平成 23 年 10 月 12-14 日.
 30. 脊山英徳, 岡村耕一, 小林洋和, 西山和利, 高橋秀寿, 栗田浩樹, 佐藤栄志¹, 小西善史¹, 塩川芳昭 (1 杏林大・医・脳神経外科): 杏林大学病院脳卒中センターにおける頸動脈狭窄症治療連続 140 例の成績. 第 70 回日本脳神経外科学術総会, 横浜, 平成 23 年 10 月 12 日~14 日.
 31. 千葉厚郎: 神経内科領域のてんかんに対するレベチラセタムの使用経験. EKeppra 学術講演会, 国分寺, 平成 23 年 10 月 14 日.
 32. 田中雅貴, 長田純理, 内堀歩, 千葉厚郎: 大きな外傷歴がなく庭仕事の後に発症した破傷風の 2 例, 第 16 回日本神経感染症学会学術集会, 東京, 平成 23 年 11 月 5 日.
 33. 田中雅貴, 長田純理, 内堀歩, 千葉厚郎: 高齢者に発症した破傷風の 2 例, 三鷹ニューロカンファレンス, 三鷹, 平成 23 年 11 月 10 日.
 34. 大石知瑞子¹, 園生雅弘¹, 桑原聡², 磯瀬沙希里², 岩波知子¹, 千葉厚郎, Tokyo Metropolitan EDx (1 帝京大・医・神経内科, 2 千葉大・医・神経内科): 複合筋活動電位 (CMAP) 持続時間に対する low-cut filter の影響は, 健常者と CIDP 患者とで異なる. 第 41 回日本臨床神経生理学会・学術集会, 静岡, 平成 23 年 11 月 10-12 日.
 35. 園生雅弘¹, 安藤哲朗², 内堀歩, 川上治², 所澤安展¹, 畑中裕己¹, 東原真奈⁴, 大石知瑞子, 千葉厚郎 (1 帝京大・医・神経内科, 2 安城更生病院・神経内科, 3 防衛医科大・医・第三内科): true neurogenic thoracic outlet syndrome (TOS) の臨床的・電気生理学的特徴についての本邦初の報告: disputed neurogenic TOS との異同も含めて. 第 41 回日本臨床神経生理学会・学術集会, 静岡, 平成 23 年 11 月 10-12 日.
 36. 塚本浩¹, 北國圭一¹, 畑中裕己¹, 園生雅弘¹, 清水輝夫¹, 千葉厚郎 (1 帝京大・医・神経内科): 四肢近位部にも筋力低下を認め血漿交換療法とシクロホスファミド内服が奏功した抗 MAG 抗体陽性ニューロパチーの一例. 第 41 回日本臨床神経生理学会・学術大会, 静岡, 平成 23 年 11 月 10-12 日.
 37. 川上真吾¹, 園生雅弘¹, 角谷彰子¹, 北國圭一¹, 岩波知子¹, 畑中裕己¹, 内堀歩, 千葉厚郎, 海田賢一², 清水輝夫¹ (1 帝京大・医・神経内科, 2 防衛医大・医・第 3 内科): Guillain-Barré 症候群における A 波の意義 電気生理学的分類と抗ガングリオシド抗体との相関. 第 41 回日本臨床神経生理学会・学術大会, 静岡, 平成 23 年 11 月 10-12 日.
 38. 金泉博文, 河越千尋, 長田純理, 内堀歩, 千葉厚郎: 大量 γ グロブリン療法 (IVIg) 後に無菌性髄膜炎を呈した慢性炎症性脱髄性多発神経根炎 (CIDP) の一例, 第 40 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 23 年 11 月 19 日.
 39. 千葉厚郎: レベチラセタムの使用経験~神経内科の立場から~. イーケプラ発売 1 周年記念講演会, 東京, 平成 23 年 11 月 25 日.
 40. 小泉さやか, 山田智美, 岡野晴子, 西山和利, 千葉厚郎: 観念運動失行を呈した左視床・脳梁膨大部梗塞の 76 歳女性例. 第 199 回神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 平成 23 年 11 月 26 日.
 41. 宮崎泰: パーキンソン病およびその関連疾患の嚙下障害. 第 15 回関東嚙下訓練技術者講習会, 東京, 平成 23 年 11 月 27 日.
 42. 千葉厚郎, 内堀歩, 長田純理, 大石知瑞子, 宮崎泰: 無為と歩行障害を主徴とし大脳白質病変と萎縮を伴った患者血清中に見いだされた抗神経抗体に関する検討. 免疫性神経胃疾患に関する調査研究班 平成 23 年度班会議, 東京, 平成 24 年 1 月 25-26 日.
 43. 千葉厚郎: 免疫性末梢神経障害 Update. 第 5 回多摩神経免疫研究会, 立川, 平成 24 年 2 月 16 日.
 44. 大塚千尋, 大石知瑞子, 田中雅貴, 大野明子, 内堀歩, 千葉厚郎: 脊髄 MRI に異常を認めず, 体性感覚誘発電位検査が局在診断と治療効果の評価に有用であった脊髄炎の 48 歳女性例. 第 200 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 平成 24 年 3 月 3 日.
 45. 小川有紀, 内堀歩, 畑中良¹, 山田智美, 河合拓也¹, 西山和利, 塩川芳昭¹, 千葉厚郎 (1 杏林大・医・脳神経外科): ギラン・バレー症候群に対して実施した免疫グロブリン大量療法直後にくも膜下出血を合併した一例: 第 9 回首都圏脳卒中フォーラム, 東京, 平成 24 年 3 月 23 日.
- 論文
1. 千葉厚郎: ギラン・バレー症候群. Medical

- Technology 39:398, 2011.
2. 團志朗, 高橋秀寿, 岡島康友, 千野直一, 小林洋和, 脊山英徳, 西山和利, 塩川芳昭: 大都市圏の脳卒中ユニットと転帰先の実態調査. 脳卒中 33:89-97, 2011.
 3. Naganuma M, Koga M, Shiokawa Y, Nakagawara J, Furui E, Kimura K, Yamagami H, Okada Y, Hasegawa Y, Kario K, Okuda S, Nishiyama K, Minematsu K & Toyoda K: Reduced estimated glomerular filtration rate is associated with stroke outcomes after intravenous rt-PA: the Stroke Acute Management with Urgent Risk-factor Assessment and Improvement (SAMURAI) rt-PA registry. *Cerebrovasc Dis* 31:123-129, 2011.
 4. 宮越睦¹, 池田隆徳¹, 星田京子¹, 柳澤亮爾¹, 三輪陽介¹, 石黒晴久¹, 塚田雄大¹, 阿部敦子¹, 米良尚晃¹, 柚須悟¹, 吉野秀朗¹, 西山和利, 塩川芳昭²(¹杏林大・医・第二内科, ²杏林大・医・脳神経外科): 脳卒中センターに搬送された非弁膜症性心房細動由来の心原性脳塞栓患者における危険因子からみた CHADS2 スコアの成因・意義について. *Pharma Medica* 29:189-193, 2011.
 5. Nishiyama K, Seyama H, Okano H, Yamada S, Yamada S, Kurita H, Chiba A, Yamaguchi Y & Shiokawa Y: Escalation regime of cilostazol for Acute brain infarction. *Intern Med* 50: 1559-1563, 2011.
 6. Miyazawa A, Inoue M, Yamada S, Hirota K, Sano YR, Nishiyama K, Hirakata A: Higher incidence of carotid stenosis in patients with central retinal artery occlusion. *Acta Ophthalmol* 89: 378-379, 2011.
 7. 平岩直也, 岡村耕一, 山田智美, 西山和利, 高橋秀寿, 塩川芳昭: European license に沿った使用制限時間緩和が rt-PA 静注療法に及ぼす影響に関する臨床的検討. *Neurosurg Emerg* 16:26-33, 2011.
 8. 脊山英徳, 岡野晴子, 小林洋和, 西山和利, 高橋秀寿, 塩川芳昭: 【動脈解離と脳卒中】後下小脳動脈解離 後下小脳動脈に局限した動脈解離の自然歴. *The Mt. Fuji Workshop on CVD* 29: 187-189, 2011.
 9. 綾野水樹, 脊山英徳, 岡野晴子, 小林洋和, 西山和利, 高橋秀寿, 塩川芳昭: 【動脈解離と脳卒中】椎骨脳底動脈解離 (内科治療) 難聴を呈した動脈解離の 2 例. *The Mt. Fuji Workshop on CVD* 29: 151-154, 2011.
 10. 大石知瑞子, 西山和利: これからの高齢者医療- 診断・治療・予防への応用- 《高齢者と地域医療》脳卒中の地域連携パス. *内科* 108: 1227-1230, 2011.
 11. Iwanami T¹, Sonoo M¹, Hatanaka Y¹, Hokkoku K¹, Oishi C, Shimizu T¹(¹Department of Neurology Teikyo University School of Medicine):

Decremental responses to repetitive nerve stimulation (RNS) in motor neuron disease. *Clin Neurophysiol* 122: 2530-2536, 2011.

12. 内堀歩, 千葉厚郎: 【免疫性神経疾患の治療: 標準的治療とトピックス】 Guillain-Barré 症候群. *神経治療学* 29: 23-27, 2012.
13. Nishijima T¹, Tsukada K¹, Takeuchi S², Chiba A, Honda M¹, Teruya K¹, Gatanaga H¹, Kikuchi Y¹, Oka S¹ (¹AIDS Clinical Center, National Center for Global Health and Medicine, ²Department of Neurology, National Center for Global Health and Medicine): Antiretroviral therapy for treatment-naïve chronic HIV-1 infection with an axonal variant of Guillain-Barré syndrome positive for anti-ganglioside antibody: a case report. *Intern Med* 50: 2427-2429, 2011.

著書

1. 内堀歩, 千葉厚郎: Guillain-Barré 症候群. 神経疾患最新の治療 2012-2014. 小林祥泰, 水澤英洋編. 東京, 南江堂, 2012. p. 277-281.
2. 千葉厚郎: reversible posterior leukoencephalopathy syndrome (RPLS). 症候群ハンドブック. 井村裕夫, 福井次矢, 辻省次編. 東京, 中山書店, 2011. p. 11.

その他

1. 千葉厚郎, 内堀歩, 長田純理, 大石知瑞子, 宮崎泰: 無為と歩行障害を主徴とし大脳白質病変と萎縮を伴った患者血清中に見いだされた抗神経抗体に関する検討. 厚生労働科学研究補助金難治性疾患克服研究事業 免疫性神経疾患に関する調査研究班 平成 23 年度 総括・分担研究報告書. 2012. p. 79-80.

第二内科学教室 (循環器内科)

口演

1. Inami T, Kataoka M, Shimura N, Yanagisawa R, Ishiguro H, Kohshoh H, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: New Strategy of Medical Therapy to Left Ventricular Dysfunction without Significant Coronary Stenosis by Using Acetylcholine Provocation. American College of Cardiology Scientific Session, New Orleans, Apr. 2-5, 2011.
2. 木村郷, 坂田好美, 佐藤一樹, 武本和也, 水野宜英, 南島俊徳, 田口浩樹, 古谷充史, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: 急性冠症候群症例における頸動脈エコーによる頸動脈動脈硬化の評価. 第 22 回日本心エコー学会学術集会, 鹿児島, 平成 23 年 4 月 23 日.
3. 武本和也, 坂田好美, 佐藤一樹, 水野宜英, 南島俊徳, 古谷充史, 田口浩樹, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: たこつぼ型心筋症の左室収縮能および拡張能障害の評価. 第 22 回日本心エコー学会

- 会学術集会, 鹿児島, 平成 23 年 4 月 23 日.
4. Miwa Y, Ikeda T, Miyakoshi M, Hoshida K, Yanagisawa R, Ishiguro H, Tsukada T, Abe A, Mera H, Sato T, Yusu S, Yoshino H: Heart Rate Turbulence Can Predict Cardiac Mortality in Post-Myocardial Infarction Patients with Type 2 Diabetes Mellitus. 32nd Heart Rhythm Society Scientific Session 2011, San Francisco, May 6, 2011.
 5. 坂田好美: 肺高血圧・右室機能. 慶應心エコーカンファレンス 2011, 東京, 平成 23 年 6 月 4 日.
 6. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 第 1 回なにか肺高血圧症研究会, 大阪, 平成 23 年 6 月 17 日.
 7. 吉野秀朗: 心臓病と診断されたとき. 杏林大学公開講演, 三鷹, 平成 23 年 6 月 18 日.
 8. 吉野秀朗: PCI 患者の長期管理について. ATIS セミナー, 多摩, 平成 23 年 6 月 23 日.
 9. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 富山県ヴォリブリス発売講演会, 富山, 平成 23 年 6 月 24 日.
 10. 肺高血圧症の最新の診断と治療. 第 2 回肺高血圧症講演会 in 東北, 仙台, 平成 23 年 6 月 25 日.
 11. 前田明子: ICD/CRTD の遠隔モニタリング. Biotronik 講演, 東京, 平成 23 年 6 月 25 日.
 12. 吉野秀朗: 症例検討 一般的な症例から. 三鷹市医師会循環器研究会, 三鷹, 平成 23 年 6 月 29 日.
 13. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 第 3 回東千葉肺高血圧症研究会, 佐倉, 平成 23 年 6 月 30 日.
 14. 前田明子: 遠隔フォローアップの現状. SJM 講演, 東京, 平成 23 年 7 月 1 日.
 15. 佐藤徹: A Decade of Progress in Pulmonary Hypertension-Improving Outcomes for the Future. 8th Scientific Symposium in Sapporo, 札幌, 平成 23 年 7 月 2 日.
 16. 三輪陽介: 非虚血性拡張型心筋症における heart rate turbulence によるリスク層別化シンポジウム I 『ホルター・ノンインベシブ心電図の新しい展開』. 第 31 回日本ホルター・ノンインベシブ心電学研究会, 東京, 2011 年 7 月 9 日.
 17. Satoh T, Okada Y¹, Hara Y, Sakamaki F, Kyotani S, Tomita T, Nagaya N, Nakanishi N: Changes in ventilation, arterial and pulmonary CO₂ tension with time during exercise and CO₂ rebreathing in humans. ISAC meeting, Ontario, July 10-15, 2011.
 18. 増田裕, 横山健一, 森永圭吾, 立石秀勝, 今井昌康, 似鳥俊明, 長友禎子, 後藤元, 伊波巧, 吉野秀朗. 喀血を生じた冠動脈-気管支動脈瘻の一例. 第 73 回心臓血管放射線研究会, 新潟, 平成 23 年 7 月 19 日.
 19. 伊波巧, 片岡雅晴, 柳澤亮爾, 田口浩樹, 志村亘彦, 石黒晴久, 高昌秀安, 坂田好美, 佐藤徹, 吉野秀朗: Impact of coronary spasm on left ventricular dysfunction in patients without structural heart disease. 第 6 回冠攣縮研究会, 大阪, 平成 23 年 7 月 23 日.
 20. 吉野秀朗: 急性冠症候群の最新の治見. 新居浜市循環器疾患懇話会, 新居浜, 平成 23 年 7 月 28 日.
 21. Sakata K, Sato K, Mizuno Y, Taguchi H, Minamishima T, Takemoto K, Soga Y, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of Right Ventricular Systolic and Diastolic Dysfunction Using Tissue Doppler and Speckle-tracking Imaging in Patients With Primary Pulmonary Hypertension. The 75th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, Aug. 3, 2011.
 22. Sakata K, Sato K, Mizuno Y, Taguchi H, Minamishima T, Takemoto K, Soga Y, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of Geometric Changes of Tricuspid Valve in Patients With Primary Pulmonary Artery Hypertension Using Transthoracic Real-time 3-Dimensional Echocardiography. The 75th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, Aug. 3, 2011.
 23. 伊波巧, 片岡雅晴, 柳澤亮爾, 田口浩樹, 志村亘彦, 石黒晴久, 高昌秀安, 米良尚晃, 坂田好美, 佐藤徹, 吉野秀朗: New strategy of medical therapy to left ventricular dysfunction without significant coronary stenosis. 第 75 回日本循環器学会総会・学術集会シンポジウム, 横浜, 平成 23 年 8 月 3-4 日.
 24. Yanagisawa R, Yoshino H, Hoshida K, Miwa Y, Miyakoshi M, Abe A, Ishiguro H, Tsukada T, Mera H, Yusu S, Ikeda T: Prognostic Value of T-Wave Alternans Using the Modified Moving Average Method in Post-Myocardial Infarction Patients with a Reduced Cardiac Function. The 75th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, Aug. 3-4, 2011.
 25. 前田明子: ICD 患者さんのケアの必要性～身体的, 精神的, 社会的側面から～. Medtronic 講演, 大阪, 平成 23 年 8 月 5 日.
 26. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 大阪肺高血圧症セミナー, 大阪, 平成 23 年 8 月 19 日.
 27. 伊波巧, 片岡雅晴, 志村亘彦, 柳澤亮爾, 田口浩樹, 石黒晴久, 高昌秀安, 坂田好美, 佐藤徹, 吉野秀朗: 当院における PTPA の現状～合併症症例を中心に～. 第 2 回 PTPA 研究会, 仙台, 平成 23 年 8 月 21 日.
 28. Sakata K, Sato K, Minamishima T, Takemoto K, Sueoka J, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of Left Ventricular Diastolic Dysfunction by Doppler and 2D Speckle-tracking Imaging in Patients with Primary Pulmonary Hypertension. European

- Society of Cardiology Congress 2011, Paris, Aug. 28, 2011.
29. Sakata K, Sato K, Mizuno Y, Minamishima T, Takemoto K, Sueoka J, Kataoka M, Satoh T, Yoshino H: Quantification of Tricuspid Valve Tenting in Patients with Primary Pulmonary hypertension by Transthoracic Real-time 3-dimensional Echocardiography. European Society of Cardiology Congress 2011, Paris, Aug. 31, 2011.
 30. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 榊原記念病院定例講演会, 府中, 平成23年9月9日.
 31. Sakata K, Sato K, Takemoto K, Minamishima T, Uesugi Y, Taguchi H, Matsushita K, Kataoka M, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of Right Ventricular Systolic and Diastolic Function and Prognosis Using Tissue Doppler and Speckle-Tracking Imaging in Patients with Pulmonary Artery Hypertension. Scientific Sessions of American Heart Association 2011. Orlando, Nov. 13, 2011.
 32. 佐藤徹: 肺高血圧症の治療戦略. 肺高血圧症セミナー, 福島, 平成23年9月16日.
 33. 國島友之, 明石嘉浩, 三宅良彦, 青山直善, 高昌秀安, 吉野秀朗, 関憲司, 松本万夫, 古川泰司, 吉岡公一郎, 天野裕久, 田口功, 杉村浩之, 村川裕二: 陰性T波からみた急性肺塞栓症の経時的変化. 第28回日本心電学会学術集会, 福岡, 平成23年9月18-22日.
 34. 三輪陽介, 池田隆徳, 宮越睦, 星田京子, 柳澤亮爾, 石黒晴久, 塚田雄大, 阿部敦子, 米良尚晃, 柚須悟, 吉野秀朗: 心臓突然死予知のための新しい診断法 心筋梗塞後患者の心臓死予知における Heart Rate Deceleration Capacity の有用性 データベースからの後ろ向き解析による評価. 日本心電学会学術集会, 福岡, 平成23年9月18-22日.
 35. Yanagisawa R, Abe A, Miwa Y, Miyakoshi M, Yoshino H, Ikeda T: A Case of Breast Cancer with Chemotherapy-induced Arrhythmia and No Cardiac Dysfunction by Trastuzumab, a Highly Effective Anticancer Agent. 4th Asia-Pacific Heart Rhythm Society & 26th Annual Scientific Session of the Japanese Heart Rhythm Society, Fukuoka, Sep. 18, 2011.
 36. Kimura G, Miwa Y, Hoshida K, Taguchi H, Miyakoshi M, Kataoka M, Mera H, Yusu S, Sato T, Sato T, Yoshino H, Ikeda T: Assessment of Relationship between Heart Rate Turbulence Parameters and Hemodynamic Indices in Patients with Pulmonary Hypertension. 4th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. Yokohama, Sep. 19, 2011.
 37. Miyakoshi M, Miwa Y, Hoshida K, Yanagisawa R, Ishiguro H, Tsukada T, Mera H, Yusu S, Sato T, Nishiyama K, Shiokawa Y, Yoshino Y, Ikeda T: Evaluation of Risk Factors in Elderly Patients with Cerebral Embolism due to Nonvalvular Atrial Fibrillation. The 4th Asia Pacific Heart Rhythm Society, Fukuoka, Sep. 19, 2011.
 38. Ikeda T, Abe A, Miwa Y: Noninvasive Risk Stratification for Sudden Death in Patients with Asymptomatic Brugada-Type Electrocardiograms. Symposium. 4th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. Yokohama, Sep. 20, 2011.
 39. Ikeda T, Abe A, Miwa Y: Risk Stratification and Pharmacological Management in Patients with Idiopathic Ventricular Fibrillation. Satellite Symposium. 4th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. Yokohama, Sep. 20, 2011.
 40. Sato H, Miwa Y, Hoshida K, Abe A, Yusu S, Kishino T, Yoshino H, Watanabe T, Ikeda T: No Circadian Changes of Heart Rate Turbulence Parameters in Patients with Myocardial Infarction. 4th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. Yokohama, 2011. Sep. 20, 2011.
 41. Uesugi Y, Miwa Y, Miyakoshi M, Hoshida K, Tsukada T, Ishiguro H, Abe A, Mera H, Yusu S, Sato T, Ikeda T, Yoshino H: Effects of Age and Gender on Heart Rate Turbulence in Healthy Population. 4th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. Yokohama. Sep. 20, 2011.
 42. Ikeda T, Miwa Y, Hoshida K, Abe A: An Overview of Current Strategies of Risk Assessment for Sudden Cardiac Death. Symposium. 4th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. Yokohama, Sep. 21, 2011.
 43. Yanagisawa R, Abe A, Miwa Y, Yoshino H, Ikeda T: A Case of Breast Cancer with Chemotherapy-Induced Arrhythmias and No Cardiac Dysfunction by Trastuzumab, a Highly Effective Anticancer Agent. 4th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. Yokohama, Sep. 22, 2011.
 44. 伊波巧, 片岡雅晴, 田口浩樹, 柳澤亮爾, 志村亘彦, 石黒晴久, 高昌秀安, 坂田好美, 佐藤徹, 吉野秀朗: 有意冠動脈狭窄を伴わない低左心機能症例に対する経時的心電図記録と心臓MRI検査を用いた冠攣縮の同定. 第59回日本心臓病学会, 神戸, 平成23年9月23-25日.
 45. 北村光信, 畑典武, 高山忠輝, 平山篤志, 小川雅史, 山科章, 米良尚晃, 吉野秀朗, 中村文隆, 清野精彦: 初診時トロポニンT陰性例における高感度トロポニンT遊出動態と急性心筋梗塞診断 HsTnT-iNET study. 日本心臓病学会学術集会, 神戸, 平成23年9月23-25日.
 46. 南島俊徳, 佐藤徹, 片岡雅晴, 柚須悟, 松下健

- 一、佐藤俊明、坂田好美、吉野秀朗、田村雄一、福田恵一、小川聡：肺高血圧症の重症度による治療後の血行動態変化について。日本心臓病学会学術集会，神戸，平成23年9月23-25日。
47. 米良尚晃，高昌秀安，合田あゆみ，伊波巧，武本和也，末岡順介，重田洋平，坂田好美，佐藤徹，吉野秀朗：救急外来での臨床症候による急性冠症候群の重症度判定。日本心臓病学会学術集会，神戸，平成23年9月23-25日。
48. 小出靖，青木修一，吉野秀朗：標準12誘導心電図から算出された activation-recovery interval dispersion は高齢者における左室拡張不全の診断指標となりうるか。日本心臓病学会学術集会，神戸，平成23年9月23-25日。
49. 高山守正，西裕太郎，山科章，櫻田春水，代田浩之，芝田貴裕，吉野秀朗，佐藤直樹，住吉徹哉，長尾建：急性冠症候群の治療戦略 医療・救急・行政の協力による地域緊急心血管診療システムの有用性 東京都CCUネットワークからの提言。日本心臓病学会学術集会，神戸，平成23年9月23-25日。
50. 佐藤徹：この症例をどう考えるか。第59回日本心臓病学会学術集会「Physical Examinationを学ぶ」，神戸，平成23年9月24日。
51. 塚田雄大，池田隆徳，米良尚晃，柚須悟，吉野秀朗，山口芳裕，米本直裕，野々木宏，木村剛，長尾建：Circadian Variation in Out-of-Hospital Cardiac Arrests in Japanese Patient Population: Analysis of a Nationwide Population-Based Registry. 第4回日本蘇生科学シンポジウム，神戸，平成23年9月25日。
52. 柳澤亮爾，片岡雅晴，田口浩樹，田村雄一，川上崇，福田恵一，吉野秀朗，佐藤徹：PDEV阻害剤の長期効果に関する報告。関東ハートセミナー，東京，平成23年9月30日。
53. 佐藤徹：肺高血圧症の最新の診断と治療。第5回東葛肺高血圧症研究会，柏，平成23年10月4日。
54. 佐藤徹：肺高血圧症の最新の診断と治療。PAHを考える会フォーラム in 東海，名古屋，平成23年10月8日。
55. 佐藤徹：循環器内科医が診る肺高血圧症。第15回日本心不全学会学術集会イブニング教育セミナー4，鹿児島，平成23年10月14日。
56. Soejima K: Anatomy of the heart for electrophysiologists. Cardiomyopathies: Structural abnormalities". Venice Arrhythmia 2011, Venice, Oct. 9-12, 2011.
57. Soejima K: VT/VF management in CRT patients. Venice Arrhythmia 2011 Symposium. Venice, Oct. 9-21, 2011.
58. 副島京子：ICD患者のQOLの改善のために。第3回東京ICD患者，家族の講演会・こころの会，東京，平成23年10月16日。
59. 副島京子：学問のすすめ。日本不整脈学会 カテーテル・アブレーション関連秋期大会2011，横浜，平成23年10月20日。
60. 副島京子：Epicardial Approach: Looking the Other Side and More. 日本不整脈学会 カテーテル・アブレーション関連秋期大会2011，横浜，平成23年10月20日。
61. 副島京子：心外膜アプローチ。日本不整脈学会 カテーテル・アブレーション関連秋期大会2011，横浜，平成23年10月20日。
62. 坂田好美：心エコーを用いた肺高血圧・右室機能の評価。アクテリオン研修会講演，東京，平成23年10月26日。
63. 副島京子：ICD患者の shock reduction. ME学会，小倉，平成23年10月29日。
64. 田口浩樹，片岡雅晴，川上崇¹，田村雄一¹，坂田好美，吉野秀朗，福田恵一¹，佐藤徹（¹慶応義塾大・循環器内科）：Eisenmenger症候群の治療反応性の検討。第48回日本臨床生理学会総会，東京，平成23年11月4日。
65. 佐藤徹：肺高血圧症を循環器，呼吸器より考える。第48回日本臨床生理学会総会アフターnoonシンポジウム，東京，平成23年11月4日。
66. 副島京子：ICD shock回避。Shock Reduction研究会，名古屋，平成23年11月5日。
67. 副島京子：アミオダロンの使用方法-米国での経験。Web conference，東京，平成23年11月11日。
68. Tsukada T, Ikeda T, Mera H, Yoshino H, Matsuda T, Yamaguchi Y, Yonemoto N, Nonogi H, Kimura T, Nagao K: Circadian Variation in Out-of-Hospital Cardiac Arrests in a Nationwide Japanese Patient Population: A Difference Between Survivors and Nonsurvivors. American Heart Association 2011: Resuscitation Science Symposium. Orland, Nov. 12, 2011.
69. 佐藤徹：肺高血圧症の最新の診断と治療。横浜内科学会循環器研究会，横浜，平成23年11月22日。
70. 副島京子：心室性頻拍治療の最前線。仙台不整脈フォーラム，仙台，平成23年11月25日。
71. Miwa Y, Ikeda T, Miyakoshi M, Hoshida K, Tsukada T, Abe A, Mera H, Sato T, Yusu S, Yoshino H: Risk Stratification for Sudden Cardiac Death and Serious Arrhythmic Events Using Heart Rate Turbulence and Nonsustained Ventricular Tachycardia from 24-Hour Holter Electrocardiogram in Patients With Impaired Left Ventricular Function. American Heart Association Scientific Sessions 2011, Orland, Nov. 26, 2011.
72. 伊波巧，片岡雅晴，志村亘彦，石黒晴久，高昌秀安，米良尚晃，坂田好美，佐藤徹，吉野秀朗：New strategy of medical therapy to left ventricular dysfunction without significant coronary Stenosis. オータム循環器カンファレンス，東京，平成23年11月26日。

73. 副島京子: 心室頻拍の治療方法. 名古屋リズムコントロール研究会, 名古屋, 平成 23 年 11 月 30 日.
74. 副島京子: 心室頻拍の治療方法. New Horizons for HF 講演, 大阪, 平成 23 年 12 月 3 日.
75. 坪宏一, 田中啓治, 小山信彌, 桃原哲也, 吉野秀朗, 長尾建, 佐藤直樹, 高山守正, 東京都 CCU ネットワーク学術委員会. 東京都 CCU ネットワークにおける大動脈疾患の移送の遅延に関する検討. CCU 研究会, 東京, 平成 23 年 12 月 3 日.
76. 米良尚晃, 高昌秀安, 南島俊徳, 武本和也, 西間木彩子, 池田隆徳, 坂田好美, 佐藤徹, 松田剛明, 山口芳裕, 吉野秀朗冠疾患における連携 トリアージとピットフォール 症状からみる ACS 患者の臨床像と重症度 杏林大学病院 1・2 次 3 次救急外来の検討. CCU 研究会, 東京, 平成 23 年 12 月 3 日.
77. 副島京子: 心室性不整脈治療の最前線. 熊本大学不整脈研究会, 熊本, 平成 23 年 12 月 5 日.
78. 佐藤徹: 聴診の基本中の基本. 第 1 回東京 Physical Exam 講習会 “徹底的” に循環器所見, 東京, 平成 23 年 12 月 11 日.
79. 米良尚晃, 柚須悟, 高昌秀安, 南島俊徳, 志村亘彦, 星田京子, 柳澤亮爾, 木村郷, 佐藤俊明, 松下健一, 坂田好美, 佐藤徹, 吉野秀朗冠疾患患者における心臓突然死 急性冠症候群に合併する難治性心室頻拍・心室細動に対する静注用 III 群抗不整脈薬の臨床効果. 第 25 回日本冠疾患学会学術集会, 大阪, 平成 23 年 12 月 16-17 日.
80. Soejima K: Catheter ablation of VT. Tohoku University Arrhythmia Symposium, Sendai, Dec. 2011.
81. Soejima K: Update of Lethal Arrhythmia Therapy. Kumamoto University Cardiology Forum, Kumamoto, Dec. 2011.
82. Soejima K: Wrap up session. New Horizon in Heart Failure, Osaka, Dec. 2011.
83. 坂田好美: 循環器医が語る糖尿病治療—心血管イベント発症阻止を見据えて—. 東京. 平成 24 年 1 月 19 日.
84. 佐藤徹: 心疾患の視診, 触診, 聴診. 第 39 回無侵襲心臓検査法研究会, 東京, 平成 24 年 1 月 21 日.
85. 副島京子: Future of VT therapy. 仙台不整脈シンポジウム, 熊本, 平成 24 年 1 月 28 日.
86. 坂田好美: 高血圧が引き起こす拡張機能障害・拡張不全の診断と治療. 高血圧治療テーマパーク～ARB が果たす役割～, 武蔵野, 平成 24 年 1 月 30 日.
87. 副島京子: 心室頻拍治療の将来の展望. 新潟不整脈シンポジウム, 新潟, 平成 24 年 2 月 4 日.
88. 川野洋介, 重田洋平, 伊波巧, 柚須悟, 松下健一, 佐藤俊明, 坂田好美, 佐藤徹, 吉野秀朗, 有村義宏: 肺動脈性肺高血圧症で発症し, 後に ANCA 関連血管炎と診断された 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 平成 24 年 2 月 4 日.
89. 副島京子: 心外膜アプローチ. 沼津不整脈研究会, 沼津, 平成 24 年 2 月 8 日.
90. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 沖縄肺高血圧症セミナー 2012, 那覇, 平成 24 年 2 月 10 日.
91. 副島京子: 心室頻拍に対するアミオダロン治療. 愛知アミオダロン研究会, 愛知, 平成 24 年 2 月 10 日.
92. 副島京子: デバイス患者のメンタルヘルスケアの現状と対処. 第 4 回埋込みデバイス関連冬期大会, 北九州, 平成 24 年 2 月 11 日.
93. 柚須悟, 米良尚晃, 塚田雄大, 星田京子, 宮越睦, 三輪陽介, 佐藤俊明, 副島京子, 吉野秀朗, 池田隆徳¹ (¹東邦大学医療センター大森病院) 徐脈性不整脈に対する右室中位中隔ペーシングの有用性: 長期フォローによる心房性頻脈性不整脈に対しての抑制効果. 第 4 回埋込みデバイス関連冬期大会, 北九州, 平成 24 年 2 月 11 日.
94. 佐藤俊明: 携帯型・ループ式・埋込み型イベントレコーダーを用いた不整脈治療. 第 4 回埋込みデバイス関連冬期大会, 北九州, 平成 24 年 2 月 12 日.
95. 坂田好美: 冠動脈疾患における心筋ダメージを診る③心エコー. シンポジウム「冠動脈イメージング最前線」. 第 31 回日本画像医学会, 東京, 平成 24 年 2 月 17 日.
96. 副島京子: 心室性不整脈のカテーテルアブレーション. 中国不整脈研究会, 広島, 平成 24 年 2 月 18 日.
97. 副島京子: ICD 治療の潮流～VT Storm 治療と Shock Reduction～. 日本循環器看護学会, 府中, 平成 24 年 2 月 25 日.
98. 前田明子: ICD 植込み患者の看護支援の実際. 日本循環器看護学会教育セミナー講演. 府中, 平成 24 年 2 月 25 日.
99. 副島京子: 心室性不整脈の治療戦略. 心疾患フォーラム, 奈良, 平成 24 年 3 月 10 日.
100. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 府中医師会, 府中, 平成 24 年 3 月 12 日.
101. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 西東京医師会, 西東京, 平成 24 年 3 月 13 日.
102. Sakata K, Yoshikawa T, Maekawa Y, Isogai T, Ueda T, Konishi T, Nagao K, Yamamoto T, Murakami T, Takayama T: Tokyo CCU network Scientific Committee, Tokyo. Clinical and Echocardiographic Evaluation of Cardiac Dysfunction in Patients with Takotsubo Cardiomyopathy.-Results From Tokyo CCU Network Scientific Committee-. The 76th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 16,

- 2012.
103. Yoshikawa T, Mahara K, Maekawa Y, Ueda T, Isogai T, Konishi Y, Sakata K, Nagao K, Yamamoto T, Takayama T: Stress Cardiomyopathy in the Tokyo Urban District in Japan. The 76th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 16, 2012.
 104. Miwa Y, Ikeda T, Miyakoshi M, Hoshida K, Tsukada T, Yusu S, Sato T and Yoshino H: Combination of Heart Rate Turbulence and Nonsustained Ventricular Tachycardia Facilitates Predictive Power for Identifying Patients at Risk. The 76th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 16, 2012.
 105. 片岡雅晴, 伊波巧, 志村信人, 林田健太郎, 川上崇史, 田村雄一, 吉野秀朗, 福田恵一, 佐藤 徹 : Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty is Useful for Treatment of Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension 1 . 第76回日本循環器学会学術集会 シンポジウム肺高血圧症治療の最前線, 福岡, 平成23年3月16日.
 106. Hayashida K, Lefevre T, Chevalier B, Romano M, Garot P, Watanabe Y, Bouvier E, Cormier B, Morice M: Impact of CT-guided Valve Sizing on Post-procedural Aortic Regurgitation in Transcatheter Aortic Valve Implantation. Valvular Heart Disease/ Pericarditis/ Cardiac Tumor1, The 76th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 16, 2012.
 107. Sato T, Soejima K, Jinzaki M, Yamada M, Kuribayashi S, Nishiyama N, Fukumoto K, Aizawa Y, Takatsuki S, Fukuda K: Anatomy of Coronary Sinus Ostium Visualized by the Novel Post-processing Image Generated by the Multidetector-row Computed Tomography, The 76th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 16, 2012.
 108. Miwa Y, Ikeda T, Hoshida K, Miyakoshi M, Sato T, Yoshino H: Combination of Heart Rate Turbulence and Nonsustained Ventricular Tachycardia Facilitates Predictive Power for Identifying Patients at Risk. The 76th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 16, 2012.
 109. Shigeta Y, Mera H, Yusu S, Kohsho H, Minamishima T, Shimura, Hoshida K, Yanagisawa R, Kimura G, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Ventricular Tachycardia/Ventricular Fibrillation on Arrival at Hospital in Elderly Patients. The 76th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 16, 2012.
 110. Taguchi H, Kataoka M, Kawakami T¹, Tamura Y¹, Sakata K, Yoshino H, Fukuda K^{*}, Satoh T (¹Cardiology, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan): Long-term therapeutic efficacy of oral vasodilators for Eisenmenger syndrome. The 76th annual scientific meeting of the Japanese circulation society, Fukuoka, Mar.16, 2012.
 111. Fukuda S, Watanabe H, Daimon M, Abe Y, Hirashiki A, Hirata K, Ito H, Iwai-Takano M, Iwakura K, Izumi C, Hidaka T, Yuasa T, Murata K, Nakatani S, Negishi K, Nishigami K, Nishikage T, Ota T, Hayashida A, Sakata K, Tanaka N, Yamada S, Yamamoto K, Yoshikawa J: Normal Values of Three-dimensional Echocardiographic Parameters in Healthy Japanese Population - The JAMP-3D Study-. The 76th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society. Fukuoka. Mar. 17, 2012.
 112. 伊波巧, 片岡雅晴, 志村亘彦, 柳澤亮爾, 田口浩樹, 石黒晴久, 高昌秀安, 林田健太郎, 川上崇¹, 田村雄一¹, 福田恵一¹, 佐藤徹, 吉野秀朗 (¹慶応大・医・循環器内科) : Reduction of reperfusion pulmonary edema induced after percutaneous transluminal pulmonary angioplasty with slow hemodynamic improvement. 第76回日本循環器学会総会・学術集会, 福岡, 平成24年3月17日.
 113. Inami T, Kataoka M, Shimura N, Ishiguro H, Hayashida K, Kawakami T¹, Tamura Y¹, Fukuda K¹, Satoh T, Yoshino H (¹ cardiology, Keio university school of medicine): Predictions of reperfusion pulmonary edema in percutaneous transluminal pulmonary angioplasty with chronic thromboembolic pulmonary hypertension. The 76th annual scientific meetings of Japanese circulation society; future research session, Fukuoka, Mar. 17, 2012.
 114. Kohshoh H, Mera H, Shigeta Y, Sueoka J, Takemoto K, Inami T, Gouda A, Satoh Toru, Yoshino H: Hyperacute Clinical Course of Stanford Type A Acute Aortic Dissection . Fukuoka, Mar. 17, 2012.
 115. Maekawa Y, Yoshikawa T, Ueda T, Isogai T, Konishi Y, Sakata K, Nagao K, Yamamoto T, Takayama M: Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo. Comparison of Outcomes in Patients Aged ≤ 60 Years Versus >60 Years with Takotsubo Cardiomyopathy. The 76th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 17, 2012.
 116. Minamishima T, Sakata K, Sato K, Matsushita K, Takemoto K, Satoh T, Yoshino H: Usefulness of Right Ventricular Tissue Doppler Imaging for Diagnosis of Right Ventricular Infarction. 16th Asian-Pacific Congress on Doppler and

- Echocardiography, Fukuoka, Mar. 17. 2012.
117. Toyao K, Satoh T, Kataoka M, Matsushita K, Sato T, Sakata K, Yoshino H, Tamura Y¹, Fukuda K¹ (¹Division of cardiology, Keio university school of medicine): Pulmonary Artery Vasodilatory Response in Patients with Pulmonary Hypertention. 第76回日本循環器学会, 福岡, 平成24年3月17日.
118. Hoshida K, Ikeda T, Miwa Y, Miyakoshi M, Tsukada T, Mera H, Yusu S, Sato T, Yoshino H: T-Wave Alternans Using the Modified-Moving-Average Method Measured from Holter Electrocardiograms during Daily Activity Can Predict Life-Threatening Events Following Myocardial Infarction. 第76回日本循環器学会総会・学術集会, 福岡, 平成24年3月17日.
119. Sakata K, Sato, Matsushita K, Minamishima T, Takemoto K, Taguchi H, Kataoka M, Sueoka J, Kikuchi H, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of Right Atrial Function Using Right Atrial Strain by Speckle Tracking Echocardiography in Patients with Pulmonary Artery Hypertension. The 76th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 18, 2012.
120. Hoshida K, Ikeda T, Miwa Y, Miyakoshi M, Tsukada T, Mera H, Yusu S, Sato T, Soejima K, Yoshino H: T-Wave Alternans Using the Modified-Moving-Average Method Measured from Holter Electrocardiograms during Daily Activity Can Predict Life-Threatening Events Following Myocardial Infarction. The 76th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 18, 2012.
121. Murakami T, Yoshikawa T, Maekawa Y, Ueda T, Isogai T, Konishi Y, Sakata K, Nagao K, Yamamoto T, Takayama T: Clinical Characteristics of Takotsubo Cardiomyopathy: Multi-Center Registry from Tokyo CCU Network. The 76th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 18. 2012.
122. Nishimaki S, Kataoka M, Aimi Y, Yoshino H, Gamou S, Satoh T: Gene Mutations and Exonic Deletions of Bone Morphogenetic Protein Type II Receptor in Japanese Patients with Pulmonary Arterial Hypertention. The 76th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 18, 2012.
123. Takeuchi M, Takizaku K, Izumi C, Yuda S, Sakata K, Otsuji Y, Nakatani S: Japanese Ultrasound Speckle Tracking of the Left Ventricle (JUSTICE): Mid-term Results. The 76th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka, Mar. 18. 2012.
124. Soejima K: Stricter guideline and/ or stricter adherence to the guidelines. New Horizon in Heart Failure Symposium, Brussels, Mar. 30-31, 2012.
- 論文
1. 吉野秀朗: 動脈硬化と食生活(解説). 杏林医学会雑誌 42: 47-48, 2011.
 2. 吉野秀朗: 磯邊潮. 看護のコツがわかる! 狭心症・急性心筋梗塞(AMI)のキュアとケア. 救急搬送時のキュアとケア. ハートナーシング 24: 1102-1109, 2011.
 3. 吉野秀朗: 内科疾患インストラクションガイド. 何をどう説明するか: 循環器疾患 不安定狭心症. *Medicina* 48: 53-59, 2011.
 4. 吉野秀朗: ICTが医療・福祉施設環境を変える. これからの医療におけるICT化: 医師サイドからの視点. 病院設備 53: 20-23, 2011.
 5. 吉野秀朗: 大動脈疾患の最新知見. 総論. 最新医学 66: 1567-1570, 2011.
 6. 吉野秀朗: 安達秀雄, 桃原哲也. 大動脈疾患の最新知見 急性大動脈解離・大動脈瘤の診療の落とし穴, 今後の課題. 最新医学 66: 1552-1566, 2011.
 7. 吉野秀朗: 土田論文に対する Editorial Comment. 心臓 43: 482, 2011.
 8. Yoshino H: Analysis of the biomechanical stress of hemorrhagic and non-hemorrhagic plaques. *Circ J.* 75(4): 783, Epub 2011.
 9. Yoshino H: Analysis of the biomechanical stress of hemorrhagic and non-hemorrhagic plaques. *Circ J.* 75(4): 783, Epub 2011
 10. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症. *THE LUNG* 19(4):28-34, 2011.
 11. 佐藤徹: 右心不全の診断. *呼吸器* 2012:126-128, 2012.
 12. 佐藤徹: 呼吸器疾患・肺高血圧と心不全(右心不全). *Medical Practice* 29(2): 279-290, 2012.
 13. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の薬物療法. *Heart View 別冊* 16(3):87-91, 2012.
 14. 佐藤徹: ESC/ERS 肺高血圧症ガイドラインの解説. *医学のあゆみ* 240(1):5-12, 2012.
 15. 佐藤徹: 肺高血圧症の新しい展開「序文」. *呼吸と循環* 60(1):9, 2012.
 16. 佐藤徹, 柳澤亮爾, 片岡雅晴: PDE5阻害剤の長期効果に関する報告. *呼吸と循環* 60(1): 11-17, 2012.
 17. 佐藤徹: イマチニブー肺動脈性肺高血圧症治療薬. *分子呼吸器病* 16(1):109-110, 2012.
 18. 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の薬物療法. *東灘連* 6400:2-7, 2012.
 19. 佐藤徹: 肺高血圧症の治療薬. *呼吸器内科* 21(2):169-172, 2012.

20. Sakata K, Furuya M, Mizuno Y, Sato K, Minamishima T, Takemoto K, Taguchi H, Soga Y, Yoshino H: Bioprosthetic Tricuspid Valve Dysfunction Evaluated by Real-time Three-dimensional Transesophageal Echocardiography. *J Echocardiogr.* 9: 158-160, 2012.
21. 坂田好美: 「急性心筋梗塞発症後早期に心筋浸潤非ホジキンリンパ腫を診断し, 化学療法で寛解が得られた1例」に対する Editorial Comment. *心臓* :43, 2011.
22. Dukkupati SR, d' Avila A, Soejima K, Bala R, Inada K, Singh S, Stevenson WG, Marchlincki FE, Reddy VY: Long-term outcomes of combined epicardial and endocardial ablation of monomorphic ventricular tachycardia related to hypertrophic cardiomyopathy. *Circulation Arrhythm and Electrophysiology* 4(2): 185-194, 2011.
23. 阿部敦子, 池田隆徳, 塚田雄大, 石黒晴久, 星田京子, 柳澤亮爾, 宮越睦, 三輪陽介, 米良尚晃, 柚須悟, 吉野秀朗: 失神発作を有する患者のJ波の頻度に関する疫学調査. *心電図* 31-2. S2-60-S2-63, 2011.
24. 片岡雅晴, 佐藤徹: ボセンタン内服加療が長期にわたって有効な肺高血圧症の1症例. *Modern Physician.* 29:10-11, 2011.
25. 三輪陽介, 池田隆徳, 宮越睦, 星田京子, 柳沢亮爾, 阿部敦子, 石黒晴久, 塚田雄大, 米良尚晃, 柚須悟, 吉野秀朗: 微小電位研究の新たな展開 拡張型心筋症患者におけるリスク層別化指標としての heart rate turbulence の有用性. *心臓* 43(1): 23-26, 2011.
26. 三輪陽介, 池田隆徳, 宮越睦, 星田京子, 柳澤亮爾, 石黒晴久, 塚田雄大, 阿部敦子, 米良尚晃, 柚須悟, 吉野秀朗: 心筋梗塞後患者の心臓死予知における Heart Rate Deceleration Capacity の有用性. データベースからの後ろ向き解析による評価. *心電図* 31(S-1): 28-29. 2011.
27. 三輪陽介: 自律神経機能と突然死. 特集アスリートに対する突然死予防対策. *臨床スポーツ医学* 29(2): 195-202. 2012.
28. Miwa Y, Miyakoshi M, Hoshida K, Yanagisawa R, Abe A, Tsukada T, Ishiguro H, Mera H, Yusu S, Yoshino H, Ikeda T: Heart Rate Turbulence Can Predict Cardiac Mortality Following Myocardial Infarction in Patients With Diabetes Mellitus. *J Cardiovasc Electrophysiol* 22(10): 1135-1140, 2011.
29. 星田京子, 池田隆徳, 柳沢亮爾, 三輪陽介, 宮越睦, 阿部敦子, 石黒晴久, 塚田雄大, 米良尚晃, 柚須悟, 吉野秀朗, 後藤貴文, 磯部律元: フクダ電子社製心電計を用いての T-wave alternans 測定の試み 既存の Cambridge Heart 社製装置との比較 (原著論文). *心臓* 43(1): 12-15, 2011.
30. 前田明子: ペースメーカー・植込み型除細動器患者のケアと精神的支援. *Heart1*(1): 145-154. 2011.
31. 宮越睦, 池田隆徳, 星田京子, 柳澤亮爾, 三輪陽介, 石黒晴久, 塚田雄大, 阿部敦子, 米良尚晃, 柚須悟, 吉野秀朗, 西山和利, 塩川芳昭: 脳卒中センターに搬送された非弁膜症性心房細動由来の心原性脳塞栓患者における危険因子からみた CHADS2 スコアの成因・意義について. *Pharma Medica* 29: 189-193, 2011.
32. 米良尚晃, 池田隆徳, 星田京子, 柳澤亮爾, 宮越睦, 三輪陽介, 阿部敦子, 石黒晴久, 塚田雄大, 柚須悟, 吉野秀朗, 山口芳裕: 自動体外式除細動器 (AED) が使用され集中治療を受けた連続 26 例の予後と蘇生後脳症の評価. *心臓* 43(2): 92-96, 2011.
33. 中村健太郎, 高野奈実, 村田将光, 笠岡祐二, 西村健二, 中川貴史, 瀬崎和典, 鈴木文男, 村川裕二, 速水紀幸, 池田隆徳, 吉野秀朗: 右室流出路起源心室頻拍と鑑別を要したヒス束近傍の異常自動能による心室頻拍を疑われた1例. *心臓* 42(4): 123-128, (追加) 2010.
34. 西間木彩子, 三輪陽介, 鈴木亮, 桑原彩子, 横山健一, 佐藤範英, 高山信之, 坂田好美, 池田隆徳, 佐藤徹, 吉野秀朗: 特発性好酸球增多症候群に合併した無症候性レフレル心内膜炎の1例. *心臓 MRI* を用いた治療効果の検討. *心臓* 43(12): 1550 -1554, 2011.
35. 塚田雄大, 池田隆徳: Two in the Hands is Better Than One in the Bush: Systems of Care for Cardiac Arrest, STEMI and Trauma ReSS Report 2011 6: 43-46, 2012.
36. 塚田雄大, 松田剛明: 救急医療における ATT (Advanced Triage Team) の役割. *総合臨床* 60(12): 2539-2540, 2011.
37. 柳澤亮爾, 阿部敦子, 星田京子, 三輪陽介, 宮越睦, 石黒晴久, 塚田雄大, 米良尚晃, 柚須悟, 吉野秀朗, 伊美健太郎, 井本滋, 池田隆徳: 乳癌に対する化学療法中に正常心機能でありながら electrical storm を認めた1例. *心臓* 43(3): 111-116, 2011.
38. 志村亘彦, 大口真寿, 池田隆徳, 吉野秀朗: ST 上昇型心筋梗塞患者において経皮的冠動脈形成術に先行して投与したアミオダロン静注薬の効果. *Progress in Medicine* 31(1):750-753, 2011.
39. Ikeda T, Miwa Y, Abe A, Nakazawa K: Usefulness of heart rate turbulence for predicting cardiac events in patients with nonischemic dilated cardiomyopathy. *J Electrocardiol.* 44(6): 669-672, 2011.
40. Taniai S, Nagai W, Shimizu H, Masuda Y, Nitatori T, Yoshino H: Rupture of pseudoaneurysm of the pancreaticoduodenal arcade after acute aortic dissection in a patient on anticoagulant therapy. *J*

- Cardiol Cases. 3(2): e103-e105, 2011.
41. Chinushi M, Iijima K, Furushima H, Izumi D, Sato A, Yagihara N, Hasegawa K, Watanabe H, Soejima K, Aizawa Y: Suppression of storms of ventricular tachycardia by epicardial ablation of isolated delayed potential in noncompaction cardiomyopathy. *Pacing Clin Electrophysiol* ;epub ahead, 2011.
 42. Nakano E, Harada T, Aonuma K, Soejima K, Wakimoto H, Matsumoto N, Miyake F: Identification of unusual reentry circuit sites of nonischemic ventricular outflow tract tachycardia. *J Cardiovasc Electrophysiol* 23: 179-83, 2011.
 43. Togashi I, Sato T, Soejima K, Takatsuki S, Miyoshi S, Fukumoto K, Nishiyama N, Suzuki M, Hori S, Ogawa S, Fukuda K: Sudden cardiac arrest and syncope triggered by coronary spasm. *Int J Cardiol* 2011;Jun epub ahead of print.
 44. Ueda A, Fukamizu S, Soejima K, Tejima T, Nishizaki M, Nitta T, Kobayashi Y, Hiraoka M, Sakurada H: Clinical and electrophysiological characteristics in patients with sustained monomorphic reentrant ventricular tachycardia associated with dilated-phase hypertrophic cardiomyopathy. *Europac e14*: 734-740. 2012.
 45. Kunishima T, Akashi YJ, Miyake F, Aoyama N, Kohshoh H, Yoshino H, Seki K, Matsumoto K, Furukawa T, Yoshioka K, Amano H, Taguchi I, Sugimura H, Murakawa Y: The T wave inversion score is useful for evaluating the time-course of acute pulmonary embolism. *Circ J*. 75(5): 1222-6, 2011.
- 著書**
1. 吉野秀朗: I 術前評価. 術前評価としての ACC/AHA, ESC, 日本循環器学会ガイドラインより. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p14-24.
 2. 吉野秀朗: II 術前管理. 術前にチェックしなければならない循環器疾患. 虚血性心疾患 (狭心症・心筋梗塞). 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p 25-35.
 3. 吉野秀朗: II 術前管理. 術前にチェックしなければならない循環器疾患. 大動脈・末梢血管の異常, 頸動脈狭窄. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p 87-93.
 4. 吉野秀朗: II 術前管理. 手術を行うにあたって. 緊急手術の場合の対応. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p126-129.
 5. 吉野秀朗: II 術前管理. 手術を行うにあたって. 循環器内科にどのように依頼するか. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編, 東京, メジカルビュー社, 2011. p 130-134.
 6. 吉野秀朗: II 術前管理. 各種循環器検査の特徴. MRI, CT. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編, 東京, メジカルビュー社, 2011. p165-169.
 7. 吉野秀朗: II 術前管理. 術前内服薬の中止のポイントと術中の注意. 抗狭心症薬. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p188-190.
 8. 吉野秀朗: II 術前管理. 術前内服薬の中止のポイントと術中の注意. 周術期の高血圧管理と高血圧薬. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p198-200.
 9. 吉野秀朗: II 術前管理. 杏林大学方式: 非心臓手術の術前管理. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p201-206.
 10. 吉野秀朗: III 術中管理. 術中の狭心症・心筋梗塞. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編, 東京, メジカルビュー社, 2011. p 223-225.
 11. 佐藤徹: 原発性肺高血圧症. 呼吸器研修ノート. 診断と治療社. 2011年. p 663-771
 12. 佐藤徹: 肺塞栓症・深部静脈血栓. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p 79-86.
 13. 佐藤徹: 先天性心疾患, 肺高血圧患者. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p94-100.
 14. 佐藤徹: 術前診療上 (身体所見) の注意点. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p121-125.
 15. 佐藤徹: 診察法 (身体所見のとり方). 肺高血圧症診療マニュアル. 伊藤浩, 松原広己編. 東京. 南江堂, 2012. p 100-101.
 16. 坂田好美;【右心系に迫る】肺動脈圧測定において右心房圧・下大静脈をいかに考慮すべきか. 月刊心エコー. 東京. 文光堂. 2012年5月号, 2012. p132-145.
 17. 坂田好美: 肺動脈圧推定と心エコー図法. 最新の心エコー図法. 月刊循環器 (CIRCULATION) 2-1. 医学書院. 2, p112-122. 2012.
 18. 坂田好美: 脳・心血管系イベントを抑制するための New Diabetes Strategy. 東京, ライフサイエンス出版, 2012. p457-461.
 19. 坂田好美: 術前管理. 術前にチェックしなければならない循環器疾患. 弁膜疾患. 外科医のための循環器必須知識. 東京. メジカルビュー社. 2012.
 20. 坂田好美: 術前管理. 術前にチェックしなければならない循環器疾患. 心筋疾患. 外科医のための循環器必須知識. 東京. メジカルビュー社. 2012.
 21. 坂田好美: 心エコー検査. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー

社, 2012, p144-151.

22. 副島京子: 心室頻拍 epicardial approach. 3D mapping アブレーションにどう活用するか. 山根禎一編. 東京, メジカルビュー社, 2012, p210-215.
23. 副島京子: V ささまざまな遠隔モニタリングの運用方法: 7. 海外での運用方法. 遠モニタリング実践マニュアル 埋込み型デバイス活用術, 西伸洋編, 東京, 文光堂, 2012, p167-169.
24. 副島京子: 器質的心疾患に伴う VT に対するアブレーション治療の進歩と適応の拡大. 月刊循環器 CIRCULATION 4月号, 三田村秀雄編. 東京, 医学出版, 2012, p70-76.
25. Soejima K: Advanced catheter three-dimensional mapping systems. Catheter ablation of cardiac arrhythmias. Elsevier, Philadelphia, Stephen Huang and Mark A. Wood ed., 2011, p127-136.
26. 佐藤俊明: 第8回心室頻拍を合併した STEMI 再発例に対する治療, レジデント4月号. 田村聡美編. 東京, 医学出版, 2012, p118-127.
27. 三輪陽介: T wave alternans. ステップアップのための不整脈診療ガイドブック. 池田隆徳編. 東京, メジカルビュー社, 2011.

その他

1. 三輪陽介: 第4回日本蘇生科学シンポジウム JRC-Award; 優秀演題賞, 平成23年9月25日.
2. 三輪陽介: Heart rate turbulence can predict cardiac mortality following myocardial infarction in patients with diabetes mellitus. 平成23年10月発表.
3. 三輪陽介: Usefulness of heart rate turbulence for predicting cardiac events in patients with nonischemic dilated cardiomyopathy. 平成23年11月発表.
4. 三輪陽介: 特発性好酸球増多症候群に合併した無症候性レフレル心内膜炎の1例: 心臓MRIを用いた治療効果の検討. 平成24年1月発表.
5. Yanagisawa R, Kataoka M, Taguchi H, Kawakami T¹, Tamura Y¹, Fukuda K¹, Yoshino H, Satoh T. ¹(Keio University of Medicine, Cardiology): Impact of first-line sildenafil monotreatment for pulmonary arterial hypertension. 平成24年2月発表.
6. Taguchi H, Kataoka M, Yanagisawa R, Kawakami T¹, Tamura Y¹, Fukuda K¹, Yoshino H, Satoh T. ¹(Keio University of Medicine, Cardiology): Platelet level as a new prognostic factor for idiopathic pulmonary arterial hypertension in the era of combination therapy. 平成24年3月発表.
7. Yamada Y, Okuda S, Kataoka M, Tanimoto A, Tamura Y¹, Abe T¹, Okamura T¹, Fukuda K¹, Satoh T, Kuribayashi S¹(Keio University of Medicine, Cardiology): Prognostic Value of Cardiac Magnetic Resonance Imaging for Idiopathic Pulmonary

Arterial Hypertension Before Initiating Intravenous Prostacyclin Therapy. 平成24年3月発表.

第二内科学教室 (血液内科)

口演

1. 高山信之: 急性白血病の治療—化学療法, 造血幹細胞移植の実際とその選択—. つばさフォーラム講演会, 平成23年6月19日.
2. Shikiba S, Satoh N, Kuwabara A, Momose E, Suzuki A, Miwa Y, Yoshino H, Takayama N: A case of CD20-positive peripheral T-cell lymphoma. 第73回日本血液学会学術集会, 名古屋, 平成23年10月15日.
3. 高山信之: 杏林大学における再生不良性貧血の治療成績. 多摩再生不良性貧血学術講演会, 立川, 平成23年9月2日.
4. 高山信之: 当院における多発性骨髄腫に対する造血幹細胞移植の治療成績. 第2回多摩骨髄腫研究会, 立川, 平成24年1月20日.

論文

1. 高山信之: 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) に対する除菌療法の今後の展望. *Helicobacter Research* 15: 29-33, 2011.

第三内科学教室 (消化器内科)

口演

1. 西川かおり: 腹部エコーマスター講座 胆道・膵臓・脾臓. アスリード, 東京, 平成23年4月17日.
2. 森秀明: ステップアップエコーセミナー「腹部エコーマスター講座」. アスリードセミナー. 東京, 平成23年4月17日.
3. 西川かおり: 検査技師に必要な臨床の知識—肝臓—. 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 平成23年度超音波部会セミナー, 東京, 平成23年4月23日.
4. 森秀明: 知っておきたい腹部超音波診断. 藤沢医師会消化器病医会, 藤沢, 平成23年4月27日.
5. Toki M, Yamaguchi Y, Nakamura K, Takahashi S: Utilization of the Critical Care Unit for Emergency Endoscopic Treatment at night or weekends improved the Mortality Rate for Patients with Non-variceal Upper Gastrointestinal Bleeding. *Chicago, May. 7, 2011.*
6. Nakamura M¹, Matsui H², Takahashi T¹, Murayama S Y², Takahashi S, Hibi T³, Tsuchimoto K¹(¹School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ. ²Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ. ³Department of Internal Medicine,

- Keio University): Hepatic and Pulmonary MALT Lymphoma Formation in *Helicobacter heilmannii*-infected Mice: Relation to Gastric Maltoma and Effects of Eradication. Digestive Disease Week 2011 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, Chicago, May 7, 2011.
7. Nakamura M¹, Matsui H², Takahashi T¹, Murayama S Y², Takahashi S, Hibi T³, Tsuchimoto K¹(¹School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ. ²Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ. ³Department of Internal Medicine, Keio University): MALT Lymphoma Stem Cells in *H. heilmannii*-infected Mice. Digestive Disease Week 2011 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, Chicago, May 7, 2011.
 8. Takahashi T¹, Matsui H², Takizawa A¹, Komatsu Y¹, Shinagawa K¹, Takahashi S, Hibi T³, Nakamura M¹, Tsuchimoto K¹(¹School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ. ²Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ. ³Department of Internal Medicine, Keio University): Molecular Mechanism of Gastric MALT Lymphoma Formation by *Helicobacter heilmannii* infection. Digestive Disease Week 2011 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, Chicago, May 7, 2011.
 9. Toki M, Yamaguchi Y, Nakamura K, Takahashi S; A pharmacokinetic-pharmacodynamic (PK-PD)-based treatment strategy with ceftriaxone (CTRX) for acute cholangitis that was proven to be effective in actual clinical practice, DDW2011 (AGA), Chicago, May. 8. 2011.
 10. Hayashida M, Imase K, Miura M, Saito D, Sakuraba A, Yamada Y, Koyama G, Takahashi S: Effect of Mosapride Citrate on the Examination of Capsule Endoscopy: A Prospective Double-Blind Cross-Over Study. Digestive Disease Week 2011 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, Chicago, May 10, 2011.
 11. 森秀明: 腹部領域の超音波診断—基本症例編. 東京都臨床検査技師会, 東京, 平成23年5月12日.
 12. 高橋信一 (ランチョンセミナー): 改めて考える 防御系薬剤. 第97回日本消化器病学会総会, 東京, 平成23年5月13日.
 13. 高橋信一, 田中昭文, 徳永健吾: *H. pylori* 診断・治療のガイドラインの臨床応用 (シンポジウム). 第97回日本消化器病学会総会, 東京, 平成23年5月14日.
 14. 高橋信一 (教育セミナー): *H. pylori* と胃がん検診. 第50回日本消化器がん検診学会総会, 東京, 平成23年5月22日.
 15. 西川かおり, 森秀明, 畠二郎¹, 榎田博史², 関根智紀³, 西田睦⁴, 長谷川雄一⁵, 藤井康友⁶, 本田伸行⁷, 宮本幸夫⁸, 山田博康⁹ (¹川崎医・医・検査診断学, ²近畿大学・医・消化器内科, ³国保旭中央病院・中央検査科, ⁴北海道大学病院・検査・輸血部/超音波センター, ⁵成田赤十字病院・超音波画像診断検査室, ⁶自治医科・医・臨床検査医学, ⁷寺元記念病院・画像診断センター, ⁸東京慈恵会医科・医・放射線医学講座, ⁹広島県立安芸津病院・消化器内科): 消化管診断基準小委員会からの報告—第2報—. 日本超音波医学会第84回学術集会, 東京, 平成23年5月27日.
 16. Takahashi S (招待講演): Extended indication for *H. pylori* eradication—present and future. The 8th Japan-Korea Joint Symposium on Helicobacter infection, Seoul, May 28, 2011.
 17. 森秀明: お昼の勉強会4. 腹部領域における2Dマトリックスアレイテクノロジーの使用経験と展望. 日本超音波医学会第84回学術集会, 東京, 平成23年5月27日.
 18. 森秀明: 特別演題企画12; 診療報酬点数表でなぜ超音波は画像診断ではないのか? 腹部領域からみた問題点と対策. 日本超音波医学会第84回学術集会, 東京, 平成23年5月27日.
 19. 川村直弘: 肝硬変の病態と栄養治療. 第2回肝臓栄養セミナー. 三鷹, 平成23年5月27日.
 20. 森秀明: 特別演題企画29; 技師の技量の精度管理. 指導検査士制度 (消化器領域) (仮称) 設立に向けて. 日本超音波医学会第84回学術集会, 東京, 平成23年5月29日.
 21. 本田普久, 森秀明, 西川かおり, 塚田幾太郎, 尾股佑, 關里和, 高橋信一, 岸野智則¹ (¹杏林・医・臨床検査医学): ARFI測定時の体位およびROIの設定深度の違いにおける測定値の検討. 日本超音波医学会第84回学術集会, 東京, 平成23年5月29日.
 22. 武田剛志¹, 小池幸宏¹, 成田明子¹, 安藤野須子¹, 藤原直人¹, 關里和, 瀬戸元子¹, 水野卓¹, 渡辺一宏¹, 川瀬建夫¹, 小池和彦² (¹関東中央病院・消化器内科, ²東京大・医・消化器内科): 高度進行肉腫肝転移に対するラジオ波焼灼療法. 第47回日本肝臓学会総会, 東京, 平成23年6月2-3日.
 23. 藤原直人¹, 小池幸宏¹, 武田剛志¹, 安藤野須子¹, 成田明子¹, 關里和, 川瀬建夫¹, 小池和彦² (¹関東中央病院・消化器内科, ²東京大・医・消化器内科): 高齢者肝癌患者に対するラジオ波焼灼療法. 第47回日本肝臓学会総会, 東京, 平成23年6月2-3日.
 24. 高橋信一: ピロリ菌と胃がん検診について. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 平成23年6月3日.
 25. 森秀明: 消化管診断に必要なドブラ検査の基礎と臨床. 第18回岡山消化管超音波懇話会, 岡山, 平成23年6月4日.

26. 川越圭, 土岐真朗, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 畑英行, 田部井弘一, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 山口康晴, 高橋信一, 阿部展次, 杉山政則, 仲村明恒: 内視鏡的に切除し得た有茎性十二指腸腺腫内癌の稀な1例, 第92回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2011年6月10日.
27. 田部井弘一, 三浦みき, 村山隆夫, 畑英行, 尾股佑, 塚田幾太郎, 本田普久, 林田真理, 松岡弘泰, 高橋信一: カプセル内視鏡を契機に診断しえた十二指腸動脈瘤破裂の1例, 第92回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2011年6月10日.
28. 田内優, 中村健二, 土岐真朗, 鈴木裕, 山口康晴, 阿部展次, 杉山政則, 高橋信一: 胆膵疾患におけるEUSガイド下ドレナージ術の工夫と短期成績, 第92回日本消化器内視鏡学会関東地方会シンポジウム1-12 2011年6月10日.
29. 川上浩平^{1,2}, 河合隆^{1,3}, 鈴木秀和^{1,4}, 伊藤慎芳^{1,5}, 徳永健吾^{1,6}, 大草敏史^{1,7}, 鈴木雅之^{1,8}, 西澤俊宏^{1,8}, 松久威史^{1,9}, 栗原直人^{1,10}, 永原章仁^{1,11}, 浅岡大介^{1,11}, 水野滋章^{1,12}, 加藤俊二^{1,13}, 峯徹哉^{1,14}, 鳥居明^{1,15}, 高橋信一^{1,6}, 榎信廣^{1,16}(¹東京HP研究会, ²東京医科大学・消化器内科, ³東京医科大学・内視鏡センター, ⁴慶應義塾大・消化器内科, ⁵四谷メディカルキューブ, ⁶杏林大・消化器内科, ⁷慈恵医科大・柏病院消化器肝臓内科, ⁸国立病院機構東京医療センター消化器科, ⁹日本医科大学・多摩永山病院消化器科, ¹⁰練馬総合病院外科, ¹¹順天堂大学消化器内科, ¹²日本大・医・肝臓消化器内科, ¹³日本医科大学・第一外科, ¹⁴東海大・医・消化器内科, ¹⁵鳥居内科クリニック, ¹⁶東京都立府中療育センター): 3剤療法による *Helicobacter pylori* 除菌率の経年的推移—東京都多施設における共同調査結果から—. 第17回日本ヘリコバクター学会, 富山, 平成23年6月24日.
30. 浅岡大介^{1,2}, 永原章仁^{1,2}, 伊藤慎芳^{1,3}, 水野滋章^{1,4}, 川上浩平^{1,5}, 河合隆^{1,5}, 徳永健吾^{1,6}, 高橋信一^{1,6}, 西澤俊宏^{1,7}, 鈴木雅之^{1,7}, 鈴木秀和^{1,8}, 榎信廣^{1,9}, 大草敏史^{1,10}, 栗原直人^{1,11}, 松久威史^{1,12}, 峯徹哉^{1,13}(¹東京Hp研究会, ²順天堂大・消化器内科, ³四谷メディカルキューブ, ⁴日大・医・消化器肝臓内科, ⁵東京医科大学・内視鏡センター, ⁶杏林大・第三内科, ⁷国立病院機構東京医療センター消化器内科, ⁸慶應義塾大・医・消化器内科, ⁹東京都立府中療育センター, ¹⁰東京慈恵会医科大・柏病院消化器肝臓内科, ¹¹練馬総合病院外科, ¹²日本医科大学・多摩永山病院消化器科, ¹³東海大・医・消化器内科): 東京都内多施設共同調査による *Helicobacter pylori* 二次除菌成績の検討. 第17回日本ヘリコバクター学会, 富山, 平成23年6月24日.
31. 永原章仁^{1,2}, 水野滋章^{1,3}, 松久威史^{1,4}, 徳永健吾^{1,5}, 伊藤慎芳^{1,6}, 鈴木雅之^{1,7}, 浅岡大介^{1,2}, 鈴木秀和^{1,8}, 西澤俊宏^{1,7}, 栗原直人^{1,9}, 加藤俊二^{1,10}, 竹内義明^{1,11}, 鳥居明^{1,12}, 大草敏史^{1,13}, 峯徹哉^{1,14}, 河合隆^{1,15}, 高橋信一^{1,5}, 榎信廣^{1,16}(¹東京HP研究会, ²順天堂大・消化器内科, ³日大・消化器肝臓内科, ⁴日本医大・多摩永山病院消化器科, ⁵杏林大・第三内科, ⁶四谷メディカルキューブ, ⁷東京医療センター消化器科, ⁸慶應大・消化器内科, ⁹練馬総合病院外科, ¹⁰日本医科大・第一外科, ¹¹昭和大・第二内科, ¹²鳥居内科クリニック, ¹³東京慈恵会医科大・柏病院消化器肝臓内科, ¹⁴東海大・消化器内科, ¹⁵東京医科大学内視鏡センター, ¹⁶東京都立府中療育センター): 除菌後10年以上経過後に診断された胃癌例の検討—東京都内多施設共同調査—. 第17回日本ヘリコバクター学会, 富山, 平成23年6月24日.
32. 徳永健吾^{1,2}, 伊藤慎芳^{1,3}, 松久威史^{1,4}, 水野滋章^{1,5}, 浅岡大介^{1,6}, 永原章仁^{1,6}, 鈴木秀和^{1,7}, 竹内義明^{1,8}, 加藤俊二^{1,9}, 栗原直人^{1,10}, 鈴木雅之^{1,11}, 西澤俊宏^{1,11}, 鳥居明^{1,12}, 川上浩平^{1,13}, 河合隆^{1,13}, 大草敏史^{1,14}, 峯徹哉^{1,15}, 榎信廣^{1,16}, 高橋信一^{1,2}(¹東京HP研究会, ²杏林大・医学部第三内科, ³四谷メディカルキューブ, ⁴日本医科大学・多摩永山病院消化器科, ⁵日大・医・消化器肝臓内科, ⁶順天堂大・消化器内科, ⁷慶應義塾大・医・消化器内科, ⁸昭和大・第二内科, ⁹日本医科大学・第一外科, ¹⁰練馬総合病院外科, ¹¹国立病院機構東京医療センター消化器科, ¹²鳥居内科クリニック, ¹³東京医科大学・内視鏡センター, ¹⁴東京慈恵会医科大・柏病院消化器内科, ¹⁵東海大・医・消化器内科, ¹⁶東京都立府中療育センター): キノロンを用いた三次除菌療法—東京都内多施設検討—. 第17回日本ヘリコバクター学会, 富山, 平成23年6月25日.
33. 森秀明: 教育講演II 消化器領域 最近の話題. 第36回日本超音波検査学会, つくば, 平成23年6月25日.
34. 川村直弘: 肝臓病と日常生活. 第5回肝臓病教室. 三鷹, 平成23年6月25日.
35. 高橋信一(市民公開講座): ピロリ菌ってなあ—に—. 第17回日本ヘリコバクター学会学術集会, 富山, 平成23年6月26日.
36. 徳永健吾, 田中昭文, 菅野朝, 高橋信一: レボフロキサシンを用いた *H. pylori* 三次除菌療法の試み. 東京UGI研究会, 東京, 平成23年7月1日.
37. 村山隆夫, 土岐真朗, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 山口康晴, 高橋信一: 高齢者の上部消化管異物に対する内視鏡的異物除去術の有用性の検討, 第14回日本高齢消化器病学会, 東京, 平成23年7月2日.
38. 土岐真朗, 山口康晴, 高橋信一: 高齢者出血性消化性潰瘍に対する内視鏡的止血術の有用性についての検討, パネルディスカッション3 高齢者

- 上部消化管疾患の診療ガイドライン作成に向けて, 第14回日本高齢消化器病学会, 東京, 平成23年7月2日.
39. 新井健介, 中村健二, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康二, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内 優, 土岐真朗, 徳永健吾, 山口康晴, 川村直弘, 森秀明, 高橋信一: 微量腹水に対し超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診により癌性腹膜炎と診断し得た胆嚢癌の1例. 第315回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 平成23年7月2日.
 40. 川村直弘 (座長): チーム医療としての肝臓栄養治療のメディカルカンファレンス『症例から学ぶ栄養治療の実際』. 第14回チーム医療としての肝臓病栄養治療を考える会, 東京, 平成23年7月2日.
 41. 西川かおり: 腹部エコーマスター講座 胆道・膵臓・脾臓. アスリードセミナー, 名古屋, 平成23年7月24日.
 42. 森秀明: ステップアップエコーセミナー「腹部エコーマスター講座」. アスリードセミナー. 名古屋, 平成23年7月24日.
 43. 土岐真朗, 山口康晴, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 阿部展次, 森秀明, 大倉康男, 杉山政則, 石田均, 古瀬純司, 高橋信一: 膵癌のリスクファクターとしての糖尿病-効率的な膵癌スクリーニングを目指して-, ワークショップ1「生活習慣と膵疾患」, 第42回日本膵臓学会大会, 弘前, 2011年7月29日.
 44. 蓮江智彦, 土岐真朗, 渡辺俊介, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 青木圭, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一: 高齢者における午後施行する上部内視鏡検査の有用性の検討. 胃病態機能研究会, 大阪, 平成23年7月30日.
 45. 畑英行, 土岐真朗, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 森永圭吾, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一: 急性膵炎発症早期に背側膵動脈の仮性動脈瘤破裂を来した稀な1例, 第42回日本膵臓学会大会, 弘前, 平成23年7月30日.
 46. 中村健二, 田内優, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 土岐真朗, 鈴木裕, 山口康晴, 阿部展次, 杉山政則, 高橋信一: 術後胆道狭窄に対するEUSガイド下治療~外科医との融合による新展開も含め~, 第81回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成23年8月19日.
 47. 川村直弘 (座長): 肝硬変における病態の進展に関する調査. 第15回肝と栄養の会, 東京, 平成23年9月3日.
 48. 高橋信一 (特別講演): 臨床に必要なピロリ菌学のすべて. 第6回 Medical Skill-up Seminar, 杏林大学, 平成23年9月6日.
 49. 川村直弘: 肝硬変の病態と栄養治療. 第3回肝臓栄養セミナー. 三鷹, 平成23年9月16日.
 50. 西川かおり: 腹部エコーマスター講座 胆道・膵臓. アスリード, 東京, 平成23年9月18日.
 51. 森秀明: アドバンスドエコーセミナー「腹部エコーマスター講座」. アスリードセミナー. 東京, 平成23年9月18日.
 52. 林田真理, 三浦みき, 斎藤大祐, 桜庭彰人, 山田雄二, 今瀬教人, 小山元一, 高橋信一: カプセル内視鏡検査が小腸外病変の診断に有用であった消化管出血の1例. 第29回日本大腸検査学会総会, 東京, 平成23年9月18日.
 53. 川村直弘: 肝臓病の栄養療法~分岐鎖アミノ酸 (BCAA) の必要性~. 「肝臓病の栄養療法」小規模講演会, 武蔵野, 平成23年10月6日.
 54. 高橋信一 (特別講演): 酸分泌抑制剤に因らない抗潰瘍治療~改めて考える防御因子製剤のエビデンスと役割~. Mucosta Symposium, 軽井沢, 平成23年10月8日.
 55. 高橋信一: ピロリ菌除菌で胃がんを防ぐ. 明朗会・健康推進事業 健康講座, 牟礼, 平成23年10月12日.
 56. 塚田幾太郎, 森秀明, 尾股佑, 關里和, 本田普久, 小樽二世, 峯佳毅, 松本茂藤子, 西川かおり, 高橋信一, 岸野智則¹, 野辺浩枝² (¹杏林・医・臨床検査医学, ²東芝メディカルシステムズ株式会社): Parametric MFIを用いた肝良性腫瘍の鑑別診断の有用性. 第30回超音波ドプラ研究会, 東京, 平成23年10月15日.
 57. 高橋信一: ピロリ菌と胃がん. 第1956回東京築地ロータリークラブ例会, 東京, 平成23年10月17日.
 58. 尾股佑, 森秀明, 倉田勇, 田部井弘一, 内田康仁, 川越圭, 塚田幾太郎, 土岐真朗, 本田普久, 西川かおり, 高橋信一: 上部消化管出血に対する内視鏡的止血術前に行う体外式超音波検査の有用性-腹部CT検査との比較-. 第53回日本消化器病学会大会, 福岡, 平成23年10月20日.
 59. 徳永健吾, 田中昭文, 菅野朝, 高橋信一: 機能的ディスぺプシアに対するモサプリドクエン酸塩製剤もしくはオメプラゾールを用いたQOL改善効果の検討. 第54回日本消化器病学会大会, 福岡, 平成23年10月20日.
 60. 齋藤大祐, 三浦みき, 桜庭彰人, 山田雄二, 林田真理, 小山元一, 高橋信一, 大倉康男¹ (¹杏林大・病理): 大腸内視鏡検査で診断し得た好酸球性胃腸炎の一例. 第54回日本消化器病学会大会, 福岡, 平成23年10月21日.
 61. 土岐真朗, 杉山政則, 高橋信一: 膵癌のリスクファクターとしての糖尿病-糖尿病患者における効率的な膵癌スクリーニングを目指して-, PD9, 第53回日本消化器病学会大会, 福岡, 2011年10月21日

62. 三浦みき, 林田真理, 齋藤大祐, 桜庭彰人, 山田雄二, 徳永健吾, 小山元一, 伊藤正高, 高橋信一: 長期の経過観察が得られた Cowden 病の一例. 第 82 回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW2011), 福岡, 平成 23 年 10 月 22 日.
63. 内田康仁, 中村健二, 倉田勇, 村山隆夫, 川越圭, 畑英行, 田部井弘一, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 土岐真朗, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一: 内視鏡的膵管ドレナージにより軽快した腭性胸水, 腭性腹水の 2 例. JDDW 福岡, 平成 23 年 10 月 23 日.
64. 川越圭, 土岐真朗, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一: プロトンポンプ阻害薬の投与と Clostridium difficile 感染の関連性についての検討, 第 19 回日本消化器関連学会週間 Japan Digestive Disease Week 2011, 福岡, 平成 23 年 10 月.
65. 嶋森直子¹, 浦田毅¹, 多武保光宏², 平野和彦³, 寺戸雄一³, 森秀明, 奴田原紀久雄², 東原英二², 渡邊卓⁴, 岸野智則⁴ (¹杏林・医・付属病院臨床検査部, ²杏林・医・泌尿器科, ³杏林・医・病理学, ⁴杏林・医・臨床検査医学): 右腎全体をびまん性に浸潤した集合管癌 (Bellini 管癌) の一例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第 23 回学術集会, 東京, 平成 23 年 10 月 29 日.
66. 福川陽子¹, 板垣英二, 森秀明, 小沼裕寿, 多武保光宏², 奴田原紀久雄², 東原英二², 菅間博³, 石田均, 岸野智則⁴ (¹杏林・医・付属病院臨床検査部, ²杏林・医・泌尿器科, ³杏林・医・病理学, ⁴杏林・医・臨床検査医学): ACTH 非依存性大結節性副腎過形成 (ACTH-independent macronodular adrenal hyperplasia: AIMAH) の一例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第 23 回学術集会, 東京, 平成 23 年 10 月 29 日.
67. 高橋信一 (特別講演): ピロリ除菌のガイドラインと保険診療. 第 13 回 SMS 臨床消化器病研究会, 東京, 平成 23 年 11 月 5 日.
68. 高橋信一 (特別講演): ピロリ菌除菌の最新知見. 入間市狭山市医師会学術講演会, 狭山市, 平成 23 年 11 月 16 日.
69. 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: 胃過形成性ポリープに対する H. pylori 除菌療法の有用性. 第 39 回日本潰瘍学会, つくば, 平成 23 年 11 月 18 日.
70. Takahashi S (International Symposium): Cell death, acid secretion and H. pylori - Discoveries in Boston. The 39th Meeting on the Japanese Society for Ulcer Research. Tsukuba, Nov. 18, 2011.
71. 高橋信一: ピロリ菌を除菌してきれいな胃を取り戻そう. 事業主会, 東京, 平成 23 年 11 月 24 日.
72. 石本麻衣, 畑英行, 渡辺俊介, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 田部井弘一, 川越圭, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 土岐真朗, 中村健二, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一, 平野和彦, 大倉康男: 十二指腸球部に発生した有茎性過形成性ポリープの 1 例, 第 40 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 23 年 11 月 19 日.
73. 池崎修, 蓮江智彦, 渡辺俊介, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 田部井弘一, 川越圭, 畑英行, 比嘉晃二, 田内優, 土岐真朗, 中村健二, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一, 平野和彦, 大倉康男: 稀な内視鏡像を呈した溺水生存患者の胃多発裂傷の 1 例, 第 40 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 23 年 11 月 19 日.
74. 落合一成, 田部井弘一, 渡辺俊介, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 田部井弘一, 川越圭, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 土岐真朗, 中村健二, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一, 平野和彦, 大倉康男: 術前に診断し得た胆石イレウスの 1 例, 第 40 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 23 年 11 月 19 日.
75. 徳永健吾: H. pylori 感染症と酸関連疾患の今後の展望. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 平成 23 年 12 月 9 日.
76. 齊藤大祐, 林田真理, 三浦みき, 川越圭, 桜庭彰人, 山田雄二, 今瀬教人, 徳永健吾, 小山元一, 高橋信一: 当科における小腸腫瘍に対する小腸内視鏡の有用性について. 第 93 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成 23 年 12 月 10 日.
77. 蓮江智彦, 中村健二, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 川越圭, 田部井弘一, 比嘉晃二, 田内優, 土岐真朗, 青木圭, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一: パネルディスカッション: ERCP 関連偶発症とその対処法. 日本消化器内視鏡病学会関東地方会, 東京, 平成 23 年 12 月 10 日.
78. 森秀明: US スクリーニングのポイント『膵臓』. 超音波スクリーニング研修講演会 2011, 有明, 平成 23 年 12 月 17 日.
79. 高橋信一: ピロリ菌除菌の実際. 埼玉県内科医学会学術講演会, 埼玉, 平成 24 年 1 月 11 日.
80. 徳永健吾: H. pylori 関連疾患の最新知見. 1 月度相模原市医師会地域医療研究会, 相模原, 平成 24 年 1 月 16 日.
81. 高橋信一 (特別講演): ピロリ菌研究の過去・現在そして未来. 第 3 回坂戸・鶴ヶ島消化器勉強会, 川越, 平成 24 年 1 月 19 日.
82. 川村直弘: 肝臓病の栄養療法～分岐鎖アミノ酸 (BCAA) の必要性～. 「肝臓病の栄養療法」勉強会, 東大和, 平成 24 年 1 月 26 日.
83. 森秀明: 研修医のための腹部超音波診断. 第 5 回臨床研修 4 病院合同セミナー, 東京, 平成 24 年 1 月 27 日.
84. 高橋信一: ピロリ菌研究から学んだこと. 杏林大学医学部皮膚科同門会講演会, 東京, 平成 24 年 1 月 29 日.
85. 三浦みき, 林田真理, 齋藤大祐, 桜庭彰人, 山田雄二, 小山元一, 大倉康男¹, 高橋信一 (¹杏林大・病理): 出血性直腸カルチノイドの 2 例, 日本消

- 化管学会, 仙台, 平成 24 年 2 月 10 日 .
86. 田部井弘一, 土岐真朗, 内田康仁, 川越圭, 齋藤大祐, 畑英行, 尾股佑, 田内優, 中村一久, 坂本仁美, 茂内康友, 小林敬明, 杉山政則, 高橋信一: 術前に診断し得た胆石イレウスの 1 例, 第 8 回日本消化管学会総会学術集会, 仙台, 2012 年 2 月 10 日 .
 87. 中村正彦¹, 松井英則², 高橋哲史¹, 芹沢宏³, 高橋信一, 土本寛一¹ (¹北里大・薬学部, ²北里大・北里生命科学研究所, ³北里研究所病院): 胃, 肝, 肺 MALT リンパ腫形成および進展における幹細胞, 微小循環系の関与. 第 8 回日本消化管学会総会学術集会, 仙台, 平成 24 年 2 月 10 日 .
 88. 高見麻佑子, 桜庭彰人, 内田康二, 中村一久, 山田雄二, 林田真理, 小山元一, 甲能直幸¹, 塩原哲夫², 大倉康男³, 高橋信一 (¹杏林大・耳鼻咽喉科, ²杏林大・皮膚科, ³杏林大・病理): カプセル内視鏡併用で全消化管を観察しえた Cronkhite-Canada 症候群の一例. 第 8 回日本消化管学会総会学術集会, 仙台, 平成 24 年 2 月 10 日 .
 89. 畑英行, 土岐真朗, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 田部井弘一, 川越圭, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 山口康晴, 大倉康男, 高橋信一: 十二指腸球部に発生した十二指腸過形成性ポリープの 1 例, 第 8 回日本消化管学会総会学術集会, 仙台, 平成 24 年 2 月 11 日 .
 90. 倉田勇, 土岐真朗, 渡辺俊介, 村山隆夫, 内田康仁, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 平野和彦, 田内優, 中村健二, 藤原正親, 山口康晴, 大倉康男, 高橋信一: 稀な内視鏡像を呈し経時的な形態変化が捉えられた転移性胃腫瘍の 1 例, 第 8 回日本消化管学会総会学術大会, 仙台, 平成 24 年 2 月 11 日 .
 91. 高橋信一: 酸分泌抑制剤に因らない抗潰瘍治療～改めて考える防御因子製剤のエビデンスと役割～. 第 1 回大分県 消化管傷害を考える会, 大分, 平成 24 年 2 月 17 日 .
 92. 森秀明: 知らないと描出できないキー画像ー肝腫瘍についてー. 日本超音波医学会主催「超音波診断講習会ー消化器ー」, 大阪, 平成 24 年 2 月 19 日 .
 93. 村田美裕, 種山小栗, 塚田芳枝, 千野貴子, 清水孝一, 丹波光子, 奥山秀平, 竹内弘久, 大浦紀彦: 当院での半固形化栄養剤(ハイネゼリー)の検討(第 1 報)新規導入時の経緯. 第 27 回日本静脈経腸栄養学会, 神戸, 平成 24 年 2 月 23 日 .
 94. 種山小栗, 村田美裕, 塚田芳枝, 千野貴子, 清水孝一, 丹波光子, 奥山秀平, 竹内弘久, 大浦紀彦: 当院での半固形化栄養剤(ハイネゼリー)導入の検討(第 2 報)特性を生かした運用. 第 27 回日本静脈経腸栄養学会, 神戸, 平成 24 年 2 月 23 日 .
 95. 高橋信一(特別講演): ピロリ菌除菌の最新ガイドライン. 群馬診診連携講演会, 高崎, 平成 24 年 2 月 25 日 .
 96. 川村直弘(座長): チーム医療としての肝臓栄養治療のメディカルカンファレンス『症例から学ぶ栄養治療の実際』. 第 15 回チーム医療としての肝臓病栄養治療を考える会, 東京, 平成 24 年 3 月 3 日 .
 97. 土岐真朗, 板垣英二, 倉田勇, 内田康仁, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 山口康晴, 石田均, 高橋信一: チラージン S 錠の添加物によって発症したと考えられた薬剤性肝障害の 1 例, 日本内科学会関東支部主催第 586 回関東地方会, 東京, 平成 24 年 3 月 10 日 .
 98. 徳永健吾: H. pylori 感染症と酸関連疾患の今後の展望. Next Symposium, 武蔵野, 平成 24 年 3 月 15 日 .
 99. 徳永健吾: H. pylori 感染症と酸関連疾患の今後の展望. Nexium Symposium, 西東京, 平成 24 年 3 月 16 日 .
 100. 徳永健吾: H. pylori 感染症と酸関連疾患の今後の展望. Next Symposium, 旭川, 平成 24 年 3 月 23 日 .
 101. 森秀明: ステップアップ超音波診断: 肝臓. 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会超音波部会第 7 回新潟セミナー, 新潟, 平成 24 年 3 月 24 日 .
 102. 川村直弘: 第 18 回岩手臨床懇話会, 慢性肝疾患の QOL と栄養治療. 盛岡, 平成 24 年 3 月 24 日 .
 103. 徳永健吾: H. pylori 感染症と酸関連疾患の今後の展望. Next Lecture Meeting, 長野, 平成 24 年 3 月 28 日 .

論 文

1. 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: Helicobacter pylori 除菌療法時に注意すべき糖尿病治療薬との薬物間相互作用 低血糖の面から. Helicobacter Research 15: 141-145, 2011.
2. 徳永健吾, 田中昭文, 菅野朝, 高橋信一: モサブリドクエン酸塩製剤およびオメプラゾールによる機能性ディスペプシアの QOL 改善効果について～高齢者・非高齢者での GSRS を用いての検討. 日本高齢消化器病学会誌 13: 137-143, 2011.
3. 徳永健吾, 小沢正幸, 泉並木, 白石光一, 松久威史, 津久井拓, 野内俊彦, 武田雄一, 照屋正則, 江畑明, 永井俊彦, 中島尚登, 野口修, 柏崎一男, 杉浦克明, 宮岡正明, 入口陽介, 金崎章, 吉岡政洋, 山口康晴, 高橋信一: 東京都多摩地区における Helicobacter pylori 二次除菌療法の実態調査 - 多摩消化管疾患研究会からの報告. Helicobacter Research 15: 370-375, 2011.
4. 徳永健吾, 田中昭文, 菅野朝, 高橋信一: 当科における H. pylori 三次除菌療法の試み. Ulcer Research 38: 152-155, 2011.
5. 徳永健吾, 田中昭文, 土岐真朗, 中村健二, 田内優, 桜庭彰人, 山田雄二, 林田真理, 小山元一, 高橋信一: 逆流性食道炎に対するプロトンポンプ阻害薬治療の満足度実態調査 日本語

- 版 GerdQ 問診票を用いた検討. 医学と薬学 66: 103-109, 2011.
6. 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一: Helicobacter pylori 感染と糖尿病. Helicobacter Research 16: 40-44, 2012.
 7. 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: レボフロキサシンを用いた H. pylori 三次除菌療法の試み. 新薬と臨床 61: 51-53, 2012.
 8. 蓮江智彦, 中村健二, 倉田勇, 村山隆夫, 内田康仁, 川越圭, 田部井弘一, 比嘉晃二, 田内優, 土岐真朗, 青木圭, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一: 嚢胞感染を併発し脾穿破した臍仮性嚢胞に保存的治療が奏功した 1 例. Progress of Digestive Endoscopy(1348-9844)78: 154-155, 13(2011.6)
 9. Kishino T¹, Ohnishi H¹, Ohtsuka K¹, Matsushima S¹, Watanabe K², Honda Y, Matsumoto M, Mine Y, Nishikawa K, Mori H, Takahashi S, Ishida H & Watanabe T¹ (¹ Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ² Department of Clinical Laboratory, Kyorin University Hospital): Subcutaneous rather than visceral adipose tissue thickness of the abdomen correlates with alterations in serum fatty acid profile in Japanese women. Clin Chim Acta 412(19-20): 1893-1894, 2011.
 10. Kishino T, Ohnishi H, Ohtsuka K, Matsushima S, Urata T, Watanabe K, Honda Y, Mine Y, Matsumoto M, Nishikawa K, Mori H, Takahashi S, Ishida H, Watanabe T: Low concentrations of serum n-3 polyunsaturated fatty acids in non-alcoholic fatty liver disease patients with liver injury. Clin Chem Lab Med 49: 159-162, 2011.
 11. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 521: 73-74, 2011.
 12. 森秀明, 關里和, 尾股佑, 塚田幾太郎, 本田普久, 小樽二世, 松本茂藤子, 峯佳毅, 西川かおり, 高橋信一, 岸野智則: 肝疾患における腹部 US の読み方. びまん性肝疾患. 臨牀消化器内科 26: 717-721, 2011
 13. 森秀明, 關里和, 尾股佑, 塚田幾太郎, 本田普久, 小樽二世, 松本茂藤子, 峯佳毅, 西川かおり, 高橋信一, 岸野智則: 肝疾患における腹部 US の読み方. 限局性肝疾患 (良性). 臨牀消化器内科 26: 1163-1168, 2011
 14. 森秀明, 關里和, 尾股佑, 塚田幾太郎, 本田普久, 小樽二世, 松本茂藤子, 峯佳毅, 西川かおり, 高橋信一, 岸野智則: 肝疾患における腹部 US の読み方. 限局性肝疾患 (悪性). 臨牀消化器内科 26: 1313-1320, 2011.
 15. 森秀明: 肝疾患と肥満. ドクターサロン 55: 566-570, 2011.
 16. 森秀明: 胆嚢癌超音波診断基準の問題点と今後の展望. 胆と膵 32: 713-718, 2011.
 17. 森秀明: ‘救急腹部エコー検査’ のポイント. 消化管疾患 1: 腸閉塞, 腸重積症. レジデント 4: 36-43, 2011.
 18. 森秀明: 先進技術で極める超音波の未来. 1. 画質を極める 1) 腹部領域. インナービジョン 26: 2-4, 2011.
 19. 森秀明: 腹部超音波検査. ドクターサロン 56: 165-169, 2011.
 20. Abe N¹, Gotoda T², Hirasawa T³, Hoteya S⁴, Ishido K⁵, Ida Y⁶, Imaeda H⁷, Ishii E⁸, Kokawa A⁹, Kusano C¹⁰, Maehata T¹¹, Ono S¹², Takeuchi H¹, Sugiyama M¹, Takahashi S: Multicenter study of the long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in patients 80 years of age or older. Gastric Cancer 15(1): 70-52012.
 21. 中本啓太郎¹, 小出卓¹, 長友禎子¹, 田村仁樹¹, 檜垣学¹, 高田佐織¹, 和田裕雄¹, 石井晴之¹, 岡崎充宏², 高橋信一, 後藤元¹(¹杏林大・医・呼吸器内科, ²杏林大・医・付属病院臨床検査部): Hypermucoviscosity phenotype の Klebsiellapneumoniae による肝膿瘍・敗血症性肺塞栓症の重症例. 感染症学会誌 85(4):366-369, 2011.
 22. Ben Suleiman Y¹, Yoshida M¹, Nishiumi S¹, Tanaka H¹, Mimura T¹, Nobutani K¹, Yamamoto K¹, Takenaka M, Aoganghua A, Miki I, Ota H¹, Takahashi S, Matsui H², Nakamura M³, Blumberg RS, Azuma T¹ (¹Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Kobe University Graduate School of Medicine. ² School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ. ³ Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ.): Neonatal Fc receptor for IgG (FcRn) expressed in the gastric epithelium regulates bacterial infection in mice. Mucosal Immunol. 5(1): 87-98, 2012.
 23. 富田泰彦¹, 北原るり子², 高橋信一, 赤木美智男¹(¹杏林大・医・医学教育学, ²杏林大・医・付属病院医療安全管理室): 初期臨床研修医に関連したインシデントの傾向と対策. 病院 70(12):57-61, 2011.
 24. 桜庭彰人, 小山元一, 高橋信一: 下痢症に対する食事療法・生活指導. Medicina 49(2): 249-251, 2012.
 25. 徳永健吾, 田中昭文, 土岐真朗, 高橋信一: H. pylori 診断・治療のガイドラインの臨床応用. 消化器内科 54(3): 309-316, 2012.
 26. Nobutani K¹, Yoshida M¹, Nishiumi S¹, Nishitani Y¹, Takagawa T¹, Tanaka H¹, Yamamoto K¹, Mimura T¹, Bensleiman Y¹, Ota H¹, Takahashi S, Matsui H², Nakamura M³, Azuma T¹(¹Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Kobe University Graduate School of Medicine. ²School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ. ³ Kitasato institute

for life sciences, Kitasato Univ.): *Helicobacter heilmannii* can induce gastric lymphoid follicles in mice via a Peyer's Patch independent pathway. *FEMS Immunol Med Microbiol* 60(2): 156-164, 2010.

27. 比嘉晃二, 山口康晴, 青木 圭, 土岐真朗, 中村健二, 高橋信一: 高齢者出血性消化性潰瘍に対する内視鏡止血術の検討. *日消誌* 108: 418-428, 2011.

著書

- 林田真理, 高橋信一: 小腸病変の種類. ここまでみえるようになった小腸内視鏡検査. 寺野彰編, 東京, *Mebio*, 2012. p. 19-27.
- 古瀬純司, 土岐真朗, 北村浩, 廣川智, 長島文夫: がん合併症の管理 黄疸の原因とその対応, 癌と化学療法社, 癌と化学療法 (*Jpn J Cancer Chemother*) 38(4): 540-544, April. 2011.
- 土岐真朗, 山口康晴, 高橋信一, 古瀬純司: 総論 4, 消化器がんの合併症対策, 中外医学社, 消化器がん化学療法ハンドブック, 編著 古瀬純司, 37-46, 2011年7月.
- 土岐真朗: 臨床力を鍛える Case Study, 羊土社, 効果的に使う! 消化器の治療薬, 企画 高橋信一, 178-182, 2012年4月.
- 土岐真朗, 山口康晴, 高橋信一, 古瀬純司: IV 肝癌・胆道癌・膵癌, 胆道癌 5 閉塞性黄疸より診断に至った胆管癌, 症例から学ぶメディカルオンコロジー, 中川和彦, 伊藤良則, 朴成和, 古瀬純司, 直江知樹 編, 医薬ジャーナル, 236-246, 2011年10月.
- 中村健二, 山口康晴, 高橋信一: 【内科疾患インストラクションガイド 何をどう説明するか】 消化器疾患 慢性胃炎, 医学書院, *Medicina* 48(11): 195-197, 2011年11月.
- 高橋信一, 田中昭文, 徳永健吾, : *H. pylori* 診断・治療のガイドラインの臨床応用. ヘリコバクター・ピロリ感染症の徹底検証. 日比紀文総監修, 東京, ライフ・サイエンス, 2012. p.67-79.
- 川村直弘: 栄養アセスメント (治療の適応と効果判定のために). 肝硬変の栄養治療とチーム医療~実践編~, 鈴木孝知編. 東京, 株式会社メディカルプレビュー社, 2012. p.24-34.

第三内科学教室

(糖尿病・内分泌・代謝内科)

口演

- 田中利明, 小沼裕寿, 炭谷由計, 森谷理恵, 信太暁子, 下山達宏¹, 高橋和人, 勝田秀紀, 山口真哉², 吉元勝彦, 板垣英二, 石田均 (¹ 島村記念病院, ² 相模原協同病院): 原発性アルドステロン症の母娘例. 第 84 回日本内分泌学会学術総会, 神戸, 平成 23 年 4 月 21-23 日.
- 石田均 (講演): 食品交換表とカーボカウント. NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会事業・登録管

理栄養士研修連絡会, 国分寺, 平成 23 年 4 月 28 日.

- 高橋和人, 五林可織, 半田桂子, 北原敦子, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 吉元勝彦, 大野秀樹¹, 石田均 (¹ 杏林大・医・衛生学公衆衛生学): 脂肪細胞肥大化にともなう低酸素非依存的 VEGF₁₂₀ 分泌制御機構の解析. 第 65 回日本栄養・食糧学会大会, 東京, 平成 23 年 5 月 13-15 日.
- 石田均 (教育講演): 糖尿病の食事療法—その理論と課題. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
- 半田桂子, 高橋和人, 五林可織, 北原敦子, 森谷理恵, 小沼裕寿, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田均: 脂肪細胞の人為的肥大化が及ぼすレプチン分泌への影響とその制御機構の解析—MCP-1 分泌制御機構との比較—. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
- 高橋和人, 五林可織, 半田桂子, 北原敦子, 森谷理恵, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 吉元勝彦, 石田均: 脂肪細胞肥大化にともなう低酸素非依存的 VEGF₁₂₀ 分泌促進とその制御機構の解析—内因性酸化ストレスの増大と PI3K 経路活性化の関与—. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
- 五林可織, 高橋和人, 半田桂子, 北原敦子, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田均: 脂肪細胞からのアディポネクチン分泌に及ぼす mitochondrial uncoupling の影響とその制御機構に関わる細胞内情報伝達系の検討. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
- 小林庸子¹, 浅間泉², 森小津恵², 北原敦子, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田均 (¹ 杏林大・医・付属病院薬剤部, ² 杏林大・医・付属病院看護部): 糖尿病治療薬の種類による血糖コントロール状況の実態—血中 C ペプチド値による HOMA (CPR) - β , CPR index の算出とその臨床的意義—. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
- 北原敦子, 小林庸子¹, 浅間泉², 森小津恵², 今野里美², 五林可織, 半田桂子, 高橋和人, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 吉元勝彦, 石田均 (¹ 杏林大・医・付属病院薬剤部, ² 杏林大・医・付属病院看護部): 肥満 2 型糖尿病症例での食事療法を介した減量が食欲調節ホルモンの血中動態に及ぼす効果とその臨床的意義について. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
- 西田進, 鈴木清¹, 貞莉利彦, 信太暁子, 村嶋俊隆, 森谷理恵, 小沼裕寿, 炭谷由計, 高橋和人, 勝田秀紀, 吉元勝彦, 石田均 (¹ 市立島田市民病院糖尿病代謝科): 空腹時採血により得られる各種指標を用いた境界型症例の診断能についての

検討と新たな指標の提言. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成23年5月19-21日.

11. 勝田秀紀, 鈴木清¹, 森谷理恵, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 高橋和人, 西田進, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田均¹ (市立島田市民病院糖尿病代謝科): 空腹時血糖値に及ぼす膵β細胞分泌顆粒内プロインスリン変換酵素の活性の影響について—ブドウ糖負荷後の耐糖能別による検討—. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成23年5月19-21日.
12. 志原伸幸¹, 山田祐一郎^{1,2}, 石田均¹, 稲垣暢也^{1,3}, 池田香織^{1,3}, 門脇孝^{1,4}, 貴田岡正史^{1,5}, 高本誠介¹, 佐藤謙^{1,6}, 寺本康夫^{1,7}, 矢部大介^{1,8}, 清野裕^{1,8} (¹日本糖尿病学会学術委員会, ²秋田大・大学院医学系研究科内分泌・代謝・老年内科学講座, ³京都大・大学院医学研究科糖尿病・栄養内科学, ⁴東京大・大学院医学研究科糖尿病・代謝内科, ⁵公立昭和病院内分泌・代謝内科, ⁶岩手医科大・医・内科学講座糖尿病・代謝内科学分野, ⁷横浜市立大・大学院医学研究科分子内分泌・糖尿病内科学, ⁸関西電力病院糖尿病・栄養・内分泌内科): 糖尿病治療に関わる医師を対象とした調査研究 J-AR-RDW Diabetes. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成23年5月19-21日.
13. 炭谷由計, 高橋和人, 五林可織, 半田桂子, 信太暁子, 貞苺利彦, 村嶋俊隆, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 吉元勝彦, 石田均: パルミチン酸 (PA) 添加による人為的肥大化細胞での adiponectin 分泌の変化とそれに関与する細胞内制御機構の解明. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成23年5月19-21日.
14. 鈴木清¹, 服部隆一¹, 川合弘太郎¹, 菊山宗嗣², 高橋和人, 勝田秀紀, 西田進, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田均¹ (市立島田市民病院糖尿病代謝科, ²日揮ファーマサービス): 骨芽細胞由来のオステオカルシン (OC) が糖・脂質代謝系の調節機構に果たす役割について: undercarboxylated OC を中心に. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成23年5月19-21日.
15. 森小津恵¹, 今野里美², 下田ゆかり², 矢野悦子², 高橋久子², 浅間泉², 五林可織, 小沼裕寿, 炭谷由計, 板垣英二, 石田均¹ (杏林大・医学部付属病院看護部): 杏林大学医学部付属病院のフットケア外来患者の実態調査と今後の課題. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成23年5月19-21日.
16. 石田均 (教育講演): 糖尿病食事療法へのチーム医療の活用. 第4回糖尿病療養セミナー, 長崎, 平成23年5月28日.
17. 吉元勝彦 (講演): 糖尿病診療における最近の話題. 第3回小平市インスリンセミナー, 立川, 平成23年5月31日.
18. 石田均 (特別講演): インクレチン関連薬の膵β細胞保護機構. 第3回 DM NETWORK, 千葉, 平成23年6月2日.
19. Katsuta H, Suzuki K, Ozawa S, Takahashi K, Gorin K, Handa K, Kitahara A, Tanaka T, Nishida S, Yoshimoto K, Itagaki E, Ishida H: Decreased activities of proinsulin convertase enzyme, PC3 rather than PC2 in pancreatic beta-cells in non-obese Japanese subjects with slightly elevated levels of fasting blood glucose. 11th Asian Congress of Nutrition, Singapore, July 13-16, 2011.
20. 石田均 (特別講演): インクレチン関連薬がもたらす膵β細胞機能を護る糖尿病治療. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 平成23年6月16日.
21. 吉元勝彦 (講演): 糖尿病患者のマネジメント—基本的なことから雑学まで—. 第3回花小金井診診連携懇話会, 三鷹, 平成23年6月22日.
22. 石田均 (特別講演): 日本人の特性から考えた糖尿病治療—インクレチン関連薬の使い方を中心に—. 第2回西神戸内分泌・糖尿病オープンカンファレンス, 平成23年6月25日.
23. 石田均 (特別講演): 日本人の特性から考えたインクレチン関連薬の使い方. 生活習慣病プライマリーケア研究会10周年記念講演会, 静岡, 平成23年7月1日.
24. 石田均 (教育講演): 今もう一度見直そう, 糖尿病食事療法の基本. 第8回西東京病態栄養研修会, 東京, 平成23年7月10日.
25. 吉元勝彦 (講演): 糖尿病診療における最近の話題. 西部・所沢地区生活習慣病勉強会, 所沢, 平成23年7月11日.
26. 石田均 (特別講演): インクレチン関連薬の使い方—日本人の遺伝や食習慣から考える—. 第1回糖尿病代謝サークル, 福岡, 平成23年7月29日.
27. 石田均 (公開シンポジウム): 糖尿病の食事療法の新たな展開. 日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部および日本食品科学工学会西日本支部合同大会, 佐賀, 平成23年9月3-4日.
28. 吉元勝彦: 糖尿病の概念と療養指導総論. 第12回西東京糖尿病療養指導士養成講座, 立川, 平成23年9月13日.
29. 石田均 (ランチョンセミナー): 2型糖尿病治療におけるインクレチン関連薬の役割とは. 第16回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 東京, 平成23年9月24日.
30. 石田均 (公益社団法人移行記念講演): 日本人の特性から考えた糖尿病治療—栄養学的見地からの提言—. 日本栄養・食糧学会臨時社員総会, 東京, 平成23年10月10日.
31. 鈴木清¹, 服部隆一¹, 川合弘太郎¹, 杉本智惟子¹, 菊山宗嗣², 久野義和³, 石田均¹ (市立島田市民病院糖尿病代謝科, ²日揮ファーマサービス, ³三菱化学 BCL): 糖代謝および脂質代謝系の調節機構に果たす total ならびに undercarboxylated

osteocalcin の役割について. 第 26 回日本糖尿病合併症学会, 大宮, 平成 23 年 10 月 14-15 日.

32. 高橋久子¹, 森小津恵¹, 小林庸子², 田中利明, 高橋和人, 勝田秀紀, 西田進, 石田均^(¹杏林大・医・付属病院看護部, ²杏林大・医・付属病院薬剤部): 1 点異常の妊娠糖尿病における妊娠中の療養指導の検討. 第 27 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 神戸, 平成 23 年 11 月 11-12 日.
33. 小笠原準悦¹, 櫻井拓也¹, 木崎節子¹, 炭谷由計, 高橋和人, 石田均, 木本紀代子², 大野秀樹¹ (¹杏林大・医学部, ²東名裾野病院): 運動は骨格筋から褐色脂肪細胞への分化を活性化するか. 第 40 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 23 年 11 月 19 日.
34. 吉元勝彦: 2 型糖尿病治療の血糖日内変動からみた治療指針「HbA1c “良” に隠れた高血糖を見つける工夫». 第 49 回東京糖尿病治療セミナー, 武蔵野, 平成 23 年 11 月 19 日.
35. 勝田秀紀, 石田均 (ワークショップ): 耐糖能障害の進展とプロインスリンのプロセッシング機構の異常との関連について. 第 15 回日本心血管内分泌代謝学会, 豊中, 平成 23 年 11 月 25-26 日.
36. 北原敦子, 高橋和人, 半田桂子, 五林可織, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田均: 肥満 2 型糖尿病症例における食欲調節ホルモンの変化と栄養指導による生活習慣改善との関連性. 第 15 回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 平成 24 年 1 月 14-15 日.
37. 西田進, 五林可織, 小沼裕寿, 森谷理恵, 村嶋俊隆, 信太暁子, 貞苺利彦, 炭谷由計, 田中利明, 板垣英二, 石田均: 抗 GAD 抗体陽性だが, 4 年間正常耐糖能を維持している, 多腺性自己免疫症候群が疑われる一例. 第 49 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 東京, 平成 24 年 1 月 21 日.
38. 田中利明, 信太暁子, 森谷理恵, 小沼裕寿, 村嶋俊隆, 貞苺利彦, 勝田秀紀, 炭谷由計, 五林可織, 高橋和人, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田均: 全身静脈サンプリングにより局在診断し得た腫瘍性骨軟化症の 1 例. 第 21 回臨床内分泌代謝 Update, 浜松, 平成 24 年 1 月 27 日 -28 日.
39. 石田均 (特別講演): 2 型糖尿病の新たな治療戦略. 杉並・中野 糖尿病学術講演会, 東京, 平成 24 年 2 月 7 日.
40. 石田均 (特別講演): 糖尿病の食事療法におけるインクレチンの意義. 第 4 回南東京糖尿病カンファレンス, 東京, 平成 24 年 2 月 21 日.
41. 石田均 (特別講演): 日本人の特性から考えたインクレチン関連薬の意義. インクレチン最新情報セミナー, 小倉, 平成 24 年 2 月 24 日.
42. 石田均 (教育講演): 日本人にふさわしい糖尿病食事療法. 東京都病人栄養研究会, 東京, 平成 24 年 3 月 15 日.

論文

1. Kishino T, Ohnishi H, Ohtsuka K, Matsushima

S, Urata T, Watanabe K, Honda Y, Mine Y, Matsumoto M, Nishikawa K, Mori H, Takahashi S, Ishida H, Watanabe T: Low concentrations of serum n-3 polyunsaturated fatty acids in non-alcoholic fatty liver disease patients with liver injury. *Clin Chem Lab Med* 49(1): 159-162, 2011.

2. Kishino T, Ohnishi H, Ohtsuka K, Matsushima S, Watanabe K, Urata T, Honda Y, Matsumoto M, Mine Y, Nishikawa K, Mori H, Takahashi S, Ishida H, Watanabe T: Subcutaneous rather than visceral adipose tissue thickness of the abdomen correlates with alterations in serum fatty acid profile in Japanese women. *Clin Chim Acta* 412: 1893-1894, 2011.
3. Miyokawa-Gorin K¹, Takahashi K¹, Handa K, Kitahara A, Sumitani Y, Katsuta H, Tanaka T, Nishida S, Yoshimoto K, Ohno H, Ishida H:(¹equally contributed) Induction of mitochondrial uncoupling enhances VEGF120 but reduces MCP-1 release in mature 3T3-L1 adipocytes: possible regulatory mechanism through endogenous ER stress and AMPK-related pathways. *Biochem Biophys Res Commun* 419:200-205, 2012.
4. 鈴木清, 西田進, 服部隆一, 石田均: 2 型糖尿病における骨・ミネラル代謝異常の病態とその分子基盤. *日本臨床栄養学会雑誌* 32(4): 214-222, 2011.
5. 石田均, 北原敦子: 1 型糖尿病治療の新しい知見—カーボカウントの利点と欠点. *糖尿病* 54(4): 257-259, 2011.
6. 石田均: 「巻頭言」日本人の食事療法の新たな方向性を考える. *日本食育学会誌* 5(4): 191-192, 2011.
7. 石田均: 「巻頭言」新たな公益社団法人化に寄せて. *日本栄養・食糧学会誌* 65(1): 1-2, 2012.

著書

1. 石田均: 食事療法—役割と意義, 今後の課題. *からだの科学* 269: 41-44, 2011.
2. 石田均: 栄養・食糧学と糖尿病. 食事療法の役割と意義ならびに今後に残された課題. *Vita* 28(3): 29-34, 2011.
3. 石田均: インクレチン関連薬の今後. 日本人にどのように使っていくか—日本人の遺伝学的, 食習慣的背景を踏まえて. *Progress in Medicine* 31(6): 1473-1478, 2011.
4. 石田均: 食品交換表の新たな方向性—日本人での食事療法のエビデンスの確立を目指して—. *Practice* 28(5): 485-491, 2011.
5. 石田均: 「食品交換表」の新たな方向性—カーボカウントの功罪をめぐって—. *Diabetes Journal* 29(3): 134-137, 2011.
6. 石田均: 高血糖性昏睡の鑑別と急性期治療. *Diabetes Frontier* 22(6): 611-615, 2011.

7. 勝田秀紀, 石田均: 膵β細胞のアポトーシスと酸化ストレス. 糖尿病と酸化ストレス. 山岸昌一編. メディカルレビュー社, 東京, 2011, p15-26.
8. 櫻井拓也, 木崎節子, 炭谷由計, 石田均, 大野秀樹. 第3章: 内分泌器官としての脂肪組織: アディポカインの分泌, 脂肪細胞のエクササイズバイオロジー. 井澤鉄也, 駒林隆夫編著. NAP Limited, 東京, 2011, p71-130.
9. 石田均: チーム医療・ケアに携わる関連専門職の一員としての責務—糖尿病チームで管理栄養士が果たす役割とは. 導入教育: 信頼される専門職となるために. 日本栄養改善学会監修, 伊達ちぐさ, 徳留裕子, 岡純編. 医歯薬出版, 東京, 2011, p111-116.
10. 田中利明, 石田均: 術前にチェックしなければならない全身疾患. その他危険因子①糖尿病. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編集. メディカルレビュー社, 東京, 2011, p101-106.
11. 石田均: 糖尿病の人は骨粗鬆症に三倍なりやすく硬い骨が減るため骨折すると治りにくい. 健康 365 8(9): 37-38, 2011.
12. 石田均: 糖尿病の食事療法の新たな展開. 月刊糖尿病 4(1): 111-120, 2012.
13. 北原敦子, 石田均: 症例から考える糖尿病療養指導: II. 食事療法—カーボカウント法. 糖尿病診療マスター 10(3: 増刊号): 199-203, 2012.
14. 石田均, 板倉弘重, 志村二三夫, 田中清 (編著): 改訂臨床医学入門, 光生館, 東京, 2012.
15. 野田光彦, 石田均, 渡邊昌 (鼎談): 糖尿病治療の現在と未来. 医と食 4(1): 7-12, 2012.
16. 板垣英二: year note 2012. 視床下部・下垂体疾患. 栄養の異常. 岡庭豊, 荒瀬康司, 三角和雄編. 東京, メディックメディア, 2011. D 9 -24, D144-145.
17. 板垣英二: year note topics 2012. 内分泌・代謝・栄養疾患. 医療情報科学研究所編. 東京, メディックメディア, 2011. p 127-130.
18. 板垣英二, 石田均: 症候群ハンドブック. カーニー症候群. 井村裕夫編. 東京, 中山書店, 2011. p 448-449.
19. 板垣英二: 第105回医師国家試験問題解説書. 医師国家試験問題解説書編集委員会編. 東京, 医学評論社, 2011. p 219-220, p 368-369, p 514.
20. 板垣英二: 第105回医師国家試験問題解説書. 国試対策問題編集委員会編. 東京, メディックメディア, 2011. p 10, p 13, p 113, p 244-245, p 405-406, p 563.
21. 板垣英二 (監修): STEP 内科3 代謝・内分泌 第3版. 東京, 海馬書房, 2011.
22. 板垣英二 (監修): STEP 内科4 代謝・内分泌 (韓国語版). 東京, 海馬書房, 2011.
23. 板垣英二: CBT こあかり 1 オリエンテーショ
- ン. 内分泌・栄養・代謝系. 東京, 医学評論社, 2012. p 336-343.
24. 板垣英二: 改訂 臨床医学入門. 臨床診断の基本. 石田均, 板倉弘重, 志村二三夫, 田中清編. 東京, 光生館, 2012. p 34-39.
25. 北原敦子: 肝硬変の栄養治療とチーム医療〜実践編〜. 東京, (株) メディカルレビュー, 2012. p 60-73.

腫瘍内科学教室

口 演

1. 古瀬純司, 廣川智, 北村浩, 高須充子, 長島文夫: 肝臓の薬物療法の現状と今後の展望. シンポジウム: 肝臓治療の最前線. 第28回日本医学会総会, 東京, 平成23年4月.
2. 古瀬純司: 膵・胆道癌の化学療法. 最新の動向と展望. Pancreas and Biliary Tract Cancers Forum In Saitama, さいたま, 平成23年5月20日.
3. 古瀬純司: 肝細胞癌における化学療法—ソラフェニブのエビデンスと最近の動向—. 第5回肝臓の診断と治療に関する病診連携セミナー, さいたま, 平成23年5月27日.
4. Ioka T, Ikeda M, Ohkawa S, Yanagimoto H, Fukutomi A, Sugimori K, Baba H, Yamao K, Shimamura T, Chen J, Mizumoto K, Furuse J, Funakoshi A, Hatori T, Yamaguchi T, Egawa S, Sato S, Ohashi Y, Cheng A, Okusaka T: Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 (GS) versus S-1 versus gemcitabine (GEM) in unresectable advanced pancreatic cancer (PC) in Japan and Taiwan: GEST study. American Society of Clinical Oncology 47th Annual Meeting, Chicago, Jun. 7, 2011.
5. 古瀬純司: 膵癌化学療法の最新情報—S-1のエビデンスとプラクティス—. 第97回日本消化器病学会九州支部例会, 第91回日本消化器内視鏡学会九州支部例会, 久留米, 平成23年6月25日.
6. 古瀬純司: 膵・胆道癌の化学療法. 最新情報と今後の展望. 第10回神戸胆道癌・膵癌治療研究会, 神戸, 平成23年7月1日.
7. 古瀬純司: 肝細胞癌における薬物治療: ソラフェニブのエビデンスからプラクティスへ. 第1回相模肝臓分子標的薬治療セミナー, 町田, 平成23年7月6日.
8. 古瀬純司: 胆道癌における最新の化学療法. 第16回東京胆道懇話会, 東京, 平成23年7月8日.
9. 古瀬純司: 膵癌化学療法の最新情報〜これまでの10年とこれから. 膵癌に関するインターネット講演会, 東京, 平成23年7月11日.
10. 古瀬純司: 膵癌の化学療法—最新情報と今後の展望—. 石川 Onology Pharmacist 研究会, 金沢, 平成23年7月16日.
11. Furuse J, Ikeda M: Controversies in the treatment

- indication of TACE and sorafenib for advanced HCC. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 横浜, 平成23年7月21日.
12. 古瀬純司: Hepato-biliary-pancreatic Cancer. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 横浜, 平成23年7月21日.
 13. Furuse J, Lencioni R, Lim HY, Stål P, Marrero J, Venook A, Nakajima K, Ye SL, Kudo M: First interim results of the Global Investigation of therapeutic DEcisions in hepatocellular carcinoma and Of its treatment with sorafeNib (GIDEON) Study. 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 横浜, 平成23年7月23日.
 14. 古瀬純司(特別発言): 肝細胞癌に対する分子標的治療の基礎と臨床. 第47回日本肝癌研究会, 静岡, 平成23年7月28日.
 15. 古瀬純司: 膵・胆道癌の化学療法 最新情報と今後の展望. 膵・胆道癌化学療法講演会, 倉敷, 平成23年8月4日.
 16. 長島文夫: 胃がんでの薬物療法レジメン. 合計12のがん腫 臨床医・薬剤部の9人が語る! 開発・マーケティング戦略に役立つ最新がんレジメンセミナー, 東京, 平成23年8月23日.
 17. Furuse J: Role of adjuvant and neoadjuvant therapy. ISDS Main Session. Pancreatic neoplasms: up-date 2011. International Surgical Week, Yokohama, Aug. 31, 2011.
 18. 古瀬純司: 膵・胆道癌化学療法の最新情報. 第86回中国四国外科学会総会・第16回中国四国内視鏡学外科研究会, 広島, 平成23年9月1日.
 19. 古瀬純司: 胆道癌に対する化学療法の現状. 切除・非切除におけるエビデンス確立に向けて. 第47回日本胆道癌学会学術集会, 宮崎, 平成23年9月16日.
 20. Furuse J, Sasaki Y, Okusaka T, Ikeda M, Nagashima F, Sunakawa Y, Ueno H, Nakachi K, Hashizume K, Ito Y: Phase I study to assess the safety, tolerability and pharmacokinetics of the multikinase inhibitor regorafenib (BAY 73-4506) in Japanese patients with advanced solid tumors. European Society of Medical Oncology 36th Annual Meeting, Stockholm, Sep. 9, 2011.
 21. 古瀬純司: 膵・胆道癌化学療法の最新情報—エビデンスをどう生かすか—. 富山胆膵癌化学療法講演会, 富山, 平成23年9月29日.
 22. 古瀬純司: 膵・胆道癌の化学療法—最新情報と今後の展望—. ジェムザール膵癌適応追加10周年記念講演会, 東京, 平成23年9月30日.
 23. 古瀬純司: 膵・胆道がん化学療法の進歩—さらなる予後を求めて—. 三重膵・胆道癌治療懇話会, 津, 平成23年10月6日.
 24. 古瀬純司: 胆道・膵癌の化学療法—最新情報とプラクティス—. 第6回山梨胆道癌治療研究会, 甲府, 平成23年10月7日.
 25. 長島文夫: 大腸がん薬物療法例での高齢者総合的機能評価の実際. 第42回武蔵野消化器病談話会, 東京, 平成23年10月15日.
 26. 春日章良, 行澤齊悟, 石井浩, 倉岡賢輔, 尾阪将人, 松山真人, 高野浩一, 水沼信之, 星野恵津夫: 閉塞性黄疸を伴う胃癌・大腸癌に対する治療戦略. 第53回日本消化器病学会, 福岡, 平成23年10月21日.
 27. 池田公史, 伊藤鉄英, 奥坂拓志, 五十嵐久人, 森実千種, 仲地耕平, 田島武志, 春日彰朗, 藤田芳江, 古瀬純司: 進行膵内分泌腫瘍に対するエペロリムスの第III相試験—日本人でのサブグループ解析—. 第49回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 平成23年10月28日.
 28. 野村久祥, 臼井浩明, 吉田正, 北村浩, 廣川智, 高須充子, 長島文夫, 篠原高雄, 永井茂, 古瀬純司: 高齢者におけるソラフェニブ投与症例の臨床的検討. 第49回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 平成23年10月28日.
 29. 高橋秀明, 池田公史, 熊田卓, 近藤俊輔, 楠本茂, 大川和良, 灘野成人, 古瀬純司, 工藤正俊, 伊藤清顕, 横山雅大, 土井俊彦, 奥坂拓志, 溝上雅史, 下山正徳: 抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルスの再活性化の症例調査—多施設共同研究—. 第49回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 平成23年10月28日.
 30. 廣川智, 北村浩, 長島文夫, 高須充子, 野村久祥, 古瀬純司: 担癌患者における静脈血栓塞栓症(VTE)の検討. 第49回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 平成23年10月29日.
 31. 古瀬純司: 肝がんの個別療法. 第11回オンコロジーセミナー, 東京, 平成23年11月12日.
 32. 古瀬純司: 肝細胞癌における薬物治療: ソラフェニブのエビデンスからプラクティスへ. 第2回鹿児島肝細胞がん分子標的治療研究会, 鹿児島, 平成23年11月15日.
 33. 古瀬純司: 肝がん分子標的治療の現状と今後の展望. 第10回仙台消化器がんセミナー, 仙台, 平成23年11月18日.
 34. 長島文夫: 大腸癌の薬物療法—高齢者に対する評価を組み込んだ治療戦略—. トポテシン学術講演会, 名古屋, 平成23年11月22日.
 35. 古瀬純司: EBMに基づいた消化器癌薬物治療の話題を中心に. 第2回多摩チーム医療 Workshop 2011, 東京, 平成23年12月3日.
 36. 長島文夫: 大腸癌. 第5回磐梯熱海オンコロジーセミナー, 郡山, 平成23年12月4日.
 37. 古瀬純司: 分子標的治療と保険診療の問題点. 第141回日本医学会シンポジウム, 東京, 平成23年12月8日.
 38. 長島文夫: 大腸癌治療における臨床試験データの解釈—臨床的解釈と統計的解釈—. GI Cancer Academy 2011, 東京, 平成23年12月10日.
 39. 古瀬純司: Second Interim Analysis of GEDION-

Subgroup Analysis by initial sorafenib dose. 第5回日本肝がん分子標的治療研究会, 東京, 平成24年1月14日.

40. Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Takashima A, Ueno M, Ikeda M, Hamamoto Y, Ishii H, Boku N, Furuse J: Randomized phase II trial of gemcitabine plus S-1 combination therapy versus S-1 in advanced biliary tract cancer: Results of the Japan Clinical Oncology Group study (JCOG0805). 2012 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, CA, Jan. 19-21, 2012.
41. 長島文夫: ゲノム薬理学と高齢者総合的機能評価による個別化医療の可能性. 第33回日本病院薬剤師会近畿学術大会分科会1 がん領域における薬剤師職能の拡大, 大阪, 平成23年1月21日.
42. 古瀬純司: 膵癌化学療法: 治療成績の向上を目指して. 第14回多摩がん勉強会, 東京, 平成24年2月3日.

論文

邦文

1. 古瀬純司: 胆嚢・胆管がん. かかりつけ医から専門医への質問. 治療増刊号 93: 915-917, 2011.
2. 古瀬純司, 土岐真朗, 北村浩, 廣川智, 長島文夫: がん合併症の管理. 黄疸の原因とその対応. 癌と化学療法 38(4): 540-544, 2011.
3. 本告成淳, 川瀬隆志, 西村仁, 細川祐子, 金野朋子, 花井智寿子, 北川尚子, 税所宏光, 古瀬純司: mLOLFOX6/Bevacizumabによる治療開始後に脾臓が増大し Oxaliplatin 休薬により縮小した大腸癌の2例. 癌と化学療法 38(4): 677-680, 2011.
4. 古瀬純司, 廣川智, 北村浩, 長島文夫: 胆道癌化学療法の最新情報. 胆と膵 32(4): 277-282, 2011.
5. 古瀬純司, 北村浩, 廣川智, 長島文夫: がん化学療法の進歩. 臓器別がん治療. 膵がん・胆道がん. 化学療法の領域 27(S-1): 152-159, 2011.
6. 長島文夫, 廣川智, 北村浩, 古瀬純司: 切除不能・再発大腸癌の化学療法—分子標的薬の位置づけ—. 臨床消化器内科 26(6): 653-660, 2011.
7. 古瀬純司, 北村浩, 廣川智, 高須充子, 長島文夫: 進行胆道癌に対する S-1 療法の治療成績. 肝胆膵 62(6): 1140-1145, 2011.
8. 古瀬純司, 北村浩, 廣川智, 高須充子, 長島文夫: 癌分子情的治療: 歩みと今後. カテゴリー別癌分子標的治療薬. mTOR 阻害薬・プロテアソーム阻害薬. The Liver Cancer Journal 3(2): 41-46, 2011.
9. 古瀬純司, 北村浩, 廣川智, 高須充子, 長島文夫: 肝細胞がん. 消化器外科 NURSING 16(7): 70-74, 2011.
10. 古瀬純司, 北村浩, 廣川智, 高須充子, 長島文夫: 肝細胞がんに対する分子標的治療の現況. 最新医学 66(8): 89-94, 2011.
11. 古瀬純司, 北村浩, 廣川智, 高須充子, 長島文夫: 肝細胞癌の全身化学療法の進歩と治療成績—

殺細胞性薬剤を中心に. 肝胆膵画像 13(6): 587-592, 2011.

12. 古瀬純司, 北村浩, 高須充子, 長島文夫: 胆道がん化学療法と看護のポイント. 消化器外科 NURSING 2011 秋季増刊: 98-108, 2011.
13. 古瀬純司: 膵・胆道癌. 外来癌化学療法 2(3): 21-25, 2011.
14. 古瀬純司, 北村浩, 高須充子, 春日章良, 長島文夫: 臓器別薬物療法. 8. 胆道癌 ③進行・再発(切除不能を含む) 治療. 臨床外科 66(11) 増刊号: 201-208, 2011.
15. 古瀬純司, 高須充子, 北村浩, 春日章良, 長島文夫: 肝門部胆管癌. (2) 治療 e. 化学療法. 臨床消化器内科 26(13): 1761-1767, 2011.
16. 高須充子, 古瀬純司: 胆道がんの化学療法の適応と実際. 臨床腫瘍プラクティス 7(4): 381-384, 2011.
17. 金子周一, 古瀬純司, 工藤正俊, 池田健次(新規抗がん剤使用ガイド作成委員会), 本多政夫, 中本安成, 恩地森一, 汐田剛史, 横須賀収, 坂井田功, 竹原徹郎, 上野義之, 廣石和正, 西口修平, 森脇久隆, 山本和秀, 佐田通夫, 小尾俊太郎, 宮山士朗, 今井幸紀(肝がん新規治療法に関する研究班): 肝がんに対する新規抗がん剤に関する指針 2010 年度版. 肝臓 52(8): 532-551, 2011.
18. 井戸田一郎, 北村浩: 日本人 HIV 陽性 men who have sex with men における肛門管扁平上皮癌のスクリーニングについて. 感染症学雑誌 85(6): 658-663, 2011.
19. 春日章良, 高須充子, 北村浩, 長島文夫, 古瀬純司: わが国における sorafenib の成績と使い方. 内科 109(3): 380-385, 2012.
20. 古瀬純司, 春日章良, 北村浩, 高須充子, 長島文夫: 十二指腸乳頭部癌—診断・治療の最前線—. 乳頭部癌に対する化学療法. 胆と膵 33(3): 277-281, 2012.

欧文

1. Furuse J, Nagashima F: Inhibitor of MEK1/2, selumetinib, for biliary tract cancer. Expert Rev Gastroenterol Hepatol 5(5): 579-81, 2011.
2. Ueno H, Okusaka T, Furuse J, Yamao K, Funakoshi A, Boku N, Ohkawa S, Yokosuka O, Tanaka K, Moriyasu F, Nakamori S, Sato T: Multicenter phase II study of gemcitabine and S-1 combination therapy (GS Therapy) in patients with metastatic pancreatic cancer. Jpn J Clin Oncol 41(8): 953-8, 2011.
3. Kudo M, Imanaka K, Chida N, Nakachi K, Tak WY, Takayama T, Yoon JH, Hori T, Kumada H, Hayashi N, Kaneko S, Tsubouchi H, Suh DJ, Furuse J, Okusaka T, Tanaka K, Matsui O, Wada M, Yamaguchi I, Ohya T, Meinhardt G, Okita K: Phase III study of sorafenib after transarterial chemoembolisation in Japanese and

- Korean patients with unresectable hepatocellular carcinoma. *Eur J Cancer* 47(14): 2117-27, 2011.
4. Iijima M, Fukino K, Adachi M, Tsukamoto T, Murai M, Naito S, Minami H, Furuse J, Akaza H: Sorafenib-associated hand-foot syndrome in Japanese patients. *J Dermatol* 38(3): 261-6, 2011.
 5. Kindler HL, Ioka T, Richel DJ, Bennouna J, Létourneau R, Okusaka T, Funakoshi A, Furuse J, Park YS, Ohkawa S, Springett GM, Wasan HS, Trask PC, Bycott P, Ricart AD, Kim S, Van Cutsem E: Axitinib plus gemcitabine versus placebo plus gemcitabine in patients with advanced pancreatic adenocarcinoma: a double-blind randomised phase 3 study. *Lancet Oncol* 12(3): 256-62, 2011.
 6. Okusaka T, Furuse J, Funakoshi A, Ioka T, Yamao K, Ohkawa S, Boku N, Komatsu Y, Nakamori S, Iguchi H, Ito T, Nakagawa K, Nakachi K: Phase II study of erlotinib plus gemcitabine in Japanese patients with unresectable pancreatic cancer. *Cancer Sci* 102(2): 425-31, 2011.
 7. Furuse J, Okusaka T, Bridgewater J, Taketsuna M, Wasan H, Koshiji M, Valle J: Lessons from the comparison of two randomized clinical trials using gemcitabine and cisplatin for advanced biliary tract cancer. *Crit Rev Oncol Hematol* 80(1): 31-9, 2011.
 8. Venook AP, Papandreou C, Furuse J, de Guevara LL: The incidence and epidemiology of hepatocellular carcinoma: a global and regional perspective. *Oncologist* 15 Suppl 4: 5-13, 2010.
 9. Suzuki E, Furuse J, Ikeda M, Ishii H, Okusaka T, Nakachi K, Mitsunaga S, Ueno H, Morizane C: A phase I/II study of combined chemotherapy with mitoxantrone and uracil/tegafur for advanced hepatocellular carcinoma. *Jpn J Clin Oncol* 41(3): 328-33, 2011.
 10. Nobuoka D, Motomura Y, Shirakawa H, Yoshikawa T, Kuronuma T, Takahashi M, Nakachi K, Ishii H, Furuse J, Gotohda N, Takahashi S, Nakagohri T, Konishi M, Kinoshita T, Komori H, Baba H, Fujiwara T, Nakatsura T: Radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma induces glypican-3 peptide-specific cytotoxic T lymphocytes. *Int J Oncol* 40(1): 63-70, 2012.
 11. Morizane C, Okusaka T, Ueno H, Kondo S, Ikeda M, Furuse J, Shinichi O, Nakachi K, Mitsunaga S, Kojima Y, Suzuki E, Ueno M, Yamaguchi T: Phase I/II study of gemcitabine as a fixed dose rate infusion and S-1 combination therapy (FGS) in gemcitabine-refractory pancreatic cancer patients. *Cancer Chemother Pharmacol* 69(4): 957-64, 2012.
 12. Fukutomi A, Furuse J, Okusaka T, Miyazaki M, Taketsuna M, Koshiji M, Nimura Y: Effect of biliary drainage on chemotherapy in patients with biliary tract cancer: an exploratory analysis of the BT22 study. *HPB (Oxford)* 14(4): 221-7, 2012. doi: 10.1111/j.1477-2574.2011.00431.x. Epub 2012 Feb 1.
 13. Furuse J, Kasuga A, Takasu A, Kitamura H, Nagashima F: Role of chemotherapy in treatments for biliary tract cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* Mar 29, 2012 [Epub ahead of print]
 14. Kaneko S, Furuse J, Kudo M, Ikeda K, Honda M, Nakamoto Y, Onchi M, Shiota G, Yokosuka O, Sakaida I, Takehara T, Ueno Y, Hiroishi K, Nishiguchi S, Moriwaki H, Yamamoto K, Sata M, Obi S, Miyayama S, Imai Y: Guideline on the use of new anticancer drugs for the treatment of Hepatocellular Carcinoma 2010 update. *Hepatol Res* 42(6): 523-542, 2012. doi: 10.1111/j.1872-034X.2012.00981.x.
 15. Yamashita K, Nagashima F, Fujita K, Yamamoto W, Endo H, Miya T, Narabayashi M, Kawara K, Kiyama Y, Ando Y, Ando M, Sasaki Y: Phase I/II study of FOLFIRI in Japanese patients with advanced colorectal cancer. *Jpn J Clin Oncol* 41: 204-9, 2011.
 16. Fujita K, Sunakawa Y, Miwa K, Akiyama Y, Sugiyama M, Kawara K, Ishida H, Yamashita K, Mizuno K, Saji S, Ichikawa W, Yamamoto W, Nagashima F, Miya T, Narabayashi M, Ando Y, Hirose T, Sasaki Y: Delayed elimination of SN-38 in cancer patients with severe renal failure. *Drug Metab Dispos* 39: 161-4, 2011.
 17. Gordon MA, Zhang W, Yang D, Iqbal S, El-Khouiery A, Nagashima F, Lurje G, Labonte M, Wilson P, Sherrod A, Ladner RD, Lenz HJ: Gender-specific genomic profiling in metastatic colorectal cancer patients treated with 5-fluorouracil and oxaliplatin. *Pharmacogenomics* 12: 27-39, 2012.
 18. Okada K, Fujisaki J, Yoshida T, Ishikawa H, Sukanuma T, Kasuga A, Omae M, Kubota M, Ishiyama A, Hirasawa T, Chino A, Inamori M, Yamamoto Y, Yamamoto N, Tsuchida T, Tamegai Y, Nakajima A, Hoshino E, Igarashi M: Long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for undifferentiated-type early gastric cancer. *Endoscopy* Feb;44(2): 122-7, 2012.
- 著書**
1. 古瀬純司, 廣川智, 北村浩, 長島文夫: 閉塞性黄疸(胆管閉塞). *がん救急マニュアル Oncologic Emergency*. 大江裕一郎, 新海哲, 高橋俊二編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p. 76-80.
 2. 古瀬純司: 抗癌剤【肝胆膵】. *消化器外科レビュー* 2011. 渡邊昌彦, 國土典広, 土岐祐一郎監修.

- 東京, 総合医学社, 2011. p. 208-215.
- 古瀬純司編集: 消化器がん化学療法ハンドブック. 東京, 中外医学社, 2011.
 - 古瀬純司, 北村浩, 廣川智, 高須充子, 長島文夫: 原発性肝臓に対する化学療法. 消化器癌化学療法改訂3版. 大村健二, 瀧内比呂也編. 東京, 南山堂, 2011. p. 278-283.
 - 土岐真朗, 山口康晴, 高橋真一, 古瀬純司: 閉塞性黄疸より診断に至った胆管癌. 症例から学ぶメディカルオンコロジー. 中川和彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 朴成和, 直江知樹編. 大阪, 医薬ジャーナル, 2011. p. 236-245.
 - 長島文夫, 古瀬純司: 血管新生阻害薬に共通した有害事象とその対策. 肝障害 (ウイルス性肝炎炎憎悪を含む). 東京, 金原出版, 2011. p. 89-94.

その他

- 古瀬純司: 切除不能局所進行膵がんに対する標準的化学放射線療法の確立に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 総括・分担研究報告書. 2011.
- 古瀬純司: 肝がんの新治療法に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (肝炎等克服緊急対策研究事業) 分担研究報告書.
- 古瀬純司: 創薬化を目指した glypican-3 由来がんペプチドワクチン療法のエビデンス創出のための臨床試験. 厚生労働科学研究費補助金 (医療技術実用化総合研究事業) 分担研究報告書.
- 古瀬純司: がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の在り方に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (第3次対がん総合戦略研究事業) 分担研究報告書.
- 古瀬純司: 切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 分担研究報告書.
- 古瀬純司: 進行肝胆膵がんの治療法の開発に関する研究. 独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費 分担研究報告書.
- 古瀬純司: 抗悪性腫瘍薬による肝炎ウイルス再活性化の調査とその対応に関する研究. 独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費 分担研究報告書.
- 長島文夫: 高齢がん患者における高齢者総合的機能評価の確立とその応用に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 総括・分担研究報告書.

高齢医学教室

口 演

- 神崎恒一: 認知症とは. 小野薬品工業社内講演会, 静岡, 平成23年4月15日.
- 神崎恒一: 認知症とその治療方法について, 武田薬品工業社外講師勉強会, 武蔵野, 平成23年4月21日.

- 大荷満生: 介護予防概論. 平成23年度健康運動指導士養成講習会 (1), 財団法人 健康・体力づくり事業財団主催, 東京, 平成23年5月1日.
- 神崎恒一: 認知症の診断と治療・地域連携. 府中薬剤師会認知症講演会. 府中, 平成23年5月18日.
- 神崎恒一: 高齢者診療の話題, 三鷹市学術講演会, 三鷹, 平成23年5月20日.
- 神崎恒一: 地域における高齢者医療を担う急性期病院の役割—杏林大学病院高齢診療科の現状と今後—, 富山県立中央病院会員60周年記念講演会, 富山, 平成23年5月21日.
- 神崎恒一: 大脳白質病変と老年症候群, 第4回宮城老年医療フォーラム, 仙台, 平成23年6月4日.
- 長田正史, 岩畔哲也, 田中政道, 八反丸美喜子, 竹下実希, 塚原大輔, 杉山陽一, 長谷川浩, 須藤紀子, 神崎恒一: 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を施行後に発熱と皮疹, 好酸球増多を呈した一例, 第53回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 平成23年6月11日.
- 里村元, 田中政道, 佐藤道子, 清水昌彦, 須藤紀子, 神崎恒一: 抗精神病薬内服を契機に致死的不整脈を呈した1症例, 第53回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 平成23年6月11日.
- 塚原大輔, 長谷川浩, 竹下実希, 田中政道, 杉山陽一, 井上慎一郎, 岩田安希子, 長田正史, 須藤紀子, 神崎恒一: 嚥下障害によりPEG増セツ造設後リハビリ継続により経口摂取再開可能となった症例, 第53回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 平成23年6月11日.
- 神崎恒一: (パネルディスカッション 介護予防: 現状・課題と新たな方向性) 虚弱の概念と転倒予防, 第27回日本老年学会総会, 東京, 平成23年6月15日.
- 神崎恒一: シンポジウム 老年症候群と総合的機能評価, 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 平成23年6月16日.
- 長谷川浩¹, 永井久美子¹, 塚原大輔¹, 井上慎一郎¹, 竹下実希¹, 岩田安希子¹, 長田正史¹, 佐藤道子¹, 神崎恒一¹, 鳥羽研二² (杏林大・医・高齢医学¹, 国立長寿医療研究センター²): 中高年女性における脊柱矯正・柔軟体操の経年的効果 (8年次報告), 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 平成23年6月16日.
- 山田如子, 木村紗矢香, 小林義雄, 中居龍平, 鳥羽研二¹, 神崎恒一 (国立長寿医療研究センター¹): 高齢者総合機能評価を用いた認知症高齢者の抑うつ因子についての検討: 家族構成と介護保険サービス利用状況の及ぼす影響, 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 平成23年6月16日.
- 秋下雅弘¹, 江頭正人¹, 荒井秀典², 神崎恒一, 葛谷雅文³, 荒井啓行⁴, 高橋龍太郎⁵, 江澤和彦⁶, 川合秀治⁶, 鳥羽研二⁷ (東京大・老年病科¹, 京

- 都大・人間健康学², 名古屋大・老年化³, 東北大・老年化⁴, 東京都健康長寿医療センター⁵, 全国老人保健施設協会⁶, 国立長寿医療研究センター⁷): 高齢者医療の優先順位に関する意識調査, 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 平成23年6月17日.
16. 柴崎孝二¹, 小川純人¹, 山田思鶴², 飯島勝矢¹, 江頭正人¹, 神崎恒一, 鳥羽研二³, 秋下雅弘¹, 大内尉義¹ (東京大・医・附属病院老年病科¹, 医療法人ゆりかご², 国立長寿医療研究センター³): 心拍変動解析を用いた要介護高齢者の自律神経活性の評価とその意義に関する検討, 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 平成23年6月17日.
 17. 田中政道, 井上慎一郎, 長谷川浩, 神崎恒一: 高齢者における虚弱 (frailty) の評価, 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 平成23年6月17日.
 18. 木村紗矢香, 山田如子, 町田綾子, 神崎恒一, 鳥羽研二¹ (国立長寿医療研究センター¹): 周辺症状と介護負担に対するもの忘れ教室の有効性の検討, 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 平成23年6月17日.
 19. 杉山陽一, 長田正史, 長谷川浩, 須藤紀子, 神崎恒一, 荒木厚¹, 井藤英喜¹, 鳥羽研二² (東京都健康長寿医療センター¹, 国立長寿医療研究センター²): 肺炎で入院した高齢患者の入院期間に関する検討, 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 平成23年6月17日.
 20. 望月豊¹, 寺島直樹¹, 中島久美子², 大荷満生, 秦葭哉¹ (紘友会三鷹病院¹, 山梨学院大・健康栄養・管理栄養学科²): 虚弱高齢者におけるサルコペニアのCT画像による評価法の検討. 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 平成23年6月17日.
 21. 大荷満生: 食事脂肪・脂肪酸組成と脂質異常症, MBフォーラム脂質異常症講演会, 八王子, 平成23年6月22日.
 22. 神崎恒一: 認知症とADL, CNS Expert Meeting in Tokyo, 東京, 平成23年6月25日.
 23. 神崎恒一: パネルディスカッション「認知症診療におけるADLの視点」, CNS Expert Meeting in Tokyo, 東京, 平成23年6月25日.
 24. 須藤紀子, 根本圭子, 堀沢麻美: 医療機関から見てきた地域の高齢者医療の課題, 高齢者虐待について, 平成23年地域支援連絡会, 三鷹市新川中原地域包括支援センター, 三鷹, 平成23年7月1日.
 25. 長谷川浩: 三鷹・武蔵野地区における認知症連携, 三鷹市・武蔵野市医師会, 武蔵野, 平成23年7月6日.
 26. 神崎恒一: パネルディスカッション「認知症診療におけるADLの視点」, CNS Expert Meeting in Kyoto, 京都, 平成23年7月9日.
 27. Ohni M, Hata Y: Nutritional diversity and disease prevention measures in the elderly. Symposium -New nutritional approach to anti-atherosclerosis-The review and the future aspect. 第43回日本動脈硬化学会学術集会, 札幌, 平成23年7月15日.
 28. Kozaki K, Koshiba H, Mochizuki S, Nagai K: Evidence of the association of arterial stiffness and inflammation with cognitive dysfunction in older adults, 第43回日本動脈硬化学会学術集会, 札幌, 平成23年7月16日.
 29. 神崎恒一: 認知症の診断・治療の実際, 東三学術講演会, 豊橋, 平成23年7月20日.
 30. 神崎恒一: 認知症の診断・治療の実際, 焼津市医師会学術講演会, 焼津, 平成23年7月21日.
 31. 長谷川浩: もの忘れ外来 日常診療のポイント, 認知症画像診断講演会, 東京, 平成23年7月23日.
 32. 大荷満生: 脂質異常症の病態と治療 - 食事脂肪, 量から質へ -, 文京区脂質異常症懇話会, 東京, 平成23年7月27日.
 33. 神崎恒一: 生活習慣病と認知症, 超高齢社会に伴う疾患セミナー, 相模原, 平成23年8月2日.
 34. 神崎恒一: 認知症医療と周辺の話, 平成23年度老年医学サマーセミナー, 北佐久, 平成23年8月4日.
 35. 神崎恒一: 血管内皮細胞における過酸化脂質代謝産物4-HydroxynonenalによるMMP2の活性化とアポトーシスの誘導, 第12回Atherosclerosis and Biolipid Conference, 神戸, 平成23年8月6日.
 36. 大荷満生: ライフステージ別栄養管理 - 高齢期の栄養管理 -, 日本臨床栄養学会 認定臨床栄養医研修会, 東京, 平成23年8月7日.
 37. 大荷満生: 介護予防概論, 平成23年度健康運動指導士養成講習会 (2), 財団法人 健康・体力づくり事業財団主催, 東京, 平成23年8月12日.
 38. 神崎恒一: アルツハイマー病の制圧と最新医療, 認知症治療フォーラム in 多摩, 武蔵野, 平成23年9月1日.
 39. 神崎恒一: 認知症診断と治療の動向, かかりつけ医のための認知症診断研修会, 武蔵野, 平成23年9月6日.
 40. 長谷川浩: 認知症の日常診療のポイント, 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 平成23年9月7日.
 41. 吉岡麻央, 里村元, 佐藤道子, 長田正史, 池田哲也¹, 須藤紀子, 神崎恒一 (杏林大・医・付属病院顎口腔科¹): インプラント周囲炎を伴う治療抵抗性の感染症心内膜炎の一例, 第54回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 平成23年9月17日.
 42. 杉山小百合, 長田正史, 竹下実希, 長谷川浩, 神崎恒一, 滝徳宗¹ (杏林大・医・整形外科¹): 腎盂腎炎による敗血症を契機としたケルナー脳脊髄炎の2症例, 第54回日本老年医学会関東甲信越地

- 方会, 東京, 平成 23 年 9 月 17 日 .
43. 神崎恒一: 認知症の方々を地域で支えるために, 武蔵野市「認知症を知る月間」講演会, 武蔵野, 平成 23 年 9 月 23 日 .
 44. 神崎恒一: 認知症の診断・治療の実際, 城南認知症フォーラム, 東京, 平成 23 年 9 月 29 日 .
 45. 神崎恒一: 高齢患者における筋肉減少症 (サルコペニア) と転倒予防, 転倒予防医学研究会「第 8 回研究集会」, 東京, 平成 23 年 10 月 2 日 .
 46. 神崎恒一: 高齢者の生活習慣病管理, 第 12 回茨城生活習慣病フォーラム, つくば, 平成 23 年 10 月 7 日 .
 47. 保田直美¹, 吉田昌², 久保田啓介², 黒田純子², 原毅², 藤原優美², 中島久実子³, 大荷満生, 秦葭哉¹(紘友会三鷹病院¹, 国際医療福祉大・三田病院², 山梨学院大・健康栄養・管理栄養学科³): 胃切除手術侵襲による sarcopenia の一例 (1) - 「Acute Sarcopenia」の様相 -, 第 33 回日本臨床栄養学会総会, 東京, 平成 23 年 10 月 23 日 .
 48. 保田直美¹, 寺島直樹¹, 中島久実子², 大荷満生, 秦葭哉¹(紘友会三鷹病院¹, 山梨学院大・健康栄養・管理栄養学科²): Sarcopenia の予防・治療において「栄養・リハビリテーション協働」の重要性を示した症例, 第 33 回日本臨床栄養学会総会, 東京, 平成 23 年 10 月 23 日 .
 49. 大荷満生, 中島久実子¹, 秦葭哉²(山梨学院大・健康栄養・管理栄養学科¹, 紘友会三鷹病院²): 高齢者の筋肉量と炎症性サイトカインおよび性ホルモンの関係について, 第 33 回日本臨床栄養学会総会, 東京, 平成 23 年 10 月 23 日 .
 50. Kozaki K: Current Status of Medical Treatment in Long-term Care Facilities in Japan, 9th Asia/Oceania Regional Congress of Geriatrics and Gerontology, Melbourne, Oct. 26, 2011.
 51. 中居龍平, 山田如子, 木村紗矢香, 小林義雄, 長谷川浩, 神崎恒一: ハンカチテスト陽性の認知症患者における機能的近赤外スペクトロスコピー (fNIRS) による脳血流分布の検討, 第 30 回日本認知症学会学術集会, 東京, 平成 23 年 11 月 11 日 .
 52. 木村紗矢香, 山田如子, 町田綾子, 鳥羽研二¹, 神崎恒一 (国立長寿医療研究センター¹): もの忘れ教室の効果—周辺症状と介護負担の検討—, 第 30 回日本認知症学会学術集会, 東京, 平成 23 年 11 月 11 日 .
 53. 山田如子, 木村紗矢香, 小林義雄, 中居龍平, 鳥羽研二¹, 神崎恒一 (国立長寿医療研究センター¹): 認知症高齢者における抑うつ因子として家族構成と介護保険サービスが及ぼす影響の検討, 第 30 回日本認知症学会学術集会, 東京, 平成 23 年 11 月 11 日 .
 54. 長谷川浩: 認知症診療のポイント: 第 12 回北多摩認知症を考える会, 調布, 平成 23 年 11 月 18 日 .
 55. 神崎恒一: サルコペニアの疫学・予防と対策, 第 18 回日本未病システム学会学術集会, 名古屋, 平成 23 年 11 月 19 日 .
 56. 木村史子, 木村紗矢香, 山田如子, 神崎恒一, 鳥羽研二¹ (国立長寿医療研究センター¹): 音楽療法の実践. 第 18 回日本未病システム学会学術総会. 愛知, 平成 23 年 11 月 19 日 .
 57. 長谷川浩: 高齢者糖尿病の治療戦略: Diabetes & Cognitive Dysfunction, 東京, 平成 24 年 1 月 25 日 .
 58. 大荷満生: 脂質異常症の治療戦略 - 食事脂肪, 量から質の時代へ -, 新潟プライマリ・ケアセミナー, 新潟, 平成 23 年 11 月 26 日 .
 59. 神崎恒一: 認知症について—認知症の方々を地域で支えるために—, 三鷹市老人クラブ連合会講演会, 三鷹, 平成 23 年 11 月 29 日 .
 60. 大荷満生: 生活習慣病の予防 - 脂質異常症 -, 平成 24 年度健康運動指導士養成講習会 財団法人健康・体力づくり事業財団主催, 東京, 平成 24 年 1 月 13 日 .
 61. 大荷満生: 生活習慣病の予防 - 高尿酸血症 -, 平成 24 年度健康運動指導士養成講習会 財団法人健康・体力づくり事業財団主催, 東京, 平成 24 年 1 月 13 日 .
 62. 神崎恒一: 高齢者の脳心血管イベント予測のための非侵襲的検査の有用性, 第 7 回加齢研究会, 名古屋, 平成 24 年 1 月 21 日 .
 63. 大荷満生: 健康寿命のサイエンス - 高齢者の栄養を中心に - 「高齢者の栄養の多様性と疾病予防対策」, 第 14 回脂質栄養シンポジウム, 東京, 平成 24 年 1 月 28 日 .
 64. 神崎恒一: 認知症の方をみたら, 認知症に関する講演会, 東京, 平成 24 年 2 月 9 日 .
 65. 神崎恒一: 最近の認知症の診断と治療の動向, 三鷹市学術講演会, 三鷹, 平成 24 年 2 月 21 日 .
 66. 神崎恒一: 高齢者の非侵襲的動脈硬化検査の有用性, 第 3 回愛媛動脈硬化フォーラム, 松山, 平成 24 年 2 月 23 日 .
 67. 長谷川浩: 高齢者の不眠 不眠治療を考える会, 武蔵野, 平成 24 年 2 月 24 日 .
 68. 神崎恒一: 高齢者の転倒リスクの評価と予防, 第 55 回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 平成 24 年 3 月 10 日 .
 69. 竹下実希, 長田正史, 杉山小百合, 小原聡将, 八反丸美喜子, 塚原大輔, 長谷川浩, 神崎恒一, 布川雅雄¹ (杏林大・医・付属病院心臓血管外科¹): 腹部大動脈瘤ステントグラフト感染で内科的治療に苦慮した高齢男性の 1 例, 第 55 回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 平成 24 年 3 月 10 日 .
 70. 輪千督高, 塚原大輔, 宮城島慶, 岩畔哲也, 竹下実希, 須藤紀子, 長谷川浩, 神崎恒一: 臨床的に成人スティル病と診断した高齢者不明熱の一例, 第 55 回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京,

平成 24 年 3 月 10 日 .

71. 長谷川浩：認知症の地域連携について，三鷹市薬剤師会学術講演，三鷹，平成 24 年 3 月 21 日 .
72. 長谷川浩：新しい認知症治療薬を考える，認知症エキスパートミーティング，武蔵野，平成 24 年 3 月 23 日 .
73. 長谷川浩：高齢者と脂質異常症，北多摩医療圏学術講演会，調布，平成 24 年 3 月 27 日 .

論 文

1. Fukai S¹, Akishita M¹, Yamada S, Ogawa S¹, Yamaguchi K¹, Kozaki K, Toba K, Ouchi Y¹, (¹Department of Geriatric Medicine, The University of Tokyo) : Plasma sex hormone levels and mortality in disabled older men and women. *Geriatr Gerontol Int* 11(2): 196-203, 2011.
2. Shibata S, Levine BD: Biologic Aortic Age Derived from the Arterial Pressure Waveform. *J Appl Physiol* 110(4): 981-7, 2011.
3. Shibata S, Hastings JL, Prasad A, Fu Q, Bhella PS, Pacini E, Krainski F, Palmer MD, Zhang R, Levine BD. Congestive Heart Failure with Preserved Ejection Fraction Is Associated with Severely Impaired Dynamic Starling Mechanism. *J Appl Physiol* 110(4): 964-71, 2011.
4. Galbreath MM, Shibata S, Vangundy TB, Okazaki K, Fu Q, Levine BD. Effects of exercise training on arterial-cardiac baroreflex function in POTS. *Clin Auton Res* 21(2): 73-80, 2011.
5. Fujimoto N, Shibata S, Hastings JL, Carrick-Ranson GC, Bhella PS, Palmer MD, Fu Q, Levine BD. Effects of Pericardial Constraint and Ventricular Interaction on Left Ventricular Hemodynamics in the Unloaded Heart. *Am J Physiol Heart Circ Physiol* 300(5): H1688-95, 2011.
6. Jarvis SS, Vangundy TB, Galbreath MM, Shibata S, Okazaki K, Reelick MF, Levine BD, Fu Q. Sex differences in the modulation of vasomotor sympathetic outflow during static handgrip exercise in healthy young humans. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*. 301(1): R193-200, 2011.
7. Zhu YS, Tseng BY, Shibata S, Levine BD, Zhang R. Increases in cerebrovascular impedance in older adults. *J Appl Physiol*. 111(2): 376-81, 2011.
8. Fu Q, Vangundy TB, Shibata S, Auchus RJ, Williams GH, Levine BD. Exercise training versus propranolol in the treatment of the postural orthostatic tachycardia syndrome. *Hypertensio* 58(2): 167-75, 2011.
9. Ganio MS, Brothers RM, Shibata S, Hastings JL, Crandall CG. Effect of passive heat stress on arterial stiffness. *Exp Physiol* 96(9): 919-26, 2011.
10. Bhella PS, Prasad A, Heinicke K, Hastings JL, Arbab-Zadeh A, Adams-Huet B, Pacini EL, Shibata S, Palmer MD, Newcomer BR, Levine BD. Abnormal haemodynamic response to exercise in heart failure with preserved ejection fraction. *Eur J Heart Fail* 13(12): 1296-304, 2011.
11. Nagai K, Kozaki K, Sonohara K, Akishita M¹, Toba K (¹ University of Tokyo) : Relationship between interleukin-6 and cerebral deep white matter and periventricular hyperintensity in elderly women. *Geriatr Gerontol Int* 11: 328-332, 2011 .
12. 神崎恒一：老年者の脂質異常をどう扱うか . *Medicina* 48(5): 851-854, 2011.
13. 神崎恒一：薬剤起因生歩行障害 . *Geriatr. Med* 49(4): 473-476, 2011.
14. 神崎恒一：認知症の地域ケア 三鷹市・武蔵野市認知症医療連携の現状 . *人間の医学* 46 No. 2(通巻 242 号): 49-53, 2011.
15. 神崎恒一：三鷹市・武蔵野市に見る専門医・かかりつけ医・行政の連携 . *Medical ASAHI* 40(8): 25-26, 2011.
16. 神崎恒一：老年内科標榜をめざして . *日本医事新報* 4548: 43-46, 2011.
17. 神崎恒一：骨粗鬆症と高齢者の虚弱 . *Geriatr. Med* 49(9): 971-975, 2011.
18. 長谷川浩，神崎恒一：もの忘れ外来と認知症地域連携パスの試みー三鷹市・武蔵野市認知症医療連携の現状 . *Cognition and Dementia*10(4): 70(362)-73(365), 2011.
19. 神崎恒一：加齢と性差 . *総合臨床* 60(10): 2057-2065, 2011.
20. 神崎恒一：高齢者の転倒リスクと予防法 . *日本薬剤師会雑誌* 63(11): 83-86, 2011.
21. 長谷川浩，神崎恒一：中枢性老年症候群と介入の可能性ー白質病変と老年症候群，*医学のあゆみ* 239(5): 367-372, 2011.
22. 神崎恒一：CGA と包括的ケア , *Aging & Health* 20(3): 8-11, 2011.
23. 神崎恒一：サルコペニアと生活機能障害 , *Modern Physician* 31(11): 1323-1328, 2011.
24. 長谷川浩，神崎恒一：認知症の地域連携ー三鷹市・武蔵野市認知症医療連携の現状 , *内科* 108(6): 1231-1234, 2011.
25. 守屋佑貴子，長谷川浩：これからの高齢者医療 - 診断・治療・予防への対応 高齢者の救急疾患 脱水症 : *内科* , 108(6): 1052-1057, 2011.
26. 神崎恒一：老年症候群とは , *臨床栄養* 119(7): 750-754, 2011.
27. 神崎恒一：虚弱の概念と転倒予防 , *日本老年医学会雑誌* 49(1): 58-59, 2012.
28. 大荷満生：高齢者の栄養評価 , *静脈・経腸栄養* , *日本臨床* 63(3):585-589, 2010.
29. 神崎恒一：老年症候群とは , *臨床栄養* 119(7):

750-754, 2011.

30. 神崎恒一：虚弱の概念と転倒予防，日本老年医学会雑誌 49(1): 58-59, 2012.
31. 大荷満生：高齢者の栄養評価，静脈・経腸栄養，日本臨床 63(3): 585-589, 2010.
32. 大荷満生：高齢者の脂質異常症に対するスタチンとコレステロール吸収阻害薬併用療法の有用性，Geriatr Med. 49(10): 1155-1158, 2011.
33. 須藤紀子：高齢者の認知症評価法，腫瘍内科，科学評論社，8 (3): 260-269, 2011.
34. 須藤紀子：肝硬変，内科，南江堂，108 (6): 1103-1108, 2011.
35. Shibata S, Levine BD. The Effect of Exercise Training on Biologic Vascular Age in Healthy Seniors. Am J Physiol Heart Circ Physiol 302(6): H1340-6, 2012.
36. Okada Y, Galbreath MM, Shibata S, Jarvis SS, Vangundy TB, Meier RL, Vongpatanasin W, Levine BD, Fu Q. Relationship between sympathetic baroreflex sensitivity and arterial stiffness in elderly men and women. Hypertension 59(1): 98-104, 2012.

著書

1. 神崎恒一：第4章サルコペニアの症候別理解 第1節サルコペニアと老年症候群．サルコペニアの基礎と臨床．監修 鈴木隆雄 編集 島田裕之．東京，真興交易(株)，2011. p116-125.
2. 神崎恒一：Ⅲ臨床編 認知症の重症化に伴う医学的諸問題 各論 老年症候群と高齢者総合機能評価．認知症学(下)日本臨床 69 増刊号 10 (1012)．東京，日本臨床社，2011. p503-510.
3. 須藤紀子：食欲がない！，写真でわかる生活支援技術，伊藤英喜・高橋龍太郎・是枝祥子監修．東京，インターメディカ，2011. p166-167.
4. 須藤紀子：排便障害．健康長寿診療ハンドブック．日本老年医学会編集．東京，メジカルビュー社，2011. p66-68.
5. 須藤紀子：胃瘻の判断と本人，家族への説明と同意 誤嚥性肺炎 抗菌薬だけに頼らない肺炎治療．藤谷順子・鳥羽研二編．東京，医歯薬出版株式会社，2011. p103-107.
6. 須藤紀子：退院後の胃瘻管理 誤嚥性肺炎 抗菌薬だけに頼らない肺炎治療．藤谷順子・鳥羽研二編．東京，医歯薬出版株式会社，2011. p181-188.

その他

1. 神崎恒一：加齢に伴う血管病変に対するアミノ酸トランスポーター標的療法の探索研究．平成23年度科学研究費補助金基盤(C)研究実績報告書．
2. 神崎恒一：運動器の不安定性に関与する姿勢と中枢制御機能に着目した転倒予防ガイドライン策定研究．平成23年度厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)分担研究
3. 神崎恒一：認知症の包括的ケア提供体制の確立に関する研究．平成23年度厚生労働科学研究費

補助金(認知症対策総合研究事業)分担研究報告書．

4. 神崎恒一：漢方方剤「抑肝散」によるアルツハイマー病BPSD軽減効果の検証ープラセボ対照無作為化臨床第2比較試験．平成23年度厚生労働科学研究費補助金(認知症対策総合研究事業)分担研究報告書．
5. 神崎恒一：高齢者における加齢性筋肉減弱現象(サルコペニア)に関する予防対策確立のための包括的研究．平成23年度厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)分担研究報告書．
6. 神崎恒一：高齢者に対する適切な医療提供に関する研究．平成23年度厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)分担研究報告書．
7. 神崎恒一：加齢・認知症における脳皮質下病変の危険因子とその臨床的意義に関する縦断研究．平成23年度長寿医療研究開発費 分担研究報告書．
8. 神崎恒一：高齢者の慢性疾患に伴う低栄養・サルコペニアの評価に関する研究．平成23年度長寿医療研究開発費 分担研究報告書．
9. 神崎恒一：在宅医療支援病棟を中心とした地域在宅医療活性化についての検討及び多職種協働による在宅医療患者への介入の有効性評価について．平成23年度長寿医療研究開発費 分担研究報告書．
10. 須藤紀子：高齢がん患者における高齢者総合的機能評価の確立とその応用に関する研究．平成23年度厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)分担研究報告書．
11. 須藤紀子：摂食嚥下障害に係る調査研究事業．平成23年度厚生労働省老人保健健康増進等事業分担研究報告書．
12. 長谷川浩：高齢者の認知機能低下に対する，心機能の向上を介した新規治療概念の構築(副題：PDEⅢ阻害薬であるプレタールのもつ心拍数増加と強心作用に着目した，高齢者の認知機能低下に対する新規予防法・治療法の開発)．平成23年度長寿医療研究開発費 分担研究報告書．
13. 長谷川浩：近赤外線スペクトロスコピーを用いた認知症周辺症状の臨床評価．平成23年度科学研究費補助金基盤(C)研究実績報告書．

精神神経科学教室

口演

1. 鬼頭伸輔：経頭蓋磁気刺激によるうつ病治療：TMS-SPECT研究．第33回日本生物学的精神医学会，東京，平成23年5月21-22日．
2. 中島亨：こころとくすりと睡眠障害．日本心身医学会ランチョンセミナー，横浜，平成23年6月10日．
3. 中島亨，岡安美紀生，古賀良彦：ミルタザピンが服薬翌日の睡眠潜時に及ぼす影響．第14回日

- 本薬物脳波学会学術集会, 奈良, 平成 23 年 6 月 17-18 日.
4. 鬼頭伸輔: 「脳波で何がわかるか」経頭蓋磁気刺激による気分障害の治療と予測因子. 第 14 回日本薬物脳波学会, 奈良, 平成 23 年 6 月 17-18 日.
 5. Kito S, Hasegawa T, Koga Y: Low-frequency right prefrontal transcranial magnetic stimulation in treatment-resistant depression and changes in regional cerebral blood flow. 14th European Congress on Clin Neurophysiol and 4th Internat Conference on Transcranial Magnetic and Direct Current Stimulation, The 14th European Congress on Clin Neurophysiol, Rome, Jun. 21-25, 2011.
 6. Hasegawa T, Kito S, Nakajima T, Yamadera H, Koga Y: Changes in sleep architecture after repetitive transcranial magnetic stimulation in treatment-resistant depression. The 14th European Congress on Clin Neurophysiol, Roma, Jun. 21-25, 2011.
 7. 田中伸一郎: 広汎性発達障害を合併するうつ病の成人女性に対する作業療法の過程. 第 45 回日本作業療法学会, 大宮, 平成 23 年 6 月 24-26 日.
 8. 田中伸一郎: 事例提示. 第 15 回成田善弘精神療法ケースセミナー, 東京, 平成 23 年 6 月 25 日.
 9. 鬼頭伸輔, 長谷川崇: シータバースト経頭蓋磁気刺激によるうつ病治療の有効性に関する研究. 第 26 回財団法人井之頭病院研究基金助成論文発表会, 東京, 平成 23 年 7 月 14 日.
 10. 鬼頭伸輔, 長谷川崇, 古賀良彦: 低頻度経頭蓋磁気刺激によるうつ病治療と局所脳血流の変化. 第 13 回日本ヒト脳機能マッピング学会, 京都, 平成 23 年 9 月 1-2 日.
 11. 鬼頭伸輔: 経頭蓋磁気刺激によるうつ病の治療 TMS-SPECT 研究. 第 9 回脳核医学画像解析研究会, 東京, 平成 23 年 9 月 3 日.
 12. 中島亨, 岡安美紀生, 古賀良彦: ミルタザピンが服薬翌日の覚醒時脳波に及ぼす影響. 第 28 回日本脳電磁図トポグラフィ研究会, 阿蘇, 平成 23 年 9 月 30-10 月 1 日.
 13. 鬼頭伸輔, 長谷川崇, 古賀良彦: 右前頭前野への低頻度経頭蓋磁気刺激によるうつ病の治療効果は腹内側前頭前野の脳血流量と相関する. 第 28 回日本脳電磁図トポグラフィ研究会, 熊本, 平成 23 年 9 月 30-10 月 1 日.
 14. 岡安美紀生, 中島亨, 古賀良彦: ミルタザピンが服薬翌日の P300 に及ぼす影響. 第 28 回日本脳電磁図トポグラフィ研究会, 阿蘇, 平成 23 年 9 月 30-10 月 1 日.
 15. 長谷川崇, 鬼頭伸輔, 岡安美紀生, 古賀良彦: 両側前頭前野磁気刺激療法による難治性うつ病の治療と局所脳血流量の変化. 第 28 回日本脳電磁図トポグラフィ研究会, 熊本, 平成 23 年 9 月 30-10 月 1 日.
 16. 田中伸一郎: 統合失調症の軽症化とその後について—マクロな視点とミクロな舞台の交点からの一試論—. 第 34 回日本精神病理・精神療法学会, 名古屋, 平成 23 年 10 月 13-14 日.
 17. Nakajima T, Okayasu M, Koga Y: The change of sleepiness and sleep latency on the next morning after taking mirtazapine 15mg in normal male volunteers. World Sleep 2011, Kyoto, Oct. 16-20, 2011.
 18. Nakajima T: Ramelteon induces acute sleepiness on the patients who have the tendency of seasonal affective disorder. World Sleep 2011, Kyoto, Oct. 16-20, 2011.
 19. Okayasu M, Nakajima T, Koga Y: The change of cognitive function on the next morning after taking mirtazapine 15mg in normal male volunteers. World Sleep 2011, Kyoto, Oct. 16-20, 2011.
 20. 中島亨: ラメルテオン投与時の急性反応は季節性パターンが見られる個体で出現する. 第 107 回日本精神神経学会学術大会, 東京, 平成 23 年 10 月 26-27 日.
 21. 中島亨: 行動ロガーの現状と将来 (教育講演). 第 107 回日本精神神経学会学術総会, 東京, 平成 23 年 10 月 26-27 日.
 22. 鬼頭伸輔: 経頭蓋磁気刺激によるうつ病治療と脳機能画像 (教育講演). 第 107 回日本精神神経学会学術総会, 東京, 平成 23 年 10 月 26-27 日.
 23. 長谷川崇, 鬼頭伸輔, 中島亨, 藤田憲一, 古賀良彦: 杏林大学病院における経頭蓋磁気刺激の施行状況. 第 107 回日本精神神経学会学術総会, 東京, 平成 23 年 10 月 26-27 日.
 24. 中島亨: “眠気” という用語は同一の精神状態を表すものではないことの生理学的背景 —ミルタザピンで誘発される眠気の検討から—. 第 27 回日本催眠学会学術大会, 東京, 平成 23 年 10 月 29 日.
 25. 中島亨, 岡安美紀生, 山寺博史, 古賀良彦: ミルタザピンが服薬翌日の睡眠潜時に及ぼす影響. 第 41 回日本臨床神経生理学学会・学術大会, 静岡, 平成 23 年 11 月 10-12 日.
 26. 中島亨: 覚醒状態の生理学的測定をめぐるいくつかの問題 (シンポジウム/指定発言). 睡眠医学の発展と臨床神経生理学 (シンポジウム). 第 41 回日本臨床神経生理学学会・学術大会, 静岡, 平成 23 年 11 月 10-12 日.
 27. 鬼頭伸輔: TMS の臨床応用 精神科領域における応用. 第 41 回日本臨床神経生理学学会・学術大会, 静岡, 平成 23 年 11 月 10-12 日.
 28. 長谷川崇, 鬼頭伸輔, 中島亨, 藤田憲一, 古賀良彦: 当院におけるうつ病に対する経頭蓋磁気刺激療法. 第 41 回日本臨床神経生理学学会・学術大会, 静岡, 平成 23 年 11 月 10-12 日.
 29. 岡安美紀生, 中島亨, 古賀良彦: ミルタザピンが服薬翌日の認知機能に及ぼす影響. 第 41 回日本

臨床神経生理学会・学術大会，静岡，平成 23 年 11 月 10-12 日。

30. 中島亨，岡安美紀生，古賀良彦：2300 時のミルタザピン内服が翌朝の覚醒時脳波に及ぼす影響。第 27 回不眠研究会，東京，平成 23 年 12 月 3 日。
31. 岡安美紀生，中島亨，古賀良彦：2300 時のミルタザピン内服が翌朝の認知機能に及ぼす影響。第 27 回不眠研究会，東京，平成 23 年 12 月 3 日。
32. 中島亨：精神神経疾患と排尿障害の関わり合い。多摩泌尿器科医会講演会，三鷹，平成 24 年 3 月 16 日。

論文

1. 山寺博史：プライマリケア医のための睡眠薬の用い方—主に不眠症を対象として。医事新報 4562: 73-77, 2011.
2. 中島亨：短期不眠の予後と治療戦略。催眠と科 26: 23-26, 2011.
3. 中島亨：【どう対応する？処方する？入院患者の不眠】すでに睡眠薬が処方されているのに効かない場合，追加処方してよいですか？レジデントノート 13: 1220-1224, 2011.
4. 中島亨：統合失調症型障害。臨精医増刊号・わたしの診療手順。アークメディア：134-136, 2011.
5. Kito S, Hasegawa T, Koga Y: Low-frequency right prefrontal transcranial magnetic stimulation in treatment-resistant depression and changes in regional cerebral blood flow. Clin Neurophysiol 122: s125, 2011.
6. 鬼頭伸輔：磁気刺激によるうつ病の治療。総合リハビリテーション 39: 1061-1066, 2011.
7. 鬼頭伸輔：うつ病研究における国内の動向 前頭前野とうつ病の病態。Depress Front 9: 88-93, 2011.
8. Kito S, Hasegawa T, Koga Y: Cerebral blood flow in the ventromedial prefrontal cortex correlates with treatment response to low-frequency right prefrontal repetitive transcranial magnetic stimulation in the treatment of depression. Psychiatry Clin Neurosci 66: 138-145, 2012.
9. 田中伸一郎，内海健¹（¹東京藝大・保健管理センター）：統合失調症の精神療法—精神療法による効果と実践—。石郷岡純，岡崎祐士，樋口輝彦編：統合失調症治療の新たなストラテジー—非定型抗精神病薬によるアプローチ—。先端医学社：100-110, 2011.
10. 田中伸一郎（編集）：東日本大震災に対するこころのケア支援と復興支援対策ワークショップ・前篇。精神誌 113(8): 749-772, 2011.
11. 田中伸一郎（編集）：東日本大震災に対するこころのケア支援と復興支援対策ワークショップ・後篇。精神誌 113: 825-844, 2011.
12. 田中伸一郎，内海健¹（¹東京藝大・保健管理センター）：思春期・青年期の精神病理における内因性—緩やかな強度をめぐって—。臨精医 40:

1077-1086, 2011.

13. 田中伸一郎：ほんとの対話・津田均著『統合失調症探究—構造の中の主体性—』。こころの科学 161: 117, 2011.
14. 長谷川崇，山寺博史：臨床睡眠薬理の豆知識（第 14 回）抗うつ薬の睡眠改善効果。睡眠医療 5: 329-333, 2011.
15. 長谷川崇，鬼頭伸輔，山寺博史：特集 脳波で何がわかるか；気分障害。精神科 20: 51-55, 2012.

著書

1. 中島亨：過眠症（ナルコレプシーを含む）。今日の治療指針 2011. 山口徹，北原光夫，福井次矢編。東京，医学書院，2011. p. 876-877.
2. 中島亨：睡眠時無呼吸症候群。今日の精神疾患治療指針。樋口輝彦，市川宏伸，神庭重信ら編。東京，医学書院，2012. p. 537-541.

その他

1. 鬼頭伸輔，長谷川崇：シータバースト経頭蓋磁気刺激によるうつ病治療の有効性に関する研究。平成 22 年度財団法人井之頭病院研究紀要：3-11, 2011.

小児科学教室

口演

1. Bessho F: Tobacco Control and Children: Asian and US Collaboration. Topic Symposium: Global Tobacco Control and Child Survival. 2011 Joint Meeting of Pediatric Academic Societies and Asian Society for Pediatric Research, Denver, April 30-May 3, 2011.
2. 中村由紀子，三輪真美，島崎真希子，宮田世羽，小松祐美子，岡明：特別支援教育における小児神経科医の役割—医療機関の立場から。第 53 回小児神経学会総会，横浜，平成 23 年 5 月 26 日。
3. Kurayama R, Ito N, Nishibori Y, Fukuhara D, Akimoto Y¹, Higashihara E², Sai Y³, Kanai Y⁴, Yan K (¹Department of Anatomy, ²Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, ³Department of Hospital Pharmacy, Kanazawa University, Kanazawa, Japan, ⁴Department of Pharmacology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan): Role of Amino Acid Transporter LAT2 in the Activation of mTOR1 Pathway and the Pathogenesis of Crescentic Glomerulonephritis. The 11th Asian Congress of Pediatric Nephrology, Fukuoka, Jun. 2-4, 2011.
4. Yan K: Energy Imbalance of Podocyte in Nephrotic Syndrome. 11th Asian Congress of Pediatric Nephrology, Fukuoka, June 4, 2011
5. Fukuhara D, Ito Y, Ito N, Kurayama R, Takagi H, Nishibori Y, Yan K: A case of collapsing glomerulopathy treated with immunosuppressive

- therapy. The 11th Asian Congress of Pediatric Nephrology, Fukuoka, Jun. 2-4, 2011.
6. Nishibori Y, Fukuhara D, Kurayama R, Ito Y, Ito N, Takagi H, Yan K: A case of thin basement membrane nephropathy associated with sub-glomerular epithelial deposits. The 11th Asian Congress of Pediatric Nephrology, Fukuoka, Jun. 2-4, 2011.
 7. 宮澤永尚, 清水マリ子¹, 井上直之¹, 山本明日香¹ (¹ 稲城市立病院): 当院で経験した卵巣疾患の4症例～過去の報告との比較・検討～, 第102回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成23年6月10日.
 8. Fukuhara D, Ito Y, Ito N, Kurayama R, Takagi H, Nishibori Y, Yan K: A pediatric case of development of collapsing variant of focal segmental glomerulosclerosis after steroid-sensitive nephrotic syndrome. The 11th Asian Congress of Pediatric Nephrology, Fukuoka, Jun. 2-4, 2011.
 9. 楊國昌: 糖質ステロイド作用の過去・現在・未来. 第3回城南小児腎フォーラム, 東京, 平成23年7月11日.
 10. 楊國昌: 糖質ステロイド作用の過去・現在・未来. 第7回多摩小児腎フォーラム, 東京, 平成23年7月23日.
 11. 楊國昌: FSGSの genetic background. 第12回東京腎炎ネフローゼ研究会, 東京, 平成23年7月23日.
 12. 楊國昌: ネフローゼの病態からみた免疫抑制薬の抗タンパク尿作用機序, 石川県病院薬剤師会学術講演会, 石川, 平成23年7月30日.
 13. 中村由紀子, 三輪真美, 島崎真希子, 宮田世羽, 小松祐美子, 岡明, 加藤雅江: 外来で長期経過観察を行った代理ミュンヒハウゼン症候群の3例. 第114回小児科学会総会, 東京, 平成23年8月14日.
 14. Tanimura M, Bessho F: Childhood leukemia, antenatal medical irradiation and family history of leukemia. 70th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Nagoya, Oct. 3-5, 2011.
 15. 宮田世羽: 非癌性てんかん重積状態を初発症状とした1例. 日本てんかん学会, 新潟, 平成23年10月7日.
 16. 楊國昌: ネフローゼ症候群の成因. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14日.
 17. 中川美和, 倉山亮太, 高木永, 伊藤雄伍, 福原大介, 岡明, 楊國昌: CHDF導入により救命し Toxic Shock Syndrome が疑われた1例. 小児腎不全学会, 焼津, 平成23年10月20-21日.
 18. Bessho F, Kobayashi M, Ohmi K, Ida K, Horio K, Kaku H, Yokota S: Long-term outcome of children's cancer survivors -personal experience-. 43rd Congress of the International Society of Paediatric Oncology, Auckland, Oct. 26-30, 2011.
 19. Gemma Y, Bessho F, Yoshino H, Ohnishi H, Yoneyama R, Chiba N: Toxicity of high-dose methotrexate therapy in patients of acute lymphocytic leukemia with down syndrome. 43rd Congress of the International Society of Paediatric Oncology, Auckland, Oct. 26-30, 2011.
 20. Ohnishi H¹, Hosoi K, Yoshino H, Gemma Y, Ohtsuka K¹, Matsushima S¹, Bessho F, Watanabe T(¹Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, Mitaka, Tokyo, Japan): JAK2 splicing mutation in siblings presenting with myeloproliferative neoplasms, cardiomyopathy and hypogonadism. 43rd Congress of the International Society of Paediatric Oncology, Auckland, Oct. 26-30, 2011.
 21. Takagi H: Role of Ubiquitin Specific Protease 40. American Society of Nephrology Kidney Week 2011, Philadelphia, Nov. 9, 2011.
 22. 吉野浩, 宮澤永尚, 弦間友紀, 島崎真希子, 坂井武士, 別所文雄: 二次性白血病として発症した急性巨核芽急性白血病の一例. 第17回H-SCT研究会, 東京, 平成23年11月11日.
 23. 西堀由紀野: 脱ユビキチン化酵素 USP40 の機能解析-リガンド探索とノックアウトマウスの解析-. 第40回杏林医学会総会, 三鷹, 平成23年11月19日.
 24. 宮澤永尚: 骨原発前駆B細胞性リンパ芽球性リンパ腫の1例, 第53回日本小児血液・がん学会学術集会, 群馬県, 平成23年11月26日.
 25. 宮澤永尚, 弦間友紀, 吉野浩, 別所文雄: 骨原発前駆B細胞性リンパ芽球性リンパ腫の一例. 第53回日本小児血液・がん学会学術集会, 前橋, 平成23年11月26日.
 26. 宮澤永尚, 清水マリ子¹, 井上直之¹, 山本明日香¹ (¹ 稲城市立病院): マコプラズマ感染が疑われたぶどう膜炎の13歳男児例, 多摩小児感染免疫, 武蔵野, 平成24年2月18日.
 27. 瀧浦俊彦, 福原大介, 高橋昌兵, 吉野浩, 楊國昌, 岡明, 今留謙一¹ (¹ 国立成育医療センター研究所母子感染研究部感染防御研究科): 伝染性単核症の症状が遷延し慢性活動性EBウイルス感染症 (CAEBV) が疑われた一男児例. 第19回多摩小児感染免疫研究会, 武蔵野, 平成24年2月18日.
 28. 宮澤永尚, 弦間友紀, 吉野浩, 別所文雄: 神経芽腫の治療中に敗血症性肺塞栓を合併した一例. 第19回武蔵野小児血液・腫瘍懇話会, 立川, 平成24年3月8日.
- 論文
1. Takahashi K¹, Oka A, Mizuguchi M¹, Saitoh M¹, Takita J¹, Sato A¹, Mimaki M¹, Kato M¹, Ogawa

- S¹, Igarashi T¹ (¹Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, Tokyo, Japan): Interstitial deletion of 13q14.13-q32.3 presenting with Arima syndrome and bilateral retinoblastoma. *Brain Dev.* 33:353-6, 2011.
2. Koyano S¹, Inoue N², Oka A, Moriuchi H³, Asano K⁴, Ito Y⁵, Yamada H⁶, Yoshikawa T⁷, Suzutani T⁸ (¹ Department of Paediatrics, Asahikawa Medical University, Hokkaido, Japan, ²Department of Virology I, National Institute of Infectious Diseases, Tokyo, Japan, ³ Department of Paediatrics, Nagasaki University, Nagasaki, Japan, ⁴ Department of Obstetrics and Gynecology, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan, ⁵ Department of Maternal and Perinatal Services, National Centre for Child Health and Development, Tokyo, Japan, ⁶ Department of Obstetrics and Gynecology, Kobe University Graduate School of Medicine, Hyogo, Japan, ⁷ Department of Pediatrics, Fujita Health University, Aichi, Japan, ⁸ Department of Microbiology, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan) Japanese Congenital Cytomegalovirus Study Group. Screening for congenital cytomegalovirus infection using newborn urine samples collected on filter paper: feasibility and outcomes from a multicentre study. *BMJ Open.* 1:e000118, 2011.
 3. 岡明：意識障害を起こす疾患の鑑別診断．小児内科 43: 471-475, 2011.
 4. 岡明：熱性けいれん，髄膜炎．小児科診療 74: 431-436, 2011.
 5. 岡明：抗けいれん薬，抗てんかん薬．小児科診療 74: 793-798, 2011.
 6. 岡明：頭部MRI．周産期医学 41: 1441-1445, 2011.
 7. 岡明：脳室周囲白質軟化症．*Fetal & Neonatal Medicine* 3: 5-6, 2011.
 8. 岡明：てんかん．小児内科 43: 2050-2052, 2011.
 9. 楊國昌：中性アミノ酸輸送体LATと糸球体障害．*BIO Clinica*, 26(11): 46-50, 2011.
 10. 楊國昌：エネルギー代謝を標的としたプリン代謝拮抗薬．*医学のあゆみ* 237: 865-869, 2011.
 11. 楊國昌：中性アミノ酸輸送体LAT—糸球体での存在意義．*Annual Review 腎臓* : 221-227, 2011.
 12. Yan K, Ito N, Nakajo A, Kurayama R, Fukuhara D, Nishibori Y, Kudo A, Akimoto Y, Takenaka H: The struggle for energy in podocytes leads to nephritic syndrome. *Cell Cycle* 11:1504-1511, 2012.
 13. 吉野浩，別所文雄：小児慢性疾患の生活指導—最新の知見から—先天性溶血性疾患．小児科臨床 65: 825-830, 2012.
 14. Nishibori Y, Katayama K¹, Parikka M¹, Oddsson A¹, Nukui M¹, Hultenby K², Wernerson A², He B¹, Ebarasi L¹, Raschperger E¹, Norlin J¹, Uhlén M³, Patrakka J¹, Betsholtz C¹, Tryggvason K¹ (¹Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Division of Matrix Biology, Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden, ²Department of Laboratory Medicine, Division of Pathology, Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden, ³Department of Biotechnology, Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden): Glc1l deficiency leads to proteinuria. *J Am Soc Nephrol* 22(11):2037-46, 2011.
 15. 西堀由紀野，楊國昌：糸球体の発生における glucocorticoid induced transcript 1(Glc1l) の役割．*発達腎研究会誌* 19:17-20, 2011.
 16. 中村由紀子：見逃さない！日常診療の中にある子ども虐待・ネグレクト—院内虐待防止委員会(CAPS)をもつ医療機関の立場から．小児科診療 74(10): 1555-1558, 2011.
 17. 中村由紀子，加藤雅江，保崎明，島崎真希子，小松祐美子，三輪真美，清水マリ子，別所文雄，岡明：過去12年間に集中治療を要した虐待症例の検討．*日本小児科学会雑誌* 115(9): 1440-1444, 2011.
 18. Kurayama R, Ito N, Nishibori Y, Fukuhara D, Akimoto Y¹, Higashihara E², Ishigaki Y³, Sai Y⁴, Miyamoto K⁴, Endou H⁵, Kanai Y⁶, Yan K (¹Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, ² Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, ³Medical Research Institute, Kanazawa Medical University, Kanazawa, Japan, ⁴Department of Hospital Pharmacy, Kanazawa University, Kanazawa, Japan, ⁵Department of Toxicology and Pharmacology, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁶Department of Pharmacology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan): Role of amino acid transporter LAT2 in the activation of mTORC1 pathway and the pathogenesis of crescentic glomerulonephritis. *Lab Invest* 91(7):992-1006, 2011.
 19. Ito N, Nishibori Y, Ito Y, Takagi H, Akimoto Y¹, Kudo A¹, Asanuma K², Sai Y³, Miyamoto K³, Takenaka H⁴, Yan K (¹Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, ²Department of Internal Medicine, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, Japan, ³Department of Hospital Pharmacy, Kanazawa University, Kanazawa, Japan, ⁴Department of Biochemistry, Kyorin University

School of Medicine, Tokyo, Japan):mTORC1 activation triggers the unfolded protein response in podocytes and leads to nephrotic syndrome. Lab Invest 91(11):1584-95, 2011.

20. 弦間友紀, 高木永, 吉野浩, 別所文雄, 宮地幸¹(¹東京都立多摩療育園小児科): 好中球過分葉で発見された回腸広範切除後のビタミンB12欠乏症の一例. 小児科臨床 65: 61-65, 2012.
21. 井上直之, 尾戸真由, 佐藤美香, 別所文雄, 楊國昌: 蛋白漏出性胃腸症を伴ったクリプトスポリジウム症の乳児例. 日本小児科学会雑誌 115(11): 1786-1791, 2011.
22. 別所文雄: ミニ特集 性感染症の診断と治療 Update. 序論 思春期医学と小児科医 -若者の性への関わりとその意義について-. 小児科臨床 64(3): 333-337, 2011.
23. 別所文雄: ミニ特集 子どもをタバコの害から守るために -小児科医のできること-序論 なにゆえ子どもで, なにゆえ小児科医か. 小児科臨床 64(9): 917-1922, 2011.
24. 別所文雄: A. 小児保健の現状と課題, 提言. 悪性新生物からみて. 小児保健研究 70 (記念号): 32-33, 2011.
25. 別所文雄: 質疑応答 QA MR ワクチン接種後の特発性血小板減少性紫斑病. 日本医事新報 4578: 58-59, 2012.

著書

1. 岡明: 神経系疾患. 小児科学改訂第10版. 五十嵐隆編. 東京, 文光堂, 2011. 873-913
2. 岡明: 重症筋無力症. 小児科診療ガイドライン-最新の治療指針-第2版. 五十嵐隆編. 東京, 総合医学社, 2011. p.244-246.
3. 岡明: 先天性サイトメガロウイルス感染症の現状と臨床像. 小児神経学の進歩 第40集. 東京, 診断と治療社, 2011. p.121-128.
4. 岡明: 小児の痙攣. 症状からアプローチするプライマリケア. 日本医師会編. 東京, 日本医師会, 2011. p.335-339.
5. 岡明: MRIについて, 教えてください. これだけは知っておきたい小児ケアQ&A 第2版. 五十嵐隆編. 東京, 総合医学社, 2011. p.112-113.
6. 岡明: 乳幼児の小脳失調はどのように判定するのですか. 小児内科増刊号 疑問解決小児の診かた. 「小児内科」「小児外科」編集委員会編. 東京, 東京医学社, 2011. p.103-105.
7. 岡明 (分担執筆): 不随意運動. 診療実践小児神経科 改訂第2版. 大野・前垣編. 東京, 診断と治療社, 2011. p.269-275.
8. 楊國昌: 分子生物学的研究の方法論. 小児腎臓病学. 小児腎臓病学会編. 東京, 診断と治療社, 2011. p.85-89.
9. 楊國昌 (分担執筆): 急性糸球体腎炎. 今日の治療指針. 山口徹, 北原光夫, 福井次矢編集. 東京, 医学書院, 2011.

10. 新津麻子, 齊藤修¹, 清水直樹¹ (¹都立小児・救命・集中治療部・集中治療科): エアウェイの挿入. 小児科診療 vol175 特集号 小児の診療手技 100. 藤実彰一編, 東京, 診断と治療社, 2012. p.86-90.
11. 別所文雄 (分担執筆): 悪性新生物. すぐに役立つ小児慢性疾患支援マニュアル 改訂版. 加藤忠明, 西牧謙吾, 原田正平編. 東京, 東京書籍, 2012. p.37-47.
12. 別所文雄, 吉野浩: 鉄欠乏性貧血との鑑別が困難であったヘモグロビンAE症. 標本に学ぶ血液疾患症例. I 貧血・骨髄異形性症候群. 溝口秀昭, 齋藤英彦, 吉田彌太郎, 小澤敬也編, 大阪, 医薬ジャーナル社, 2012. p.21-24.

その他

1. 別所文雄: 第53回日本小児血液・がん学会 (会長: 林泰秀) 会長講演「染色体研究から始まった小児血液・がん研究の過去・現在・未来」. 前橋, 平成23年11月26日.
2. 別所文雄: 第53回日本小児血液・がん学会 (会長: 林泰秀) ワークショップ2 神経芽腫マスキリーニングのその後. 前橋, 平成23年11月25日.

外科学教室
(消化器・一般外科)

口演

1. 小嶋幸一郎, 長尾玄, 松岡弘芳, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 肥満と手術部位感染の関連性, 第45回日本成人病生活習慣病学会, 東京, 平成23年1月15-16日.
2. 竹内弘久, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 会長特別企画イブニングセミナー“ESDのさらなる挑戦”内視鏡治療拡大の可能性を秘めた内視鏡先端フード. 第7回日本消化管学会総会学術集会, 京都, 平成23年2月18日.
3. 阿部展次: QOLを考慮した新しい早期胃癌治療戦略-先行ESD+全胃温存腹腔鏡下リンパ節郭清術-. 第7回日本消化管学会総会学術集会 (ワークショップ), 京都, 平成23年2月19日.
4. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 柳田修, 森俊幸, 杉山政則: GISTに対する腹腔鏡補助下内視鏡的胃全層切除術. 第83回日本胃癌学会総会 (ミニビデオワークショップ), 青森, 平成23年3月4日.
5. 竹内弘久, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: ESDに対する治療戦略新型アタッチメントの有用性について-. 第83回日本胃癌学会総会, 青森, 平成23年3月5日.
6. Kobayashi T, Masaki T, Kogawa K, Matsuoka H, Sugiyama M, Atomi Y: A case of hemoptysis and acute respiratory syndrome (ARDS) after FOLFOX4 plus bevacizumab treatment. 18th Asian

- congress of surgery, Cebu, May 12-14, 2011.
7. 木暮道夫, 井手博子, 太田重久, 設楽雅人, 杉山政則: 緩和手術は高齢がん患者緩和に貢献しているか. 第 111 回日本外科学会総会, 東京, 平成 23 年 5 月 25 日.
 8. 阿部展次, 竹内弘久, 柳田修, 森俊幸, 杉山政則: 早期胃癌に対する究極の縮小手術としての先行 ESD+ 全胃温存腹腔鏡下リンパ節郭清術の意義. 第 111 回日本外科学会定期学術集会 (紙上発表) 平成 23 年 5 月 25 日.
 9. 鈴木裕, 中里徹矢, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則 (シンポジウム): 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) における腺癌の危険因子と治療戦略. 第 111 回日本外科学会定期学術集会, 東京 (誌上開催), 平成 23 年 5 月 25 日.
 10. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 内視鏡的切除適応外早期胃癌における胃周囲間膜内リンパ節外癌細胞の検索. 第 111 回日本外科学会定期学術集会 (紙上発表), 東京, 平成 23 年 5 月 25 日.
 11. 鈴木裕, 杉山政則, 中里徹矢, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕 (ミニパネルディスカッション): 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の治療戦略 - 手術適応および術式選択と至適郭清範囲に関する検討. 第 23 回日本肝胆膵外科学会総会, 東京, 平成 23 年 6 月 8 日.
 12. 中里徹矢, 鈴木裕, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 嚢胞性変化を呈した膵内分泌腫瘍の 1 例第 23 回日本肝胆膵外科学会総会, 東京, 平成 23 年 6 月 8 日.
 13. 木暮道夫, 井手博子, 太田重久, 設楽雅人, 杉山政則, 高橋純子, 別府正彦: 経鼻内視鏡使用による安全な PEG 交換. 第 92 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成 23 年 6 月 10 日.
 14. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 杉山政則, 跡見裕: 胃 ESD 困難例に対するカウンタートラックの工夫 - 新型内視鏡先端フードの有用性について -. 第 92 回日本消化器内視鏡学会地方会, 東京, 平成 23 年 6 月 10 日.
 15. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 胃腫瘍に対する内視鏡治療拡大の可能性を秘めた内視鏡先端フード -ESD から全層切除へ-. 第 92 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成 23 年 6 月 10 日.
 16. 中里徹矢, 鈴木裕, 山口高史, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則 (シンポジウム) 尾側膵切除術後の膵瘻に対する予防的・治療的内視鏡的膵管ステントの有用性. 第 92 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成 23 年 6 月 11 日.
 17. 竹内弘久, 杉山政則, 小嶋幸一郎, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕: PEG(Introducer 法) の欠点を克服した, 造設後初回カテーテル交換における工夫. 第 92 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成 23 年 6 月 11 日.
 18. 小林敬明, 正木忠彦, 松岡弘芳, 杉山政則, 跡見裕: 大腸癌肝転移に対する Bevacizumab 併用中の希な有害事象の 1 例, 外科系連合, 東京, 平成 23 年 6 月 16-17 日.
 19. 小林敬明, 小河晃士, 松岡弘芳, 正木忠彦, 杉山政則, 跡見裕: Oxaliplatin 併用療法中の希な有害事象. 腸疾患合同カンファ, 東京, 平成 23 年 6 月 17 日.
 20. Mori T. Reduced Port Surgery CARS (Computer Assisted Radiology and Surgery)25th International Congress and Exhibition, Berlin, June. 24, 2011.
 21. Kogawa K, Matsuoka H, Masaki T, Kobayashi T, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Which one is the optimal reconstruction for ultra-low anterior resection? ~ Comparison of J-pouch, coloplasty and straight anastomosis ~. The 57th annual congress of the Japan section and the 27th colorectal conference. The International College of Surgeon, Aichi, June. 25, 2011.
 22. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 杉山政則: ESD 後遺残症例の検討. 多摩 ESD club, 東京, 平成 23 年 6 月 28 日.
 23. 正木忠彦, 松岡弘芳, 小林敬明, 杉山政則: 低分化胞巣の大腸癌治療切除後の予後予測指標としての有用性. 第 75 回大腸癌研究会, 東京, 平成 23 年 7 月 8 日.
 24. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 青木久恵, 森俊幸, 杉山政則: NOTES から派生したショートタイプ軟性内視鏡を用いる single-incision multiport laparo-endoscopic surgery. 第 66 回日本消化器外科学会総会 (要望ビデオ), 名古屋, 平成 23 年 7 月 13 日.
 25. 鈴木裕, 杉山政則, 中里徹矢, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕 (パネルディスカッション): IPMN の治療戦略 - 手術適応および術式選択と至適郭清範囲. 第 65 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 平成 23 年 7 月 13 日.
 26. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 早期胃癌に対する ESD の治療成績. 第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 平成 23 年 7 月 13 日.
 27. 小林敬明, 松岡弘芳, 正木忠彦, 杉山政則, 跡見裕: 術後チューインガム咀嚼による腸管蠕動改善の検討. 第 66 回日本消化器外科学会, 名古屋, 平成 23 年 7 月 13-15 日.
 28. 吉敷智和, 鈴木裕, 小林敬明, 松岡弘芳, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 大腸直腸癌 stage IV 患者における術前予後予測因子についての検討. 日本消化器外科学会総会, 名古屋, 平成 23 年 7 月 13-15 日.
 29. 竹内弘久, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 中・下咽頭表在癌に対する

- ESD の有用性について. 第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 平成 21 年 7 月 15 日.
30. 木暮道夫, 太田重久, 井手博子, 設楽雅人, 杉山政則: 化学療法を併用した高齢者胃癌緩和治療の検討. 第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 平成 23 年 7 月 15 日.
 31. 鈴木裕, 中里徹矢, 長尾玄, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 高橋信一*, 杉山政則, 跡見裕 (*杏林大・医・第三内科) (ワークショップ): 急性膵炎重症化因子と合併症発症における内臓脂肪の影響. 第 40 回日本膵臓学会総会, 青森, 平成 23 年 7 月 29 日.
 32. 中里徹矢, 鈴木裕, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: MCN による Hemosuccus pancreaticus の 1 例. 第 40 回日本膵臓学会総会, 青森, 平成 23 年 7 月 29 日.
 33. Kogawa K, Matsuoka H, Masaki T, Kobayashi T, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Which one is the optimal reconstruction for ultra-low anterior resection? ~ Comparison of J-pouch, coloplasty and straight anastomosis ~. The 16th Conference on Colorectal and Anal Function. Tokyo, July. 30, 2011.
 34. 吉敷智和, 長尾玄, 松延修一郎, 松岡弘芳, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 虫垂炎手術における手術部位感染発症に関する検討. 腹部救急医学会総会, 福岡, 平成 23 年 8 月 11-12 日.
 35. 阿部展次, 竹内弘久, 杉山政則: 先行 ESD+ 全胃温存腹腔鏡下リンパ節郭清術の長期予後-症例集積研究としてのエビデンス. 第 81 回日本消化器内視鏡学会総会 (シンポジウム), 名古屋, 平成 23 年 8 月 17 日.
 36. 竹内弘久, 杉山政則, 阿部展次, 跡見裕: 胃瘻状態患者に対する地域連携の取り組み. 第 81 回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成 23 年 8 月 17 日.
 37. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 早期胃癌内視鏡治療適応拡大病変に対する ESD の中 / 長期成績. 第 81 回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成 23 年 8 月 17 日.
 38. 阿部展次, 竹内弘久, 杉山政則: ショートタイプ軟性内視鏡の開発-NOTES 派生手技としての single-incision multiport laparo-endoscopic surgery へ向けて. 第 81 回日本消化器内視鏡学会総会 (PD), 名古屋, 平成 23 年 8 月 18 日.
 39. 竹内弘久, 阿部展次, 杉山政則, 跡見裕: デタッチャブルフード使用による胃 ESD 困難例の克服. 第 81 回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 平成 23 年 8 月 18 日.
 40. Masaki T, Matsuoka H, Kobayashi T, Sato K, Sugiyama M, Atomi Y: The quality assurance of pelvic autonomic nerve preservation in rectal cancer surgery. International Surgical Week 2011, Yokohama, Aug. 28-Sep. 1, 2011
 41. Kishiki T, Masaki T, Matsuoka H, Kobayashi T, Abe N, Yanagida O, Mori T, Sugiyama M: Evaluation of an Inflammation-based Glasgow Prognostic Score (GPS) in Patients with Metastatic Colorectal Cancer. International Surgical Week, Yokohama, Aug. 28-Sep. 1, 2011
 42. Matsuoka H, Masaki T, Kogawa K, Kobayashi T, Abe N, Yanagida O, Mori T, Sugiyama M: Which one is the optimal reconstruction: comparison of straight, colonic j-pouch and coloplasty. International Surgical Week. Yokohama, Aug. 28-Sep. 1, 2011
 43. Takeuchi H, Abe N, Yanagida O, Mori T, Sugiyama M, Atomi Y, Nagafuji H, Kohno N: Endoscopic submucosal dissection for treatment of early stage oropharyngeal and hypopharyngeal carcinomas. International Surgical Week ISW2011. Yokohama, Aug. 31, 2011.
 44. Ohki A, Abe N, Masaki T, Sugiyama M: Microscopic cancer cell deposits in gastric cancer: whole-section analysis of the mesogastrium. International Surgical Week, Yokohama, Aug. 28-Sep. 1, 2011.
 45. 松岡弘芳, 正木忠彦, 高安甲平, 小林敬明, 小嶋幸一郎, 小河晃士, 吉敷智和, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 80 歳以上高齢者直腸癌患者における術後排便機能の検討. 第 17 回大腸肛門機能障害研究会, 東京, 2011 年 9 月 3 日.
 46. 杉山政則: 膵管ホルダーと mucosa squeeze-out 法を用いた膵管空腸粘膜吻合. 第 65 回手術手技研究会, 東京, 平成 23 年 9 月 10 日.
 47. 中里徹矢, 鈴木裕, 横山政明, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 高齢者急性胆管炎に対する内視鏡的胆道ドレナージの検討. 第 47 回日本胆道学会学術集会, 宮崎, 平成 23 年 9 月 16 日.
 48. 木暮道夫, 杉山政則, 佐竹亮介: 高齢者の急性胆嚢炎に対する PTGBD 治療 - その後. 第 47 回日本胆道学会総会, 宮崎, 平成 23 年 9 月 16 日.
 49. Kobayashi T, Masaki T, Matsuoka H, Sugiyama M, Atomi Y: Gum chewing accelerates defecation after lapaloyomy. International surgical week, Yokohama, Sep. 28, 2011.
 50. 小林敬明, 小河晃士, 松岡弘芳, 正木忠彦, 杉山政則: Oxaliplatin 併用療法中の希な有害事象. 42 回武蔵野消化器病談話会, 東京, 平成 23 年 10 月 15 日.
 51. 杉山政則: 消化器内視鏡診療における麻酔/鎮静薬に関するガイドライン・評価委員の立場から. 第 82 回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 平成 23 年 10 月 23 日.
 52. 小嶋幸一郎, 松木亮太, 新井健介, 坂本仁美, 松

- 岡弘芳, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 当院における rTM (リコンビナントトモンボモジュリン) の使用経験. 第 9 回日本消化器外科学会大会, 福岡, 平成 23 年 10 月 20-23 日.
53. 阿部展次, 竹内弘久. 杉山政則: カメラにも仕事をさせよう—ショートタイプ軟性内視鏡を用いた single-incision multiport laparo-endoscopic surgery. 第 82 回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 平成 23 年 10 月 21 日.
54. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 胃 ESD 困難例に対する新型内視鏡先端フードの有用性について. JDDW2011, 福岡, 平成 23 年 10 月 23 日.
55. 竹内弘久, 杉山政則, 小嶋幸一郎, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕: PEG(Introducer 法) の造設後初回カテーテル交換における工夫. JDDW2011, 福岡, 平成 23 年 10 月 23 日.
56. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小河晃士, 吉敷智和, 高安甲平, 小林敬明, 小嶋幸一郎, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 直腸癌における肛門温存手術の功罪. 第 19 回 Digestive Disease Conference, 東京, 2011 年 11 月 9 日.
57. Masaki T: Nationwide survey on adult type chronic intestinal pseudo-obstruction in the surgical institutions in Japan. IASGO 2011, Tokyo, Nov. 9-12, 2011.
58. Masaki T: Intraoperative radiotherapy for advanced lower rectal cancer – A new option. IASGO 2011, Tokyo, Nov. 9-12, 2011.
59. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 柳田修, 森俊幸, 杉山政則: 胃十二指腸病変に対する hybrid NOTES としての内視鏡的全層切除術. 第 73 回日本臨床外科学会総会 (ビデオワークショップ), 東京, 平成 23 年 11 月 19 日.
60. 鈴木裕, 杉山政則, 中里徹矢, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕 (ビデオワークショップ): 手技・器機の改良による膵管空腸粘膜吻合の安全性に関する検討. 第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 平成 23 年 11 月 19 日.
61. 木暮道夫, 池袋賢一, 井手博子, 太田重久, 杉山政則: 超高齢者に対する PEG の適否—造設後の早期死亡例の検討から—第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 平成 23 年 11 月 19 日.
62. 小林敬明, 正木忠彦, 松岡弘芳, 杉山政則: ガム咀嚼による術後腸管蠕動回復効果についての生理学的検討. 第 40 回杏林医学会, 東京, 平成 23 年 11 月 19 日.
63. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小河晃士, 吉敷智和, 高安甲平, 小林敬明, 小嶋幸一郎, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 肛門機能からみた腹腔鏡補助下前方切除術の妥当性. 第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 平成 23 年 11 月 25 日.
64. 正木忠彦, 杉原健一, 中島淳, 武藤徹一郎: わが国における慢性特発性偽性腸閉塞症 (CIIP) に対する外科治療の実態. 第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 平成 23 年 11 月 25-26 日.
65. 小林敬明, 正木忠彦, 松岡弘芳, 杉山政則: Xelox+Bevacizumab 施行中に脾腫・食道静脈瘤を来した一例. 第 66 回大腸肛門病学会, 東京, 平成 23 年 11 月 25-26 日.
66. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小河晃士, 吉敷智和, 高安甲平, 小林敬明, 小嶋幸一郎, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 大腸癌手術の現況. 第 12 回参宮橋学術講演会, 東京, 平成 23 年 11 月 28 日.
67. 阿部展次, 竹内弘久, 杉山政則: NOTES 前段階としての経腹壁の軟性内視鏡手術の有用性に冠する検討. 第 24 回日本内視鏡外科学会総会, 大阪, 平成 23 年 12 月 8 日.

論文

1. 杉山政則: 転移性肝癌・多様化する治療. 臨床消化器内科 26(4): 381-382, 2011.
2. 杉山政則: EST・安全で確実な内視鏡的乳頭切開術. 消化器内視鏡 23(3): 496-500, 2011.
3. 島村淳一, 田中良太, 武井秀史, 柳田修, 杉山政則, 呉屋朝幸: 胃癌孤立性肺転移の 1 例. 日本呼吸器外科学会雑誌 25(5): 502-504, 2011.
4. 木暮道夫, 井手博子, 太田重久, 杉山政則: 高齢者消化器癌治療: 手術に関連する因子が術後生存に及ぼす影響の検討. 日本高齢消化器病学会誌 13(2): 122-126, 2011.
5. 木暮道夫, 杉山政則, 佐竹亮介, 細内康男: 成人発症の先天性胆道拡張症の 1 家族例—本方報告例の検討—胆道 25(1): 120-126, 2011.
6. 森俊幸, 阿部展次, 青木久恵, 杉山政則: 腹腔鏡下膵仮性嚢胞内瘻. 胆と膵 32(1): 79-84, 2011
7. 森俊幸, 渡邊友美, 青木久恵, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 内視鏡外科手術をめぐる最近のトピックス SPS. 消化器外科 34(1): 29-36, 2011.
8. 森俊幸, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 【胆石症の病態・診断・治療】肝内結石症に対する治療 手術治療. 消化器外科 34: 1757-1765, 2011.
9. 森俊幸, 青木久恵, 鈴木裕, 阿部展次, 杉山政則: 【消化器内視鏡外科手術手技の常識】肝胆膵腹腔鏡下胆嚢摘出術の戦略と術中胆管損傷予防策. 手術 65: 1771-1776, 2011.
10. 小西文雄, 木村泰三, 森俊幸, 松田公志: 内視鏡外科手術をめぐる最近のトピックス日本内視鏡外科学会技術認定制度の現況: 消化器一般領域. 消化器外科 34(1): 87-91, 2011.
11. Tanigawa N, SW Lee, Kimura T, Mori T, Uyama I, Nomura E, Okuda J, Konishi F: The Endoscopic Surgical Skill Qualification System for Gastric Surgery in Japan. Asian J Endosc Surg 4:112-115, 2011.
12. 福島正嗣, 平野宏, 鈴木浩之, 森俊幸, 大園研: 当院内視鏡センターの治療実績と病診連携の現

- 状. 練馬医学会誌 17: 94-96, 2011.
13. Ueno H, Mochizuki H, Shirouzu K, Kusumi T, Yamada K, Ikegami M, Kawachi H, Kameoka S, Ohkura Y, Masaki T, Kushima R, Takahashi K, Ajioka Y, Hase K, Ochiai A, Wada R, Iwaya K, Nakamura T, Sugihara K: Actual status of distribution and prognostic impact of extramural discontinuous cancer spread in colorectal cancer. *J Clin Oncol.* 29(18):2550-6, 2011.
 14. 正木忠彦: 大腸ポリープ・ポリポーシス. 消化器疾患最新の治療 2011-2012, p219-222, 南江堂, 東京, 2011.
 15. Abe N, Takeuchi H, Ohki A, Yanagida O, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Long-term outcomes of combination of endoscopic submucosal dissection and laparoscopic lymph node dissection without gastrectomy for early gastric cancer patients who have a potential risk of lymph node metastasis. *Gastrointest Endosc* 74:792-797, 2011.
 16. Abe N, Takeuchi H, Ohki A, Aoki H, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Single-incision multiport laparoendoscopic surgery using a newly developed short-type flexible endoscope: a combined procedure of flexible endoscopic and laparoscopic surgery. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2011 Sep 17 [Epub ahead of print].
 17. 阿部展次, 小河晃士, 鈴木裕, 森俊幸, 杉山政則: 肝外胆管(胆管, 胆嚢管, 総胆管) 先天異常. 別冊日本臨床新領域別症候群シリーズ 15: 2-15, 2011.
 18. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 青木久恵, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 腹腔鏡補助下内視鏡的胃全層切除の適応と実際. *臨床消化器内科* 26: 305-310, 2011.
 19. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 青木久恵, 森俊幸, 杉山政則: Natural orifice transluminal endoscopic surgeryによる胆嚢摘出術. *外科* 73: 511-517, 2011.
 20. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: SM 早期胃癌に対する先行ESD+腹腔鏡下リンパ節郭清術. *消化器内視鏡* 23: 907-912, 2011.
 21. Matsuoka H, Masaki T, Kobayashi T, Sato K, Mori T, Sugiyama M, Atomi Y: Which is the preference of choice either life with a stoma or evacuatory disorder following rectal cancer surgery? *Hepatogastroenterology.* 58:749-51, 2011.
 22. Takahara T, Kwee TC, Haradome H, Aoki K, Matsuoka H, Nakamura A, Honya K, Takahashi M, Yamashita T, Luijten PR, Imai Y.: Peristalsis gap sign at cine magnetic resonance imaging for diagnosing strangulated small bowel obstruction: feasibility study. *Jpn J Radiol.* 29:11-8, 2011.
 23. 鈴木裕, 杉山政則, 中里徹矢, 森俊幸, 跡見裕: 胆嚢腺筋腫症の画像診断. *胆道* 25: 141-144, 2011.
 24. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 橋本佳和, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 【肝・胆・膵外科における感染症に対する治療戦略】 高齢者急性胆管炎に対する内視鏡的胆道ドレナージは有用か? *日本外科感染症学会雑誌* 8: 55-60, 2011.
 25. 鈴木裕, 杉山政則, 中里徹矢, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕: 【IPMN の手術適応の見直し】 腺癌の予測式を用いた IPMN の治療戦略. *消化器内科* 52: 666-669, 2011
 26. 鈴木裕, 杉山政則, 中里徹矢, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸: 【膵臓症候群(第2版) その他の膵臓疾患を含めて】 慢性膵炎 胆石性慢性膵炎. *日本臨床 別冊・膵臓症候群* 153-156, 2011.
 27. 鈴木裕, 杉山政則, 中里徹矢, 横山政明, 橋本佳和, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕: 【画像診断の進歩をいかに手術に役立てるか】 膵癌. *臨床外科* 66: 1058-1065, 2011.
 28. 鈴木裕, 杉山政則, 跡見裕: 胆膵外科における現況と今後. *日本医師会雑誌* 140: 1685-1689, 2011.
 29. 鈴木裕, 杉山政則, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸: 【消化器病における性差医療】 膵嚢胞性疾患と性差医療 41: 1462-1466, 2011.
 30. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 大倉康男, 杉山政則: 未分化型早期胃癌への内視鏡的切除の適応拡大. *消化器内科* 53(4): 356-359, 2011.
 31. 吉敷智和, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 膵頭十二指腸切除術後完全外膵瘻に対して非観血的内瘻化術を施行した1例. *日本臨床外科学会雑誌* 72(9):2384-2388, 2011.
 32. 小河晃士, 松岡弘芳, 正木忠彦, 杉山政則: 消化器疾患(痔核・痔瘻・直腸脱). *消化器疾患診療最新ガイドライン 第2版*. 高橋信一編. 東京, 総合医学社, p. 123-126, 2011.
 33. 中里徹矢, 杉山政則, 鈴木裕, 田内優, 高橋信一: 【膵臓症候群(第2版) その他の膵臓疾患を含めて】 その他の膵臓症候群および膵疾患に伴う病態 Hemosuccus pancreaticus. *日本臨床 別冊・膵臓症候群* 433-435, 2011.
 34. 中里徹矢, 鈴木裕, 杉山政則: 診断の指針 治療の指針 胆嚢がんの診断と治療. *総合臨床* 60:2143-2144, 2011.
- 著書**
1. 杉山政則, 鈴木裕, 阿部展次: 膵嚢胞性腫瘍. *消化器診療細心ガイドライン*. 第2版. 高橋信一編. 東京, 総合医学社, 2011. p253-256.
 2. 杉山政則, 鈴木裕, 中里徹矢, 阿部展次, 森俊

幸：瘻空腸吻合（瘻管空腸粘膜吻合）. *Digestive Surgery NOW*. No. 14 吻合術と縫合術. 杉山政則編. 東京, メディカルレビュー社, 2011. p93-101.

3. 小林敬明：外科医のための循環器必須知識 吉野秀朗編. 東京. *Medical view*, 2011. p.234-241.
4. 鈴木裕, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕：胆膵 肝内結石症の診断と治療. 林紀夫, 日比紀文, 上西紀夫, 下瀬川徹編集. 東京, 中外医学社, 2011. p.286-292.
5. 鈴木裕, 杉山政則：その他の膵腫瘍（膵島腫瘍, SPT, 転移性膵腫瘍など）. *消化器外科レビュー* 2011 最新主要文献と解説. 渡邊昌彦, 國土典宏, 土岐祐一郎監修. 東京, 総合医学社, 2011. p.149-152.
6. 竹内弘久, 大浦紀彦：8. PEG 造設後早期合併症とその対策 Q72 PEG 挿入部周囲のスキントラブルの対策は？. *徹底ガイド 胃ろう (PEG) 管理 Q & A*, p.173-174, 2011.
7. 竹内弘久, 正木忠彦, 杉山政則：消化管のヘルニア. *消化器診療最新ガイドライン第2版徹底ガイドライン*, 2011.

その他

1. 正木忠彦：進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究. 厚生労働省科学研究費（がん臨床研究事業）「進行大腸がんに対する腹腔鏡下手術と開腹手術の根治性に関するランダム化比較試験」平成22年度分担研究報告書. 平成23年3月.
2. 正木忠彦：慢性特発性偽性腸閉塞症に対する外科治療成績の実態. 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「慢性特発性偽性腸閉塞症 (CIIP) の我が国における疫学・診断・治療の実態調査研究」平成22年度分担研究報告書. 平成23年3月.
3. 松岡弘芳, 林田康男「粘膜直腸脱症候群」*ドクターサロン* 54巻 no. 6月号 P. 30-32. (2011年3月1日 ラジオ NIKKEI 放送分)
4. 竹内弘久, 杉山政則, 跡見裕：胃瘻・腸瘻における栄養管理の基礎（適応から管理方法まで）と“PEGのさらなる挑戦”. 第14回関東嚥下訓練技術者講習会, 東京, 平成23年2月6日.

外科学教室

(呼吸器・甲状腺外科)

口 演

1. 吉田勤¹, 南優子¹, 柴綾¹, 中里宜正², 野口雅之¹ (¹筑波大学大学院・人間総合科学研究科, ²群馬県立がんセンター・呼吸器外科/病院病理部)：肺腺癌症例における GOLM1 遺伝子発現の特徴. 第100回日本病理学会総会, 横浜, 平成23年4月28日.
2. 橘啓盛, 中里宜正¹, 藤田敦¹, 田中良太, 呉屋朝

幸 (¹群馬県立がんセンター・呼吸器外科)：リアルタイム CT ガイド下経皮肺針生検における迅速細胞診併用の有用性. 第28回日本呼吸器外科学会総会, 別府, 平成23年5月12日.

3. 田中良太, 松脇りえ, 柴田英克, 関恵理奈, 平山博樹¹, 佐藤俊彦¹, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 呉屋朝幸 (¹さいたまセントラルクリニック・放射線科)：TrueFISP が術前の隣接臓器浸潤の評価に有用であった気管支形成術の一例. 第28回日本呼吸器外科学会総会, 別府, 平成23年5月12日.
4. 清水麗子, 武井秀史, 橘啓盛, 河内利賢, 苅田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 呉屋朝幸：血液透析施行中の肺癌患者に対する手術治療. 第28回日本呼吸器外科学会総会, 別府, 平成23年5月13日.
5. 喜多秀文¹, 白石裕治¹, 葛城直哉¹, 兵庫谷章¹, 平松美也子¹, (¹複十字病院・呼吸器外科)：MRSA 膿胸に対する開創術後に胸郭形成+広背筋弁充填術を施行した1例. 第28回日本呼吸器外科学会総会, 別府, 平成23年5月13日.
6. 橘啓盛, 中里宜正¹, 藤田敦¹, 呉屋朝幸 (¹群馬県立がんセンター・呼吸器外科)：化学療法後に切除しえた縦隔原発 germ cell tumor の1例. 第28回日本呼吸器外科学会総会, 別府, 平成23年5月13日.
7. 長島鎮, 清水麗子, 松脇りえ, 柴田英克, 関恵理奈, 橘啓盛, 河内利賢, 苅田真, 中里陽子, 田中良太, 武井秀史, 呉屋朝幸：胸壁発生 Ewing 肉腫の1切除例. 第28回日本呼吸器外科学会総会, 別府, 平成23年5月13日.
8. 藤田敦, 中里宜正, 橘啓盛, 呉屋朝幸：喉頭癌胸腺転移の1例. 第28回日本呼吸器外科学会総会, 別府, 平成23年5月13日.
9. 田中良太, 松脇りえ, 柴田英克, 関恵理奈, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 呉屋朝幸：当科における超音波気管支内視鏡検査 (EBUS-TBNA) の短期成績. 第34回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 浜松, 平成23年5月16日.
10. 中里宜正¹, 橘啓盛¹, 土田秀², 神山晴美², 田端里美², 飯島美砂¹ (¹群馬県立がんセンター・病理, ²同・臨床検査)：気管支鏡下肺生検の迅速組織捺印細胞診にて肺多形癌を疑った1症例. 第52回日本臨床細胞学会春期大会, 福岡, 平成23年5月21日.
11. 田中良太：迅速細胞診の pitfall. 第52回日本臨床細胞学会総会, 福岡, 平成23年5月21日.
12. 前田将宏, 渡辺俊一, 河内利賢, 櫻井裕幸, 浅村尚生：気管支鏡下肺生検後に肺化膿症を併発し, 右上中葉切除を余儀なくされた大腸癌肺転移の1切除例. 第156回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成23年6月4日.
13. Takei H, Goya T: Atypical Segmentectomy : left S3. The 1st Joint ESTS-IASLC-JACS Workshop

- on Segmentectomy. Marseille, June 4, 2011.
14. 武井秀史, 松脇りえ, 柴田英克, 関恵理奈, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 呉屋朝幸: 80歳以上の高齢者に対する気管支鏡検査の検討. 第34回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 浜松, 平成23年6月17日.
 15. 橘啓盛, 中里宜正¹, 藤田敦¹, 風間俊文², 佐藤浩二², 湊浩一², 呉屋朝幸⁽¹⁾, 群馬県立がんセンター・呼吸器外科,²同・呼吸器内科): SMAP法を用いた気管支鏡下肺生検時の微量細胞検体におけるEGFR遺伝子変異解析. 第34回日本呼吸器内視鏡学会, 浜松, 平成23年6月17日.
 16. 藤田敦, 中里宜正, 橘啓盛, 呉屋朝幸: 乳癌肺転移が疑われ胸腔鏡下肺生検で診断した肺良性淡明細胞腫の1例. 第34回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 浜松, 平成23年6月17日.
 17. 清水麗子, 武井秀史, 柴田英克, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 呉屋朝幸: 右房原発血管肉腫の1治療例. 第161回日本肺癌学会関東支部会, 東京, 平成23年6月18日.
 18. 田中良太: スライドカンファレンス(呼吸器). 第30回日本臨床細胞学会東京都支部総会・学術集会, 東京, 平成23年7月2日.
 19. Yoshida T¹, Minami Y¹, Shiba A¹, Sakashita S¹, Tachibana K, Nakazato Y², Goya T, Noguchi M¹ (¹Institute of Basic Medical Sciences, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, ²Department of Pathology, Gunma Prefectural Cancer Center): Analysis of the GOLM1 gene expression in small sized adenocarcinoma of the lung. 14th World Conference on Lung Cancer. Amsterdam, July 4, 2011.
 20. Nakazato Y^{1,2}, Maeshima A², Ishikawa Y³, Yatabe Y⁴, Fukuoka J⁵, Yokose T⁶, Tomita Y⁷, Minami Y⁸, Asamura H⁹, Tachibana K¹, Goya T, and Noguchi M⁸ (¹Division of Diagnostic Pathology, Gunma Prefectural Cancer Center, Gunma, ²Clinical Laboratory, National Cancer Center Hospital, Tokyo, ³Division of Pathology, The Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation For Cancer Research, Tokyo, ⁴Departments of Pathology and Molecular Diagnostics, Aichi Cancer Center Hospital, Nagoya, ⁵Laboratory of Pathology, Toyama University Hospital, Toyama, ⁶Department of Pathology, Kanagawa Cancer Center, Kanagawa, ⁷Department of Pathology, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, Osaka, ⁸Department of Pathology, Graduate School of Human Comprehensive Sciences, University of Tsukuba, Ibaraki, ⁹Thoracic Surgery Divisions, National Cancer Center Hospital, Tokyo): Interobserver Agreement in the Nuclear Grading of Primary Pulmonary Adenocarcinoma: A Collaborative Microscopy Project: 14th World Conference on Lung Cancer, Amsterdam, July 4, 2011.
 21. Tanaka R, Nakazato Y, Goya T: Diffusion-Weighted Magnetic Resonance Imaging in Peripheral and Small Lung Adenocarcinoma. 14th World Conference on Lung Cancer, Amsterdam, July 7, 2011.
 22. 須田一晴, 古屋敷剛, (長岡中央総合病院・呼吸器外科): 当科における完全鏡視下肺葉切除術. 第20回新潟内視鏡外科学研究会, 新潟, 平成23年7月9日.
 23. 野上博司: 効く漢方. 小山記念病院公開市民講座, 鹿島, 平成23年7月29日.
 24. 田中良太: 放射線による人体被害. エイアイジャー・スター生命 横浜支社主催 医療セミナー, 横浜, 平成23年8月28日.
 25. Kawachi R, Tachibana K, Karita S, Nakazato Y, Tanaka R, Nagashima Y, Takei H, Goya T: Complications in octogenarians who underwent pulmonary resection for primary lung cancer. The 6th Meeting of Asian Thoracic Surgical Club, Busan, Sep. 1-4, 2011.
 26. Tachibana K, Nakazato Y¹, Fujita A¹, Tanaka R, Goya T (¹Thoracic Surgery, Gunma Prefectural Cancer Center): Real-time computed tomography-guided needle lung biopsy with immediate cytology improves accuracy and decreases complication rate. 6th Biennial Meeting of Asian Thoracic Surgical Club. Busan, Sep. 1, 2011.
 27. 相原健一, 橘啓盛, 清水麗子, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 呉屋朝幸: 縦隔リンパ節転移により気管支食道瘻を生じた肺癌の1例. 第85回城西外科学研究会, 東京, 平成23年10月1日.
 28. 河内利賢, 清水麗子, 橘啓盛, 関恵理奈, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 呉屋朝幸: 葉間浸潤p3はT2・T3のどちらに分類されるべきか?. 第64回日本胸部外科学会定期学術集会, 名古屋, 平成23年10月9-12日.
 29. 須田一晴¹, 古屋敷剛¹, 喜多秀文², 武井秀史³, 呉屋朝幸³ (¹新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院・呼吸器外科, ²財団法人結核予防会複十字病院・呼吸器外科, ³杏林大・医・付属病院・外科(呼吸器・甲状腺)): 完全鏡視下右肺全摘術+大網充填術. 第64回日本胸部外科学会定期学術集会, 名古屋, 平成23年10月9-12日.
 30. 吉田勤^{1,2}, 中里宜正^{1,2}, 藤田敦¹, 呉屋朝幸⁽¹⁾群馬県立がんセンター・病理部,²同・呼吸器外科): リアルタイムCTガイド下経皮肺針生検における術者被曝の妥当性の検討. 第64回日本胸部外科学会定期学術集会, 名古屋, 平成23

年 10 月 10 日 .

31. 中里宜正¹, 藤田敦², 橘啓盛², 吉田勤², 田中良太, 呉屋朝幸 (¹ 獨協医科大・形態病理, ² 群馬県立がんセンター・呼吸器外科): 胸部外科領域における電子カルテと連携した手術支援システム . 第 64 回日本胸部外科学会定期学術集会, 名古屋, 平成 23 年 10 月 10 日 .
32. 喜多秀文¹, 白石裕治¹, 葛城直哉¹, 兵庫谷章¹, 平松美也子¹, 下田清美¹ (¹ 複十字病院・呼吸器外科): 膿胸に対して開窓術後に胸郭成形術を施行した症例の検討 . 第 64 回日本胸部外科学会定期学術集会, 名古屋, 平成 23 年 10 月 10 日 .
33. 長島鎮: 呼吸器外科手術と保険審査 . 審査事務共助等実務者研修会, 東京, 平成 23 年 10 月 20 日 .
34. 長島鎮, 松脇りえ, 柴田英克, 関恵理奈, 中里陽子, 田中良太, 武井秀史, 興石義彦, 呉屋朝幸: 武蔵野三鷹地域バス肺がんグループの現状について . 第 21 回呼吸器医療管理システム研究会, 東京, 平成 23 年 10 月 22 日 .
35. 吉田勤¹, 中里宜正¹, 土田秀², 神山晴美², 布施川卓也², 飯島美砂¹, 小島勝³ (¹ 群馬県立がんセンター・病理部, ² 同・臨床検査部, ³ 獨協医科大・形態病理学教室): 迅速細胞診を併用した CT ガイド下経皮肺針生検で診断しえた肺原発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例 . 第 50 回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京, 平成 23 年 10 月 23 日 .
36. 吉田勤¹, 中里宜正¹, 土田秀², 神山晴美², 布施川卓也², 飯島美砂¹, 小島勝³ (¹ 群馬県立がんセンター・病理部, ² 同・臨床検査部, ³ 獨協医科大・形態病理学教室): 上大静脈症候群をきたした縦隔 (胸腺) 原発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例 . 第 50 回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京, 平成 23 年 10 月 23 日 .
37. 中里宜正¹, 土田秀², 吉田勤³, 神山晴美², 布施川卓也², 飯島美砂¹, 小島勝⁴ (¹ 群馬県立がんセンター・病理, ² 同・臨床検査, ³ 同・呼吸器外科, ⁴ 獨協医科大・形態病理): 両側副腎原発悪性リンパ腫の 1 例, 第 50 回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京, 平成 23 年 10 月 23 日 .
38. 中里宜正¹, 土田秀³, 吉田勤⁴, 神山晴美³, 布施川卓也³, 飯島美砂² (¹ 獨協医科大・形態病理, ² 群馬県立がんセンター・病理, ³ 同・臨床検査, ⁴ 同・呼吸器外科): 中皮腫 3 例の体腔液細胞診診断像の検討 . 第 50 回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京, 平成 23 年 10 月 23 日 .
39. 田中良太: 肺がんの診断と治療の最前線 . 東京都生活習慣病検診従事者講習会, 東京, 平成 23 年 10 月 27 日 .
40. 吉田勤^{1,2}, 風間俊文³, 中里宜正^{1,2}, 藤田敦², 飯島美砂², 湊浩一³, 呉屋朝幸 (¹ 群馬県立がんセンター・病理部, ² 同・呼吸器外科, ³ 同・呼吸器内科): 縦隔ホジキンリンパ腫の 1 例 . 第 52 回日本肺癌学会総会, 大阪, 平成 23 年 11 月 3 日 .
41. 河内利賢, 清水麗子, 橘啓盛, 関恵理奈, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 呉屋朝幸: 80 歳以上の高齢者における臨床病期 I 期非小細胞肺癌の治療成績 . 第 52 回日本肺癌学会総会, 大阪, 平成 23 年 11 月 3-4 日 .
42. 清水麗子, 武井秀史, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 呉屋朝幸: 小細胞肺癌に対する手術治療 . 第 52 回日本肺癌学会総会, 大阪, 平成 23 年 11 月 3 日 .
43. 松脇りえ¹, 青景圭樹¹, 石井源一郎², 市之川英臣¹, 中尾将之¹, 川瀬晃和¹, 菱田智之¹, 吉田純司¹, 西村光世¹, 永井完治¹ (¹ 国立がん研究センター東病院・呼吸器外科, ² 同・臨床腫瘍病理部): 腫瘍径 7cm 以上 pT3 肺癌切除例の予後因子 . 第 52 回肺癌学会総会, 大阪, 平成 23 年 11 月 3 日 .
44. 藤田敦, 中里宜正, 吉田勤, 風間俊文¹, 湊浩一¹, 橘啓盛, 呉屋朝幸 (¹ 群馬県立がんセンター・呼吸器内科): 肺腺癌の間質浸潤と FDG-PET の SUV 値に関する検討 . 第 52 回日本肺癌学会総会, 大阪, 平成 23 年 11 月 3 日 .
45. 吉田勤^{1,2}, 風間俊文³, 中里宜正^{1,2}, 藤田敦², 飯島美砂², 湊浩一³, 呉屋朝幸 (¹ 群馬県立がんセンター・病理部, ² 同・呼吸器外科, ³ 同・呼吸器内科): 経気管支鏡的肺生検で診断しえた肺原発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例 . 第 52 回日本肺癌学会総会, 大阪, 平成 23 年 11 月 4 日 .
46. 中里宜正¹, 吉田勤², 藤田敦², 呉屋朝幸 (¹ 獨協医科大・形態病理, ² 群馬県立がんセンター・呼吸器外科): 同時多発肺癌術後経過観察中に皮膚原発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫下肢型を発症したと考えられる 1 例 . 第 52 回日本肺癌学会総会, 大阪, 平成 23 年 11 月 4 日 .
47. 喜多秀文¹, 白石裕治¹, 葛城直哉¹, 兵庫谷章¹, 平松美也子¹, 下田清美¹ (¹ 複十字病院・呼吸器外科): リンパ節転移をきたした硬化性血管腫の 1 例 . 第 52 回日本肺癌学会総会, 大阪, 平成 23 年 11 月 4 日 .
48. 田中良太, 関恵理奈, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 呉屋朝幸: すりガラス状陰影を有する肺野末梢型肺癌における気管支鏡下生検の診断精度 . 第 52 回日本肺癌学会総会, 大阪, 平成 23 年 11 月 4 日 .
49. 河内利賢, 清水麗子, 橘啓盛, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 呉屋朝幸: 肺切除後に発症した気管支断端瘻へはどのように対処すべきか? . 第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 平成 23 年 11 月 17-19 日 .
50. 橘啓盛, 河内利賢, 清水麗子, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 呉屋朝幸: 気胸手術時における陰圧式ブラ確認法 . 第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 平成 23 年 11 月 17 日 .
51. 中里陽子, 清水麗子, 橘啓盛, 関恵理奈, 河内利賢, 荻田真, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 呉屋

- 朝幸：大学病院における女性医師復職支援制度．第73回日本臨床外科学会総会，東京，平成23年11月17-19日．
52. 相原健一，田中良太，清水麗子，橘啓盛，河内利賢，荻田真，中里陽子，長島鎮，武井秀史，呉屋朝幸：胸腔鏡下手術を施行した肺放線菌症の一切除例，東京，平成23年11月17日．
 53. 吉田勤¹，中里宜正¹，飯島美砂¹（¹群馬県立がんセンター・病理部）：Smart Amp法を用いた微量細胞検体におけるEGFR遺伝子変異解析．第58回日本臨床検査医学会学術集会，岡山，平成23年11月18日．
 54. 中里宜正¹，吉田勤³，飯島美砂²（¹獨協医科大・形態病理，²群馬県立がんセンター・病理，³同・呼吸器外科）：Smart Amp法を用いた膵胆管ブラシ洗浄微量検体におけるK-ras遺伝子変異解析．第58回日本臨床検査医学会，岡山，平成23年11月18日．
 55. 吉田勤^{1,2}，中里宜正^{1,2}，藤田敦²，飯島美砂¹，呉屋朝幸（¹群馬県立がんセンター・病理部，²同・呼吸器外科）：薄壁空洞形成の経過が追えた肺腺癌の1例．第73回日本臨床外科学会総会，東京，平成23年11月19日．
 56. 柴田英克¹，武井秀史，関恵理奈，田中良太，中里陽子，長島鎮，呉屋朝幸，岩谷和法¹，吉岡正一¹（¹済生会熊本病院・呼吸器外科，）：歯肉転移を認めた肺癌の1例．第73回日本臨床外科学会総会，東京，平成23年11月19日．
 57. 中里宜正：呼吸器の細胞診，群馬県臨床衛生検査技師会病理細胞診研究班，群馬，平成23年12月8日，
 58. 田中良太：臨床に役立つ胸部MRI診断．城西胸部画像研究会，武蔵野，平成24年1月17日．
 59. Nakazato Y¹，Kojima M¹，Nakamura N²，Masawa N¹，Nakamura S³（¹Department of Diagnostic and Anatomic Pathology, Dokkyo Medical University School of Medicine, Mibu，²Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, Isehara，³Nagoya University School of Medicine, Nagoya）：Clinical Implication of Idiopathic Multicentric Castleman Disease Among Japanese: A Report of 28 Cases: the 11th Korean-Japanese Lymphoreticular Workshop and Asian Hematopathology Forum Symposium in Seoul，Jan. 28，2012．
 60. 中里宜正：肺クリプトコッカス症（出題者），栃木県臨床細胞学会栃木県支部会，栃木，平成24年2月4日．
 61. 武井秀史：最近の肺癌の診断と治療の動向 外科治療．第31回日本画像医学会，東京，平成24年2月17日．
 62. 須田一晴，古屋敷剛，（新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院・呼吸器外科）：当施設ではなぜVATSではなく，c-VATSを行うのか～安全性と有用性を踏まえ～．第2回群馬胸腔鏡手技研究会，前橋市，平成24年2月17日．
 63. 藤田敦：PET-CTのmaxSUV値と肺腺癌の間質浸潤の関係．第17回長岡肺癌研究会，長岡，平成24年2月22日．
 64. 河内利賢，橘啓盛，荻田真，中里陽子，田中良太，長島鎮，武井秀史，呉屋朝幸：右中葉原発の肺癌に対する，#12uリンパ節郭清手技．第21回日本呼吸器外科医会冬季学術集会，群馬，平成24年2月24日-26日．
 65. 吉田勤^{1,2}，南優子¹，柴綾¹，中里宜正²，野口雅之¹（¹筑波大大学院・人間総合科学研究科，²群馬県立がんセンター・呼吸器外科/病院病理部）：肺腺癌症例におけるGOLM1遺伝子発現の特徴．第39回群馬県立がんセンター院内学会，群馬，平成24年3月2日．
 66. 藤田敦，中里宜正，吉田勤，飯島美砂¹，堀越浩幸²（¹群馬県立がんセンター・病理診断部，²同・放射線診断部）：肺腺癌の間質浸潤とFDG-PETのSUV値に関する検討．第39回群馬県立がんセンター院内学会，太田，平成24年3月2日．
 67. 中里宜正¹，小島勝¹，正和信英¹，中村直哉²（¹獨協医科大・形態病理，²東海大・医・病理）：IgG4関連疾患と考えられる副鼻腔の形質細胞性肉芽腫の2例．第6回IgG4研究会，金沢，平成23年3月3日．
 68. 中里宜正：呼吸器の細胞診．栃木県臨床衛生検査技師会病理細胞診研究班，栃木，平成24年3月10日．
- ### 論文
1. 斉藤光徳，日向道子，青野哲也：イレウスを呈し結腸癌との鑑別に難渋した肥厚性結腸憩室症の1例．日外科系連会誌 36(4): 670-674, 2011.
 2. 河内利賢，呉屋朝幸：転移性肺腫瘍．インフォームドコンセントのための図説シリーズ 肺癌改訂4版．西條長宏，加藤治文編．大阪．医学ジャーナル社：28-31, 2011.
 3. 河内利賢，浅村尚生：非小細胞肺癌に対する胸腔鏡手術－Con－．腫瘍内科7: 558-562, 2011.
 4. 浅村尚生，河内利賢，大山真有美，櫻井裕幸，渡辺俊一：開胸肺切除術後出血における出血量の推定 ドレーン排液量と再開胸時胸腔内血腫量は相関するか？．日本呼吸器外科学会雑誌25: 696-701, 2011.
 5. 武井秀史，呉屋朝幸：【患者・家族の相談に応えるがん診療サポートガイド】肺癌 かかりつけ医から専門医への質問 抗がん剤と放射線治療，抗がん剤と手術などの組み合わせはどのように決まるのでしょうか？．治療93: 967-969, 2011.
 6. 武井秀史：【咳のすべて】内科の立場から 気管・気管支腫瘍，肺腫瘍．ENTONI 126: 78-82, 2011.
 7. Kojima M¹，Nakamura N²，Nakazato Y¹，Igarashi T³，Masawa N¹，& Inagaki H²（¹Department of Diagnostic and Anatomic Pathology, Dokkyo

- Medical University School of Medicine, Mibu, ² Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, Isehara, ³Nagoya University School of Medicine, Nagoya, ³Division of hematology, Gunma Prefectural Cancer Center, Gunma): Light-chain-restricted monocytoid B-cell cluster in reactive lymphadenitis associated with Sjogren syndrome: *Leukemia & Lymphoma*, 52(6):1150-1152, 2011.
8. Kojima M¹, Nakazato Y¹, Kaneko Y¹, Sugihara S², Masawa N¹, Nakamura N³. (¹Department of Diagnostic and Anatomic Pathology, Dokkyo Medical University School of Medicine, Mibu, ²Division of pathology, Gunma Prefectural Cancer Center, Gunma, ³Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, Isehara,) Cytological findings of IgG4-related pleural effusion: a case report. *Cytopathology*. 2012 Feb 16. doi: 10.1111/j.1365-2303.2012.00961.x. [Epub ahead of print]
 9. 土田秀¹, 小島勝³, 田端聡美¹, 神山晴美¹, 中里宣正², 飯島美砂², 正和信英³ (¹群馬県立がんセンター・臨床検査, ²同・病理, ³獨協医科大・形態病理): Hodgkin / Reed-Stemberg 様細胞をともなった甲状腺の濾胞辺縁帯 B 細胞リンパ腫の 1 例. *日本臨床細胞学会雑誌* 50: 279-282, 2011.
 10. Kita H, Shiraishi Y, Watanabe K, Suda K, Ohtsuka K, Koshiishi Y, Goya T: Does postoperative serum interleukin-6 influence early recurrence after curative pulmonary resection of lung cancer?. *Ann Thorac Cardiovasc Surg*. 17(5):454-60. 2011.
 11. Yano S, Yamada T, Takeuchi S, Tachibana K, Minami Y, Yatabe Y, Mitsudomi T, Tanaka H, Kimura T, Kudoh S, Nokihara H, Ohe Y, Yokota J, Uramoto H, Yasumoto K, Kiura K, Higashiyama M, Oda M, Saito H, Yoshida J, Kondoh K, Noguchi M: Hepatocyte growth factor expression in EGFR mutant lung cancer with intrinsic and acquired resistance to tyrosine kinase inhibitors in a Japanese cohort. *J Thorac Oncol* 6: 2011-2017, 2011.
 12. Tachibana K, Minami Y, Shiba-Ishii A, Kano J, Nakazato Y, Sato Y, Goya T, Noguchi M: Abnormality of the hepatocyte growth factor/MET pathway in pulmonary adenocarcinogenesis. *Lung Cancer* 75: 181-188, 2011.
 13. Matsuguma H¹, Yoshino I², Ito H³, Goya T, Matsui Y⁴, Nakajima J⁵, Ikeda N⁶, Okumura S⁷, Shiono S⁸, Nomori H⁹ (¹Division of Thoracic Surgery, Tochigi Cancer Center, ²Department of General Thoracic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, ³Department of Chest Surgery, National Center for Global Health and Medicine, ⁴Division of Thoracic Diseases, Chiba Cancer Center, ⁵Department of Cardiothoracic Surgery, University of Tokyo Graduate School of Medicine, ⁶Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University; ⁷Department of Chest Surgery, Cancer Institute Hospital, ⁸Department of Thoracic Surgery, Yamagata Prefectural Central Hospital, ⁹Department of General Thoracic Surgery, Department of Surgery, School of Medicine, Keio University). Is There a Role for Pulmonary Metastasectomy With a Curative Intent in Patients With Metastatic Urinary Transitional Cell Carcinoma?. *Ann Thorac Surg* 92:449-454, 2011.
 14. 小出卓, 皿谷健, 中本啓太郎, 中島明, 石井晴之, 藤原正親, 柴田英克, 岡輝明, 呉屋朝幸, 後藤元: 胸腔鏡下肺生検で類上皮細胞性肉芽腫を認めたメシル酸イマチニブの薬剤性肺障害の 1 例. *日本呼吸器学会雑誌* 49: 465-471, 2011.
 15. Abe Y, Tamura K, Sakata I, Ishida J, Ozeki Y, Tamura A, Uematsu K, Sakai H, Goya T, Kanazawa M, Machida K: Clinical implications of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography at delayed phase for diagnosis and prognosis of malignant pleural mesothelioma. *Oncol Rep*. 27: 333-338, 2012.
 16. Tanaka R, Horikoshi H¹, Yoshida T, Nakazato Y², Seki E, Goya T (¹Department of Diagnostic Radiology, ²Department of Pathology, Gunma Prefectural Cancer Center, Gunma): Diffusion-Weighted Magnetic Resonance Imaging in Differentiating the Invasiveness of Small Lung Adenocarcinoma. *Acta Radiologica* 52:750-755, 2011.
 17. Tazaki E, Shimizu N¹, Tanaka R, Yoshizumi M², Kamma H³, Imoto S, Goya T, Kozawa K², Nishina A⁴ and Kimura H⁵ (¹Department of Urology, Gunma Prefectural Cancer Center, ²Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences, ³Department of Pathology, Kyorin University, School of Medicine, ⁴Yamagata Prefectural Yonezawa Women's Junior College, ⁵Infectious Disease Surveillance Center, National Institute of Infectious Diseases): Serum cytokine profiles in patients with prostate carcinoma. *EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE* 2: 887-891, 2011.
 18. Arakawa M¹, Okamoto-Nakagawa R², Toda S², Tsukagoshi H³, Kobayashi M³, Ryo A⁴, Mizuta K⁵, Hasegawa S⁶, Hirano R⁶, Wakiguchi H⁶, Kudo K⁶, Tanaka R⁷, Morita Y⁸, Noda M⁹, Kozawa K³, Ichiyama T⁶, Shirabe K², Kimura H^{3, 10}

(¹Tochigi Prefectural Institute of Public Health, ²Yamaguchi Prefectural Institute of Public Health and Environment, ³Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences, ⁴Department of Molecular Biodefence Research, Yokohama City University Graduate School of Medicine, ⁵Yamagata Prefectural Institute of Public Health, ⁶Department of Pediatrics, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ⁷Department of Surgery, Kyorin University, School of Medicine, ⁸Department of Nutritional Science, Tokyo Kasei University, ⁹Department of Virology III, National Institute of Infectious Diseases, ¹⁰Infectious Disease Surveillance Center, National Institute of Infectious Diseases): Molecular epidemiological study of human rhinovirus species ABCs from patients with acute respiratory illnesses in Japan. J Med Microbiol 61: 410-419, 2012.

19. 藤田敦, 中里宜正, 橋啓盛, 須田一晴, 吉田勤, 田中良太, 呉屋朝幸: 肩甲骨下部弾性線維腫. 胸部外科 64: 390-393, 2011.
20. 藤田敦, 中里宜正, 橋啓盛, 風間俊文¹, 佐藤浩二¹, 湊浩一¹ (¹群馬県立がんセンター・呼吸器内科): 腸型肺腺癌の1例. 肺癌 51: 188-192, 2011.
21. 藤田敦, 中里宜正, 橋啓盛, 平方智子¹, 柳田康弘¹ (¹群馬県立がんセンター・乳腺科): 肺良性淡明細胞腫瘍の1例. 日臨外会誌 72: 1993-1998, 2011.
22. 藤田敦, 中里宜正, 橋啓盛, 呉屋朝幸: 喉頭癌胸腺転移の1例. 胸部外科 64: 912-915, 2011.
23. 奥石義彦, 村山史雄: 末梢多発癌の治療方針について教えてください. 肺癌診療Q&A. 弦間昭彦編著. 東京, 中外医学社: 138-141, 2011.
24. 奥石義彦, 村山史雄: 縮小手術について教えてください. 肺癌診療Q&A. 弦間昭彦編著. 東京, 中外医学社: 192-194, 2011.
25. 島村淳一, 田中良太, 武井秀史, 柳田修, 杉山政則, 呉屋朝幸. 日本呼吸器外科学会雑誌 25: 502-504, 2011.

著書

1. 河内利賢, 浅村尚生: 肺がんの病期分類, 予後と治療選択. インフォームドコンセントのための図説シリーズ 肺がん 改訂4版. 西條長宏, 加藤治文編. 大阪, 医学ジャーナル社, 2011. p. 68-73.
2. 河内利賢, 浅村尚生: 肺癌新TNM分類(2010年から発足)について: 改訂のポイントと課題~成立までのプロセス. EBM呼吸器疾患の治療. 永井厚志, 大田健, 江口研二, 橋本修編. 東京, 中外医学社, 2011. p. 347-352.
3. 河内利賢, 浅村尚生: 大細胞神経内分泌癌とは, どのような腫瘍ですか? 治療はどのようにすれ

ばよいですか? 肺癌診療Q&A. 弦間昭彦編. 東京, 中外医学社, 2011. p. 31-33.

4. 河内利賢, 浅村尚生: 肺癌の新病期分類の主な変更点とその経緯を教えてください. 肺癌診療Q&A. 弦間昭彦編. 東京, 中外医学社, 2011. p. 75-79.
5. 喜多秀文, 白石裕治: その他の肺疾患のKnack & Pitfalls」肺真菌症. 専門医のための呼吸器外科の要点と盲点 [II], 東京, 文光堂出版, 2010. p. 96-8.
6. 田中良太, 呉屋朝幸: 合併症を持つがん患者の周術期管理 - 呼吸器障害. 外科治療 104(増刊), 2011. p.712-715.
7. 田中良太: 治療に伴う看護特集 診断・治療の“なぜ?”がわかる X線, CT, MRI, 超音波…腫瘍像を読もう 肺の検査画像. プロフェッショナルがんナーシング 2, 2012. p.157-162.

その他

1. 吉田勤(群馬県立がんセンター・病理部/呼吸器外科): Silver In Situ Hybridization法を用いた癌組織におけるヒトパピローマウイルス遺伝子増幅検査法の検討. 平成23年度県立病院総合研究.
2. 中里宜正: 肺腺癌における核グレードを応用した細胞診断の可能性. 平成22年度文部科学省研究助成金 若手研究B取得, 平成23年度継続.
3. 藤田敦: 怖い肺癌, 怖くない肺癌. 第16回がんと上手につき合う会, 太田, 平成23年7月9日.
4. 藤田敦: 様々な視点から見た肺癌の手術適応について. 群馬県立がんセンター 呼吸器外科地域連携勉強会, 太田, 平成24年3月15日.

外科学教室
(乳腺外科)

口演

1. Imoto S, Sakemura N, Ito H, Imi K, Isaka H, Tazaki E, Kamma H, Wada N, Nakatsura T: Immune suppression of regulatory T cells and M2 macrophage in breast cancer patients. AACR 102nd Annual Meeting, Orlando, April 4, 2011.
2. 酒村智子, 井本滋, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 伊美建太郎, 田崎英里, 宮本快介, 和田徳昭¹, 嶋田俊之¹, 麻賀創太¹, 山内稚佐子¹, 中面哲也², 井本滋(¹国がん東・乳腺科, ²国がん東・機能開発): CD4⁺CD25^{high}CD127^{low}-T細胞は乳癌患者末梢血中に増加し免疫抑制機能を有する第111回日本外科学会定期学術集会, 誌上発表, 平成23年5月26-28日.
3. 井本滋, 酒村智子, 伊東大樹, 伊美建太郎, 伊坂泰嗣, 田崎英里, 和田徳昭¹, 菅間博², 中面哲也³ (¹国がん東・乳腺科, ²杏林大・病理, ³国がん東・機能開発): 乳癌患者における腫瘍免疫応答の解明と腫瘍免疫学との融合を目指した治療戦略.

第 110 回日本外科学会定期学術集会, 誌上发表,
平成 23 年 5 月 26-28 日.

4. Imoto S: Phase II study on radiofrequency ablation for early breast cancer patients. International Surgical Week, Yokohama, Aug. 29, 2011.
5. 井本滋, 愛甲孝¹, 神野浩光², 武井寛幸³, 津川浩一郎⁴, 津田均⁵, 増田慎三⁶, 元村和由⁷, 坂本純一⁸, 北島政樹⁹(¹鹿児島大・外科, ²慶大・外科, ³埼玉県がん・乳腺外科, ⁴聖マリアンナ医科大・乳腺内分泌外科, ⁵国立がん中央・病理, ⁶大阪医療セ・外科, ⁷府立成人病セ・乳腺内分泌外科, ⁸名大・社会生命科学⁹国際医療福祉大・外科): センチネルリンパ節転移陽性乳癌に郭清は必要か? 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 平成 23 年 9 月 2 日.
6. 宮本快介, 井本滋, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 伊美建太郎, 田崎英里, 酒村智子: 術前薬物療法を施行した N0 症例に対する色素法単独でのセンチネルリンパ節生検の信頼性. 第 19 回日本乳癌学会, 仙台, 平成 23 年 9 月 3 日
7. 伊坂泰嗣, 酒村智子, 田崎英里, 伊美建太郎, 伊東大樹, 井本滋: 血清 HER2 陽転化した再発乳癌に対するトラスツマブ療法の治療効果検討. 第 19 回日本乳癌学会, 仙台, 平成 23 年 9 月 3 日.
8. 伊東大樹, 井本滋, 飯塚恒, 井上慎吾, 腰塚浩三, 児玉ひとみ, 五月女恵一, 佐野弘, 杉崎勝好, 高見実, 武井寛幸, 武田泰隆, 中込博, 松田実, 守屋智之, 山下純男, 吉竹公子, 横山正, 河野範男, 佐伯俊昭: 術前薬物療法後の cCR 症例に関するアンケート結果. 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 平成 23 年 9 月 2 日.
9. Imoto S, Sakemura N, Ito H, Imi K, Isaka H, Kamma H, Nakatsura T: Immune suppression of regulatory T cells and M2 macrophage in breast cancer patients. 8th International Symposium on Minimal residual Cancer, Osaka, Sep. 22, 2011.
10. 酒村智子, 井本滋, 和田徳昭¹, 中面哲也²(¹国がん東・乳腺科, ²国がん東・機能開発): 乳癌患者の末梢血 CD4⁺CD25^{high}CD127^{low} 制御性 T 細胞は増加し免疫抑制機能を有する. 第 31 回日本分子腫瘍マーカー研究会, 名古屋, 2011 年 10 月 2 日.
11. 井本滋, 伊美建太郎, 伊東大樹, 酒村智子, 伊坂泰嗣, 菅間博¹, 和田徳昭², 中面哲也³(¹杏林大・病理, ²国がん東・乳腺科, ³国がん東・機能開発): 乳癌患者における制御性 T 細胞と M2 マクロファージによる免疫抑制. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2011 年 10 月 3 日.
12. Sakemura N, Nakatsugawa M, Yoshikawa T, Imoto S, Isaka H, Ito H, Imi K, Tazaki E, Shimada T, Wada N, Nakatsura T: Immunosuppressive CD4⁺CD25^{high}CD127^{low} regulatory T cells in patients with breast cancer. 70th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Nagoya, Oct. 4, 2011.
13. 伊美建太郎, 井本滋, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 酒村智子, 宮本快介: Trastuzumab 治療中に致死性不整脈をきたした 1 例. 第 48 回日本癌治療学会総会, 名古屋, 平成 23 年 10 月 29 日.
14. 伊東大樹: 日常診療における術前内分泌療法の現状. 第 8 回武蔵野乳癌研究会, 東京, 平成 23 年 11 月 12 日.
15. 伊東大樹, 井本滋, 伊美建太郎, 伊坂泰嗣, 酒村智子, 宮本快介: 当院における乳房切除後の再建術の現状. 第 73 回臨床外科学会総会, 東京, 平成 23 年 11 月 18 日.
16. Sakemura N, Nakatsugawa M, Yoshikawa T, Shimomura M, Isaka H, Ito H, Imi K, Tazaki E, Miyamoto K, Wada N, Imoto S, Nakatsura T: Peripheral CD4⁺CD25^{high}CD127^{low} T cells have immunosuppressive function in patients with breast cancer, 40th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology, Chiba, Nov. 27, 2011.
17. 伊美建太郎, 井本滋, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 酒村智子, 田崎英里: 術前および術後治療における Abraxane 使用症例の検討. 第 8 回日本乳癌学会関東地方会, 大宮, 平成 23 年 12 月 3 日.
18. Sakemura N, Nakatsugawa M, Yoshikawa T, Shimomura M, Isaka H, Ito H, Imi K, Tazaki E, Miyamoto K, Wada N, Imoto S, Nakatsura T: CD4⁺CD25^{high}CD127^{low} regulatory T cells have immunosuppressive function in patients with breast cancer, 34th Annual San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, Dec. 7, 2011.
19. Imoto S, Sakemura N, Ito H, Imi K, Isaka H, Kamma H, Wada N, Nakatsura T: Immune suppression of regulatory T cells and M2 macrophage in breast cancer patients. 34th Annual San Antonio Breast Cancer Symposium. San Antonio, Dec. 7, 2011.
20. Imoto S, Isaka H, Sakemura N, Ito H, Imi K: Phase II study on radiofrequency ablation for early breast cancer patients. 8th European Breast Cancer Conference. Vienna, Mar. 22, 2012.

論 文

1. Nakatsugawa M, Horie K, Yoshikawa T, Shimomura M, Kikuchi Y, Sakemura N, Suzuki S, Nobuoka D, Hirohashi Y, Torigoe T, Harada K, Takasu H, Sato N, Nakatsura T: Identification of an HLA-A*0201-restricted cytotoxic T lymphocyte epitope from the lung carcinoma antigen, Lengsin. Int J Oncol 39:1041-1049, 2011.
2. 井本滋, 菅間博¹, 和田徳昭²(¹杏林大・病理, ²国がん東・乳腺科): 「悪性腫瘍の術中病理診断を効果的に活用する - どこを検索すべきか, どう対応すべきか -」乳癌. 臨床外科 66:454-456, 2011.
3. 井本滋: ラジオアイソトープ (RI) 法を用いた

- 乳癌センチネルリンパ節生検手技. 手術 65:409-412, 2011.
- 井本滋: 術前化学療法とセンチネルリンパ節生検. 臨床外科 66:882-885, 2011.
 - 井本滋: 「進歩する癌転移診断 - 外科臨床はどう変わるのか」乳癌. 臨床外科 66:1312-1316, 2011.
 - 伊美建太郎, 井本滋: センチネルリンパ節ナビゲーション手術①乳がん. がん治療レクチャー 2:777-780, 2011.
 - 伊東大樹, 井本滋: 治療検査 (治療モニタリングと腫瘍マーカー), 治療. 乳がん診療最前線, 93:1242-1245, 2011.
 - 井本滋: センチネルリンパ節生検について. 治療 93(増刊):1074-1076, 2011.
 - Ohtani S, Kochi M, Ito M, Higaki K, Takada S, Matsuura H, Kagawa N, Hata S, Wada N, Inai K, Imoto S, Moriya T: Radiofrequency ablation of early breast cancer followed by delayed surgical resection - A promising alternative to breast-conserving surgery. Breast 20:431-436, 2011.
 - Tazaki E, Shimizu N, Tanaka R, Yoshizumi M, Kamma H, Imoto S, Goya T, Kozawa K, Nishina A, Kimura H: Serum cytokine profiles in patients with prostate carcinoma. Exp Ther Med 2:887-891, 2011.
 - 阿南敬生, 佐伯俊昭, 武井寛幸, 山本尚人, 井本滋, 堀口淳, 坂東裕子, 園尾博司, 池田正: 乳腺疾患従事者に対する労働・生活環境の実態と意識に関するアンケート調査. 臨外会誌 73:9-16, 2012.

その他

- 井本滋: 乳癌における複合的な機能温存療法の開発 (分担研究報告). 厚生労働省科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業「QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究」に関する研究 平成23年度 総括・分担研究報告書.

小児外科学教室

口 演

- 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 牧野篤司, 増古賢太郎: 緊急手術を要した Peutz-Jeghers 症候群の2例, 第25回日本小児救急医学会, 東京, 平成23年6月10日.
- 浮山越史: 腸重積症の重症度判定基準. 第47回日本小児放射線学会, 甲府, 平成23年6月25日.
- 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 牧野篤司, 増古賢太郎: 胎便性腹膜炎に対する治療方針の検討, 第48回日本小児外科学会学術集会, 平成23年7月20日.
- 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 岡明, 野村優子, 増古賢太郎: 当院における外科疾患を伴った13, 18trisomy 症候群症例の検討, 第47回日本周産

期・新生児医学会学術集会, 北海道, 平成23年7月11日.

- 増古賢太郎, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 牧野篤司: 巨大なポリープにより救急処置を要した Peutz-Jeghers 症候群の2例. 第48回日本小児外科学会学術集会, 名古屋, 平成23年7月22日.
- 牧野篤司, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 増古賢太郎: 脳室腹腔短絡術 (V-P シヤント) 関連腹腔側合併症の検討, 第48回日本小児外科学会学術集会, 名古屋, 平成23年7月22日.
- 増古賢太郎, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 牧野篤司, 望月智弘: 経皮的ドレナージが有効であった特発性化膿性肝膿瘍の1例. 第46回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 前橋, 平成23年10月8日.
- 望月智弘, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 牧野篤司, 増古賢太郎: 上顎体の2例. 第46回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 群馬, 平成23年10月8日.
- 牧野篤司, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 増古賢太郎, 望月智弘: 猫引つかき病と思われた後腹膜膿瘍の一例, 第46回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 群馬, 平成23年10月8日.
- 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 牧野篤司, 増古賢太郎, 望月智弘: 低出生体重児における消化管穿孔症例の検討, 第27回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 大阪, 平成23年10月29日.
- 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 牧野篤司, 増古賢太郎, 望月智弘: 気管カニューレ固定部に発生した褥瘡の2例, 第22回日本小児外科 QOL 研究会, 福岡, 平成23年10月1日.
- 鮫島由友, 小柳和夫¹, 平岩訓彦¹, 壁島康郎¹, 市東昌也¹, 相浦浩一¹, 掛札敏裕¹ (¹川崎市立川崎病院外科): リンパ節転移陽性であった胃 GIST の1切除例. 第24回日本内視鏡外科学会総会, 大阪, 平成23年12月7日.
- 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 牧野篤司, 増古賢太郎, 望月智弘: 緊急手術を要した Peutz-Jeghers 症候群の3例, 第48回日本腹部救急医学会総会, 金沢, 平成24年3月15日.

論 文

- 浮山越史: 【処置の達人になる】蘇生処置 心肺蘇生, 小児外科 43: 124-128, 2011.
- 浮山越史: 【小児の救急疾患 外傷における初期対応】外傷各論 部位別外傷への初期対応 胸部外傷, 小児科臨床 64: 667-672, 2011.
- 浮山越史: 【小児の救急疾患 外傷における初期対応】外傷各論 部位別外傷への初期対応 腹部外傷, 小児科臨床 64: 673-678, 2011.
- 浮山越史, 葦澤融司, 渡邊佳子, 牧野篤司, 増古賢太郎, 望月智弘: 【クリニカルパスで示す私たちの標準治療】腸重積症 (観血的整復) のクリニカルパス, 小児外科 43: 1045-1051, 2011.
- 渡邊佳子, 葦澤融司: 腹腔穿刺, 小児科診療 第

75 卷増刊号, 207-209, 2012.

6. 蕪澤融司: 虐待(特集 乳幼児健診でみつかるとの外科系疾患) 小児科診療 75: 309-312, 2012.

著書

1. 蕪澤融司(分担執筆): 境界・事故関連の傷病; 誤飲・誤嚥. 小児救急治療ガイドライン訂第2版(市川光太郎編集) 診断と治療社, 東京, 2011. p397-399
2. 蕪澤融司(分担執筆): 小児の外科, 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(北島政樹, 江川幸二編集) 医学書院, 東京, 2011. p460-486.
3. 蕪澤融司(分担執筆): 鼠径ヘルニア, 小児科診療ガイドライン-最新の診療指針(五十嵐隆編集) 総合医学社, 東京, 2011, p211-213.
4. 蕪澤融司(分担執筆) 外傷・異物: 標準小児外科学 第6版(伊藤泰雄監修) 医学書院, 東京, 2012, p345-354.
5. 浮山越史(分担執筆): 消化器疾患; 急性腹症. 小児救急治療ガイドライン改訂第2版(市川光太郎編) 診断と治療社, 東京, 2011, p287-292.
6. 浮山越史(分担執筆): 胸部外傷. 重症疾患を見逃さない 小児の救急・当直診療(山田至康, 市川光太郎編) 羊土社, 東京, 2011. p235-238.
7. 浮山越史(分担執筆): 腹部外傷. 重症疾患を見逃さない 小児の救急・当直診療(山田至康, 市川光太郎編) 羊土社, 東京, 2011. p239-242.

その他

1. 浮山越史(セミナー講師): 超音波検査講習. 第2回日本小児救急医学会教育セミナー, 北九州, 平成23年12月3-4日.

救急医学教室

口演

1. 庄司高裕, 尾原秀明¹, 松原健太郎¹, 一坂俊介¹, 藤井琢¹, 北川雄光¹ (¹慶應大・外科): 高安動脈炎による左鎖骨下動脈閉塞に対して左外腸骨動脈-左腋窩動脈逆行性バイパス術を施行した1例. 第39回日本血管外科学会総会, 宜野湾, 平成23年4月22日.
2. 樽井武彦, 井上孝隆, 小泉健雄, 後藤英昭, 山田賢治, 山口芳裕: 高齢者重症外傷の特殊性 - 受傷機転, 解剖学的・生理学的重症度評価を中心として. 第23回日本外傷学会, 堺, 平成23年5月19日.
3. 樽井武彦, 小泉健雄, 後藤英昭, 松田剛明, 島崎修次, 山口芳裕: 多発外傷患者に対する新しい重症度評価表. 第111回日本外科学会定期学術集会, 紙上開催, 平成23年5月25日.
4. 小泉健雄, 海田賢彦, 富田晃一, 大田原正幸, 玉田尚, 後藤英昭, 山口芳裕: 広範囲重症熱傷におけるナトリウム適正管理の模索. 第37回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京, 平成23年6月2日.

5. 井上孝隆, 樽井武彦, 守永広征, 海田賢彦, 松寄志穂里, 八木橋巖, 松田岳人, 宮内洋, 小泉健雄, 後藤英昭, 山口芳裕: 重症熱傷患者に対する施設間搬送の安全性-搬送後早期の肺水腫に注目して. 第37回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京, 平成23年6月2日.
6. 宮方基行, 松田岳人, 小野寺亮, 富田晃一, 大田原正幸, 井上孝隆, 海田賢彦, 小泉健雄, 後藤英昭, 山口芳裕: 塩酸による広範囲科学熱傷の1例. 第37回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京, 平成23年6月3日.
7. 吉岡やよい^{1,2,3}, 松寄志穂里², 山田賢治^{2,3}, 後藤英昭², 松田剛明², 山口芳裕² (¹東京消防庁, ²杏林大・病院・高度救命救急センター, ³救急救命東京研修所): 静脈路確保に関する調査研究. 第14回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 札幌, 平成23年6月3日.
8. 小笠原英昭¹, 山田賢治^{2,3}, 樽井武彦², 後藤英昭², 松田剛明², 山口芳裕² (¹東京消防庁, ²杏林大・病院・高度救命救急センター, ³救急救命東京研修所): 救急疾患の季節変動の研究 第3報. 第14回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 札幌, 平成23年6月3日.
9. 大畑徹也, 星亨¹, 丸野秀人², 稲田成作², 皆川邦朋³, 山口芳裕, 里見和彦² (¹東大和病院, ²杏林大・医・整形外科, ³皆川整形外科): 多発外傷における骨盤輪骨折の治療経験(生存例と死亡例の検討). 第37回日本骨折治療学会, 横浜, 平成23年7月1日.
10. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 丸野秀人¹, 稲田成作¹, 星亨², 山口芳裕, 里見和彦¹ (¹杏林大・医・整形外科, ²東大和病院): 別時期にアキレス腱付着部裂離骨折を両側に発症した1例. 第37回日本骨折治療学会, 横浜, 平成23年7月1日.
11. 宮城博幸¹, 大西宏明^{1,3}, 高城靖志¹, 大藤弥穂¹, 山口芳裕, 渡邊卓^{1,2} (¹杏林大・病院・臨床検査部, ²杏林大・医・臨床検査医学): 分析品目の見直しと今後の分析システムの構築~臨床検査技師の立場から~. 第33回日本中毒学会総会・学術集会, 大垣, 平成23年7月30日.
12. 落合剛二, 小泉健雄, 中島幹男, 山口芳裕: アナフィラキシーを呈した pygmy slow loris 咬傷の一症例. 第33回日本中毒学会総会・学術集会, 大垣, 平成23年7月30日.
13. 富田晃一, 中島幹男, 井上孝隆, 海田賢彦, 小泉健雄, 後藤英昭, 樽井武彦, 山田賢治, 松田剛明, 山口芳裕: 臨床経過の差異が顕著であった急性と慢性リチウム中毒症の2例. 第33回日本中毒学会総会・学術集会, 大垣, 平成23年7月31日.
14. 井上孝隆, 樽井武彦, 松田岳人, 八木橋巖, 小泉健雄, 山田賢治, 後藤英昭, 松田剛明, 山口芳裕: 市販薬中毒の検討(医療用医薬品とその危険性についての比較). 第33回日本中毒学会総会・学術集会, 大垣, 平成23年7月31日.

15. 丸山知宏¹, 明石優美¹, 八木橋巖, 小泉健雄, 後藤英昭, 山田賢治, 山口芳裕 (¹杏林大・病院・臓器・組織移植センター): 杏林大学医学部附属病院臓器・組織移植センターにおける過去10年間のドナー情報の検討. 第10回日本組織移植学会・学術集会, 東京, 平成23年8月6日.
16. 山口芳裕: 被ばく医療がわれわれに突きつける災害医療の抜本的変革. 第49回日本医療・病院管理学会学術総会, 東京, 平成23年8月20日.
17. 玉田尚, 官方基行, 松寄志穂里, 松田岳人, 山口芳裕: ICUにおける過活動型せん妄に対しデクスメドミジンを使用した一例. 第51回日本麻酔科学会 - 関東甲信越・東京支部第51回合同学術集会 -, 千葉, 平成23年9月10日.
18. 米良尚晃, 高昌秀安¹, 合田あゆみ¹, 伊波巧¹, 武本和也¹, 末岡順介¹, 重田洋平¹, 坂田好美¹, 佐藤徹¹, 吉野秀朗¹ (¹杏林大・医・第2内科): 救急外来で臨床症候による急性冠症候群の重症度判定. 第59回日本心臓病学会学術集会, 神戸, 平成23年9月23日.
19. Tsukada T¹, Ikeda T¹, Mera H¹, Yoshino H¹, Yamaguchi Y², Yonemoto N³, Nonogi H³, Kimura T³ & Nagano K³ (¹Second Department of Internal Medicine, ²Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Kyorin University, ³JCS-ReSS Group): Circadian Variation in Out-of-Hospital Cardiac Arrests in a Japanese Patient Population: Analysis of a Nationwide Population-Based Registry. 第4回日本蘇生科学シンポジウム, 神戸, 平成23年9月25日.
20. 樽井武彦, 小泉健雄, 山田賢治, 後藤英昭, 松田剛明, 山口芳裕: 腎不全とMODS. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14日.
21. 小泉健雄, 山口芳裕, 庄司高裕, 玉田尚, 松寄志穂里, 井上孝隆, 持田勇希: 偶発性低体温症におけるリン動態とエネルギー代謝の関係. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成23年10月18日.
22. 小野寺亮, 山田賢治, 山本明彦¹, 太田耕造², 大庭正敏², 山口芳裕 (¹大分県立病院, ²大崎市民病院): 東日本大震災における避難所と災害拠点病院との円滑な医療連携の構築について. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成23年10月18日.
23. 中島幹男, 官方基行, 富田晃一, 松寄志穂里, 玉田尚, 松田岳人, 八木橋巖, 山口芳裕: 急性薬物中毒に伴う誤嚥性肺炎・ARDSとされていた呼吸不全に当初より肺血栓塞栓症を合併していた2症例の検討. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成23年10月18日.
24. 山口芳裕: 福島第一原発事故に係る医療支援. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成23年10月19日.
25. 山口芳裕: 原発事故概要とWG発足の経緯. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成23年10月19日.
26. 富田晃一, 中島幹男, 荻野聡之, 落合剛二, 持田勇希, 小野寺亮, 官方基行, 庄司高裕, 玉田尚, 松田岳人, 山口芳裕: クレブシエラ肺炎の重症化に寄与する特異的遺伝子について. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成23年10月19日.
27. 松寄志穂里, 樽井武彦, 井上孝隆, 大畑徹也, 小泉健雄, 山田賢治, 松田剛明, 山口芳裕: 積極的蘇生対象となる院外心肺停止患者識別へ向けた新たなアプローチ. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成23年10月20日.
28. 山田賢治, 井上孝隆, 塚田雄大, 大平和彦, 関谷恭介¹, 樽井武彦, 後藤英昭, 松田剛明, 島崎修次², 山口芳裕 (¹東京都立小児医療センター, ²国士舘大・大学院システム研究科): 杏林大学医学部附属病院高度救命救急センター受診患者の調査報告. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成23年10月20日.
29. 海田賢彦, 富田晃一, 玉田尚, 宮内洋, 後藤英昭, 山口芳裕, 梅垣修¹ (¹大阪医科大学集中治療室): 救急領域におけるデクスメドミジン長期投与の使用経験. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成23年10月20日.
30. 官方基行, 小泉健雄, 後藤英昭, 井上孝隆, 庄司高裕, 山口芳裕: 低血糖昏睡における機能予後因子に冠する検討. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成23年10月20日.
31. 加藤雅江¹, 山田賢治, 小野寺亮, 宮内洋, 松田剛明, 山口芳裕 (¹杏林大・病院・地域医療連携室): 高度救命救急センターにおける転院支援の試み～実践とシステム試行から見えてくる転院阻害因子～. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成23年10月20日.
32. 大畑徹也, 市村正一¹, 丸野秀人¹, 内倉長造¹, 里見和彦² (¹杏林大・医・整形外科, ²久我山病院整形外科): ウサギ仮骨延長モデルにおけるPTH間欠投与における仮骨形成の経時的評価. 第26回日本整形外科学会基礎学術集会, 前橋, 平成23年10月21日.
33. 小泉健雄, 海田賢彦, 井上孝隆, 玉田尚, 庄司高裕, 後藤英昭, 山田賢治, 山口芳裕: 自家培養表皮は広範囲重症熱傷の治療戦略を変えうるかージェイス®の使用経験. 第20回日本熱傷学会関東地方会, 東京, 平成24年1月28日.
34. 山口芳裕: 放射線における基礎知識と被ばく傷病者対応時の留意点. 第20回全国救急隊員シンポジウム, 東京, 平成24年2月2日.
35. 持田勇希, 庄司高裕, 井上孝隆, 玉田尚, 松田岳人, 小泉健雄, 山田賢治, 山口芳裕: シートベルト損傷により腸管穿孔・横隔膜破裂を認めた重症筋無力症の一例. 第62回日本救急医学会関東

地方会，東京，平成 24 年 2 月 4 日。

36. 落合剛二，中島幹男，玉田尚，宮内洋，樽井武彦，山田賢治，後藤英昭，山口芳裕：コリンエステラーゼ阻害薬（ジスチグミン臭化物）によるコリン作動性クリーゼを呈した 2 症例。第 62 回日本救急医学会関東地方会，東京，平成 24 年 2 月 4 日。
37. 荻野聡之，庄司高裕，松田岳人，樽井武彦，山田賢治，山口芳裕：非閉塞性腸管虚血による広範囲小腸虚血に対して保存的に治療し得た一例。第 62 回日本救急医学会関東地方会，東京，平成 24 年 2 月 4 日。
38. 杉山小百合¹，大平和彦¹，塚田雄大¹，山田賢治，松田剛明¹，山口芳裕（¹杏林大・救急科・Advanced Triage Team）：急性大腸炎を契機に急性副腎不全をきたした ACTH 単独欠損症の一例。第 62 回日本救急医学会関東地方会，東京，平成 24 年 2 月 4 日。
39. Koizumi T, Kaita Y, Otawara M, Tamada N, Goto H, Yamaguchi Y: The struggle for optimal sodium management in extensive, severe burns. The 12nd Joint Scientific Congress of JSICM and KSCCM (第 39 回日本集中治療医学会学術集会併催)，千葉，平成 24 年 2 月 29 日。
40. Matsuda T : Surgeon Participation in the Emergency Room (ER) Team : Advantages and Disadvantages. The 28th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Thailand, March 19, 2012.

論文

1. 山田賢治，山口芳裕：圧迫止血法。診断と治療 99: 686-691, 2011.
2. 中島幹男，山口芳裕：肝機能障害。救急医 35: 825-827, 2011.
3. Nishiyama K^{1, 2}, Seyama H^{1, 3}, Okano H^{1, 2}, Yamada S^{1, 2}, Kurita H^{1, 3}, Chiba A^{1, 2}, Yamaguchi Y^{1, 4} & Shiokawa Y^{1, 3} (¹Stroke Center, Kyorin University Hospital, Japan, ²Department of Neurology, Kyorin University Hospital, Japan, ³Department of Neurosurgery, Kyorin University Hospital, Japan and ⁴Department of Critical Care, Kyorin University Hospital, Japan: Escalation Regimen of Cilostazol for Acute Brain Infarction. Intern Med 50:1559-1563, 2011.
4. 樽井武彦，山口芳裕：腸閉塞。救急医 35: 1339-1342, 2011.
5. 庄司高裕，山口芳裕：肺血栓塞栓症。救急医 35: 1807-1814, 2011.
6. 松寄志徳里，山口芳裕：侵襲に対する生体反応 - SIRS (サーズ) について。理療ジャーナル 45: 589-595, 2011.
7. 米良尚晃，池田隆徳¹，星田京子¹，柳澤亮爾¹，宮越睦¹，三輪陽介¹，阿部敦子¹，石黒晴久¹，塚田雄大，柚須悟¹，吉野秀朗¹，山口芳裕（¹杏林大・

医・第二内科）：自動体外式除細動器（AED）が使用され集中治療を受けた連続 26 例の予後と蘇生後脳症の評価。心臓 43: 92-96, 2011.

8. 島田大輔，塚田雄大，小野寺亮，宮方基行，山田賢治，松田剛明，山口芳裕：造影剤アレルギーによる中毒疹とともに発症した急性心筋梗塞の 1 例。日救医会関東誌 32: 118-119, 2011.
9. 米良尚晃，高昌秀安¹，南島俊徳¹，武本和也¹，西間木彩子¹，池田隆徳¹，坂田好美¹，佐藤徹¹，松田剛明，山口芳裕，吉野秀朗¹（¹杏林大・医・第 2 内科）：冠疾患における連携 トリアージとピットフォール 症状から見る ACS 患者の臨床像と重症度 杏林大学病院 1・2 次 3 次救急外来の検討。ICU と CCU 35: 946, 2011.
10. 塚田雄大，松田剛明：救急医療における ATT(Advanced Triage Team) の役割。総合臨 60: 2539-2540, 2011.
11. 井上孝隆，山口芳裕：東日本大震災から学ぶこと 東京 DMAT の活動。救急医療ジャーナル 20: 44-48, 2012.
12. 井上孝隆，山口芳裕：大震災 現場の救急医療。杏林医会誌 43: 9-10, 2012.
13. 玉田尚，山口芳裕：センター設立と機器・システム設置効果救命救急センターにおける情報システムの円滑運用への方策 重症部門システムの導入とその運用。新医療 39: 146-148, 2012.
14. 玉田尚，後藤英昭，山口芳裕：特発性横行結腸穿孔による汎発性腹膜炎の 1 例。日本腹部救急医学会誌 32: 135-139, 2012.

著書

1. 樽井武彦，山口芳裕：K. イレウス管の挿入。救急診療指針 一般社団法人日本救急医学会監修，一般社団法人日本救急医学会専門医認定委員会編，東京，へるす出版，2011，p240-243.
2. 山口芳裕：肺損傷。今日の治療指針 2012 年版 山口徹，北原光夫，福井次矢編，東京，医学書院，2012，p48.
3. 山口芳裕（編集委員）：改訂第 8 版救急救命士標準テキスト第 1 巻～第 5 巻。救急救命士標準テキスト編集委員会編，東京，へるす出版，2012.
4. 富田晃一，山口芳裕：7. ショックと循環管理。救急・集中治療医学レビュー 2012-'13 島崎修次，前川剛志監修，岡元和文，横田裕行編，東京，総合医学社，2012.

脳神経外科学教室

口演

1. 丸山啓介，野口明男，山口竜一，鳥居正剛，河合拓也，栗田浩樹，塩川芳昭：特異な所見を呈する破裂脳動脈瘤への手術手技のバリエーション。第 20 回脳神経外科手術と機器学会（シンポジウム），徳島，2011 年 4 月 8 日。
2. 丸山啓介，佐藤栄志，塩川芳昭：脳神経外科学生

- 教育への iPad の導入. 第 20 回脳神経外科手術と機器学会, 徳島, 2011 年 4 月 8 日.
3. 福田信, 丸山啓介, 塩川芳昭: 杏林大学脳神経外科における術後感染症による再手術症例の検討. 第 20 回脳神経外科手術と機器学会 (CNTT), 徳島, 2011 年 4 月 8 日.
 4. 小林啓一, 田中雅樹, 福田信, 畑中良, 塩川芳昭: 頭蓋内腫瘍摘出術に対する Super FIXSORB[®]MX を用いた頭蓋骨固定の使用経験と有用性の検討. 第 4 回日本整容脳神経外科研究会. 徳島, 2011 年 4 月 9 日. (震災のため誌上発表).
 5. 永根基雄: 悪性脳腫瘍に対する化学療法の進歩-Temozolomide と MGMT を中心に-. 大塚製薬学術講演会講. 東京, 2011 年 4 月 21 日.
 6. 塩川芳昭: 未破裂脳動脈瘤手術の課題. 第 11 回吉備脳神経外科手術フォーラム, 岡山, 2011 年 4 月 22 日.
 7. Maruyama K, Koga T, Shin M, Kamada K, Shiokawa Y: Integration of diffusion tensor tractography into radiosurgery - systematic review of our experience. 10th International Stereotactic Radiosurgery Society Congress, Paris, May 9, 2011.
 8. 畑中良, 丸山啓介, 土屋一洋, 原由紀子, 山口岳彦, 永根基雄, 塩川芳昭: 診断に苦慮した斜台部嚢胞性疾患の 1 例. 第 29 回日本脳腫瘍病理学会, 東京, 2011 年 5 月 20 日.
 9. 永根基雄: 悪性脳腫瘍における予後因子と標的治療. 第 29 回日本脳腫瘍病理学会, 東京, 2011 年 5 月 20 日.
 10. 永根基雄: Glioblastoma 治療の進歩. 第 29 回日本脳腫瘍病理学会, 東京, 2011 年 5 月 20 日.
 11. 永根基雄, 小林啓一, 田中雅樹, 土屋一洋¹, 原由紀子², 塩川芳昭 (杏林大学¹放射線科, ²病理学教室): 中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する大量 AraC 単独療法. 第 29 回日本脳腫瘍学会, 東京, 2011 年 5 月 20 日.
 12. 永根基雄, 小林啓一, 田中雅樹, 塩川芳昭: 再発悪性神経膠腫に対する血管新生標的治療: ベバシツマブ単独療法の効果と問題点. 第 29 回日本脳腫瘍病理学会, 東京, 2011 年 5 月 20 日.
 13. 小林啓一, 永根基雄, 原由紀子¹, 島田大輔, 田中雅樹, 菅間博¹, 土屋一洋, 藤岡保範¹, 塩川芳昭: ステロイド療法を施行した Lymphomatoid granulomatosis を疑う 3 例. 第 29 回日本脳腫瘍病理学会, 東京, 2011 年 5 月 21 日.
 14. 塩川芳昭: 脳卒中予防の手術 大切なこと. 第 9 回東京都脳卒中市民公開セミナー, 東京, 2011 年 5 月 28 日.
 15. 脊山英徳: 包括的脳卒中診療における頸動脈疾患. 多摩ブレインアタック研究会, 多摩, 2011 年 6 月 2 日.
 16. M Nagane, K Kobayashi, M Tanaka, K Tsuchiya, Y Shiokawa: Predictive value of mean apparent diffusion co-efficient value for responsiveness of temozolomide-refractory malignant glioma to bevacizumab. 2011 Annual Meeting of the American Society for Clinical Oncology, Chicago, IL, June 4, 2011.
 17. 脊山英徳, 鳥居正剛, 河合拓也, 野口明男, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 外傷性総頸動脈解離に対する血栓内膜剥離術の 1 例. 第 10 回日本頸部脳血管治療学会, 大阪, 2011 年 6 月 10 日.
 18. 岡村耕一: 岡村耕一, 脊山英徳, 小林洋和¹, 西山和利¹, 高橋秀寿², 塩川芳昭 (杏林大¹神経内科, ²リハビリテーション学教室): 内頸動脈閉塞症における急性期虚血部位について. 第 10 回日本頸部脳血管治療学会, 大阪, 2011 年 6 月 11 日.
 19. 穂村美津子¹, 高橋秀寿², 岡島康友², 塩川芳昭 (杏林大¹リハビリテーション科, ²リハビリテーション学教室): 右手に他人の手徴候を呈し書字困難となった一例, 第 12 回日本言語聴覚学会, 郡山, 2011 年 6 月 17-18 日.
 20. 丸山啓介, 山口竜一, 野口明男, 塩川芳昭: 傍鞍部病変に対する拡大経蝶形骨アプローチ. 第 23 回日本頭蓋底外科学会, 大阪, 2011 年 6 月 17 日.
 21. 佐藤栄志, 小西善史, 林基高¹, 原田洋一¹, 河野拓司¹ (¹水戸ブレインハートセンター脳神経外科): 脳底動脈窓形成部の脳動脈瘤の 1 例. 第 24 回東京脳血管内治療研究会, 東京, 2011 年 6 月 18 日.
 22. 田中雅樹, 島田大輔, 小林啓一, 丸山啓介, 宍戸原由紀子¹, 土屋一洋², 永根基雄, 塩川芳昭 (¹杏林大¹病理学教室, ²放射線科): 内視鏡下生検が診断に有用であった Malignant Lymphoma の 1 例. 第 47 回三鷹ニューロカンファレンス, 多摩, 2011 年 6 月 23 日.
 23. 永根基雄: 悪性リンパ腫の治療-UPDATE. 脳腫瘍レビュー 11, 東京, 2011 年 7 月 2 日.
 24. 永根基雄: Glioma の分子遺伝子学の最新知見. 脳腫瘍レビュー 11, 東京, 2011 年 7 月 2 日.
 25. 丸山啓介: 脳神経外科手術におけるフィブリン糊の役割. CSL ベーリング 社内レクチャー, 東京, 2011 年 7 月 5 日.
 26. 鳥居正剛, 岡部慎一¹, 田村晃², 河野拓司³, 塩川芳昭 (¹聖麗メモリアル病院, ²富士脳障害研究所付属病院, ³ブレインピア南太田): 脳ドック前後での定量化してあ QOL 変化から見た受信の有用性. 第 20 回日本脳ドック学会総会, 東京, 2011 年 7 月 9 日.
 27. 永根基雄, 小林啓一, 田中雅樹, 畑中良, 島田大輔, 吉田裕毅, 塩川芳昭: 中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する大量 AraC 療法. 第 15 回多摩脳腫瘍研究会, 東京, 2011 年 7 月 15 日.
 28. 小林啓一, 永根基雄, 坂田征士, 田中雅樹, 原由紀子¹, 菅間博¹, 塩川芳昭 (¹杏林大学病理学教室): 初発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するステ

- ロイド及び大量 methotrexate 療法の治療効果と予後因子の検討. 第 15 回多摩脳腫瘍研究会, 多摩, 2011 年 7 月 15 日.
29. 脊山英徳, 野口明男, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 治療困難な脳動脈瘤に対する血行再建術を併用した負けない治療. 第 3 回南十字星カンファレンス, 網走, 2011 年 7 月 22-23 日.
 30. 脊山英徳, 小林洋和, 西山和利, 高橋秀寿, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 杏林大学病院脳卒中センターにおける内頸動脈内膜剥離術 73 例の治療成績. 第 36 回日本脳卒中学会, 京都, 2011 年 7 月 31 日.
 31. 塩川芳昭, 脊山英徳, 野口明男, 山口竜一, 丸山啓介, 佐藤栄志, 小西善史: 血栓化大型脳動脈瘤に対する治療戦略. 第 40 回日本脳卒中の外科学会, 京都, 2011 年 7 月 31 日.
 32. 塩川芳昭: 脳卒中治療の現状と展望, 第 36 回日本脳卒中学会, 京都, 2011 年 7 月 31 日.
 33. 丸山啓介, 野口明男, 山口竜一, 鳥居正剛, 河合拓也, 栗田浩樹, 塩川芳昭: 特異な所見を呈する破裂脳動脈瘤への手術手技のバリエーション. 第 40 回日本脳卒中の外科学会, 京都, 2011 年 7 月 31 日.
 34. 甲賀智之, 辛正廣, 丸山啓介, 斉藤延人: High-grade AVM の治療における定位放射線治療の役割. 第 40 回日本脳卒中の外科学会, 京都, 2011 年 7 月 31 日.
 35. 山口竜一, 野口明男, 脊山英徳, 丸山啓介, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 杏林大学脳神経外科における開頭による未破裂脳動脈瘤治療の現状と課題. 第 40 回日本脳卒中の外科学会, 京都, 2011 年 7 月 31 日.
 36. 山口竜一, 岡村耕一, 河合拓也, 鳥居正剛, 脊山英徳, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭: 当院における電子画像システムを用いた血腫量算定による脳出血の手術適応について. 第 40 回日本脳卒中の外科学会, 京都, 2011 年 7 月 31 日.
 37. 岡村耕一, 山口竜一, 脊山英徳, 岡野晴子¹, 小林洋和¹, 西山和利¹, 高橋秀寿², 塩川芳昭 (杏林大¹ 神経内科, ²リハビリテーション学教室): 杏林大学病院の脳内出血治療における現状と課題. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 2011 年 7 月 31 日.
 38. 河合拓也, 山口竜一, 野口明男, 鳥居正剛, 丸山啓介, 田中雅樹, 佐藤栄志, 小西善史, 栗田浩樹, 塩川芳昭: 杏林大学医学部附属病院 脳神経外科における重症くも膜下出血に対する減圧開頭術の現状と課題. 第 40 回日本脳卒中の外科学会, 京都, 2011 年 7 月 31 日.
 39. 畑中良, 岡村耕一, 脊山英徳, 小林洋和, 西山和利, 高橋秀寿, 塩川芳昭: 急性期脳卒中センターにて深部静脈血栓症を合併した 3 症例. 第 40 回日本脳卒中の外科学会, 京都, 2011 年 7 月 31 日.
 40. 西野裕士¹, 吉野みなみ¹, 松本由美¹, 塩川芳昭 (杏林大・脳卒中センター): 杏林大学医学部附属病院脳卒中センターにおける看護必要度とインシデント報告の関連. 第 36 回日本脳卒中学会, 京都, 2011 年 7 月 30-8 月 1 日.
 41. 脊山英徳, 野口明男, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 杏林大学における治療困難な脳動脈瘤に対する複合的治療. 第 40 回日本脳卒中の外科学会, 京都, 2011 年 8 月 1 日.
 42. 小林啓一: 脳腫瘍術後てんかんに対するレベチラセタムの使用経験. イーケプラ発売記念講演会, 立川, 2011 年 8 月 6 日.
 43. 脊山英徳, 小林洋和, 西山和利¹, 高橋秀寿¹, 土屋一洋², 塩川芳昭 (杏林大¹ 附属脳卒中センター, ²放射線科): rt-PA 治療における MRI FLAIR 画像の intra arterial Hyperintensity sign の意義. 第 30 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 札幌, 2011 年 8 月 26 日.
 44. 岡村 耕一, 脊山英徳, 小林洋和¹, 西山和利¹, 高橋秀寿², 塩川芳昭 (杏林大¹ 神経内外科, ²リハビリテーション教室): 頸動脈内膜剥離術における術中超音波検査の有用性. 第 30 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 札幌, 2011 年 8 月 26 日.
 45. 鳥居正剛, 山手瑞貴¹, 高橋 俊¹, 新井紀夫¹, 小西善史, 塩川芳昭 (東京農工大・工・機械システム工学科): 大型脳動脈瘤モデルに対する high flow bypass 術前後での瘤内及び分枝血管の血流解析. 第 30 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 札幌, 2011 年 8 月 26 日.
 46. 永根基雄: 転移性脳腫瘍の治療について. 中外製薬 脳転移例に対する bevacizumab 投与に関する座談会, 東京, 2011 年 9 月 1 日.
 47. 永根基雄: がんの基礎知識: 悪性脳腫瘍を例に. 杏林大学医学部附属病院がん看護研修会, 東京, 2011 年 9 月 2 日.
 48. 小西善史: 神経疾患の治療に関する最新の話題と情報の共有. 第 7 回世田谷脳神経疾患医療連携研究会, 渋谷, 2011 年 9 月 7 日.
 49. 小林啓一: 脳腫瘍術後てんかんに対するレベチラセタムの使用経験. イーケプラ発売記念講演会, 武蔵野, 2011 年 9 月 9 日.
 50. 小林啓一, 丸山啓介, 田中雅樹, 野口明男, 土屋一洋, 永根基雄, 塩川芳昭: 術中ナビゲーションにおける T2 反転および錐体路・PET 画像融合の有用性. 第 16 回日本脳腫瘍の外科学会, 横浜, 2011 年 9 月 10 日.
 51. 塩川芳昭: 脳血管外科からはいる脳神経外科手術修練. 第 29 回山梨神経外科懇話会, 甲府, 2011 年 9 月 20 日.
 52. 塩川芳昭: 脳卒中診療 最近の話題. 西多摩医師会学術講演会, 多摩, 2011 年 9 月 26 日.
 53. 田中雅樹, 島田大輔, 小林啓一, 丸山啓介, 宍戸原由紀子¹, 土屋一洋², 永根基雄, 塩川芳昭 (杏林大¹ 病理学教室, ²放射線科): 術中モニタリング及び術中蛍光診断を併用したナビゲーション

- ン下神経膠種摘出術の治療成績. 第15回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪, 2011年10月1-2日.
54. 岡村耕一, 福田信, 脊山英徳, 小林洋和¹, 西山和利¹, 千葉厚郎¹, 塩川芳昭¹ (杏林大 神経内科): PRES (posterior reversible encephalopathy syndrome) と脳内出血を合併した77歳女性例. 第8回首都圏脳卒中フォーラム, 東京, 平成23年10月7日.
 55. 永根基雄, 小林啓一, 田中雅樹, 土屋一洋¹, 原由紀子², 塩川芳昭¹ (杏林大¹放射線科,²病理学教室): 再発悪性神経膠腫に対する血管新生標的治療: ペバシツマブ単独療法の効果と問題点. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月12日.
 56. 佐藤栄志, 小西善史, 島田篤¹, 小松原弘一郎, 脊山英徳, 野口明男, 塩川芳昭¹ (白河病院): 脳動脈瘤に対する直達手術と血管内治療の併用治療—血管内治療の立場から—. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月12日.
 57. 丸山啓介, 野口明男, 山口竜一, 脊山英徳, 河合拓也, 塩川芳昭: 脳動脈瘤処置に必要なクリッピング以外の手術手技. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月12日.
 58. 甲賀智之, 藤堂具紀, 花北俊哉, 辛正廣, 丸山啓介, 武笠晃丈, 齊藤邦昭, 齊藤延人: 再発神経膠芽腫の長期腫瘍制御をめざした定位放射線治療の照射野拡大の効果. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月12日.
 59. 岡村耕一, 山口竜一, 脊山英徳, 小林洋和¹, 西山和利¹, 高橋秀寿², 塩川芳昭 (杏林大¹付属脳卒中センター,²リハビリテーション科): 小脳出血手術適応の妥当性について. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月12日.
 60. 河合拓也, 鳥居正剛, 野口明男, 山口竜一, 丸山啓介, 田中雅樹, 佐藤栄志, 小西善史, 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹ (埼玉医科大・国際医療センター・脳卒中外科): 重症くも膜下出血に対する減圧開頭術の現状と課題: 第2報. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月12日.
 61. 田中雅樹, 永根基雄, 小林啓一, 土屋一洋¹, 塩川芳昭¹ (杏林大・放射線科): CT perfusion 及びMR perfusion を用いた中枢神経系悪性リンパ腫と悪性神経膠腫の術前鑑別. 第70回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2011年10月12日.
 62. 島田大輔, 小林啓一, 田中雅樹, 福田信, 畑中良, 野口明男, 永根基雄, 塩川芳昭: 頭蓋内腫瘍摘出術に対する Super FIXSORB®MX を用いた頭蓋骨固定の使用経験と有用性. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月12日.
 63. 山口竜一, 野口明男, 脊山英徳, 丸山啓介, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 杏林大学脳神経外科における開頭による未破裂脳動脈瘤治療の治療成績. 第70回日本脳神経外科学会総会, 福岡, 2011年10月12-14日.
 64. 鳥居正剛, 山手瑞貴¹, 高橋俊¹, 新井紀夫¹, 小西善史, 塩川芳昭¹ (東京農工大・工・機械システム工学科): High flow bypass を設置した大型脳動脈瘤モデルでの血行動態解析 - 可視化映像を基に. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月12-14日.
 65. 小林啓一, 田中雅樹, 丸山啓介, 野口明男, 土屋一洋¹, 永根基雄, 塩川芳昭: 術中ナビゲーションにおけるT2反転および錐体路・PET画像融合の有用性. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月13日.
 66. 吉田裕毅, 野口明男, 塩川芳昭: 杏林大学医学部脳神経外科における頭蓋形成術と脳室腹腔シャント術の現状と課題. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月13日.
 67. 根元香織¹, 蛭沢志織¹, 阿部光世¹, 藤本諒子¹, 長谷川さゆり¹, 松本由美¹, 塩川芳昭¹ (杏林大・脳神経外科病棟): 急性期脳神経外科病棟看護師のストレス原因についての一考. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月14日.
 68. 塩川芳昭: 未破裂脳動脈瘤治療の課題. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月14日.
 69. 小西善史: 動脈瘤塞栓術におけるコイル形状と最適挿入速度の検討. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月14日.
 70. 畑中良, 丸山啓介, 田中雅樹, 河合拓也, 塩川芳昭: 当院における高齢者の頭部外傷の特徴. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月14日.
 71. 福田信, 丸山啓介, 塩川芳昭: 杏林大学医学部脳神経外科における術後感染症による再手術症例の検討 —第2報—. 第70回日本脳神経外科学会総会, 横浜, 2011年10月14日.
 72. 脊山英徳, 岡村耕一, 小林洋和¹, 西山和利¹, 高橋秀寿¹, 栗田浩樹², 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭¹ (杏林大・病院脳卒中センター,²埼玉医科大・国際医療センター): 杏林大学病院脳卒中センターにおける頸動脈狭窄症治療連続140例の成績. 第70回日本脳神経外科学会, 横浜, 2011年10月12-14日.
 73. 福田信, 丸山啓介, 塩川芳昭: 症候性だが腫瘍壊死に陥り内分泌学的に非活動性であったクッシング症例の一例. 第9回多摩視床下部下垂体勉強会, 多摩, 2011年10月21日.
 74. 福田信: 被災地における医療活動を経験して直面した問題点. 第87回多摩医学会講演会, 多摩, 2011年10月22日.
 75. 河合拓也, 金井隆安¹, 塩川芳昭¹ (杏林大 薬剤部): レベチラセタムによる眠気を克服し症状も改善に至った2症例～杏林大学病院脳神経外科における使用経験より～. EKeppra® 学術講演会, 武蔵野, 2011年10月26日.
 76. 塩川芳昭: 脳卒中治療の現状と展望. 第7回富

- 士・玄海ストロークフォーラム, 福岡, 2011年10月28日.
77. 永根基雄: JSCO University 2011. -Central Nervous System Tumor- Year in Review: Japan. 第49回日本癌治療学会, 名古屋, 2011年10月28日.
 78. 永根基雄: Meet the Professor. 第49回日本癌治療学会, 名古屋, 2011年10月28日.
 79. 岡村耕一, 島田大輔, 脊山英徳, 塩川芳昭: 頸部内頸動脈偽閉塞症が閉塞して頸動脈内膜剥離術を行なえなかった症例. 第7回富士・玄海ストロークフォーラム, 福岡, 2011年10月28日.
 80. 永根基雄, 西川亮, 成田善孝, 倉津純一, 小林浩之, 杉山一彦, 青木友和, 篠浦伸禎, 高野晋吾, 岡田和喜, 松谷雅生, JO22506-Avastin Study Group: 再発悪性神経膠腫を対象としたベバシズマブの多施設共同第II相臨床試験. 第49回日本癌治療学会, 名古屋, 2011年10月29日.
 81. 塩川芳昭: 脳血管外科からはいる脳神経外科手術修練. 第36回上中越脳神経外科医会, 新潟, 2011年11月4日.
 82. Y Iizuka, E Koda, Y Tsutsumi, S Iwabuchi, M Hayashi, Y Konishi: Pediatric high-flow, cervical spinal, macro-arteriovenous fistula, treated with the endovascular cotton candy glue injection technique. P, WFITN, South Africa, Nov. 8-11, 2011.
 83. Y Iizuka, E Koda, Y Tsutsumi, S Iwabuchi, Mo H, Y Konishi: Vein of Galen aneurysmal malformation associated with an endoglin gene mutation, WFIT, South Africa, Nov. 8-11, 2011.
 84. 福田信, 山口竜一, 野口明男, 塩川芳昭: 小脳扁桃下垂を伴う後頭蓋窩クモ膜のう胞の治療についての検討. 三鷹ニューロカンファレンス, 多摩, 2011年11月10日.
 85. 丸山啓介, 塩川芳昭: 基本的開頭法と整容への配慮. 第7回脳神経外科手術夜話, 三鷹, 2011年11月11日.
 86. 小林啓一, 永根基雄, 丸山啓介, 戸成綾子¹, 永山和樹², 野村竜太郎³, 佐藤健吾², 高山誠¹, 塩川芳昭 (¹杏林大・放射線治療部, ²日本赤十字社医療センター脳神経外科): 再発悪性神経膠腫に対する定位放射線治療の治療効果. 第16回多摩脳腫瘍研究会, 多摩, 2011年11月12日.
 87. 永根基雄: 神経膠腫の分子マーカー・予後因子と標的治療. 第42回埼玉脳腫瘍病理懇話会, 大宮, 2011年11月16日.
 88. 丸山啓介, 山口竜一, 河合拓也, 野口明男, 塩川芳昭: 経蝶形骨アプローチにおける内視鏡の必要度: 拡大法と従来法の比較検討. 第18回日本神経内視鏡学会, 岡山, 2011年11月17日.
 89. 山口竜一, 丸山啓介, 河合拓也, 小林啓一, 野口明男, 永根基雄, 塩川芳昭: 第3脳室底開頭術の治療成績. 第18回日本内視鏡学会, 岡山, 2011年11月17日.
 90. M Nagane, K Kobayashi, M Tanaka, K Tsuchiya, Y Shiohara: Predictive value of mean apparent diffusion coefficient value for responsiveness of temozolomide-refractory malignant glioma to bevacizumab. The 16th Annual Meeting of the Society for Neuro-Oncology. Anaheim, Nov. 18-21, 2011.
 91. 島田大輔, 小林啓一, 畑中良, 田中雅樹, 原由紀子¹, 菅間博¹, 永根基雄, 土屋一洋², 塩川芳昭 (杏林大 ¹病理学教室, ²放射線科): 中枢神経系原発 lymphomatoid granulomatosis: 3例の臨床病理学的検討. 第40回杏林医学会, 三鷹, 2011年11月19日.
 92. 小西善史, 佐藤栄志, 深作和明¹ (¹碑文谷病院): 動脈瘤コイル塞栓術での各種デリバリーワイヤー硬度とコイル後端部の特製と比較. 第27回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 千葉, 2011年11月24-26日.
 93. M Nagane: Prognostic factors and targeted therapy for malignant glioma. 24th International Cancer Research Symposium, Tokyo, Nov. 24, 2011.
 94. M Nagane, K Kobayashi, M Tanaka, K Tsuchiya, Y Shishido-Hara, Yoshiaki Shiohara: Antiangiogenic therapy for recurrent malignant glioma by bevacizumab monotherapy---Efficacy and future prospective---. 29th Annual Meeting of Japan Society for Neuro-Oncology, Gero, Nov. 27, 2011.
 95. 永根基雄, 小林啓一, 田中雅樹, 塩川芳昭: 中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する大量 AraC 単独療法. 第29回日本脳腫瘍学会, 下呂, 2011年11月28日.
 96. 小林啓一, 永根基雄, 田中雅樹, 塩川芳昭: 中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する PAV 療法の使用経験. 第29回日本脳腫瘍学会, 下呂, 2011年11月28日.
 97. 小林啓一, 永根基雄, 丸山啓介, 戸成綾子¹, 永山和樹², 野村竜太郎³, 佐藤健吾³, 高山誠¹, 塩川芳昭 (¹杏林大・放射線治療部, ²碑文谷病院, ³日本赤十字社医療センター 脳神経外科・サイバーナイフセンター): 再発悪性神経膠腫に対する定位的放射線療法の治療効果. 第29回日本脳腫瘍学会, 下呂, 2011年11月28日.
 98. 永根基雄, 小林啓一, 田中雅樹, 塩川芳昭: 再発グリオーマに対する治療. ニューロオンコロジーの会, 2011年12月4日.
 99. 小林啓一, 永根基雄, 丸山啓介, 戸成綾子¹, 永山和樹², 野村竜太郎², 佐藤健吾², 高山誠³, 塩川芳昭 (¹杏林大・医・放射線治療部, ²日本赤十字社医療センター脳神経外科・サイバーナイフセンター): 再発悪性神経膠腫に対する定位的放射線療法の治療効果. ニューロオンコロジーの会, 2011年12月4日.

100. 河合拓也, 金井隆安¹, 塩川芳昭¹ (杏林大 薬剤部): レベチラセタムによる眠気を克服し症状も改善に至った2症例~杏林大学病院脳神経外科における使用経験より~. EKeppra® 学術講演会, 多摩, 2011年12月9日.
101. 島田大輔, 小林啓一, 畑中良, 田中雅樹, 原由紀子¹, 菅間博¹, 永根基雄, 土屋一洋², 塩川芳昭 (杏林大¹ 病理学教室, ²放射線科): 中枢神経系原発 lymphomatoid granulomatosis: 3例の臨床病理学的検討. 第116回日本脳神経外科学会関東支部会, 東京, 2011年12月10日.
102. 脊山英徳, 岡村耕一, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 頸動脈狭窄症に対する我々の治療戦略. 第4回南十字星脳神経外科手術研究会, 2012年1月14-15日.
103. 河合拓也, 野口明男, 塩川芳昭: 軽症くも膜下出血における急性肺水腫などの合併症を考慮した連続心拍出量測定装置 PiCCo plus の使用経験, 第17回日本脳神経外科救急学会, 東京, 2012年1月28日.
104. 畑中良, 丸山啓介, 河合拓也, 鳥居正剛, 田中雅樹, 野口明男, 塩川芳昭: 当院における高齢者の頭部外傷の特徴. 第17回日本脳神経外科救急学会, 東京, 2012年1月28日.
105. 飯塚有志¹, 甲田英一¹, 林盛人², 秋山真美², 岩淵聡², 堤義之³, 小西善史, 蘆田浩⁴, 船曳哲典⁴ (東邦大・医療センター大橋病院¹放射線科, ²脳神経外科, ³成育医療センター放射線診療部, ⁴藤澤市民病院画像センター): 口輪筋麻痺にて発症した新生児静脈洞交差硬膜動静脈瘻. 第41回日本神経放射線学会, 三重, 2012年2月2日.
106. 田中雅樹, 永根基雄, 小林啓一, 土屋一洋¹, 塩川芳昭¹ (杏林大学放射線科): CT perfusion 及び MR perfusion を用いた中枢神経系悪性リンパ腫と悪性神経膠腫の術前鑑別. 第31回日本画像医学会, 東京, 2012年2月17日.
107. 脊山英徳, 岡村耕一, 塩川芳昭: Super FIXSORB® を用いた浅側頭動脈中大脳動脈吻合術の開閉頭法. 第5回日本整容脳神経外科研究会, 大阪, 2012年3月31日.
- 論文**
1. Naganuma M, Koga M, Shiokawa Y, Nakagawa J, Furui E, Kimura K, Yamagami H, Okada Y, Hasegawa Y, Kario K, Okuda S, Nishiyama K, Minematsu K, Toyoda K :Reduced Estimated Glomerular Filtration Rate is Associated with Stroke Outcome after Intravenous rt-PA:The Stroke Acute Management with Urgent Risk-Factor Assessment and Improvement (SAMURAI) rt-PA Registry. *Cerebrovasc Dis* 31:12-129, 2011.
2. 塩川芳昭: 序. *分子脳血管病* 10(1): 11-12, 2011.
3. 内山真一郎, 塩川芳昭, 阿部康二, 片山泰朗, 松本昌泰, 鈴木倫保: 座談会 脳卒中への新たなチャレンジ. *分子脳血管病* 10(1): 1-10, 2011.
4. 塩川芳昭: はじめに 脳動脈瘤 予防と治療の最前線. *医学のあゆみ* 236(2): 99, 2011.
5. 塩川芳昭: 脳卒中診療 最近の話題. *三鷹医人往来* 33(1): 25-27, 2011.
6. 塩川芳昭: 小型の無症候性未破裂脳動脈瘤に対する治療適応と外科治療の現状. *脳神経外科ジャーナル* 20(7): 491-497, 2011.
7. 塩川芳昭: 削開可能な頭蓋底骨モデルを用いた頭蓋底外科手術練習用モデルの作製方法. *脳神経外科ジャーナル* 20(7): 530, 2011.
8. Koga M, Kimura K, Shibazaki K, Shiokawa Y, Nakagawara J, Furui E, Yamagami H, Okada Y, Hasegawa Y, Kario K, Okuda S, Naganuma M, Nezu T, Maeda K, Minematsu K, Toyoda K : CHADS2 score is associated with 3-month clinical outcomes after intravenous rt-PA therapy in stroke patients with atrial fibrillation: SAMURAI rt-PA Registry. *J Neurol Sci* 306(1-2): 49-53, 2011.
9. 塩川芳昭: 第23回微小脳神経外科解剖セミナー会長として. *微小脳神経外科解剖 脳神経外科ジャーナル* 20 supplement2: 79, 2011.
10. 宮本享, 位田隆一, 峰松一夫, 鈴木倫保, 塩川芳昭, 飯原弘二, 橋本洋一郎, 中島弘, 森久恵 (厚生労働省循環器病研究委託費 20指-2 重傷脳卒中における生命倫理に関する研究班) 急性期脳卒中 無輸血治療希望事例対応マニュアル. *脳卒中* 33: 532-535, 2011
11. Nezu T, Koga M, Nakagawara J, Shiokawa Y, Yamagami H, Furui E, Kimura K, Hasegawa Y, Okada Y, Okuda S, Kario K, Naganuma M, Maeda K, Minematsu K, Toyoda K. (Stroke Acute Management with Urgent Risk-factor Assessment and Improvement (SAMURAI) rt-PA Registry) : Early Ischemic Change on CT Versus Diffusion-Weighted Imaging for Patients With Stroke Receiving Intravenous Recombinant Tissue-Type Plasminogen Activator Therapy. *Stroke*. 42(8):2196-200, 2011. Epub 2011 Jun 30.
12. 永根基雄: Malignant meningioma 悪性髄膜腫. *臨床・病理 脳腫瘍取り扱い規約* 第3版 (2010年7月) 追補; 1-3.
13. 永根基雄, 小林啓一, 林基高, 清水早紀, 塩川芳昭: 高齢者初発膠芽腫に対する放射線化学療法の治療成績と因子解析. *Geriatric Neurosurgery* 123: 3-11, 2011.
14. Sakata S, Fujiwara M, Ohtsuka K, Kamma H, Nagane M, Sakamoto A, Fujioka Y. ATP-binding cassette transporters in primary central nervous system lymphoma; decreased expression of MDR1 P-glycoprotein and breast cancer resistance protein in tumor capillary endothelial cells. *Oncol Rep* 25 (2): 333-339, 2011.
15. Liu K-W, Feng H, Bachoo R, Kazlauskas A, Smith EM, Symes K, Hamilton RL, Nagane M,

- Nishikawa R, Hu B, Cheng S-Y. SHP-2/*PTPN11* mediates gliomagenesis driven by *PDGFRA* and *Ink4a/Arf* aberrations in mice and humans. *J Clin Invest* 121(3): 905-917, 2011.
16. Nagane M, Kobayashi K, Tanaka M, Tsuchiya K, Shiokawa Y. Predictive value of mean apparent diffusion co-efficient value for responsiveness of temozolomide-refractory malignant glioma to bevacizumab. *J Clin Oncol* 29: suppl; abstr e12517, 2011.
 17. Nagane M, Kobayashi K, Tanaka M, Tsuchiya K, Shiokawa Y. Predictive value of mean apparent diffusion co-efficient value for responsiveness of temozolomide-refractory malignant glioma to bevacizumab. *Neuro-Oncology* 13 suppl 3: abstr iii48, 2011.
 18. Nagane M. Multidisciplinary progress in neuro-oncology 2010. *Lancet Neurol* 10 (1): 18-20, 2011.
 19. Nagane M: Recent progress in Neuro-oncology. *J Jpn S Clin Oncol* 46 (3): 1344-1347, 2011
 20. 佐藤栄志, 小西善史, 島田篤¹, 藤塚光幸², 塩川芳昭 (¹ 白河病院, ² 稲城市立病院) : 後大脳動脈遠位部動脈瘤に対する脳血管内治療. *脳神経外科速報* 21(1): 90-97, 2011.
 21. 佐藤栄志, 塩川芳昭 : 脳静脈血栓症・脳静脈洞血栓症 脳卒中専門医のための Key word 解説. *分子脳血管病* 10(2): 99-107, 2011.
 22. 佐藤栄志 : 脳動脈瘤に対する経カテーテル治療 特集・再訪 : 脳動脈瘤とくも膜下出血の画像診断. *臨床画像* . 28(2): 146-162, 2012.
 23. 野口明男, 塩川芳昭 : 前床突起切除を想定した外科解剖. 塩川芳昭 (編) : *NS now No. 15 傍鞍部病変の手術*, メジカルビュー社, 東京, 2011, pp 35-43.
 24. 脊山英徳, 塩川芳昭 : クリッピング手術の現状と将来 予防と治療の最前線. *医学のあゆみ* 1236(2): 99, 2011.
 25. 團志朗^{1,2}, 高橋秀寿^{1,3}, 岡島康友¹, 千野直一², 小林洋和³, 脊山英徳, 西山和利³, 塩川芳昭 (杏林大¹リハビリテーション医学教室,²リハビリテーション科,³脳卒中センター) : 大都市圏の脳卒中ユニットと転帰先の実態調査. *脳卒中* 33(1)別冊 : 89-97, 2010.
 26. 脊山英徳, 小林洋和¹, 西山和利¹, 高橋秀寿¹, 塩川芳昭 (¹ 杏林大・脳卒中センター) : 後下小脳動脈に局限した動脈解離の自然歴. *The Mt. Fuji Workshop on CVD* 29: 187-189, 2011.
 27. 綾野水樹, 脊山英徳, 岡村耕一, 小林洋和¹, 西山和利¹, 高橋秀寿¹, 塩川芳昭 (¹ 杏林大・脳卒中センター) : 難聴を呈した動脈解離の2例. *The Mt. Fuji Workshop on CVD* 29, 2011.
 28. Nishiyama K, Seyama H, Okano H, Yamada S, Kurita H, Chiba A, Yamaguchi Y, Shiokawa Y. : Escalation regimen of cilostazol for acute brain infarction. *Intern Med.* 50(15): 1559-63, 2011. Epub 2011 Aug 1.
 29. 脊山英徳, 塩川芳昭 : 脳血管障害 (脳卒中) の外科的治療. *BRAIN* 1(2): 191-197, 2011.
 30. 岡村耕一, 脊山英徳, 小林洋和¹, 西山和利¹, 高橋秀寿², 塩川芳昭 (杏林大¹神経内外科,²リハビリテーション教室) : 杏林大学病院における脳動脈解離治療の現状と課題. *The Mt. Fuji Workshop on CVD* 29: 45-49, 2011.
 31. 平岩直也, 岡村耕一, 山田智美¹, 西山和利¹, 高橋秀寿¹, 塩川芳昭 (¹ 杏林大学脳卒中センター) : European Licence に沿った使用制限時間緩和が rt-PA 静注療法に及ぼす影響に関する臨床的検討. *Neurosurg Emerg* 16: 26-33, 2011.
- ### 著書
1. 永根基雄 : 神経膠腫に対する分子標的薬 (アバスチン) 治療. In *Annual Review 神経* 2011. 鈴木則宏, 祖父江元, 荒木信夫, 宇川義一, 川原信隆 (編), 中外医学社, 東京; 194-203, 2011.
 2. 塩川芳昭 : 神経・精神・運動器疾患. *Year note TOPICS 2012 第1版 内科・外科疾患 研修医・非専門医でも知っておくべき近年と今後の動向*; 239-247, メディックメディア, 東京, 2011.
 3. 森田明夫, UCASII 研究者グループ : UCASII における未破裂脳動脈瘤治療成績 : 中間報告ー日本における未破裂脳動脈瘤治療の現況とスタンダードの追求ー. *脳外誌* 20(7):484-490, 2011.
 4. 丸山啓介, 塩川芳昭 : 下垂体腫瘍ーマイクロ, 内視鏡, SRS の選択. 塩川芳昭 (編) : *NS now No. 15 傍鞍部病変の手術*; 181-190, メジカルビュー社, 東京, 2011.
 5. 小林啓一, 永根基雄 : 脳腫瘍の疫学と分類. *J Clin Rehab* 20 (2): 154-157, 2011.
 6. 脊山英徳, 塩川芳昭 : 脳神経外科・脳卒中科. 外科医のための循環器必須知識; 275-284, メジカルビュー社, 東京, 2011.
 7. 脊山英徳 : 出血性梗塞 スッキリ解決! Q & A. *BRAIN NURSING* 11 27: 71, メディカ出版, 2011.
 8. 岡村 耕一 : 3 脳神経外科. オペナースのための毎日使える解剖図カラーイラストブック, メディカ出版, 大阪, 2010.
- ### その他
1. 病気がみえる 脳・神経 vol. 7. 塩川芳昭, 他監修, メディックメディア, 東京, 2011
 2. 平成 21 年度病院年報 (病院診療活動報告書). 塩川芳昭, 他 編集委員, 杏林大学医学部付属病院, 2011
 3. 塩川芳昭 : 脳ドックで突然の脳疾患を予防 頼れる全国医療機関ガイド 2011. 週刊朝日 4 月 8 日特大号; 178-179. 2011
 4. NS NOW14 脊髄外科 脳神経外科医が識っておくべきエッセンシャル 寺本明, 新井一, 大畑健治, 塩川芳昭, 編集, メジカルビュー社, 東京,

2011.

5. NS NOW15 傍鞍部病変の手術. 塩川芳昭, 寺本明, 新井一, 大畑健治, 編集, メジカルビュー社, 東京, 2011.
6. 塩川芳昭: 臨床トピックス SAH 好発部位, コイルは 34%. m3. com, 2011 年 7 月 12 日.
7. 塩川芳昭, 山口竜一: 脳疾患 地方別データ 関東 脳動脈瘤開頭術 手術数でわかるいい病院 2011;196, 朝日新聞出版, 2011.
8. 杏林大学病院: 脳疾患 地方別データ 関東 脳腫瘍手術. 手術数でわかるいい病院 2011;195, 朝日新聞出版, 2011.
9. 杏林大学病院: 脳動脈瘤解頭術 全国データ. 手術数でわかるいい病院 2011;46, 朝日新聞出版, 2011.
10. 杏林大学病院: 脳腫瘍 全国データ. 手術数でわかるいい病院 2011;43, 朝日新聞出版, 2011.
11. 塩川芳昭: 脳卒中予防に向けて危険因子を抽出 第 20 回日本脳ドック学会 記事. Medical Tribune vol. 44, No. 37
12. 塩川芳昭: 脳動脈瘤・失語症と闘う—突然の告知 言葉の迷路. 中日新聞, 2011 年 9 月 13 日.
13. 塩川芳昭: 脳動脈瘤・失語症と闘う—目に見えない障害 言葉の迷路. 中日新聞, 2011 年 9 月 14 日.
14. 塩川芳昭: 脳動脈瘤・失語症と闘う—リハビリと社会復帰 言葉の迷路. 中日新聞, 2011 年 9 月 15 日.
15. 塩川芳昭: 座談会 脳主幹動脈病変に対する外科的治療の現状と展望. Progress in Medicine 第 31 巻 10 号; 100-105, 2011.
16. 塩川芳昭: 取材記事 くも膜下出血に注意 予防困難だが脳ドックで予見. 産経新聞, 2011 年 11 月 22 日.
17. 塩川芳昭: 脳梗塞 血栓を絡めて取る新しい血管内治療が登場 治療薬 t-PA の有効率は 3 割程. 週刊朝日増刊号 新名医の最新治療 2012 救える治療がここにある; 142-145, 東京都, 2011.
18. 塩川芳昭 他: 医療界と法曹界の相互理解のためのシンポジウム. 第 3 回凡例タイムズ No1355; 4-34, 2011.
19. 内山真一郎, 鈴木倫保, 塩川芳昭, 松本昌泰, 阿部康二, 片山泰朗: 座談会 脳卒中治療のつぎの扉は開かれた. 分子脳血管病 vol. 11 No. 1 2012.
20. 塩川芳昭: 取材記事 次世代の教育と共に, 患者一人一人への医療を. 鉄門だより 2012 年 1 月号第 683 号; 7, 2012.
21. 永根基雄: 脳神経外科学 永根基雄准教授の論文が Lancet に掲載. あんず No. 385;9, 2011.
22. 山口竜一: 掲載記事 血腫量算定の画像診断に有効性示唆. Medical Tribune 2011 年 4 月 7 日.
23. 鳥居正剛: 冬に危険な脳卒中, 脳梗塞, くも膜下出血について解説. はなまるマーケット, TBS,

2011 年 12 月 13 日.

心臓血管外科学教室

口 演

1. 高橋直子, 細井温, 今村健太郎, 布川雅雄: 深部静脈血栓症初回発症後の血栓再発に関する検討. 第 39 回日本血管外科学会学術総会, 宜野湾, 平成 23 年 4 月 22 日.
2. 細井温, 今村健太郎, 高橋直子, 布川雅雄: 深部静脈血栓症既往症例に対する周術期管理の検討. 第 39 回日本血管外科学会学術総会, 宜野湾, 平成 23 年 4 月 22 日.
3. 布川雅雄, 今村健太郎, 高橋直子, 細井温: 腎動脈上遮断を要した腹部大動脈瘤手術症例. 第 39 回日本血管外科学会学術総会, 宜野湾, 平成 23 年 4 月 22 日.
4. 高橋雄, 窪田博, 遠藤英仁, 土屋博司, 吉本明浩, 坪井文香, 仁科善雄, 南島俊徳¹, 坂田好美¹, 佐藤徹¹, 吉野秀朗¹ (¹杏林大・循環器内科): ASD closure TAP Maze 手術後に洞不全症候群を呈した 1 症例. 第 26 回多摩不整脈研究会, 立川, 平成 23 年 6 月 18 日.
5. 平松祐司¹, 金本真也¹, 野間美緒, 徳永千穂¹, 榎原謙¹ (¹筑波大・大学院心臓血管外科学): 有効弁口面積指数から見た 20 歳未満の大動脈弁置換術式の評価と遠隔期有害事象. 第 47 回日本小児循環器学会総会, 福岡, 平成 23 年 7 月 6 日.
6. 平松祐司¹, 吉村幸浩¹, 金本真也¹, 野間美緒, 榎原謙¹ (¹筑波大・大学院心臓血管外科学): 新生児左開胸大動脈弓形成手技の効果と残存狭窄回避のための留意点. 第 47 回日本小児循環器学会総会, 福岡, 平成 23 年 7 月 7 日.
7. 面家健太郎¹, 桑原直樹¹, 金子淳¹, 後藤浩子¹, 野間美緒, 岩田祐輔², 竹内敬昌², 桑原尚志¹ (¹岐阜県総合医療センター 小児医療センター小児循環器内科, ²同小児心臓外科): 心臓再同期療法を行った患者 3 例の中期経過. 第 47 回日本小児循環器学会総会, 福岡, 平成 23 年 7 月 7 日.
8. 面家健太郎¹, 金子淳¹, 後藤浩子¹, 桑原直樹¹, 野間美緒, 岩田祐輔², 竹内敬昌², 桑原尚志¹ (¹岐阜県総合医療センター 小児医療センター小児循環器内科, ²同小児心臓外科): 成人先天性心疾患患者の救急・予定外受診の検討. 第 47 回日本小児循環器学会総会, 福岡, 平成 23 年 7 月 8 日.
9. 遠藤英仁, 窪田博, 土屋博司, 吉本明浩, 高橋雄: 人工透析例における単独 CABG 周術期管理の検討. 第 64 回日本胸部外科学会定期学術集会, 名古屋, 平成 23 年 10 月 10 日.
10. 窪田博, 遠藤英仁, 土屋博司, 吉本明浩, 高橋雄, 稲葉雄亮, 須藤憲一: 感染性胸部大動脈瘤に対する馬心膜ロールグラフト置換術. 第 64 回日本胸部外科学会定期学術集会, 名古屋, 平成 23 年 10 月 11 日.

11. 高橋直子, 細井温, 松倉満, 布川雅雄: 腸骨静脈圧迫が深部静脈血栓症後の再疎通に及ぼす影響に関する検討. 第52回日本脈管学会総会, 岐阜, 平成23年10月21日.
12. 松倉満, 高橋直子, 今村健太郎, 細井温, 布川雅雄: 当院における上腕動脈-腋窩静脈シャントグラフトの治療成績. 第52回日本脈管学会総会, 岐阜, 平成23年10月21日.
13. 工藤洋平¹, 佐藤藤夫¹, 塚田亨¹, 逆井佳永¹, 伊藤俊一郎¹, 相川志都¹, 坂本裕昭¹, 榎本佳治¹, 金本真也¹, 野間美緒, 松下昌之助¹, 平松祐司¹, 榊原謙¹(¹筑波大・附属病院 心臓血管外科): 間質性肺炎を合併した腹部大動脈瘤の1手術例. 第52回日本脈管学会総会, 岐阜, 平成23年10月21日.
14. 窪田博: 胸部大動脈瘤の外科治療 ―全身性アテローム血栓症の治療の一端として―. 三鷹医師会外科医学学術講演会, 三鷹, 平成23年10月26日.
15. 松倉満, 池添亨, 高橋直子, 細井温, 布川雅雄: EVAR 後 Type2 エンドリークの治療方針決定に際し3D-CT が有用であった一例. 第19回日本血管外科関東甲信越地方会, 川崎, 平成23年11月5日.
16. 金本真也¹, 平松祐司¹, 野間美緒, 伊藤俊一郎¹, 逆井佳永¹, 塚田亨¹, 工藤洋平¹, 榊原謙¹(¹筑波大・附属病院 心臓血管外科): 右側大動脈弓, 左動脈管索に左鎖骨下動脈起始異常を合併した血管輪の症例. 第157回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成23年11月12日.
17. 窪田博: 検察官のための心臓血管外科概説. 東京, 平成23年11月14日.
18. 松倉満, 高橋直子, 細井温, 布川雅雄: EVAR 後 Type2 エンドリークに対しハイブリッド治療を施行した一例. 第40回杏林医学会総会, 三鷹, 平成23年11月19日.
19. 高橋雄, 遠藤英仁, 土屋博司, 吉本明浩, 窪田博, 南島俊徳¹, 坂田好美¹, 佐藤徹¹, 吉野秀朗¹, 原由紀子², 菅間博²(¹杏林大・循環器内科, ²同病理学): 心転移をきたした下腿脂肪肉腫の1例. 第222回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 平成23年12月3日.
20. Kubota H: Intermittent Pressure-augmented Retrograde Cerebral Perfusion for Brain Protection during Aortic Arch Surgery. BIT' s 3rd Annual International Congress of Cardiology. Beijing, Dec. 6, 2011.
21. Tsuchiya H, Endo H, Yoshimoto A, Takahashi Y, Kubota H: Effectiveness of LAVIE (Left-Atrium And Pulmonary Vein Isolation : Epicardially) Technique to treat atrial fibrillation. BIT' s 3rd Annual International Congress of Cardiology. Beijing, Dec. 6, 2011.
22. 吉本明浩: 2011年手術報告. 平成23年度胸部外科報告会, 東京, 平成23年12月23日.
23. 高橋雄, 遠藤英仁, 土屋博司, 吉本明浩, 松倉満, 窪田博: 心室中隔穿孔 (VSP) の1救命例. 第9回多摩心臓外科学会, 立川, 平成24年2月4日.
24. Kubota H, Endo H, Tsuchiya H, Yoshimoto A, Takahashi Y, Inaba Y, Nunokawa M, Hosoi Y, Takahashi N, Matsukura M, Ikezoe T, Sudo K: Cardiac mobile calcified tumors as embolic sources in end-stage renal failure patients on hemodialysis. 1st International conference on Heart and Brain. Paris, Mar. 2, 2012.
25. 遠藤英仁, 土屋博司, 吉本明浩, 松倉満, 高橋雄, 窪田博: 上行置換術後慢性遺残解離に対し Modified Reversed Elephant Trunk を使用し二期的手術を施行した症例. 第158回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京, 平成24年3月3日.
26. 幾瀬樹, 遠藤英仁, 土屋博司, 吉本明浩, 松倉満, 高橋雄, 窪田博: 左室流出路に発生した papillary fibroelastoma (PEE), 僧帽弁狭窄症の1例. 第158回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京, 平成24年3月3日.
27. 塚田亨¹, 野間美緒, 工藤洋平¹, 逆井佳永¹, 伊藤俊一郎¹, 相川志都¹, 坂本裕昭¹, 金本真也¹, 松下昌之助¹, 佐藤藤夫¹, 榎本佳治¹, 平松祐司¹, 榊原謙¹(¹筑波大・附属病院 心臓血管外科): 初回姑息術後36年目に根治術を施行した成人両大血管右室起始症の1例. 第158回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成24年3月3日.
28. 池添亨, 布川雅雄, 高橋直子, 細井温, 窪田博: 肝動脈瘤を主病変とした高安動脈炎の1例. 第151回血管外科症例検討会. 東京, 平成24年3月10日.
29. Matsukura M, Ikezoe T, Takahashi N, Hosoi Y, Nunokawa M, Kubota H, Fujiwara M¹, Sagawa H¹, Shimpyamada H¹, Ookura Y¹(¹Ddpartmannt of Pathology Kyorin University School of Medicine Japan): IgG4-related inflammatory Abdominal Aortic Aneurysm Coexisting with Adovaced Stomach Cancer. The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012, Tokyo, Mar. 28-31, 2012.
30. Matsukura M, Takahashi Y, Yoshimoto A, Tsuchiya H, Endo H, Kubota H: Surgical Treatment of the Aortic Arch Aneurysm with Aortic Valve Regurgitation Caused by Vasculitis. The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012, Tokyo, Mar. 28-31, 2012.

論 文

1. Kubota H, Endo H, Tsuchiya H, Yoshimoto A, Takahashi Y, Inaba Y, Sudo K: How to do it: Proximal Elephant Trunk Insertion Technique for Preventing Stroke during Replacement of the Descending Aorta through a Left Thoracotomy. Heart Surgery Forum 14; 298-299, 2011.

2. Shimamura J, Kubota H, Sudo K: Left-sided approach for cardiac procedure and thoracoplasty in a patient with Marfan syndrome. *Thorac Cardiovasc Surg.* 60: 87-90, 2012.
3. Morita M¹, Eckert CE¹, Matsuzaki K¹, Noma M, Ryan LP¹, Burdick JA¹, Jackson BM¹, Gorman JH 3rd¹, Sacks MS²(¹Gorman RCGorman Cardiovascular Research Group, Department of Surgery, and Department of Bioengineering, University of Pennsylvania Philadelphia, ²Engineered Tissue Mechanics and Mechanobiology Laboratory, Department of Bioengineering, Swanson School of Engineering, McGowan Institute, School of Medicine, University of Pittsburgh): Modification of infarct material properties limits adverse ventricular remodeling. *Ann Thorac Surg* 92(2):617-24, 2011.
4. 桑原直樹¹, 面家健太郎¹, 後藤浩子¹, 金子淳¹, 寺澤厚志¹, 桑原尚志¹, 大倉正寛², 野間美緒, 岩田祐輔², 竹内敬昌²(¹岐阜県総合医療センター小児循環器内科, ²同 小児心臓外科): 経食道エコースペックルトラッキング法による至適ペースング部位の決定 心臓再同期療法を施行した拡張型心筋症 2 例の検討. *日本小児循環器学会雑誌* 27(5): 242-248, 2011.

著書

1. 窪田博: 「心臓デバイス植込み手技」胸部外科 64, 12 ; 2011 p. 1090
2. 窪田博: 特集 大動脈疾患の最新知見 大動脈瘤の診断と治療. *最新医学* 第 66 巻 7 号 p. 88-98 最新医学社, 大阪, 2011.
3. Kubota H, Sudo K, Takamoto S, Endo H, Tsuchiya H, Yoshimoto A, Takahashi Y, Inaba Y, Furuse A: Atrial Fibrillation: Basic Research and Clinical Applications. Chapter 15: Clinical Result of Epicardial Pulmonary Vein Isolation (LAVIE) by Cryoablation as Concomitant Cardiac Operation and Clinical Application of New Ablation Device(KIRC-119 Infrared Coagulator) to Treat Atrial Fibrillation. *InTech Croatia*, Jan. 2012.
4. 窪田博: 18 胸部大動脈瘤の外科治療. *三鷹醫人往来* p19-25.

その他

1. 幾瀬樹: 第 158 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京, 平成 24 年 3 月 3 日. (発表奨励賞)

整形外科教室

口演

A. 発表 (学会, 研究会)

1. 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川雅一, 滝徳宗, 市村正一: 頰椎症性筋萎縮症の動的・静的予後不良因子. 第 40 回日本脊椎脊髄病学会, 東京, 平成

23 年 4 月 21-23 日.

2. 市村正一, 長谷川雅一, 高橋雅人, 宝亀登, 滝徳宗, 山岸賢一郎, 星亨, 里見和彦: 骨粗鬆症性椎体骨折後の遅発性神経麻痺例の検討. 第 84 回日本整形外科学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
3. 市村正一, 丸野秀人, 長谷川雅一, 高橋雅人, 大畑徹也, 相川大介, 井上智雄, 里見和彦: ビスフォスフォネート 5 年以上投与における新規骨折の検討. 第 84 回日本整形外科学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
4. 小谷明弘, 星亨, 藪並英夫, 佐々木茂, 里見和彦: 運動器における重度化膿性骨髄炎の外科的治療法 (シンポジウム). 第 84 回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
5. 穴澤卯圭¹, 森岡秀夫², 森井健司, 鈴木禎寿³, 保坂聖一², 浅野尚文², 矢部啓夫²(¹東京歯科大市川総合病院, ²慶大・医・整形, ³立川共済病院整形外科): 脂肪肉腫の治療成績 (シンポジウム). 第 84 回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
6. 森井健司: 骨・軟部腫瘍外科の現状. 第 84 回日本整形外科学会学術総会シンポジウム, 横浜, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
7. Morii T, Ueda T¹, Takenaka S², Kawai A³, Hamada K⁴, Joyama S⁴, Naka N⁴, Araki N⁴, Mochizuki K, Morioka H⁵, Yabe H⁵ (¹Dept. of Orthop. Surg., National Hospital Organization Osaka National Hospital, ²Dept. of Orthop. Surg., Osaka Univ., ³Dept. of Orthop. Surg., National Cancer Center, ⁴Musculoskeletal Oncology Service, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, ⁵Dept. of Orthop. Surg., Keio Univ.): Management of post-operative deep infection in tumor endoprosthesis around the knee: A multi-institutional study by Japanese Musculoskeletal Oncology Group. 第 84 回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
8. 佐々木茂, 小谷明弘, 坂倉健吾, 家田良樹, 里見和彦, 市村正一: 膝前内側回旋不安定性に対する内側靭帯支持組織修復術の経験. 3rd JOSKAS 2011, 札幌, 平成 23 年 6 月 16-18 日.
9. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 今給黎直明, 藪並英夫, 鈴木啓司, 里見和彦: 血液透析患者における人工膝関節置換術の治療成績. 3rd JOSKAS 2011, 札幌, 平成 23 年 6 月 16-18 日.
10. 坂倉健吾, 佐々木茂, 小谷明弘, 家田良樹, 里見和彦, 市村正一: 肩腱板修復術の治療経験. -mini open 法と鏡視下腱板修復術の治療成績の比較. 3rd JOSKAS 2011, 札幌, 平成 23 年 6 月 16-18 日.
11. 丸野秀人, 大畑徹也, 稲田成作, 里見和彦: 小児上腕骨外顆骨折の治療経験. 第 37 回骨折治療学会, 横浜, 平成 23 年 7 月 1-2 日.

12. 大畑徹也, 星亨, 丸野秀人, 稲田成作, 皆川邦朋², 山口芳裕¹, 里見和彦 (¹杏林大学高度共鳴救急センター, ²皆川整形外科): 多発外傷における骨盤骨折の治療経験 (生存例と死亡例の検討). 第37回日本骨折治療学会, 横浜, 平成23年7月1-2日.
13. 佐藤行紀, 高山拓人, 相川大介, 里見和彦: 脛骨顆部骨折術後変形治癒に対し下腿髄内釘抜去後に人工膝関節置換術を施行した1例. 第37回日本骨折治療学会, 横浜, 平成23年7月1-2日.
14. 青柳貴之, 渡辺弘樹, 高峰文成: Lisfranc 関節開放脱臼に第5趾 MTP 関節脱臼, 中足骨粉碎開放骨折を合併した1例. 第37回骨折治療学会, 横浜, 平成23年7月1-2日.
15. 稲田成作, 丸野秀人, 大畑徹也, 高橋雅人, 市村正一: 足関節内果骨折とアキレス腱断裂を合併した1例. 第37回日本骨折治療学会, 横浜, 平成23年7月1-2日.
16. 山岸賢一郎, 星亨, 今給黎直明, 工藤文孝, 上原知泰, 大森雅夫: 骨粗鬆症性脊椎椎体骨折に対する椎体形成術の治療成績. 第37回日本骨折治療学会, 横浜, 平成23年7月1-2日.
17. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 丸野秀人, 稲田成作, 星亨, 山口芳裕¹, 里見和彦 (¹杏林大学高度共鳴救急センター): 別時期にアキレス腱付着部裂裏骨折を両側に発症した1例. 第37回日本骨折治療学会, 横浜, 平成23年7月1-2日.
18. 森井健司, 望月一男, 田島崇, 青柳貴之, 里見和彦: 悪性軟部腫瘍における surgical site infection の実態調査. 第34回日本骨関節感染症学会, 淡路, 平成23年7月8-9日.
19. 星亨, 今給黎直明, 工藤文孝, 山岸賢一郎, 大森雅夫: 感染を伴った糖尿病性足部壊疽に対する創傷治療. 第34回日本骨・関節感染症学会, 淡路, 平成23年7月8-9日.
20. 稲田成作, 森脇孝博, 小寺正純, 市村正一, 小林智恵¹ (¹杏林大・医・小児科), 里見和彦: 低出生体重児の化膿性肘関節炎の1例. 第34回日本骨・関節感染症学会, 淡路, 平成23年7月8-9日.
21. 森井健司: 膝関節周囲の腫瘍用人工関節感染例の検討 最終報告. 第80回骨軟部肉腫治療研究会, 京都, 平成23年7月14日.
22. 渡部逸央¹, 穴澤卯圭², 矢部啓夫³, 鈴木禎寿⁴, 森井健司, 須佐美知郎³, 保坂聖一³, 浅野尚文³, 森岡秀夫³ (¹栃木県済生会宇都宮病院整形, ²東京歯科大市川総合病院, ³慶大・医・整形外科, ⁴国家公務員共済組合連合会立川病院): 胸壁軟部腫瘍の治療成績. 第44回日本整形外科学会骨軟部学術集会, 京都, 平成23年7月14-15日.
23. 森井健司, 上田孝文¹, 橋本伸之², 竹中聡², 川井章³, 濱田健一郎⁴, 城山晋⁴, 中紀文⁴, 荒木信人⁴, 望月一男, 森岡秀夫⁵, 矢部啓夫⁵ (¹国立病院機構大阪医療センター整形外科, ²阪大・医・整形外科, ³国立がん研究センター骨軟部腫瘍科, ⁴大阪府立成人病センター整形外科, ⁵慶大・医・整形外科): 腫瘍型人工膝関節術後感染の現状. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 京都, 平成23年7月14-15日.
24. 田島崇, 森井健司, 望月一男, 藤野節¹, 本谷啓太², 里見和彦 (¹杏林大学病院病理部, ²杏林大学放射線診断部): Extrasketal chondroma の5例. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 京都, 平成23年7月14-15日.
25. 藤野節^{1,2}, 森井健司, 本谷啓太³, 田島崇, 弦間友紀⁴, 吉野浩⁴, 別所文雄⁴, 望月一男, 高木正之¹ (¹聖マ医大診断病理, ²杏林大・医・病理, ³杏林大放射線診断部, ⁴杏林大・医・小児科): 12歳男児に生じた骨原発前駆リンパ芽球性リンパ腫の1例. 第44回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 京都, 平成23年7月14-15日.
26. 佐々木紗映¹, 林光俊, 平川淳一¹ (¹平川病院): 精神科病院での股関節疾患術後成績. 第30回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 新潟, 平成23年9月3-4日.
27. 長谷川雅一, 高橋雅人, 滝徳宗, 市村正一, 里見和彦: 骨粗鬆症性椎体骨折後の遅発性神経麻痺の病態. 第60回東日本整災学会. 第51回関東整災学会合同学会, 筑波, 平成23年9月16-17日.
28. 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川雅一, 長谷川淳, 望月一男, 市村正一: 頸椎症性筋萎縮症の静的・動的予後不良因子. 第60回東日本整災学会. 第51回関東整災学会合同学会, 筑波, 平成23年9月16-17日.
29. 丸野秀人, 市村正一, 里見和彦: 頸肋による鎖骨下動脈閉塞の1例. 第60回東日本整災学会. 第51回関東整災学会合同学会, 筑波, 平成23年9月16-17日.
30. 田島崇, 森井健司, 望月一男, 市村正一: 四肢の転移性骨腫瘍に対する外科的治療. 第60回東日本整災学会. 第51回関東整災学会合同学会, 筑波, 平成23年9月16-17日.
31. 家田良樹, 小谷明弘, 佐々木茂, 市村正一: 膝内側円板状半月板損傷の1例. 第60回東日本整災学会. 第51回関東整災学会合同学会, 筑波, 平成23年9月16-17日.
32. 長谷川淳, 高橋雅人, 大柵英昭, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 滝徳宗, 長谷川雅一, 里見和彦, 市村正一: 頸髄損傷ラットにおける機能代償機構. 第60回東日本整災学会. 第51回関東整災学会合同学会, 筑波, 平成23年9月16-17日.
33. 大柵英昭, 黒崎祥一, 家田良樹, 望月一男: 腓骨骨幹部に発生したメロレオストーシスの1例. 第60回東日本整災外学会, 第51回関東整災学会合同学会, 筑波, 平成23年9月16-17日.
34. 林光俊, 橋本吉登¹, 和田祐一², 森北育弘³ (¹寒川病院整形外科, ²帝京大学ちば総合医療センター, ³大阪体育大学体育学部): ナショナルチー

- ム男子バレーボール選手の肩棘下筋萎縮 - いわゆるペッコリ病について - . 第 37 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 福岡, 平成 23 年 9 月 23-24 日 .
35. 林光俊, 橋本吉登¹, 西野衆文², 藤田耕司³, 山口博⁴, 小原和弘⁵, 古澤豊⁶, 福田直子⁷, 和田祐一⁸ (¹寒川病院整形外科, ²筑波大・医・整形外科, ³JFE 川鉄千葉病院整形外科, ⁴山口整形外科, ⁵旭川医大・整形外科, ⁶西仙台病院整形外科, ⁷虎の門病院整形外科, ⁸帝京大学ちば総合医療センター) : バレーボール競技ナショナルチームのメディカルサポート - 公益法人化して - (シンポジウム) . 第 37 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 福岡, 平成 23 年 9 月 23-24 日 .
36. 林光俊, 橋本吉登¹, 森北育弘², 山口博³ (¹寒川病院整形外科, ²大阪体育大学体育学部, ³山口整形外科) : マング解説によるバレーボール障害予防の啓発活動 - バレーボール 119 日本語版 & 英語版 - . 第 37 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 福岡, 平成 23 年 23-24 日 .
37. 今給黎直明, 林光俊, 西野衆文¹ (¹筑波大・医・整形外科) : 全日本男子シニアバレーボール選手に生じた腹直筋肉離れの 3 例 . 第 37 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 福岡, 平成 23 年 9 月 23-24 日 .
38. 西野衆文¹, 都丸洋平², 坂根正孝¹, 林光俊, 今給黎直明 (¹筑波大・医・整形外科, ²茨木西南医療センター整形外科) : 大学エリートバレーボール選手の下肢疲労骨折 . 第 37 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 福岡, 平成 23 年 9 月 23-24 日 .
39. 西野衆文^{1,5}, 林光俊, 橋本吉登², 古澤豊³ (¹筑波大・医・整形外科, ²寒川病院整形外科, ³西仙台病院整形外科, ⁵日本バレーボール協会メディカル委員会) : 男子バレーボールナショナルチームのメディカルサポート (2010 年度) . 第 37 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 福岡, 平成 23 年 9 月 23-24 日 .
40. 藤田耕司¹, 林光俊, 山口博², 小原和弘³ (¹JFE 健康保険組合川鉄千葉病院, ²山口整形外科, ³旭川医科大学整形外科) : 女子バレーボールナショナルチーム (シニア) の障害に対する検討 . 第 37 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 福岡, 平成 23 年 9 月 23-24 日 .
41. 橋本吉登¹, 青木義広², 林光俊, 小原和弘³ (¹寒川病院整形外科, ²あおき整形外科, ³旭川医科大学整形外科) : 日本バレーボール協会におけるアンチドーピング活動 . 第 37 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 福岡, 平成 23 年 9 月 23-24 日 .
42. 西田雄亮¹, 西野衆文¹, 都丸洋平², 林光俊 (¹筑波大・医・整形外科, ²茨城西南医療センター整形外科) : ヒラメ筋肉離れ後にコンパートメント症候群様の症状を呈したバレーボール選手の 1 例 . 第 37 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 福岡, 平成 23 年 9 月 23-24 日 .
43. 森脇孝博, 小寺正純, 井上功三朗, 市村正一 : 両側変形性股関節症に伴う滑膜骨軟骨腫症の 1 例 . 第 38 回日本股関節学会, 鹿児島, 平成 23 年 10 月 7-8 日 .
44. 森井健司, 青柳貴之, 田島崇, 大塚弘毅¹, 大西宏明¹, 望月一男, 里見和彦 (¹杏林大学臨床検査医学) : 肺癌細胞株におけるビスフォスフォネートの抗腫瘍効果に対する薬剤耐性発現 . 第 9 回関東骨軟部基礎を語る会, 東京, 平成 23 年 10 月 8 日 .
45. 青柳貴之, 森井健司, 田島崇, 大塚弘毅¹, 大西宏明¹, 望月一男, 里見和彦 (¹杏林大・臨床検査医学) : 肺癌細胞株におけるビスフォスフォネートの抗腫瘍効果に対する薬剤耐性発現 - 骨転移に関して - . 第 26 回日本整形外科学会基礎学術集会, 前橋, 平成 23 年 10 月 20-21 日 .
46. 大畑徹也, 市村正一, 丸野秀人, 内倉長造¹, 里見和彦 (¹内倉整形外科) : 家兎仮骨延長モデルにおける PTH 間欠投与における仮骨形成の経時的評価 . 第 26 回日本整形外科学会基礎学術集会, 前橋, 平成 23 年 10 月 20-21 日 .
47. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 市村正一, 里見和彦 : 新しい Mobile Bearing PS 型人工膝関節の力学的検討 (第 2 報) . 第 26 回日本整形外科学会基礎学術集会, 前橋, 平成 23 年 10 月 20-21 日 .
48. 井上功三朗, 宝亀登, 井上智雄 : 膝蓋骨骨折に対する手術法の検討 - ひまわり法を施行して - . 第 1 回山梨骨折治療フォーラム, 甲府, 平成 23 年 10 月 22 日 .
49. 仙波浩幸^{1,2}, 佐々木紗映¹, 濱田賢二¹, 鈴木淳一¹, 林光俊, 加藤英之¹, 岩井一正¹, 平川淳一¹ (¹平川病院, ²豊橋創造大学保健医療学部) : 身体合併症に対するリハビリテーションアウトカムの考察 . 第 107 回日本精神神経学会総会, 東京, 平成 23 年 10 月 26-27 日 .
50. 市村正一, 長谷川雅一, 丸野秀人, 大畑徹也, 高橋雅人, 里見和彦 : SERM 投与後にビスフォスフォネート製剤に変更した症例の検討 . 第 13 回日本骨粗鬆症学会, 神戸, 平成 23 年 11 月 5 日 .
51. 西川洋平, 長谷川雅一, 高橋雅人, 市村正一 : 化膿性脊椎炎の治療に難渋した透析患者の 1 例 . 第 12 回東京骨・カルシウム・ホルモン代謝研究会, 東京, 平成 23 年 11 月 10 日 .
52. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 市村正一 : 血液透析患者における人工膝関節置換術の治療成績 . 第 39 回日本関節病学会, 横浜, 平成 23 年 11 月 12-13 日 .
53. 佐藤俊輔, 高橋雅人, 長谷川雅一, 里見和彦¹ (¹久我山病院・整形外科), 市村正一 : 石灰化を伴った腰椎椎間板ヘルニアの 1 例, 第 46 回日本脊髄障害医学会, 泉佐野, 平成 23 年 11 月 18-19 日 .
54. 森井健司 : BH-3 mimetics を用いた新規分子標的治療の開発 中間報告 . 杏林医学会, 杏林大学医

学部 学術奨励賞受賞記念講演, 三鷹, 平成 23 年 11 月 19 日.

55. 佐野秀仁: ヒトの上肢運動に関連した脊髄固有ニューロンの機能解析. 第 20 回杏林医学会賞記念講演. 第 40 回杏林医学会総会, 東京, 平成 23 年 11 月 19 日.
56. 加藤聡一郎, 森井健司, 多久島亮彦¹, 久吉隆郎², 平野和彦³, 菊地文史⁴, 田島崇, 望月一男, 市村正一 (杏林大・医・形成外科, ²三鷹中央病院呼吸器外科, ³杏林大学病院病理部, ⁴日立総合病院病理部): 胸骨に発生した軟骨肉腫の一例. 杏林医学会, 三鷹, 平成 23 年 11 月 19 日.
57. 小寺正純, 森脇孝博, 井上功三朗, 望月一男, 市村正一: 股関節奇形性脱臼の一例. 第 22 回日本小児整形外科学会, 京都, 平成 23 年 12 月 9 日.
58. 星亨, 今給黎直明, 工藤文孝, 片山和洋, 山下紗季: 上腕骨偽関節に対する創外固定. 第 25 回日本創外固定・骨延長学会, 東京, 平成 24 年 1 月 13-14 日.
59. 今給黎直明: 全日本シニアバレーボール選手に発生した腹直筋肉離れの 5 例. 第 2 回バレーボール・スポーツ障害セミナー, 東京, 平成 24 年 1 月 21 日.
60. 大畑徹也: 重症外傷と重症感染症における当院 V. A. C. 療法の治療経験. 第 1 回多摩 VAC 研究会, 立川, 平成 24 年 1 月 28 日.
61. 長谷川淳, 高橋雅人, 大柰英昭, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 滝徳宗, 長谷川雅一, 市村正一, 里見和彦: 頸髄損傷ラットにおける機能代償機構. 第 34 回脊髄機能診断研究会. 東京, 平成 24 年 2 月 4 日.
62. 小林祥¹, 松山幸弘¹, 高橋雅人, 里見和彦, 他 (日本脊椎脊髄病学会モニタリング委員会): 多施設前向き研究による術中脊髄モニタリング (Br-MsEP) のアラームポイント. 第 34 回脊髄機能診断研究会, 東京, 平成 24 年 2 月 4 日.
63. Morii T, Morioka H¹, Ueda T², Araki N³, Hashimoto N⁴, Kawai A⁵ (¹ Dept. of Orthop. Surg., Keio Univ., ² Dept. of Orthop. Surg., National Hospital Organization Osaka National Hospital, ³ Musculoskeletal Oncology Service, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, ⁴ Dept. of Orthop. Surg., Osaka Univ., ⁵ Dept. of Orthop. Surg., National Cancer Center): Deep infection in tumor endoprosthesis around the knee. 2012 American Academy of Orthopaedic Surgeons Annual Meeting, Guest Nation poster presentation, San Francisco, Feb. 7-11, 2012.
64. 天野陽生¹, 平川正秀¹, 野伏美香¹, 宝亀登, 斎木全代¹, 池田真人¹ (¹ 社会保険山梨病院): 大腿骨頸部骨折患者における術前, 術後の栄養状態の変化と術式との関係について. 第 27 回日本静脈経腸栄養学会, 神戸, 平成 24 年 2 月 23-24 日.
65. 池田真人¹, 野伏美香¹, 斎木全代¹, 平川正秀¹, 天

野陽生¹, 宝亀登 (¹ 社会保険山梨病院): 大腿骨頸部骨折術前後感染合併症の栄養学的予測因子. 第 27 回日本静脈経腸栄養学会, 神戸, 平成 24 年 2 月 23-24 日.

66. 森脇孝博, 小寺正純, 井上功三朗, 市村正一: 人工股関節置換術後のけるエノキサパリンの有用性 - 未分画ヘパリンとの比較 -. 第 42 回日本人工関節学会, 沖縄, 平成 24 年 2 月 24-25 日.
 67. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 今給黎直明, 鈴木啓司, 市村正一: 関節破壊像を呈し両側人工ひざ関節置換術を施行した混合性結合織病の 1 例. 第 42 回日本人工関節学会, 沖縄, 平成 24 年 2 月 24-25 日.
 68. 星亨, 今給黎直明, 工藤文孝, 山岸賢一郎, 片山和洋: 創外固定による下肢開放骨折の治療成績. 第 52 回関東整形災害外科学会, 横浜, 平成 24 年 3 月 22-23 日.
 69. 山岸賢一郎, 星亨, 今給黎直明, 工藤文孝, 原知泰, 片山和洋: 骨粗鬆症性脊椎椎体骨折に対する椎体形成術の治療成績. 第 52 回関東整形災害外科学会, 横浜, 平成 24 年 3 月 22-23 日.
 70. 家田良樹, 小谷明弘, 佐々木茂, 市村正一: 膝内側円板状半月板損傷の 1 例. 第 52 回関東整形災害外科学会, 横浜, 平成 24 年 3 月 22-23 日.
 71. 加藤聡一郎, 森井健司, 多久島亮彦¹, 久吉隆郎², 平野和彦³, 菊地文史⁴, 田島崇, 望月一男, 市村正一 (¹ 杏林大・医・形成外科, ² 三鷹中央病院呼吸器外科, ³ 杏林大学病院病理部, ⁴ 日立総合病院病理部) 胸骨に発生した軟骨肉腫の一例. 第 52 回関東整形災害外科学会, 横浜, 平成 24 年 3 月 22-23 日.
 72. 五十嵐一峰, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐野秀仁, 里見和彦, 市村正一: 80 歳以上の高齢者に対する椎弓スペーサーを用いた片開き式脊柱管拡大術の成績. 第 52 回関東整形災害外科学会, 横浜, 平成 24 年 3 月 22-23 日.
 73. 大森雅夫, 今給黎直明, 星亨, 市村正一: 左 I 中足骨基部に発生した抗酸菌性骨髄炎の 1 例. 第 52 回関東整形災害外科学会, 横浜, 平成 24 年 3 月 22-23 日.
 74. 山下紗季, 工藤文孝, 今給黎直明, 片山和洋, 星亨: 裂離骨片を伴う上腕三頭筋皮下断裂に肘骨骨折を合併した 1 例. 第 52 回関東整形災害外科学会, 横浜, 平成 24 年 3 月 22-23 日.
 75. 林光俊, 上藪紗映¹, 平川淳一², 安倍学³, 川上純範⁴, 岡島康友⁵ (¹ 平川病院リハビリテーション科, ² 平川病院精神科, ³ 目白第 2 病院整形外科, ⁴ 山梨リハビリテーション病院, ⁵ 杏林大学リハビリテーション科): 精神病院における身体リハビリテーション. 第 51 回日本リハビリテーション医学会関東地方会, さいたま, 平成 24 年 3 月 24 日.
- B. 講演
1. 市村正一: 生活習慣病 (成人病) 骨粗鬆症. 平

- 成 23 年度健康運動指導士養成講習会前期, 東京, 平成 23 年 5 月 1 日 .
2. 林光俊: 全国医師テニス大会の障害調査. 第 1 回日本テニス・スポーツ医学会, 東京, 平成 23 年 5 月 29 日 .
 3. 市村正一: 骨粗鬆症診療に役立つ薬物療法の実際. 越谷市医師会学術講演会, 越谷, 平成 23 年 6 月 8 日 .
 4. 市村正一: 骨粗鬆症における薬剤選択 - 新しい治療薬とビスフォスフォネート製剤の位置づけ -. 第 95 回盛岡臨床整形外科医会, 盛岡, 平成 23 年 6 月 16 日 .
 5. 里見和彦: 国民病としての腰痛の診療. 康和会久我山病院地域医療セミナー, 東京, 平成 23 年 6 月 22 日 .
 6. 市村正一: 骨粗鬆症診断の新たな潮流 - 骨折リスク評価と新規の治療薬 -, 多摩骨代謝・小児臨床整形講演会, 立川, 平成 23 年 6 月 25 日 .
 7. 市村正一: 日常診療に役立つ最新の骨粗鬆症薬物療法. 三鷹市医師会・外科医会学術講演会, 三鷹, 平成 23 年 6 月 30 日 .
 8. 望月一男 (教育研修講演): 骨・軟部腫瘍治療の現況と病診連携. 第 165 回静岡県整形外科医会, 静岡, 平成 23 年 7 月 9 日 .
 9. 市村正一: 日常診療に役立つ骨粗鬆症性椎体骨折の診断と治療. 第 5 回ペインクリニック診断研究会, 東京, 平成 23 年 7 月 14 日 .
 10. 里見和彦 (教育研修講演): 国民病としての腰痛とロコモ. 腰部脊柱間狭窄症を中心に. 腰痛セミナー in 城南 2011, 東京, 平成 23 年 7 月 21 日 .
 11. 市村正一: 最新の骨粗鬆症薬物療法の実際 - ビスフォスフォネート製剤を中心とした治療戦略 -. 北海道臨床整形外科医会学術講演会, 札幌, 平成 23 年 8 月 6 日 .
 12. 市村正一: 骨粗鬆症正しく知って健康な生活. 名古屋骨を守る会学術講演会, 名古屋, 平成 23 年 8 月 20 日 .
 13. 市村正一: 脊椎代謝性疾患の診断と治療 (主として骨粗鬆症). 第 9 回日本整形外科学会脊椎脊髓病医研修会, 東京, 平成 23 年 8 月 27 日 .
 14. 市村正一: 骨粗鬆症診療における最新の薬物選択と医療安全. 神奈川西湘地区整形外科症例検討会夏季横浜講演会, 横浜, 平成 23 年 9 月 8 日 .
 15. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折の診断と治療. 横浜骨粗鬆症最新治療セミナー, 横浜, 平成 23 年 9 月 28 日 .
 16. 市村正一: 骨粗鬆症診療における新しい薬物療法の潮流. 第 9 回埼玉西部地区整形外科医会学術講演会, 川越, 平成 23 年 9 月 29 日 .
 17. 市村正一: 日常診療に役立つ骨粗鬆症の新しい薬物療法. 第 43 回柏市整形外科医会学術講演会, 柏, 平成 23 年 9 月 30 日 .
 18. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法の新しい展開. 骨代謝フォーラム in 筑後, 久留米, 平成 23 年 10 月 4 日 .
 19. 市村正一: 新しい骨粗鬆症治療薬と新規骨代謝マーカーをいかに使うか. 立川骨粗鬆症診療セミナー, 立川, 平成 23 年 10 月 12 日 .
 20. 市村正一: 生活習慣病 (成人病) 骨粗鬆症. 平成 23 年度健康運動指導士養成講習会後期, 東京, 平成 23 年 10 月 28 日 .
 21. 望月一男 (教育研修講演): 悪性骨・軟部腫瘍治療の術後管理. 第 26 回静岡骨軟部腫瘍研究会, 浜松, 平成 23 年 11 月 5 日 .
 22. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法の新たな治療戦略. 三重県骨粗鬆症治療学術講演会, 津, 平成 23 年 11 月 9 日 .
 23. 長谷川雅一: 最近の骨粗鬆症治療ならびに骨粗鬆症性椎体骨折の治療について. 山梨杏林会, 甲府, 平成 23 年 11 月 9 日 .
 24. 市村正一: 新しい骨粗鬆症治療薬と骨代謝マーカーの使い分け. 三島運動器フォーラム, 三島, 平成 23 年 11 月 11 日 .
 25. 市村正一: 骨粗鬆症診療に関する最新の話題. 河田町骨粗鬆症セミナー, 東京, 平成 23 年 11 月 14 日 .
 26. 市村正一: 新規の骨粗鬆症治療薬の使い方. 千葉骨粗鬆症フォーラム, 千葉, 平成 23 年 11 月 16 日 .
 27. 市村正一: 外来診療における骨粗鬆症の薬物治療戦略. 神奈川慶應骨代謝研究会, 横浜, 平成 23 年 11 月 22 日 .
 28. 市村正一: 骨粗鬆症診療における最新の話題. 秋田県骨粗鬆症学術セミナー, 秋田, 平成 23 年 11 月 25 日 .
 29. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法の現状と課題. 豊島区内科医会・豊島区歯科医師会 SSD 研究会合同講演会, 東京, 平成 23 年 11 月 29 日 .
 30. 市村正一: 最新の骨粗鬆症ガイドラインと薬物療法の実際. ロコ対策 運動器/骨・関節フォーラム, 東京, 平成 23 年 12 月 3 日 .
 31. 市村正一: 骨粗鬆症の新しい薬物療法. 安房医師会学術講演会, 館山, 平成 23 年 12 月 7 日 .
 32. 森井健司: 骨軟部腫瘍における凝固能異常. 第 5 回金沢大学骨軟部腫瘍セミナー, 金沢, 平成 23 年 12 月 10 日 .
 33. 山本重吉: 正しい運動処方について. 鹿嶋市スポーツ指導者研修会, 鹿嶋, 平成 23 年 12 月 14 日 .
 34. 望月一男 (教育研修講演): 悪性骨・軟部腫瘍手術の現況と病診連携. 東京都臨床整形外科医会平成 23 年度第 5 回研修会 (通算第 291 回), 東京, 平成 24 年 1 月 7 日 .
 35. 長谷川雅一: 新しい骨粗鬆症治療ガイドラインと骨粗鬆症性椎体骨折の治療. 小平市医師会学術講演会, 小平, 平成 24 年 1 月 18 日 .
 36. 市村正一: 骨粗鬆症診療の Up to date. 西新宿整形外科懇談会 2012, 東京, 平成 24 年 1 月 25 日 .
 37. 山本重吉: 骨粗鬆症の予防と治療について. 骨

粗鬆症予防講演会, 鹿嶋, 平成 24 年 1 月 31 日.

38. 市村正一: 骨形成促進剤の臨床応用 - 骨粗鬆症から骨折治癒促進. 愛知県整形外科医会教育研究講演会, 名古屋, 平成 24 年 2 月 4 日.
39. 市村正一: 最新の骨粗鬆症 -PTH による骨形成促進から Balloon Kyphoplasty まで -. 第 89 回東京都城北整形外科医会, 東京, 平成 24 年 2 月 9 日.
40. 星亨: 救急外来を訪れる整形外科疾患の注意点. 第 41 回救急症例検討会, 東大和, 平成 24 年 2 月 13 日.
41. 市村正一: 骨粗鬆症診療における骨形成促進剤の役割. 和歌山県医師会整形外科部会・和歌山臨床整形外科医会合同学術講演会, 和歌山, 平成 24 年 2 月 16 日.
42. 市村正一: 新しい骨粗鬆症薬物療法の実践 - PTH 間歇投与製剤を中心に -. 第 1 回世田谷骨形成セミナー, 東京, 平成 24 年 2 月 18 日.
43. 市村正一: 骨粗鬆症診療 Up to Date. 第 6 回山梨 SERM 学術講演会, 甲府, 平成 24 年 2 月 24 日.
44. 市村正一: 当科における Balloon Kyphoplasty の取り組み. 多摩整形外科病身連携会 (第 5 回杏林大学・調布市外科整形外科懇話会), 調布, 平成 24 年 2 月 29 日.
45. 市村正一: 骨粗鬆症診療の最前線 - 薬物療法から Balloon Kyphoplasty まで -. 鹿島骨粗鬆症セミナー, 鹿嶋, 平成 24 年 3 月 8 日.
46. 市村正一: 骨粗鬆症診療の新しいガイドラインと薬物療法の実践. 第 31 回滋賀県臨床整形外科医会学術講演会, 大津, 平成 24 年 3 月 10 日.
47. 市村正一: 当科における BKP の取り組み. 多摩整形外科病身連携の会 (第 8 回三鷹市整形外科懇話会), 三鷹, 平成 24 年 3 月 14 日.
48. 市村正一: 骨粗鬆症の新しい診療ガイドラインと薬物療法. 斯整会骨粗鬆症特別研究会, 名古屋, 平成 24 年 3 月 16 日.
49. 里見和彦: 国民病としての腰痛診療の留意点. 康和会久我山病院地域医療セミナー, 東京, 平成 24 年 3 月 23 日.
50. 市村正一: 骨粗鬆症の診断と治療. 『骨粗鬆症』市民公開講座, 西東京, 平成 24 年 3 月 24 日.
51. 市村正一: 最新の骨粗鬆症診療. 調布市医師会学術講演会, 調布, 平成 24 年 3 月 28 日.
52. 市村正一: 椎体骨折の予防と治療 - 骨形成促進剤から Balloon Kyphoplasty -. テリボン発売記念講演会, 熊本, 平成 24 年 3 月 29 日.
53. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折の予防と治療 - 薬物療法から手術療法まで -. 中野区整形外科医会学術講演会, 東京, 平成 24 年 3 月 30 日.

論 文

1. 里見和彦: 頸椎損傷 (救急画像診断-読み方・考え方・活かし方. 救急. 集中治療 23(5. 6): 893-903, 2011.
2. 里見和彦: 骨感染症の病態と治療. 臨床検査

55(13): 1541-1545, 2011.

3. 伊藤全哉¹, 松山幸弘¹, 四宮謙一¹, 安藤宗治¹, 川端茂徳¹, 寒竹司¹, 齋藤貴徳¹, 高橋雅人, 谷口慎一郎¹, 山本直也¹, 里見和彦, 谷俊一¹ (日本脊椎脊髄病学会モニタリング委員会): 術中脊髄モニタリングにおける波形変化と筋力低下の関係. J. Spine Res. 2(9): 1441-1446, 2011.
4. 千葉一裕¹, 吉田宗人¹, 四宮謙一¹, 里見和彦, 赤木繁夫¹, 紺野慎一¹, 田口敏彦¹, 田中泰久¹, 馬場久敏¹, 角間辰之¹, 米本孝二¹, 中山健夫¹, 河原和夫¹, 白土修¹, 松崎浩己¹, 百島裕貴¹, 新井嘉容¹, 永田見生¹ (日本整形外科学会骨粗鬆症性椎体骨折に関する委員会): 骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存療法の指針策定-多施設共同前向き無作為比較パイロット試験の結果より. 日整会誌 85(12): 934-941, 2011.
5. 伊藤全哉¹, 松山幸弘¹, 四宮謙一¹, 安藤宗治¹, 川端茂徳¹, 寒竹司¹, 齋藤貴徳¹, 高橋雅人, 谷口慎一郎¹, 山本直也¹, 里見和彦, 谷俊一¹ (日本脊椎脊髄病学会モニタリング委員会): 術中脊髄アラームポイントの策定及び総括-日本脊椎脊髄病学会モニタリング委員会による多施設調査. 脊髄機能診断学 3(1): 116-123, 2011.
6. 伊藤全哉¹, 松山幸弘¹, 四宮謙一¹, 安藤宗治¹, 川端茂徳¹, 寒竹司¹, 齋藤貴徳¹, 高橋雅人, 谷口慎一郎¹, 山本直也¹, 里見和彦, 谷俊一¹ (日本脊椎脊髄病学会モニタリング委員会): 術中脊髄モニタリングにおいて最適な multi-modality の組み合わせは何か? J. Spine Res 2:88-96, 2011.
7. 伊藤全哉¹, 松山幸弘¹, 四宮謙一¹, 安藤宗治¹, 川端茂徳¹, 寒竹司¹, 齋藤貴徳¹, 高橋雅人, 谷口慎一郎¹, 山本直也¹, 里見和彦, 谷俊一¹ (日本脊椎脊髄病学会モニタリング委員会): 術中脊髄モニタリングにおける multi-channel の有用性. J. Spine Res 2:97-103, 2011.
8. 市村正一, 長谷川雅一, 高橋雅人: 【骨粗鬆症の臨床最前線】(Part2) 診断 骨代謝マーカーの現状と課題 (解説/特集). Bone Joint Nerve 1(2):273-278, 2011.
9. 市村正一: 【骨粗鬆症診療の最近の進歩】Seminar 新しい骨折リスク評価 骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの使い方 (解説/特集), Geriatric Medicine 49(9):987-992, 2011.
10. 望月一男: 骨・軟部腫瘍治療の現況と病診連携. 静岡整形外科医学雑誌 4(2): 162-168, 2011.
11. 小谷明弘: 人工膝関節置換術. 人工膝関節置換術術後感染の治療 (解説/特集). Orthopaedics 24(6):59-64, 2011.
12. 小谷明弘: 手術部位感染 (SSI) 対策. 脊椎脊髄外科医が知っておくべき米国疾病予防管理センター (CDC) ガイドライン - 骨・関節術後感染予防ガイドライン (日本整形外科学会) との関連 (解説/特集). 脊椎脊髄ジャーナル 24(12): 1060-1063, 2011.

13. 小谷明弘: インプラント感染の予防 予防的抗菌薬の選択. 整・災外 53(5): 455-461, 2011.
14. 小谷明弘: 骨・関節術後感染予防ガイドラインの概要. 日整外看研会誌 5: 29-31, 2011.
15. 長谷川雅一, 市村正一, 里見和彦: 【骨粗鬆症の臨床最前線】脊椎骨折の治療 保存療法とKyphoplastyなどの外科的治療 脊椎骨折治療 保存療法の立場から. Bone Joint Nerve 1(2): 359-363, 2011.
16. Furukawa M¹, Anazawa U¹, Horiuchi K², Yabe H², Morioka H², Mukai M³, Toyoda T², Chiba K², Morii T, Shiraishi T¹, Toyama Y² (¹東京歯科大市川総合病院, ²慶大・医・整形外科, ³慶大病理診断部): Arthroscopic removal of intra-articular osteoid osteoma in the knee: Case report and review of the literature. J Orthop Sci 16:321-325, 2011.
17. Kamata Y¹, Anazawa U¹, Morioka H², Morii T, Miura K², Mukai M³, Yabe H², Toyama Y² (¹東京歯科大市川総合病院, ²慶大・医・整形外科, ³慶大病理診断部): Natural evolution of desmoplastic fibroblastoma on magnetic resonance imaging: a case report. J Med Case Reports 5:139, 2011.
18. Morii T, Mochizuki K, Tajima T, Ichimura S, Satomi K: D-dimer levels as a prognostic factor for determining oncological outcomes in musculoskeletal sarcoma. BMC Musculoskeletal Disorders 12: 250, 2012.
19. Morii T, Mochizuki K, Tajima T, Ichimura S, Satomi K: Surgical site infection in malignant soft tissue tumors. J Orthop Sci 17: 51-57, 2012.
20. Tanaka K¹, Morii T, Weissbach L², Horiuchi K¹, Takeuchi K¹, Toyama Y¹, Morioka H¹ (¹慶大・医・整形外科, ²マサチューセッツ総合病院整形外科肉腫分子生物学研究室): Treatment of collagen-induced arthritis with recombinant plasminogen-related protein B: a novel inhibitor of angiogenesis. J Orthop Sci 16:443-450, 2011.
21. 松下和彦¹, 阿部哲士¹, 石井朝夫¹, 梶山史郎¹, 小谷明弘, 斉藤政克¹, 正岡利紀¹, 勝呂徹¹, (¹骨・関節術後感染予防ガイドライン改定委員会): 手術部位感染への対応 予防投与としての抗菌化学療法と創傷処置 整形外科領域の周術期感染予防. 日本化学療法学会雑誌 60(1): 55-56, 2012.
22. 林光俊: 種目別スポーツと整形外科医 “バレーボール” 研修医が知っておきたいスポーツ整形外科入門. 関節外科 30: 51-55, 2011.
23. 林光俊: 画像の見かた読みかた - アキレス腱断裂 -. 整形外科看護秋季増刊号: 238-243, 2011.
24. 福田直子¹, 林光俊, 山口博² (¹虎の門病院分院整形外科, ²山口整形外科): 2009 バレーボールナショナルチームにおける新型インフルエンザ対策. 整形外科スポ会誌 31(3): 205-211, 2011.
25. 西野衆文¹, 林光俊 (¹筑波大・医・整形外科): ジュニア選手へのチームドクターとしての対応. バレーボール - ジュニアナショナルチームとフル代表の対比 -. 臨床スポーツ医学 28(11): 1285-1289, 2011.
26. Hashimoto Y¹, Yamashita T¹, Hamu Y¹, Hayashi M (¹Medical Committee of the Japan Volleyball Association): ANTI-DOPING ACTIVITIES OF VOLLEYBALL IN JAPAN. J Sports Med 2011 45: 547, 2011.
27. Hayashi M, Hamu Y¹, Hashimoto Y¹ (¹Department of Medical Support, Japan Volleyball Association): A GUIDEBOOK FOR VOLLEYBALL-RELATED HEALTH PROBLEMS USING MANGA AND EDUCATIONAL ACTIVITIES FOR INJURY PREVENTION: VOLLEYBALL 911. J Sports Med 2011 45: 548, 2011.
28. Hayashi M, Hamu Y^{1,2}, Hashimoto Y¹, Kaneoka K³, Hangai M⁴, Okuwak T⁴ (¹Department of Medical Support, Japan Volleyball Association, ²Kagoshima University, ³Waseda University, ⁴Japan Institute for Sports Sciences): LUMBAR INTERVERTEBRAL DISK DEGENERATION IN JAPANESE MALE VOLLEYBALL PLAYERS BELONGING TO THE NATIONAL TEAM. J Sports Med 2011 45: 535-536, 2011.
29. 西野衆文¹, 林光俊, 橋本吉登² (¹筑波大・医・整形外科, ²寒川病院整形外科): 4年間のオリンピックサイクルにおける男子バレーボールナショナルチームの疾患調査. 整スポ会誌 32(1): 79-83, 2012.
30. 西野衆文¹, 坂根正孝¹, 今給黎直明, 林光俊 (¹筑波大・医・整形外科): バレーボール選手に発生した下肢疲労骨折の特徴 - 某大学男女チームの受診調査から -. 整スポ会誌 32(1): 99-103, 2012.
31. 星亨, 今給黎直明, 工藤文孝, 大森雅夫: 感染を伴った糖尿病性足部壊疽に対する創傷治療. 日本骨・関節感染症学会雑誌 25: 22-25, 2011.
32. 星亨: 内固定後の深部感染・骨髄炎に対する創外固定法. MBO25: 73-80, 2012.
33. Imakiire N, Fujino T¹, Morii T, Honya K², Mochizuki K, Satomi K and Fujioka Y¹ (¹Department of Pathology kyorin Univ. ²Department of Radiology kyorin Univ.): Malignant Pigmented Villonodular Synovitis in the Knee - Report of aCase with Rapid Clinical Progression. Open Orthop J 5: 13-16, 2011.
34. 今給黎直明, 星亨, 山岸賢一郎, 工藤文孝, 大森雅夫: 本態性血小板血症を伴う変形性膝関節症に対し人工膝関節全置換術を施行した1例. 日人工関節会誌 41: 432-433, 2011.
35. Alstermark B, Pettersson LG, Nishimura Y, Yoshino-Saito K, Tsuboi F, Takahashi M, Isa T:

- Motor command for precision grip in the macaque monkey can be mediated by spinal interneurons. *J Neurophysiol.* 106:122-6, 2011.
36. Seichi A, Hoshino Y, Kimura A, Nakahara S, Watanabe M, Kato T, Atsushi O, Kotani Y, Mitsukawa M, Ijiri K, Kawahara N, Inami S, Chikuda H, Takeshita K, Nakagawa Y, Taguchi T, Yamazaki M, Endo K, Sakaura H, Uchida K, Kawaguchi Y, Neo M, Takahashi M, Harimaya K, Hosoe H, Imagama S, Taniguchi S, Ito T, Kaito T, Chiba K, Matsumoto M, Toyama Y: Neurological complications of cervical laminoplasty for patients with ossification of the posterior longitudinal ligament-A multi-institutional retrospective study-. *SPINE* 36:E998-E1003, 2011.
 37. 丸野秀人: 家兎骨延長モデルにおける PTH 間歇投与の仮骨への影響. *杏林医学会雑誌* 42(1): 29-38, 2011.
 38. 大畑徹也, 星亨, 丸野秀人, 皆川邦朋², 山口芳裕¹, 里見和彦 (¹杏林大・高度救命救急センター, ²みなかわ整形外科): 高エネルギー外傷による小児大腿骨骨折に対する創外固定の治療経験. *骨折* 33: 909-912, 2011.
 39. 佐藤行紀, 小谷明弘: 3次元 X線画像による日本人の膝関節形態と人工関節の開発. *杏林医学会雑誌* 42 (4) : 123-134, 2011.
 40. 五十嵐一峰, 福田健太郎¹, 塩田匡宣¹, 竹光正和¹, 金子慎二郎¹, 池上健¹, 八木満¹, 加藤裕幸¹, 飯塚慎吾¹, 名越慈人¹, 町田正文¹, 臼井宏¹ (¹村山医療センター整形外科): 40年間排膿を繰り返した恥骨結核の1例. *関東整災誌* 43(3): 188-191, 2012.
 41. 稲田成作, 森井健司, 宝亀登, 望月一男, 里見和彦, 菊地文史¹ (¹杏林大・病院病理部): 母指末節骨に発生した骨内グロムス腫瘍の1例. *関東整災誌*. 42 (1): 65-69, 2011.
 42. 西川洋平, 長谷川雅一, 高橋雅人, 市村正一: 化膿性脊椎炎の治療に難渋した透析患者の1例. *Osteoporosis Japan* 120(2):147-148, 2012.
 43. 長谷川淳, 高橋雅人, 市村正一, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 滝徳宗, 里見和彦: 片開き式頸部脊柱管拡大術における HA スペーサーと蝶番部の骨癒合の CT 評価. *Journal of Orthopaedic Biomaterials* 30: 49-53, 2011.
 44. 青柳貴之, 森井健司, 望月一男: 足関節に発生した dysplasia epiphysialis hemimelica の1例. *日小整会誌*. 20 (2): 456-459, 2011.
 45. 青柳貴之, 渡辺弘樹, 高峰文成: Lisfranc 関節開放脱臼, 第5趾中足趾節関節脱臼, 第4中足骨骨幹部および基部開放骨折, 第5中足骨基部粉碎開放骨折を呈した1例. *臨整外* 63(5): 454-457, 2011.
 46. 大柵英昭, 小寺正純, 森脇孝博, 藤野節¹ (¹杏林大学病院病理部): 診断に難渋した膝関節水腫のみを呈した若年性特発性関節炎の一例. *日小児整外会誌* 20: 451-455, 2011.
 47. 大柵英昭, 黒崎祥一, 家田良樹, 望月一男: 腓骨骨幹部に発生したメロレオストーシスの1例. *東日本整災誌* 24: 113-118, 2012.
 48. 大森雅夫, 佐々木茂, 小谷明弘, 里見和彦: Open wedge 法 (Puddoh plate 使用) による高位脛骨骨切術の短期治療成績. *東日本整災誌* 24:69-74, 2012.
 49. 佐藤俊輔, 高橋雅人, 長谷川雅一, 里見和彦, 市村正一: 石灰化を伴った腰椎椎間板ヘルニアの1例. *日脊髄障害医会誌* 25(1): 142-143, 2011.
 50. 水谷顕人, 小谷明弘, 藪並英夫, 佐々木茂, 里見和彦, 藤野節¹ (¹杏林大・病院病理部): 多発した巨大 geodes を伴った RA 膝に対して両側 TKA を行った1例. *関東整形災害外科学会雑誌* 42(3) : 167-172, 2011.
 51. 水谷顕人, 田島崇, 藤野節¹, 森井健司, 望月一男, 里見和彦 (¹杏林大学病院病理部): 動脈瘤様骨嚢腫変化を伴った膝蓋骨発生の軟骨芽細胞腫の1例. *東日本整災誌* 24(2): 84-89, 2012.
- 著書**
1. 里見和彦: 頸椎椎間板症候群. 今日の治療指針: 私はこう治療している (2012年版). 山口徹, 他編, 東京, 医学書院, 2012. p809-810.
 2. 小谷明弘: 整形外科からみた CDC ガイドライン - 日本整形外科学会骨・関節術後感染症予防ガイドラインとの関連. 整形外科 SSI 対策 周術期感染管理の実践. 菊地臣一, 楠正人編, 東京, 医学書院, 2011. p 46-50.
 3. 林光俊: 種目別外傷・障害 “バレーボール”. 新版スポーツ整形外科学. 福林徹, 史野根生編. 東京, 南江堂, 2011. P417-421.
 4. 森脇孝博, 小寺正純, 市村正一: 人工関節置換術後の周術期静脈血栓症の予防. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p248-253.
- その他**
1. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する装具療法の有用性に関する研究. 厚生労働省科学研究費補助金 (長寿科学総合研究事業) 骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法の開発に関する研究. 平成 23 年度総括・分担研究報告書, 19-20, 2012.
 2. 森井健司: 杏林大学医学部学術奨励賞, BH-3 mimetics を用いた新規分子標的治療の開発.
- 皮膚科学教室**
- 口演**
1. 稲岡峰幸: 診断に苦慮する薬疹の臨床と病態. 第 23 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 千葉, 平成 23 年 5 月 14 日.
 2. Okazaki A, Fukuda T, Shiohara T: Efficacy

- of imiquimod treatment in Bowen's disease depends on regulatory T cells. 22nd World Congress of Dermatology, Seoul, May 24, 2011.
3. Kano Y, Ishida T, Hirahara K, Shiohara T: Autoimmune diseases as sequelae of drug-induced hypersensitivity syndrome. 22nd World Congress of Dermatology, Seoul, May 27, 2011.
 4. Mizukawa Y, Shiohara T: Multiple fixed drug eruption as a possible abortive variant of toxic epidermal necrolysis. The 22nd World Congress of Dermatology. Korea, May 29, 2011.
 5. 水川良子: 角質水分量は皮膚アレルギー反応の強さを決めている. 第36回日本化粧品学会, 東京, 平成23年6月9日.
 6. 塩原哲夫: ランチョンセミナー 日常臨床での検査の読み方と保険診療 外来での中毒疹検査の進め方, 第27回日本臨床皮膚科医会臨床学術大会, 大阪, 平成23年6月12日.
 7. 塩原哲夫: シンポジウム8. 命を吹き込む外用療法の極意. 目からウロコの外用療法, 第27回日本臨床皮膚科医会臨床学術大会, 大阪, 平成23年6月12日.
 8. 牛込悠紀子, 岡崎亜希, 平原和久, 塩原哲夫: インフルエンザワクチン接種後のギランバレー症候群に続き発症した薬剤性過敏症候群. 日本皮膚科学会第836回東京地方会(城西地区), 東京, 平成23年6月18日.
 9. 堀江千穂, 水川良子, 成田陽子, 塩原哲夫: 水痘帯状疱疹ウイルス(VZV)が発症に関与した急性苔癬状痘瘡状皰癬疹(PLEVA)の1例. 日本皮膚科学会第837回東京地方会(合同臨床地方会), 東京, 平成23年7月9日.
 10. 塩原哲夫: DIHSの診療に欠かせない最新知識—免疫再構築症候群としてのDIHS—. 第41回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 甲府, 平成23年7月16日.
 11. 牛込悠紀子, 平原和久, 狩野葉子, 塩原哲夫: 薬剤性過敏症候群の治療群別の短期および長期的予後の検討. 第41回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 甲府, 平成23年7月16日.
 12. 平原和久: 薬疹本音トーク 初期に薬疹を疑わず, 経過中もステロイドの投与を行わず死に至ってしまったDIHSの1例. 第41回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会, 山梨, 平成23年7月17日.
 13. 何川宇啓, 水川良子, 塩原哲夫: インフリキシマブ投与中にS状結腸癌が発見された尋常性乾癬の1例. 日本皮膚科学会第838回東京地方会(城西地区), 東京, 平成23年9月10日.
 14. 牛込悠紀子, 水川良子, 塩原哲夫: マイコプラズマ感染症の関与が考えられた皮膚型結節性多発動脈炎(CPN). 第75回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 群馬, 平成23年9月18日.
 15. 平原和久, 牛込悠紀子, 石田正, 狩野葉子, 塩原哲夫, 福岡利仁¹(¹杏林大・医・腎膠原病内科): 治療に抵抗しネフローゼ症候群を合併したアナフィラクトイド紫斑病の1例. 第63回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 那覇, 平成23年10月8日.
 16. 塩原哲夫: 教育講演 病態から見た薬疹の診断と治療, 第63回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 那覇, 平成23年10月8日.
 17. 早川順, 堀江千穂, 塩原哲夫, 大石知瑞子¹, 千葉厚郎¹(¹杏林大・医・神経内科): 免疫グロブリン多量療法後に多彩な皮疹を生じたギランバレー症候群の1例. 第40回杏林医学会総会, 東京, 平成23年11月19日.
 18. 稲岡峰幸, 佐藤洋平, 狩野葉子, 塩原哲夫: 薬剤性過敏症候群後に帯状疱疹を生じサルコイドーシスを続発した1例. 第62回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 三重, 平成23年11月19日.
 19. 小松由莉江, 岡崎亜希, 平原和久, 狩野葉子, 塩原哲夫: *Streptococcus equisimilis*による蜂窩織炎の1例—A群とG群溶連菌感染の臨床的差異. 日本皮膚科学会第839回東京地方会(城西地区), 東京, 平成23年11月19日.
 20. 塩原哲夫: 常識(?)を見直そう: 汗とスキンケア. 第27回日本臨床皮膚科医会三ブロック合同学術集会, 東京, 平成23年11月23日.
 21. 黒沢美智子¹, 飯島正文², 北見周², 塩原哲夫, 狩野葉子, 横山和仁¹(¹順天堂大・医・衛生学,²昭和大・医・皮膚科): Stevens-Johnson症候群(SJS)と中毒性表皮壊死症(TEN)の臨床疫学像—重症度, 後遺症, 死亡と関連する要因—. 第76回日本民族衛生学会総会, 福岡, 平成23年11月23-24日.
 22. Mizukawa Y, Shiohara T: A dual role of the degranulation of different mast cell subtypes. The 36th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Kyoto, Dec. 9, 2011.
 23. 稲岡峰幸, 塩原哲夫: アルブチン含有化粧品とハイドロキノン軟膏によるpigmented contact dermatitisの1例. 日本皮膚科学会第840回東京支部地方会(城西地区), 東京, 平成23年12月17日.
 24. 佐藤洋平, 岡崎亜希, 平原和久, 狩野葉子, 塩原哲夫: 筋症状を伴ったアナフィラクトイド紫斑(AP)の1例. 日本皮膚科学会第841回東京地方会(城西地区), 東京, 平成24年1月21日.
 25. 塩原哲夫: 感染症とアレルギー. 第20回大分アレルギー講習会, 大分, 平成24年2月4日.
 26. Kano Y, Ushigome Y, Hirahara K, Shiohara T: Treatment-based analysis of outcomes of drug-induced hypersensitivity syndrome. International conference on rare disease and orphan drugs, Tokyo, Feb. 5, 2012.
 27. 堀江千穂, 水川良子, 岡崎亜希, 塩原哲夫: Bell

麻痺後の打撲部位に発症した皮膚サルコイドーシスの1例. 第75回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 平成24年2月18日.

28. 狩野葉子: 教育コース 薬疹とウイルス感染は鑑別できるか. 第75回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 平成24年2月19日.
29. Shiohara T: Role of Viral Infection in Drug Allergy. The 2012 American Academy of Allergy Asthma & Immunology Annual Meeting, Orlando, Mar. 3, 2012.
30. Kano Y, Hirahara K, Shiohara T: Anaphylactoid purpura followed by occurrence of osteonecrosis of the femoral head. The Asia Pacific meeting of vasculitis and ANCA workshop, Tokyo, Mar. 30, 2012.

論文

1. 平原和久: 多様化するヘルペス感染症 免疫再構築症候群からみた带状疱疹. *Derma*. 178: 16-21, 2011.
2. 平原和久: 光線過敏症 最新の研究から遮光対策まで③ 光線過敏症カンファレンス バジル(ハーブ)含有食品による光線過敏症. *Visual Dermatol* 10: 468-469, 2011.
3. 何川宇啓, 狩野葉子, 塩原哲夫: 気管支粘膜病変を認めた成人水痘肺炎の1例. *臨皮* 65: 353-357, 2011.
4. Kanetaka Y, Kano Y, Hirahara K, Kurata M, Shiohara T. Relationship between cytomegalovirus reactivation and dermatomyositis. *Eur J Dermatol* 21: 248-253, 2011.
5. 狩野葉子: DIHSの重症化因子としてのサイトメガロウイルス感染症. *Derma*. 178: 35-39, 2011.
6. Shiohara T, et al: Genome-wide association study identifies HLA-A*3101 allele as a genetic risk factor for carbamazepine-induced cutaneous adverse drug reactions in Japanese population. *Hum Mol Genet* 20: 1034-41, 2011.
7. 牛込悠紀子, 満山陽子, 平原和久, 塩原哲夫: 化学療法後に特異疹を認めた慢性骨髄単球性白血病の一例. *臨皮* 65: 437-441, 2011.
8. 佐藤洋平, 水川良子, 稲岡峰幸, 塩原哲夫: 薬剤投与なく再燃し, 色素沈着を伴った非色素沈着型固定薬疹の1例. *臨皮* 65: 478-481, 2011.
9. 福田知雄: 白癩性肉芽腫. *Med Mycol J* 52: 171-172, 2011.
10. 堀江千穂, 水川良子, 塩原哲夫: 苔癬型組織反応における汗腺, 汗管の病理組織学的検討. *日皮会誌* 121: 1869-1874, 2011.
11. 塩原哲夫: 薬疹の最先端 - 最新の概念・病態・治療 はじめに. *医のあゆみ* 238 (7, 8): 753, 2011.
12. 塩原哲夫: 薬疹の最先端 - 最新の概念・病態・治療 薬疹の概念 - ここまで広がった薬疹の概念. *医のあゆみ* 238(7, 8): 755-760, 2011.
13. 水川良子: 薬疹の最先端 - 最新の概念・病態・治療 重症薬疹のモデルとしての固定薬疹. *医のあゆみ* 238(7, 8): 775-778, 2011.
14. 狩野葉子: 分子標的薬による薬疹 update. *医のあゆみ* 238(7, 8): 788-792, 2011.
15. 平原和久: 薬疹の最先端 - 最新の概念・病態・治療 重症薬疹の最新治療. *医のあゆみ* 238(7, 8): 793-797, 2011.
16. 塩原哲夫: 知っておきたい皮膚疾患 薬疹. *東京内科医会誌* 27: 55-60, 2011.
17. Horie C, Mizukawa Y, Yamazaki Y, Shiohara T: Varicella-zoster virus antigen expression of eccrine gland and duct epithelium in herpes zoster lesions. *Br J Dermatol* 165: 802-807, 2011.
18. 塩原哲夫: 総説 薬疹. *東京都病院薬剤師会雑誌* 60(5): 5-12, 2011.
19. 塩原哲夫: 内科 疾患インストラクションガイド 何をどう説明するか 皮膚疾患 薬疹. *Medicina* 48 (11 増): 618-620, 2011.
20. 塩原哲夫: 知っておきたい皮膚科の知識 - 専門医の診方・治し方 薬疹. *耳鼻・頭頸外科* 83: 931-934, 2011.
21. 狩野葉子: 薬剤アレルギー: この10年を振り返って. *皮アレルギーフロンテ* 9: 31-36, 2011.
22. 塩原哲夫: 座談会 皮膚アレルギー: この10年を振り返る~日本から発信された進歩~. *皮アレルギーフロンテ* 9: 44-53, 2011.
23. 水川良子: 皮膚病変から学ぶアレルギーの鑑別 主訴: 下肢の皮疹. *皮アレルギーフロンテ* 9: 219-221, 2011.
24. 福田知雄: PDT 光線力学的療法. *皮膚病診療* 33(増): 46-50, 2011.
25. 稲岡峰幸: 診断に苦慮する薬疹の臨床と病態. *臨床免疫・アレルギー科* 56: 519-525, 2011.
26. 塩原哲夫: 蕁麻疹治療の実際 - 蕁麻疹治療ガイドライン改訂のポイント, 薬物治療の評価を中心に - 蕁麻疹の原因を調べることの意義と実際. *Prog Med* 31: 2773-2777, 2011.
27. 狩野葉子, 稲岡峰幸: 小児の薬疹. *小児科* 52: 1931-1937, 2011.
28. Inaoka M, Kano Y, Horie C, Shiohara T: Cutaneous granulomatous reaction after herpes zoster in drug-induced hypersensitivity syndrome. *Am J Dermatopathol* 33: 872-874, 2011.
29. 石田正, 高橋良, 塩原哲夫: 重症薬疹の最新知識 制御性T細胞と重症薬疹. *日皮会誌* 121: 2682-2685, 2011.
30. 水川良子: 皮膚科研究の進歩・最前線 IgEは悪役か? *日皮会誌* 121: 2923-2924, 2011.
31. 狩野葉子: DHISに合併する劇症1型糖尿病. *日皮会誌* 121: 3068-3069, 2011.
32. 平原和久: 皮膚科医が知っておくべき新しい疾患や治療法 免疫再構築症候群. *日皮会誌* 121: 3073-3075, 2011.

33. 狩野葉子: イマニチブの皮膚障害とその治療. 日皮会誌 121: 3147-3148, 2011.
 34. 稲岡峰幸, 狩野葉子, 倉田麻衣子, 塩原哲夫: 帯状疱疹・水痘・Kaposi 水痘様発疹症患者における単純ヘルペスウイルスおよび水痘一帯状疱疹ウイルス抗体価の解析. 皮膚臨床 54: 67-72, 2012.
 35. Hirahara K, Kano Y, Shiohara T: Diffuse large B-cell lymphoma as a sequela of Stevens-Johnson syndrome associated with the increased Epstein-Barr virus load. *Eur J Dermatol* 22:144-145, 2012.
 36. Kano Y, Horie C, Inaoka M, Mizukawa Y, Ishida T, Shiohara T: Herpes zoster in patients with drug-induced hypersensitivity syndrome/DRESS. *Acta Derm Venereol* 92: 193-220, 2012.
- 著書
1. Shiohara T, Doi T, Hayakawa J: Defective sweating responses in atopic dermatitis. In: *Current Problems in Dermatology*, Vol. 41. Pathomechanisms, diagnosis and management of atopic dermatitis. Shiohara T, ed. Karger AG, Basel. 2011. p. 68-79.
 2. Shiohara T, Sato Y, Takahashi R, Kurata M, Mizukawa Y: Increased susceptibility to cutaneous viral infections in atopic dermatitis: the roles of regulatory T cells and innate immune defects. In: *Current Problems in Dermatology*, Vol. 41. Pathomechanisms, diagnosis and management of atopic dermatitis. Shiohara T, ed. Karger AG, Basel. 2011. p. 125-135.
 3. Shiohara T, Kano Y: Drug-induced hypersensitivity syndrome. In: *Asian Skin and Skin Diseases. Special book of the 2nd World Congress of Dermatology*. Eun HC, Kim SC, Lee WS, ed. MEDrang Inc, Seoul. 2011. p. 77-84.
 4. 狩野葉子: 薬疹とウイルス性発疹症の見分け方. 皮膚科臨床アセット3 ウイルス性皮膚疾患ハンドブック, 古江増隆, 浅田秀夫編. 東京, 中山書店, 2011. p. 206-207.
 5. 狩野葉子: 造血疾患のかゆみー鉄欠乏性貧血・真性赤血球増加症のかゆみと治療. 全身とかゆみ, 宮地良樹編. 東京, 診断と治療社, 2011. p. 127-130.
 6. 狩野葉子: EGFR 阻害薬による痒疹様発疹の特徴と対処法. 皮膚科臨床アセット8 変貌する痒疹マネージメント. 古江増隆, 林伸和編. 東京, 中山書店, 2012. p. 57-60.
 7. 狩野葉子: Colum[症例紹介] エルロチニブによる痒疹様皮膚疹. 皮膚科臨床アセット8 変貌する痒疹マネージメント. 古江増隆, 林伸和編. 東京, 中山書店, 2012. p. 51.
 8. 稲岡峰幸, 狩野葉子: 放射線皮膚炎. 皮膚科診療カラーアトラス体系第7巻. 鈴木啓之, 神崎保編. 東京, 講談社, 2011. p. 129.
 9. 稲岡峰幸, 狩野葉子: マイコプラズマ感染症の皮膚症状. 皮膚科診療カラーアトラス体系第8巻. 鈴木啓之, 神崎保編. 東京, 講談社, 2011. p. 115.
 10. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎, 自然免疫と衛生仮説. 皮膚科サブスペシャリティシリーズ 1冊でわかる皮膚アレルギー 塩原哲夫, 他編. 東京, 文光堂, 2012. p. 122-126.
 11. 塩原哲夫: 扁平苔癬. ウイルス感染か? 金属アレルギーか? 皮膚科サブスペシャリティシリーズ 1冊でわかる皮膚アレルギー 塩原哲夫, 他編. 東京, 文光堂, 2012. p. 332-336.
 12. 狩野葉子: 薬剤添加リンパ球刺激試験. 皮膚科サブスペシャリティシリーズ 1冊でわかる皮膚アレルギー. 塩原哲夫, 他編. 東京, 文光堂, 2012. p. 72.
 13. 狩野葉子: 薬疹のガイドラインの解説. 皮膚科サブスペシャリティシリーズ 1冊でわかる皮膚アレルギー. 塩原哲夫, 他編. 東京, 文光堂, 2012. p. 207-213.
 14. 狩野葉子: 分子標的薬による皮膚病変. WHAT' S NEW in 皮膚科学 2012-2013. 宮地良樹編. 東京, メディカルレビュー社, 2012. p. 68-69.
 15. 福田知雄: パジェット病に光線力学療法は有用か? WHAT' S NEW in 皮膚科学 2012-2013. 宮地良樹編. 東京, メディカルレビュー社, 2012. p. 120-121.
 16. 塩原哲夫: 免疫再構築症候群 WHAT' S NEW in 皮膚科学 2012-2013. 宮地良樹編. 東京, メディカルレビュー社, 2012. p. 144-145.
 17. 塩原哲夫: 正しいステロイドの使い方 2. 外用剤編 改訂3版 塩原哲夫編. 東京, 医薬ジャーナル社, 2012.
 18. Shiohara T, Kano Y, Takahashi R, Ishida T, Mizukawa Y: Review. Drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS): Recent advances in the diagnosis, pathogenesis and management. In: *Adverse cutaneous drug eruptions (French LE, ed) Curr Probl Dermatol Karger Press, Basel, 2012. p. 122-138.*
 19. Shiohara T, Mizukawa Y, Kano Y: Review. Fixed drug eruption: The dark side of activation of intraepidermal CD8⁺ T cells uniquely specialized to mediate protective immunity. In: *Adverse cutaneous drug eruptions (French LE, ed) Curr Probl Dermatol Karger Press, Basel, 2012. p. 106-121.*
 20. 塩原哲夫: 薬疹 最近の動向. 今日の皮膚疾患治療指針. 塩原哲夫, 他編. 東京, 医学書院, 2012. p. 559-562.
 21. 塩原哲夫: 薬疹. 今日の皮膚疾患治療指針. 塩原哲夫, 他編. 東京, 医学書院, 2012. p.562-567.
- その他
1. 狩野葉子: 日常診療に役立つ薬疹の知識. 杏林大学医学部同窓会総会, 東京, 平成23年4月23

- 日。
2. 稲岡峰幸：乳房外 Paget 病の死亡 3 症例。多摩皮膚科専門医会 5 月例会，武蔵野，平成 23 年 5 月 21 日。
 3. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと発汗障害，道北小児学術講演会，旭川，平成 23 年 6 月 18 日。
 4. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎における発汗障害とスキンケア。湯島スキンケア研究会，東京，平成 23 年 6 月 25 日。
 5. 佐藤洋平，牛込悠紀子，塩原哲夫：アトピー性皮膚炎と発汗障害。汗と皮膚の研究会，札幌，平成 23 年 7 月 1 日。
 6. 狩野葉子：マルホ医学セミナー ラジオ NIKKEI 薬理作用から考える分子標的薬による皮膚病変，平成 23 年 7 月 7 日。
 7. 水川良子：自然免疫機構としての皮膚。第 6 回東京感染症アレルギーフォーラム (TIA フォーラム)，東京，平成 23 年 7 月 14 日。
 8. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法。第一回信州小児免疫アレルギー懇話会，松本，平成 23 年 7 月 20 日。
 9. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎における発汗障害とスキンケア。足立区小児科医会，東京，平成 23 年 7 月 27 日。
 10. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法。広島小児科医会，広島，平成 23 年 8 月 10 日。
 11. 佐藤洋平，塩原哲夫：カポジ水痘様発疹症における制御性 T 細胞 (初感染と再活性化の差異)。第 18 回ヘルペス感染症フォーラム，札幌，平成 23 年 8 月 19 日。
 12. 水川良子：正常皮膚におけるヒト Langerhans 細胞の単純ヘルペスウイルス感染。HSV 皮膚病変の形成における保護的役割。第 18 回ヘルペス感染症フォーラム，札幌，平成 23 年 8 月 19 日。
 13. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法，盛岡市医師会小児科医会，盛岡，平成 23 年 8 月 24 日。
 14. 塩原哲夫：作用機序からみたプロトピックの特性。プロトピック軟膏講演会，東京，平成 23 年 8 月 28 日。
 15. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎における目からウロコ (?) の外用療法。函館，平成 23 年 9 月 9 日。
 16. 佐藤洋平：固定薬疹の多彩な臨床像と重症化の危険性。第 9 回皮膚合同カンファレンス，武蔵野，平成 23 年 9 月 24 日。
 17. 牛込悠紀子：薬剤性過敏症候群 (DIHS) を疑う臨床像と検査項目。第 9 回皮膚合同カンファレンス，武蔵野，平成 23 年 9 月 24 日。
 18. 稲岡峰幸：ラテックスアレルギーのガイドラインと指導演。第 9 回皮膚合同カンファレンス，武蔵野，平成 23 年 9 月 24 日。
 19. 早川順：蕁麻疹治療の実際。第 9 回皮膚合同カンファレンス，武蔵野，平成 23 年 9 月 24 日。
 20. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎における発汗異常と外用療法。鳥取県臨床皮膚科医会，米子，平成 23 年 10 月 18 日。
 21. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法。道央小児皮膚疾患セミナー，札幌，平成 23 年 10 月 26 日。
 22. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法。京都こどもの皮膚病カンファレンス，京都，平成 23 年 10 月 27 日。
 23. 塩原哲夫：薬疹及び蕁麻疹における最新の話題，三鷹市医師会学術講演会，三鷹，平成 23 年 11 月 1 日。
 24. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法。第 11 回東京小児科医セミナー，東京，平成 23 年 11 月 3 日。
 25. 狩野葉子：薬剤がもたらす多彩な皮膚病変。港区医師会，東京，平成 23 年 11 月 11 日。
 26. 塩原哲夫：ステロイドとプロトピックの使い分けとスキンケア。マルホ学術合同会議，大阪，平成 23 年 11 月 18 日。
 27. 佐藤洋平，水川良子，塩原哲夫：カポジ水痘様発疹症における Treg の解析。第 7 回 Tokyo scientific forum for Atopic Dermatitis and Psoriasis，東京，平成 23 年 11 月 12 日。
 28. 塩原哲夫：知っておきたい薬疹の知識。東京都病院薬剤師会常套支部勉強会，東京，平成 23 年 11 月 24 日。
 29. 水川良子：悪性リンパ腫が疑われたアトピー性皮膚炎の 1 例。多摩皮膚科専門医会 11 月例会，武蔵野，平成 23 年 11 月 26 日。
 30. 平原和久，塩原哲夫：日経メディクイズ AGEP。日経メディカル 529: 87-88, 2011。
 31. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法。第 261 回川崎市小児科医会，川崎，平成 24 年 1 月 6 日。
 32. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎における発汗障害とスキンケア。城北皮膚細菌感染症セミナー，東京，平成 24 年 1 月 11 日。
 33. 塩原哲夫：常識を見直そう：汗とスキンケア。学術講演会，福岡，平成 24 年 1 月 21 日。
 34. 塩原哲夫：免疫と帯状疱疹 免疫再構築症候群。第 4 回 HZ 研究会，品川，平成 24 年 1 月 28 日。
 35. 狩野葉子：壊疽性膿皮症 Pyoderma Gangrenosum。AL media 68: 1-2, 2012。
 36. 早川順：シクロスポリンが奏効した壊疽性膿皮症の 1 例。多摩皮膚科専門医会 2 月例会，武蔵野，平成 24 年 2 月 4 日。
 37. 岡崎亜希：皮膚腫瘍に対するイミキモド外用療法の実施方法と注意点。皮膚疾患フォーラム，三鷹，平成 24 年 2 月 10 日。
 38. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法。第 10 回茨城県小児科医会，水戸，平成 24 年 2 月 15 日。

39. 塩原哲夫: Lamotrigine の安全性に関する LIVE Seminar. 平成 24 年 2 月 22 日.
40. 小松由莉江: 多摩地区で発生したマダニ刺咬症～油断してはいけないマダニ媒介性疾患～. 第 10 回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成 24 年 3 月 7 日.
41. 稲岡峰幸: イソギンチャク刺症. 第 10 回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成 24 年 3 月 7 日.
42. 五味方樹: 蜂刺傷. 第 10 回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成 24 年 3 月 7 日.
43. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎における外用療法-プロトピックを中心として. 山梨皮膚科講演会, 山梨, 平成 24 年 3 月 14 日.
44. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法. 第 449 回鳥取県東部小児科医会, 鳥取, 平成 24 年 3 月 21 日.
45. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法. 第 451 回山形地方小児科集談会, 山形, 平成 24 年 3 月 27 日.
46. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法. 埼玉県小児皮膚疾患学術講演会, 大宮, 平成 24 年 3 月 28 日.
47. 塩原哲夫: 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究 平成 23 年度総括・分担研究報告書, 平成 24 年 3 月.

形成外科学教室

口 演

1. 大浦紀彦: 難治性潰瘍「難治性潰瘍 その他」. 平成 23 年度日本形成外科学会春季学術講習会(教育講演), 徳島, 平成 23 年 4 月 12 日.
2. 尾崎峰, 河内司, 佐藤卓士, 栗田昌和, 井原玲, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 下顎関節突起骨折牽引術における 3 次元可動性を有する内固定型骨延長器の使用経験. 第 54 回日本形成外科学会総会・学術集会, 徳島, 平成 23 年 4 月 13 日.
3. 辻直子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 当科における乳房一期再建: 患者の術式選択と術後満足度・QOL. 第 54 回日本形成外科学会総会・学術集会, 徳島, 平成 23 年 4 月 15 日.
4. 大浦紀彦, 木下幹雄, 河内司, 匂坂正信, 神田英華, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 重症下肢虚血(rutherford6) 症例に対する distal bypass 術と遊離広背筋皮弁移植術による下肢救済の検討. 第 54 回日本形成外科学会総会・学術集会, 徳島, 平成 23 年 4 月 13-15 日.
5. 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 白石知大, 尾崎峰, 波利井清紀: 口唇の対称性獲得を目的とした健側口角下制筋切除術の経験. 第 54 回日本形成外科学会総会・学術集会, 徳島, 平成 23 年 4 月 13-15 日.
6. 白石知大, 栗田昌和, 木下幹雄, 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 末節部切断の再接合術の

- 経験. 第 54 回日本形成外科学会総会・学術集会, 徳島, 平成 23 年 4 月 13-15 日.
7. 井原玲, 栗田昌和, 尾崎峰, 藤木政英, 加地展之, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 生理食塩水皮下注射によるエタノール硬化療法 of 皮膚合併症予防効果の実験的検討. 第 54 回日本形成外科学会総会・学術集会, 徳島, 平成 23 年 4 月 13-15 日.
8. 匂坂正信, 大浦紀彦, 河内司, 木下幹雄, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 重症下肢虚血患者における合併症の検討. 第 54 回日本形成外科学会総会・学術集会, 徳島, 平成 23 年 4 月 15 日.
9. 大浦紀彦, 孟真, 木下幹雄, 橋山直樹, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: Distal bypass と遊離組織移植術による重症下肢虚血に対する治療戦略-形成外科と心臓血管外科の連携-. 第 39 回日本血管外科学会総会, 沖縄, 平成 23 年 4 月 21 日.
10. 大浦紀彦: 基礎から最新情報まで学べる創傷管理の最前線. 新社会システム総合研究所主催セミナー, 東京, 平成 23 年 4 月 30 日.
11. 大浦紀彦: 創傷治療の変革 2011 下肢潰瘍に対する V. A. C. ATS[®] 治療システムの有用性と問題点. 第 3 回日本下肢救済・足病学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 5 月 13 日.
12. 匂坂正信, 大浦紀彦, 河内司, 木下幹雄, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 足底・踵部壊疽に対する遊離皮弁術後の創傷管理の工夫. 第 3 回日本下肢救済・足病学会学術集会, 横浜, 平成 23 年 5 月 13 日.
13. 大浦紀彦: 糖尿病足病変治療テクニック 形成外科の立場から. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会(モーニングセミナー), 札幌, 平成 23 年 5 月 20 日.
14. 大浦紀彦: アドバンスド・ウンド・マネージメント -最新の治療を行う上での注意点-. 第 20 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 金沢, 平成 23 年 5 月 22 日.
15. 大浦紀彦: 特定看護師の果たす役割と期待 演習と実習を通じて見えてきたもの. 第 20 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, 金沢, 平成 23 年 5 月 22 日.
16. Takushima A: 15-years Survey of One-stage Latissimus Dorsi Muscle Transfer for Treatment of Long-standing Facial Paralysis. 16th International Congress of the International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery, Vancouver, May 24, 2011.
17. Ohura N, Kinoshita M, Takushima A, Harii K: USE OF NEW CONTACT LAYER DRESSING IN THE WOUND CARE. EWMA2011, Geneva, May 26, 2011.
18. Ozaki M, Kurita M, Narita K, Kawauchi T, Takushima A & Harii K: Refined Traction Therapy for the Condylar Fracture Using the Internal Bone Distraction Device. 16th International Congress

- of the International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery, Vancouver, May 27, 2011.
19. Kurita M, Ozaki M, Ihara A, Kaji N, Takushima A & Harii K : A new protocol for prevention of cutaneous complications of percutaneous sclerotherapy for superficial venous malformations with strong sclerotic agents. 16th International Congress of the International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery, Vancouver , May 21-27, 2011.
 20. 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 白石知大, 波利井清紀 : 側頭筋移行による頬部動的再建術後に, 眼瞼部への側頭筋の再移行術と頬部への遊離広背筋移植術を行った4症例の経験. 第34回日本顔面神経研究会, 東京, 平成23年6月2日.
 21. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 白石知大, 山内宏一¹, 平野浩一, 波利井清紀 (¹杏林大・医・耳鼻咽喉科) : 舌喉頭全摘, 下顎区域切除, 皮膚合併切除に対する前外側大腿皮弁+再建プレートと腹直筋皮弁による再建. 第35回日本頭頸部癌学会, 名古屋, 平成23年6月9-10日.
 22. 小林よう, 大浦紀彦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀 : 陰圧閉鎖療法 (NPWT) による胸骨骨髓炎の治療. 第36回日本外科系連合学会学術集会, 千葉, 平成23年6月16-17日.
 23. 大浦紀彦 : 透析患者における下肢創傷管理 他の創傷とどこがちがうのか. 第56回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 平成23年6月18日.
 24. 大浦紀彦 : 透析クリニックでの下肢救済-フットケア外来をはじめよう-. 第56回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 平成23年6月19日.
 25. Narita K, Takushima A, Shiraishi T, Hirano K, Okazaki M¹, Harii K (¹ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Tokyo Medical and Dental University Graduate School of Medicine) : Dilated transverse cervical vein as a useful recipient vessel in microvascular reconstructive surgery of the head and neck. 6th congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery, Helsinki, June 30 - July 2, 2011.
 26. Shiraishi T, Kurita M, Narita K, Takushima A & Kiyonori H: Successful fingertip replantation. 6th congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery, Helsinki, June 30- July 2, 2011.
 27. 大浦紀彦 : 糖尿病性足病変の病態と治療-ケアから一歩進んだケアをめざして-. 第23回広島糖尿病研究会, 広島, 平成23年7月2日.
 28. 多久嶋亮彦, 波利井清紀 : 顔面神経麻痺に対する神経・血管柄付き遊離筋肉移植術 --- 始まりから現在までの変遷 ---. 第30回大阪マイクロサージャリー研究会, 大阪, 平成23年7月16日.
 29. 尾崎峰, 栗田昌和, 加地展之, 佐藤大介, 井原玲, 多久嶋亮彦, 波利井清紀 : 血管奇形病変形態に依じたわれわれの硬化剤の使用法. 第8回血管腫・血管奇形研究会, 名古屋, 平成23年7月16日.
 30. 佐藤大介, 栗田昌和, 尾崎峰, 加地展之, 多久嶋亮彦, 波利井清紀 : 血管外周囲組織への硬化剤注入が血管に及ぼす影響の実験的検討. 第8回血管腫・血管奇形研究会, 名古屋, 平成23年7月15-16日.
 31. 大浦紀彦 : 創傷外科からみた OLIVE レジストリーへの期待. Cardiovascular Intervention and Therapeutics 2011, 大阪, 平成23年7月23日.
 32. 大浦紀彦 : EVT か bypass か 形成外科の選択基準. Cardiovascular Intervention and Therapeutics 2011, 大阪, 平成23年7月23日.
 33. 大浦紀彦 : 「腫の褥瘡に挑戦する」しなくてはいけない治療, してはいけない治療. 第7回日本創傷・オストミー・失禁管理学会 (ブラッシュアップセミナー), 大阪, 平成23年7月31日.
 34. 大浦紀彦 : 糖尿病性足病変に対する治療戦略 軟部組織欠損に対する新しい治療. 第19回多摩骨軟部腫瘍研究会 (特別講演), 三鷹, 平成23年8月27日.
 35. 大浦紀彦 : キズ管理の将来展望 細胞の気持ちになって. 第8回日本フットケア学会佐賀セミナー, 佐賀, 平成23年8月28日.
 36. 大浦紀彦 : Multi-disciplinary Treatment for CLI Patients Using the Japanese Team Approach (J-WALK). DM Foot Saga Conference 2011, 佐賀, 平成23年8月29日.
 37. 辻直子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀, 井本滋¹, 伊坂弘嗣¹, 伊藤大樹¹, 伊美建太郎¹, 田崎絵里¹ (¹杏林大・医・乳腺外科) : 当科における乳房一期再建; 再建方法の選択と術後満足度 (ワークショップ: 乳房手術後の再建: 自家組織とインプラント). 第19回日本乳腺外科学会, 仙台, 平成23年9月2日.
 38. 大浦紀彦 : 糖尿病性足病変の病態と治療戦略-外来で潰瘍のある足をどのように診るのか?- . 第11回多摩生活習慣病フォーラム, 調布, 平成23年9月10日.
 39. Takushima A: 15-years Survey of One-stage Latissimus Dorsi Muscle Transfer for Treatment of Long-standing Facial Paralysis. XI International Microsurgical Symposium, Botucatu, Sep. 17, 2011.
 40. 大浦紀彦 : 最新の褥瘡治療-褥瘡治療に必要なものは何か-. 創傷治癒センターセミナー, 仙台, 平成23年9月17日.
 41. 大浦紀彦 : 最新の CLI 治療. 第4回 foot and leg 研究会 (東京医科歯科大学主催) 東京, 平成23年10月1日.
 42. 江藤ひとみ, 菅浩隆¹, 加藤晴之輔¹, 吉村浩太郎¹ (¹東京大・医・形成外科) : 肥厚性癬痕の病的特性に対する b FGF の効能. 第20回日本形成外科学会基礎学術集会 (シンポジウム), 東京,

- 平成 23 年 10 月 6-7 日 .
43. 栗田昌和, 岡崎睦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 周期的伸展刺激は刺激の頻度および強度に依存してケラチノサイト由来エンドセリン 1 の発現を上昇させる. 第 20 回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京, 平成 23 年 10 月 6-7 日 .
 44. 成田圭吾, 栗田昌和, 尾崎峰, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: エタノールの局所注入はラット皮下脂肪の減量をきたす. 第 20 回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京, 平成 23 年 10 月 6-7 日 .
 45. 小林よう, 栗田昌和, 江藤ひとみ, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 刺青治療の研究を目的とした動物モデルの作成. 第 20 回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京, 平成 23 年 10 月 6-7 日 .
 46. 佐藤大介, 栗田昌和, 尾崎峰, 加地展之, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 血管外周囲組織への硬化剤注入が血管に及ぼす影響の実験的検討. 第 20 回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京, 平成 23 年 10 月 6-7 日 .
 47. Takushima A: Reanimation of Paralyzed Face with Free Muscle Transfer --- Our history from the first case to the present ---. Instructional Course for Facial Paralysis Reconstruction, Pre-congress Workshop, 2011 Chang Gung Mayo Symposium in Reconstructive Surgery. Linkou, Oct. 25, 2011.
 48. Takushima A: Reanimation of Paralyzed Face with One-stage Latissimus Dorsi Muscle Transfer. Instructional Course for Facial Paralysis Reconstruction, Pre-congress Workshop, 2011 Chang Gung Mayo Symposium in Reconstructive Surgery. Linkou, Oct. 26, 2011.
 49. 大浦紀彦: 下肢を救済するためのフットケアと創傷治療とケア これからフットケアを始めるひとのために. 第 9 回北九州フットケアカンファレンス (特別講演) 福岡, 平成 23 年 10 月 26 日 .
 50. 大浦紀彦, 山崎和紀, 倉地功, 加賀谷優, 勾坂正信, 多久嶋亮彦, 萬知子¹, 波利井清紀 (¹杏林大・医・麻酔科): 下肢難治性潰瘍の 3 病態に対する高気圧酸素療法 HBOT for the patient with three pathological condition of intractable ulcer. 第 46 回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会, 東京, 平成 23 年 10 月 27 日 .
 51. 大浦紀彦: CLI における形成外科医からみたチーム医療 これからフットケアを始める人のために. 第 6 回濃尾ペリフェラルインターベンション研究会, 広島, 平成 23 年 10 月 29 日 .
 52. 大浦紀彦: 重症下肢虚血の診断と治療 創傷治療の見地から endpoint についての提案. *Japan Endovascular Treatment Conference JET2012* 平成 23 年 11 月 3 日 .
 53. 今村三希子, 栗田昌和, 白石知大, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 切断指再接着術後に発症した複合性局所疼痛症候群の経験. 第 38 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 新潟, 平成 23 年 11 月 10 日 .
 54. 大浦紀彦, 白石知大, 山崎和紀, 倉地功, 勾坂正信, 木下幹雄, 孟真, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 重症下肢虚血による足底・踵部壊疽に対する distal bypass 術と遊離皮弁移植術の経験. 第 38 回日本マイクロサージャリー学会, 新潟, 平成 23 年 11 月 11 日 .
 55. 白石知大, 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 生体電気インピーダンスを用いた皮弁モニタリング法の開発. 第 38 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 新潟, 平成 23 年 11 月 10-12 日 .
 56. 多久嶋亮彦: 時間をかけずに綺麗に治す 明日から使える真皮縫合. 第 73 回日本臨床外科学会, 東京, 平成 23 年 11 月 19 日 .
 57. 大浦紀彦: 下肢創傷と栄養管理. 第 5 回多摩地区下肢救済・フットケア研究会, 三鷹, 平成 23 年 11 月 19 日 .
 58. 江藤ひとみ, 小林よう, 尾崎峰, 渡辺玲, 中山玲玲, 飯田匠子, 佐藤英, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 異所性蒙古斑に対する Q スイッチ Nd-YAG レーザー治療: 部位および治療時期による治療成績の比較. 第 32 回日本レーザー医学会総会, 東京, 平成 23 年 11 月 24-25 日 .
 59. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 安井佑¹, 白石知大, 波利井清紀 (¹東京西徳洲会病院・形成外科): 眼球摘出, 遊離前腕皮弁移植を行った眼部灯油皮膚炎の 1 例. 第 29 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 東京, 平成 23 年 11 月 24-25 日 .
 60. 栗田昌和, 尾崎峰, 佐藤大介, 加地展之, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 頭頸部領域のびまん性血管奇形に対するわれわれの治療戦略. 第 29 回日本頭蓋顎顔面外科学会, 東京, 平成 23 年 11 月 24-25 日 .
 61. 小林よう, 江藤ひとみ, 飯田匠子¹, 佐藤英², 尾崎峰, 渡辺玲, 中山玲玲, 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 波利井清紀 (¹新橋クリニック, ²福井大・医・皮膚科): 顔面の隆起性色素性母斑に対する炭酸ガスレーザーの治療の検討. 第 32 回日本レーザー医学会総会, 横浜, 平成 23 年 11 月 24-25 日 .
 62. 三上智子, 尾崎峰, 加賀谷優, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 球後出血を起因として重篤な視力障害を認めた 2 症例の治療および眼窩減圧術の手術時期についての文献的検討. 第 29 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 東京, 平成 23 年 11 月 24-25 日 .
 63. 大浦紀彦: 糖尿病性足壊疽と足部褥瘡の診断と治療. 第 8 回城西地区創傷ケアフォーラム, 東京, 平成 23 年 11 月 30 日 .
 64. 大浦紀彦: フットケアの重要性 自分の足で歩くため, 自分の足を守るために知っておくべきこと. 透析合併症対策講演会 (全日本腎臓協会), 東京, 平成 23 年 12 月 18 日 .
 65. 佐藤大介, 栗田昌和, 尾崎峰, 加地展之, 多久嶋

- 亮彦, 波利井清紀: 血管外周囲組織への硬化剤注入による血管への影響の実験的検討. 第23回東京大学医学部形成外科同門学術集会, 東京, 平成24年1月7日.
66. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変に対する創傷治療 - フットケアから一歩進んだ創傷治療へ -. 第3回静岡県西部フットケア研究会, 静岡, 平成24年1月14日.
 67. Kurita M, Muraoka Y, Takushima A & Harii K : Development of implantable Functional Electrical Stimulation device Controlled with EMG of Contralateral Healthy Hemiface for Paralyzed Face. Annual meetings of American Society for Reconstructive Microsurgery, Las Vegas, Jan. 14-17, 2012.
 68. 大浦紀彦: 日本における重症下肢虚血の実態. 日本フットケア学会, 日本下肢救済足病学会 (合同プレスセミナー), 東京, 平成24年1月18日.
 69. 倉地功, 大浦紀彦, 山崎和紀, 加賀谷優, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 下肢難治性潰瘍における足部伝達麻酔の経験. 第3回多摩フットケアセミナー, 立川, 平成24年2月3日.
 70. 多久嶋亮彦: 形成外科・美容外科における最近の進歩. 調布皮膚科講演会, 東京, 平成23年2月7日.
 71. 大浦紀彦: 杏林大学病院における下肢救済・フットケア外来の実際, 成績, 課題. 信濃町フットケア講演会 (慶応大学主催), 東京, 平成24年2月7日.
 72. 渡辺玲: シリコンインプラントによる乳房再建での脂肪注入. 第17回日本形成外科手術手技学会, 東京, 平成24年2月18日.
 73. 佐藤大介, 栗田昌和, 尾崎峰, 加地展之, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 周囲組織埋没結紮を併用した血管奇形に対する硬化療法の経験. 第17回日本形成外科手術手技学会, 東京, 平成24年2月18日.
 74. 大浦紀彦: 「血管外科領域における形成外科治療」. 第12回VAS研究会, 名古屋, 平成24年2月25日.
 75. 多久嶋亮彦: 目周囲の疾患に対する形成外科的治療. 第3回東京多摩眼科連携セミナー, 東京, 平成24年3月10日.
 76. 大浦紀彦: 創傷治癒とHBO - 創傷治療のイノベーションとHBO-. 第2回日本高気圧酸素スポーツ研究会, 東京, 平成24年3月10日.
 77. 大浦紀彦, 山崎和紀, 倉地功, 加賀谷優, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 糖尿病性潰瘍患者に対するtotal contact castの有用性. 第10回日本フットケア学会, 大阪, 平成24年3月18日.
- 論文**
1. 多久嶋亮彦, 石井秀典: 重瞼術 埋没法 私の方法. 形成外科 54 増刊: S115-S119, 2011.
 2. 多久嶋亮彦: 形成外科的縫合法. 臨床整形外科 46: 1134-1137, 2011.
 3. Ohura T, Nakajo T, Moriguchi T, Oka H, Tachi M, Ohura N Jr, Nogami R & Murayama S: Clinical efficacy of basic fibroblast growth factor on pressure ulcers: case-control pairing study using a new evaluation method. Wound Repair Regen 19(5): 542-551, 2011.
 4. 立花隆夫, 青木和恵, 大浦紀彦, 上出良一, 河合俊宏, 白石弘美, 杉元雅晴, 東口高志, 渡邊成, 渡邊千登世, 中條俊夫: 日本褥瘡学会で使用用語の定義・解説 用語集検討委員会報告 (5). 日本褥瘡学会誌 14: 86-87, 2012.
 5. 大浦紀彦, 木下幹雄, 河内司, 吉積佳世, 匂坂正信, 神田英華, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 術後胸骨骨髓炎・縦隔洞炎の治療 開心術後胸骨骨髓炎・縦隔洞炎に対する局所陰圧閉鎖療法によるWBPについて. 形成外科 54: 1353-1359, 2012.
 6. 百澤明, 三鍋俊春, 尾崎峰: 【美容医療 私の方法と合併症回避のコツ】手術手技によらない治療 レーザー・光治療 色素レーザー. 形成外科 54: S39-S44, 2011.
 7. 藤木政英, 栗田昌和, 尾崎峰, 加地展之, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 硬化療法と手術療法を併用して治療した小児上口唇静脈奇形の2例. 形成外科 54: 805-811, 2011.
 8. 尾崎峰: 【『頬骨骨折の診断と治療』ガイドライン作成にあたっての私の提言】診断に関するクリニカル・クエッションを作成して. 形成外科 54: 359-368, 2011.
 9. 栗田昌和, 波利井清紀: 顔面神経麻痺 =Clinics of facial palsy (日常診療でよくみる症状・病態 -- 診断の指針・治療の指針) -- (頭部の異常). 総合臨床 60: 961-965, 2011.
 10. Kurita M, Matsumoto D, Kato H, Araki J, Higashino T, Fujino T, Takasu K & Yoshimura K: Tissue reactions to cog structure and pure gold in lifting threads: A histological study in rats. Aesthetic surgery journal 31(3): 347-51, 2011.
 11. Kurita M, Okazaki M, Fujino T, Takushima A & Harii K : Cyclic Stretch Induces Upregulation of Endothelin-1 with Keratinocytes In Vitro: Possible Role in Mechanical Stress-induced Hyperpigmentation. Biochemical and Biophysical Research Communications 409: 103-107, 2011.
 12. Kurita M, Ozaki M, Ihara A, Kaji N, Harii K Intradermal Injection of Normal Saline Prevents Cutaneous Complications Associated with Sclerotherapy for Superficial Venous Malformations. Plast Reconstr Surg 129(4): 772e-774e, 2012.
 13. 河内司, 栗田昌和, 山下巖, 杉山茂樹, 林直人, 波利井清紀: 特発性発症した大胸筋下巨大血腫の1例. 形成外科 54(4): 427-431, 2011.
 14. 藤木政英, 栗田昌和, 尾崎峰, 加地展之, 多久嶋

亮彦, 波利井清紀硬化療法と手術療法を併用して治療した小児上口唇静脈奇形の2例. 形成外科 54(7): 805-811, 2011.

15. 坪井良治, 田中マキ子, 田中秀子, 須釜淳子, 中山健夫, 門野岳史, 永井弥生, 古田勝経, 野田康弘, 関根祐介, 貝谷敏子, 片岡ひとみ, 中川ひろみ, 岩本拓, 栗田昌和, 木下幹雄, 倉繁祐太, 仲上豪二郎, 柿崎祥子, 白石弘美, 大桑麻由美, 宮嶋正子, 野口まどか, 祖父江正代, 木下幸子, 日高正巳, 木之瀬隆, 廣瀬秀行, 杉元雅晴, 石澤美保子, 室岡陽子, 松井優子: 学術委員会プログラム 褥瘡予防・管理ガイドライン 第3版の作成に向けて(解説) 学術教育委員会. 日本褥瘡学会誌 13(3): 367-373, 2011.
16. Ihara A, Kurita M, Ozaki M, Fujiki M, Kaji N, Takushima A, & Harii K: Subcutaneous injection of normal saline prevents cutaneous complications of ethanol sclerotherapy for superficial vascular lesions: an experimental study. *Dermatol Surg* 37(8): 1125-32, 2011.
17. Kaminishi-Tanikawa A, Kurita M (correspondence), Okazaki M, Kawaguchi R, Ihara A, Niikura M, Takushima A & Harii K: Features of wound healing shown by fibroblasts obtained from the superficial and deep dermis. *J Plast Surg Hand Surg* 45(5): 219-225, 2011.
18. Rubin JP, Coon D, Zuley M, Toy J, Asano Y, Kurita M, Aoi N, Harii K & Yoshimura K: Mammographic Changes After Fat Transfer to the Breast Compared With Changes After Breast Reduction: A Blinded Study. *Plast Reconstr Surg*. Jan 18, 2012.
19. 白石知大, 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 切断指再接着術の基本. 形成外科 54(7): 775-786, 2011.
20. 倉地功, 大浦紀彦, 河内司, 木下幹雄, 山崎和紀, 匂坂正信, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 下腿難治性潰瘍における足部伝達麻酔法の有用性の検討. 形成外科 55: 309-316, 2012.

著書

1. 多久嶋亮彦: 形成外科. 外科医のための循環器必須知識. 東京, メジカルビュー社, 2011. p295-301.
2. 多久嶋亮彦: 皮膚科・形成外科疾患. 臨床工学講座 臨床医学総論, 東京, 医歯薬出版株式会社, 2012. p305-311.
3. 大浦紀彦, 市岡滋編, 波利井清紀監修: V. A. C. ATS® 治療システム実践マニュアル. 東京, 克誠堂出版, 2011.
4. 大浦紀彦編: 下肢救済のための創傷治療とケア. 照林社, 2011.

その他

1. 多久嶋亮彦: 早期乳癌に対する術式検討. 分担研究報告書 厚生労働省がん研究助成金櫻庭班

2. 大浦紀彦: 学会主催 第4回多摩地区下肢救済フットケア研究会, 杏林大学・大学講堂, 三鷹, 平成23年11月20日.
3. 大浦紀彦: 学会主催 日本褥瘡学会関東甲信越地方会東京支部 在宅フォーラム. 東京, 平成24年3月10日.
4. 大浦紀彦: 学会主催 東京 CLI の会. 東京, 平成23年6月9日.
5. 白石知大: 生体電気インピーダンスを用いた血行動態モニタリングの開発. 研究報告書(独) 日本学術振興会.
6. 匂坂正信: 心房細動が吻合部血管閉塞に及ぼす影響の実験的検討. 研究報告書(独) 日本学術振興会.

泌尿器科学教室

口演

1. 原秀彦, 菅田明子, 中村雄, 榎本香織, 藤田直之, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 進行性腎細胞癌に対するスニチニブの使用経験. 第99回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成23年4月21日.
2. 金城真実, 嘉村康邦¹, 関口由紀², 東原英二(¹四谷メディカルキューブ, ²横浜元町女性医療クリニック LUNA): 医道白寿企画: 女性泌尿器科; 女性過活動膀胱とメタボリックシンドローム. 第99回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成23年4月21日.
3. 奴田原紀久雄, 荒川孝¹(¹国際医療福祉大学)(シンポジウム): 改訂版 尿路結石症診療ガイドライン: 有用な使い方 診断・治療について. 第99回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成23年4月22日.
4. 桶川隆嗣, 板谷直, 原秀彦, 宍戸俊英, 奴田原紀久雄, 東原英二: 単孔式による腹腔鏡下腎摘除術の経験. 第99回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成23年4月22日.
5. 宍戸俊英, 菅田明子, 中村雄, 榎本香織, 藤田直之, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: TUEB および HoLEP の治療成績. 第99回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成23年4月22日.
6. 藤田直之, 菅田明子, 中村雄, 榎本香織, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院における腎盂尿管移行部狭窄に対する腹腔鏡下腎盂形成術の治療成績. 第99回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成23年4月22日.
7. 東原英二: 医道白寿企画: 尿路結石の治療 ESWL から学んだこと, そしてその先にあること(第1部: アーカイブプレクチャー). 第99回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成23年4月23日.

8. 林建二郎, 菅田明子, 中村雄, 榎本香織, 藤田直之, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 筋層非浸潤性膀胱癌における抗癌剤膀胱内注入と BCG 膀胱内注入の比較. 第 99 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成 23 年 4 月 23 日.
9. 金城真実, 嘉村康邦¹, 関口由紀², 東原英二 (四谷メディカルキューブ, ²横浜元町女性医療クリニック LUNA): 女性過活動膀胱患者における性機能の評価. 第 99 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成 23 年 4 月 23 日.
10. 奴田原紀久雄 (卒後教育プログラム): 上部尿路内視鏡による処置と手術 経尿道的尿管碎石術. 第 99 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成 23 年 4 月 24 日.
11. 多武保光宏 (卒後教育プログラム): 難治性尿路結石の治療 - 嵌頓結石の治療 -. 第 99 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成 23 年 4 月 24 日.
12. 桶川隆嗣, 村田明弘¹, 朝岡博¹, 檜垣昌夫¹, 加瀬浩史¹, 野田治久¹, 押正也¹, 野田賢治郎¹, 松本哲夫¹, 東原英二 (多摩前立腺癌骨転移研究会): 前立腺癌骨転移に対するゾレドロン酸の使用成績 - 多摩前立腺癌骨転移研究会 -. 第 99 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成 23 年 4 月 24 日.
13. 多武保光宏, 中村雄, 菅田明子, 榎本香織, 藤田直之, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 結石性腎盂腎炎の臨床的検討. 第 99 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成 23 年 4 月 24 日.
14. 板谷直, 菅田明子, 中村雄, 藤田直之, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二, 江夏徳寿¹, 太田智則¹ (亀田総合病院): 体外衝撃波破碎術後の α 1 遮断薬による排石効果の比較検討. 第 99 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 平成 23 年 4 月 24 日.
15. 宍戸俊英, 菅田明子, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 老年期前立腺肥大症患者における TURP, HoLEP, TUEB の安全性と有効性の検討. 第 24 回日本老年泌尿器科学会, 名古屋, 平成 23 年 5 月 29 日.
16. 原秀彦, 菅田明子, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 右腎および下大静脈合併切除後に肺転移を認めた, 後腹膜悪性線維性組織球腫の 1 例. 第 109 回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 平成 23 年 6 月 3 日.
17. 奴田原紀久雄, 林松彦¹ (慶応大・血液浄化部) (シンポジウム): Ciliopathies; cilia は細胞の conductor. 第 54 回日本腎臓学会総会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15 日.
18. 奴田原紀久雄, 東原英二, 堀江重郎¹, 武藤智¹, 望月俊雄², 西尾妙織³ (帝京大・医・泌尿器, ²東京女子医大・第四内科, ³北海道大・第二内科): 常染色体優性多発性嚢胞腎における腎機能と腎容積の変化. 第 54 回日本腎臓学会総会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15 日.
19. 奴田原紀久雄, 東原英二, 堀江重郎¹, 下条文武², 菱田明³ (¹帝京大・医・泌尿器, ²新潟大・第二内科, ³富士宮市立病院): 本邦における常染色体優性多発性嚢胞腎に対するトルバプタン 3 年投与成績. 第 54 回日本腎臓学会総会, 横浜, 平成 23 年 6 月 16 日.
20. 菅田明子, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: スニチニブ内服後に SIADH と消化管出血を来した腎癌の 1 例. 第 606 回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成 23 年 6 月 18 日.
21. Kinjo M, Yoshimura Y¹, Higashihara E (Yotsuya Medical Cube women's center): Effect of trans-vaginal surgery on lower urinary symptoms and mental status in patients with pelvic organ prolapse. 36th Annual meeting of International Urogynecology association, Lisbon, Jun. 28-July. 2, 2011.
22. 原秀彦, 菅田明子, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 前立腺肥大症患者における HoLEP の安全性と有効性の検討. 第 11 回日本 Men's Health 医学会, 鎌倉, 平成 23 年 7 月 1 日.
23. 金城真実, 嘉村康邦¹, 東原英二 (四谷メディカルキューブ): メッシュ使用の経陰的骨盤臓器脱修復術における, 下部尿路症状, 精神症状の変化. 第 13 回日本女性骨盤底医学会, 横浜, 平成 23 年 7 月 9 日.
24. 桶川隆嗣: 当院におけるトリーセルの使用経験. 腎癌分子標的薬トリーセル講演会, 東京, 平成 23 年 7 月 15 日.
25. 桶川隆嗣: 腎細胞がんに対する薬物治療と今後の展望 - 当院の使用経験をふまえて. 第 35 回ゼルコバの会, 栃木, 平成 23 年 7 月 21 日.
26. 加藤司顯: 泌尿器科疾患における使用薬剤の選択; 特に前立腺肥大症, 過活動膀胱, 前立腺癌について. Shinjuku urology conference, 東京, 平成 23 年 7 月 22 日.
27. 加藤司顯: 泌尿器科疾患における使用薬剤の選択; 特に過活動膀胱, 前立腺肥大症, 尿失禁について. 社会保険中央総合病院第 5 回医療連携講演会, 東京, 平成 23 年 8 月 24 日.
28. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌治療の現況と今後の展望. 東京, 平成 23 年 8 月 26 日.
29. Kinjo M, Yoshimura Y¹, Higashihara E (Yotsuya Medical Cube women's center): The relationship between Overactive bladder and sexual function in Japanese female patients. Annual Meeting of International Continence Association, Glasgow, Aug. 29-Sep. 2, 2011.

30. 奴田原紀久雄 (特別講演): 実践的 f-TUL: f-TUL の Tips & Pitfalls. 第 6 回岡山泌尿器科手術手技研究会, 岡山, 平成 23 年 9 月 4 日.
31. 東原英二 (講演): 治療薬の開発状況. 第 19 回嚢胞性腎疾患研究会 市民公開講座, 東京, 平成 23 年 9 月 11 日.
32. 奴田原紀久雄, 東原英二, 堀江重郎¹, 武藤智¹, 望月俊雄², 西尾妙織³ (¹ 帝京大・医・泌尿器, ² 東京女子医大・第四内科, ³ 北海道大・第二内科): 常染色体優性多発性嚢胞腎患者の腎機能と腎容積の変化について. 第 19 回嚢胞性腎疾患研究会, 東京, 平成 23 年 9 月 11 日.
33. 金城真実, 嘉村康邦¹, 関口由紀², 東原英二 (¹ 四谷メディカルキューブ, ² 横浜元町女性医療クリニック LUNA): 女性過活動膀胱患者における性機能の評価と抗ムスカリン薬治療による変化. 第 18 回日本排尿機能学会, 福井, 平成 23 年 9 月 17 日.
34. Fujita N, Okegawa T, Nutahara K, Higashihara E: Immunomagnetic Quantification of Circulating Tumor Cells as a Prognostic Factor of Androgen Deprivation Responsiveness in Patients With Hormone Naive Metastatic Prostate Cancer. 8th International Symposium on Minimal Residual Cancer, Osaka, Sep. 21, 2011.
35. 林建二郎, 中村雄, 菅田明子, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: HoLEP における術者 3 人の初期治療 30 例の検討. 第 110 回多摩泌尿器科医会, 立川, 平成 23 年 9 月 30 日.
36. 金城真実, 嘉村康邦¹, 関口由紀², 東原英二 (¹ 四谷メディカルキューブ, ² 横浜元町女性医療クリニック LUNA): 女性過活動膀胱患者における性機能の評価と抗ムスカリン薬治療による変化. 第 22 回日本性機能学会学術総会, 倉敷, 平成 23 年 9 月 30 日.
37. 奴田原紀久雄 (卒後教育プログラム): 尿路結石症診療ガイドラインについて 診断・治療. 第 76 回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 平成 23 年 10 月 20 日.
38. 宍戸俊英, 中村雄, 菅田明子, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: シクロスポリン A にて症状が軽快した間質性膀胱炎の 4 例. 第 76 回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 平成 23 年 10 月 22 日.
39. 中村雄, 菅田明子, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院における Holmium laser enucleation of the prostate (HoLEP) の治療成績. 第 76 回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 平成 23 年 10 月 22 日.
40. 藤田直之, 菅田明子, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 腎細胞癌における血清 VEGF 値の臨床的意義. 第 76 回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 平成 23 年 10 月 22 日.
41. 桶川隆嗣, 藤田直之, 多武保光宏, 宍戸俊英, 奴田原紀久雄, 東原英二: 去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセル療法での血中循環癌細胞検査の意義. 第 49 回日本癌治療学会, 名古屋, 平成 23 年 10 月 27 日.
42. 菅田明子: 酸性尿酸アンモニウム結石の 1 例. 第 111 回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 平成 23 年 11 月 4 日.
43. 奴田原紀久雄 (基調講演): 尿路結石の内視鏡的治療. 第 18 回 Clinical Urology 研究会, 神戸, 平成 23 年 11 月 5 日.
44. 桶川隆嗣: 転移性腎細胞がんに対する薬物治療と今後の展望 - 当院の使用経験をふまえて -. The 3rd RCC Seminar in SENDAI, 仙台, 平成 23 年 11 月 18 日.
45. 加藤司顕: 高齢者の尿失禁, 排出障害および前立腺肥大症; 薬物による管理. 練馬区五人会, 東京, 平成 23 年 11 月 22 日.
46. 加藤司顕: 新宿区市民公開講座「答えます。誰にも聞けないおしっこ悩み」骨盤底筋体操. 新宿区医師会泌尿器科医会, 東京, 平成 23 年 11 月 26 日.
47. Shishido T, Nakamura Y, Sugata A, Enomoto K, Fujita N, Yamaguchi T, Itaya N, Hayashi K, Hara H, Tambo M, Okegawa T, Nutahara K, Higashihara E: Management of benign prostatic hyperplasia (BPH) with holmium laser enucleation of the prostate (HoLEP) and transurethral enucleation with bipolar (TUEB). 8th Annual Meeting of the East Asian Society of Endourology, Kyoto, Nov. 29, 2011.
48. 原秀彦, 菅田明子, 中村雄, 板谷直, 林建二郎, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 腹腔鏡下副腎摘除術の臨床的検討. 第 25 回日本泌尿器内視鏡学会, 京都, 平成 23 年 11 月 29 日.
49. 奴田原紀久雄, 菅田明子, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二: 軟性尿管鏡による腎結石および上部尿管結石の治療成績. 第 25 回日本泌尿器内視鏡学会, 京都, 平成 23 年 11 月 30 日.
50. 桶川隆嗣, 板谷直, 原秀彦, 宍戸俊英, 奴田原紀久雄, 東原英二: 後腹膜アプローチによる単孔式腹腔鏡手術の経験. 第 25 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 京都, 平成 23 年 11 月 30 日.
51. 宍戸俊英, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: ホルミウムレーザー前立腺核出術 (HoLEP) および経尿道的バイポーラ前立腺核出術 (TUEB) の治療成績. 第 25 回日本泌尿器内視鏡学会, 京都, 平成 23 年 11 月 30 日.
52. 多武保光宏, 菅田明子, 中村雄, 山口剛, 板谷直,

- 林建二郎, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 結石性腎盂腎炎の臨床的検討. 第25回日本泌尿器内視鏡学会, 京都, 平成23年11月30日.
53. 板谷直, 菅田明子, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二, 太田智則¹ (¹ 亀田総合病院): 体外衝撃波碎石術後の α 1遮断薬による排石効果の比較検討. 第25回日本泌尿器内視鏡学会, 京都, 平成23年11月30日.
 54. Okegawa T, Itaya N, Hara H, Shishido T, Nutahara K, Higashihara E: Initial operative experience of single-port retroperitoneal laparoendoscopic urological surgery. 29th World Congress of Endourology and SWL, Kyoto, Nov. 30, 2011.
 55. Hara H, Sugata A, Nakamura Y, Itaya N, Hayashi K, Tambo M, Shishido T, Okegawa T, Nutahara K, Higashihara E: Clinical outcome of laparoscopic adrenalectomy. 29th World Congress of Endourology and SWL, Kyoto, Nov. 30-Dec. 1, 2011.
 56. Shishido T: HoLEP: Instrument Use and Prevention/Management of Perioperative Complications. 29th World Congress of Endourology and SWL. HoLE ;Hands on Training, Kyoto, Dec. 1, 2011.
 57. Shishido T, Nakamura Y, Yamaguchi T, Itaya N, Hayashi K, Hara H, Tambo M, Okegawa T, Nutahara K, Higashihara E: Management of benign prostatic hyperplasia (BPH) with holmium laser enucleation of the prostate (HoLEP) and transurethral enucleation with bipolar (TUEB). 29th World Congress of Endourology and SWL, Kyoto, Dec. 2, 2011.
 58. Tambo M, Sugata A, Nakamura Y, Yamaguchi T, Itaya N, Hayashi K, Shishido T, Okegawa T, Nutahara K, Higashihara E: Clinical evaluation of the calculous pyelonephritis. 29th World Congress of Endourology and SWL, Kyoto, Dec. 2, 2011.
 59. Itaya N, Sugata A, Hayashi K, Hara H, Tambo M, Shishido T, Okegawa T, Nutahara K, Higashihara E, Ohta T: Efficacy of an α 1-blocker in expulsive therapy of ureteral stone after shock wave lithotripsy. 29th World Congress of Endourology and SWL, Kyoto, Dec. 2-3, 2011.
 60. Nutahara K, Sugata A, Yamaguchi T, Itaya N, Hayashi K, Hara H, Tambo M, Shishido T, Okegawa T, Higashihara E: Flexible ureteroscopic treatment for renal and upper ureteral stones. 29th World Congress of Endourology and SWL, Kyoto, Dec. 2-3, 2011.
 61. 山口剛, 菅田明子, 中村雄, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二, 管間博¹ (¹ 杏林大・病理): 左後腹膜腔腫瘍を契機に発見された gossypiboma の1例. 第607回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成23年12月8日.
 62. 奴田原紀久雄: 軟性腎盂尿管鏡を用いた手術 - f-TUL を中心に -. 20th Takeda Expert TV Conference in Urology, 東京, 平成23年12月14日.
 63. 奴田原紀久雄 (特別講演): 上部尿路結石の内視鏡的治療. 第112回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 平成24年1月27日.
 64. 奴田原紀久雄 (特別講演): 小児期に見られる泌尿器科疾患-おねしょだけではない少し怖い話. 羽島市学校保険研究会, 鳥羽, 平成24年2月16日.
 65. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌における末梢循環癌細胞の遺伝子型とその臨床意義. 前立腺癌会議, 東京, 平成24年2月16日.
 66. 菅田明子, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二, 管間博¹ (¹ 杏林大・病理): 成人に発症した Mesoblastic Nephroma の1例. 第608回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成24年2月16日.
 67. 多武保光宏 (シンポジウム): 泌尿器科における画像診断-尿路結石におけるCT診断. 第31回日本画像医学会, 東京, 平成24年2月18日.
 68. 桶川隆嗣: CRPCにおけるドセタキセル治療のレビュー. 多摩前立腺癌勉強会, 東京, 平成24年2月28日.
 69. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌における末梢循環癌細胞の遺伝子型とその臨床意義. 第12回 AKUA 学術集会, 大阪, 平成24年3月2日.
 70. 金城真実, 嘉村康邦¹, 東原英二 (¹ 四谷メディカルキューブ): TVM手術前後における, 下部尿路症状, 精神症状の変化. 第6回 TVM 研究会, 金沢, 平成24年3月10日.
 71. 東原英二 (特別講演): 多発性嚢胞腎. 第11回 KANSAI-KAGAWA Urological Conference (KKUC), 高松, 平成24年3月31日
- 論 文
1. Higashihara E, Torres VE¹, Chapman AB², Grantham JJ³, Bae K⁴, Watnick TJ⁵, Horie S⁶, Nutahara K, Ouyang J⁷, Krasa HB⁷, Czerwiec FS⁷, for the TEMPO₄² and 156-05-002 Study Investigators (¹Mayo Clinic College of Medicine, ²Emory University School of Medicine, ³Kansas University Medical Center, ⁴University of Pittsburgh School of Medicine, ⁵Johns Hopkins University, ⁶Teikyo University School of Medicine, ⁷Otsuka Pharmaceutical Development and Commercialization): Tolvaptan in Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease: Three Years' Experience. Clin J Am Soc Nephrol 6:

- 2499-2507, 2011.
2. Kurayama R¹, Ito N¹, Nishibori Y¹, Fukuhara D¹, Akimoto Y², Higashihara E, Ishigaki Y³, Sai Y⁴, Miyamoto K⁴, Endou H⁵, Kanai Y⁶, Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ³Medical Research Institute, Kanazawa Medical, ⁴Department of Hospital Pharmacy, Kanazawa University, ⁵Department of Toxicology and Pharmacology, Kyorin University School of Medicine, ⁶Department of Pharmacology, Osaka University Graduate School of Medicine): Role of Amino Acid Transporter LAT2 in the Activation of mTORC1 Pathway and the Pathogenesis of Crescentic Glomerulonephritis. *Lab Invest* 91(7): 992- 1006, 2011.
 3. Torres VE¹, Meijer E², Bae KT³, Chapman AB⁴, Devuyst O⁵, Gansevoort RT², Grantham JJ⁶, Higashihara E, Perrone RD⁷, Krasa HB⁸, Ouyang JJ⁸, Czerwiec FS⁸ (¹Division of Nephrology and Hypertension, Department of Internal Medicine, Mayo Clinic, ²Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, University Medical Center Groningen, ³Department of Radiology, University of Pittsburgh, ⁴Emory University School of Medicine, ⁵Division of Nephrology, Cliniques Universitaires St. Luc, Université catholique de Louvain Medical School, ⁶Division of Nephrology, University of Kansas Medical Center, ⁷Department of Medicine, Division of Nephrology, Tufts Medical Center, Tufts University School of Medicine, ⁸Otsuka Pharmaceutical Development & Commercialization) : Rational and design of the TEMPO (Tolvaptan efficacy and safety in management of autosomal dominant polycystic kidney disease and its outcomes) 3- 4 study. *Am J Kidney Dis.* 57(5): 692- 699, 2011.
 4. Suzuki M¹, Liu M¹, Kurosaki T², Suzuki M³, Arai T⁴, Sawabe M⁴, Kasuya Y⁵, Kato M, Fujimura T¹, Fukuhara H¹, Enomoto Y¹, Nishimatsu H¹, Ishikawa A¹, Kume H¹, Homma Y¹, Kitamura T⁶ (¹Department of Urology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ²Department of Urology, Social Insurance Saitama Hospital, ³Sakuragicho Ocean Clinic, ⁴Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, ⁵Department of Urology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, ⁶Department of Urology, Asoka Hospital) : Association of rs6983561 polymorphism at 8q24 with prostate cancer mortality in a Japanese population. *Clin Genitourin Cancer* 9(1): 46-52, 2011.
 5. 東原英二, 望月俊雄 : 【多発性嚢胞腎 発生機序と治療】ADPKD と acute kidney injury 研究の接点. *腎と透析* 70 (2) : 233-236, 2011.
 6. 東原英二 : 【多発性嚢胞腎 発生機序と治療】常染色体優性多発性嚢胞腎薬剤の臨床開発. *腎と透析* 70(2): 248-254, 2011.
 7. 奴田原紀久雄, 佐々木直美 : 泌尿器科手術の術前・術後ケア 結石の手術 体外衝撃波碎石術 (ESWL). *泌ケア* 2011 夏季増刊 : 242-249, 2011.
 8. 奴田原紀久雄, 平山千登勢 : 泌尿器科手術の術前・術後ケア 結石の手術 経尿道的尿管碎石術 (TUL). *泌ケア* 2011 夏季増刊 : 250-263, 2011.
 9. 奴田原紀久雄, 庭山由香 : 泌尿器科手術の術前・術後ケア 結石の手術 経皮的腎碎石術 (PNL). *泌ケア* 2011 夏季増刊 : 264-277, 2011.
 10. 奴田原紀久雄 : 【多発性嚢胞腎における最近の研究と治療の進歩】多発性嚢胞腎の病態と治療 最近の治験動向を含めて. *Nephrol Fronti* 10: 132-135, 2011.
 11. 桶川隆嗣, 檜垣昌夫¹, 松本哲夫², 加瀬浩史³, 村田明弘, 野田賢治郎⁴, 野田治久, 朝岡博⁵, 押正也⁶, 友石純三⁷, 内田博仁⁸, 東原英二 (¹国立病院機構災害医療センター・泌尿器, ²東京医大八王子・泌尿器, ³佐々総合病院・泌尿器, ⁴西東京中央総合病院・泌尿器, ⁵公立阿伎留医療センター・泌尿器, ⁶多摩総合医療センター・泌尿器, ⁷青梅市立病院・泌尿器, ⁸一橋病院・泌尿器) : 前立腺癌骨転移に対するゾレドロン酸の使用成績. 多摩前立腺癌骨転移研究会. *泌外* 24 (8) : 1315-1318, 2011.
 12. 宍戸俊英 : 専門医+エキスパートに聞くよりよい服薬指導のための基礎知識 15 前立腺肥大症. *Credentials* 32: 18-22, 2011.
 13. 金城真実 : 【内科 疾患インストラクションガイド 何をどう説明するか】腎・尿路疾患 前立腺肥大症. *Medicina* 48 (11) : 354-358, 2011.
- 2010年追加 (論文)
1. 宍戸俊英, 東原英二 : 前立腺肥大症の薬物療法 - 外来における診断と内服治療のポイント -. *Clinic magazine* 497: 38-42, 2010.
- 著書**
1. 金城真実 : II 排尿の異常. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 39-45.
 2. 榎本香織 : III 血尿 IV 疼痛. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 45-50.
 3. 原秀彦 : I 腎・泌尿器疾患の診断法. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド

- 社, 2012. p. 52-57.
4. 村田明弘: II 腎・泌尿器疾患の主な検査 C 画像検査. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 68-74.
 5. 三浦一郎: II 腎・泌尿器疾患の主な検査 D その他の尿路系・男性生殖器の検査. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 75-82.
 6. 太田雅也: II 腎・泌尿器疾患の主な検査 D その他の尿路系・男性生殖器の検査 3 生殖機能検査, 性機能検査. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 82-86.
 7. 加藤司顕: III 腎・泌尿器疾患の主な治療法 B 手術療法. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 91-98.
 8. 桶川隆嗣: III 腎・泌尿器疾患の主な治療法 C 放射線治療. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 98.
 9. 加藤司顕: III 腎・泌尿器疾患の主な治療法 D その他の治療法. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 98-99.
 10. 奴田原紀久雄: X 尿路結石症. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 155-162.
 11. 多武保光宏: XII 尿路閉塞, 排尿機能の障害 A 水腎症 B 膀胱尿管逆流症 C 神経因性膀胱. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 162-167.
 12. 穴戸俊英: XI 尿路閉塞, 排尿機能の障害 D 前立腺肥大症 (Benign prostatic hyperplasia: BPH). 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 167-172.
 13. 多武保光宏: XI 尿路閉塞, 排尿機能の障害 E その他の尿路閉塞, 排尿機能の障害. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 172-175.
 14. 三浦一郎: XII 腎・泌尿器の腫瘍 A 腎実質腫瘍. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 176-179.
 15. 多武保光宏: XII 腎・泌尿器の腫瘍 B 腎盂・尿管腫瘍 C 膀胱腫瘍 D 尿道腫瘍 E 陰茎の腫瘍. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 179-184.
 16. 桶川隆嗣: XII 腎・泌尿器の腫瘍 F 前立腺癌. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 184-187.
 17. 東原英二: XIII 嚢胞性腎疾患. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 188-190.
 18. 林建二郎: XIV 泌尿器の損傷・異物. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 191-195.
 19. 原秀彦: XV 泌尿器の先天異常. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 195-199.
 20. 太田雅也: XVI 男性の性・生殖器に関する疾患 1 男性不妊症 2 男性性機能障害. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 200-203.
 21. 多武保光宏: XVI 男性の性・生殖器に関する疾患 3 加齢性男性性腺機能低下症候群. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 203.
 22. 三浦一郎: XVI 男性の性・生殖器に関する疾患 4 精巣水腫 5 精索静脈瘤 6 精巣捻転症 7 血精液症. 新体系 看護学全書 成人看護7 腎・泌尿器. 山田明, 東原英二, 斉藤しのぶ編, 東京, メジカルフレンド社, 2012. p. 203-206.
 23. 金城真実: 頻尿患者の適切な飲水良量は? ケアの根拠 第2版. 道又元裕監修, 東京, 日本看護協会出版社, 2012. p. 85.
- その他**
1. 穴戸俊英 (教育用 DVD): Endourology の進歩 シリーズ8 経尿道的バイポーラ電極前立腺核出術 (TUEB). 東原英二, 松田公志, 大園誠一郎監修, 大日本住友製薬発行, インターメディカ制作.

眼科学教室

口 演

1. Hirakata A: Utility of optical coherence tomography and fundus autofluorescence findings in the management of optic disc pit maculopathy. 14th National Academic Congress of Chinese Ocular Fundus Diseases, Fuzhou China, Apr. 14, 2011.
2. 永本敏之: 小児の白内障手術 (特別講演). 第8回愛宕眼科手術フォーラム, 東京, 平成23年4月15日.

3. 永本敏之: 調節性 IOL の展望 (特別講演). 第 5 回九州眼科アカデミー, 福岡, 平成 23 年 4 月 23 日.
4. Davis EJ, Hills WL, Winthrop KL, Smith JR & Tuberculous Optic Neuropathy Study Group (includes Okada AA). Tuberculosis optic neuropathy: clinical presentations and visual outcomes. ARVO2011, Ft. Lauderdale, May 1-4, 2011.
5. Nakayama M, Keino H, Watanabe T, Inoue M, Hirakata A & Okada AA: Enhanced depth imaging optical coherence tomography of the choroid in new-onset acute Vogt-Koyanagi-Harada disease. ARVO2011, Ft. Lauderdale, May 1-4, 2011.
6. Joshita T, Tanaka N, Watanabe T, Inoue M, Nagamoto T: Clinical course of phacomorphic glaucoma. ARVO 2011, poster presentation, Fort Lauderdale, Florida, May 5, 2011.
7. Rii T, Itoh Y, Inoue M, Hirakata A: Distinction of cone outer segment tips and foveal disruption artifacts in spectral-domain optical coherence tomography images of normal eyes. The Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO) Annual Meeting. Fort Lauderdale, May 1-5, 2011.
8. Abulon DJK, Inoue M, Buboltz DC: Comparison of Blade and Incision Architecture between New 25- and 23-ga Microvitrectomy (MVR) Blades and Current Sclerotomy Entry Systems. ARVO Annual Meeting, Florida, May 1-5, 2011.
9. Yamazoe K, Hotta K, Shimazaki J: Outcome of cataract surgery in cases with low endothelial cell density. The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2010 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida, May 1-5, 2011.
10. 平形明人: 網膜硝子体界面病変. 第 115 回日本眼科学会総会, 東京, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
11. 国田大輔, 伊東裕二, 廣田和成, 村井秀樹, 平岡智之, 井上真, 平形明人: 黄斑剥離を伴った裂孔原性網膜剥離の術後網膜外層 OCT 所見と視力の検討. 第 115 回日本眼科学会総会, 東京, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
12. 今野公士, 平形明人, 寺戸雄一¹ (杏林大・病理): IgG4 陽性を呈した涙腺炎の臨床学的及び組織学的検討. 第 115 回日本眼科学会総会, 東京, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
13. 利井東昇, 井上真, 平形明人: スペクトラルドメイン光干渉断層計 (SD-OCT) による錐体外節先端 (COST) ラインの検討. 第 115 回日本眼科学会総会, 東京, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
14. 利井東昇, 井上真, 平形明人: 小児発症の乳頭小窩黄斑症候群の特徴. 第 115 回日本眼科学会総会, 東京, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
15. 中島史絵, 慶野博, 渡邊交世, 瀧和歌子, 岡田アナベルあやめ: 「Bevacizumab 硝子体注射により新生血管の退縮がみられた転移性虹彩腫瘍の 1 例». 第 115 回日本眼科学会総会, 東京, 2011 年 5 月 12-15 日.
16. Hiroshi K: Effect of infliximab on inflammation-related gene expression in Behcet's disease. 第 115 回日本眼科学会総会, 東京, 2011 年 5 月 12-15 日.
17. 山本亜希子: 加齢黄斑変性に対するルセンティス単独療法の成績と今後の展望. 第 115 回日本眼科学会総会ランチョンセミナー 10. 東京, 平成 23 年 5 月 12-15 日.
18. 吉野啓: 緑内障手術と薬剤. 大塚製薬社外講師講演会, 品川, 平成 23 年 5 月 16 日.
19. Inoue M: Vitreous Surgery for eyes implanted with a multifocal intraocular lens. 28th PPSA-JC, japan chapter, Bangkok, Mar. 18-19, 2012.
20. 岡田アナベルあやめ: 「英文論文の書き方: 10 Important Dos and Don'ts」, 教育セミナー. 第 115 回日本眼科学会総会, 東京, 2011 年 5 月 19 日.
21. 岡田アナベルあやめ: 「ぶどう膜炎の嚢胞様黄斑浮腫」, モーニングセミナー. 第 115 回日本眼科学会総会, 東京, 2011 年 5 月 23 日.
22. 平形明人: 乳頭形態異常に伴う網膜分離症. 第 15 回兵庫県網膜硝子体研究会, 神戸, 平成 23 年 6 月 4 日.
23. 永本敏之: アトピー性白内障 (シンポジウム「全身疾患と白内障手術」). 第 50 回日本白内障学会総会・第 26 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 福岡, 平成 23 年 6 月 17-19 日.
24. 永本敏之: 後発白内障 (シンポジウム「長期的な眼内レンズの変化と後発白内障」). 第 50 回日本白内障学会総会・第 26 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 福岡, 平成 23 年 6 月 17-19 日.
25. 永本敏之: 白内障術前のあれこれ (ランチョンセミナー). 第 50 回日本白内障学会総会・第 26 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 福岡, 平成 23 年 6 月 17-19 日.
26. 山添克弥, 堀田一樹, 島崎潤: 滴状角膜を伴う角膜内皮減少例に対する白内障手術. 第 50 回日本白内障学会総会, 第 26 回日本白内障屈折矯正手術学会総会, 福岡, 平成 23 年 6 月 17-19 日.
27. 平形明人: 20G の手術手技. 第 10 回硝子体手術ビデオセミナー, 東京, 平成 23 年 6 月 25 日.
28. 井上真: 25G の手術手技. 第 10 回硝子体ビデオセミナー, 東京, 平成 23 年 6 月 25 日.
29. 井上真: 「コンステレーション使ってみました」第 9 回信濃町研究会, 東京, 平成 23 年 7 月 1 日.
30. 鈴木由美, 富田香, 浜由起子, 平形明人: Sotos 症候群の屈折異常と斜視. 第 67 回日本弱視斜視学会, 京都, 平成 23 年 7 月 2 日.
31. 永本敏之: ここまできた小児の白内障手術 (特別講演). 第 24 回埼玉県眼科手術談話会, 埼玉,

- 平成 23 年 7 月 3 日 .
32. 中山真紀子, 慶野博, 渡邊交世, 瀧和歌子, 岡田アナベルあやめ: 「原田病における脈絡膜厚の長期経過」. 第 45 回日本眼炎症学会, 京都, 平成 23 年 7 月 8-10 日 .
 33. 瀧和歌子, 慶野博, 渡邊交世, 伊東真知子, 岡田アナベルあやめ: 「EDI-OCT を用いた片眼性後部強膜炎の脈絡膜厚の評価」. 第 45 回日本眼炎症学会, 京都, 平成 23 年 7 月 8-10 日 .
 34. Okada AA, Trusko BE, Mochizuki M, Ohno S, Jabs DA: Development of Structured Clinical Terminology for Uveitis. 第 45 回日本眼炎症学会, 京都, 2011 年 7 月 8-10 日 .
 35. 岡田アナベルあやめ: 「若年性特発性関節炎に学ぶ: イントロー」, 会長企画セミナー 2. 第 45 回日本眼炎症学会, 京都, 2011 年 7 月 9 日 .
 36. 井上真: 症例報告. 第 2 回網膜硝子体手術勉強会, 東京, 平成 23 年 7 月 14 日 .
 37. 永本敏之: ここまで来た日本の先天白内障手術 (特別講演). 函館サーフ&ターフシンポジウム, 函館, 平成 23 年 7 月 16 日 .
 38. 平形明人: 糖尿病網膜症治療の進歩. 第 400 回国際治療談話会例会, 東京, 平成 23 年 7 月 21 日 .
 39. 永本敏之: 水晶体疾患. 平成 23 年度卒後研修会, 東京, 平成 23 年 7 月 23 日 .
 40. 渡辺敏樹, 気賀沢一輝, 藤森一輝, 渡辺望, 平形明人: 視神経乳頭ドローゼンの OCT 所見. 第 27 回真鶴セミナー, 箱根, 平成 23 年 7 月 23 日 .
 41. 永本敏之: 日本の先天白内障手術の現状 (特別講演). Advanced wet laboratory for cataract operation seminar, 札幌, 平成 23 年 8 月 6 日 .
 42. 五月女典久; 緑内障の診断 ファイザー製薬社内勉強会, 府中, 平成 23 年 8 月 18 日 .
 43. 岡田アナベルあやめ, 中山真紀子, 慶野博, 渡邊交世, 渡邊望, 井上真, 平形明人: 「眼炎症疾患における EDI-OCT」. 第 13 回 Japan Macula Club, 蒲郡, 平成 23 年 8 月 20-21 日 .
 44. Inoue M, Shinoda K, Noda T, Ohnuma K, Hirakata A: Reproducing image of subjective visual sensations experienced during vitreous surgery. The 29th Annual meeting of American Society of Retina Specialists, Boston, Aug. 20-24, 2011.
 45. Inoue M, Abulon DJK, Buboltz DC, Hirakata A: Comparison of blade and incision architecture between new 25-and 23-ga microvitreoretinal blades and current sclerotomy entry systems. The 29th Annual meeting of American Society of Retina Specialists, Boston, Aug. 20-24, 2011.
 46. 平形明人: 乳頭形態異常に伴う黄斑剥離に対する治療法の選択. 第 14 回東北黄斑研究会学術講演会, 青森, 平成 23 年 8 月 27 日 .
 47. 岡田アナベルあやめ: 「眼炎症疾患: 最近のトピックより」. 第 102 回日大眼科症例検討会, 東京, 平成 23 年 9 月 1 日 .
 48. 井上真: 付加価値眼内レンズの眼底視認性への影響. 第 47 回日本眼光学学会総会, 東京, 平成 23 年 9 月 3 日 .
 49. 吉野啓: 緑内障治療あれこれ. 神奈川県保険医協会眼科研究会, 横浜, 平成 23 年 9 月 6 日 .
 50. 今野公士: 涙腺腫脹を呈する症例における血清 IgG4 高値群と正常群の臨床的比較検討. 第 20 回シェーグレン症候群学会, 金沢, 平成 23 年 9 月 10 日 .
 51. 平形明人: Clinical value of vitrectomy specimens. Advanced Vitreous Surgery Course in Tokyo, 東京, 平成 23 年 9 月 10-11 日 .
 52. 井上真: 硝子体手術 Update. 第 5 回濠標眼科 Catch Up セミナー, 大阪, 平成 23 年 9 月 16 日 .
 53. 平形明人: 乳頭ピット黄斑症候群: 眼内液と脳脊髄液の交流の可能性について. 第 22 回日本緑内障学会, 秋田, 平成 23 年 9 月 23-25 日 .
 54. 堀江大介, 吉野啓, 稲見達也, 五月女典久: プロスタグランジン製剤と β -ブロッカー併用者のザラカム切り替えによる短期的効果. 第 22 回日本緑内障学会, 秋田, 平成 23 年 9 月 23-25 日 .
 55. 井上真: 硝子体手術 Update. 第 41 回筑波 TOC・第 6 回茨城県眼科フォーラム, 筑波, 平成 23 年 9 月 24 日 .
 56. 平形明人: 糖尿病網膜症治療の現状. 日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 東京, 平成 23 年 9 月 24-25 日 .
 57. 今野公士: 身近な眼瞼, 涙道疾患および眼窩疾患, 西多摩眼科学術講演, 立川, 平成 23 年 9 月 27 日 .
 58. 名畑浩昌, 鈴木由美, 富田香, 尾崎峰, 成田圭吾, 藤森重人, 永本敏之: 外傷性眼瞼下垂による形態覚遮断弱視と内斜視を呈した幼児例. 第 54 回東京多摩地区眼科集談会, 東京, 平成 23 年 10 月 1 日 .
 59. 永本敏之: 多焦点眼内レンズレストアの使用経験と展望. 白内障講演会, 東京, 平成 23 年 10 月 5 日 .
 60. 井上真: 強度近視に伴う牽引性黄斑症に対する硝子体手術成績. 黄斑疾患研究会. 第 65 回日本臨床眼科学会, 東京, 平成 23 年 10 月 7 日 .
 61. 平形明人: 黄斑剥離を呈する疾患の眼底自発蛍光 (FAF) によるモニタリング. 第 65 回日本臨床眼科学会, 東京, 平成 23 年 10 月 7-10 日 .
 62. 横田怜二, 井上真, 柴田朋宏, 國田大輔, 伊東裕二, 村井秀樹, 廣田和成, 平岡智之, 平形明人: 増殖糖尿病網膜症に対する 20G, 23G, 25G 硝子体手術成績. 第 65 回日本臨床眼科学会, 東京, 平成 23 年 10 月 7-10 日 .
 63. 伊東裕二, 井上真, 國田大輔, 廣田和成, 平岡智之, 平形明人: 外傷性黄斑円孔術後の視機能と網膜外層の修復との関係. 第 65 回日本臨床眼科学会, 東京, 平成 23 年 10 月 7-10 日 .
 64. 柴田朋宏, 井上真, 廣田和成, 平岡智之, 平形明

- 人：眼内レンズ縫着術後に生じた後眼部合併症の検討。第65回日本臨床眼科学会，東京，平成23年10月7-10日。
65. 廣田和成, 井上真, 平形明人：強度近視牽引性網膜分離症の自然寛解の可能性。第65回日本臨床眼科学会，東京，平成23年10月7-10日。
 66. 中山真紀子, 平形明人, 慶野博, 柴田朋宏, 寺戸雄一¹, 藤野節¹, 岡田アナベルあやめ（¹杏林大・病理学）：結節性硬化症に合併した網膜腫瘍に網膜生検を施行した1例。第65回日本臨床眼科学会，東京，平成23年10月7-10日。
 67. 永本敏之, 東範行, 不二門尚, 石橋達朗, 佐藤美保, 近藤峰生, 大鹿哲郎黒, 坂次次郎：全国調査結果による先天白内障に対するIOL挿入例と非挿入例の比較（一般講演）。第65回日本臨床眼科学会，東京，平成23年10月7-10日。
 68. 永本敏之：Congenital aniridiaの白内障手術（インストラクションコース「難症例の白内障手術」）。第65回日本臨床眼科学会，東京，平成23年10月7-10日。
 69. 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ, 横田怜二, 柴田朋宏, 國田大輔, 利井東昇, 杉谷篤彦：「滲出型加齢黄斑変性に対し初回治療にpegaptanib硝子体内投与を選択した症例の治療成績」。第65回日本臨床眼科学会，東京，2011年10月7-10日。
 70. 渡辺交世, 慶野博, 瀧和歌子, 越前成旭, 岡田アナベルあやめ：「眼炎症疾患に伴う黄斑浮腫に対する炭酸脱水素酵素阻害剤内服投与の有効性の再考」。第65回日本臨床眼科学会，東京，2011年10月7-10日。
 71. 慶野博, 渡辺交世, 中山真紀子, 瀧和歌子, 岡田アナベルあやめ：「EDI-OCTを用いた原田病回復期の脈絡膜厚の評価」。第65回日本臨床眼科学会，東京，2011年10月7-10日。
 72. 平塚義宗, Eye Care Comparative Effectiveness Research Team (ECCERT)：「日本における白内障手術の費用対効果」。第65回日本臨床眼科学会，東京，2011年10月7-10日。
 73. 吉野啓：シンポジウム15・緑内障を併発したらどうするか？—疾患別アプローチ 血管新生緑内障の治療。第65回日本臨床眼科学会，東京，平成23年10月7-10日。
 74. 山添克弥, 江本宜暢, 横山恭典, 堀田順子, 堀田一樹：特発性黄斑円孔に対する空気タンポナーデを用いた硝子体手術の治療成績。第65回日本臨床眼科学会，東京，平成23年10月7-10日。
 75. 山本亜希子：ラニビズマブ単独療法 杏林アイセンターの成績と治療方針。第65回日本臨床眼科学会ランチョンセミナー31。東京，平成23年10月7-10日。
 76. 永本敏之：前眼部手術と生体染色（テーマ2「生体染色の基礎と臨床」）。日本眼科学会専門医制度第55回講習会，東京，平成23年10月9日。
 77. 岡田アナベルあやめ：「ぶどう膜炎の嚢胞様黄斑浮腫」，ランチョンセミナー。第65回日本臨床眼科学会，東京，2011年10月9日。
 78. 井上真：薬物療法を併用した網膜外科手術 シンポジウム【薬物治療時代の網膜外科手術】。第65回日本臨床眼科学会，東京，平成23年10月9日。
 79. 井上真：「気づいたらIOLの後ろは？」レチナナイトメア合併症の悪夢。第65回日本臨床眼科学会総会イブニングセミナー。第65回日本臨床眼科学会，東京，平成23年10月9日。
 80. 井上真：糖尿病網膜症の診療ガイド「硝子体手術」。第55回眼科専門医制度講習会。プライマリケアシリーズ。第65回日本臨床眼科学会，東京，平成23年10月9日。
 81. 井上真：「小切開硝子体手術」わかもと製薬株式会社社内セミナー，東京，平成23年10月13日。
 82. 井上真：術後視機能の更なる向上へ～白内障+硝子体同時手術～第114回佐賀大学眼科臨床懇話会，佐賀，平成23年10月15日。
 83. 今野公士, 忍足和浩, 平形明人, 寺戸雄一¹, 沖坂重邦²（¹杏林大・病理，²眼病理教育研究所）：アポクリン腺癌を疑われた眼窩内腫瘍の1例。第65回日本臨床眼科学会，東京，平成23年10月17日。
 84. Rii T, Itoh Y, Inoue M, Hirakata A: Recovery of cone outer segment tips line after epiretinal membrane surgery. American Academy of Ophthalmology 2011 Annual Meeting, Orland, Oct. 22-25, 2011.
 85. Itoh Y, Inoue M, Rii T, Hiraoka T, Hirakata A: Significant correlation between the repair of cone outer segment and visual recovery after macular hole surgery. American Academy of Ophthalmology 2011 Annual Meeting, Orland, Oct. 22-25, 2011.
 86. 井上真：「高血圧と糖尿病に関する眼疾患」。第2回千葉市糖尿病内科眼科の会，千葉，10月27日。
 87. 今野公士：身近な眼瞼，涙道疾患および眼窩疾患。第3回城北地区 Ophthalmic Express, 東京，平成23年10月27日。
 88. 井上真：硝子体出血を伴った網膜血管腫の1例。東京黄斑疾患研究会，東京，平成23年10月29日。
 89. 今野公士：身近な眼瞼，涙道疾患および眼窩疾患。三鷹医師会学術講演，三鷹，平成23年11月2日。
 90. 平形明人：手術とERG。第7回樋田メモリアル網膜ラウンジ，東京，平成23年11月5日。
 91. 井上真：MIVSはどこまで進化するか？第3回神奈川県眼科若手医師の会，横浜，平成23年11月5日。
 92. 平形明人：乳頭形態異常に伴う黄斑剥離。第5回滯標病診交流講演会，大阪，平成23年11月10日。
 93. 山本亜希子：加齢黄斑変性の治療手順とその成績。第59回日本職業・災害医学会学術大会ラン

- チョンセミナー。東京，平成23年11月11-12日。
94. 井上真：「新しい硝子体手術機器 コンステレーションの使用経験」第12回眼科臨床機器研究会，横浜，平成23年11月12日。
 95. 山本亜希子：加齢黄斑変性の治療。第22回眼科医療従事者講習会。東京，平成23年11月12日。
 96. 永本敏之：白内障術前術後のあれこれ。J&Jビジョンケアセミナー2011，東京，平成23年11月12-13日。
 97. 渡辺敏樹，気賀沢一輝，藤森一輝，渡辺望，平形明人：視野障害を合併した視神経乳頭ドルーゼンの光干渉断層計および眼底自発蛍光所見の有用性。第49回日本神経眼科学会，神戸，平成23年11月25日。
 98. 井上真：「COSTラインと網膜疾患」第5回眼科画像診断研究会・学術特別講演会，青森，平成23年11月26日。
 99. 永本敏之：小児・若年者の白内障手術（特別講演）。第31回比較眼科学会，東京，平成23年11月26-27日。
 100. 井上真：「MIVSでシリコンオイルどう使っていますか？」。MIVSワークショップ-シーズン2，東京，平成23年12月2日。
 101. 山本亜希子：AMDに対するルセンチイス単独療法の戦略。第1回黄斑個別化医療研究会。東京，平成23年12月2日。
 102. 伊東裕二，井上真，利井東昇，平岡智之，平形明人：黄斑円孔術後の錐体細胞外節端の欠損幅と視力との関係について。第50回網膜硝子体学会，東京，平成23年12月2-4日。
 103. 大槻勝紀¹，鈴木直洋¹，藤井澄¹，宇田重員¹，平形明人（¹二本松眼科病院）：非接触型広角観察装置に接触型拡大30度プリズムレンズを併用した硝子体手術。第50回網膜硝子体学会，東京，平成23年12月2-4日。
 104. 廣田和成，伊東裕二，井上真，平形明人：乳頭上シャント血管を伴う網膜中心静脈閉塞症の脈絡膜厚の検討。第50回網膜硝子体学会，東京，平成23年12月2-4日。
 105. 山本亜希子，岡田アナベルあやめ，杉谷篤彦，利井東昇，國田大輔，柴田朋宏，横田怜二：「滲出型加齢黄斑変性に対するranibizumab硝子体内投与2年間の治療成績」。第50回日本網膜硝子体学会総会，東京，2011年12月2-4日。
 106. 井上真：特別講演1「視機能回復と光干渉断層計での網膜外層像」。第73回徳島眼科集談会，徳島，平成23年12月11日。
 107. 岡田アナベルあやめ：「加齢黄斑変性の画像検査の読影（確定診断）」。眼科PDT講習会，東京，2011年12月17日。
 108. 井上真：網膜硝子体手術に関する最新情報。第1回山形網膜硝子体研究会（YMCA），山形，平成23年12月17日。
 109. 伊東裕二，井上真，利井東昇，平岡智之，平形明人：黄斑円孔術後の視力と錐体細胞外節端の欠損幅との関係。第35回日本眼科手術学会，名古屋，平成24年1月27-29日。
 110. 利井東昇，伊藤裕二，井上真，平形明人：突発性黄斑前膜術後錐体外節先端(COST)ラインの回復。第35回日本眼科手術学会，名古屋，平成24年1月27-29日。
 111. 平形明人：合併症の対策と処理。第35回日本眼科手術学会，名古屋，平成24年1月27-29日。
 112. 永本敏之：浅前房，IMS（教育セミナー「難症例に対する白内障手術」）。第35回日本眼科手術学会，名古屋，平成24年1月27-29日。
 113. 二宮夕子，松木奈央子，渡辺交世，並木泉，永本敏之：先天無虹彩における白内障手術。第35回日本眼科手術学会，名古屋，平成24年1月27-29日。
 114. 渡辺交世，二宮夕子，並木泉，松木奈央子，永本敏之：偽落屑症候群の白内障手術。第35回日本眼科手術学会，名古屋，平成24年1月27-29日。
 115. 松木奈央子，渡辺交世，二宮夕子，並木泉，永本敏之：角膜内皮細胞減少例における白内障手術。第35回日本眼科手術学会，名古屋，平成24年1月27-29日。
 116. 永本敏之：乱視を残さない白内障手術を目指して～サージカルガイダンスによる乱視矯正手術～。第35回日本眼科手術学会イブニングセミナー，名古屋，平成24年1月27-29日。
 117. 江本宜暢，鎗田理沙，堀田順子，堀田一樹：中心窩下に迷入したパーフルオロカーボンシリコンオイル下で除去した1例。第34回日本眼科手術学会，名古屋，平成24年1月27-29日。
 118. 井上亮，成田信，山添克弥，笹井英明，堀田順子，堀田一樹：角結膜扁平上皮癌の術中切除範囲の決定にトリパンブルー染色を使用した1例。第34回日本眼科手術学会，名古屋，平成24年1月27-29日。
 119. 川村亮介，篠田啓，井上真，野田徹，大沼一彦：模型眼をもちいた硝子体手術中の視覚体験の再現。第35回日本手術学会総会，名古屋，平成24年1月27-29日。
 120. 井上真：コンステレーション更なる可能性-IOPコントロールの更なる可能性-第35回日本手術学会総会イブニングセミナー，名古屋，平成24年1月27日。
 121. 井上真：白内障手術中の視体験の再現。ファイザーフィルムアワード。第35回日本手術学会総会イブニングセミナー，名古屋，平成24年1月27日。
 122. 井上真：黄斑手術の基本手技「後部硝子体剥離の基本手技」。第35回日本手術学会総会教育セミナー，名古屋，平成24年1月28日。
 123. 井上真：白内障手術から硝子体手術までのハイエンドシステム -Leica M844 + RUV800- 第35回日本手術学会総会モーニングセミナー，名

- 古屋, 平成 24 年 1 月 28 日 .
124. 永本敏之: IOL の変遷と今後. 日本眼科医会第 63 回生涯教育講座「白内障のすべて」, 東京, 平成 24 年 2 月 12 日 .
 125. Hirakata A: Myopic traction maculopathy. World Ophthalmology Congress 2012, Abu Dhabi, Feb. 16-20, 2012.
 126. Yamamoto A, Okada AA, Sugitani A, Yokota R, Shibata T, Kunita D & Rii T: Subfoveal choroidal thickness in typical age-related macular degeneration versus polypoidal choroidal vasculopathy. WOC 2012 Abu Dhabi, Abu Dhabi, Feb. 16-20, 2012.
 127. 慶野博: 病診連携から考えるぶどう膜炎の診断と治療, 合併症 (続発緑内障) への対応. 調布市眼科医会学術講演会, 調布, 2012 年 2 月 16 日 .
 128. 井上真: 症例報告. 第 3 回網膜硝子体手術研究会, 東京, 平成 24 年 2 月 16 日 .
 129. 井之川宗右, 中島史恵, 佐竹良之¹, 井上真, 永本敏之 (¹東京歯科大市川総合病院): 他科との連携が重要であった高温塩酸による重症化学熱傷の 1 例. 第 36 回日本角膜学会総会・第 28 回日本角膜移植学会, 東京, 平成 24 年 2 月 23-25 日 .
 130. 山添克弥, 堀田一樹, 島崎潤: 術後デスメ膜剥離を要した nDSAEK の 1 例. 第 36 回角膜カンファレンス, 第 28 回日本角膜移植学会, 東京, 平成 24 年 2 月 23-25 日 .
 131. Hirakata A: Primary Vitrectomy, Indications, complications, results. Teaching Course with International Faculty Retinal and Vitreous Surgery, Tokyo, Mar. 4, 2012.
 132. Hirakata A (panelist): Quiz: Presentation of retinal detachment with discussion of treatment options. Teaching Course with International Faculty Retinal and Vitreous Surgery, Tokyo, Mar. 4, 2012.
 133. Hirakata A (moderator): Minimal segm. buckl. for complicated detachment. Teaching Course with International Faculty Retinal and Vitreous Surgery, Tokyo, Mar. 4, 2012.
 134. 永本敏之: IOL の変遷と今後. 日本眼科医会第 63 回生涯教育講座「白内障のすべて」, 福岡, 平成 24 年 3 月 4 日 .
 135. 今野公士: IgG4 関連涙腺炎の治療経過の検討. 第 6 回 IgG4 研究会, 金沢, 平成 24 年 3 月 4 日 .
 136. 岡田アナベルあやめ: 「加齢黄斑変性の治療: 光と影」. 第 14 回順天堂大学医学部附属市静岡病院眼科勉強会, 沼津, 2012 年 3 月 8 日 .
 137. 大竹杏奈, 今野公士, 平形明人, 多久嶋亮彦¹, 大浦紀彦¹, 寺戸雄一², 沖坂重邦³ (¹杏林大・形成外科, ²杏林大・病理, ³眼病理教育研究所): Pagetoid spread を呈した眼瞼脂線癌の一例. 第 3 回東京多摩眼科連携セミナー, 三鷹, 平成 24 年 3 月 10 日 .
 138. 金崎有祐, 今野公士, 吉野啓, 五月女典久, 國田大輔, 平形明人, 近藤義之^{1,2} (¹近藤眼科, ²武蔵野眼科): 眼瞼痙攣と片側顔面けいれんにおけるボツリヌス毒素治療成績の検討. 第 3 回東京多摩眼科連携セミナー, 三鷹, 平成 24 年 3 月 10 日 .
 139. 平形明人: 網膜剥離の治療, 硝子体切除術と強膜内陥術そのメリットと限界. 第 4 回出田眼科網膜硝子体講習会, 熊本, 平成 24 年 3 月 17 日 .
 140. 平形明人: 乳頭形態異常を伴う網膜剥離における眼内液と脳脊髄液の交流の可能性. 第 68 回新潟臨床眼科研究会, 新潟, 平成 24 年 3 月 18 日 .
 141. Inoue M: Vitreous Surgery for eyes implanted with a multifocal intraocular lens. 28th PPSA-JC, japan chapter, Bangkok, Mar. 18-19, 2012.
 142. 井上真: 光干渉断層計での網膜外層像と術後視力回復. 第 10 回浜松眼科フォーラム, 浜松, 平成 24 年 3 月 23 日 .
 143. 永本敏之: IOL の変遷と今後. 日本眼科医会第 63 回生涯教育講座「白内障のすべて」, 神戸, 平成 24 年 3 月 25 日 .
 144. Keino H, Watanabe T, Sato Y & Okada AA: Oral administration of retinoic acid receptor- α / β specific ligand, Am80 suppresses experimental autoimmune uveoretinitis The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012. Tokyo, Mar. 28-31, 2011.
 145. Hirakata A: Vitrectomy without laser photocoagulation or gas tamponade for optic disc pit maculopathy. 15th National Academic Congress of Chinese Ocular Fundus Diseases/Sino-Japanese Ocular Fundus Diseases Forum, Wuhan, Mar. 31, 2012.
 146. 永本敏之: IOL の変遷と今後. 日本眼科医会第 63 回生涯教育講座「白内障のすべて」, 名古屋, 平成 24 年 3 月 31 日 .
 147. Okada AA: One-year results of a multicenter study on infliximab for the treatment refractory uveoretinitis in Behcet's disease. Luncheon symposium, Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012, Tokyo, March 31, 2012.
- 論文
1. Miyazawa A, Inoue M, Yamada S, Hirota K, Sano RY, Nishiyama K, Hirakata A: Higher incidence of carotid stenosis in patients with central retinal artery occlusion. *Acta Ophthalmol* e378-379, 2011.
 2. Yonekawa Y¹, Hirakata A, Inoue M, Okada AA (¹Department of Ophthalmology, Weill Cornell Medical Collegeand): Spontaneous closure of a recurrent myopic macular hole previously repaired by pars plana vitrectomy. *Acta Ophthalmol* 89:e536-537, 2010.
 3. Inoue M, Ota I¹, Taniuchi S, Nagamoto T, Miyake

- K¹, Hirakata A¹(Miyake Eye Hospital):Miyake-Apple view of inner side of sclerotomy during microincision vitrectomy surgery. *Acta Ophthalmol* 89: e412-416, 2011.
4. Hirakata A, Inoue M, Hiraoka T, McCuen BW 2nd 1 (1Department Ophthalmology, Duke Univ, Durham, NC): Vitrectomy without Laser Treatment or Gas Tamponade for Macular Detachment Associated with an Optic Disc Pit. *Ophthalmology*:119:810-8, 2012.
 5. 永本敏之：先天白内障の外科的治療（総説）．眼科 53:685-690, 2011.
 6. 永本敏之：調節性眼内レンズ（総説）．日本白内障学会誌 23:33-39, 2011.
 7. 永本敏之：若年者の外傷性白内障手術のポイント（総説）．*IOL&RS* 25:336-342, 2011.
 8. Taki W, Keino H, Watanabe T, Nakashima C & Okada AA : Interferon-gamma release assay in tuberculous scleritis. *Arch Ophthalmol* 129(3): 368-371, 2011.
 9. Nakashima C, Keino H, Watanabe T, Taki W, Okada AA : Intravitreal bevacizumab for iris metastasis of small cell lung carcinoma and neovascular glaucoma. *Jpn J Ophthalmol* 55(1): 80-81, 2011.
 10. 渡邊交世, 三木大二郎, 岡田アナベルあやめ, 平形明人：急性網膜壊死の治療成績 日本眼科学会雑誌 15(1): 7-12, 2011.
 11. Keino H, Watanabe T, Sato Y, Okada AA: Oral administration of retinoic acid receptor-specific ligand, Am80 suppresses experimental autoimmune uveoretinitis. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 52(3): 1548-1556, 2011.
 12. Keino H, Okada AA, Watanabe T, Taki W, Nakashima C: Decreased ocular inflammatory attacks and background retinal and disc vascular leakage in patients with Behçet's disease on infliximab therapy. *Br J Ophthalmol* 95: 1245-1250, 2011.
 13. Hiratsuka Y, Yamada M, Murakami A, Okada AA, Yamashita H, Ohashi Y, Yamagishi N, Tamura H, Fukuhara S, Takura T: Eye Care Comparative Effectiveness Research Team (ECCERT). Cost-effectiveness of cataract surgery in Japan. *Jpn J Ophthalmol* 55: 333-342, 2011.
 14. Keino H, Watanabe T, Taki W & Okada AA: Effect of infliximab on gene expression profiling in Behçet's disease. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 52(10): 7681-7686, 2011.
 15. Kawazoe Y, Sugita S, Keino H, Yamada Y, Imai A, Horie S, Mochizuki M : Retinoic acid from pigment epithelium induces T regulatory cells *Exp Eye Res* 94:32-40, 2012.
 16. 慶野博：クオンティフェロン (QFT) は結核性眼炎症疾患の診断に有効か？．あたらしい眼科 28: 1001-1003, 2011.
 17. 慶野博：眼炎症性疾患と生物製剤．臨床眼科 65: 372-375, 2011.
 18. Nishina S, Suzuki Y, Yokoi T, Kobayashi Y, Noda E, Azuma N: Clinical Features of Congenital Retinal Folds: *Am J Ophthalmol* 153(1): 81-87, 2012.
 19. 気賀沢一輝：心療眼科と治療的自我．神眼 28: 39-44, 2011.
 20. 気賀沢一輝：心療眼科とは．日本の眼科 82: 4号別冊 483-484, 2011.
 21. Rii T, Itoh Y, Inoue M, Hirakata A: Foveal Cone Outer Segment Tips Line and Disruption Artifacts in Spectral-Domain Optical Coherence Tomographic Images of Normal Eyes. *Am J Ophthalmol*. 153(3): 524-529 e1, 2012.
 22. Itoh Y, Inoue M, Rii T, Hiraoka T, Hirakata A: Significant correlation between visual acuity and recovery of foveal cone microstructures after macular hole surgery. *Am J Ophthalmol*. 153(1): 111-119 e1, 2012.
 23. Noda M, Noda K, Ideta S, Nakamura Y, Ishida S, Inoue M, Tsubota K : Repair of Blowout Orbital Floor Fracture by Periosteal Suturing. *Clin Experiment Ophthalmol*. 39(4): 364-9, 2011.
 24. Inoue M, Noda T, Mihashi T, Ohnuma K, Bissen-Miyajima H, Hirakata A : Quality of image of grating target placed in model of human eye with corneal aberrations as observed through multifocal intraocular lenses. *Am J Ophthalmol* . 151(4): 644-652. e1, 2011.
 25. Kawamura R, Inoue M, Shinoda H, Shinoda K, Itoh Y, Ishida S, Tsubota K : Incidence of Increased Intraocular Pressure after Subtenon Injection of Triamcinolone Acetonide. *J Ocul Pharmacol Ther* . 27(3): 299-304, 2011.
 26. Sano M, Inoue M, Taniuchi S, Kunita D, Hiraoka T, Hirakata A : Ability to determine postoperative status of macular hole in gas-filled eyes by spectral domain-optical coherence tomography. *Clin Experiment Ophthalmol*. 39(9): 885-92, 2011.
 27. Inoue M, Noda T, Ohnuma K, Bissen-Miyajima H, Hirakata A: Quality of image of grating target placed in vitreous of isolated pig eyes photographed through different implanted multifocal intraocular lenses. *Acta Ophthalmol* . 89(7): e561-6, 2011.
 28. Hirasawa M, Noda K, Noda S, Suzuki M, Ozawa Y, Shinoda K, Inoue M, Ogawa Y, Tsubota K, Ishida S : Transcriptional Factors Associated with Epithelial-Mesenchymal Transition in Choroidal Neovascularization. *Mol Vis* . 17: 1222-30, 2011.

29. Matsuo Y, Uemura A, Nakano T, Inoue M, Sakamoto T : Atypical presentation of acute macular neuroretinopathy with tiny parafoveal reddish-brown lesions. *Jpn J Ophthalmol* . 55(4): 362-4, 2011.
 30. Hirota K, Hirakata A, Inoue M, Hiraoka T : Bilateral exudative retinal detachment due to retinal pigment epithelial tears successfully treated by vitrectomy and scleral window surgery. *Acta Ophthalmol*. [Epub ahead of print], 2011 Sep 22.
 31. Itoh Y, Inoue M, Rii T, Hiraoka T, Hirakata A : Correlation between length of foveal cone outer segment tips line defect and postoperative visual acuity after macular hole closure. [Epub ahead of print], 2012 Mar 14.
 32. 江本宜暢, 堀田順子, 堀田一樹 : 正常な電気生理学的所見で白点状眼底様所見を呈する1例. *臨眼* 65: 1459-1464, 2011.
 33. 横田怜二, 星和栄, 堀田一樹 : 中枢神経系悪性リンパ腫眼内転移の確定診断に網膜下生検が有用であった1例. *臨眼* 65: 827-832, 2011.
 34. 横田怜二, 堀田一樹 : 皮膚切開からの除去を要した膨化 MIRAgel の2例. *眼臨紀* 4: 1188-1192, 2011.
 35. 山添克弥, 横田怜二, 堀田順子, 堀田一樹 : 結膜悪性黒色腫切除後に生じた嚢胞様黄斑浮腫の1例. *あたらしい眼科* 28: 1343-1347, 2011.
 36. 山添克弥, 堀田一樹, 島崎潤 : 滴状角膜を伴う角膜内皮減少例に対する白内障手術. *日眼誌* 115: 850-851, 2011.
 37. Yamazoe K, Hotta K, Shimazaki J: Outcome of cataract surgery in cases with low corneal endothelial cell density. *J Cataract Refract Surg* 5: 2130-2136, 2011.
 38. Yamazoe K, Hotta K, Shimazaki J: Surgically induced necrotizing scleritis after primary pterygium excision with conjunctival autograft. *Clin ophthalmol* 5: 1609-1611, 2011.
 39. 渡辺敏樹, 気賀沢一輝, 宮澤顕子, 平形明人 : 高齢男性に発症した特発性頭蓋内圧亢進症によると思われるうっ血乳頭の1例. *神経眼科* 28 (2) 187-196, 2011.
 40. Nakashima C, Keino H, Watanabe T, Taki W, A. Okada AA : Treatment of iris pulmonary metastasis and neovascular glaucoma with intravitreal bevacizumab. *Jpn J Ophthalmol*. 55(1): 80-1, 2011.
 41. 渡邊交世, 中野敦雄, 二宮夕子, 永本敏之 : アトピー性皮膚炎患者の結膜嚢常在細菌叢と抗菌点眼薬の効果. *IOL & RS*. 25(2): 237-241, 2011.
- 著書**
1. 平形明人 : 先天異常に伴う網膜剥離. 丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦 (監), 大鹿哲郎 (編): *眼科学* 第2版, p. 491-494, 文光堂, 東京, 2011.
 2. 伊東裕二, 平形明人 : 裂孔併発例の硝子体手術. 門之園一明 (編): *新ES NOW(8) 糖尿病網膜症治療最前線 治療アプローチとテクニック*, p. 66-73, メジカルビュー, 東京, 2011.
 3. 平形明人 : 増殖硝子体網膜症. 網膜硝子体手術研究会 (編): *ビデオセミナー硝子体手術 トップサージャンの極意を学ぶ*, p. 128-139, メジカルビュー, 東京, 2011.
 4. 伊東裕二, 平形明人 : 糖尿病眼合併症の最新治療. *総合臨床* 60:p. 2520-2521, 永井書店, 大阪, 2011.
 5. 平形明人 : II 術後 SOS 2. 眼球運動障害 アドバイス. 網膜硝子体手術 SOS トラブルとその対策, p. 144, 医学書院, 東京, 2012.
 6. 永本敏之 : 水晶体手術総論. p. 1324-1330, 術中合併症. p. 1349-1355, 術後合併症. p. 1355-1362, 特殊な手術・併用手術. p. 1362-1366. *眼科学* 第2版. 丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦監修, 大鹿哲郎編集. 東京, 文光堂, 2011. 05. 10.
 7. 岡田アナベルあやめ : 海外 (アメリカ) の眼科医教育. *日本の眼科*. 2012. 83:p. 136-143.
 8. 岡田アナベルあやめ : Behçet 病もはや失明しない. *日本眼科学会雑誌*. 2012. p. 116:365.
 9. 井上真 : 25 ゲージ. 硝子体手術ビデオセミナー. メジカルビュー社, 2011. p24-33.
 10. 井上真 : 23 ゲージ. 硝子体手術ビデオセミナー. メジカルビュー社, 2011. p34-49.
 11. 井上真 : 眼内炎. 硝子体手術ビデオセミナー. メジカルビュー社, 2011. p153-159.
 12. 井上真 : 眼底検査. *眼科ケア冬期増刊*, 2011. p186-193.
 13. 井上真 : 眼底造影検査. *眼科ケア冬期増刊*, 2011. p200-205.
 14. 井上真 : 眼科最新手術. 硝子体手術装置の進歩. *臨時増刊号眼科* 53 (10) . 2011.
 15. 井上真 : 5 血管拡張性疾患. コーツ病. 専門医のための眼科診療クオリファイ, 中山書店, 2011 p170-174.
 16. 井上真 : 特集 (1) 眼内レンズ縫着の合併症. *眼科手術*, 2012. 25 (2) :p178-184.
 17. 井上真 : 硝子体手術. 広角観察システムの基礎と臨床「眼内レンズ挿入眼」. 文光堂, 2012. p120-125.
 18. 井上真 : I 術中 SOS B 硝子体手術 3 網膜嵌頓. 網膜硝子体 SOS. 医学書院, 2012. p51-53.
 19. 井上真 : I 術中 SOS B 硝子体手術 5 医原性裂孔 (アドバイス). 網膜硝子体 SOS. 医学書院, 2012. p65-66.
 20. 井上真 : I 術中 SOS B 硝子体手術 1 6 高度な脈絡膜剥離眼への対処網膜硝子体 SOS. 医学書院, 2012. p120-123.
 21. 井上真 : IX 術中合併症 II . 核落下. *眼手術学* 5 白内障. 文光, 2012. p459-463.

22. 井上真：「FORUM / 合併症 I - 糖尿病網膜症」糖尿病網膜症と血糖コントロール. プラクティス 29(1), 2012. p12-14.
23. 井上真：「FORUM / 合併症 I - 糖尿病網膜症」糖尿病網膜症と抗 VEGF 療法. プラクティス 29(2), 2012. p132-133.
24. 井上真：「FORUM / 合併症 I - 糖尿病網膜症」糖尿病黄斑浮腫と腎症. プラクティス 29(3), 2012. p240-242.
25. 今野公士：眼瞼良性腫瘍. 専門医のための眼科診療クオリファイ 10 眼付属器疾患とその病理. 東京, 中山書店, p 255-259, 2011.
26. 渡邊交世：網膜血管障害, 4 血管炎, 結核. 専門医のための眼科診療クオリファイ 8. 白神史雄, 大鹿哲郎, 大橋裕一編. 東京, 中山書店, p146-153. 2011.
27. 伊東裕二：シャンデリア照明. 特集：次世代の硝子体手術. 眼科手術 24(4). メディカル葵出版, 2011.

その他

1. 井上真：高血圧の中高齢者は注意！網膜中心静脈閉塞症. タ刊フジ 2012 年 3 月 8 日
2. 慶野 博：文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 C (平成 23 年度 - 平成 25 年度) レチノイドを用いた眼炎症疾患における視神経, 神経網膜保護の試み.

耳鼻咽喉科・頭頸科学教室

口 演

1. 佐藤哲也, 永藤裕, 茂呂順久, 中村健大, 唐帆健浩, 甲能直幸：喉頭軟骨肉腫の一例. 第 23 回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 旭川, 平成 23 年 4 月 21 日.
2. 武井泰彦, 守田雅弘, 甲能直幸：心因性めまい診断のポイントについて. 第 112 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
3. 守田雅弘, 増田正次, 松田雄大, 茂呂順久, 佐藤哲也, 中村健大, 壺坂俊仁, 永藤裕, 山内宏一, 唐帆健浩, 武井泰彦, 甲能直幸：耳管機能障害に対する人工耳管手術. 第 112 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
4. 唐帆健浩, 佐藤哲也, 大貫崇博, 上浦友宏, 佐藤佑樹, 松本文武, 茂呂順久, 中村健大, 松田雄大, 永藤裕, 壺坂俊仁, 増田正次, 山内宏一, 横井秀俊, 守田雅弘, 甲能直幸：救急治療後の超高齢者における摂食嚥下障害の予後因子に関する検討. 第 112 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
5. 横井秀格¹, 吉井良太¹, 甲能直幸 (順天大浦安病院・耳鼻科)：内視鏡下に摘出した非典型的 NF2 の一部分疾患と推察される鼻中隔神経鞘腫. 第 112 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
6. 池田哲也, 松田雄大, 佐藤哲也, 茂呂順久, 甲能直幸：当科における口腔扁平苔癬の臨床病理組織学的検討. 第 112 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
7. 増田正次, Dulon D¹, Pak K², Mullen L², Li Y², 小川郁³, 甲能直幸, Ryan A²(¹ ボルドー大, ² カリフォルニア州大 サンディエゴ校 外科・耳鼻科, ³ 慶応大・耳鼻科)：5'DNA 領域による pou4f3 のマウス有毛細胞内発現調節. 第 112 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
8. 小柏靖直, 守田雅弘, 甲能直幸：航空機操縦者の耳管機能が内耳および中耳に与える影響に関する検討. 112 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
9. 茂呂順久, 山内宏一, 中村健太, 佐藤哲也, 永藤裕, 松田雄大, 壺坂俊二, 唐帆健浩, 武井泰彦, 守田雅弘, 甲能直幸：当教室における耳下腺腫瘍の臨床統計. 112 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 京都, 平成 23 年 5 月 19-21 日.
10. 池田哲也：口の中でわかる体の健康度. 平成 23 年度杏林大学公開講座, 三鷹, 平成 23 年 5 月 28 日.
11. 山内宏一, 小柏靖直, 永藤裕, 唐帆健浩, 丸山毅¹, 藤岡保範², 甲能直幸 (¹ 丸山医院, ² 医・病理学)：低侵襲と個別化を目指す頸部郭清術 頸部郭清術における個別治療の可能性 センチネルナビゲーション手術の有効性. 第 35 回日本頭頸部癌学会, 名古屋, 平成 23 年 6 月 9-10 日.
12. 永藤裕, 山内宏一, 中村健大, 茂呂順久, 唐帆健浩, 甲能直幸：頭頸部癌扁平上皮癌に対する S-1 隔日投与併用放射線治療の検討. 第 35 回日本頭頸部癌学会, 名古屋, 平成 23 年 6 月 9-10 日.
13. 中村健大, 佐藤哲也, 永藤裕, 山内宏一, 唐帆健浩, 甲能直幸：呼吸苦にて受診した喉頭軟骨肉腫の一症例. 第 35 回日本頭頸部癌学会, 名古屋, 平成 23 年 6 月 9-10 日.
14. 横井秀格, 児玉悟¹, 堤佐斗志², 安本幸正², 伊藤昌徳², 甲能直幸 (¹ 大分大・医・耳鼻科, ² 順天大浦安病院・脳神経外科)：内視鏡下鼻内副鼻腔手術を施行した鼻副鼻腔神経鞘腫の 2 例. 第 23 回日本頭蓋底外科学会, 豊中, 平成 23 年 6 月 16-17 日.
15. 高橋昌兵, 佐藤哲也, 守田雅弘, 甲能直幸：緊急乳突洞削開術を施行した小児急性乳様突起炎の 2 症例. 第 6 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大宮, 平成 23 年 6 月 17 日.
16. 守田雅弘：耳管機能障害の手術治療. 徳島県地方部会, 徳島, 平成 23 年 7 月 2 日.
17. 横井秀格：好酸球性副鼻腔炎の診断と治療. 第 2 回多摩杏林耳鼻科会, 三鷹, 平成 23 年 7 月 9 日.
18. 甲能直幸：化学療法の現状と問題点. 福島県生涯

- 教育講座学術講演会, 郡山, 平成 23 年 7 月 15 日.
19. 横井秀格: アレルギー性真菌性副鼻腔炎の診断とその治療. 第 4 回東京・埼玉 5 大学頭頸部外科研究会, 東京, 平成 23 年 7 月 22 日.
 20. 松本吉史, 横井秀格, 甲能直幸: 総頸動脈走行異常の 1 例. 第 24 回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会, 広島, 平成 23 年 9 月 8-9 日.
 21. 松本祐磨, 増田正次, 茂呂順久, 甲能直幸: Cronkhite-Canada 症候群における味覚障害・嗅覚障害の経時的変化. 第 24 回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会, 広島, 平成 23 年 9 月 8-9 日.
 22. 唐帆健浩: 摂食嚥下障害に対する PEG 導入の適応と PEG 離脱について. 調布市医師会講演会, 調布, 平成 23 年 9 月 13 日.
 23. Yokoi H, Yoshii R¹, Tsutsumi S² & Kohno N (Departments of ¹Otorhinolaryngology and ²Nuerosurgery, Juntendo Urayasu Hospital): Schwannoma of the nasal septum associated with multiple central nerve system tumors which was totally resected endoscopically. XIV IRS & XXX ISIAN, Tokyo, Sep. 20-23, 2011.
 24. 池田哲也: 当科における口腔扁平苔癬の臨床病理組織学的検討. 第 21 回日本口腔粘膜学会総会・学術集会, 鹿児島, 平成 23 年 9 月 24-25 日.
 25. 池田哲也: 口腔領域に発生する疾患について～歯科医師の立場から～. 調布市耳鼻科医会, 調布, 平成 23 年 9 月 26 日.
 26. 唐帆健浩: 摂食嚥下障害に対する PEG 導入の適応と PEG 離脱について～杏林大学摂食嚥下センターにおける取り組み. 第 2 回北多摩耳鼻咽喉科医会懇談会, 東京, 平成 23 年 9 月 28 日.
 27. 松田雄大, 守田雅弘, 増田正次, 唐帆健浩, 甲能直幸: 耳管開放症の聴覚障害. 第 56 回音声言語医学会総会・学術講演会, 東京, 平成 23 年 10 月 6-7 日.
 28. 唐帆健浩: 【ポストコングレスセミナー】高齢社会をふまえた嚥下障害対策-評価・リハビリテーション. 第 56 回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 東京, 平成 23 年 10 月 8 日.
 29. 守田雅弘: 耳管機能障害の取り扱いと最近の話題. 香川県地方部会, 高松, 平成 23 年 10 月 9 日.
 30. 横井秀格: 耳鼻咽喉科からみた One airway, one disease. 協和発酵キリン社内勉強会, 府中, 平成 23 年 10 月 14 日.
 31. 甲能直幸: 【研究報告】S-1+NDP P I / II グループ研究中間報告. 第 10 回頭頸部腫瘍フォーラム, 立川, 平成 23 年 10 月 21 日.
 32. 池田哲也, 甲能直幸: 当科におけるビスフォスフォネート関連顎骨壊死の検討. 第 56 回社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 大阪, 平成 23 年 10 月 21-23 日.
 33. 甲能直幸: 頭頸部癌治療 up date 化学療法の現状と問題点. 日耳鼻島根県地方部会研修会, 浜田, 平成 23 年 10 月 29 日.
 34. 守田雅弘: 耳管機能検査と耳管処置. 第 25 回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会, 大阪, 平成 23 年 11 月 10-11 日.
 35. 唐帆健浩, 佐藤哲也, 大貫崇博, 上浦友宏, 佐藤佑樹, 松本丈武, 茂呂順久, 中村健大, 松田雄大, 永藤裕, 増田正次, 山内宏一, 横井秀俊, 守田雅弘, 甲能直幸: 摂食嚥下障害に対する PEG 導入の適応に関する検討. 第 63 回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 名古屋, 平成 23 年 11 月 10-11 日.
 36. 松田雄大, 増田正次, 唐帆健浩, 甲能直幸: 咽頭アミロイドーシスの 1 症例. 第 63 回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 名古屋, 平成 23 年 11 月 10-11 日.
 37. 永藤裕, 山内宏一, 中村健大, 茂呂順久, 唐帆健浩, 竹内弘久¹, 阿部展次¹, 甲能直幸 (医・消化器・一般外科): 当院での早期下咽頭癌に対する内視鏡治療の経験. 第 63 回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 名古屋, 平成 23 年 11 月 10-11 日.
 38. 佐藤哲也, 唐帆健浩, 大貫崇博, 上浦友宏, 佐藤佑樹, 松本丈武, 茂呂順久, 中村健大, 永藤裕, 松田雄大, 増田正次, 山内宏一, 横井秀格, 守田雅弘, 甲能直幸: 化学放射線後に下咽頭の完全閉塞を生じた下咽頭癌の一例. 第 63 回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会, 名古屋, 平成 23 年 11 月 10-11 日.
 39. 中村健大, 山内宏一, 永藤裕, 甲能直幸: ウサギ, ブタを用いて行った近赤外線カメラでのセンチネルナビゲーション手術の検討. 第 63 回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会, 名古屋, 平成 23 年 11 月 10-11 日.
 40. 横井秀格¹, 吉武洋², 甲能直幸 (¹順天大浦安病院・耳鼻科, ²順天大・医・環境医学研究所): 花粉アレルギー検査における花粉アレルゲンおよび CCD 検出頻度に関する検討. 第 61 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京, 平成 23 年 11 月 10-12 日.
 41. 守田雅弘: 耳管機能検査と耳管処置. 第 25 回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会, 大阪, 平成 23 年 11 月 19-20 日.
 42. 横井秀格: ガイドラインに基づいたアレルギー性鼻炎治療. 多摩アレルギー講演会, 立川, 平成 23 年 11 月 21 日.
 43. 横井秀格: ガイドラインに基づいたアレルギー性鼻炎治療. 北巨摩中巨摩医師会学術講演会, 甲府, 平成 23 年 11 月 24 日.
 44. 守田雅弘: シンポジウム 新しい手技: 耳管閉塞症・狭窄症の新しい手術治療. 第 21 回日本耳科学会総会・学術講演会, 那覇, 平成 23 年 11 月 24-26 日.
 45. 増田正次: 突発性難聴患者における炎症性バイオマーカーに関する検討. 第 21 回日本耳科学会総

- 会・学術講演会，那覇，平成23年11月24-26日。
46. 松田雄大：慢性腎不全にて人工透析中耳管開放症4症例。第21回日本耳科学会総会・学術講演会，那覇，平成23年11月24-26日。
 47. 永藤裕，増田正次，小倉慶雄，木村奈津子，松田雄大，守田雅弘：鼓膜に限局した先天性真珠腫3例の報告。第21回日本耳科学会総会・学術講演会，那覇，平成23年11月24-26日。
 48. 小倉慶雄：耳管開放症患者の臨床統計とその病態・病因についての検討。第21回日本耳科学会総会・学術講演会，那覇，平成23年11月24-26日。
 49. 木村奈津子：抗アセルコリンレセプター抗体陽性を示した両側同時性顔面神経麻痺の一例。第21回日本耳科学会総会・学術講演会，那覇，平成23年11月24-26日。
 50. 横井秀格¹，児玉悟²，甲能直幸¹（順天大浦安病院・耳鼻科，²大分大・医・耳鼻科）：内視鏡下鼻副鼻腔手術を施行した巨大な三叉神経鞘腫の1例。第50回日本鼻科学会総会・学術講演会，岡山，平成23年12月1-3日。
 51. 上浦友宏，横井秀格，松本祐磨，甲能直幸：左翼口蓋窩に主座をおき，上顎洞，眼窩に進展した炎症性偽腫瘍の一例。第50回日本鼻科学会総会・学術講演会，岡山，平成23年12月1-3日。
 52. 松塚崇¹，長谷川泰久²，高橋克昌³，永藤裕，甲能直幸，谷田部恭⁴，大森孝一¹（¹福島県立医科大・耳鼻科，²愛知県がんセンター・頭頸部外科，³群馬大・医・耳鼻科・頭頸部外科，⁴愛知県がんセンター・遺伝子病理診断部，）：OSNA法による頭頸部扁平上皮癌の頸部リンパ節転移診断－4施設の集計－。第13回SNNS研究会学術集会，東京，平成23年12月2-3日。
 53. 平川仁¹，長谷川泰久¹，吉本世一²，菅澤正³，本間明宏⁴，塩谷彰浩⁵，三浦弘規⁶，上村裕和⁷，大倉康男⁸，甲能直幸，小須田茂⁹，高橋克昌¹⁰，永藤裕，松塚崇¹¹，横山純吉¹²，吉崎智一¹³，吉田知之¹⁴（¹愛知県がんセンター・頭頸部外科，²国立がん研究センター中央病院・頭頸部腫瘍科，³埼玉医科大・頭頸部腫瘍科，⁴北海道大・医・耳鼻科・頭頸部外科，⁵防衛医科大・耳鼻科，⁶国際医療福祉大学三田病院 頭頸部腫瘍センター，⁷大阪府立成人病センター 頭頸部外科，⁸医・病理学，⁹防衛医科大・放射線科，¹⁰群馬大・医・耳鼻科・頭頸部外科，¹¹福島県立医科大・耳鼻科・頭頸部外科，¹²順天大・医・耳鼻科・頭頸部外科，¹³金沢大・医・耳鼻科・頭頸部外科，¹⁴東京医科大学八王子医療センター 耳鼻科・頭頸部外科）：口腔癌に対するセンチネルリンパ節ナビゲーション頸部郭清術の検討－臨床第2相試験－。第13回SNNS研究会学術集会，東京，平成23年12月2-3日。
 54. 小倉慶雄，山内宏一，永藤裕，藤岡保範¹，小柏靖直²，甲能直幸¹（¹医・病理学，³自衛隊中央病院・耳鼻科）：舌癌の免疫染色学的検討－OSNA法における最適遺伝子。第13回SNNS研究会学術集会，東京，平成23年12月2-3日。
 55. 長谷川泰久¹，吉本世一²，松塚崇³，甲能直幸，本間明宏⁴，塩谷彰浩⁵，横山純吉⁶，大倉康男⁷，小須田茂⁸，高橋克昌⁹，吉田知之¹⁰，永藤裕，吉崎智一¹¹，上村裕和¹²，三浦弘規¹³，菅澤正¹⁴（¹愛知県がんセンター中央病院・頭頸部外科，²国立がん研究センター中央病院・頭頸部腫瘍科，³福島県立医大・耳鼻科・頭頸部外科，⁴北海道大・耳鼻科・頭頸部外科，⁵防衛医科大・耳鼻科，⁶順天大耳鼻科・頭頸部外科，⁷医・病理学，⁸防衛医科大・核医学，⁹群馬大・耳鼻科・頭頸部外科，¹⁰東京医科大学八王子医療センター 耳鼻科・頭頸部外科，¹¹金沢大・耳鼻科・頭頸部外科，¹²大阪府立成人病センター 頭頸部外科，¹³国際医療福祉大学三田病院 頭頸部腫瘍センター，¹⁴埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科）：頭頸部癌に対するセンチネルリンパ節ナビゲーション手術。第13回SNNS研究会学術集会，東京，平成23年12月2-3日。
 56. 甲能直幸：耳鼻咽喉科疾患のトピックス。東村山市医師会学術講演会，東村山，平成23年12月5日。
 57. Yokoi H, Kamiura T, Matsumoto Y, Kohno N: A case of an inflammatory pseudotumor that advanced to the maxillary sinus and orbital cavity, with the left Pterygopalatine fossa as a principal. The 11th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery, 神戸，平成23年12月8-9日。
 58. 唐帆健浩：摂食嚥下障害に対するPEG導入の適応とPEG離脱について。東海大学耳鼻咽喉科研究会「大山会」，厚木，平成24年1月21日。
 59. 横井秀格：ガイドラインに基づいたアレルギー性鼻炎治療。アレグラ鼻アレルギー講演会，三鷹，平成24年1月24日。
 60. 佐藤哲也，唐帆雄浩，甲能直幸：耳鼻咽喉科医師からみた摂食・嚥下。高齢者の食育のための研修会，東京，平成24年1月24日。
 61. 守田雅弘，増田正次，横井秀格，唐帆健浩，甲能直幸：耳管閉塞症・狭窄症の新しい手術治療。第22回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会，福島，平成24年1月26-27日。
 62. 唐帆健浩，佐藤哲也，茂呂順久，中村健大，松田雄大，永藤裕，壺坂俊仁，増田正次，山内宏一，横井秀俊，守田雅弘，甲能直幸：化学放射線治療術後の下咽頭閉塞に対する段階的拡張手術。第22回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会，福島，平成24年1月26-27日。
 63. 横井秀格¹，甲能直幸¹（順天堂大・医・附属浦安病院・耳鼻咽喉科）：内視鏡下鼻内副鼻腔手術を施行した嗅神経芽細胞腫の一例。第22回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会，福島，平成24年1月26-27日。

64. 唐帆健浩:【ポストコングレスセミナー】嚥下内視鏡検査. 第35回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 高知, 平成24年2月10-11日.
 65. 佐藤哲也, 唐帆雄浩, 甲能直幸: 摂食嚥下障害に対するPEGの適応に関する検討. 第35回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 高知, 平成24年2月10-11日.
 66. 横井秀格¹, 田崎京子¹, 春山琢男¹, 永屋恵子¹, 矢内彩¹, 小野健一², 飯田崇³, 阿久津勉⁴, 小松信行⁵, 横井尚子¹, 飯塚崇¹, 芳川洋¹, 池田勝久⁶, 甲能直幸 (¹順天堂大・医・附属浦安病院・耳鼻科, ²順天堂大・医・附属浦安病院・アレルギー科, ³飯田耳鼻咽喉科クリニック, ⁴阿久津耳鼻咽喉科医院, ⁵小松耳鼻咽喉科クリニック, ⁶順天大・医・耳鼻咽喉・頭頸科): スギ花粉症初期治療におけるモメタゾンフランカルボン酸エステル(MFNS)の有用性の検討. 第30回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 大津, 平成24年2月16-18日.
 67. 横井秀格: 耳鼻咽喉科からみた One airway, one disease. 杏林製薬社内勉強会, 平成24年2月23日.
 68. 守田雅弘: 耳管機能障害の診断と治療. 埼玉めまい研究会, 大宮, 平成24年2月23日.
 69. 横井秀格: アレルギー性鼻炎の診断と治療 up to date. 調布市医師会学術講演会, 調布, 平成24年2月28日.
 70. 松本祐磨: 頻回な気管内挿管後に生じた声門下狭窄の一例. 第24回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 金沢, 平成24年3月8-9日.
 71. Ikeda T, Matsuda T, Satoh T, Satoh Y & Kohno N: Cystic Lesions of Mandible and Maxilla: A Retrospective Study. The 28th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Bangkok, Mar. 18-19, 2012.
 72. Matsumoto Y, Yamauchi K, Fujioka Y¹, Kohno N (¹Department of Pathology, Kyorin Univ. Sch. Med.): Sentinel node navigation surgery versus observation as a management strategy for early tongue carcinoma. The 28th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Bangkok, Mar. 18-19, 2012.
- 論文**
1. 甲能直幸:【咳のすべて】総論 咳について. ENTONI 126: 1-3, 2011.
 2. Kohno N: The Latest Topics for the Japan Broncho-esophagological Society. JMAJ 54(2): 127-128, 2011.
 3. 甲能直幸: 気管切開術について. 東京都地方部会会報 65: 3, 2011.
 4. Kawano K¹, Kusunoki T¹, Ono N¹, Yao T¹, Saito T¹, Yokoi H, Ikeda K¹(¹Department of Otorhinolaryngology, Juntendo Univ. Sch. Med.): Heme oxygenase-1 expression in chronic rhinosinusitis with eosinophilic infiltration. Auris Nasus Larynx. Epub 2011 Nov 9.
 5. Yokoi H, Arakawa A¹, Kuribayashi K¹, Inoshita A¹, Haruyama T¹, Ikeda K¹(¹Department of Otorhinolaryngology, Juntendo Univ. Sch. Med.): An immunohistochemical study of sinonasal hemangiopericytoma. Auris Nasus Larynx. 38(6): 743-6, 2011. Epub 2011 May 23.
 6. Yokoi H, Yoshikawa H¹, Matsumoto T¹, Kawano K¹, Ikeda K¹(¹Department of Otorhinolaryngology, Juntendo Univ. Sch. Med.): Calcified nodule in the buccal submucosa: a case report. B-ENT 7(3): 215-8, 2011.
 7. Ikeda K¹, Yokoi H, Kusunoki T¹, Saitoh T¹, Yao T¹, Kase K¹, Minekawa A¹, Inoshita A¹, Kawano K¹(¹Department of Otorhinolaryngology, Juntendo University Faculty of Medicine): Bacteriology of recurrent exacerbation of postoperative course in chronic rhinosinusitis in relation to asthma. Auris Nasus Larynx. 38(4):469-73,2011.
 8. Yamauchi K, Nagafuji H, Nakamura T, Sato T & Kohno N: Feasibility of ICG fluorescence-guided sentinel node biopsy in animal models using the HyperEye Medical System. Ann Surg Oncol. 18(7): 2042-7, 2011.
 9. 甲能直幸: 頭頸部癌治療の現状とトピックス. 都耳鼻会報 135:33, 2011.
 10. 松田雄大, 増田正次, 唐帆健浩, 甲能直幸: 咽頭アミロイドーシスの1症例. 日本気管食道科学会会報 62(6): 545-550, 2011.
 11. 永谷恵子¹, 横井秀格, 成井裕弥², 春山琢男¹, 吉井良太¹, 矢内彩¹, 芳川洋¹, 池田勝久¹(¹順天大浦安病院・耳鼻科, ²新川クリニック): HIV初感染による重症咽頭炎からVAHSを来した一例. 日本耳鼻咽喉科学会会報 114(8):726-730, 2011.
 12. 横井秀格, 麻生恭代¹, 中澤武司¹, 成井裕弥², 田崎京子¹, 春山琢男¹, 永屋恵子¹, 吉井良太¹, 矢内彩¹, 芳川洋¹, 池田勝久¹. (¹順天大浦安病院・耳鼻科, ²新川クリニック): 当科における扁桃周囲膿瘍での嫌気性菌の分離状況. 日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 29(1): 33-36, 2011.
 13. 唐帆健浩: 特集 咳のすべて: 耳鼻咽喉科専門医の診察を要する症状. ENTONI 126: 84-87, 2011.
 14. 唐帆健浩: 高齢社会をふまえた嚥下障害対策-評価・リハビリテーション. 日本気管食道科学会会報専門医通信 42: 4-7, 2011.
 15. 山内宏一:【咳のすべて】耳鼻咽喉科の立場から 喉頭疾患(癌, 結核, ジフテリア). ENTONI 126: 100-104, 2011.
 16. 山内宏一:【センチネルノード 各領域の進歩】頭頸部癌センチネルリンパ節生検手技と臨床応用. 手術 65(4): 453-456, 2011.
 17. Yamauchi K, Fujioka Y, Kohno N: Sentinel node navigation surgery versus observation as a

- management strategy for early tongue carcinoma. *Head Neck*. 34(4): 568-72, 2012.
18. Yamauchi K, Fujioka Y, Kogashiwa Y, Kohno N: Quantitative expression study of four cytokeratins and p63 in squamous cell carcinoma of the tongue: suitability for sentinel node navigation surgery using one-step nucleic acid amplification. *J Clin Pathol*. 64(10):875-9, 2011.
 19. Sato D¹, Suzuki Y¹, Kano T¹, Suzuki H¹, Matsuoka J¹, Yokoi H, Horikoshi S¹, Ikeda K¹, Tomino Y¹(¹Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Juntendo University Faculty of Medicine): Tonsillar TLR9 expression and efficacy of tonsillectomy with steroid pulse therapy in IgA nephropathy patients. *Nephrol Dial Transplant*. 27(3): 1090-7, 2012.
 20. Kogashiwa Y, Oishi N, Yamauchi K, Kohno N: Advanced hypopharyngeal cancer with amyotrophic lateral sclerosis. *Auris Nasus Larynx*. 38(6): 750-2, 2011.
 21. Oishi N, Kohno N, Shiokawa Y: Severe progressive sensorineural hearing loss improved after removal of large jugular foramen schwannoma. *Auris • Nasus • Larynx* 38(3): 398-401, 2011.
 22. 増田正次, 甲能直幸: 【手術別考察: 手術に特徴的な問題点】耳鼻咽喉科. 外科医のため循環器必須知識 267-274, 2011.
 23. 増田正次, 中村建大, 佐藤哲也, 甲能直幸: 【私の処方箋】喉頭頸部領域 深頸部感染症. *JOHNS* 27(9): 1465-1467, 2011.
 24. 佐藤哲也, 大石直樹, 武井泰彦, 甲能直幸: 小児科治療後緊急手術を要した急性乳様突起炎の2例. *耳鼻咽喉科臨床* 104: 859-863, 2011.
 25. 山内宏一, 永藤裕, 甲能直幸: 低侵襲と個別化を目指す頸部郭清術 センチネルナビゲーション手術における新たな取り組みについて. *頭頸部癌* 37(4): 445-449, 2011.
 26. 甲能直幸: 編集後記. *喉頭* 23(2): 126, 2011.
 27. Yoshimoto S¹, Hasegawa Y², Matsuzuka T³, Shiotani A⁴, Takahashi K⁵, Kohno N, Yoshida T⁶ & Kitano H⁷(¹Department of Head and Neck Surgery, National Cancer Center Hospital, ²Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Aichi Cancer Center, ³Department of Otolaryngology, Fukushima Med. Univ. , ⁴Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, National Defense Medical College, ⁵Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Gunma University, ⁶ Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, ⁷ Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Tottori University): Sentinel node biopsy for oral and laryngopharyngeal squamous cell carcinoma: a retrospective study of 177 patients in Japan. *Auris Nasus Larynx*. 39(1): 65-70, 2012.
 28. 甲能直幸: 昨今医療事情. 東京都地方部会会報 66: 3, 2011.
 29. Kogashiwa Y, Oishi N, Yamauchi K, Kohno N: Advanced hypopharyngeal cancer with amyotrophic lateral sclerosis. *Auris • Nasus • Larynx* 38(6): 750-752, 2011.
 30. 甲能直幸, 山内宏一: 【癌診療の現状】喉頭癌. *ガイドライン 外来診療 2012 - 今日の診療のために -*: 540-541, 2012.
- その他**
1. 守田雅弘: 話題の病気『耳管開放症』. 暮らしと健康 4, 保健同人社, 2011.
 2. 横井秀格: 暮らしと健康相談室 Question3 耳鼻咽喉科 唾石症 痛くてつらい. どのような手術がおこなわれるか. 暮らしと健康 11: 77, 保健同人社, 2011.
 3. 守田雅弘: 【特許】特許 第4851938号, 人工耳管, 特許権者: 守田雅弘, 発明者: 守田雅弘, 出願番号: 特願 2006-542374, 登録日: 平成 23 年 10 月 28 日.
 4. 甲能直幸: 【情報提供】体とこころの通信簿 嚥下障害. 朝日新聞, 平成 24 年 1 月 30 日夕刊.
- 産科婦人科学教室**
- 口 演**
1. 酒井啓治, 和地祐一, 岩下光利: 低酸素のインスリン様成長因子 -I (IGF-I) の作用におよぼす影響. 第 84 回日本内分泌学会, 神戸, 平成 23 年 4 月 21-23 日.
 2. 岩下光利: インシュリン様成長因子と生殖生理. 第 4 回熊本生殖内分泌プラクティス, 熊本, 平成 23 年 4 月 22 日.
 3. 大浦訓章¹, 齋藤益子¹, 増田美香子¹, 野平知良¹, 芥川修¹, 磯崎太一¹, 草加功一¹, 竹下直樹¹, 竹田善治¹, 田中利隆¹, 谷垣伸治, 種元智洋¹, 長谷川潤一¹, 正岡直樹¹, 和田誠司¹, 石川紀子¹, 松永佳子¹, 山崎圭子¹, 米山万里枝¹, 上野仁子¹, 小松佐紀¹, 関島英子¹, 森谷美智子¹, 田中忠夫¹, 伊藤博之¹, 麻生武志 (¹東京母性衛生学会) (シンポジウム): 妊婦健診体制のほころびを補強する, 東京母性衛生学会ワーキンググループからの提言. 第 29 回東京母性衛生学会学術集会, 東京, 平成 23 年 5 月 15 日.
 4. 谷垣伸治: 超音波スクリーニング～外来から救急まで, 超音波診断装置の活用法～. 産婦人科学術講演会, 浜松, 平成 23 年 5 月 18 日.
 5. 百村麻衣, 海野みちる¹, 水谷奈津子¹, 山本阿紀子¹, 松本浩範, 藤野節¹, 矢島正純, 小林陽一, 坂本穆彦¹, 岩下光利 (¹杏林大・医・病理): S 状結腸癌子宮転移の一例. 第 52 回日本臨床細胞

- 学会総会, 福岡, 平成 23 年 5 月 20-22 日.
6. 松本浩範¹, 小林陽一, 橋本玲子, 宮崎典子, 岩下光利, 山本阿紀子¹, 藤野正親¹, 坂本穆彦¹, 海野みちる¹, 小松京子¹ (杏林大・医・病理): 細胞診が診断に有用であった子宮体癌の 1 例. 第 52 回日本臨床細胞学会総会, 福岡, 平成 23 年 5 月 20-22 日.
 7. 伊藤路奈¹, 谷垣伸治, 井澤朋子, 上原彩子, 橋本玲子, 斎藤博恭¹, 岩下光利, 岡宮久明¹ (久我山病院・産婦人科): 胎児超音波診断における一般病院と高次施設の連携について. 日本超音波医学会第 84 回学術集会, 東京, 平成 23 年 5 月 27-29 日.
 8. 片山素子, 谷垣伸治, 上原一朗, 綱脇智法, 松島実穂, 松澤由記子, 橋本玲子, 岩下光利: 急激な形態学的変化を呈する胎便性腹膜炎に対する児超音波断層法の有用性. 日本超音波医学会第 84 回学術集会, 東京, 平成 23 年 5 月 27-29 日.
 9. 黒田恵子, 浅井哲¹, 薮野彰¹, 春日義史¹, 松岡智史¹, 金善恵¹, 樋口隆幸¹, 村越行高¹, 中田さくら¹, 染谷健一¹, 岩田壮吉¹, 林保良¹ (市立川崎病院・産婦人科): 地域周産期センターとしての役割～開設以来の成績～. 第 393 回神奈川県産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 平成 23 年 5 月 28 日.
 10. 渡邊百恵, 和地祐一, 金田由香子, 上原一朗, 谷垣伸治, 酒井啓治, 岩下光利: 妊娠 24 週で発症した妊娠性胆汁うっ滞の一例. 第 358 回東京産科婦人科学会例会, 東京, 平成 23 年 5 月 28 日.
 11. 木村徹¹, 上原一朗, 谷垣伸治, 岩下光利, 安西尚彦¹, 櫻井裕之¹ (杏林大・医・薬理): 胎盤における母体・胎児間の尿酸輸送機構. 第 124 回日本薬理学会関東部会, 東京, 平成 23 年 6 月 4 日.
 12. 岩下光利: 産科医と助産師の連携. 平成 23 年度長崎母性衛生学会学術集会, 長崎, 平成 23 年 6 月 12 日.
 13. 片山素子, 谷垣伸治, 荒岡千景, 上原一朗, 綱脇智法, 松島実穂, 松澤由記子, 和地祐一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 経膈超音波断層法所見を契機として癒着胎盤を疑った 1 例. 第 121 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 東京, 平成 23 年 6 月 12 日.
 14. 谷垣伸治: 婦人科救急の超音波診断. 第 6 回婦人科 ME 研究会, 東京, 平成 23 年 6 月 15 日.
 15. 宮崎典子, 小林陽一, 橋本玲子, 百村麻衣, 松本浩範, 山本阿紀子¹, 岩下光利 (杏林大・医・病理): 診断に苦慮した卵巣原発バーキットリンパ腫の 1 例. 第 121 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 東京, 平成 23 年 6 月 12 日.
 16. 橋場剛士, 松澤由記子, 橋本玲子, 和地祐一, 谷垣伸治, 岩下光利: ターナー症候群女性に対する生殖医療の問題点. 第 35 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 京都, 平成 23 年 6 月 16 日.
 17. 渡邊百恵, 綱脇智法, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 婦人科手術患者における術前 DVT スクリーニングについて. 第 365 回四水会, 東京, 平成 23 年 6 月 22 日.
 18. 谷垣伸治: 多胎育児準備クラスでの講演. 三鷹, 平成 23 年 7 月 2 日.
 19. 橋場剛士, 松澤由記子, 和地祐一, 岩下光利, 浜谷敏生¹, 久慈直昭¹, 末岡浩¹, 吉村泰典 (慶應大・医・産婦人科): 良性転移性平滑筋腫治療後の女性に対する不妊治療・妊娠管理について. 第 144 回日本生殖医学会関東地方部会, 東京, 平成 23 年 7 月 9 日.
 20. 谷垣伸治, 片山素子, 上原一朗, 綱脇智法, 松島実穂, 松澤由記子, 橋本玲子, 和地祐一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 当院における緊急帝王切開術に対するトリアージ導入の効果. 第 47 回日本周産期・新生児医学会総会学術集会, 札幌, 平成 23 年 7 月 10-12 日.
 21. 綱脇智法, 岩下光利, 酒井啓治: 低酸素状態における胎児肝細胞での IGF-I-GFBP-1 系の変化. 第 47 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 札幌, 平成 23 年 7 月 10-12 日.
 22. 真山麗子, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: Extravillous trophoblast (EVT) における Src homology2 (SH2) substrate-1 (SHPS-1) の細胞移動に対する影響. 第 47 回日本周産期・新生児医学会, 札幌, 平成 23 年 7 月 10-12 日.
 23. 橋本玲子, 谷垣伸治, 宮崎典子, 松島実穂, 上原彩子, 岩下光利: 当院における胎児骨系統疾患の出生前診断について. 第 47 回日本周産期・新生児医学会総会学術集会, 札幌, 平成 23 年 7 月 10-12 日.
 24. 黒田恵子, 樋口隆幸¹, 浅井哲¹, 金善恵¹, 薮野彰¹ (市立川崎病院・産婦人科): 当院における地域母子周産期医療センターとしての役割. 第 47 回日本周産期・新生児医学会総会学術集会, 札幌, 平成 23 年 7 月 10-12 日.
 25. 北西あすか¹, 上田和¹, 高橋一彰¹, 土橋麻美子¹, 斎藤元章¹, 磯西成治¹, 田中忠夫¹, 岩下光利, 小林陽一, 武知公博², 梅澤聡³, 寺内文敏⁴, 木口一成⁵, 青木大輔⁶, 野村弘行⁶, 吉川裕之⁷, 佐藤豊実⁷, 上坊敏子⁸, 藤原寛行⁹, 鈴木光明⁹ (東京慈恵医大・産婦人科, ²公立昭和病院・産婦人科, ³武蔵野赤十字病院・産婦人科, ⁴東京医大・産婦人科, ⁵聖マリアンナ医大・産婦人科, ⁶慶應大・医・産婦人科, ⁷筑波大・医・産婦人科, ⁸社会保険相模野病院・産婦人科, ⁹自治医大・産婦人科): 卵巣がん合併妊娠 37 例の検討. 第 50 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 札幌, 平成 23 年 7 月 22-24 日.
 26. 松本浩範, 小林陽一, 百村麻衣, 橋本玲子, 澁谷裕美, 長内喜代乃, 真山麗子, 渡邊百恵, 矢島正純, 岩下光利: 卵巣癌に対する weekly TC 療法の治療成績の検討. 第 50 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 札幌, 平成 23 年 7 月 22-24 日.

27. 橋本玲子, 小林陽一, 宮崎典子, 百村麻衣, 松本浩範, 矢島正純, 岩下光利, 寺戸修一¹, 坂本穆彦¹ (¹杏林大・医・病理): プロラクチンが高値を示した卵巣癌の一例. 第50回日本産科腫瘍学会学術講演会, 札幌, 平成23年7月22-24日.
28. 岩下光利: 産科医と助産師の連携. 第126回東部ブロック産婦人科勉強会, 春日部, 平成23年7月25日.
29. 橋場剛士, 伊藤嘉祐子¹, 安達将隆¹, 峰岸一宏¹, 末岡浩¹, 吉村泰典¹ (¹慶應大・医・産婦人科): 腹腔鏡下子宮筋腫核出術後に手術検体を紛失した事例, 原因の分析と対策. 第51回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 大阪, 平成23年8月4-6日.
30. 澁谷裕美, 渡邊百恵, 綱脇智法, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 当院における腹腔鏡下卵巣腫瘍手術症例の検討. 第51回日本産婦人科内視鏡学会学術講演会, 大阪, 平成23年8月4-6日.
31. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 綱脇智法, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 当院におけるTCR症例の検討. 第51回日本産婦人科内視鏡学会学術講演会, 大阪, 平成23年8月4-6日.
32. 佐藤卓¹, 末岡浩¹, 中林章², 高橋香織¹, 櫻井友義¹, 渡邊広是¹, 村越行高¹, 佐藤健二¹, 大澤淑子¹, 橋場剛士, 青木大輔¹, 吉村泰典¹ (慶應大・医・産婦人科, ²中林病院): 次世代着床前診断に最適な全ゲノム増幅法は何か一遺伝子型に対応する新たな戦略. 第63回日本産科婦人科学会学術講演会, 大阪, 平成23年8月29-31日.
33. 高橋香織¹, 末岡浩¹, 佐藤卓², 中林章³, 櫻井友義⁴, 村越行高⁵, 渡邊広是⁶, 佐藤健二², 大澤淑子⁷, 橋場剛士, 青木大輔¹, 吉村泰典¹ (¹慶應大・医・産婦人科, ²東京歯大・市川総合病院・産婦人科, ³中林病院, ⁴さいたま市立病院・産婦人科, ⁵川崎市立川崎病院・産婦人科, ⁶荘病院・産婦人科, ⁷立川病院・産婦人科): 同腕染色体の性腺モザイク事例に正常核型妊娠は可能か一着床前診断へのアプローチと問題点の指摘. 第63回日本産科婦人科学会学術講演会, 大阪, 平成23年8月29-31日.
34. 上原一朗, 谷垣伸治, 金田由香子, 黒田恵子, 綱脇智法, 松島実穂, 松澤由記子, 上原彩子, 和地祐一, 酒井啓治, 岩下光利: 胎盤における尿酸輸送機構の解明. 第63回日本産科婦人科学会, 大阪, 平成23年8月29-31日.
35. 真山麗子, 百村麻衣, 荒岡千景, 黒田恵子, 山田研二, 井上慶子, 宮崎典子, 橋本玲子, 山本阿紀子, 松本浩範, 矢島正純, 小林陽一, 岩下光利: 子宮動脈塞栓術(UAE)後に子宮筋腫の感染をきたした3症例. 第63回日本産科婦人科学会, 大阪, 平成23年8月29-31日.
36. 綱脇智法, 酒井啓治, 岩下光利: 低酸素がインスリン様成長因子-I (IGF-I) とその結合タンパク-1 (IGFBP-1) におよぼす影響. 第63回日本産科婦人科学会, 大阪, 平成23年8月29-31日.
37. 谷垣伸治, 荒岡千景, 金田由香子, 綱脇智法, 上原一朗, 真山麗子, 松島実穂, 松澤由記子, 橋本玲子, 和地祐一, 酒井啓治, 岩下光利: 分娩件数の制限が周産期医療に与える影響. 第63回日本産科婦人科学会, 大阪, 平成23年8月29-31日.
38. 松島実穂, 谷垣伸治, 渡邊百恵, 荒岡千景, 金田由香子, 上原一朗, 綱脇智法, 松澤由記子, 和地祐一, 酒井啓治, 岩下光利: 一絨毛膜二羊膜双胎における早期周産期予後に関する後方視的検討. 第63回日本産科婦人科学会, 大阪, 平成23年8月29-31日.
39. 松澤由記子, 和地祐一, 安藤素, 岩下光利: ARTにおける採卵数, 受精数の予知に関するAMHの有効性の検討. 第63回日本産科婦人科学会, 大阪, 平成23年8月29-31日.
40. 土橋麻美子¹, 斎藤元章¹, 佐藤陽一¹, 高橋一彰¹, 山本瑠伊¹, 上田和¹, 磯西成治¹, 田中忠夫², 岩下光利, 小林陽一, 武知公博³, 梅澤聡⁴ (¹慈恵医大第三病院・産婦人科, ²慈恵医大・産婦人科, ³公立昭和病院・産婦人科, ⁴武蔵野赤十字病院・産婦人科): 卵巣がん合併妊娠9例の検討. 第63回日本産科婦人科学会, 大阪, 平成23年8月29-31日.
41. 細沼信示¹, 小林陽一, 横道憲幸¹, 村山季美枝¹, 吉岡範人¹, 大原樹¹, 西ヶ谷順子, 戸澤晃子¹, 近藤春裕¹, 鈴木直¹, 木口一成¹, 石塚文平¹ (¹聖マリアンナ医大・産婦人科): 卵巣癌組織におけるside populationの臨床的意義. 第63回日本産科婦人科学会, 大阪, 平成23年8月29-31日.
42. 吉丸真澄¹, 木下孝一¹, 橋本志歩¹, 山田研二, 宮田あかね¹, 佐藤卓¹, 仲村勝¹, 佐藤健二¹, 小川真里子¹, 兼子智¹, 吉田丈児¹, 谷垣伸治, 高松潔¹ (¹東京歯科大市川総合病院・産婦人科): 帝王切開術の術前輸液に重炭酸リンゲル液と酢酸リンゲル液を用いた場合における胎児アウトカムへの影響に関するランダム化試験. 第63回日本産科婦人科学会学術講演会, 大阪, 平成23年8月29日.
43. 齋藤将也, 片山素子, 堂園溪, 綱脇智法, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 卵巣腫瘍と鑑別を要した盲腸癌の1例. The 12th Annual Symposium Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging, 淡路, 平成23年9月2-3日.
44. 岩下光利: 子宮内膜と生殖生理. 第62回広島産婦人科学会総会, 広島, 平成23年9月4日.
45. 小林陽一: がんとメラトニン. 第3回抗加齢内分泌研究会, 横浜, 平成23年9月4日.
46. 谷垣伸治: 産科超音波スクリーニング. 平成23年度浦和医師会産婦人科医会講演会, さいたま, 平成23年9月7日.
47. 橋場剛士, 松澤由記子, 和地祐一, 岩下光利, 嘉治真彦, 高橋香織¹, 佐藤卓¹, 末岡浩¹, 吉村泰典¹

- (¹慶應大・医・産婦人科) : 排卵誘発後に胎児共存奇胎となった1例. 第29回日本受精着床学会総会・学術講演会, 東京, 平成23年9月9-10日.
48. 櫻井友義¹, 末岡浩², 高橋香織¹, 村越行高¹, 渡邊広是¹, 佐藤健二¹, 橋場剛士, 吉村泰典¹ (¹さいたま市立病院・産婦人科, ²慶應大・医・産婦人科): Multiple Displacement Amplification (MDA) 法による, CTG リポート数の再現性と増幅効率の検討. 第29回日本受精着床学会総会・学術講演会, 東京, 平成23年9月9-10日.
 49. 長内喜代乃, 小林陽一, 橋本玲子, 松本浩範, 百村麻衣, 岩下光利, 藤山淳三¹, 小松京子¹, 菅間博², 寺戸修一² (¹杏林大・病・病理, ²杏林大・医・病理): 多発肝転移で発見された子宮頸部神経内分泌癌の1例. 第25回日本臨床細胞学会関東連合開学術集会, 横浜, 平成23年9月10日.
 50. Hashiba T, Matsuzawa Y, Wachi Y, Iwashita M, Hamatani T¹, Kuji N¹, Sueoka K¹, Yoshimura Y¹ (Dept. of ob/gy, Keio University School of Medicine): An experience of an infertility treatment for a woman with benign metastasizing leiomyoma. 16th World Congress on In Vitro Fertilization, Tokyo, Sep. 10-13, 2011.
 51. Kabir-Salmani M¹, Shibuya H, Sakai K, Wachi Y, Iwashita M (¹National Institute of Genetic Engineering and Biotechnology, Tehran, Iran): Polymerization of Insulin-Like Growth Factor-Binding Protein-1 (IGFBP-1) Potentiates IGF-I Actions in Placenta. 16th World Congress on In Vitro Fertilization, Tokyo, Sep. 10-13, 2011.
 52. Kabir-Salmani M¹, Nejatbakhsh R², Hosseini H³, Dimitriadis E⁴, Iwashita M (¹National Institute of Genetic Engineering and Biotechnology, Tehran, Iran, ²Dept. Anatomical Sciences, Shaheed Beheshti Medical University, Tehran, Iran, ³Molecular and Cellular Biology Research Center, Shaheed Beheshti Medical University, Tehran, Iran, ⁴Prince Henry's Institute of Medical Research, Australia): A Novel function of Human Pinopodes by Expressing L-Selectin Ligand during Window of Implantation. 16th World Congress on In Vitro Fertilization, Tokyo, Sep. 10-13, 2011.
 53. Takahashi K¹, Isonishi S¹, Kitanishi A¹, Dobashi M¹, Ueda K¹, Saito M¹, Tanaka T², Kobayashi Y, Iwashita M, Takechi K³, Terauchi F⁴, Kazushige K⁵, Nomura H⁶, Aoki D⁶, Satoh T⁷, Yoshikawa H⁷, Jyoubou T⁸, Fujiwara N⁹, Suzuki M, Terao Y, Takeda S, Umezawa S (¹Department of Ob/Gyn, The Jikei Daisan Hospital, ²Department of Ob/Gyn, The Jikei University School of Medicine, ³Department of Ob/Gyn, Showa General Hospital, ⁴Department of Ob/Gyn, Tokyo Medical University, ⁵Department of Ob/Gyn, St. Marianna University School of Medicine, ⁶Department of Ob/Gyn, Keio University School of Medicine, ⁷Department of Ob/Gyn, University of Tsukuba, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, Major of Medical Sciences, ⁸Department of Ob/Gyn, Sagamino Hospital, ⁹Department of Ob/Gyn, Jichi Medical University): Ovarian malignant tumor associated with pregnancy: multi-centered analysis of 40 cases in Japan. 17th International Meeting of the European Society of Gynaecological Oncology, Milan, Sep. 11-14, 2011.
 54. 黒田恵子, 浅井哲¹, 鈴木毅¹, 原田佳奈¹, 安達将隆¹, 藪野彰¹, 金善恵¹, 樋口隆幸¹, 村越行高¹, 染谷健一¹, 林保良¹, 岩田壮吉¹ (¹市立川崎病院・産婦人科): 卵巣腫瘍に対する腹腔鏡手術法の選択について. 第395回神奈川県産科婦人科学会学術講演会, 川崎, 平成23年9月17日.
 55. Kobayashi Y: Side population (SP) is increased in paclitaxel-resistant ovarian cancer cell lines. The 22nd Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynecology. Taipei, Sept. 23-27, 2011.
 56. 澁谷裕美, 高木崇子, 綱脇智法, 井上慶子, 橋本玲子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: ホルモン産生腫瘍が疑われ腹腔鏡下手術を施行した1例. 第359回東京産婦人科学会例会, 東京, 平成23年9月24日.
 57. 小林陽一: 骨盤臓器脱に対するメッシュ手術の経験. 多摩 TVM セミナー, 立川, 平成23年9月29日.
 58. 谷垣伸治: 多胎育児準備クラスでの講演, 三鷹, 平成23年10月15日.
 59. 谷垣伸治: 妊娠中期以降の超音波検査. 平成23年度杏林大学医学部産科婦人科同門会総会, 東京, 平成23年10月15日.
 60. 百村麻衣, 小松京子¹, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 松本浩範, 平野和彦¹, 矢島正純, 寺戸雄一¹, 小林陽一, 岩下光利 (¹杏林大・医・病理): 子宮体部漿液性腺癌の細胞診所見の検討. 第50回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京, 平成23年10月22日.
 61. 坂本憲彦¹, 小松京子¹, 藤山淳三¹, 市川美雄¹, 松本浩範, 小林陽一, 寺戸雄一¹, 大倉康男¹ (¹杏林大・医・病理): 細胞検査士会要望教育シンポジウム~卵巣腫瘍における細胞診の有用性と診断精度の向上を目指して. 第50回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京, 平成23年10月23日.
 62. 細沼信示¹, 小林陽一, 横道憲幸¹, 吉田彩子¹, 吉岡範人¹, 大原樹¹, 西ヶ谷順子, 近藤春裕¹, 戸澤晃子¹, 木口一成¹, 鈴木直¹ (¹聖マリアンナ医大・産婦人科): 卵巣癌における SP 細胞の臨床的意義と IFN α による治療の可能性. 第49回日本癌治療学会, 名古屋, 平成23年10月27-29日.
 63. 渡部耕平, 谷垣伸治, 松澤由記子, 武田郁恵, 前原真里, 松島実穂, 宮崎典子, 橋本玲子, 和地祐

- 一、井澤朋子、酒井啓治、岩下光利：胎児異常指摘例における自然軽快例の検討。第122回関東連合産科婦人科学会学術集会、横浜、平成23年10月30日。
64. 堂園溪、百村麻衣、真山麗子、長内喜代乃、澁谷裕美、橋本玲子、松本浩範、小林陽一、岩下光利：術前診断が困難であった子宮内膜間質肉腫の一例。第122回関東連合産科婦人科学会学術集会、横浜、平成23年10月30日。
65. 橋場剛士、松澤由記子、和地祐一、岩下光利：「医学的適応による単一胚移植」に関する検討。第122回関東連合産科婦人科学会学術集会、横浜、平成23年10月30日。
66. 齋藤將也、堂園溪、長内喜代乃、百村麻衣、松本浩範、小林陽一、岩下光利：ターナー症候群女性に発症した子宮頸部 minimal deviation adenocarcinoma (MDA) の1例。第366回四水会、東京、平成23年11月9日。
67. 櫻井裕之¹、岩下光利、谷垣伸治、上原一朗、木村徹¹、堅田智久¹（¹杏林大・医・薬理）：胎盤絨毛上皮細胞における尿酸代謝と妊娠高血圧症候群。第40回杏林医学総会、三鷹、平成23年11月19日。
68. 前原真里、谷垣伸治、真山麗子、松島実穂、宮崎典子、松澤由記子、和地祐一、井澤朋子、酒井啓治、岩下光利：分娩件数の制限が周産期医療に与える影響。第40回杏林医学総会、三鷹、平成23年11月19日。
69. 岩下光利：産科医療保障制度とガイドライン2011産科編。多摩地域周産期医療ネットワーク研修会、東京、平成23年11月24日。
70. 谷垣伸治、荒岡千景、齋藤郁恵、渡部耕平、前原真里、上原一朗、真山麗子、平林靖子、宮崎典子、松島実穂、橋本玲子、和地祐一、井澤朋子、酒井啓治、岩下光利：双胎妊娠における早産マーカーの動向。第5回日本早産予防研究会学術集会、東京、平成23年12月3日。
71. 小林陽一：子宮体がん検診の有用性と問題点。南多摩産婦人科医会講演会、八王子、平成23年12月6日。
72. 橋場剛士、松澤由記子、和地祐一、岩下光利：Turner 症候群女性に対する不妊治療についての考察。第56回日本生殖医学会学術講演会・総会、横浜、平成23年12月8-9日。
73. 末岡浩¹、中林章¹、高橋香織¹、橋場剛士、大澤淑子¹、佐藤卓¹、佐藤健二¹、櫻井友義¹、吉村泰典¹（¹慶應大・医・産婦人科）：着床前診断を希望して遺伝相談に来談した適応症例分析。第56回日本生殖医学会学術講演会・総会、横浜、平成23年12月8-9日。
74. 小林陽一：HPV ワクチンと子宮頸癌検診の諸問題。町田市産婦人科医会講演会、町田、平成23年12月15日。
75. 齋藤郁恵、谷垣伸治、上原彩子、齋藤將也、前原真里、真山麗子、松島実穂、宮崎典子、橋本玲子、酒井啓治、岩下光利：急激に giant Umbilical coad に進行した臍帯嚢胞の一例。第360回東京産科婦人科学会例会、東京、平成24年12月17日。
76. 谷垣伸治：多胎育児準備クラスでの講演、三鷹、平成24年1月21日。
77. 谷垣伸治：助産師職能研修：始めよう院内助産師システム、東京、平成24年1月21日。
78. 齋藤將也、百村麻衣、長内喜代乃、澁谷裕美、西ヶ谷順子、松本浩範、小林陽一、岩下光利：卵巣腫瘍と鑑別を要した盲腸癌の一例。第25回東京産婦人科医会・東京産婦人科学会合同研修会並びに第361回東京産婦人科学会例会、東京、平成24年2月18日。
79. 田中守¹、門平育子¹、松本直¹、峰岸一宏¹、宮越敬¹、谷垣伸治、木村芳孝²（¹慶大・医・産婦人科、²東北大・医・産婦人科）：胎児心電図により Long QT が認められた Timothy 症候群の1例。第18回日本胎児心臓病学会学術集会、つくば、平成24年2月18日。
80. 本保晃¹、大橋夕樹¹、森山久美¹、森山潔¹、巖康秀¹、萬知子¹、谷垣伸治（¹杏林大・医・麻酔科）：当院における緊急帝王切開症例に対する取り組み。多摩麻酔懇話会第23回大会、東京、平成24年2月25日。
81. 谷垣伸治：胎児診断最前線。第27回東京母性衛生学会学術セミナー、東京、平成24年2月26日。
82. 橋場剛士、松澤由記子、和地祐一、岩下光利：不妊治療特異的な初期妊娠の超音波画像について。第145回関東生殖医学会、東京、平成24年3月3日。

論文

1. Kobayashi Y, Seino Kenichiro^{2,6}, Hosonuma S¹, Ohara T¹, Itamochi H³, Isonishi S⁴, Kita T⁵, Wada H⁶, Kojo S² & Kiguchi K¹ (¹Department of Obstetrics and Gynecology, St. Marianna University School of Medicine, ²Institute for Genetic Medicine Research Section of Pathophysiology, Hokkaido University, ³Department of Obstetrics and Gynecology, Tottori University, ⁴Department of Obstetrics and Gynecology, Jikei University, ⁵ Department of Obstetrics and Gynecology, National Defence Medical College, ⁶Division of Bioregulation Research, Institute of Medical Science, St. Marianna University): Side population is increased in paclitaxel-resistant ovarian cancer cell lines regardless of resistance to cisplatin. *Gynecol Oncol* 121:329-336, 2010. (前年度分)
2. 大浦訓章¹、芥川修¹、磯崎太一¹、草加功一¹、竹下直樹¹、竹田善治¹、田中利隆¹、谷垣伸治、種元智洋¹、野平知良¹、長谷川潤一¹、正岡直樹¹、増田美香子¹、和田誠司¹、前田光士¹、田中忠夫¹、伊藤博

- 之¹, 麻生武志¹ (¹東京母性衛生学会): 東京都における周産期医療に携わる各職種の実状と問題点の分析, 医師の立場として. 東京母性衛生学会誌 27: 10-14, 2011. (前年度分)
3. Hosonuma S¹, Kobayashi Y, Kojo S¹, Wada H¹, Seino K¹, Kiguchi K¹, Ishizuka B¹ (¹Department of Obstetrics and Gynecology, St. Marianna University School of Medicine): Clinical significance of side population in ovarian cancer cells. *Hum Cell* 24:9-12, 2011. (前年度分)
 4. 佐藤もも子¹, 鎗目淳子¹, 金子幸子¹, 森田和子¹, 増永啓子¹, 高崎由佳里¹, 砥石和子¹, 福井トシ子¹, 岩下光利 (杏林大・病・総合周産期母子医療センター): 当院における母体搬送調整の実際と今後の課題. 東京母性衛生学会誌 28:67-70, 2011.
 5. 片山素子, 上原彩子, 松本浩範, 矢島正純, 岩下光利: 性器結核. 産と婦 78:429-432, 2011.
 6. 谷垣伸治, 片山素子, 松島実穂, 橋本玲子, 岩下光利: 産婦人科救急の超音波検査. 超音波医学 38:413-420, 2011.
 7. 松島実穂, 谷垣伸治, 片山素子, 金田由香里, 上原一朗, 網脇智法, 松澤由紀子, 橋本玲子, 和地祐一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 出生前診断された血管輪の一例. 日産婦東京会誌 60:32-35, 2011.
 8. 怒谷麻理子, 谷垣伸治, 和地祐一, 黒田恵子, 宮崎典子, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利: 胸部症状を契機に選択的帝王切開を施行した肺高血圧症合併妊娠の1例. 日産婦関東連会誌 48:75-80, 2011.
 9. 山本阿紀子¹, 小松京子², 百村麻衣, 平野和彦¹, 寺戸雄一¹, 藤原正親¹, 坂本穆彦¹ (¹杏林大・医・病理, ²杏林大・病・病理): 子宮頸癌検診を契機に発見された正常大卵巣癌症候群を呈した卵巣癌の1例. 日本臨床細胞学会誌 50:181-185, 2011.
 10. 長内喜代乃, 小林陽一, 百村麻衣, 松本浩範, 岩下光利, 山本阿紀子, 坂本穆彦: 術前動注科学療法が奏効した膣癌の一例. 東京産婦会誌 60:288-297, 2011.
 11. Suzuki N¹, Ninomiya M¹, Murata T¹, Hosonuma S¹, Nishigaya Y¹, Kobayashi Y, Kiguchi K¹, Ishizuka B¹ (¹Department of Obstetrics and Gynecology, St. Marianna University School of Medicine): Psychological characteristics of Japanese gynecologic cancer patients after learning the diagnosis according to the hospital anxiety and depression scale. *J Obstet Gynecol Res* 37:800-808, 2011.
 12. 谷垣伸治, 前原真里, 真山麗子, 松島実穂, 宮崎典子, 上原彩子, 橋本玲子, 岩下光利: 婦人科疾患, 特集腹痛の画像診断. *Medical Technology* 39:699-707, 2011.
 13. Suzuki N¹, Ninomiya M¹, Maruta T¹, Hosonuma S¹, Yoshioka N¹, Ohara T¹, Nishigaya Y, Kobayashi Y, Kiguchi K¹, Ishizuka B¹ (¹Department of Obstetrics and Gynecology, St. Marianna University School of Medicine): Clinical study on the efficacy of fluvoxamine for psychological distress in gynecological cancer patients. *Int J Gynecol Cancer* 21:1143-9, 2011.
 14. 谷垣伸治, 前原真里, 真山麗子, 松島実穂, 長内喜代乃, 宮崎典子, 和地祐一, 岩下光利: 胎盤異常の画像診断. 周産期医学 41:973-979, 2011.
 15. Shibuya H, Sakai K, Kabir-Salmani M¹, Wachi Y, Iwashita M (¹National Institute of Genetic Engineering and Biotechnology, Tehran, Iran): Polymerization of insulin-like growth factor-binding protein-1 (IGFBP-1) potentiates IGF-I actions in placenta. *J Cell Physiol* 226:434-439, 2011.
 16. Takae S¹, Izuchi S¹, Murayama K¹, Kondo H¹, Kobayashi Y, Ishizuka B¹ (¹Department of Obstetrics and Gynecology, St. Marianna University School of Medicine): Two cases of pregnancy involving conjoined twins, with details of management after opting for live birth. *J Obstet Gynaecol Res* 37:1478-83, 2011.
 17. 渡邊百恵, 和地祐一, 谷垣伸治, 金田由香子, 上原一朗, 酒井啓治, 岩下光利: 妊娠24週で発症した妊娠性胆汁うっ滞の一例. 東京産婦会誌 60:423-426, 2011.
 18. 岩下光利: 子宮内膜間質・上皮相互作用の制御因子 Hand2/ICSI の安全性と手技, 巻頭開設. *ART World Wide perspective* 21:3-6, 2011.
 19. Hasegawa K¹, Ichikawa R¹, Ishii R¹, Oe S¹, Kato R¹, Kobayashi Y, Kuroda M¹, Udagawa Y¹ (¹Department of Obstetrics and Gynecology, Fujita Health University School of Medicine): A case of primary alveolar soft part sarcoma of the uterine cervix and a review of the literature. *Int J Clin Oncol* 16:751-758, 2011.
 20. 谷垣伸治, 上原一朗, 岩下光利: 帝王切開術(3), 癒着胎盤に対する帝王切開術, 産婦人科手技シリーズII, 周産期手術. 産と婦 78:1431-1438, 2011.
 21. 澁谷裕美, 高木崇子, 網脇智法, 井上慶子, 橋本玲子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: ホルモン産生腫瘍が疑われ腹腔鏡下手術を施行した1例. 東京産婦会誌 60:594-597, 2011.
 22. 谷垣伸治, 松島実穂, 橋本玲子, 井澤朋子, 百村麻衣, 橋場剛士: 東日本大震災における支援活動. 東京産婦人科医会誌 44:24-26, 2011.
- 著書**
1. 岩下光利: 産婦人科検査法, 胎児胎盤機能検査. NEW エssenシャル産科・婦人科学第3版. 池ノ上克, 鈴木秋悦, 高山雅臣, 豊田永康, 高井正

- 彦, 八重樫伸生編. 東京, 東京医歯薬出版, 2011. p. 111-114.
2. 岩下光利: 妊娠の生理 (胎児胎盤系の生理・妊娠による母体の変化). 標準産科婦人科学第4版. 岡井崇, 綾部琢哉編. 東京, 医学書院 2011. p. 313-322.
 3. 谷垣伸治, 岩下光利: 各論, 産婦人科, 最も大きな変化-妊娠, 循環器疾患を有する妊婦の管理, 分娩管理. 外科医のための循環器必須知識. 吉野秀朗編. 東京, メジカルビュー社, 2011. p. 285-294.
 4. 谷垣伸治, 上原一朗, 岩下光利: 帝王切開術, ③癒着胎盤に対する帝王切開術. 産婦人科手技シリーズII, 周産期手術. 岩下光利編. 東京, 診断と治療社, 2012. p. 123-132.
 5. 岩下光利: 資料統計・用語, Part VII 資料統計・用語, 妊娠・周産期に関する用語. 周産期医学 2011年41巻増刊号, 周産期医学必須知識第7版. 周産期医学編集委員会編. 東京, 東京医学社, 2011. p. 086-1088.
 6. 岩下光利: 第1章 妊娠期の身体のしくみと疾患の理解, I 妊娠期の身体のしくみ. 新体系看護学全書, 母性看護学②, マタニティサイクルにおける母子の健康と看護. 新道幸恵, 中野仁雄, 遠藤敏子編. 東京, メヂカルフレンド社. 2011. p. 10-32.

その他

1. 岩下光利: 復旧に向けて, 学会からのアプローチ, 日本産科婦人科学会. 周産期医学 42:351, 2011.
2. 岩下光利: 特集にあたって. BIRTH ペリネタルナーシング 2012 創刊号 1:23, 2012.

放射線医学教室

口 演

1. 土屋一洋: ランチョンセミナー 3T MRI での最近の血流イメージングの進歩. 第31回日本脳神経外科コンgres総会, 横浜, 平成23年5月6日.
2. Tsuchiya K: Recent developments in 3T vascular imaging. "Dinner and Presentation" organized by Toshiba, The 19th Meeting of the International Society for Magnetic Resonance Imaging in Medicine, Montreal, May 6, 2011.
3. Yokoyama K: Cardiovascular Clinical Application Using 3T MRI. Vantage Titan 3T seminar. International Society for Magnetic Resonance in Medicine (ISMRM) 19th Annual Meeting & Exhibition. Montreal, May 7-13, 2011.
4. 大原有紗, 土屋一洋, 豊田圭子¹, 寺戸雄一²: (¹帝京大・医・放射線科学講座, ²杏林大・医・病理) 当施設で経験した頭頸部領域のIgG4関連疾患. 第40回頭頸部・胸部画像研究会, 東京, 平成23年5月21日.
5. Tsuchiya K, Imai M, Ohara A, Nitatori T & Kobayashi K¹: (¹ Radiology Section, Kyorin University Hospital): High-resolution time-resolved contrast-enhanced MR angiography of brain tumors. The 49th Annual Meeting of the American Society of Neuroradiology, Seattle, June 4-9, 2011.
6. Tsuchiya K, Imai M, Tateishi H, Nitatori T & Koyanagi M¹: Four-dimensional CT angiography of the brain reconstructed from data for CT perfusion. The 49th Annual Meeting of the American Society of Neuroradiology, Seattle, June 4-9, 2011.
7. 横山健一: TOSHIBA 3T MRI の臨床経験について. Pianissimo 教室・CT塾 特別講演, 大宮, 平成23年6月11日.
8. Masuda Y, Yokoyama K, Morinaga K, Honya K, Shimatani N, Nishikawa M, Nitatori T: Usefulness of multidetector-row computed tomography in diagnosis of coronary to bronchial artery fistula. 5th Congress of Asian Society of Cardiovascular Imaging (ASCI). Hong Kong, June 17-19, 2011.
9. 増田裕, 横山健一, 森永圭吾, 立石秀勝, 今井昌康, 似鳥俊明: 咯血を生じた冠動脈-気管支動脈瘻の一例. 第73回心臓血管放射線研究会, 新潟, 平成23年7月2日.
10. 土屋一洋: 集中読影講座 脳ドックMRAの読影力を上げる 脳動脈瘤. 第20回日本脳ドック学会総会, 東京, 平成23年7月8-9日.
11. 横山健一: 心臓MRIの基礎. 高知MR研究会 特別講演, 高知, 平成23年7月14日.
12. 土屋一洋: 脳血管・血流イメージングの最近の進歩. 第13回脳教カンファレンス, 八王子, 平成23年7月23日.
13. 永山和樹¹, 丸山啓介¹, 中村正直¹, 戸成綾子, 楠田順子, 高山誠, 塩川芳昭¹: (¹杏林大・医・脳神経外科): 嚢胞性転移性脳腫瘍病変に対する定位放射線治療. 第20回日本定位放射線治療学会, 名古屋, 平成23年7月29日.
14. 土屋一洋: 脳血管・血流イメージングの最近の進歩. 第7回南埼玉ストロークセミナー, 新座, 平成23年9月2日.
15. 小林啓一¹, 丸山啓介¹, 田中雅樹¹, 野口明男¹, 土屋一洋, 永根基雄¹, 塩川芳昭¹: (¹杏林大・医・脳神経外科): 術中ナビゲーションにおけるT2反転および錐体路・PET画像融合の有用性. 第16回日本脳腫瘍の外科学会, 横浜, 平成23年9月9日.
16. Tsuchiya K, Imai M, Tateishi H, Nitatori T & Shiokawa Y¹: (¹ Department of Neurosurgery, Kyorin University): CT angiographic surface anatomic scanning of brain tumors can be performed with a contrast agent of 54 mL using

- dose adjustment by the patient weight and a linearly decelerated injection rate. The 35th European Society of Neuroradiology Annual Meeting. Antwerp, Sep. 21-25, 2011.
17. Tsuchiya K, Imai M, Tateishi H & Nitatori T: Consecutive acquisition of time-resolved contrast-enhanced MRA and perfusion MR imaging of brain tumors with a total dose of 16 mL. The 35th European Society of Neuroradiology Annual Meeting. Antwerp, Sep. 21-25, 2011.
 18. 横山健一: 3T MRIによる心血管領域への臨床応用. 第39回日本磁気共鳴医学会大会 教育講演, 北九州, 平成23年9月29-10月1日.
 19. 横山健一, 今井昌康, 石村理英子, 似鳥俊明, 新田修平¹, 武口智行¹, 松本信幸¹, 久原重英², 竹本周平², 二宮綾子² (¹(株)東芝 研究開発センター マルチメディアラボラトリー, ²東芝メディカルシステムズ(株) MRI事業部): 心臓MRIにおける Knowledge-based Automatic Slice Alignment Methodの臨床例での検討. 第39回日本磁気共鳴医学会大会, 北九州, 平成23年9月29-10月1日.
 20. 新田修平¹, 武口智行¹, 松本信幸¹, 久原重英², 竹本周平², 二宮綾子², 横山健一, 今井昌康, 石村理英子, 似鳥俊明 (¹(株)東芝 研究開発センター マルチメディアラボラトリー, ²東芝メディカルシステムズ(株) MRI事業部): 心臓MRIにおける Knowledge-based Automatic Slice Alignment Methodの開発. 第39回日本磁気共鳴医学会大会, 北九州, 平成23年9月29-10月1日.
 21. 今井昌康, 横山健一, 岩元香保里, 似鳥俊明, 宮崎功¹, 小林邦典¹, 磯野沙智子², 淀健治², 久原重英² (¹杏林大・医・付属病院・放射線部, ²東芝メディカルシステムズ(株)): Multi-phase Transmissionを用いた3T腎動脈Time-SLIP MRAにおける描出能評価. 第39回日本磁気共鳴医学会大会, 北九州, 平成23年9月29-10月1日.
 22. 石村理英子, 横山健一, 今井昌康, 似鳥俊明, 宮崎功¹, 小林邦典¹, 久原重英², 磯野沙智子², 淀健治², 竹本周平² (¹杏林大・医・付属病院・放射線部, ²東芝メディカルシステムズ(株)): 2チャンネル4ポート Multi-phase Transmissionを用いた3T MRIにおけるSSFP法心臓シネMRIの検討. 第39回日本磁気共鳴医学会大会, 北九州, 平成23年9月29-10月1日.
 23. Tsuchiya K: Recent developments in cerebral vascular imaging on Toshiba MR scanners. The 35th European Society for Magnetic Resonance in Medicine and Biology 2011 Congress. Leipzig, Oct. 6-8, 2011.
 24. Imai M, Yokoyama K, Nitatori T, Yorimitsu M, Kuhara S¹, Nitta S¹, Takeguchi T¹, Matsumoto N¹ (Toshiba Corporation, Multimedia Laboratory, Corporate Research & Development Center): Clinical evaluation of new automatic slice-alignment method for cardiac magnetic resonance imaging. European Society for Magnetic Resonance in Medicine Biology Leipzig, Oct. 6-8, 2011.
 25. 増田裕, 森永圭吾, 林真弘, 立石秀勝, 塚原弥生, 似鳥俊明: 乳児の停留精巣に発生した成熟奇形種の一例. 第47回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 下関, 平成23年10月21-23日.
 26. 本谷啓太, 林真弘, 田島崇, 森井健司, 望月一男, 藤野節, 似鳥俊明: 典型的な画像所見を呈した Alveolar soft part sarcomaの一例. 第47回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 下関, 平成23年10月21-23日.
 27. 土屋一洋: 髄芽腫の画像所見の spectrum. 第16回多摩脳腫瘍研究会, 三鷹, 平成23年11月12日.
 28. 戸成綾子, 池田郁夫¹, 丸山靖¹, 村上晋也¹, 高木正人¹, 高山誠 (¹杏林大・医・付属病院・放射線部): 開頭術後放射線治療に対する人工物補填物の及ぼす影響について. 第24回日本放射線腫瘍学会, 神戸, 平成23年11月17-19日.
 29. 島田大輔¹, 小林啓一¹, 畑中良¹, 田中雅樹¹, 原由紀子², 菅間博², 土屋一洋, 永根基雄¹, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳神経外科, ²杏林大・医・病理学): 中枢神経系 lymphomatoid granulomatosisの臨床経験3例と病理学的検討. 第40回杏林医学会総会, 三鷹, 平成23年11月19日.
 30. Tsuchiya K, Imai M, Tateishi H, Honya K & Nitatori T: Postoperative radiological assessment of extracranial-intracranial bypass. The 97th Scientific Assembly and Annual Meeting of the Radiological Society of North America, Chicago, Nov. 27-Dec. 2, 2011.
 31. Tsuchiya K: Consecutive acquisition of time-resolved contrast-enhanced MR angiography and perfusion MR imaging of suspected brain metastasis through the addition of a supplementary dose of a Gd-based contrast agent. Lecture and Discussion "Gd-contrast media for CNS imaging", Chicago, Nov. 29, 2011.
 32. Yokoyama K, Nitatori T, Imai M, Yorimitsu M, Kuhara S¹, Nitta S¹, Takeguchi T¹, Matsumoto N¹ (Toshiba Corporation, Multimedia Laboratory, Corporate Research & Development Center): Early clinical experience with new automatic slice-alignment method for cardiac magnetic resonance imaging. Radiological Society of North America (RSNA) 2011, Scientific Assembly and annual meeting. Chicago, Nov. 27-Dec. 2, 2011.
 33. Imai M, Yokoyama K, Nitatori T, Yorimitsu M: Cardiac Calcifications: Presentation,

- Interpretation, and Clinical Significance. Radiological Society of North America (RSNA) 2011, Scientific Assembly and annual meeting. Chicago, Nov. 27-Dec. 2, 2011.
34. 戸成綾子：平成23年度がん看護研修会公開講演会 がん患者の相談者になる = 放射線治療編 =, 三鷹, 平成23年12月9日.
 35. 大原有紗, 土屋一洋, 立石秀勝, 五明美穂, 似鳥俊明：転移性頭蓋骨腫瘍におけるCTPとCTAからのSASの有用性の検討. 第440回日本放射線学会関東地方会定期大会, 大宮, 平成23年12月10日.
 36. 横山健一：3T心臓MRI: その現状と課題 (TOSHIBA). 第19回Tokyo Heart Imaging Club シンポジウム, 東京, 平成23年12月17日.
 37. 土屋一洋：頭蓋内疾患と関わりの大きい脊髄病変のMRA- 不可解な病態の正確な診断のために -. 第47回川越・東入間画像診断研究会, 川越, 平成24年1月19日.
 38. 土屋一洋：コンサルテーション症例検討 (中枢神経系). 画像診断コンサルテーション推進合同説明会, 東京, 平成24年1月20日.
 39. 土屋一洋：ランチョンセミナー 頭部造影MRIでガドリニウム造影剤をさらに有効に使う - 撮像法と投与法をめぐって -. 第41回日本神経放射線学会, 志摩, 平成24年2月2-3日.
 40. 立石秀勝, 五明美穂, 土屋一洋, 似鳥俊明：もやもや病におけるT-SLIP法を用いた非造影MR DSAとMRA 3D-TOF法の比較検討. 第41回日本神経放射線学会, 志摩, 平成24年2月2-3日.
 41. Tsuchiya K: Postoperative radiological assessment of extracranial-intracranial bypass. Symposium in Commemoration of Professor Chang's Retirement, Seoul, Feb. 10, 2012.
 42. 土屋一洋：連続根幹セミナー 基本の総ざらい：MRI「脳血管障害」. 第31回日本画像医学会, 東京, 平成24年2月17-18日.
 43. 田中雅樹¹, 永根基雄¹, 小林啓一¹, 土屋一洋, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳神経外科)：CT perfusion及びMR perfusionを用いた中枢神経系悪性リンパ腫と悪性神経膠腫の術前鑑別. 第31回日本画像医学会, 東京, 平成24年2月17-18日.
 44. 平岡祥幸, 和田裕雄¹, 福地義之助², 横山健一, 似鳥俊明, 後藤元¹ (杏林大・医・呼吸器内科,² 順天堂大・医・呼吸器内科)：3D-CTによる肺容積測定と呼吸機能検査との比較. 第31回日本画像医学会, 東京, 平成24年2月17-18日.
 45. 本谷啓太：連続根幹セミナーIV 基本の総ざらい：3D画像を用いた全身解剖学. 第31回日本画像医学会, 東京, 平成24年2月17-18日.
 46. 本谷啓太：連続根幹セミナーVIII 基本の総ざらい：3D画像を用いた全身解剖学. 第31回日本画像医学会, 東京, 平成24年2月17-18日.
 47. 大原有紗：頸部の急性炎症性疾患. 第31回日本画像医学会, 東京, 平成24年2月17-18日.
 48. Tsuchiya K: Recent Developments in Cerebral Vascular Imaging on Toshiba MR Scanners. Satellite Symposium, 24th European Congress of Radiology, Vienna, Mar. 1-5, 2012.
 49. 五明美穂, 土屋一洋, 大原有紗, 立石秀勝, 小柳正道¹, 鈴木満¹, 似鳥俊明 (¹杏林大・医・付属病院・放射線部)：CT灌流画像による脳実質内腫瘍の鑑別診断. 第34回日本脳神経CI学会, 横浜, 平成24年3月2-3日.
 50. 丸山啓介¹, 小林啓一¹, 田中雅樹¹, 野口明男¹, 土屋一洋, 永根基雄¹, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳神経外科)：脳腫瘍の術中navigationで参照する適切な融合画像の選択. 第34回日本脳神経CI学会, 横浜, 平成24年3月2-3日. 【22年度追加】
 51. 土屋一洋：教育セミナー 炎症・感染症. 第34回日本脳神経CI学会, 米子, 平成23年2月4-5日.
 52. 土屋一洋：シンポジウム 3T装置での頭部のMR DSAとspin labeling法を用いた非造影MRA. 第34回日本脳神経CI学会, 米子, 平成23年2月4-5日.
 53. 畑中良¹, 丸山啓介¹, 土屋一洋, 原由紀子², 山口岳彦³, 永根基雄¹, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳神経外科,²杏林大・医・病理部,³自治医科大・病理診断部)：診断に苦慮した斜台部嚢胞性病変の1例. 第34回日本脳神経CI学会, 米子, 平成23年2月4-5日.
 54. 五明美穂, 土屋一洋, 大原有紗, 塚原弥生, 立石秀勝, 似鳥俊明, 小林啓一¹, 永根基雄¹, 塩川芳昭¹, 磯尾綾子², 谷口真², 柳下章³ (¹杏林大・医・脳神経外科,²東京都立神経病院脳神経外科,³東京都立神経病院放射線科)：リンパ球性肉芽腫症3例のMRI所見. 第34回日本脳神経CI学会, 米子, 平成23年2月4-5日.
 55. 土屋一洋：教育セミナー 3T装置での頭部のMR DSAとspin labeling法を用いた非造影MRA. 第40回日本神経放射線学会, 東京, 平成23年2月24-26日.
 56. 大原有紗, 土屋一洋, 似鳥俊明, 永根基雄¹, 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳神経外科)：嗅神経芽細胞腫の治療後に硬膜転移, 頸部リンパ節転移あるいは肺転移を来した3症例. 第40回日本神経放射線学会, 東京, 平成23年2月24-26日.
 57. 土屋一洋：頭部および頸部の真菌症の画像診断. 第9回キャンディン研究会, 東京, 平成23年3月5日.
 58. 土屋一洋, 青木茂樹¹, 下地啓五¹, 森壘², 國松聡² (¹順天堂大・放射線科,²東京大・付属病院放射線科)：転移性脳腫瘍におけるガドリニウム造影剤の追加投与によるMRDSAと灌流画像の連続

撮像の意義. 第70回日本医学放射線学会学術集会, web開催, 平成22年5月9-20日.

59. 立石秀勝, 土屋一洋, 今井昌康, 小柳正道¹ (¹杏林大・医・放射線部): 頭部から頸部のCT angiographyにおける造影剤の速度可変注入の有用性. 第70回日本医学放射線学会学術集会, web開催, 平成22年5月9-20日.
60. 今井昌康, 土屋一洋, 立石秀勝, 似鳥俊明: CTPデータを使用したCTA (4D-CTA) 画像作成の試み. 第70回日本医学放射線学会学術集会, web開催, 平成22年5月9-20日.
61. 一志圭太郎¹, 宮崎功², 濱田健司, 吉川宏起³, 土屋一洋, 引屋敷聖晴¹ (¹武蔵野赤十字病院・放射線科, ²杏林大・医・放射線部, ³駒澤大学大学院医療健康科学研究科): 磁化率強調画像において磁性による画像への影響. 第39回日本磁気共鳴医学会大会, 北九州, 平成22年9月29-10月1日.
62. 土屋一洋, 今井昌康, 五明美穂, 大原有紗, 似鳥俊明, 小林邦典¹ (¹杏林大・医・付属病院・放射線部): 3T装置での脳腫瘍の高分解能MR DSA. 第39回日本磁気共鳴医学会大会, 北九州, 平成22年9月29-10月1日.

論文

1. Nitatori T. Initial Clinical Experience of TOSHIBA 3T MRI- Focuses of the Cardiovascular System, The 21st Conference of the Japanese Society of Cardiovascular Imaging & Dynamics, 2011.
2. 土屋一洋: MDCTによる脳腫瘍の術前診断の最近の進歩. CI研究 32:227-232, 2010. (発刊遅れのため今回分に追加)
3. 土屋一洋: 次世代のOpen Bore 3T MRIによる臨床応用. 3T MRIの臨床応用-中枢神経系を中心に. INNERVISION 26 (1):72-75, 2011.
4. 土屋一洋, 今井昌康: 造影剤の速度可変注入による頸部から頭部のCT angiography. Rad Fan 9:26-27, 2011.
5. 土屋一洋: 画像診断 update 正常圧水頭症, 低髄液圧症候群. 日本医師会雑誌 140:S126-S127, 2011.
6. 土屋一洋: 脳神経疾患画像診断レクチャー 脳梗塞. BRAIN 1:6-15, 2011.
7. 土屋一洋: 「頭蓋内炎症性疾患の画像診断」序説. 臨床画像 27:1173, 2011.
8. 藤川章¹, 土屋一洋 (¹自衛隊中央病院・放射線科): 頭蓋内炎症性疾患の画像診断 髄膜炎の炎症疾患. 臨床画像 27:1120-1231, 2011.
9. 横山健一, 今井昌康, 依光美佐子, 本谷啓太, 似鳥俊明: MRIの技術進歩と臨床における有用性 3Tの特長を生かした心臓MRIの実用化に向けて. INNERVISION (5): 36-38, 2011.
10. Yokoyama K: Clinical applications of 3T-MRI in the cardiovascular field. INNERVISION (12):112-113, 2011.
11. 片瀬七朗¹, 土屋一洋 (¹東京都多摩南部地域病院・放射線科): 脳神経疾患画像診断レクチャー 脳内出血. BRAIN 1:204-213, 2011.
12. 西間木彩子¹, 三輪陽介¹, 鈴木亮¹, 桑原彩子¹, 横山健一, 佐藤範英¹, 高山信之¹, 坂田好美¹, 池田隆徳¹, 佐藤徹¹, 吉野秀朗¹ (¹杏林大・医・第2内科): 特発性好酸球増多症候群に合併した無症候性レフレル心内膜炎の1例: 心臓MRIを用いた治療効果の検討. 心臓 43(12):1550-1554, 2011.
13. 今井昌康, 土屋一洋: 脳動脈瘤の画像診断. 医学のあゆみ 236:124-127, 2011.
14. 今井昌康, 土屋一洋: 悪性リンパ腫の画像診断 中枢神経. 臨床画像 27:836-844, 2011.
15. 今井昌康, 土屋一洋: 頭蓋内炎症性疾患の画像診断 真菌・寄生虫疾患. 臨床画像 27:1120-1231, 2011.
16. 五明美穂, 土屋一洋: CT・MRI診断ピットホール集 中枢神経①. 臨床画像 27:508-513, 2011.
17. 五明美穂, 土屋一洋: 研修医が知らなくてはならない救急疾患のCT・MRI Wernicke脳症, 低酸素性虚血性脳症, 一酸化炭素中毒, PRES, 多発性硬化症. 臨床画像 27(10月増刊号): 34-45, 2011.
18. 大原有紗, 土屋一洋, 似鳥俊明, 小林啓一¹, 栗田浩樹¹, 永根基雄¹ (¹杏林大・医・脳神経外科): 嗅神経芽細胞腫の治療後に硬膜転移, 頸部リンパ節転移あるいは肺転移を来した3例. 臨床放射線 56(8):999-1003, 2011.
19. 片瀬七朗¹, 土屋一洋 (¹東京都多摩南部地域病院・放射線科): 脳神経疾患画像診断レクチャー くも膜下出血と脳動脈瘤. BRAIN 2:4-13, 2012.
20. 片瀬七朗¹, 土屋一洋 (¹東京都多摩南部地域病院・放射線科): 脳神経疾患画像診断レクチャー 脳血管障害・脳血管奇形. BRAIN 2:100-110, 2012.
21. 土屋一洋: 「再訪・脳動脈瘤とくも膜下出血の画像診断」序説. 臨床画像 28:117, 2012.
22. 五明美穂, 土屋一洋: 脳神経疾患画像診断レクチャー 脳動脈解離. BRAIN 2:212-222, 2012.
23. 五明美穂, 土屋一洋: 脳神経疾患画像診断レクチャー もやもや病. BRAIN 2:308-317, 2012.
24. 大原有紗, 豊田圭子¹, 土屋一洋, 似鳥俊明, 寺戸雄一² (¹帝京大・医・放射線科, ²杏林大・医・病院病理部): 当施設で経験した頭頸部領域のIgG4関連疾患. 臨床放射線 57:442-447, 2012.
25. 石村理英子, 横山健一: 心臓のCT 日本胸部臨床 71(2):163-171, 2012.
26. Yorimitsu M, Yokoyama K, Nitatori T, Yoshino H¹, Isono S², Kuhara S² (¹Department of Cardiology, Kyorin University Faculty of Medicine, ²MRI Systems Department, Toshiba Medical Systems): Whole-heart 3D late Gadolinium-enhanced MR imaging: Investigation

of optimal scan parameters and clinical usefulness. Magn Reson Med Sci (1): 9-16, 2012.

著書

1. 土屋一洋 (シリーズ編集) : できる! 画像診断入門シリーズ. 胸部画像診断のここが鑑別ポイント改訂版. 東京, 羊土社, 2011.
2. 土屋一洋 (シリーズ編集) : できる! 画像診断入門シリーズ. 頭部画像診断のここが鑑別ポイント改訂版. 東京, 羊土社, 2011.
3. 土屋一洋, 大久保敏之¹ (編集) (¹ 帝京大学ちば総合医療センター・放射線科) : できる! 画像診断入門シリーズ. 頭部画像診断のここが鑑別ポイント改訂版. 東京, 羊土社, 2011.
4. 土屋一洋 (分担執筆) : 検査法の選択の基本, 感染症・炎症, 脱髄疾患, 重要語句解説「正常画像と並べてわかる頭部MRI. ここが読影のポイント改訂版」(土屋一洋, 大久保敏之編). 東京, 羊土社, 2011. p. 25-30, 140-141, 144-149, 168-169, 172-175, 178-181, 298-301.
5. 土屋一洋 (協力) : 臨床につながる解剖学イラストレイテッド (松村譲児著). 東京, 羊土社, 2011.
6. 土屋一洋, 前田正幸¹, 藤川章² (編集) (¹ 三重大学附属病院・放射線診断科, ² 自衛隊中央病院・放射線科) : 決定版頭部画像診断パーフェクト. 東京, 羊土社, 2011.
7. 土屋一洋 (分担執筆) : 検査法の選択の基本, 感染症・炎症と類縁疾患「決定版頭部画像診断パーフェクト」(土屋一洋, 前田正幸, 藤川章編). 東京, 羊土社, 2011. p. 252-65, 280-287.
8. 似鳥俊明 : アプリ版“CT・MRI 解体新書—正常解剖—”. 似鳥俊明, 佐々木康夫共編著, 東京, リブサイエンス, 2011.
9. 似鳥俊明 : 書籍版“CT・MRI 解体新書—正常解剖—”. 似鳥俊明, 佐々木康夫共編著, 東京, リブサイエンス, 2012.
10. 高山誠 : 放射線による急性放射線障害. 今日の治療指針 2012. 山口徹, 北原光夫, 福井次矢編. 東京, 医学書院, 2012. p. 871.
11. 横山健一 : 4. 心・大血管 この画像所見を見たらほぼ決まり! パターン認識からのアプローチ. 青木茂樹, 福田国彦編. 東京, 秀潤社, 2012. p. 81-91.
12. 林真弘 : 書籍版“CT・MRI 解体新書—正常解剖—”. 似鳥俊明, 佐々木康夫共編著, 東京, リブサイエンス, 2012. 胸腹部 P. 46-90, 四肢 P. 104-116.
13. 村上清寿 : 書籍版“CT・MRI 解体新書—正常解剖—”. 似鳥俊明, 佐々木康夫共編著, 東京, リブサイエンス, 2012. 椎体 P. 33-44, 四肢 P. 117-127.
14. 大原有紗, 土屋一洋, 豊田圭子¹, 寺戸雄一² : (帝京大・医・放射線科学講座¹, 杏林大・医・病理²) 当施設で経験した頭頸部領域の IgG4 関連疾患.

臨床放射線 57(3): 442-447, 2012.

その他

1. 似鳥俊明 : 第 31 回日本画像医学学会学術大会会長, 2012 年 2 月 17-18 日. 東京都中央区.
2. 似鳥俊明 : “MRI アーチファクトの光と影” 画像診断序説, vol32, p7, 2012.
3. 似鳥俊明 : “ドクターズリラックスタイム—趣味を介して長い時の流れを実感できれば最高のリラックスタイム”, 新医療 No448, p87, 2012.
4. パンフレット / 土屋一洋 : 症例クイズ 臨床に学ぶ中枢神経疾患における造影 MRI の有用性. 「悪性リンパ腫と膠芽腫の鑑別」, 大阪, バイエル薬品, 平成 24 年 2 月.

麻醉科学教室

口演

学会発表

1. 鶴澤康二 : 低侵襲モニターを用いた重症肺高血圧症合併患者の周術期管理. 多摩低侵襲モニター研究会, 東京, 2011 年 3 月 26 日.
2. 森山潔, 種岡貴子, 塚原大輔, 小谷真理子, 萬知子 : Ventilator associated pneumonia (VAP) と ALI. 日本麻醉科学会第 58 回学術集会, 神戸, 2011 年 5 月 19-21 日.
3. 東佑佳, 森山潔, 大橋夕樹, 本保晃, 鶴澤康二, 萬知子 : 側臥位での腹腔鏡下手術における無気肺の発生頻度. 日本麻醉科学会第 58 回学術集会, 神戸, 2011 年 5 月 19-21 日.
4. 三上大介, 中澤春政, 森山久美, 森山潔, 飯島毅彦¹, 萬知子 (¹ 昭和大学・歯学部・歯科麻酔科) : 心臓外科待機的手術での術後合併症予測因子としての術前脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) 値の有用性. 日本麻醉科学会第 58 回学術集会, 神戸, 2011 年 5 月 19-21 日.
5. 満田真吾, 中澤春政, 金井理一郎, 石川剛史, 飯島毅彦¹, 萬知子 : 輸血関連急性肺障害 (TRALI) と血小板濃厚液の関与. 日本麻醉科学会第 58 回学術集会, 神戸, 2011 年 5 月 19-21 日.
6. Kasuya K, Moriyama K, Ohashi Y, Yorozu T: Postoperative Pain Management with Continuous Subcutaneous Fentanyl Administration after Caesarian Sections. The 2nd SOAP-JSA Obstetric Anesthesia Meeting, Kobe, May 20-21, 2011.
7. Ohashi Y, Kimura A¹, Ishikawa T, Moriyama K, Iijima T, Yorozu T (¹ Department of anesthesiology, National Hospital Organization Disaster Medical Center, ² Department of Anesthesiology, School of Dentistry, Showa University) : Two cases of emergent caesarean sections for multiple pregnancies with anorexia nervosa. The 2nd SOAP JSA Obstetric Anesthesia Meeting. , Kobe, May 21, 2011.
8. Motoyasu A, Kitaoka Y¹, Tanaka H¹, Terui

- K¹, Asano K¹, Miyao H¹(¹Department of anesthesiology, Omiya Medical Center, Saitama university): Whole blood ionized magnesium level in the healthy Japanese neonate. The 2nd SOAP JSA Obstetric Anesthesia Meeting., Kobe, May 21, 2011.
9. Yorozu T, Shiokawa Y¹, Moriyama K, Ohashi Y(¹ Department of neurosurgery, School of Medicine, Kyorin University: More strategies are necessary to accomplish the safety management of ultrasound guided central venous catheter insertion. 85th International Anesthesia Research Society, Vancouver, May 23, 2011.
 10. 渡辺邦太郎, 吉松貴史, 森山久美, 窪田靖志, 柴田康之, 巖康秀: ホルマリン固定用死体を利用した超音波ガイド神経ブロックの技術習得, 日本ペインクリニック学会第45回大会, 松山, 2011年7月21日.
 11. 安西裕子¹, 関根均¹, 野村まなみ¹, 窪田靖志, 池田みさ子¹(¹ 公立昭和病院・麻酔科): 緩和ケアチームから在宅緩和ケアへ～在宅医に対する自記式調査から見えた緩和ケアチームの評価と課題～その1 病院からの情報提供について. 第16回日本緩和医療学会学術大会, 札幌, 2011年7月29日.
 12. 関根均¹, 安西裕子¹, 野村まなみ¹, 窪田靖志, 池田みさ子¹(¹ 公立昭和病院・麻酔科): 緩和ケアチームから在宅緩和ケアへ～在宅医に対する自記式調査から見えた緩和ケアチームの評価と課題～その2 症状管理について. 第16回日本緩和医療学会学術大会, 札幌, 2011年7月29日.
 13. 窪田靖志, 伊藤祐子, 川名典子, 関礼輔, 田島紳介, 橋爪智恵美, 石井久史, 巖康秀: がん性疼痛におけるプレガバリンの用量設定. 第16回日本緩和医療学会学術大会, 札幌, 2011年7月30日.
 14. 金井理一郎, 森山潔, 鶴澤康二, 小谷真理子, 萬知子: 非侵襲的陽圧呼吸療法(NPPV)装着下でベッド搬送を要した1例. 第20回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 東京, 2011年7月30日.
 15. 本保晃, 田中基¹, 照井克生¹, 宮尾秀樹¹(¹ 埼玉大学大宮医療センター麻酔科): 正期産健常新生児におけるイオン化マグネシウム正常値(第2報) 臍帯血イオン化マグネシウム測定における乾燥ヘパリンと液体ヘパリンの比較. 第2回臨床iMg研修会. 東京, 2011年7月30日.
 16. 石川徳子, 大橋夕樹, 中澤春政, 森山潔, 森山久美, 萬知子: 内腸骨動脈にオクリュージョンカテーテル留置し帝王切開と単純子宮全摘を行った陥入胎盤の一症例. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部 第51回合同学術集会, 千葉, 2011年9月10日.
 17. 丸山蘭, 鶴澤康二, 光田将憲, 山科元範, 森山潔, 萬知子: 硬性鏡下気管内ステント留置術に対し自発呼吸を温存して麻酔管理した3症例の比較検討. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部 第51回合同学術集会, 千葉, 2011年9月10日.
 18. 箱根雅子, 中澤春政, 鶴澤康二, 石川剛史, 安田博之, 萬知子: 特発性肺高血圧症患者の二度の大腿骨折手術に対する麻酔管理. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部 第51回合同学術集会, 千葉, 2011年9月10日.
 19. 木下尚行, 末松美和¹, 季村あつ子¹, 伊東尚¹, 高木敏行¹(¹ 独立行政法人国立病院災害医療センター麻酔科): 重症腹部外傷に対するDamage control surgeryの検討. 日本臨床麻酔学会第31回, 沖縄, 2011年11月3日.
 20. 中澤春政, 川田良紀, 大橋夕貴, 安田博之, 巖康秀, 萬知子: 開心術における麻酔導入時の循環動態変動に関与する因子の検討. 日本臨床麻酔学会第31回, 沖縄, 2011年11月3日.
 21. 本保晃, 大橋夕樹, 森山久美, 森山潔, 巖康秀, 萬知子, 谷垣伸治¹(¹ 杏林大学・産婦人科): 当院における緊急帝王切開症例に対する取り組み. 多摩麻酔懇話会, 東京, 2012年2月25日.
 22. 森山潔, 金井理一郎, 鶴澤康二, 神山智幾, 小谷真理子, 大橋夕樹, 安田博之, 萬知子: 高流量システムでの酸素投与時の肺胞酸素濃度に与える酸素流速の影響. 第39回日本集中治療医学会学術集会, 幕張, 2012年2月28-3月1日.
 23. 金井理一郎, 森山潔, 鶴澤康二, 小谷真理子, 安田博之, 大橋夕樹, 神山智幾, 萬知子.: パルスオキシメーターの低酸素血症検出に関する信頼性の検討. 第39回日本集中治療医学会学術集会, 幕張, 2012年2月28-3月1日.
- 講演会
1. 窪田靖志: 鎮痛補助薬について. 2010ガイドラインに準拠したがん性疼痛薬物治療の理論と実践～基本事項を正しく教えるために～, 武蔵野, 2011年4月9日.
 2. 窪田靖志: 慢性疼痛治療の薬物療法～麻薬の有効性と問題点～. 広島麻酔セミナー特別講演, 広島, 2011年5月27日.
 3. 窪田靖志: 神経障害性疼痛について～整形外科疾患との関係～. 武蔵野慢性疼痛研究会, 武蔵野, 2011年6月6日.
 4. 窪田靖志: がん性疼痛事例検討. 公立昭和病院緩和ケア研修会, 小平, 2011年6月11日.
 5. 窪田靖志: がん緩和ケアにおける疼痛治療の実際. 東村山医師会学術講演会特別講演, 東村山, 2011年6月23日.
 6. 森山久美: 杏林大学緩和ケアチームにおけるフェントステープの使用経験. フェントス学術講演会, 吉祥寺, 2011年6月29日.
 7. 窪田靖志: がん緩和ケアにおける疼痛治療の実際. 島田療育センター「がん緩和医療研修会」, 多摩, 2011年8月8日.
 8. 窪田靖志: がん疼痛の評価と治療. 獨協医科大学緩和ケア研修会, 足利, 2011年8月20日.

論文

1. 小谷真理子, 森山潔, 鶴澤康二, 大橋夕樹, 安田博之, 萬知子: アセタゾラミドの酸塩基平衡に与える影響—simplified Stewart approachによる解析—. ICUとCCU 2011; 35: 407-11.
2. Moriyama K, Sugiyama S, Uzawa K, Kotani M, Satoh T, Yorozu T: Noninvasive Positive Pressure Ventilation against Reperfusion Pulmonary Edema following Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty. Case Reports in Anesthesiology 2011; 2011, Article ID 204538, 3 pages.
3. 大橋夕樹, 森山久美, 柳沼和恵, 季村あつ子, 森山潔, 萬知子: 神経性食思不振症合併高齢妊婦の多胎妊娠に対する緊急帝王切開術の周術期管理. 臨床麻酔, 2011, 35:1023-4.
4. 森山潔, 御園生与志, 季村あつ子, 森山久美, 楠元恭子, 安田博之, 萬知子, 巖康秀: 小下顎症患者に対し気管支ファイバーガイド下に 32Fr ダブルルーメンチューブ (Blue Line 気管支チューブ (R)) を経鼻挿管した 1 症例. 麻酔 2011, 60: 458-460.
5. 山科元範, 飯島毅彦¹, 光田将憲, 吉松貴史, 巖康秀, 萬知子 (¹ 昭和大学・歯学部・歯科麻酔科): 乳児手術における濃厚赤血球投与前後のカリウム血の変動—カリウム除去フィルターの効果—. 日本小児麻酔会誌 17: 147-150, 2011.
6. 窪田靖志, 森山久美, 吉松貴史, 五明義就, 巖康秀: 慢性疼痛におけるデュロテップ (R) MT パッチの有用性, 新薬と臨床, 60(3): 54-62, 2011.
7. 窪田靖志: 慢性疼痛治療の薬物療法 オピオイドの有用性と課題. 慢性疼痛, 30: 57-63, 2011.
8. Yoshimatsu T, Moriyama K, Iwao Y, Yorozu T, Iijima T¹(¹ Department of Anesthesiology, School of Dentistry, Showa University): Involvement of the mu-opioid receptor in opioid tolerance induced by the intermittent administration of fentanyl. J Kyorin Med Soc 42: 63-69, 2011.
9. 萬知子: 酸素療法のピットフォール. 臨床麻酔, 35(7), 1105-1110, 2011
10. 萬知子, 鶴澤康二: 症例検討 気道トラブル 気管チューブの閉塞—最悪の事態を避ける対応が優先普段のシミュレーションがモノをいう—. LiSA 18(7): 728-732, 2011.
11. 森山潔, 金井理一郎: 産婦人科の周術期疼痛管理. ペインクリニック 2012; 33: 49-56.
12. 鶴澤康二, 森山潔, 小谷真理子, 神山智幾, 大橋夕樹: 多発性骨髄腫に伴う多発肋骨骨折による胸部動揺のため, 長期にわたる人工呼吸管理を要した一例. 日本集中治療医学会雑誌 19(2): 207-210, 2012

著書

1. 窪田靖志: I. 足病の治療・ケアの前に; 下肢の基礎 - 下肢神経の基礎 -, 下肢救済のための創傷治療とケア. 大浦紀彦, 照林社, 2011, p.305-310.

2. 窪田靖志: XII. 虚血趾の疼痛管理・幻肢痛への対応, 下肢救済のための創傷治療とケア. 大浦紀彦, 照林社, 2011, p. 22-24.
3. 窪田靖志: がん疼痛治療の実際, 消化器がん化学療法ハンドブック. 古瀬純司, 中外医学社, 2011, p. 74-82.

臨床検査医学教室

口演

1. 高野麻衣子¹, 大西宏明, 関口久美子¹, 小島直美¹, 佐藤美佐紀¹, 蘭恵子¹, 石井隆浩¹, 岡崎ゆり子¹, 大藤弥穂¹, 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 杏林大学病院産科病棟における緊急輸血対応訓練. 第 59 回日本輸血・細胞治療学会総会, 東京, 平成 23 年 4 月 14-16 日.
2. 本田普久¹, 森秀明¹, 西川かおり¹, 峯佳毅¹, 小樽二世¹, 塚田幾太郎¹, 尾股佑¹, 關里和¹, 高橋信一¹, 岸野智則 (¹杏林大・医・第三内科): ARFI 測定時の体位および ROI の設定深度の違いにおける測定値の検討. 日本超音波医学会第 84 回学術集会, 東京, 平成 23 年 5 月 29 日.
3. 大西宏明: 標準採血法ガイドライン改訂版について. 第 60 回日本医学検査学会, 東京, 平成 23 年 6 月 4 日.
4. 米山正芳¹, 櫻井美智恵¹, 佐藤真由美¹, 繁田佳緒理¹, 松山真理¹, 高城靖志¹, 大藤弥穂¹, 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 当施設における尿中有形成成分分析装置 UF1000i の目視鏡検再検条件について. 第 60 回日本医学検査学会, 東京, 平成 23 年 6 月 4 日.
5. 本間慎太郎¹, 加藤欣一¹, 宮崎京子¹, 大藤弥穂¹, 高城靖志¹, 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 検体検査室移転に伴う検体搬送システムの導入効果について. 第 60 回日本医学検査学会, 東京, 平成 23 年 6 月 4 日.
6. 米山里香¹, 千葉直子¹, 坂本大典¹, 松浦幸子¹, 杉浦満喜¹, 宮城博幸¹, 高城靖志¹, 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 血液像自動分類装置 CellaVision DM96 の基礎的検討. 第 60 回日本医学検査学会, 東京, 平成 23 年 6 月 5 日.
7. 高城靖志¹, 米山正芳¹, 渡辺美津子¹, 大藤弥穂¹, 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 採血支援システムの更新—自主開発ソフトから市販ソフトへの変更の経験—. 第 60 回日本医学検査学会, 東京, 平成 23 年 6 月 5 日.
8. 千葉直子¹, 米山里香¹, 杉浦満喜¹(杏林大・医・附属病院臨床検査部): 確定診断に苦慮した Mantle cell lymphoma の一症例. 第 21 回日本サイトメトリー学会学術集会, 京都, 平成 23 年 6 月 25 日.
9. 千葉直子¹, 杉浦満喜¹, 米山里香¹, 東克己², 高山信之³, 松島早月, 大西宏明, 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部, ²杏林大・保・臨床血

- 液, ³杏林大・医・血液内科): 確定診断に苦慮した Mantle cell lymphoma の一症例. 第 21 回日本サイトメトリー学会学術集会, 京都, 平成 23 年 6 月 25-26 日.
10. 佐藤英樹¹, 三輪陽介², 岸野智則¹, 渡邊卓¹, 吉野秀朗², 池田隆徳² (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部, ²杏林大・医・第 2 内科): No Circadian Changes of Heart Rate Turbulence Parameters in Patients with MI. 第 28 回日本心電学会, 福岡, 平成 23 年 9 月 20 日.
 11. 大西宏明: 今, 求められている安全確実な採血 新たな標準採血法ガイドライン (GP4-A2) の概要について. 日本臨床検査自動化学会 第 43 回大会, 横浜, 平成 23 年 10 月 6-8 日.
 12. 本間慎太郎¹, 米山正芳¹, 大藤弥穂¹, 高城靖志¹, 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 汎用自動分析装置 H7180 を用いた免疫学的便中ヘモグロビン測定用試薬ネスコートヘモ Plus(T) の基礎的検討. 日本臨床検査自動化学会第 43 回大会, 横浜, 平成 23 年 10 月 7 日.
 13. 千葉直子¹ (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 自動血球計数器の可能性を追求する一幼若血球・形態異常の検出と評価一. 日本臨床検査自動化学会 第 43 回大会シンポジウム, 横浜, 平成 23 年 10 月 8 日.
 14. 青柳貴之¹, 森井健司¹, 大塚弘毅, 大西宏明, 田島崇¹, 望月一男¹, 里見和彦¹ (¹杏林大・医・整形外科): 肺癌細胞株におけるゾレドロンートの抗腫瘍効果に対する薬剤耐性発現-骨転移に関連して-. 第 26 回日本整形外科学会基礎学術集会, 前橋, 平成 23 年 10 月 20 日.
 15. 牧野博¹, 米谷正太¹, 福川陽子¹, 荒木光二¹, 山内弘子², 西圭史², 佐野彰³, 河合伸³, 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部, ²杏林大・病・薬学部, ³杏林大・医・総合医療): 血液培養由来メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) の抗菌薬感受性分布の動向調査. 第 60 回日本感染症学会東日本学術研修会, 山形, 平成 23 年 10 月 27 日.
 16. Ohnishi H, Hosoi K¹, Yoshino H¹, Genma Y¹, Ohtsuka K, Matsushima S, Bessho F¹, Watanabe T, Fujino T² (¹Dept. of Pediatrics, Kyorin Univ. School of Med., ²Dept. of Pathology, Kyorin Univ. School of Med.): JAK2 splicing mutation in siblings presenting with myeloproliferative neoplasms, cardiomyopathy and hypogonadism. 43rd Congress of International Society of Paediatric Oncology, Auckland, Oct. 29, 2012.
 17. 小山田崇¹, 高城靖志¹, 岸野智則¹, 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 患者の安全を第一に考えた生理機能検査室. 第 48 回関東甲信地区医学検査学会, 前橋, 平成 23 年 10 月 29 日.
 18. 畠森直子¹, 浦田毅¹, 多武保光宏², 平野和彦³, 寺戸雄一³, 森秀明⁴, 奴田原紀久雄², 東原英二², 渡邊卓, 岸野智則 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部, ²杏林大・医・泌尿器科, ³杏林大・医・病理, ⁴杏林大・医・第三内科): 右腎全体をびまん性に浸潤した集合管癌 (Bellini 管癌) の一例. 日本超音波医学会 関東甲信越地方会 第 23 回学術集会, 東京, 平成 23 年 10 月 29 日.
 19. 福川陽子¹, 板垣英二², 森秀明², 小沼裕寿², 多武保光宏³, 奴田原紀久雄³, 東原英二³, 菅間博⁴, 石田均², 岸野智則 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部, ²杏林大・医・第三内科, ³杏林大・医・泌尿器科, ⁴杏林大・医・病理): ACTH 非依存性大結節性副腎過形成 (ACTH-independent macronodular adrenal hyperplasia: AIMAH) の一例. 日本超音波医学会 関東甲信越地方会 第 23 回学術集会, 東京, 平成 23 年 10 月 29 日.
 20. 畠森直子¹, 岸野智則¹, 浦田毅¹, 平野和彦², 寺戸雄一², 田武保光宏³, 奴田原喜久雄³, 東原英二³, 森秀明⁴, 渡邊卓, (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部, ²杏林大・医・病理, ³杏林大・医・泌尿器科, ⁴杏林大・医・第三内科): 集合管癌の一例. 日本超音波医学会第 23 回関東甲信越地方学術集会, 東京, 平成 23 年 10 月 29 日.
 21. 福川陽子¹, 板垣英二², 森秀明², 小沼裕寿², 奴田原紀久雄³, 東原英二³, 菅間博⁴, 石田均², 岸野智則 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部, ²杏林大・医・第三内科, ³杏林大・医・泌尿器科学, ⁴杏林大・医・病理): ACTH 非依存性大結節性副腎過形成 (ACTH-independent macronodular adrenal hyperplasia: AIMAH) の一例. 日本超音波医学会 第 23 回関東甲信越地方学術集会, 東京, 平成 23 年 10 月 29 日.
 22. 宮脇晴子¹, 岸野智則¹, 板谷直², 多武保光宏², 寺戸雄一³, 大水由香里¹, 福川陽子¹, 須藤惠美¹, 浦田毅¹, 大藤弥穂¹, 大塚弘毅, 大西宏明, 奴田原紀久雄², 東原英二², 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部, ²杏林大・医・泌尿器科, ³杏林大・医・病理): 巨大な腎オンコサイトーマの一例: その超音波画像からの考察. 第 58 回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 平成 23 年 11 月 18 日.
 23. 大塚弘毅, 大西宏明, 小倉航¹, 増井亮一, 松島早月, 岸野智則, 藤原正親², 森井健司³, 古瀬純司⁴, 中村浩之⁵, 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部, ²杏林大・医・病理, ³杏林大・医・整形外科, ⁴杏林大・医・腫瘍内科, ⁵学習院大・理・化学科): 遺伝性肺癌で見られた EGFR V843I germ-line 変異の機能解析. 第 58 回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 平成 23 年 11 月 18 日.
 24. 福川陽子¹, 大西宏明, 渡辺美津子¹, 石井隆浩¹, 佐野順子¹, 田内絢子¹, 宮脇晴子¹, 大藤弥穂¹, 高城靖志¹, 岸野智則, 大塚弘毅, 吉野秀明², 渡邊卓 (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部, ²杏林大・医・循環器内科): 血清用採血管の凝固促進剤が凝固検査値へ与える影響〜ワルファリン服用に

おける検討～. 第58回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 平成23年11月18日.

25. 大西宏明, 松島早月, 石山由佳子¹, 大塚弘毅, 米谷正太², 荒木光二², 竹下啓³, 川村千鶴子⁴, 倉持大輔⁵, 岸野智則, 和田裕雄⁶, 後藤元⁶, 渡邊卓 (¹ JR 東京病院, ² 杏林大・医・付属病院臨床検査部, ³ 北里大・北里研究所病院・呼吸器内科, ⁴ 元青森県立中央病院臨床検査部, ⁵ 国際医療福祉大学病院整形外科, ⁶ 杏林大・医・呼吸器内科) : *Mycobacterium kyorinense* 感染症の臨床像のスペクトラム. 第58回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 平成23年11月19日.
26. 岸野智則, 佐原條代¹, 大水由香里¹, 福川陽子¹, 宮脇晴子¹, 須藤恵美¹, 川野詳子¹, 鴛森直子¹, 河合志保¹, 飯田綾子¹, 浦田毅¹, 大藤弥穂¹, 上村隆元², 松島早月, 大塚弘毅, 大西宏明, 渡邊卓 (¹ 杏林大・医・付属病院臨床検査部, ² 杏林大・医・衛生学 / 公衆衛生学) : 脂肪肝に伴う肝障害の有無を推測する有効な超音波所見の検討. 第58回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 平成23年11月19日.
27. 宮城博幸¹, 大西宏明, 荒木光二¹, 西圭史², 高城靖志¹, 大藤弥穂¹, 山口芳裕³, 渡邊卓 (¹ 杏林大・医・付属病院臨床検査部, ² 杏林大・医・付属病院薬剤部, ³ 杏林大・医・救急医学) : LC-MS/MSを用いた抗菌薬リネゾリドの分析測定に関する検討. 第58回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 平成23年11月19日.
28. 米谷正太¹, 荒木光二¹, 牧野博¹, 大塚弘毅, 岸野智則, 大藤弥穂¹, 大西宏明, 渡邊卓 (¹ 杏林大・医・付属病院臨床検査部) : 菌種同定に難渋した *Escherichia coli* による脳膿腫の一症例. 第58回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 平成23年11月20日.
29. 米谷正太¹, 荒木光二¹, 牧野博¹, 大塚弘毅, 岸野智則, 大藤弥穂¹, 大西宏明, 渡邊卓 (¹ 杏林大・医・付属病院臨床検査部) : 菌種同定に難渋した *Escherichia*. 第58回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 平成23年11月20日.
30. 米谷正太¹, 荒木光二¹, 奥山貴洋¹, 福川陽子¹, 牧野博¹, 西圭史², 大西宏明, 渡邊卓 (¹ 杏林大・医・付属病院臨床検査部, ² 杏林大・医・付属病院薬剤部,) : 当小児患者由来 β -ラクタム薬耐性 *Streptococcus*. 第23回日本臨床微生物学会総会, 横浜, 平成24年1月20日.
31. 大西宏明, 米谷正太¹, 荒木光二¹, 福川陽子¹, 牧野博¹, 奥山貴洋¹, 大塚弘毅, 渡邊卓 (¹ 杏林大・医・付属病院臨床検査部) : *Mycobacterium kyorinense* 感染症の臨床像の解析. 第23回日本臨床微生物学会総会, 横浜, 平成24年1月21-22日.
32. 米谷正太¹, 荒木光二¹, 奥山貴洋¹, 福川陽子¹, 牧野博¹, 西圭司², 大西宏明, 渡邊卓 (¹ 杏林大・医・付属病院臨床検査部, ² 杏林大・医・付属病

院薬剤部) : 小児患者由来 β -ラクタム薬耐性 *Streptococcus mitis*. 第23回日本臨床微生物学会総会, 横浜, 平成24年1月20日.

論文

1. Ohnishi H, Watanabe M¹ & Watanabe T (Dept. of Clinical Laboratory, Kyorin Univ. Hosp.): Butterfly needles reduce the incidence of nerve injury during phlebotomy. Arch Pathol Lab Med 136:352, 2012.
2. Kishino T, Ohnishi H, Ohtsuka K, Matsushima S, Watanebe K¹, Urata T¹, Honda Y², Matsumoto M², Mine Y², Nishikawa K², Mori H², Takahashi S², Ishida H² & Watanabe T (¹ Dept. of Clinical Laboratory, Kyorin Univ. Hosp. , ²The Third Dept. of Internal Medicine, Kyorin Univ. School of Med.): Subcutaneous rather than visceral adipose tissue thickness of the abdomen correlates with alterations in serum fatty acid profile in Japanese women. Clin Chim Acta 412: 1893-1894, 2011.
3. Yonetani S¹, Okazaki M¹, Araki K¹, Makino H¹, Fukugawa Y¹, Okuyama T¹, Ohnishi H & Watanabe T (Dept. of Clinical Laboratory, Kyorin Univ. Hosp.): Direct inoculation method using BacT/ALERT 3D and BD Phoenix System allows rapid and accurate identification and susceptibility testing for both Gram-positive cocci and Gram-negative rods in aerobic blood cultures. Diagn Microbiol Infect Dis 73:129-134, 2012.
4. Shiba N^{1,2}, Taki T³, M-J Park¹, Nagasawa M⁴, Kanazawa T², Takita J⁵, Ohnishi H, Sotomatsu M¹, Arakawa H² & Hayashi Y¹ (¹Dept. of Hematology/Oncology, Gunma Children's Medical Center, ² Dept. of Pediatrics, Gunma Univ. Graduate School of Med. , ³Dept. of Molecular Diagnostics and Therapeutics, Kyoto Prefectural Univ. of Med. Graduate School of Medical Science, ⁴Dept. of Developmental Biology, Post Graduate School, Tokyo Medical and Dental Univ. , ⁵Dept. of Pediatrics, Graduate School of Med. , Univ. of Tokyo) : CBL mutation in childhood therapy-related leukemia. Leukemia 25:1356-1358, 2011.
5. Oka K^{1,2}, Osaki T¹, Hanawa T¹, Kurata S¹, Okazaki M³, Manzoku T², Takahashi M², Tanaka M², Taguchi H⁴, Watanabe T, Inamatsu T⁵ & Kamiya S¹ (¹Dept. of Infectious Diseases, Kyorin Univ. School of Med. , ²Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd. , ³ Dept. of Clinical Laboratories, Kyorin Univ. Hosp. , ⁴Dept. of Immunology, Kyorin Univ. Faculty of Health Sciences, ⁵ Dept. of Infectious Diseases, Tokyo Metropolitan Geriatric Hosp.): Molecular and microbiological characterization of *Clostridium difficile* isolates from single, relapse, and reinfection cases. J Clin Microbiol 50:915-921, 2012.

6. Mikura S¹, Wada H¹, Okazaki M, Nakamura M¹, Honda K¹, Yasutake T¹, Higaki M¹, Ishii H¹, Watanabe T, Tsunoda T² & Goto H¹ (¹Dept. of Respiratory Medicine, Kyorin Univ. School of Med., ² Dept. of Preventive Medicine and Public Health, Kyorin Univ. School of Med.): Risk factors for bacteraemia attributable to *Pseudomonas aeruginosa* resistant to imipenem, levofloxacin, or gentamicin. J Hosp Infect 79:267-268, 2011.
7. Kita H¹, Shiraishi Y¹, Watanabe K², Suda K³, Ohtsuka K, Koshiishi Y⁴ & Goya T⁵ (¹Section of Chest Surgery, Fukujji Hosp., ²Dept. of Thoracic Surgery, Sagamiharakyoudou Hosp., ³Dept. of Thoracic Surgery, Nagaoka Central Hosp., ⁴Dept. of Thoracic Surgery, International Univ. of Health Welfare Atami Hosp., ⁵Dept. of General Thoracic Surgery, Kyorin Univ. School of Med.): Does postoperative serum interleukin-6 influence early recurrence after curative pulmonary resection of lung cancer? Ann Thorac Cardiovasc Surg 17:454-460, 2011.
8. 大西宏明: 標準採血法ガイドライン 4年ぶりの改訂. Medical Technology 39:1251-1252, 2011.
9. 大西宏明: Laboratory Practice 血液 進化する採血. 検査と技術 39:1167-1170, 2011.
10. 大西宏明: 正しい採血法とその実際. ナースのための検査値ガイド: 33, 2012.
11. 大塚弘毅: 臨床検査専門医が知っておくべき新しい検査 分子標的治療のコンパニオン診断としての EGFR 蛋白検査. Laboratory and Clinical Practice 29:85-90, 2012.
12. 米谷正太¹, 岡崎充宏², 西圭司³, 田内絢子¹, 奥山貴洋¹, 福川陽子¹, 牧野博¹, 荒木光二¹, 大藤弥穂¹, 高城靖志¹, 大西宏明, 渡邊卓 (¹杏林大・医・付属病院臨床検査部, ²東京大・医・付属病院感染制御部, ³杏林大・医・付属病院薬剤部): *Salmonella enterica* var. *Enteritidis* による感染性腸骨動脈瘤に腸腰筋膿瘍を合併した1症例. 日臨微生物誌 21:217-221, 2011.
13. 和田裕雄¹, 後藤元¹, 大西宏明 (¹杏林大・医・呼吸器内科): 臨床検査専門医が知っておくべき新しい検査 マイコプラズマ感染症の診断 新しい LAMP 法による診断について. Laboratory and Clinical Practice 29:91-98, 2012.
14. 森秀明¹, 關里和¹, 尾股佑¹, 塚田幾太郎¹, 本田普久¹, 小樽二世¹, 松本茂藤子¹, 峯佳毅¹, 西川かおり¹, 高橋信一¹, 岸野智則 (¹杏林大・医・消化器内科): 肝疾患における腹部 US の読み方 (第1回) びまん性肝疾患 (解説). 臨床消化器内科 26(6): 717-721, 2011.
15. 森秀明¹, 關里和¹, 尾股佑¹, 塚田幾太郎¹, 本田普久¹, 小樽二世¹, 松本茂藤子¹, 峯佳毅¹, 西川かおり¹, 高橋信一¹, 岸野智則 (¹杏林大・医・

消化器内科): 肝疾患における腹部 US の読み方 (第2回) 限局性肝疾患 (良性). 臨床消化器内科 26(8): 1163-1168, 2011.

16. 森秀明¹, 關里和¹, 尾股佑¹, 塚田幾太郎¹, 本田普久¹, 小樽二世¹, 松本茂藤子¹, 峯佳毅¹, 西川かおり¹, 高橋信一¹, 岸野智則 (¹杏林大・医・消化器内科): 肝疾患における腹部 US の読み方 (第3回) 限局性肝疾患 (悪性). 臨床消化器内科 26(9): 1313-1320, 2011.

その他

1. 森田恵子¹ (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 基礎から学ぶ生理機能検査: 東京都臨床検査技師会 生理研究班研修会, 東京, 平成23年6月19日.
2. 千葉直子¹ (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 初心者および中級者以上のための血液像・骨髄像実技講習会: 東京都臨床検査技師会 血液研究班研修会, 東京, 平成23年9月18日.
3. 佐藤英樹¹ (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 不整脈心電図の読み方・考え方: 東京都臨床検査技師会 生理検査研究班研修会, 東京, 平成23年10月7日.
4. 森田恵子¹ (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 呼吸実技セミナー: 東京都臨床検査技師会 生理研究班研修会, 東京, 平成23年10月30日.
5. 米山正芳¹ (¹杏林大・医・附属病院臨床検査部): 尿沈渣検査法 2010 4つのポイント: 東京都臨床検査技師会 多摩地区研修会, 東京, 平成23年12月9日.

総合医療学教室

口演

1. 佐藤秀昭¹, 中村美喜¹, 菊池高子¹, 刑部優美¹, 刑部東治¹, 永見明生¹, 岩堀公基¹, 原島敬一郎², 林潤一, 山本実 (¹JA 東京厚生連健康管理センター, ²社団法人労働保健協会): 非観血的動脈硬化検査法で心血管危険因子の検討. 第108回日本内科学会総会・講演会, 東京, 平成23年4月15-17日.
2. 井原裕宣: 医療保険～保険診療の留意点と DPC の基本的事項～. 第99回日本泌尿器科学会総会「2011年卒後教育プログラム」, 名古屋, 平成23年4月22日.
3. 佐野彰彦, 西圭史¹, 山内弘子¹, 荒木光二², 牧野博², 小林治³, 河合伸 (¹杏林大・医・付属病院薬剤部, ²杏林大・医・付属病院臨床検査部, ³杏林大・保健): 難治性 MRSA 感染症に対する抗 MRSA 薬と CAM の併用に関する検討. 第85回日本感染症学会総会, 東京, 平成23年4月21日.
4. 藤原真梨子¹, 三輪隆¹, 河合隆², 佐野晃士¹, 石田順子¹, 原島敬一郎³, 永井義幸¹, 伊藤裕郎¹, 林潤一, 添田仁⁴, 小田原雅人 (¹東京医科大学 糖尿病代謝内分泌内科, ²東京医科大学病院内視鏡セン

- ター,³労働保健協会,⁴都立松沢病院): 糖尿病患者における GERD 合併の実態(第2報) 食道内圧測定との関連について. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成23年5月19-21日.
5. 山本実: 脂質異常症の管理法. 小金井市高脂血症予防教室, 小金井, 平成23年6月24日.
 6. 渡辺圭一¹, 篠崎昇平³, 神谷具巳², 田村嘉章³, 林潤一, 金木正夫³, 石田信彦¹ (¹医療法人社団和風会 多摩リハビリテーション学院, ²医療法人社団和風会 多摩リハビリテーション病院メディカルフィットネスセンタープラム, ³ハーバード大学医学部): 血中マイオカイン濃度の上昇に必要なトレッドミル運動持続時間の検討. 第36回日本運動療法学会, 横浜, 平成23年6月26日.
 7. 玉木一弘: 地域における医療・介護・福祉連携一- 多職種協働の視点から. 公立福生病院医療連携講演会, 東京, 平成23年6月26日.
 8. 河合伸: 市中肺炎と肺炎球菌ワクチン. 取手呼吸器研究会, 取手, 平成23年7月6日.
 9. 河合伸: 院内感染一耐性菌とどう向き合うか一. 第28回中国地区インフェクションフォーラム, 岡山, 平成23年7月23日.
 10. 佐藤秀昭¹, 中村美樹¹, 菊池高子¹, 刑部東治¹, 永見明生¹, 岩堀公基¹, 林潤一, 山本実, 原島敬一郎² (¹JA 東京厚生連健康管理センター, ²社団法人労働保健協会): 非観血的動脈硬化診断法で心血管危険因子の重積の検討. 第52回日本人間ドック学会学術大会, 大阪, 平成23年8月25-26日.
 11. 河合伸: 重症感染症の病態と治療戦略. 第8回兵庫県感染症セミナー, 神戸, 平成23年9月9日.
 12. 河合伸: ワクチンに関する最近の知見. 三鷹市医師会講演会, 三鷹, 平成23年10月5日.
 13. 玉木一弘: 高齢者の地域医療と福祉のよりよい連携を求めて. 全国自治体病院学会第50回記念大会 地域医療・連携・福祉分科会 特別講演, 東京, 平成23年10月19日.
 14. 野村幸史: 自己完結から地域完結を目指して. 社団法人東京都看護協会 地域密着型病院 看護部長の病院管理研修, 東京, 平成23年10月28日.
 15. 佐野彰彦, 河合伸, 荒木光二¹, 牧野博¹, 米谷正太¹, 西圭史², 山内弘子², 小林治³ (¹杏林大・病院臨床検査, ²杏林大・病院薬剤部, ³杏林大・保健): MDRP 検出時の感染制御における ICT の対応についての検討. 第60回日本感染症学会地方会, 山形, 平成23年10月28日.
 16. 野村幸史: 総合討議: 急変時においても安心できる在宅療養の推進のために. 東京都在宅医療推進シンポジウム, 東京, 平成23年11月4日.
 17. 神谷具巳¹, 渡辺圭一^{2,3}, 原島敬一郎⁴, 市橋裕一⁵, 林潤一, 石田信彦^{1,2,3} (¹医療法人社団和風会多摩リハビリテーション病院 メディカルフィットネスセンター プラム, ²医療法人社団和風会多摩リハビリテーション学院, ³医療法人社団和風会 所沢中央病院, ⁴社団法人労働保健協会, ⁵コアプラス・ジャパン(株)): 生活習慣病患者に対する運動療法効果の定量評価方法の試み. 第5回血流血管学会, 鹿児島, 平成23年11月12日.
 18. 渡辺圭一^{1,2}, 神谷具巳³, 原島敬一郎⁴, 市橋裕一⁵, 林潤一, 石田信彦^{1,2,3} (¹医療法人社団和風会多摩リハビリテーション学院, ²医療法人社団和風会 所沢中央病院, ³医療法人社団和風会多摩リハビリテーション病院 メディカルフィットネスセンター プラム, ⁴社団法人労働保健協会, ⁵コアプラス・ジャパン(株)): 生活習慣病患者に対する運動療法効果と血液流動性についての解析. 第5回血流血管学会, 鹿児島, 平成23年11月12日.
 19. 佐野彰彦: COPD の診断と治療 一呼吸器感染症と増悪予防の観点から一. 中野区呼吸器疾患勉強会, 東京, 平成23年11月22日.
 20. 山本実: 脂質異常症の管理法. 小金井市高脂血症予防教室, 小金井, 平成24年1月13日.
 21. 玉木一弘: 2025年問題と克服の課題. 医療福祉フォーラム2025・東京勉強会 医療・介護・福祉職が互いに支え合うために, 東京, 平成24年1月22日.
 22. 玉木一弘: 認知症サポート医の役割について. 国立長寿医療センター 認知症サポート医フォローアップ研修 連携による認知症地域ケアの確立を目指して, 名古屋, 平成24年3月20日.
 23. 河合伸: ワクチン up date 一感染症専門医から見たワクチンの現状と未来一. 総合臨床セミナー in 吉祥寺, 武蔵野, 平成24年3月30日.
- ### 論文
1. 河合伸: 肺炎治療の実際; 抗菌薬の補助療法. 日本内科学会雑誌 100: 3557-3562, 2011.
 2. 太田見宏: 抗菌薬の保険適応とその問題点. Medical Practice 28: 69-73, 2011.
 3. 古閑比斗志: 虫の防疫 (8). 感染制御 7 (2): 163-167, 2011.
 4. 古閑比斗志: 感染症とトラベルワクチン. 臨床検査カレッジ・感染症, 医療と検査機器・試薬 34(3): 337-342, 2011.
 5. 古閑比斗志: 厚生労働省検疫所における防疫 (1). 感染制御 7 (4): 360-366, 2011.
 6. 古閑比斗志: 厚生労働省検疫所における防疫 (2). 感染制御 7(5): 465-469, 2011.
 7. 古閑比斗志: 厚生労働省検疫所における防疫 (3). 感染制御 7 (6)555-561, 2011.
 8. 古閑比斗志: 厚生労働省検疫所における防疫 感染症の現状と対策シリーズ 黄熱一. 感染制御 8(1): 58 - 62, 2011.
 9. 佐野彰彦, 河合伸: 注射用ニューキノロン薬新展開 - 臨床のこれまでとこれから 症例にみる注射用ニューキノロン薬の臨床 敗血症. 感染と抗菌薬 14(3) 276-282. 2011.

著書

1. 島田正亮: ワークを始める前に, 不登校と家庭訪問, 人と“つながる”ということ, 自傷行為. 子どものこころの支援 連携・協働ワークブック. 前川あさ美編著. 東京, 金子書房, 2011. p. 30-33, p. 40-47, p. 69, p. 80-88.

その他

1. 玉木一弘他共著: 精神科病院における認知症患者の退院支援及び地域連携に関し, 被災地支援につながるモデル連携パスの作成に関する調査について. 社団法人 日本精神科病院協会 報告書, 平成 24 年 3 月.

リハビリテーション医学教室

口演

1. 佐藤哲也¹, 唐帆健浩², 中山剛志¹, 穂村美津子¹, 宅美貴子¹, 青池いずみ¹, 前田直¹, 高橋秀寿, 宮崎泰³, 竹内弘久³, 井上慎一郎³, 中島純² (杏林大病院・リハ室, ²杏林大・医・耳鼻咽喉科, ³杏林大・医・高齢医学): 超高齢者における救急治療後の摂食嚥下障害 - 予後因子に関する検討 -. 第 34 回日本嚥下医学会, 東京, 平成 23 年 2 月 5 日.
2. 團志朗, 飯田龍能¹ (永生病院・内科): 当院におけるボツリヌス毒素による痙縮治療の試み. 第 504 回日本大学医学会例会, 東京, 平成 23 年 5 月 28 日.
3. 木村雅彦: 社会復帰に向けた熱傷患者のリハビリテーション - セラピストの立場から (シンポジスト). 第 37 回日本熱傷学会, 東京, 平成 23 年 6 月 1 日.
4. 尾崎孝平¹, 眞淵敏², 石川朗³, 高橋仁美⁴, 岸川典明⁵, 神津玲⁶, 玉木彰⁷, 木村雅彦, 山下康次⁸, 佐々木麻巳子⁹, 婦木亜紀子⁹ (神戸百年記念病院・麻酔科, ²兵庫医科大・リハ部, ³神戸大・保健学科, ⁴市立秋田総合病院・リハ科, ⁵愛知医科大・リハ部, ⁶長崎大・リハ部, ⁷兵庫医療大・理学療法学, ⁸市立函館病院・リハ部, ⁹神戸百年記念病院・リハ部): 適切な呼吸理学療法のための人工呼吸中の肺病態区分. 第 33 回日本呼吸療法医学会, 横浜, 平成 23 年 6 月 10-11 日.
5. 岡村耕一¹, 脊山英徳¹, 小林洋和¹, 西山和利¹, 高橋秀寿, 塩川芳昭¹ (杏林大・医・脳卒中センター): 内頸動脈閉塞症における急性期虚血部位について. 第 10 回日本頸部脳血管治療学会, 大阪, 平成 23 年 6 月 11 日.
6. 西山和利¹, 中山剛志², 本橋尚道², 山田智美¹, 脊山英徳¹, 高橋秀寿, 千葉厚郎³, 岡島康友, 塩川芳昭¹, 武田克彦⁴ (杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・リハ室, ³杏林大・医・神経内科, ⁴国際医療福祉大・神経内科): 大規模急性期脳卒中センターにおける高次脳機能障害スクリーニング~第二報~. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
7. 脊山英徳¹, 小林洋和¹, 西山和利¹, 高橋秀寿, 佐藤栄志², 小西善史², 塩川芳昭¹ (杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・脳外科): 杏林大学病院脳卒中センターにおける内頸動脈内膜剥離術 73 例の治療成績. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
8. 綾野水樹¹, 山田智美¹, 小林洋和¹, 西山和利¹, 脊山英徳¹, 松本由美¹, 千葉厚郎², 岡島康友, 塩川芳昭¹ (杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・神経内科): 脳卒中診療における向精神病薬投与群・非投与群の転帰の検討. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
9. 畑中良¹, 岡村耕一², 脊山英徳², 小林洋和², 西山和利², 高橋秀寿, 塩川芳昭¹ (杏林大・医・脳外科, ²杏林大・医・脳卒中センター): 急性期脳卒中センターにて深部静脈血栓症を合併した 2 症例. 第 40 回脳卒中の外科学会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
10. 岡村耕一¹, 山口竜一¹, 脊山英徳¹, 岡野晴子², 小林洋和², 西山和利², 高橋秀寿, 塩川芳昭¹ (杏林大・医・脳外科, ²杏林大・医・神経内科): 杏林大学病院の脳内出血治療における現状と課題. 第 36 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 23 年 7 月 30-8 月 1 日.
11. 岡村耕一¹, 脊山英徳¹, 小林洋和², 西山和利², 高橋秀寿, 塩川芳昭¹ (杏林大・医・脳外科, ²杏林大・医・神経内科): 頸動脈内膜剥離術における術中超音波検査の有用性. 第 30 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 札幌, 平成 23 年 8 月 26 日.
12. 脊山英徳¹, 小林洋和², 西山和利², 高橋秀寿, 土屋一洋³, 塩川芳昭¹ (杏林大・医・脳外科, ²杏林大・医・脳卒中センター, ³杏林大・医・放射線科): rt-PA 治療における MRI FLAIR 画像の intra arterial hyperintensity sign の意義. 第 30 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 札幌, 平成 23 年 8 月 27 日.
13. 岡島康友: 末梢神経損傷の診断 - 紛らわしい病態に焦点をあてて - (教育講演). 西多摩整形外科医会 2011, 立川, 平成 23 年 9 月 1 日.
14. 團志朗, 都丸哲也¹, 五十嵐有紀子¹, 鬼塚俊朗¹, 野本達哉¹, 佐藤賢治², 千野直一¹, 高橋秀寿, 岡島康友 (永生会永生病院・リハ科, ²永生会永生病院・内科): A 型ボツリヌス毒素治療における小型末梢神経刺激装置・筋電計装置 CHB-101® の紹介. 第 49 回リハビリテーション医学会関東地方会, 東京, 平成 23 年 9 月 10 日.
15. 岡村耕一¹, 山口竜一¹, 脊山英徳¹, 小林洋和², 西山和利², 高橋秀寿, 塩川芳昭¹ (杏林大・医・脳外科, ²杏林大・医・脳卒中センター): 小脳出血手術適応の妥当性について. 第 70 回日本脳神経外科学術総会, 横浜, 平成 23 年 10 月 12-14 日.
16. 脊山英徳¹, 岡村耕一¹, 小林洋和², 西山和利², 高橋秀寿, 栗田浩樹³, 佐藤栄志¹, 小西善史¹, 塩川

芳昭¹ (¹杏林大・医・脳外科, ²杏林大・医・脳卒中センター, ³埼玉医科大・国際医療センター): 杏林大学病院脳卒中センターにおける頸動脈狭窄症治療連続 140 例の成績. 第 70 回日本脳神経外科学術総会, 横浜, 平成 23 年 10 月 12-14 日.

17. 高橋秀寿: 基調講演・脳卒中リハビリテーションにおけるチーム医療. 第 1 回 いばらき神経・運動・機能障害ケア研究会, つくば, 平成 23 年 10 月 29 日.
18. 西川順治, 高橋修¹, 牛島良介², 團志朗, 高橋宣成, 高橋秀寿, 正門由久³, 岡島康友 (¹市川市リハ病院・臨床検査部, ²日本光電・脳神経機器部, ³東海大・医・リハ科): MP 除圧型足底板における痙縮抑制効果の生理学的検討について. 第 41 回日本臨床神経生理学学会学術大会, 静岡, 平成 23 年 11 月 10-12 日.
19. Takahashi H, Nishikawa J, Dan S & Okajima Y: Measurement of reciprocal inhibition from ankle dorsi-flexors to plantar-flexors for stroke patients. 1st Korea-Japan Meeting of Neuro-Rehabilitation, Seoul, Mar. 17, 2012.
20. 林光俊¹, 佐々木紗映², 平川淳一³ 安部学⁴, 川上純範, 岡島康友 (¹杏林大・医・整形外科, ²平川病院・リハ科, ³平川病院・精神科, ⁴目白第 2 病院・整形外科): 精神科単科病院における身体リハビリテーションの概略. 日本リハ医学会 関東地方会, さいたま, 平成 24 年 3 月 24 日.

論 文

1. 山田深: 脳卒中患者における下肢痙縮. Medical Practice 28:1877, 2011.
2. Nishiyama K¹, Seyama H², Okano H¹, Yamada S¹, Yamada S, Kurita H⁴, Chiba A¹, Yamaguchi Y³ & Shiokawa Y² (¹Stroke Center, Kyorin Univ, ²Departments of Neurosurgery, Kyorin Univ, ³Emergency Medicine, Kyorin Univ, ⁴Saitama Medical Univ): Escalation regime of cilostazol for Acute brain infarction. Intern. Med 50:1559-1563, 2011.
3. 平岩直也¹, 岡村耕一¹, 山田智美², 西山和利², 高橋秀寿, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳外科, ²杏林大・医・脳卒中センター): European license に沿った使用制限時間緩和が rt-PA 静注療法に及ぼす影響に関する臨床的検討. Neurosurg Emerg 16:26-33, 2011.
4. 綾野水樹¹, 脊山英徳², 岡村耕一², 小林洋和¹, 西山和利¹, 高橋秀寿, 塩川芳昭² (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・脳外科): 難聴を呈した動脈解離の 2 例. The Mt. Fuji Workshop on CVD vol. 29:151-154, 2011.
5. 岡村耕一¹, 脊山英徳¹, 小林洋和², 西山和利², 高橋秀寿, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳外科, ²杏林大・医・脳卒中センター): 杏林大学病院における脳動脈解離治療の現状と課題. The Mt. Fuji Workshop on CVD vol. 29:45-49, 2011.

6. 脊山英徳¹, 岡野晴子², 小林洋和², 西山和利², 高橋秀寿, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳外科, ²杏林大・医・脳卒中センター): 後下小脳動脈に局限した動脈解離の自然歴. The Mt. Fuji Workshop on CVD vol. 29:187-189, 2011.
7. 木村雅彦: 全身炎症と急性期の理学療法. 理学療法ジャーナル 45: 711-716, 2011.
8. 木村雅彦, 松永篤彦¹ (¹北里大学医療衛生学部): 高齢者の呼吸・循環・嚥下障害に対する理学療法の方. 理学療法 28: 1091-1100, 2011.
9. 山田深: 宇宙医学とリハビリテーション医学の架け橋. 臨床リハビリテーション 20:904-913, 2011.
10. 團志朗, 飯田達能¹, 安藤高夫¹, 五十嵐有紀子², 都丸哲也², 鬼塚俊朗², 野本達哉², 千野直一², 岡島康友 (¹永生病院・内科, ²永生病院・リハビリ科): 慢性期片麻痺患者の上肢機能に対する A 型ボツリヌス毒素治療と治療後の随意運動介助型電気刺激 (Integrated Volitional control Electrical Stimulator:IVES) の試み. 日大医学雑誌 70:259-263, 2011.
11. 高橋秀寿, 西川順治, 團志朗, 岡島康友: 脳卒中リハビリテーションの新しい展開-リハビリテーションシステム-. 総合リハビリテーション 39:1135-1142, 2011.

著 書

1. 岡島康友: リハビリテーションと現状. 下肢救済のための創傷治療とケア. 大浦紀彦編. 東京, 照林社, 2011. p. 266-267.
2. 岡島康友: 高齢者のリハビリテーション. 下肢救済のための創傷治療とケア. 大浦紀彦編. 東京, 照林社, 2011. p. 283-285.
3. 團志朗, 斎藤ゆかり¹, 千野直一² (¹永生会永生クリニック・看護部, ²永生会永生病院・リハビリ科): 第 2 章ボツリヌス治療の実際. 脳卒中痙性麻痺のボツリヌス治療. 千野直一編. 東京, 金原出版, 2011. p. 41-78.
4. 高橋秀寿, 井口陽子¹ (¹慶応義塾大学・医・リハ科): 急性リンパ性白血病のリハビリテーション. がんのリハビリテーションマニュアル. 辻哲也編. 東京, 医学書院, 2011. p. 247-251.
5. 高橋秀寿: リハビリテーション計画の立て方. 小児リハビリテーションポケットマニュアル. 栗原まな監修, 本田真美他編. 東京, 診断と治療社, 2011. p. 191-193.
6. 高橋秀寿: リハビリテーション計画の区分. 小児リハビリテーションポケットマニュアル. 栗原まな監修, 本田真美他編. 東京, 診断と治療社, 2011. p. 194-197.
7. 岡島康友: 脳血管障害による運動麻痺のリハビリテーション. 今日の治療指針 2012. 山口徹, 北原光夫, 福井次矢編. 東京, 医学書院, 2012. p. 816.
8. 岡島康友: 第 19 章 慢性疼痛. 標準リハビリテ

ーション第3版. 上田敏監編. 東京, 医学書院, 2012. p. 470-474.

その他

- 岡島康友: あきらめないで, 脳卒中のリハビリ。きょうの健康. p. 78-86. 2011.
- 木村雅彦: 無気肺の成因からみた呼吸理学療法の意義. 第33回日本呼吸療法医学会コメディカル講習会, 横浜, 平成23年6月11日.
- 高橋秀寿: 特別講演 よくわかる嚥下のリハビリテーション. 第7回日野市病診連携NST栄養セミナー, 日野, 平成23年6月17日.
- 高橋秀寿: 総論. 第7回看護師・コメディカルのためのFIM(機能的自立度評価法)講習会, 三鷹, 平成23年7月10日.
- 團志朗: 移乗・移動. 第7回看護婦とコメディカルのためのFIM講習会, 三鷹, 平成23年7月10日.
- 高橋秀寿: 脳卒中の装具療法. 366リハビリテーション病院定期講演会, 府中, 平成23年7月27日.
- 高橋秀寿: わかりやすい嚥下障害のリハビリテーション. 稲城市立病院講演会, 稲城, 平成23年7月29日.
- 高橋秀寿, 森光代¹(¹杏林大・医・リハ室): 関節リウマチのリハビリテーション. 第2回杏林大学病院リウマチ膠原病教室, 三鷹, 平成23年7月30日.
- 岡島康友: 急性期リハビリテーション医療体制の現状と今後(特別講演). 第1回東京都理学療法士会診療報酬座談会, 三鷹, 平成23年11月22日.
- 高橋秀寿: 総論 第8回看護師・コメディカルのためのFIM(機能的自立度評価法)講習会, 三鷹, 平成23年12月4日.
- 團志朗: 移乗・移動. 第8回看護婦とコメディカルのためのFIM講習会, 三鷹, 平成23年12月4日.
- Kimura M: Acute phase rehabilitation for the patients undergoing intensive care. 同済大学附属同済病院開院20周年記念 内部障害リハビリテーション国際シンポジウム, Shanghai, Nov. 5, 2011.

「リハビリテーション室」

口 演

- 竹田紘崇, 丹波光子¹(¹杏林大・看護部): リハビリテーション・シーティングとポジショニング. 日本褥瘡学会関東甲信越地方会教育セミナー, 横浜, 平成23年6月3日.
- 樺村美津子, 高橋秀寿¹, 岡島康友¹, 鳥居正剛², 塩川芳昭²(¹杏林大・医・リハ医学, ²杏林大・医・脳外科): 右手に他人の手徴候を呈し書字困難となった一例. 第12回日本言語聴覚学会, 郡山, 平成23年6月17-18日.

- 鈴本和基, 藤田博暁¹, 新井智之¹(¹埼玉医科大学保健医療学部): 呼吸延長呼吸が回復過程の換気応答に与える影響. 第30回東京都理学療法学会大会, 東京, 平成23年6月26日.
- 境哲生, 高橋秀寿¹, 岡島康友¹, 小林啓一², 永根基雄², 塩川芳昭²(¹杏林大・医・リハ医学, ²杏林大・医・脳外科): 悪性脳腫瘍患者のリハビリテーション. 第19回日本ホスピス・在宅ケア研究会, 宜野湾, 平成23年7月16-17日.
- 西田悠一郎, 合田あゆみ¹, 須崎由香, 佐藤徹¹, 岡島康友², 吉野秀朗¹(¹杏林大・医・循環器内科, ²杏林大・医・リハ医学): 肺高血圧患者の運動耐容能とQuality of Life. 第17回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 大阪, 平成23年7月16-17日.
- 本橋尚道, 城間敏子, 宅美貴子, 小林洋和¹, 脊山英徳⁴, 西山和利¹, 高橋秀寿², 千葉厚郎³, 岡島康友², 塩川芳昭⁴(¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・リハ医学, ³杏林大・医・神経内科, ⁴杏林大・医・脳外科): 急性期脳卒中における右半側空間無視の発症率と発症部位についての検討. 第36回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成23年7月30-8月1日.
- 東條友紀子, 八並光信¹, 神山裕司, 高橋秀寿², 岡島康友², 西山和利³, 松本由美³, 千葉厚郎⁴, 塩川芳昭⁵(¹杏林大・保・理学療法, ²杏林大・医・リハ医学, ³杏林大・医・脳卒中センター, ⁴杏林大・医・神経内科, ⁵杏林大・医・脳外科): 急性期脳卒中における入院時基本動作能力を用いた歩行能力の予後予測 第2報. 第36回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成23年7月30-8月1日.
- 宅美貴子, 西山和利¹, 本橋尚道, 城間敏子, 脊山英徳², 小林洋和¹, 高橋秀寿³, 岡島康友³, 千葉厚郎⁴, 塩川芳昭²(¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・脳外科, ³杏林大・医・リハ医学, ⁴杏林大・医・神経内科): 脳血管障害脳幹病巣における神経心理学的検討. 第36回日本脳卒中学会, 京都, 平成23年7月30-8月1日.
- 竹田紘崇, 櫻井俊光, 和田裕雄¹, 秋山陽子², 岡島康友³, 滝澤始¹, 後藤元¹(¹杏林大・医・呼吸器内科, ²杏林大・看護部, ³杏林大・医・リハ医学): 杏林大学HOT外来の2年間の動向. 第21回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 松本, 平成23年11月3-4日.
- 櫻井俊光, 竹田紘崇, 和田裕雄¹, 中村益夫¹, 秋山陽子², 岡島康友³, 滝澤始¹, 後藤元¹(¹杏林大・医・呼吸器内科, ²杏林大・看護部, ³杏林大・医・リハ医学): 筋力・呼吸機能に変化がないがADLに変化をきたしたHOT導入患者2症例の比較. 第21回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 松本, 平成23年11月3-4日.
- 西田悠一郎, 合田あゆみ¹, 片岡雅晴¹, 佐藤徹¹, 岡島康友², 吉野秀朗¹(¹杏林大・医・循環器内科, ²杏林大・医・リハ医学): Factors Determining

Six-minute-walk Distance in Patients with Pulmonary Hypertension. 第76回日本循環器学会学術集会, 福岡, 平成24年3月16-18日.

その他

1. 鈴木和基: 大会長賞受賞 第30回東京都理学療法学術大会, 東京, 平成23年6月26日.
2. 石田幸平: 講師 第7回看護師・コメディカルのためのFIM講習会, 三鷹, 平成23年7月10日.
3. 石田幸平: 主催 東京都作業療法士会現職者選択研修(身体障害領域), 東京, 平成23年10月15日.
4. 森光代: 講師 第8回看護師・コメディカルのためのFIM講習会, 三鷹, 平成23年12月4日.
5. 西田悠一郎: 講師 総合的な学習の時間・キャリア教育の一環「理学療法士のはなし」, 東京, 平成24年2月29日.
6. 石田幸平: 主催 東京都作業療法士基礎研修「脳血管疾患に対する介入のポイント」, 東京, 平成24年3月11日.

医学教育学教室

口 演

〈学会, 研究会〉

1. 富田泰彦: 研修医に関するインシデントの傾向と対策. 第43回医学教育学会大会, 広島, 平成23年7月23日.
2. 赤木美智男: 卒前・卒後におけるプロフェッショナルナリズム教育の実際(特別講演). 第11回日本小児医学教育研究会, 東京, 平成23年12月3日.

〈講演会〉

1. 富田泰彦: 医学部教育の新しい流れ. 東京都立大学付属高等学校模擬授業, 東京, 平成23年7月14日.
2. 富田泰彦: “JIN-仁-”の医療監修を通して思う「医療人の心構え」. 杏林大学医学部模擬授業, 東京, 平成23年7月30日.
3. 赤木美智男: 医療人プロフェッショナルナリズム. 東京薬科大学卒後教育講座, 東京, 平成23年9月11日.
4. 赤木美智男: 学校心臓検診の視点から見た児童生徒の心疾患とその管理. 三鷹市医師会学術講演会, 東京, 平成23年10月7日.
5. 赤木美智男: 医療系学部におけるプロフェッショナルナリズム教育. 第1回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ, 東京, 平成23年12月27日.

論 文

1. 富田泰彦, 北原るり子¹, 赤木美智男 (杏林大学医学部付属病院医療安全管理室): 初期臨床研修医に関連したインシデントの傾向と対策. 病院70: 953-957, 2011.
2. 石井誠一¹, 寺嶋吉保¹, 阿部好文¹, 赤木美智男, 秋田穂束¹, 上野滋¹, 植村和正¹, 平形道人¹ (杏林大学)

本医学教育学会臨床能力委員会): 臨床実習開始後の到達度評価OSCE 本邦80大学医学部における実施状況. 医学教育 42: 383-389, 2011.

3. 富田泰彦, 赤木美智男, 加藤雅江¹ (杏林大・医・付属病院地域医療連携室): 病院職員向け医療コミュニケーション研修の現状と課題. 全国自治体病院協議会雑誌 51: 174-176, 2012.

その他

〈教育関係〉

1. 赤木美智男: 杏林大学医学部付属病院第14回指導医養成ワークショップ. 主催責任者(ディレクター), 東京, 平成23年5月25-26日.
2. 赤木美智男: 全国自治体病院協議会第94回臨床研修指導医養成講習会. 講師(チーフタスクフォース), 東京, 平成23年9月16-18日.
3. 赤木美智男: 全国自治体病院協議会第96回臨床研修指導医養成講習会. 講師(タスクフォース), 東京, 平成23年12月17-19日.
4. 赤木美智男: 日本小児科学会第7回小児科医のための臨床研修指導医講習会. 世話人(タスクフォース), 千葉, 平成24年1月6-8日.
5. 赤木美智男: 聖隷福祉事業団指導医養成講習会. タスクフォース, 浜松, 平成24年2月18-19日.
6. 富田泰彦: 杏林大学医学部付属病院第14回指導医養成ワークショップ. チーフタスクフォース, 東京, 平成23年5月25-26日.
7. 富田泰彦: 全国自治体病院協議会第94回臨床研修指導医養成講習会. 講師(タスクフォース), 東京, 平成23年9月16-18日.

〈医事指導〉

1. 富田泰彦: NHK連続テレビ小説 おひさま. 月～土 7:30～7:45放送, 平成23年4月4日-10月1日.
2. 富田泰彦: NHK土曜ドラマスペシャル 神様の女房. 土 21:00～22:15放送, 平成23年10月1-15日.

解剖学教室

(肉眼解剖学)

口 演

1. 灰塚嘉典, 松井利康¹, 松村譲児, 小林靖¹ (防衛医大・解剖学): 舌下神経核に“C-terminal”を含むコリン作動性終末を送るニューロンの定量的解析. 第34回日本神経科学大会—こころの脳科学—. 横浜. 平成23年9月14-17日.
2. 本郷悠^{1,2}, 灰塚嘉典, 松井利康¹, 松村譲児, 小林靖¹ (防衛医大・解剖, ²防衛医大・内科3): マウス鯉弓由来運動神経核に分布するコリン作動性終末“C-terminal”起始細胞の同定. 第34回日本神経科学大会—こころの脳科学—. 横浜. 平成23年9月14-17日.
3. 天野カオリ, 堀江沙和¹, 島田和幸², 松村譲児 (岩手医大・歯・生理・腫瘍生物, ²鹿児島大・歯・

解剖) : ヒト胎児耳下腺管壁における神経分布の免疫組織学的観察. 第53回歯科基礎医学会学術大会・総会. 岐阜. 平成23年9月30-10月2日.

4. 天野カオリ: 大学所蔵遺体を使用した肉眼形態学的ならびに免疫組織学的研究. —ヒト耳下腺管の構造と形成過程について—. 医学部大学院講義. 三鷹. 平成24年2月29日.
5. 天野カオリ, 森山浩志¹, 島田和幸², 松村讓児¹ (昭和大・医・解剖二, ²鹿児島大・歯・解剖): ヒト耳下腺管壁における神経分布の免疫組織学的観察. 第117回日本解剖学会総会・全国学術集会. 山梨. 平成24年3月26-28日.

論文

1. 松村讓児, 七戸俊明¹, 近藤哲¹, 井出千束², 樋口範雄³, 相磯貞和⁴, 坂井建雄⁵, 吉田一成⁶, 小林英司⁷, 辰巳治之⁸, 八木沼洋行⁹, 菱川修司¹⁰, 杉本真樹¹¹, 伊澤祥光¹², 今西宣晶⁴ (¹北海道大・大学院・医学研・腫瘍外, ²藍野大・医療保健・再生医療研, ³東京大・大学院・法学政治研, ⁴慶應義塾大・医・解剖, ⁵順天大・医・解剖・生体構造科学, ⁶慶応義塾大・医・脳神経外, ⁷自治医科大・先端医療技術開発センター先端治療開発, ⁸札幌医科大・医・解剖1, ⁹福島県立医大・医・神経解剖・発生, ¹⁰自治医科大・先端医療技術開発センター医療技術トレーニング, ¹¹神戸大・大学院・医学研・消化器内科, ¹²自治医科大・救急医学): 「臨床医学の教育研究における死体解剖のガイドライン案」とその解説. 解剖誌 86: 33-37, 2011.

著書

1. 松村讓児: 臨床につながる解剖学 イラストレイテッド. 東京, 羊土社, 2011. 協力 土屋一洋
2. 松村讓児 (編集・執筆): MR テキスト II 疾病と治療 2012 基礎. 公益財団法人 MR 認定センター教育研修委員会監修. 東京, 南山堂, 2012.
3. 松村讓児 (編集): MR テキスト II 疾病と治療 2012 臨床. 公益財団法人 MR 認定センター教育研修委員会監修. 東京, 南山堂, 2012.
4. 松村讓児他: カラー図説 人体の正常構造と機能 VII 血液・免疫・内分泌. 第2版. 東京, 日本医事新報社. 2012.
5. 松村讓児 (監修): 病気がみえる Vol. 8. 腎・泌尿器. 東京, メディックメディア, 2012.
6. 松村讓児 (監修): 病気がみえる Vol. 3. 糖尿病・代謝・内分泌. 東京, メディックメディア, 2012.

その他

1. 松村讓児, 八木沼洋行¹, 森千里², 前田健康³, 荒木伸一⁴, 野田泰子⁵, 仲嶋一範⁶ (¹福島県立医大・医・神経解剖・発生, ²千葉大・大学院・医学研・環境生命医, ³新潟大・大学院医歯総合研・口腔解剖学, ⁴香川大・医形態・機能医学組織細胞生物, ⁵自治医科大・医・解剖, ⁶慶應義塾大・医・解剖・神経発生): 日本解剖学会 将来計画ワーキンググループ最終答申. 解剖学雑誌 86 (別

刷): 39-44, 2011. (オブザーバー: 河田光博¹, 岡部繁男² (¹京都府立医科大・大学院・医研生体構造, ²東京大・大学院・医研神経細胞生物))

2. 松村讓児: もっと知りたい からだの仕組み 手. NHK テレビテキスト きょうの健康 4: 122, 東京, NHK, 2012.
3. 松村讓児: 平成22年度総括研究報告書 厚生労働省科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業: サージカルトレーニングのあり方に関する研究. 2011. (研究代表者: 近藤哲¹, 七戸俊明¹) (¹北大・大学院・医研腫瘍外) (補足)

解剖学教室

(顕微解剖学)

口演

1. 秋元義弘, 上山盛夫¹, 一宮智美¹, 福田稔², 松原幸枝², 川上速人, 西原祥子¹ (¹創価大・工・生命情報, ²杏林大・医・電子顕微鏡室): *Drosophila* の O-マンノース転移酵素突然変異体における筋組織の微細構造解析. 日本顕微鏡学会第67回学術講演会, 福岡, 平成23年5月16-18日.
2. 石川崇広¹, 竹本稔², 秋元義弘, 目澤守人¹, 鶴谷悠也¹, 大西俊一郎¹, 岡部恵見子¹, 楊國昌³, 藤本昌紀², 横手幸太郎^{1,2} (¹千葉大院・医・細胞治療内科学, ²千葉大・医・附属病院・糖尿病・代謝・内分泌内科, ³杏林大・医・小児科): ポドサイト特異的遺伝子 R3hdml の機能解析. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会, 札幌, 平成23年5月19-21日.
3. 石川崇広¹, 竹本稔², 秋元義弘, 目澤守人¹, 鶴谷悠也¹, 大西俊一郎¹, 岡部恵見子¹, 楊國昌³, 藤本昌紀², 横手幸太郎^{1,2} (¹千葉大院・医・細胞治療内科学, ²千葉大・医・附属病院・糖尿病・代謝・内分泌内科, ³杏林大・医・小児科): ポドサイト特異的遺伝子 R3hdml の糸球体発現遺伝子に与える影響に関する検討. 第54回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 平成23年6月15-17日.
4. 秋元義弘: 糖の組織化学. 第36回組織細胞化学講習会, 三鷹, 平成23年8月3-5日.
5. 宮東昭彦: 画像解析技術の活用法. 第36回組織細胞化学講習会, 三鷹, 平成23年8月3-5日.
6. Kawakami H: Immunohistochemical detection of glycolipids in various tissues of rat. 21st International Symposium on Glycoconjugates (Glyco XXI), Vienna, Aug. 21-26, 2011.
7. Akimoto Y, Miura Y¹, Toda T¹, Wolfert MA², Wells L^{2,3,4}, Boons G-J^{2,3}, Hart GW⁵, Endo T¹, Kawakami H (¹Research Team for Mechanism of Aging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ²Complex Carbohydrate Research Center, University of Georgia, ³Department of Chemistry, University of Georgia, ⁴Department of Biochemistry and Molecular Biology, University

- of Georgia, ⁵Department of Biological Chemistry, Johns Hopkins University School of Medicine): Elevated *O*-GlcNAc modification of proteins in diabetic kidney. 21st International Symposium on Glycoconjugates (Glyco XXI), Vienna, Aug. 21-26, 2011.
8. Ueyama M¹, Akimoto Y, Ichimiya T¹, Ueda R², Nishihara S¹ (¹Department of Bioinformatics, Soka University, ²Invertebrate Genetics Laboratory, National Institute Genetics): Disorganization of muscle ultrastructure along with defective motor function and increased apoptosis of myoblasts in *Drosophila* model for the Walker-Warburg syndrome. 21st International Symposium on Glycoconjugates (Glyco XXI), Vienna, Aug. 21-26, 2011.
 9. 三宅正紀¹, 吉田一平¹, 山本みな実¹, 杉山亜由美¹, 秋元義弘, 川上速人, Kwaik YA², 今井康之¹ (¹静岡県大・薬・免疫微生物学, ²ルイビル大・医・免疫微生物学): 細胞内増殖性を欠損したレジオネラ強細胞毒性株の性状解析. 第23回微生物シンポジウム, 銚子, 2011年9月2-3日.
 10. Miyake M¹, Yoshida I¹, Yamamoto M¹, Sugiyama A¹, Akimoto Y, Kawakami H, Kwaik YA², Imai Y¹ (¹Laboratory of Microbiology & Immunology, University of Shizuoka, School of Pharmaceutical Sciences, ²Department of Microbiology & Immunology, University of Louisville, School of Medicine): Characterization of *Legionella* hyper-toxic mutants which are intracellular growth-deficient (Tox^h mutants) for infectivity to host cells. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS2011), Sapporo, Sep. 6-10, 2011.
 11. Ishikawa T¹, Takemoto M², Akimoto Y, Yan K³, Betsholtz C⁴, Tryggvason K⁴, Yamamoto M¹, Alitalo K⁴, Yokote K¹ (¹Department of Clinical Cell Biology and Medicine, Chiba University Graduate School of Medicine, ²Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Chiba University Hospital, ³Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ⁴Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Division of Matrix Biology, Karolinska Institutet): R3h-domain containing like protein is a novel regulator of glomerular basement membrane. 47th Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (47th EASD Annual Meeting), Lisbon, Sep. 12-16, 2011.
 12. 光永一中坪敬子¹, 秋元義弘, 楠慎一郎², 山下一郎³, 川上速人, 安増茂樹⁴ (¹広島大院・理・数理分子生命, ²LSL, ³広島大・自然センター・遺伝子, ⁴上智大・理工・物質生命): アリールスルファターゼ B (ArsB) のメダカ胚形態形成における機能の解析. 日本動物学会第82回年次大会, 旭川, 平成23年9月21-23日.
 13. 杉崎健太郎¹, 花輪智子¹, 米澤英雄¹, 大崎敬子¹, 蔵田訓¹, 川上速人, 神谷茂¹ (¹杏林大・医・感染症学): 百日咳菌の緊縮応答シグナル分子 (p) ppGpp 生合成酵素遺伝子欠損変異株の性状. 第94回日本細菌学会関東支部総会, 東京, 平成23年10月6-7日.
 14. 石川崇広¹, 竹本稔², 秋元義弘, 大西俊一郎¹, 岡部恵見子¹, 楊國昌³, 石橋亮一¹, 藤本昌紀², 横手幸太郎^{1,2} (¹千葉大院・医・細胞治療内科学, ²千葉大・医・附属病院・糖尿病・代謝・内分泌内科, ³杏林大・医・小児科): ポドサイト特異的遺伝子 R3hdml の機能の解析. 第26回日本糖尿病合併症学会, さいたま, 平成23年10月14-15日.
 15. Sugisaki K¹, Hanawa T¹, Yonezawa H¹, Osaki T¹, Kurata S¹, Kawakami H, Kamiya S¹ (¹Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine): Deletion of alarmon synthetase altered physiology and biofilm formation of *Bordetella pertussis*. The Joint Meeting of the 17th International Symposium on Gnotobiology (ISG) and the 34th Congress of Society for Microbial Ecology and Disease, Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
 16. 石橋亮一¹, 竹本稔², 秋元義弘, 藤本昌紀², 大西俊一郎¹, 石川崇広¹, 岡部恵見子¹, Betsholtz C³, 横手幸太郎^{1,2} (¹千葉大院・医・細胞治療内科学, ²千葉大・医・附属病院・糖尿病・代謝・内分泌内科, ³カロリンスカ研) 腎糸球体上皮細胞 (ポドサイト): 特異的遺伝子 Semaphorin 3g の機能解析. 第23回日本糖尿病性腎症研究会, 東京, 平成23年12月3-4日.
 17. 光永一中坪敬子¹, 秋元義弘, 楠慎一郎², 山下一郎³, 川上速人, 赤坂甲治⁴, 安増茂樹⁵ (¹広島大院・理・数理分子生命, ²LSL, ³広島大・自然センター・遺伝子, ⁴東京大院・理・臨海, ⁵上智大・理工・物質生命): 細胞外基質アリールスルファターゼ B (ArsB) の発現と機能解析. 日本動物学会中国四国支部, 広島県例会, 東広島, 平成24年3月3日.
 18. 秋元義弘, 三浦ゆり¹, 戸田年総¹, Hart GW², 遠藤玉夫¹, 川上速人 (¹都健康長寿医療センター研・老化機構, ²Department of Biological Chemistry, Johns Hopkins University School of Medicine): 糖尿病に伴う腎臓における α -アクチニン4の局在の変化. 第117回日本解剖学会総会・全国学術集会, 甲府, 平成24年3月26-28日.
- 論 文
1. Akimoto Y, Miura Y¹, Toda T¹, Wolfert MA², Wells L^{2,3,4}, Boons G-J^{2,3}, Hart GW⁵, Endo T¹, Kawakami H (¹Research Team for Mechanism

- of Aging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ²Complex Carbohydrate Research Center, University of Georgia, ³Department of Chemistry, University of Georgia, ⁴Department of Biochemistry and Molecular Biology, University of Georgia, ⁵Department of Biological Chemistry, Johns Hopkins University School of Medicine): Morphological changes in diabetic kidney are associated with increased O-GlcNAcylation of cytoskeletal proteins including α -actinin 4. *Clin Proteom* 8: 15, 2011.
2. Endo Y¹, Suzuki M¹, Yamada H¹, Horita S¹, Kunimi M¹, Yamazaki O¹, Shirai A¹, Nakamura M¹, Iso-O N¹, Li Y^{1,3}, Hara M¹, Tsukamoto K¹, Moriyama N⁴, Kudo A, Kawakami H, Yamauchi T¹, Kubota N¹, Kadowaki T, Kume H², Enomoto Y², Homma Y², Seki G¹, Fujita T¹ (¹Department of Internal Medicine, University of Tokyo, ²Department of Urology, Faculty of Medicine, University of Tokyo, ³Department of Nephrology, People's Hospital, Peking University, ⁴Department of Experimental Nursing, Faculty of Nursing, Fukuoka Prefectural University): Thiazolidinediones enhance sodium-coupled bicarbonate absorption from renal proximal tubules via PPAR γ -dependent nongenomic signaling. *Cell Metab* 13: 550-561, 2011.
 3. Ito N¹, Nishibori Y¹, Ito Y¹, Takagi H¹, Akimoto Y, Kudo A, Asanuma K², Sai Y³, Miyamoto K³, Takenaka H⁴, Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Internal Medicine, Juntendo University School of Medicine, ³Department of Hospital Pharmacy, Kanazawa University, ⁴Department of Biochemistry, Kyorin University School of Medicine): mTORC1 activation triggers the unfolded protein response in podocytes and leads to nephrotic syndrome. *Lab Invest* 91: 1584-1595, 2011.
 4. Obinata A¹, Osakabe K¹, Yamaguchi M¹, Morimoto R¹, Akimoto Y (¹Department of Physiological Chemistry II, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Teikyo University): Tgm2/Gh, Gbx1 and TGF- β are involved in retinoic acid-induced transdifferentiation from epidermis to mucosal epithelium. *Int J Dev Biol* 55: 933-943, 2011.
 5. Obinata A¹, Akimoto Y (¹Department of Physiological Chemistry II, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Teikyo University): Transdifferentiation of epidermis to mucous epithelium by retinol accompanies increase in *transglutaminase 2/Gh* and decrease in *transglutaminase 3*. *Biol Pharm Bull* 34: 1227-1230, 2011.
 6. Morimoto R¹, Yamamoto A², Akimoto Y, Obinata A¹ (¹Department of Physiological Chemistry II, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Teikyo University, ²Department of Animal Bioscience, Faculty of Bio-Science, Nagahama Institute of Bioscience and Technology): Homeoprotein Hex is expressed in mouse developing chondrocytes. *J Biochem* 150: 61-71, 2011.
 7. Kurayama R¹, Ito N¹, Nishibori Y¹, Fukuhara D¹, Akimoto Y, Higashihara E², Ishigaki Y³, Sai Y⁴, Miyamoto K⁴, Endou H⁵, Kanai Y⁶, Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, ³Medical Research Institute, Kanazawa Medical University, ⁴Department of Hospital Pharmacy, Kanazawa University, ⁵Department of Toxicology and Pharmacology, Kyorin University School of Medicine, ⁶Department of Pharmacology, Osaka University Graduate School of Medicine): Role of amino acid transporter LAT2 in the activation of mTORC1 pathway and the pathogenesis of crescentic glomerulonephritis. *Lab Invest* 91: 992-1006, 2011.
 8. Sato T^{1,2,*}, Aiyama Y^{1,*}, Ishii-Inagaki M¹, Hara K³, Tsunekawa N¹, Harikae K¹, Uemura-Kamata M^{1,4}, Shinomura M¹, Zhu XB¹, Maeda S⁵, Kuwahara-Otani S⁵, Kudo A, Kawakami H, Kanai-Azuma M⁴, Fujiwara M², Miyamae Y², Yoshida S³, Seki M⁵, Kurohmaru M¹, Kanai Y¹ (¹Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo, ²Drug Safety Research Labs, Astellas Pharma Inc, ³Division of Germ Cell Biology, National Institute for Basic Biology and Department of Basic Biology, School of Life Science, Graduate University for Advanced Studies (SOKENDAI), ⁴Center for Experimental Animal, Tokyo Medical and Dental University, ⁵Division of Cell Biology, Department of Anatomy, Hyogo College of Medicine, *equal contribution): Cyclical and patch-like GDNF distribution along the basal surface of Sertoli cells in mouse and hamster testes. *PLoS One* 6: e28367, 2011.
- 著書
1. 秋元義弘, 川上速人: 糖の組織化学. 組織細胞化学 2011. 日本組織細胞化学会編. 学際企画, 東京, 2011, p. 141-153.
 2. 宮東昭彦, 川上速人: 画像解析技術の活用法. 組織細胞化学 2011. 日本組織細胞化学会編. 学際企画, 東京, 2011, p. 181-190.
 3. 秋元義弘, 三宅正紀¹ (¹静岡県大・薬・免疫微生物学): 図II-2 細菌の超薄切片像. 微生物学—病原微生物の基礎—改訂第6版. 今井康之, 増澤俊幸編. 南江堂, 東京, 2011, p. 12.

統合生理学教室

口 演

1. 高橋俊光^{1,2,3}, 滝川順子¹, 川越礼子¹, 岩野孝之^{1,3}, 渋谷賢, 北澤茂^{1,2,3} (¹順天堂大・医・第一生理, ²科学技術振興機構, CREST, ³産業総合研究所): 文字流暢性課題遂行時の前額部 NIRS(近赤外スペクトロスコピー) 信号への皮膚血流の影響. 日本光脳機能イメージング研究会第14回大会, 東京, 平成23年7月23日.
2. 高橋俊光^{1,2,3}, 滝川順子¹, 川越礼子¹, 岩野孝之^{1,3}, 渋谷賢, 北澤茂^{1,2,3} (¹順天堂大・医・第一生理, ²科学技術振興機構, CREST, ³産業総合研究所): 文字流暢性課題時の NIRS 信号への皮膚血流の影響. 脳と心のメカニズム 第12回夏のワークショップ, 神戸, 平成23年8月21日.
3. 大木紫, 五十嵐一峰¹, 佐野秀仁¹, 高橋雅人¹, 市村正一¹, 里見和彦¹, 渋谷賢 (¹杏林大・医・整形外科) 到達運動を用いた頸髄症患者の運動機能評価, 日本神経科学学会第34回大会, 横浜, 平成23年9月16日.
4. 渋谷賢, 百瀬修久⁴, 高橋俊光^{1,2,3}, 大木紫 (¹順天堂大・医・第一生理, ²科学技術振興機構, CREST, ³産業総合研究所, ⁴東邦大・医・看護学科): 到達把持運動に伴う身体近傍空間の変化. 日本神経科学学会第34回大会, 横浜, 平成23年9月17日.
5. 平井直樹, 本郷利憲¹, 佐々木成人¹, 内藤公郷¹, 稲富貴美, 魚谷恭太郎 (¹東京都神経科学研究所): 道具で物を操作する運動の学習過程: ピンセットを使い始めたサル. 日本神経科学学会第34回大会, 横浜, 平成23年9月17日.
6. 平井直樹, 本郷利憲¹, 佐々木成人¹, 稲富貴美, 魚谷恭太郎 (¹東京都神経科学研究所): 道具で物をつかむ運動の学習過程: ピンセットを使い始めたサル. 第65回日本人類学会, 那覇, 平成23年11月6日.
7. Shibuya S, Momose N⁴, Takahashi T^{1,2,3}, Ohki Y (¹順天堂大・医・第一生理, ²科学技術振興機構, CREST, ³産業総合研究所, ⁴東邦大・医・看護学科): Localized remapping of peripersonal space toward object induced by prehension. Society for Neuroscience 41st annual meeting, Washington, D. C., Nov. 13, 2011.
8. Takahashi T^{1,2,3}, Takikawa Y¹, Kawagoe R¹, Shibuya S, Iwano T^{1,3}, Kitazawa S^{1,2,3} (¹順天堂大・医・第一生理, ²科学技術振興機構, CREST, ³産業総合研究所): Influence of skin blood flow on near-infrared spectroscopy signals during a verbal fluency task. Society for Neuroscience 41st annual meeting Washington, D. C., Nov.14, 2011.
9. Yagi J, Kobayashi Y¹, McCleskey EW², N Hirai (¹防衛医大・医・解剖, ²Howard Hughes Med. Inst.) : Blockade of action potential propagation by GABA(A) receptor activation in rat dorsal root

ganglion neurons. Society for Neuroscience 41st annual meeting Washington, D. C., Nov.14, 2011.

10. Ohtsuka H¹, Sasada S², Nakajima T³, Futatsubashi G², Ogata T³, Shimizu E¹, Komiyama T⁴, Ohki Y (¹千葉大・医・生理, ²学芸大・連合大学院, ³国立リハビリテーションセンター, ⁴千葉大・教育・保健体育): Excitations from the cortical arm area to the contralateral thigh muscles are partly mediated by cervical long propriospinal neurons in humans. Society for Neuroscience 41st annual meeting, Washington, D. C., Nov. 16, 2011.

論 文

1. Takahashi T^{1,2,3}, Takikawa Y¹, Kawagoe R¹, Shibuya S, Iwano T^{1,3} & Kitazawa S^{1,2,3} (¹順天堂大・医・第一生理, ²科学技術振興機構, CREST, ³産業総合研究所) Influence of skin blood flow on near-infrared spectroscopy signals measured on the forehead during a verbal fluency task. Neuroimage. 57: 991-1002, 2011.
2. Igarashi K¹, Shibuya S, Sano H¹, Takahashi M¹, Satomi K¹, Ohki Y (¹杏林大・医・整形外科) Functional assessment of proximal arm muscles by target-reaching movements in patients with cervical myelopathy, Spine J 11: 270-280, 2011.

細胞生理学教室

口 演

1. Suga K, Saito A, Mishima T, Akagawa K: Increased expression of Syntaxin5 isoforms under ER stress. 第63回日本細胞生物学会大会, 札幌, 平成22年6月27日.
2. 三嶋竜弥, 藤原智徳, 真田ますみ, 小藤剛史, 赤川公朗: シンタキシン1 B ノックアウトマウスの神経機能における表現型の解析: シナプス伝達におけるシンタキシン1 A とシンタキシン1 B の機能的差異. 第34回日本神経科学大会, 横浜, 平成22年9月14-17日.
3. 小藤剛史, 藤原智徳, 真田ますみ, 三嶋竜弥, 赤川公朗: HPC-1/STX1A 欠損と STX1B 欠損による培養神経細胞の生存への影響. 第34回日本神経科学大会, 横浜, 平成22年9月14-17日.
4. 小山内実^{1,2}, 松村明弘³, 藤原智徳, 森一生¹, 赤川公朗, 八木哲也³ (¹東北大院・医・医用画像工 学, ²JST, CREST / JST, CREST, Tokyo, Japan, ³大阪大院・工・電気電子情報): HPC-1/syntaxin 1A ノックアウトマウスでは皮質信号伝播が減弱する. 第34回日本神経科学大会, 横浜, 平成22年9月14-17日.
5. 中山高宏, 上口裕之¹, 赤川公朗 (理研 BSI・神経成長機構): syntaxin 1 C は微小管不安定化作用を介して膜輸送を抑制する. 第84回日本生化学会大会, 京都, 平成22年9月21-24日.

6. Ray Ishizaki¹, Hao Wang¹, Tomonori Fujiwara, Kimio Akagawa, and Tetsuro Izumi¹ (¹Department of Molecular Medicine, Institute for Molecular and Cellular Regulation, Gunma University): Analyses of insulin-granule docking and fusion in Granuphilin- and/or Syntaxin-1a- knockout mice. 第 84 回日本生化学会大会, 京都, 平成 22 年 9 月 21-24 日.
7. 櫻井拓也¹, 北館健太郎¹, 西岡浩², 若命浩二², 藤井創², 小笠原準悦¹, 木崎節子¹, 石橋義永¹, 藤原智徳, 赤川公朗, 中野法彦³, 井澤鉄也⁴, 大野秀樹¹ (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学, ²(株)アミノアップ化学, ³藍野再生医療研究所, ⁴同志社大): oligonol の老化促進モデルマウスの認知機能障害に対する予防効果と海馬におけるターゲット分子の同定. 第 19 回統合医療機能性食品国際会議, 札幌, 平成 22 年 10 月 15-16 日.
8. 櫻井拓也¹, 北館健太郎², 西岡浩², 若命浩二², 藤井創², 小笠原準悦¹, 石橋義永¹, 木崎節子¹, 藤原智徳, 赤川公朗, 炭谷由計³, 石田均³, 芳賀脩光⁴, 大野秀樹¹ (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学, ²(株)アミノアップ化学, ³杏林大・医・第三内科, ⁵筑波大学): oligonol は神経細胞において小胞体ストレスを減弱させる. 第 9 回日本予防医学会学術大会, 東京, 平成 22 年 11 月 19-20 日.

論文

1. Tomonori Fujiwara, Takefumi Kofuji and Kimio Akagawa: Dysfunction of the Hypothalamic-Pituitary-Adrenal axis in STX1A KO mice. *J Neuroendocrinol.* 23: 1222-1230, 2011.
2. Teruyuki Fukushima¹, Masayuki Tsuda¹, Takefumi Kofuji and Yuuichi Hori¹(¹Department of Physiology and Biological Information, Dokkyo Medical University School of Medicine): Physiological properties of enkephalin-containing neurons in the spinal dorsal horn visualized by expression of green fluorescent protein in BAC transgenic mice. *BMC Neurosci.* 12: 36, 2011.
3. Takuya Sakurai¹, Junetsu Ogasawara¹, Takako Kizaki¹, Yoshinaga Ishibashi¹, Tomonori Fujiwara, Kimio Akagawa, Tetsuya Izawa², Shuji Ohishi³, Shukoh Haga⁴, Hideki Ohno¹(¹Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, Kyorin University, School of Medicine, ²Faculty of Health and Sport Science, Doshisha University, ³Department of Respiratory Medicine, Tokyo Medical University Ibaraki Medical Center, ⁴University of Tsukuba): Involvement of leucine zipper transcription factor-like protein 1 (Lztf1) in the attenuation of cognitive impairment by exercise training. *Biochem Biophys Res Commun.* 416: 125-129, 2011.
4. Kaneko Y¹, Suge R¹, Fujiwara T, Akagawa K,

Watanabe S¹(¹Department of Physiology, Faculty of Medicine, Saitama Medical University): Unusual retinal layer organization in HPC-1/syntaxin 1A knockout mice. *J Mol Histol.* 42: 483-9, 2011.

5. Hao Wang¹, Ray Ishizaki¹, Eri Kobayashi¹, Tomonori Fujiwara, Kimio Akagawa and Tetsuro Izumi¹ (¹Department of Molecular Medicine, Institute for Molecular and Cellular Regulation, Gunma University): Loss of granuphilin and loss of syntaxin-1A cause differential effects on insulin granule docking and fusion. *J Biol Chem.* 286: 32244-50, 2011.
6. Tatsuya Mishima, Tomonori Fujiwara, Takefumi Kofuji and Kimio Akagawa: Impairment of catecholamine systems during induction of long-term potentiation at hippocampal CA1 synapses in HPC-1/syntaxin 1A knockout mice. *J Neurosci.* 32: 381-389, 2012.
7. Nakayama T, Kamiguchi H¹ and Akagawa K (¹Laboratory for Neuronal Growth Mechanisms, RIKEN Brain Science Institute (BSI)): Syntaxin 1C, a soluble form of syntaxin, attenuates membrane recycling by destabilizing microtubules. *J Cell Sci.* 125: 817-830, 2012.

生化学教室 (1)

口演

1. 誉田晴夫, 大津昌弘¹ (¹杏林大・医・化学): カイコ脳組織 Na⁺/K⁺-ATPase はグリア細胞で保護されている. 第 84 回日本生化学会大会, 京都, 平成 23 年 9 月 23 日.
2. 誉田晴夫, 大津昌弘¹, 原論吉² (¹杏林大・医・化学, ²東京医歯大・院保健・分子生命情報解析学): カイコ脳における Na⁺/K⁺-ATPase の局在. 日本生体エネルギー研究会第 37 回討論会, 京都, 平成 23 年 12 月 20 日.

論文

1. Ito N¹, Nishibori Y¹, Ito Y¹, Takagi H¹, Akimoto Y², Kudo A², Asanuma K³, Sai Y⁴, Miyamoto K⁴, Takenaka H & Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Internal Medicine, Juntendo University School of Medicine, ⁴Department of Hospital Pharmacy, Kanazawa University): mTORC1 activation triggers the unfolded protein response in podocytes and leads to nephrotic syndrome. *Laboratory investigation* 91:1584-1595, 2011.

生化学教室 (2)

口 演

1. 青柳共太, 今泉美佳, 西脇知世乃, 中道洋子, 永松信哉: ホスファチジルイノシトール 3-キナーゼによるインスリン分泌制御機構の可視化解析. 第 53 回日本糖尿病学会年次学術集会, 岡山, 5 月 27-29 日.
2. 今泉美佳, 青柳共太, 永松信哉: インスリン分泌顆粒細胞内輸送のイメージング: 病態との関連. 第 2 回 細胞内ロジスティクス班会議 (文部科学省科学研究費補助金『新学術領域』), 札幌, 2010 年 6 月 30-7 月 1 日.
3. 永松信哉: 可視化解析によるインスリン開口放出と糖尿病. 第 30 回関東腎研究会, 東京, 2010 年 7 月 17 日.
4. Ohara-Imaizumi M: Deletion of CDKAL1 affects first-phase glucose stimulated insulin exocytosis. インスリン分泌機構における CDKAL1 の役割. 大津, 2010 年 7 月 24-25 日.
5. 永松信哉: 2 型糖尿病におけるインスリン分泌障害とインスリン開口放出機構. 糖尿病座談会『ヒューマログミックス 50 の可能性』~シンプルなインスリン治療~, 東京, 2010 年 8 月 10 日.
6. 青柳共太, 今泉美佳, 西脇知世乃, 中道洋子, 永松信哉: nsulin/Phosphatidylinositol 3-kinase pathway accelerates the glucose-induced first phase insulin secretion through TrpV2 recruitment in pancreatic beta-cells. 第 33 回日本分子生物学会年會第 83 回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 12 月 7-10 日.

論 文

1. Aoyagi K, Ohara-Imaizumi M, Nagamatsu S. Regulation of resident and newcomer insulin granules by calcium and SNARE proteins. *Front Biosci.* Jan 1;16:1197-210, 2011.
2. Ohara-Imaizumi M, Yoshida M¹, Aoyagi K, Saito T², Okamura T³, Takenaka H⁴, Akimoto Y⁵, Nakamichi Y, Takanashi-Yanobu R³, Nishiwaki C, Kawakami H⁵, Kato N⁶, Hisanaga S², Kakei M¹, and Nagamatsu S (¹First Department of Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University School of Medicine, Saitama, Japan, ²Department of Biological Sciences, Tokyo Metropolitan University, Tokyo, Japan, ³Department of Infectious Diseases, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan, ⁴Department of Biochemistry1, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁵Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁶Department of Gene Diagnostics and Therapeutics, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan, Deletion of CDKAL1 Affects First-phase Glucose-stimulated Insulin

Exocytosis PLoS ONE 5, e15553, 2010.

3. Zhao A¹, Ohara-Imaizumi M, Brissova M^{2, 3, 4}, Benninger RK², Xu Y¹, Hao Y¹, Abramowitz J⁵, Boulay G⁶, Powers A C^{2, 3, 4}, Piston D², Jiang M⁷, Nagamatsu S, Birnbaumer L⁵ and Gu G¹ (¹Program in Developmental Biology and Department of Cell and Developmental Biology, Vanderbilt University Medical Center, Nashville, Tennessee; ²Department of Molecular Physiology and Biophysics, Vanderbilt University Medical Center, Nashville, Tennessee; ³Division of Diabetes, Endocrinology, and Metabolism, Department of Medicine, Vanderbilt University Medical Center, Nashville, Tennessee; ⁴VA Tennessee Valley Healthcare System, Nashville, Tennessee; ⁵Transmembrane Signaling Group, Laboratory of Neurobiology, National Institute of Environmental Health Sciences, National Institutes of Health, Department of Health and Human Services, Research Triangle Park, North Carolina; ⁶Department of Pharmacology, School of Medicine, Sherbrooke University, Sherbrooke, Quebec, Canada; and ⁷Department of Molecular and Medical Pharmacology, University of California, Los Angeles, Los Angeles, California.) Gao represses insulin secretion by reducing vesicular docking in pancreatic β cells *Diabetes* 59:2522-2529, 2010.
4. Aoyagi K, Ohara-Imaizumi M, Nishiwaki C, Nakamichi Y, Nagamatsu S: Insulin/phosphatidylinositol 3-kinase pathway accelerates the glucose-induced first phase insulin secretion through TrpV2 recruitment in pancreatic beta-cells. *Biochem J* 432: 375-386, 2010.

著 書

1. 青柳共太¹, 永松信哉¹ (¹杏林大・医・生化学) インスリン分泌における開口放出機構 糖尿病ナビゲーター 第 2 版, メディカルレビュー社, 東京. p52-53.

薬理学教室

口 演

1. 木村徹, 上原一朗¹, 谷垣伸治¹, 岩下光利¹, 安西尚彦², 櫻井裕之 (¹杏林大・医・産科婦人科, ²独協医大・医・薬理): 胎盤における母体・胎児間の尿酸輸送機構 第 124 回日本薬理学会関東支部会, 東京, 平成 23 年 6 月 4 日.
2. 木村徹, 上原一朗¹, 谷垣伸治¹, 岩下光利¹, 安西尚彦², 櫻井裕之 (¹杏林大・医・産科婦人科, ³独協医大・医・薬理): PIH 発症時および多胎妊娠時に併発する高尿酸血症発症メカニズム解明に向けた胎盤における尿酸輸送機構の解析 第 6 回トランスポーター研究会年會, 仙台市, 平成

- 23年6月11-12日.
3. 堅田智久, 櫻井裕之: Notch シグナルは glomus と pronephric tubule の分化を制御し, pronephric duct の伸長を阻害する. 第 54 回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15-17 日.
 4. 安西尚彦, Jutabha Promsuk, 木村徹, 北村健一郎¹, 市田公美², 久留一郎³, 富田公夫¹, 上野誠二, 福富俊之, 金井好克⁴, 遠藤仁, 櫻井裕之 (熊本大・腎臓内科,²東薬大・病態生理,³鳥取大・医,⁴大阪大・医): 新規ヒト尿酸/有機酸トランスporter URAT2 の分子同定. 第 54 回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15-17 日.
 5. 福富俊之, Jutabha Promsuk, 金井好克¹, 櫻井裕之, 安西尚彦 (大阪大・医): 新規ヒト有機酸排出トランスporter NPT4 と PDZ タンパク質との相互作用, 第 54 回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 平成 23 年 6 月 15-17 日.
 6. Kimura T, Uehara I¹, Tanigaki S¹, Iwashita M¹, Anzai N², & Sakurai H (Dept of Obstetrics & Gynecology, Kyorin Univ,²Dept of Pharmacology Dokkyo Med School): Urate transport between maternal and umbilical cord blood in the placenta. International Joint Meeting of Cellular and Molecular Physiology in Epithelia, Tokyo, July 30-31, 2011.
 7. 櫻井裕之: 腎臓の再生最前線 (教育講演). 第 41 回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成 23 年 10 月 14-15 日.
 8. Katada T, Sakurai H: Notch signal is essential to the formation of glomus and proximal tubule while it inhibits the extension and differentiation of distal tubule in *Xenopus* embryos. Kidney Week 2011, Philadelphia, Nov. 8-13, 2011.
 9. 木村徹, 上原一朗¹, 谷垣伸治¹, 岩下光利¹, 安西尚彦², 櫻井裕之 (杏林大・医・産科婦人科,²独協医大・医・薬理): 胎盤上皮細胞における尿酸輸送機構. 上皮細胞の恒常性維持機構におけるイオン・物質輸送の新しい分子生理, 岡崎, 平成 23 年 11 月 21-22 日.
 10. 櫻井裕之: 腎臓発生のメカニズムと再生医療への展望. 創薬薬理フォーラム 第 51 回談話会, 東京, 平成 24 年 1 月 26 日.
 11. Lee EJ, Kimura T, Kogashiwa Y¹, Sakurai H (Dept of Otolaryngology, Head & Neck Surgery): EGFR tyrosine kinase inhibition leads to suppression of cancer cell migration independent of anti-proliferative effect. 第 85 回日本薬理学会年会, 京都, 平成 24 年 3 月 14-16 日.
 12. 上野誠二, 木村徹, 山賀貴, 櫻井裕之: AMPK 活性化薬 metformin は LAT1 阻害薬の抗腫瘍効果を増強する. 第 85 回日本薬理学会年会, 京都, 平成 24 年 3 月 14-16 日.
 13. 木村徹, 上原一朗¹, 谷垣伸治¹, 篠原佳彦², 市田公美², 岩下光利¹, 安西尚彦³, 櫻井裕之 (杏林大・医・産科婦人科,²東京薬科大・薬・病態生理,³独協医大・医・薬理): 胎盤における母体・胎児間の尿酸輸送機構. 日本薬学会第 132 年会, 札幌, 平成 24 年 3 月 28-31 日.
- 論文
1. 安西尚彦, JUTABHA Promsuk, 木村徹, 遠藤仁, 櫻井裕之: 新規ヒト有機酸排出トランスporter hNPT4 (SLC17A3) の輸送特性. 痛風と核酸代謝 35: 31-38, 2011.
 2. Kimura T, Amonpatumrat S, Tsukada A, Fukutomi T, Jutabha P, Thammapatip T, Lee EJ, Ichida K¹, Anzai N, & Sakurai H (Dept Pathophysiology Tokyo University of Pharmaceutical Sciences): Increased Expression of SLC2A9 Decreases Urate Excretion From the Kidney. Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids. 1295-301, 2011.
 3. Kimura T, Han W¹, Pagel P¹, Nairn AC¹ and Caplan MJ¹(Dept Physiology Yale University): Protein phosphatase 2A interacts with the Na⁺, K⁺-ATPase and modulates its trafficking by inhibition of its association with arrestin. PLoS One. 6: e29269, 2011.
 4. Katada T and Sakurai H: The role of Notch signaling in *Xenopus* pronephros development" J. Dev. Nephrol. 19: 25-29, 2011.
 5. Miura D, Anzai N, Jutabha P, Chanluang S, He X, Fukutomi T, Endou H: Human urate transporter 1 (hURAT1) mediates the transport of orotate. J Physiol Sci. 61:253-7, 2011.
 6. Shah MM, Sakurai H, Gallegos TF, Sweeney DE, Bush KT, Esko JD, Nigam SK: Growth factor-dependent branching of the ureteric bud is modulated by selective 6-O sulfation of heparan sulfate. Dev Biol. 356:19-27, 2011.
 7. Uno K, Kuwabara H, Terado Y, Kojima K, Kawakami T, Kamma H, Sakurai H, Sakamoto A, Kurata A: Divergent expression of L-type amino acid transporter 1 during uterine cervical carcinogenesis. Hum Pathol. 42:1660-1666, 2011.
 8. Jutabha P, Anzai N, Hayashi K, Domae M, Uchida K, Endou H, Sakurai H: A novel human organic anion transporter NPT4 mediates the transport of ochratoxin A. J Pharmacol Sci. 116:392-6, 2011.
 9. Jutabha P, Anzai N, Wempe MF, Wakui S, Endou H, Sakurai H: Apical voltage-driven urate efflux transporter NPT4 in renal proximal tubule. Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids. 30:1302-11, 2011.
 10. Anzai N, Jutabha P, Amonpatumrat-Takahashi S, Sakurai H: Recent advances in renal urate transport: characterization of candidate transporters indicated by genome-wide association studies. Clin Exp Nephrol. 16:89-95, 2012.

11. 木村徹：尿酸トランスポーターと高尿酸血症・低尿酸血症 BioClinica 10月号 p. 18-22, 2011.

著書

1. 櫻井裕之：腎臓再生療法の up to date. 腎疾患・透析最新の治療 2011-2013, 榎野博史, 秋澤忠男編. 東京. 南江堂, 2011. p. 1-5.
2. 櫻井裕之：薬物療法. 血液浄化療法ハンドブック 6版. 透析療法合同専門委員会編, 東京, 協同医書出版社, 2011. p. 325-331.
3. 木村徹：尿酸降下薬の分子標的としての新規尿酸/有機酸トランスポーター Annual Review 2012 腎臓 富野康日己, 柏原直樹, 成田一衛編, 東京, 中外医学社, 2012. p. 11-17.

その他

1. 木村徹：平成23年度日本消化吸収学会学会賞(天野学術研究奨励賞)
2. 新規有機酸トランスポーター OAT10 の消化管での発現
3. 福富俊之：杏林大学 研究奨励賞

病理学教室

口演

学会発表

1. 井手久満¹, 吉井隆¹, 坂巻頭太郎², 寺戸雄一, 知名俊幸¹, 小関達郎¹, 熊本友香¹, 常盤紫野¹, 斎藤恵介¹, 磯谷周治¹, 山口雷蔵¹, 武藤智¹, 堀江重郎¹(¹帝京大・医・泌尿器科, ²東京大・生物統計学): 根治的前立腺全摘除術施行例における血清 LH, FSH 値の臨床的検討. 第99回日本泌尿器科学会, 名古屋, 平成23年4月21日.
2. 柏木維人, 石井順, 榮田昌史, 有益優, 佐藤華子, 奥寺康司¹, 下山田博明, 矢澤卓也(¹横浜市大・医・病理学): 神経内分泌マーカー発現に対する NeuroD, ASCL1 の関与について. 第100回日本病理学会総会, 横浜, 平成23年4月28日.
3. Komatsu K: Japanese education system for medical technologists. Forth Asia-Pacific Forum, Taiwan, 平成23年4月28日.
4. 田中界¹, 武川裕之¹, 宍戸-原由紀子, 菅間博(¹杏林大・医・4年): 心原発の血管肉腫の1例. 第100回日本病理学会総会, 横浜, 平成23年4月30日.
5. 今野公士¹, 平形明人¹, 寺戸雄一(¹杏林大・医・眼科): IgG4陽性を呈した涙腺炎の臨床学および組織学的検討. 第115回日本眼科学会, 東京, 平成23年5月12日.
6. 松本浩範¹, 小林陽一¹, 橋本玲子¹, 宮崎典子¹, 岩下光利¹, 山本阿紀子, 藤原正親, 坂本穆彦, 海野みちる, 小松京子(¹杏林大・医・産婦人科): 細胞診が診断に有用であった子宮体癌の1例. 第52回日本臨床細胞学会総会・春季大会, 福岡, 平成23年5月20日.
7. 西川真木子¹, 平岡祥幸¹, 横山健一¹, 似鳥俊明¹, 武井秀史², 呉屋朝幸², 藤野節, 寺戸雄一(¹杏林大・医・放射線科, ²同・医・外科): 後縦隔に発生した骨髄脂肪腫の一例. 第40回頭頸部・胸部画像研究会, 東京, 平成23年5月21日.
8. 大原有紗¹, 土屋一洋¹, 寺戸雄一(¹杏林大・医・放射線科): 当施設で経験した頭頸部領域の IgG4 関連疾患. 第40回頭頸部・胸部画像研究会, 東京, 平成23年5月21日.
9. 畑中良¹, 丸山啓介¹, 土屋一洋², 宍戸-原由紀子, 山口岳彦³, 永根基雄¹, 塩川芳昭¹(¹杏林大・医・脳神経外科, ²杏林大・医・放射線科, ³自治医大・医): 診断に苦慮した斜台部嚢胞性疾患の1例. 第29回日本脳腫瘍病理学会学術集会, 東京, 平成23年5月21日.
10. 小林啓一¹, 永根基雄¹, 宍戸-原由紀子, 土屋一洋², 菅間博, 塩川芳昭(¹杏林大・医・脳神経外科, ²杏林大・医・放射線科): ステロイド療法を施行した lymphomatoid granulomatosis を疑う2例. 第29回日本脳腫瘍病理学会学術集会, 東京, 平成23年5月21日.
11. 井本滋¹, 酒村智子¹, 伊東大樹¹, 伊美建太郎¹, 伊坂泰嗣¹, 田崎英里¹, 和田徳昭², 菅間博, 中面哲也³, (¹杏林大・医・外科, ²国がん研セ東・乳腺科, ³国がん研セ東・臨床開発センターがん治療開発部): 乳腺患者における腫瘍免疫応答の解明と腫瘍免疫学との融合を目指した治療戦略. 第111回日本外科学会定期学術集会, 紙上開催, 平成23年5月25日付.
12. 井口研子¹, 植野映², 原尚人³, 平野和彦, 菅間博(¹筑波大・乳腺甲状腺内分泌外科, ²筑波メディカルセンター プレストセンター, ³筑波大・大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻乳腺甲状腺内分泌外科): 非浸潤性乳管癌の背景病変の臨床病理学的検討. 第111回日本外科学会定期学術集会, 紙上開催, 平成23年5月25日付.
13. 宍戸-原由紀子, 内原俊記(¹都医総研・脳病理形態): 進行性多巣性白質脳症(PML)のドット状核内ウイルス封入体-JCウイルスは promyelocytic leukemia (PML) ボディを標的に感染する. 第52回日本神経病理学会, 京都, 平成23年6月4日.
14. 清水麗子¹, 武井秀史¹, 柴田英克¹, 橋啓盛¹, 苅田真¹, 河内利賢¹, 中里陽子¹, 田中良太¹, 長島鎮¹, 呉屋朝幸¹, 原由紀子, 菅間博(¹杏林大・医附病・呼吸器甲状腺外科): 右房原発血管肉腫の1治療例. 第161回日本肺癌学会関東支部会, 東京, 平成23年6月18日.
15. 菅田明子¹, 中村雄¹, 山口剛¹, 林健二郎¹, 板谷直¹, 原秀彦¹, 多武保光宏¹, 宍戸俊英¹, 寺戸雄一(¹杏林大・医・泌尿器科): スニチング内服後に SIADH と消化管出血を来した腎癌の一例. 第605回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成23年6月18日.
16. 橋本玲子¹, 小林陽一¹, 宮崎典子¹, 百村麻衣¹, 松

- 本浩範¹, 矢島正純¹, 岩下光利¹, 寺戸雄一, 坂本穆彦^(¹杏林大・医・産科婦人科): プロラクチンが高値を示した卵巣癌の一例. 第50回日本婦人科腫瘍学会, 札幌, 平成23年7月24日.
17. 土岐真朗¹, 山口康晴¹, 倉田勇¹, 村山隆夫¹, 内田康仁¹, 川越圭¹, 田部井弘一¹, 畑英行¹, 蓮江智彦¹, 比嘉晃二¹, 田内優¹, 中村健二¹, 阿部展次², 森秀明¹, 大倉康男, 杉山政則², 石田均¹, 古瀬純司³, 高橋信一^(¹杏林大・医・第三内科, ²杏林大・医・第一外科, ³杏林大・医・腫瘍内科): ワークショップ1 生活習慣と膝疾患 膝癌のリスクファクターとしての糖尿病 効率的な膝癌スクリーニングを目指して. 第42回日本膝臓学会大会, 弘前, 平成23年7月29日.
 18. 水谷奈津子, 森下恵美子¹, 宮本快介², 伊東大樹², 伊美建太郎², 田崎英里², 伊坂泰嗣², 井本滋², 菅間博^(¹杏林大・医・放射線科, ²杏林大・医・乳腺外科): 偽篩状構造が明瞭であった乳腺原発腺様嚢胞癌の1例. 第20回日本乳癌学会, 仙台市, 平成23年9月1-3日.
 19. 藤山淳三: スライドカンファレンス, 体腔液. 第25回日本臨床細胞学会関東連合会学術集会, 横浜, 平成23年9月10日.
 20. Shishido-Hara Y: JC polyomavirus capsid assembly at the promyelocytic leukemia nuclear body (PML-NBs). International union of microbiological societies (IUMS) 2011 congress, Sapporo, Sep. 15, 2011.
 21. 柳澤昭夫¹, 大倉康男, 石黒信吾², 海上雅光³, 河内洋⁴ (¹京都府立医大・人体病理学, ²PCL大阪病理・細胞診セ, ³わたり病院・病理科, ⁴東京医科歯科大・人体病理学): ワークショップ3 Intraepithelial neoplasia の見直し案. 第65回日本食道学会学術集会, 仙台, 平成23年9月26日.
 22. 井本滋¹, 伊美建太郎¹, 伊東大樹¹, 酒村智子¹, 伊坂泰嗣¹, 菅間博, 和田徳昭², 中面哲也³ (¹杏林大・医・外科, ²国がん研セ東 乳腺外科, ³国がん研セ東 臨床開発セ・先端医療) 乳癌患者における制御性T細胞とM2マクロファージによる免疫制御 (Immune suppression of regulatory T cells and M2 macrophage in breast cancer patients): 第70回日本癌学会学術総会, 名古屋, 平成23年10月3日.
 23. 木下通亨¹, 永松清志郎², 宍戸-原由紀子, 池田修一³, 小柳清光⁴ (¹信州大・脳神経内科, ²伊那中央病院・神経内科, ³信州大・リウマチ膠原病内科, ⁴信州大・神経難病学): 白質に強い組織崩壊を呈し, 皮質にも病変が及んだ進行性多巣性白質脳症 (PML) の1例. 第37回上信越神経病理談話会, 松本, 平成23年10月8日.
 24. 大倉康男 (病理レクチャー): 中分化腺癌 tub2 について. 第27回新潟拡大内視鏡研究会, 新潟, 平成23年10月8日.
 25. 吉澤亮¹, 清水英樹¹, 福岡利仁¹, 岡田陽子¹, 菅田明子², 東原英二², 平野和彦, 菅間博, 駒形嘉紀¹, 要伸也¹, 有村義宏¹, 山田明¹ (¹杏林大・医・第1内科, ²杏林大・医・泌尿器科): 汎下垂体機能低下症と前立腺肥大を主症状とした IgG4 関連疾患の1症例. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14日.
 26. 清水英樹¹, 吉澤亮¹, 岡田陽子¹, 福岡利仁¹, 林建二郎², 東原英二², 平野和彦, 菅間博, 駒形嘉紀¹, 要伸也¹, 有村義宏¹, 山田明¹ (¹杏林大・医・第1内科, ²杏林大・医・泌尿器科): ステロイド治療により低蛋白血症と間質性腎炎が改善した IgG4 関連疾患の1例. 第41回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 平成23年10月14日.
 27. 徳山理恵¹, 池宮城秀和¹, 小野真吾¹, 北村まり¹, 宮城直也¹, 浦牛原幸治¹, 小野圭一¹, 小島茂¹, 武田雄一¹, 野内俊彦¹, 山口浩和², 上西紀夫², 清水誠一郎³, 大倉康男 (¹公立昭和病院・消化器内科, ²公立昭和病院・外科, ³公立昭和病院・病理診断科): プロトンポンプ阻害薬長期投与中に急速に増大した胃底腺ポリープの一例. 第82回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 平成23年10月21日.
 28. 齋藤大祐¹, 三浦みき¹, 櫻庭彰人¹, 山田雄二¹, 林田真理¹, 小山元一¹, 高橋信一¹, 大倉康男 (¹杏林大・医・第三内科): 大腸内視鏡検査で診断し得た好酸球性胃腸炎の一例. 第82回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 平成23年10月21日.
 29. 大倉康男: 特別企画4 食道癌に対するESD/EMRガイドライン: 病理学的な問題点. 第82回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 平成23年10月22日.
 30. 百村麻衣¹, 小松京子², 長内喜代乃¹, 澁谷裕美¹, 松本浩範¹, 平野和彦, 矢島正純³, 寺戸雄一, 小林陽一¹, 岩下光利^(¹杏林大・医・産科婦人科, ²杏林大・医・付属病院病理部, ³汐留第二セントラルクリニック): 子宮体部漿液性腺癌の細胞診所見の検討. 第50回日本臨床細胞学会, 東京, 平成23年10月22日.
 31. 百村麻衣¹, 小松京子, 長内喜代乃¹, 澁谷裕美¹, 松本浩範¹, 平野和彦, 矢島正純¹, 寺戸雄一, 小林陽一¹, 岩下光利^(¹杏林大学 医・産科婦人科): 子宮体部漿液性腺癌の細胞診所見の検討. 第50回日本臨床細胞学会・秋期大会, 東京, 平成23年10月22日.
 32. 坂本憲彦¹, 小松京子¹, 藤山淳三¹, 市川美雄¹, 松本浩範², 小林陽一², 寺戸雄一, 大倉康男 (¹杏林大・医・付属病院病理部, ²杏林大・医・産科婦人科): 女性のための臨床細胞学 診断精度の向上を目指して 卵巣腫瘍における細胞診の有用性と診断精度の向上を目指して. 第50回日本臨床細胞学会, 東京, 平成23年10月23日.
 33. 井手久満¹, 寺戸雄一, 坂巻頭太郎², 知名俊幸¹, 小関達郎¹, 常盤紫野¹, 吉井隆¹, 齋藤恵介¹, 磯谷周治¹, 久末伸一¹, 山口雷蔵¹, 武藤智¹, 堀江重

- 郎¹(¹帝京大・医・泌尿器科,²東京大・生物統計学): 根治的前立腺全摘除術施行例における血清 LH, FSH 値の臨床的検討. 第 49 回日本癌治療学会, 名古屋, 平成 23 年 10 月 28 日.
34. 辻本直貴¹, 倉井大輔¹, 長友禎子¹, 田村仁樹¹, 渡辺雅人¹, 皿谷健¹, 石井晴之¹, 後藤元¹, 寺戸雄一, 滝澤始¹(¹杏林大・医・第一内科): 腹部所見に乏しく診断までに 5 ヶ月半を有した結核性腹膜炎の 1 例. 第 60 回日本感染症学会東日本地方会, 山形, 平成 23 年 10 月 28 日.
35. 嶋森直子¹, 浦田毅¹, 多武保光宏², 平野和彦, 寺戸雄一, 森秀明³, 奴田原紀久雄², 東原英二², 渡邊卓⁴, 岸野智則⁴(¹杏林大・医・付属病院臨床検査部,²同・泌尿器科,³同・第三内科,⁴同・臨床検査医学): 右腎全体をびまん性に浸潤した集合管癌 (Bellini 管癌) の一例. 日本超音波医学会第 23 回関東甲信越地方会, 東京, 平成 23 年 10 月 29 日.
36. 福川陽子¹, 板垣英二², 森秀明², 多武保光宏³, 奴田原紀久雄³, 東原英二³, 菅間博, 石田均², 岸野智則⁴(¹杏林大学・医・付属病院検査部,²杏林大・医・第三内科,³杏林大・医・泌尿器科,⁴杏林大・医・臨床検査医学): ACTH 非依存性大結節性副腎過形成 (ACTH-independent macronodular adrenal hyperplasia: AIMAH) の一例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会 第 23 回学術集会, 東京, 平成 23 年 10 月 29-30 日.
37. Hineno A¹, Tabata K², Miki J², Shiozawa S³, Shishido-Hara Y, Ikeda S¹ & Oyanagi K⁴(¹Sinshu Univ. School of Med, ²Dept of Neurol and ³Dept of Pathol, Saku Central Hospital, ⁴Division of Neuropathol, Sinshu Univ): An autopsy case report of smoldering progressive multifocal leukoencephalopathy (PML) in the arteriopathic leukoencephalopathy. The Second Congress of Asian Society of Neuropathology, Beijing, Nov. 5-6, 2011
38. 檜垣学¹, 和田裕雄¹, 安武哲生, 中村益夫, 本多紘二郎, 三倉一郎, 新倉保², 小林富美恵², 菅間博, 神谷茂², 滝澤始¹, 後藤元¹(¹杏林大・医・呼吸器内科,²同 感染症学教室): 基礎系「喫煙被曝マウスにおける Interleukin-10 の役割」. 第 15 回東京呼吸病態研究会, 東京, 平成 23 年 11 月 8 日.
39. 永根基雄¹, 小林啓一¹, 田中正樹¹, 土屋一洋², 原由紀子, 塩川芳昭¹(¹杏林大・医・脳神経外科,²杏林大・医・放射線科): 再発悪性神経膠腫に対する血管新生標的治療: ベバシズマブ単独療法の効果と問題点. 第 29 回日本脳腫瘍学会, 岐阜, 平成 23 年 11 月 10 日.
40. 大塚弘毅¹, 大西宏明¹, 小倉航¹, 増井亮一¹, 松島早月¹, 岸野智則¹, 藤原正親, 森井健司², 古瀬純司³, 中村浩之⁴, 渡邊卓¹(¹杏林大・医・臨床検査医学,²杏林大・医・整形外科,³杏林大・医・腫瘍内科,⁴学習院大・理・化学): 遺伝性肺癌で見られた EGFR V843L germ-line 変異の機能解析. 第 58 回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 平成 23 年 11 月 17 日.
41. 宮脇晴子¹, 岸野智則², 板谷直³, 多武保光宏³, 寺戸雄一, 大水由香里¹, 福川陽子¹, 須藤恵美¹, 浦田毅¹, 大藤弥穂¹, 大塚弘毅², 大西宏明², 奴田原紀久雄³, 東原英二³, 渡邊卓²(¹杏林大・医・付属病院臨床検査部,²同・臨床検査医学,³同・泌尿器科): 巨大な腎オンコサイトーマの一例: その超音波画像からの考察. 第 58 回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 平成 23 年 11 月 18 日.
42. 大倉康男: 消化管癌の病理 (内視鏡医に必要な病理を中心に). 第 23 回日本消化器内視鏡学会関東セミナー, 東京, 平成 24 年 1 月 21 日.
43. 大倉康男: 上部消化管の病理と画像. 第 11 回上部消化管検査認定講習会, さいたま, 平成 24 年 1 月 22 日.
44. 大倉康男: ワークショップ 4 食道胃接合部の同定と食道胃接合部腺癌の病理組織学的検討. 第 84 回日本胃癌学会総会, 大阪, 平成 24 年 2 月 9 日.
45. 大倉康男 (教育講演): 消化管病理診断の新しいグループ分類—解説と問題点—. 第 8 回日本消化管学会総会学術集会, 仙台, 平成 24 年 2 月 11 日.
46. Nakashima H¹, Ohkura Y (¹ Dept. of Gastroenterology, Foundation for Detection of Early Gastric Carcinoma): Short lecture of Nakamura's classification of gastric cancer and case presentation of early gastric cancer – from a gastrographic view point –. The 7th Advanced Training Course of Detection of Early Gastrointestinal Cancer and Related Digestive Tumors, 東京, 平成 24 年 2 月 17 日.
47. 加藤聡一郎¹, 森井健司¹, 多久島亮彦¹, 久吉隆郎¹, 平野和彦,²菊池文史, 田島崇¹, 望月一男¹, 市村正一¹(¹杏林大学 医・整形外科,²日立総合病院・病理科): 胸骨軟骨肉腫の 1 例. 第 52 回関東整形災害外科学会, 神奈川, 平成 24 年 3 月 22 日.

シンポジウム発表

1. 宍戸-原由紀子: 進行性多巣性白質脳症 (PML) の病変形成機序. プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班 SSPE・PML ワークショップ 2011, 東京, 平成 23 年 8 月 19 日.
2. 矢澤卓也, 佐藤華子¹, 下山田博明, 柏木維人, 石井順, 榮田昌史, 有益優, 藤原正親, 菅間博 (¹聖マリアンナ医大・解剖学): 神経内分泌腫瘍の病理診断. 最新の進歩. 神経内分泌癌の形質を制御する転写因子についての機能解析. 第 15 回日本内分泌病理学会学術総会シンポジウム, 東京, 平成 23 年 11 月 24 日.
3. 坂本憲彦, 小松京子, 藤山淳三, 市川美雄, 寺戸雄一, 藤原正親, 大倉康男: 細胞検査士要望シン

ポジウム, 卵巣腫瘍の細胞診. 第50回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京, 平成23年10月23日.
講演

1. 大倉康男: 胃癌のHER2検査: 検査の意義と判定のポイント. HER2 Pathological Seminar 特別講演, 立川, 平成23年5月24日.
2. 小松京子: 病理技術講習会. 日本臨床同学院主催, 東京, 平成23年6月12日.
3. 大倉康男: 臨床医も知っておくべき炎症性腸疾患の生検組織所見. 第18回茨城県炎症性腸疾患研究会, つくば, 平成23年6月29日.
4. 小松京子: 病理技術講習会. 日本臨床同学院主催, 京都, 平成23年7月9日.
5. 藤山淳三, 小松京子: チャリティーワークショップ講演会. 細胞検査士会主催, 東京, 平成23年11月20日.
6. 菅間博: 腫瘍の病理診断と免疫染色. 第36回組織細胞科学講習会, 東京, 2011年8月4日.
7. 小松京子: 脳腫瘍の細胞診. 癌研有明病院, 東京, 平成23年9月30日.
8. 小松京子: Country Report. JIMTEF・日本臨床検査技師会共催, 東京, 平成24年2月14日.
9. 小松京子: 甲状腺・唾液腺ワークショップ細胞検査士会主催, 東京, 平成24年2月25-26日.

論文

1. Sakata S, Fujiwara M, Ohtsuka K, Kamma H, Nagane M, Sakamoto A, Fujioka Y: ATP-binding cassette transporters in primary central nervous system lymphoma: decreased expression of MDR1 P-glycoprotein and breast cancer resistance protein in tumor capillary endothelial cells. *Oncol Rep.* 25(2): 333-9, 2011.
2. Tazaki E, Shimizu N, Tanaka R, Yoshizumi M, Kamma H, Imoto S, Goya T, Kozawa K, Nishina A, Kimura H: Serum cytokine profiles in patients with prostate carcinoma. *Experimental and Therapeutic Medicine.* 2: 887-91, 2011.
3. 井本滋¹, 菅間博, 和田徳昭² (杏林大・医・外科,² 国がん研七東 乳腺外科): 【悪性腫瘍の術中病理診断を効果的に活用する どこを検索すべきか, どう対応すべきか】乳癌. *臨床外科* 66: 454-456, 2011.
4. 和田裕雄¹, 檜垣学¹, 菅間博, 伊藤一洋², Barnes Peter², 後藤元¹ (杏林大・医・呼吸器内科,² イギリス): サーチインと COPD. *呼吸器内科* 20 (3): 249-256, 2011.
5. 菅間博, 矢澤卓也: 内分泌腫瘍の病理. *日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌* 29:57-61, 2012.
6. Sato H¹, Sakaeda M, Ishii J, Kashiwagi K, Shimoyamada H, Okudela K², Tajiri M³, Ohmori T³, Ogura T⁴, Woo T⁵, Masuda M⁵, Hirata K¹, Kitamura H¹, Yazawa T (Department of Anatomy, St. Marianna University School of Medicine, Department of Pathology, Yokohama

City University Graduate School of Medicine, Division of Thoracic Surgery and Respiratory Medicine, Kanagawa Cardiovascular and Respiratory Center, Department of Surgery, Yokohama City University Graduate School of Medicine): Insulin-like growth factor binding protein-4 gene silencing in lung adenocarcinomas. *Pathol Int* 61:19-27, 2011.

7. 大倉康男: 大腸腺癌の亜分類の必要性 優位な組織像で判定することに問題はないのか? 大腸癌 *Frontier* 4:19-23, 2011.
8. 大倉康男: 食道表在癌の病理診断 dysplasia と intraepithelial neoplasia. *胃と腸* 46:587-591, 2011.
9. 大倉康男: 胃癌における SM 浸潤の評価と転移リスク. *消化器内視鏡* 23:880-885, 2011.
10. Ueno H¹, Mochizuki H¹, Shirouzu K², Kusumi T³, Yamada K⁴, Ikegami M⁵, Kawachi H⁶, Kameoka S⁷, Ohkura Y, Masaki T⁸, Kushima R⁹, Takahashi K¹⁰, Ajioka Y¹¹, Hase K¹², Ochiai A¹³, Wada R¹⁴, Iwaya K¹⁵, Nakamura T¹⁶, Sugihara K¹⁷ (Dept. of Surg., Natl. Defense Medical College, Dept. of Surg., Kurume Univ. Faculty of Med., Dept. of Surg. Oncol., Keiyukai Sapporo Hosp., Coloproctology Center, Takano Hosp., Dept. of Pathol., Jikei Univ. Sch. of Med., Dept. of Pathol. Graduate Sch. of Tokyo Medical and Dental Univ., Dept. of Surg. 2, Tokyo Women's Medical Univ., Dept. of Surg., Kyorin Univ. Sch. of Med., Dept. of Pathol. Shiga Univ. of Med. Sci. Hosp., Dept. of Surg., Tokyo Metropolitan Komagome Hosp., Div. of Molecular and Diagnostic Pathol., Graduate Sch. of Medical and Dental Sciences, Niigata Univ., Dept. of Surg., Self Defense Forces Central Hosp., Pathol. Div., Reseach Center for Innovative Oncol., Natl. Cancer Center Hosp East, Dept. of Pathol., Juntendo Shizuoka hosp. of Juntendo Univ. Sch. of Med., Dept. of Pathol., Tokyo Medical Univ. Kasumigaura Hosp., Lab. For Mathematics, Natl. Defense Medical College, Dept. Surg. Oncol., Graduate Sch. of Tokyo Medical and Dental Univ.): Actual status of distribution and prognostic impact of extramural discontinuous cancer spread in colorectal cancer. *Clin Oncol.* 29:2550-2556, 2011.
11. Sakamoto S¹, Yazawa T, Baba Y¹, Sato H², Kanegae Y³, Hirai T⁴, Saito I³, Goto T¹, Kurahashi K¹ (Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Yokohama City University Graduate School of Medicine, Department of Anatomy, St. Marianna University School of Medicine, Laboratory of Molecular Genetics, Institute of Medical Science, University of

- Tokyo, ⁴Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University): Keratinocyte growth factor gene transduction ameliorates pulmonary fibrosis induced by bleomycin in mice. *Am J Respir Cell Mol Biol* 45:489-497, 2011.
12. 大木亜津子¹, 阿部展次¹, 竹内弘久¹, 柳田修¹, 正木忠彦¹, 森俊幸¹, 大倉康男, 杉山政則¹ (杏林大・医・第一外科): 未分化型早期胃癌への内視鏡的切除の適応拡大. *消化器内科* 53:356-359, 2011.
 13. Honda K¹, Saraya T¹, Tamura M¹, Yokoyama T¹, Fujiwara M, Goto H¹ (Department of Respiratory Medicine): Tumor lysis syndrome and acquired ichthyosis occurring after chemotherapy for lung adenocarcinoma. *J Clin Oncol* 29:e859-860, 2011.
 14. 水澤英洋¹, 岸田修二², 西条政幸³, 雪下基弘⁴, 宍戸-原由紀子, 澤洋文⁵, 長嶋和郎⁶, 奴久妻聡一⁷, 山田正仁⁸ (東京医歯大・大学院・脳神経病態学, ²都・駒込病院・神経内科, ³国立感染研・ウイルス第一, ⁴佐賀大・医・神経内科, ⁵北大・人畜共通感染症, ⁶札幌東徳洲会病院・病理, ⁷神戸市環境保健研究所・微生物, ⁸金沢大・大学院・脳老化神経病態学): 進行性多巣性白質脳症. *臨床神経学* 51:1051-1057, 2011.
 15. 大倉康男: 食道胃接合部癌の病理組織学的特徴—噴門癌・Barrett 腺癌との鑑別を含めて. *消化器内視鏡* 23:2054-2061, 2011.
 16. 山本阿紀子, 小松京子¹, 百村麻衣², 平野和彦, 寺戸雄一, 藤原正親, 坂本穆彦 (杏林大・医・付属病院病理部, ²同・医・産科婦人科): 子宮頸癌検診を契機に発見された正常大卵巣癌症候群を呈した卵巣癌の1例. *日本臨床細胞学会雑誌* 50:181-185, 2011.
 17. Uno K, Kuwabara H, Terado Y, Kojima K, Kawakami T, Kamma H, Sakurai H, Sakamoto A, Kurata A: Divergent expression of L-type amino acid transporter 1 during uterine cervical carcinogenesis. *Hum Pathol* 42: 1660-1666, 2011.
 18. 山本阿紀子, 小松京子, 百村麻衣¹, 平野和彦, 寺戸雄一, 藤原正親, 坂本穆彦 (杏林大・医・産科婦人科): 子宮頸癌検診を契機に発見された正常大卵巣癌症候群を呈した卵巣癌の1例. *日本臨床細胞学会雑誌* 50:181-185, 2011.
 19. 小出卓¹, 皿谷健¹, 中本啓太郎¹, 中島明¹, 石井晴之¹, 藤原正親, 柴田英克², 岡輝明³, 呉屋朝幸², 後藤元¹ (杏林大・医・呼吸器内科, ²杏林大・医・呼吸器外科, ³関東中央病院・病理科): 胸膜鏡下肺生検で類上皮細胞性肉芽腫を認めたメシル酸イマチニブの薬剤性肺障害の1例. *日本呼吸器病学会雑誌* 49:465-471, 2011.
 20. 小松京子, 藤山淳三, 宍戸-原由紀子: 脳脊髄液の細胞診. *検査と技術* 39:1073-1081, 2011.
 21. Shishido-Hara Y, Ichinose S¹, Uchihara T² (Tokyo Med&Dent Univ, ²Tokyo Metropolitan Institute for Medical Science): JC virus intranuclear inclusions associated with PML-NBs: Analysis by electron microscopy and structured illumination microscopy (SIM). *Am J Pathol* 180:1095-1106, 2012.
 22. Iwasawa T¹, Ogura T², Sakai F³, Kanauchi T⁴, Komagata T¹, Baba T², Gotoh T⁵, Morita S⁶, Yazawa T, Inoue T⁷ (Departments of ¹Radiology and ²Respiratory Medicine, Kanagawa Cardiovascular and Respiratory Center, ³Department of Diagnostic Radiology, International Medical Center of Saitama Medical University, ⁴Department of Radiology, Saitama Cardiovascular and Respiratory Center, ⁵Graduate School of Environment and Information Sciences, Yokohama National University, ⁶Department of Biostatistics and Epidemiology, Yokohama City University Medical Center, ⁷Department of Radiology, Yokohama City University Graduate School of Medicine): CT analysis of the effect of pirfenidone in patients with idiopathic pulmonary fibrosis. *Eur J Radiol* 2012. DOI. org/10. 1016/j. ejrad/2012. 02. 014
 23. Watanabe T¹, Itabashi M², Shimada Y³, Tanaka S⁴, Ito Y⁵, Ajioka Y⁶, Hamaguchi T³, Hyodo I⁷, Igarashi M⁸, Ishida H⁹, Ishiguro M¹⁰, Kanemitsu Y¹¹, Kokudo N¹², Muro K¹³, Ochiai A¹⁴, Oguchi M¹⁵, Ohkura Y, Saito Y¹⁶, Sakai Y¹⁷, Ueno H¹⁸, Yoshino T¹⁹, Fujimori T²⁰, Koinuma N²¹, Morita T²², Nishimura G²³, Sakata Y²⁴, Takahashi K²⁵, Takiuchi H²⁶, Tsuruta O²⁷, Yamaguchi T²⁸, Yoshida M²⁹, Yamaguchi N³⁰, Kotake K³¹, Sugihara K¹⁰; Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (Dept. of Surg. , Teikyo Univ. Sch. of Med. , ²Dept. of Surg. 2, Tokyo Women's Medical Univ. , ³Div. of Gastrointestinal Med. Oncol. , Natl. Cancer Center Hosp. , ⁴Dept. of Endos. , Hiroshima Univ. Hosp. , ⁵Dept. of Radiation Oncol. , Natl. Cancer Center, ⁶Div. of Molecular and Diagnostic Pathol. , Graduate Sch. of Medical and Dental Sciences, Niigata Univ. , ⁷Div. of Gastroenterol. , Graduate Sch. of Comprehensive Human Sci. , ⁸Dept. of Endos. , Cancer Institute Ariake Hosp. , ⁹Dept. of Digest. Tract and General Surg. , Saitama Medical Center, ¹⁰Dept. Surg. Oncol. , Graduate Sch. of Tokyo Medical and Dental. Univ. , ¹¹Dept. of Gastroenterol. Surg. , Aichi Cancer Center, ¹²Hepato-Biliary-Pancreatic Surg. Div. , Artificial Organ and Transplantation Div. , Dept. of Surg. , Graduate Sch. of Med. , Univ. of Tokyo, ¹³Dept. of Clinic. Oncol. , Aichi Cancer Center Hosp. , ¹⁴Pathol. Div. , Reseach Center

for Innovative Oncol., Natl. Cancer Center Hosp East, ¹⁵Radiation Oncol. Dept., The Cancer Institute Hosp., ¹⁶Endos. Div., Natl. Cancer Center Hosp., ¹⁷Dept. of Surg. Kyoto Univ., ¹⁸Dept. of Surg., Natl. Defence Med. College, ¹⁹Dept. of Gastroenterol. and Gastrointestinal Oncol., Natl. Cancer Center Hosp East, ²⁰Dept. of Surg. and Molecular Pathol., Dokkyo Medical Univ. Sch. of Med., ²¹Dept. of Health Administration and Policy, Tohoku Univ. Graduate Sch. of Med., ²²pt. of Surg., Cancer Center, Aomori Pref. Centrl Hosp., ²³Dept. of Surg., Jap. Red Cross Kanazawa Hosp., ²⁴Dept. of Int. Med. and Med. Oncol., Misawa City Hosp., ²⁵Dept. of Surg., Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, ²⁶Cancer Chemotherapy Center, Osaka Medical College, ²⁷Div. of Gastrointestinal Endos., Kurume Univ. Sch. of Med., ²⁸Dept. of Gastroenterol. Surg., Cancer Institute Hosp., ²⁹Dept. of Hemodialysis and Surg., Chemotherapy, Reseach Institute, Int. Univ. of Health and Welfare, ³⁰Library, Toho Univ. Med. Center Sakura Hosp., ³¹Dept. of Surg., Tochigi Cancer Center): Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) guidelines 2010 for the treatment of colorectal cancer. *Int J Clin Oncol.* 17:1-29. 2012.

24. Matsushita K¹, Kanna M², Yazawa T, Shimizu S¹, Nitta M¹, Takamizawa T¹, Arakawa K¹, Yano H¹, Nishikawa M¹, Himeno H¹ (¹Division of Cardiology, Fujisawa City Hospital, ²Division of Cardiology, National Hospital Organization Sagami-hara National Hospital): Long-term survivor with pulmonary veno-occlusive disease. *Circulation* 125:e503-e506, 2012.

著書

- 菅間博, 平野和彦, 寺戸雄一, 藤原正親, 宍戸-原由紀子: 腫瘍の病理診断と免疫染色. 組織細胞化学 2011. 日本組織細胞化学会編. 京都, 学際企画, 2011. p. 219-228.
- 大倉康男: 第1部 検鏡前の確認事項 I. 大腸癌取扱い規約のコンセプト: 国際分類との相違を含めて. 八尾隆史, 藤盛孝博 (編) 腫瘍病理鑑別診断アトラス 大腸癌. 東京, 文光堂, 2011. p. 2-10.
- 大倉康男: 第3部 鑑別ポイント I. 生検診断の難しい検体の判定. 八尾隆史, 藤盛孝博 (編) 腫瘍病理鑑別診断アトラス 大腸癌. 東京, 文光堂, 2011. p. 184-191.
- 大倉康男: 2章 診断のために基礎知識 上部消化管癌取扱い規約における病理診断の概説 食道癌取扱い規約と病理. 藤盛孝博, 青笹克之 (編) 癌診療指針のための病理診断プラクティス 食道癌・胃癌. 東京, 中山書店, 2012. p. 12-17.

- 大倉康男: 2章 診断のために基礎知識 上部消化管癌診断の実際 EMR/ESD 標本の病理診断, その周辺 追加治療の検討に必要な組織所見と評価方法. 藤盛孝博, 青笹克之 (編) 癌診療指針のための病理診断プラクティス 食道癌・胃癌. 東京, 中山書店, 2012. p. 56-65.
- 小松京子, 市川美雄: 最新染色法のすべて フォンタナ・マッソン染色・ムチカルミン染色, 医歯薬出版, 2011. p53-55, p249-251.

その他

- 宍戸-原由紀子: 進行性多巣性白質脳症の核内ウイルス封入体: 電子顕微鏡と超解像顕微鏡 (SIM) による解析から. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業プリオン病及び遅発性ウイルス感染に関する調査研究班平成 23 年度総括・分担研究報告書.
- 矢澤卓也: TTF-1 が関与する悪性神経内分泌細胞特異的分子発現誘導システムの全容解明. 平成 23 年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 実績報告書 (研究実績報告書).
- 矢澤卓也: TTF-1 が関与する悪性神経内分泌細胞特異的分子発現誘導システムの全容解明. 文部科学省科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 平成 21-23 年度研究成果報告書.
- 下山田博明: VEGF-VEGFR シグナリングをターゲットにした肺癌・悪性中皮腫治療法の開発. 平成 23 年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 実績報告書 (研究実績報告書).

感染症学教室 (微生物学)

口演

- 蔵田訓, 田口晴彦¹, 大崎敬子, 神谷茂 (¹杏林大・保健・免疫学): マウス実験的肺炎モデルおよび splenocyte を用いた *Mycoplasma pneumoniae* 菌体抗原による Th17 分化誘導機構についての検討. 第 85 回日本感染症学会総会, 東京, 平成 23 年 4 月 21-22 日.
- 大崎敬子, 岡田忠司¹, 李城杓², 神谷茂 (¹オリザ油化株式会社, ²ミスバ RTech): 月見草エキスおよびフコイダン複合物の抗 *Helicobacter pylori* 作用. 第 85 回日本感染症学会総会, 東京, 平成 23 年 4 月 21-22 日.
- Hanawa T, Yonezawa H, Kamiya S, Armstrong SK¹ (¹Department of Microbiology, University of Minnesota-Twin Cities): Role of σ^E in the envelope stress response and an implication for the production of toxins in *Bordetella pertussis*. The 111th general meeting of the American Society for Microbiology, New Orleans, May 21-24, 2011.
- Okuda M¹, Kikuchi S², Osaki T, Ueda J², Maekawa K², Yagyū K², Lin Y², Kamiya S,

- Fukuda Y¹ (¹ Department of General Medicine and Community Health Science, Hyogo College of Medicine, ²Department of Public Health, Aichi Medical University School of Medicine): Prevalence of *Helicobacter pylori* infection in Japanese children and their Family -sasayama study-. The 8th Japan-Korea Joint Symposium on *Helicobacter* infection, Seoul, May 28, 2011.
5. Yonezawa H: Outer membrane vesicle of *Helicobacter pylori* strain TK1402 is involved in its biofilm formation and pathogenesis. The 8th Japan-Korea Joint Symposium on *Helicobacter* Infection, Seoul, May 28, 2011.
 6. 菊地正悟¹, 上田純子¹, 柳生聖子¹, 林櫻松¹, 奥田真珠美², 福田能啓², 大崎敬子, 神谷茂 (¹愛知医大・公衆衛生学, ²兵庫医大・地域医療学): 小児の *Helicobacter pylori* 陽性率. がん予防大会 2011, 京都, 平成 23 年 6 月 20-21 日.
 7. 北条史¹, 大崎敬子, 花輪智子, 神谷茂 (¹杏林大・医・共同研究施設・実験動物部門): *in vivo* における Phx-3 の抗 *Helicobacter pylori* 活性について. 第 17 回日本ヘリコバクター学会学術集会, 富山, 平成 23 年 6 月 24-25 日.
 8. 大崎敬子, 加藤晴一, 米澤英雄, Zaman Cynthia, 北条史¹, 花輪智子, 神谷茂 (¹杏林大・医・共同研究施設・実験動物部門): *Helicobacter pylori* と Caco-2 細胞の混合培養時の相互作用について. 第 17 回日本ヘリコバクター学会学術集会, 富山, 平成 23 年 6 月 24-25 日.
 9. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, Zaman Cynthia, 神谷茂: *Helicobacter pylori* のバイオフィーム形成とクラリスロマイシン耐性. 第 17 回日本ヘリコバクター学会学術集会, 富山, 平成 23 年 6 月 24-25 日.
 10. 杉崎健太郎, 花輪智子, 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, 神谷茂: *Bordetella pertussis* の発育および Biofilm 形成における ppGpp の役割. 第 25 回 Bacterial Adherence & Biofilm 学術集会, 東京, 平成 23 年 7 月 8 日.
 11. 神谷茂: 食中毒菌とピロリ菌ー病原菌の性状と感染予防ー. 篠山市ピロリ菌検診研究中間報告会, 篠山, 平成 23 年 7 月 25 日.
 12. Kamiya S, Zaman C, Yonezawa H, Hojo F¹, Osaki T (¹Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University): Analysis for microbial ecology between *Helicobacter pylori* and gastric microbiota in Mongolian gerbil. The 16th International Workshop on Campylobacter, Helicobacter, and Related Organisms, Vancouver, Aug. 28-31, 2011.
 13. Osaki T, Kato S, Yonezawa H, Kurata S, Zaman C, Hanawa T, Kamiya S: Analysis of iron transport and storage gene in *Helicobacter pylori* isolated from iron deficiency anemia patients. The 16th International Workshop on Campylobacter, Helicobacter, and Related Organisms, Vancouver, Aug. 28-31, 2011.
 14. Kurata S, Taguchi H¹, Osaki T, Hanawa T, Yonezawa H, Zaman C, Arae K¹, Kamiya S (¹Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences): In vitro and in vivo analyses of Th17 cells stimulated by *Mycoplasma pneumoniae* antigens. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011), Sapporo, Sep. 6-10, 2011.
 15. Arae K¹, Kurata S, Kamiya S, Taguchi H¹ (¹Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences): The epidermal growth factor receptor pathway contributes to IL-8 production by epithelial cells stimulated with *Mycoplasma pneumoniae*. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011), Sapporo, Sep. 6-10, 2011.
 16. Oka K¹, Osaki T, Hanawa T, Kurata S, Sugiyama E¹, Takahashi M¹, Tanaka M¹, Taguchi H², Inamatsu T³, Kamiya S (¹Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., ²Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, ³Department of Laboratory Medicine, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital): Establishment of *Clostridium difficile* associated diarrhea model and evaluation of the effects of *Clostridium butyricum* MIYAIRI 588 strain. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011), Sapporo, Sep. 6-10, 2011.
 17. Yonezawa H, Osaki T, Kurata S, Zaman C, Hanawa T, Kamiya S: Oral bacteria affects the virulence of *Helicobacter pylori*. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011), Sapporo, Sep. 6-10, 2011.
 18. Osaki T, Kato S, Zaman C, Yonezawa H, Hanawa T, Kurata S, Hojo F¹, Kamiya S (¹Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University): The characterization of *Helicobacter pylori* strains isolated from the iron deficiency anemia patients. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011), Sapporo, Sep. 6-10, 2011.
 19. Hojo F¹, Osaki T, Hanawa T, Tomoda A², Kamiya S (¹Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University, ²Department of Biochemistry and Intractable Immune System Disease Research Center, Tokyo Medical University): *In Vivo* antibacterial activity of PHX-3 against *Helicobacter pylori*. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011), Sapporo, Sep. 6-10,

- 2011.
20. Hanawa T, Yonezawa H, Osaki T, Kurata S, Zaman C, Armstrong SK¹, Kamiya S (¹Department of Microbiology, University of Minnesota-Twin Cities): Envelope stress response and secretion in *Bordetella pertussis*. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011), Sapporo, Sep. 6-10, 2011.
 21. 神谷茂: ヘリコバクター・ピロリの病原性 - クオラム・センシングとバイオフィーム形成. 第4回山梨生活習慣病研究会特別講演, 甲府, 平成23年9月10日.
 22. Kikuchi S¹, Okuda M², Ueda J¹, Osaki T, Yagyu K¹, Lin Y¹, Maekawa K², Yonezawa H, Kamiya S, Fukuda Y² (¹Department of Public Health, Aichi Medical University School of Medicine, ²Department of General Medicine and Community Health Science, Hyogo College of Medicine): Prevalence of *Helicobacter pylori* infection in children in a rural area of Japan. The XXIVth International Workshop of the Helicobacter Study Group, Dublin, Sep. 11-13, 2011.
 23. Okuda M¹, Kikuchi S², Ueda J², Osaki T, Yagyu K², Lin Y. ², Maekawa K¹, Yonezawa H, Kamiya S, Fukuda Y¹ (¹Department of Public Health, Aichi Medical University School of Medicine, ²Department of General Medicine and Community Health Science, Hyogo College of Medicine): Intrafamilial transmission of *Helicobacter pylori* infection in a rural area of Japan. The XXIVth International Workshop of the Helicobacter Study Group, Dublin, Sep. 11-13, 2011.
 24. 杉崎健太郎, 花輪智子, 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, 川上速人¹, 神谷茂, (¹杏林大・医・解剖学): 百日咳菌の緊縮応答シグナル分子 (p)ppGpp 生合成酵素遺伝子欠損変異株の性状. 第94回日本細菌学会関東支部総会, 東京, 平成23年10月6-7日.
 25. Kurata S, Taguchi H¹, Sasaki T², Kamiya S (¹Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, ²Pharmaceuticals and Medical Devices Agency): Animal model of macrolide-resistant *Mycoplasma pneumoniae* infection. Joint Congress of The 5th Meeting of the Asian Organization for Mycoplasma (AOM), The 38th Meeting of the Japanese Society of Mycoplasma (JSM), Nagasaki, Oct. 19-21, 2011.
 26. Taguchi H¹, Arae K¹, Kurata S, Kamiya S (¹Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences): Host immune response in gnotobiotic model of *Mycoplasma pneumoniae* inducing pneumonia. Joint Congress of The 5th Meeting of the Asian Organization for Mycoplasma (AOM) The 38th Meeting of the Japanese Society of Mycoplasma (JSM), Nagasaki, Oct. 19-21, 2011.
 27. 神谷茂: *Clostridium difficile* 感染症と腸内フローラ. 第20回腸内フローラシンポジウム講演, 東京, 平成23年10月28日.
 28. Kamiya S: Microbial ecology between *Helicobacter pylori* and microbiota in gastric mucosa. Presidential Lecture, The Joint Meeting of the XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
 29. Kamiya S: Regulation of probiotics in Japan. Round Table Discussion, The Joint Meeting of the XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
 30. Taguchi H¹, Kurata S, Arae K¹, Onogawa T¹, Kamiya S (¹Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences): Immune response of the gnotobiotic mouse model induced *Mycoplasma pneumoniae* and evaluation of antimicrobials using the model. The Joint Meeting of the XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
 31. Kurata S, Taguchi H¹, Osaki T, Hanawa T, Yonezawa H, Kamiya S (¹Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences): Role of IL-10 and IL-17 in the *Mycoplasma pneumoniae* experimental pneumonia model. The Joint Meeting of the XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
 32. Yonezawa H, Kamiya S: Biofilm formation by *Helicobacter pylori*. The Joint Meeting of The XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
 33. Hanawa T, Sugisaki K, Yonezawa H, Osaki T, Kurata S, Zaman C, Kamiya S: Implication of the role of stringent response in the expression of adenylate cyclase toxin in *Bordetella pertussis*. The Joint Meeting of The XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.

34. Sugisaki K, Hanawa T, Yonezawa T, Osaki T, Kurata S, Kawakami H¹, Kamiya S (¹Department of Anatomy, Kyorin University, School of Medicine) : Deletion of alarmon synthetase altered physiology and biofilm formation of *Bordetella pertussis*. The Joint Meeting of The XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
35. 神谷茂, 蔵田訓, 大崎敬子, 柴森雅文¹, 中島貴子¹, 植松直也¹, 櫻井一志¹ (¹大塚製薬株式会社) : NSAIDS 小腸潰瘍における小腸内正常細菌叢の変化とレバミピドの効果. OTSUKA 小腸基礎研究会, 京都, 平成 23 年 12 月 10 日.
36. 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, Zaman Cynthia, 神谷茂 : *Helicobacter pylori* の環境中での生存条件についての検討. 第 45 回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 岐阜, 平成 24 年 1 月 12-13 日.
37. 神谷茂 : 世界の感染症の動向と国際技術協力の意義. JICA 臨床検査技術コース講義, 東京, 平成 24 年 1 月 17 日.
38. 神谷茂 : ディフィシル菌感染症の病態, 診断および治療胃-新型ディフィシル菌のアウトブレイクを含めて-. 第 23 回日本臨床微生物学会総会, ランチョンセミナー, 横浜, 平成 24 年 1 月 22 日.
39. 菊地正悟¹, 上田純子¹, 柳生聖子¹, 林櫻松¹, 奥田真珠美², 前川講平², 福田能啓², 大崎敬子, 米澤英雄, 神谷茂 (¹愛知医大・公衆衛生, ²兵庫医大・地域医療学) : わが国小児の *Helicobacter pylori* 感染源の検索. 第 22 回日本疫学会学術総会, 東京, 平成 24 年 1 月 26-28 日.
40. 大崎敬子, 米澤英雄, Zaman Cynthia, 北条史¹, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂 (¹杏林大学・医・共同研究施設・実験動物部門) : Interaction between *Helicobacter pylori* and Caco-2 cells in the co-culture system. 第 85 回日本細菌学会総会, 長崎, 平成 24 年 3 月 27-29 日.
41. 北条史¹, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之², 神谷茂 (¹杏林大・医・共同研究施設・実験動物部門, ²北大・院・保健科学・病態解析学・感染制御検査学) : Analysis of symbiotic conditions between *Helicobacter pylori* and protozoa. 第 85 回日本細菌学会総会, 長崎, 平成 24 年 3 月 27-29 日.
42. 蔵田訓, 大崎敬子, 花輪智子, 米澤英雄, 田口晴彦¹, 神谷茂 (¹杏林大・保健・免疫学) : Induction of a Th17 response by *Mycoplasma pneumoniae* antigens. 第 85 回日本細菌学会総会, 長崎, 平成 24 年 3 月 27-29 日.
43. 和田薫子¹, 高橋志達¹, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 米澤英雄, 岡健太郎¹, 稲松考思², 神谷茂 (¹ミヤリサン製薬株式会社, ²東京都健康長寿医療センター) : 本邦における NetB 毒素遺伝子産生性 *Clostridium perfringens* の検討. 第 85 回日本細菌学会総会, 長崎, 平成 24 年 3 月 27-29 日.
44. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, Zaman Cynthia, 神谷茂 : *Helicobacter pylori* バイオフィルム形成が及ぼすクラリスロマイシンへの抵抗性, および耐性菌出現への影響の解析. 第 85 回日本細菌学会総会, 長崎, 平成 24 年 3 月 27-29 日.

論文

1. Mikura S¹, Wada H¹, Higaki M¹, Yasutake T¹, Ishii H¹, Kamiya S, Goto H¹ (¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Erythromycin prevents the pulmonary inflammation induced by exposure to cigarette smoke. *Translational Res* 158:30-37, 2011.
2. Hirao S¹, Wada H¹, Nakagaki K², Saraya T¹, Kurai D¹, Miura S¹, Yasutake T¹, Higaki M¹, Yokoyama T¹, Ishii H¹, Nakata K³, Akashi T⁴, Kamiya S, Goto H¹ (¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Division of Wildlife Medicine, Nippon Veterinary and Life Science University, ³Bioscience Medical Research Center, Niigata University Medical and Dental Hospital, ⁴Medicinal Research Laboratories, Taisho Pharmaceutical Co. Ltd.): Inflammation provoked by *Mycoplasma pneumoniae* extract: implications for combination treatment with clarithromycin and dexamethasone. *FEMS Immunol Med Microbiol* 62:182-189, 2011.
3. Yonezawa H, Osaki T, Woo T, Kurata S, Zaman C, Hojo F¹, Hanawa T, Kato S², Kamiya S (¹Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University, ²Department of cell Transplantation and Regenerative Medicine, Tokai University School of Medicine): Analysis of outer membrane vesicle protein involved in biofilm formation of *Helicobacter pylori*. *Anaerobe*. 17:388-390, 2011.
4. Komiya I¹, Arimura Y¹, Nakabayashi K¹, Yamada A¹, Osaki T, Yamaguchi H², Kamiya S (¹First Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Medical Laboratory Sciences, Hokkaido University Graduate School of Health Sciences) : Increased concentrations of antibody against heat shock protein in patients with myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic autoantibody positive microscopic polyangiitis. *Microbiol Immunol*. 55: 531-538, 2011.
5. Arae K¹, Hirata M¹, Kurata S, Kamiya S, Taguchi H¹ (¹Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences): *Mycoplasma pneumoniae* induces interleukin-8 production via the epidermal growth factor

- receptor pathway. *Microbiol Immunol.* 55:748-750, 2011.
6. Woo T, Oka K¹, Takahashi M¹, Hojo F², Osaki T, Hanawa T, Kurata S, Yonezawa H, Kamiya S (¹Miyarisan Pharmaceutical Co. Ltd. , ²Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University): Inhibition of the cytotoxic effect of *C. difficile* in vitro by *Clostridium butyricum* MIYAIRI 588 strain. *J Med Microbiol* 60:1617-1625, 2011.
 7. Suzuki M¹, Kiga K¹, Kersulyte D², Cok J³, Hooper C³, Mimuro H¹, Sanada T¹, Suzuki S¹, Oyama M⁴, Kozuka-Hata H⁴, Kamiya S, Quan-Ming Zou⁵, Gilman R^{3,6}, Berg D^{2,7}, Sasakawa C^{1,8} (¹Department of Microbiology and Immunology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, ²Department of Molecular Microbiology, Washington University School of Medicine, ³Department of Microbiology, Facultad de Medicina, Universidad Peruana Cayetano Heredia, ⁴Medical Proteomics Laboratory, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, ⁵Department of Clinical Microbiology and Immunology, College of Medical Laboratory Science, The Third Military Medical University, ⁶Department of International Health, The Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health, Baltimore, ⁷Departments of Genetics and Medicine, Washington University School of Medicine, ⁸Department of Infectious Disease Control, International Research Center for Infectious Diseases, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo): Attenuated CagA oncoprotein in *Helicobacter pylori* from Amerindians in Peruvian Amazon. *J Biol Chem* 286(34):29964-29972, 2011.
 8. Kamiya S: Effect of probiotics on intestinal infections. *Intestinal Res* 9:171-178, 2011.
 9. Saraya T¹, Nakata K², Nakagaki K³, Motoi N², Iihara K⁴, Fujioka Y⁵, Oka T⁶, Kurai D¹, Wada H¹, Ishii H¹, Taguchi H⁷, Kamiya S, Goto H¹ (¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Niigata University Medical & Dental Hospital, Bioscience Medical Research Center, ³Laboratory of Infectious Diseases and Immunology, College of Veterinary Medicine, Nippon Jui Seimeikagaku University, ⁴NTT Medical Center Tokyo, Department of Diagnostic Pathology, ⁵Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ⁶Division of Pathology and Central Clinical Laboratory, Kanto Central Hospital of the Mutual Aid Association of Public School Teachers, ⁷Department of Immunology, Kyorin University, Faculty of Health Sciences): Identification of a mechanism for lung inflammation caused by *Mycoplasma pneumoniae* using a novel mouse model. *Results in Immunology* 1:76-87, 2011.
 10. Ishida K¹, Yamazaki T¹, Motohashi K¹, Kobayashi M¹, Matsuo J¹, Osaki T, Hanawa T, Kamiya S, Yamamoto² Y, Yamaguchi H¹ (¹Department of Medical Laboratory Sciences, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University, Division of Microbiology, ²Laboratory of Molecular Microbiology, Department of Bioinformatics, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan) : Effect of the steroid receptor antagonist RU486 (mifepristone) on an IFN γ -induced persistent *Chlamydomphila pneumoniae* infection model in epithelial HEp-2 cells. *J Infect Chemother* (DOI: 10. 1007/s10156-011-0274-6 電子版のみ掲載) 2011.
 11. Oguri S¹, Matsuo J², Hayashi Y², Nakamura S³, Hanawa T, Fukumoto T¹, Mizutani Y⁴, Yao T⁴, Akizawa K¹, Suzuki H¹, Shimizu C¹, Matsuno K^{1,2}, Kamiya S, Yamaguchi H² (¹Hokkaido University Hospital, ²Department of Medical Laboratory Sciences, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University, ³Division of Biomedical Imaging Research, Juntendo University Graduate School of Medicine, ⁴Department of Pathology (I), Juntendo University School of Medicine): Ciliates promote the transfer of the gene encoding the extended-spectrum β -lactamase CTX-M-27 between *Escherichia coli* strains. *J Antimicrob Chemother.* 66:527-530, 2011.
 12. Oka K¹, Osaki T, Hanawa T, Kurata S, Okazaki M², Manzoku T¹, Takahashi M¹, Tanaka M¹, Taguchi H³, Watanabe T⁴, Inamatsu T⁵, Kamiya S (¹Miyarisan Pharmaceutical Co. Ltd. , ²Department of Clinical Laboratories, Kyorin University Hospital, ³Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, ⁴Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ⁵Department of Infectious Diseases, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Molecular and microbiological characterization of *Clostridium difficile* isolates from single, relapse, and re-infection cases. *J Clin Microbiol.* 50:915-921, 2012.
 13. 平田雅子¹, 新江賢¹, 蔵田訓, 神谷茂, 田口晴彦¹ (¹杏林大・保健・免疫学) : *Mycoplasma pneumoniae* 抗原刺激による IL-8 産生への EGFR シグナル伝達経路の関与. *日本マイコプラズマ学会雑誌* 37:48-49, 2010.
 14. 小林宏行¹, 小林治², 神谷茂 (¹杏林大・医, ²杏林大・保健・看護学) : バイオフィルム研究の歴

史と将来. *Bacterial Adherence & Biofilm* 24:7-16, 2010.

15. 大崎敬子, 神谷茂: 感染ルートはここまで解明された. *Helicobacter Res* 15:308-312, 2011.
16. 神谷茂, 蔵田訓, 田口晴彦¹ (杏林大・保健・免疫学): マイコプラズマ感染症-その病態, 診断および治療. *医学と薬学* 65:707-713, 2011.
17. 神谷茂: 腸内細菌叢 総論 プロバイオティクスと腸内細菌叢. *臨床検査* 55:121-127, 2011.
18. 神谷茂: マイコプラズマ感染と胃粘膜病変. *日本マイコプラズマ学会雑誌* 38:15-19, 2011.
19. 嘉手苅崇¹, 下田博司¹, 大崎敬子, 神谷茂 (オリザ油化株式会社): 月見草エキスおよびフコイダンの抗ピロリ菌作用に関する新知見. *Food Style* 21 15:72-75, 2011.
20. 神谷茂: 原因不明疾患と感染症-病因を微生物に求めて「はじめに」. *臨床と微生物* 38:1-2, 2011.
21. 神谷茂: プロバイオティクスと呼吸器感染症. *臨床と微生物*, 38:178-179, 2011.
22. 岡健太郎¹, Timothy Woo, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 杉山絵美¹, 高橋志達¹, 田中守¹, 田口晴彦², 稲松孝思³, 神谷茂 (ミヤリサン製薬株式会社, ² 杏林大・保健・免疫学, ³ 東京都健康長寿医療センター): Metronidazole および乾燥卵白を用いたラット抗菌薬関連下痢症モデルにおける *Clostridium butyricum* の有効性についての検討. *無菌生物* 41:103-105, 2011.
23. 杉崎健太郎, 花輪智子, 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, 神谷茂: *Bordetella pertussis* の発育および Biofilm 形成における ppGpp の役割. *Bacterial Adherence & Biofilm* 25:39-42, 2011.
24. 神谷茂: 下痢と便秘 - 感染性下痢, 旅行者下痢症. *Medicina* 49:220-224, 2012.

著書

1. 神谷茂: 微生物の分類. 感染症専門医テキスト, 第I部解説編. 社団法人日本感染症学会編. 東京, 南江堂, p3-19, 2011.
2. 神谷茂: 共生の場, 上部消化管-胃・十二指腸. 腸内共生系のバイオサイエンス. 財団法人日本ビフィズス菌センター編. 東京, 丸善出版, p109-121, 2011.
3. 神谷茂: 細菌性腸管感染症へのビフィズス菌の効果. 世紀を越えるビフィズス菌の研究 - その起訴と臨床応用から製品開発へ-. 監修: 上野川修一, 山本憲二. 東京, 財団法人日本ビフィズス菌センター, p208-214, 2011.
4. 神谷茂: プロバイオティクスと感染症. 食と健康のための免疫学入門. 京都健康フォーラム監修, 上野川修一・吉川正明編集. 東京, 建泉社, p19-41, 2012.
5. 神谷茂: 標準微生物学 第11版. 編集. 東京, 医学書院, 2012. (総672ページ)
6. 神谷茂: 第18章 スピロヘータ科細菌, レプトスピラ科細菌, らせん菌. 標準微生物学 (監修: 平

松啓一, 編集: 中込治, 神谷茂) 第11版. 東京, 医学書院, p228-239, 2012.

7. 神谷茂: 第19章 グラム陽性球菌, グラム陽性嫌気性球菌. 標準微生物学 (監修: 平松啓一, 編集: 中込治, 神谷茂) 第11版. 東京, 医学書院, p256-257, 2012.
8. 神谷茂: 第21章 グラム陽性無芽胞桿菌. 標準微生物学 (監修: 平松啓一, 編集: 中込治, 神谷茂) 第11版. 東京, 医学書院, p271-274, 2012.
9. 神谷茂: 第22章 放線菌とその関連細菌, グラム陽性無芽胞嫌気性桿菌. 標準微生物学 (監修: 平松啓一, 編集: 中込治, 神谷茂) 第11版. 東京, 医学書院, p279-282, 2012.
10. 神谷茂: 第22章 放線菌とその関連細菌, 放線菌類. 標準微生物学 (監修: 平松啓一, 編集: 中込治, 神谷茂) 第11版. 東京, 医学書院, p295-297, 2012.
11. 神谷茂: 第1章 微生物学とは何か, そしてなぜ重要か?. 微生物学 - 基礎から臨床へのアプローチ. 監訳: 神谷茂, 河野茂. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, p3-13, 2012.

その他

1. 神谷茂: マイコプラズマ感染症, TMDC MATE No. 263, 2011.
2. 神谷茂: ヘリコバクター・ピロリ感染の病態と存在診断. 医療技術セミナー “スキルアップ” 第91回セミナー受講用テキスト 「ヘリコバクター・ピロリ感染の病態診断と除菌治療の実際」, p1-51, 2011.
3. 大久保憲, 小林寛伊, 尾家重治, 神谷茂: 厚生労働科学研究費補助金, 健康安全・危機管理対策総合研究事業, 「クリーニング所における洗濯物の消毒方法に関する研究」平成22年度総括・分担研究報告書, 2011年4月.
4. 神谷茂, 花輪智子, 米澤英雄, 北条史: ドライソーブに含有される界面活性剤の細菌バイオフィルム形成能および HSV-1 増殖への作用. 「クリーニングと公衆衛生に関する研究報告書」平成22年度, p13-19, 平成23年4月6日.
5. 神谷茂: O111 食中毒はなぜコワイ? からころ No. 23, p11, 2011
6. 神谷茂, 大崎敬子, 米澤英雄: ヘリコバクター・ピロリと口腔内細菌との相互作用に関する研究, 厚生労働省科学研究費補助金, 地球規模保健課題推進研究事業 (国際医学協力研究事業), 多様化・ポウダーレス化する細菌性下痢症を阻止するためのフロンティア研究, 平成22年度, 総括・分担研究報告書 (研究代表者 西沢光昭), p80-85, 2011.
7. 神谷茂: 見る知る防ぐ「細菌 & ウイルス事典」, ピロリ菌, すこやかファミリー, Sept. 14-15, 2011.

特許

1. 特許取得: 抗クラミジア剤, クラミジアが関与

する疾患の予防剤, 再発予防剤及び治療剤
(特願 2004-086340) 認証日: 平成 23 年 4 月 12 日.

感染症学教室
(寄生虫学)

口 演

1. Ishih A¹, Kawakami C¹, Todoroki A¹, Hirai H¹, Kobayashi F (¹Dept. Infect. Dis., Hamamatsu Univ. Schl. Med.): Outcome of chloroquine treatment on malaria infection in mice. 第 80 回日本寄生虫学会大会, 東京, 平成 23 年 7 月 17-18 日.
2. 新倉保, 井上信一, 小林富美恵: マラリア原虫複合感染による原虫血症増悪機序の解析. 第 80 回日本寄生虫学会大会, 東京, 平成 23 年 7 月 17-18 日.
3. 小林富美恵: 現代の寄生虫感染症. 杏林大学医学部オープンキャンパス模擬講義. 東京, 平成 23 年 8 月 20 日.
4. Niikura M, Inoue S, Kobayashi F: Spleen is not essential for development of liver injury during *Plasmodium berghei* infection. IUMS-International Union of Microbiological Societies Sapporo 2011, Sapporo, Sep. 6-10, 2011.
5. Inoue S, Niikura M, Yokota N, Kawakami Y¹, Uchida A¹, Kobayashi F (¹Lab. Parasitol., Sch. Life Environm. Sci., Azabu Univ.): γ δ T cells regulate supply and activation of immune cells during blood-stage *Plasmodium berghei* XAT infection. The 17th Japanese-German Cooperative Symposium on Protozoan Diseases. Nara, Sep. 12-17, 2011.
6. Higaki M¹, Wada H¹, Yasutake T¹, Mikura S¹, Honda K¹, Nakamura M¹, Niikura M, Kobayashi F, Kamiya S, Goto H¹ (¹Dep. Resp. Med., Kyorin Univ. Sch. Med.): IL-10 resolves the neutrophilic inflammation in the mice exposed to cigarette smoke. European Respiratory Society in Amsterdam 2011, Amsterdam, Sep. 24-28, 2011.
7. 井上信一, 新倉保, 小林富美恵 (企画講演): マラリア原虫が明らかにする自然免疫リンパ球の新たな役割. 第 71 回日本寄生虫学会東日本支部大会, 東京, 平成 23 年 10 月 1 日.
8. Ishih A¹, Kobayashi F (¹Dept. Infect. Dis., Hamamatsu Univ. Schl. Med.): Production of malaria-specific antibodies in *Plasmodium yoelii* 17XNL-infected IFN-g receptor-deficient mice after chloroquine treatment. 第 71 回日本寄生虫学会東日本大会, 東京, 平成 23 年 10 月 1 日.
9. 井上信一: 生食文化と寄生虫症. 第 216 回やさしい科学技術セミナー「身近にひそむ寄生虫たち」(杏林大学/国際科学技術財団主催), 東京, 平成 23 年 10 月 29 日.
10. 小林富美恵 (特別講演): 世界で猛威をふるうマラリア. 第 216 回やさしい科学技術セミナー「身近にひそむ寄生虫たち」(杏林大学/国際科学技術財団主催), 東京, 平成 23 年 10 月 29 日.
11. 新倉保, 井上信一, 小林富美恵: *Plasmodium berghei* ANKA が引き起こす脳症の抑制に関する研究 (平成 23 年度杏林大学医学部研究奨励賞中間報告). 第 40 回杏林医学会総会, 東京, 平成 23 年 11 月 19 日.
12. 井上信一, 新倉保, 横田夏紀, 小林富美恵: γ δ T 細胞による樹状細胞活性化を介したマラリア原虫感染防御機構の解明. 第 34 回日本分子生物学会年会, 横浜, 平成 23 年 12 月 13-16 日.
13. Ito D, Yamasaki T, Takeo S, Han ET, Thongkuiatkul A, Torii M, Tsuboi T “RALP1 is localized at rhoptry neck of *Plasmodium falciparum* merozoite and translocates to moving junction” Molecular Approaches to Malaria 2012. Lorne / VIC / Australia. Feb. 2012.
14. Arumugam TU, Takeo S, Yamasaki T, Thonkuiatkul A, Miura K, Otsuki H, Zhou H, Long CA, Sattabongkot J, Thompson J, Wilson DW, Beeson JG, Healer J, Crabb BS, Cowman AF, Torii M, Tsuboi T “A new sialic acid independent invasion ligand of Pf merozoite is a novel blood-stage vaccine candidate antigen” Molecular Approaches to Malaria 2012. Lorne / VIC / Australia. Feb. 2012.
15. Tsuboi T, Takeo S, Sakamoto H, Kaneko T, Arumugam TU, Yamasaki T, Ito D, Takashima E, Sattabongkot J, Torii M “Two post-genome approaches for the discovery of novel malaria blood-stage vaccine candidates using wheat germ cell-free system” Molecular Approaches to Malaria 2012. Lorne / VIC / Australia. Feb. 2012.
16. 坂本寛和, 金子隆昌, 竹尾 暁, Maier Alexander G, Sattabongkot Jetsumon, Cowman Alan F, 坪井敬文: 熱帯熱マラリア原虫の新規メロゾイト表面抗原 MSPDBL1 に対する抗体は原虫の赤血球侵入を阻害する. 第 81 回日本寄生虫学会大会, 西宮, 平成 24 年 3 月 22-24 日.
17. 伊藤大輔, 韓銀澤, 竹尾 暁, Thongkuiatkul Amporn, 大槻均, 鳥居本美, 坪井敬文: 熱帯熱マラリア原虫 RALP1 はロプトリー頸部に局在し密着接合形成に関与する. 第 81 回日本寄生虫学会大会, 西宮, 平成 24 年 3 月 22-24 日.
18. 井上信一, 新倉保, 川上泰¹, 内田明彦¹, 小林富美恵 (¹麻布大学 生命・環境科学部): γ δ T 細胞による樹状細胞活性化を介したマラリア原虫感染防御機構の解明. 第 81 回日本寄生虫学会大会, 西宮, 平成 24 年 3 月 22-24 日.

論 文

1. Kaminishi-Tanikawa A¹, Kurita M¹, Okazaki M² Kawaguchi R¹, Ihara A¹, Niikura M, Takushima

- A¹, Harii K¹ (¹Dept. Plast. Surg., Kyorin Univ. Sch. Med., ²Dept. Plast. Reconst. Surg., Grad. Sch. Tokyo Med. Dent. Univ.): Features of wound healing shown by fibroblasts obtained from the superficial and deep dermis. *J. Plast. Surg. Hand. Surg.* 45 (4-5): 219-225, 2011.
- Niikura M, Inoue S-I, Kobayashi F: Role of IL-10 in malaria: focusing on coinfection with lethal and nonlethal murine malaria parasites. In special issue "Immunology and Cell Biology of Parasitic Diseases, *J. Biomed. Biotechnol*, 2011, Article ID 383962, Epub 2011 Nov 13.
 - Ord RL¹, Rodriguez M¹, Yamasaki T², Takeo S, Tsuboi T², Lobo CA¹ (¹Dept. Blood-Borne Parasit., NY Blood Cent., ²Cell-free Sci. Tech. Res. Cent., Ehime Univ.): Targeting sialic acid dependent and independent pathways of invasion in *Plasmodium falciparum*. *PLoS One* 2012;7(1):e30251. Epub 2012 Jan 12.
 - Sakamoto H¹, Takeo S, Maier AG¹, Sattabongkot J², Cowman AF¹, Tsuboi T¹ (¹Cell-free Sci. Tech. Res. Cent., Ehime Univ., ²AFRIMS, Bangkok): Antibodies against a *Plasmodium falciparum* antigen PfMSPDBL1 inhibit merozoite invasion into human erythrocytes. *Vaccine* 2012 March 2;30(11):1972-80. Epub 2012 Jan 14.
 - Tonwong N¹, Sattabongkot J², Tsuboi T³, Iriko H⁴, Takeo S, Sirichaisinthop J⁵, Udomsangpetch R¹ (¹Facult. Sci., Mahidol Univ., ²AFRIMS, Bangkok, ³Cell-free Sci. Tech. Res. Cent., Ehime Univ., ⁴Dept. Microbiol. Immunol., Facult. Med., Tottori Univ., ⁵VBDTC, Saraburi): Natural infection of *Plasmodium falciparum* induces inhibitory antibodies against gametocyte development in human hosts. *Jpn J Infect Dis* 2012;65(2):152-6

衛生学公衆衛生学教室

口 演

- 高橋和人¹, 五林可織¹, 半田桂子¹, 北原敦子¹, 田中利明¹, 勝田秀紀¹, 西田進¹, 吉元勝彦¹, 大野秀樹, 石田均¹ (杏林大・医・3内): 脂肪細胞肥大化にともなう低酸素非依存的 VEGF 分泌制御機構の解析. 第 65 回日本栄養・食糧学会大会, 東京, 平成 23 年 5 月 13-15 日.
- 根本浩一郎¹, 西川哲男², 中館俊夫³, 大野秀樹¹ (日立横浜病院大森・新川崎健康管理センタ, ²横浜労災病院内科, ³昭和大・医): 糖尿病発症予防研究における睡眠時間と睡眠の質の検討. 第 84 回日本産業衛生学会, 東京, 平成 23 年 5 月 18-20 日.
- 岩澤聡子¹, 中野真規子¹, 上村隆元, 坪井樹¹, 山田睦子¹, 幸地勇¹, ドナルドウイルソン², 田中茂³, 丸山浩一⁴, 工藤翔二⁵, 内山巖雄⁶, 大前和幸¹ (¹慶應大・医・衛生公衆衛生, ²産業医科大・産業生態科学研究所, ³十文字学園女子大・人間生活, ⁴東京都児童相談センター, ⁵複十字病院, ⁶京都大・院・工): 帰島後 5 年間の二酸化硫黄曝露による三宅島成人住民の呼吸器自覚症状変化. 第 84 回日本産業衛生学会, 東京, 平成 23 年 5 月 18-20 日.
- 上村隆元, 片山晶彦¹, 岡本博照, 松井知子, 照屋浩司, 角田透, 古庄律² (¹(株)レドックス, ²東京農大・栄養): 3 室型電解機能水の殺菌効果を応用した安全衛生施策効果の検討. 第 84 回日本産業衛生学会, 東京, 平成 23 年 5 月 18-20 日.
- 満尾正¹, 中野重徳², 吉田正雄, 大野秀樹 (¹満尾クリニック, ²相模原中央病院): 抗加齢医療における血中ビタミン D 濃度と PTH 濃度との関係. 第 11 回日本抗加齢医学会総会, 京都, 平成 23 年 5 月 27-29 日.
- 岡本博照, 和田貴子¹, 神山麻由子², 細田武伸³ (¹杏林大・保・救急救命, ²杏林大・院・保, ³鳥取大・医・社会医学・健康政策): 救急隊員の勤務状況とストレス—第 9 報 ストレス反応と緩衝要因について職種間での比較—. 第 14 回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 札幌, 平成 23 年 6 月 3-4 日.
- 和田貴子¹, 神山麻由子², 岡本博照, 細田武伸³ (¹杏林大・保・救急救命, ²杏林大・院・保, ³鳥取大・医・社会医学・健康政策): 救急隊員の勤務状況とストレス—第 7 報 勤務状況について職種間での比較—. 第 14 回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 札幌, 平成 23 年 6 月 3-4 日.
- 神山麻由子¹, 岡本博照, 細田武伸², 和田貴子³ (¹杏林大・院・保, ²鳥取大・医・社会医学・健康政策, ³杏林大・保・救急救命): 救急隊員の勤務状況とストレス—第 8 報 仕事のストレス要因について職種間での比較—. 第 14 回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 札幌, 平成 23 年 6 月 3-4 日.
- 長澤純一¹, 内藤祐二郎¹, 杉山康司², 笹尾真美³, 曾我部健³, 新美敬太³, 野口いづみ³, 大野秀樹 (¹電気通信大, ²静岡大, ³鶴見大): 富士登山時の自律神経応答と身体の電気伝導率. 第 31 回日本登山医学会学術集会, 東京, 平成 23 年 6 月 11-12 日.
- 笹尾真美¹, 野口いづみ¹, 新美敬太¹, 曾我部健¹, 井出正道¹, 高野宏二², 杉山康司³, 長澤純一⁴, 大野秀樹 (¹鶴見大, ²埼玉県歯科医師会口腔保健センター, ³静岡大, ⁴電気通信大): 高度が味覚へ及ぼす影響—富士山における味覚定性定量検査—. 第 31 回日本登山医学会学術集会, 東京, 平成 23 年 6 月 11-12 日.
- 角田透 (講演): 過重労働による健康障害防止～エビデンス・具体的措置事例～. 東京産業保健推進センター研修, 東京, 平成 23 年 6 月 17 日.

12. 大野秀樹 (講演): 人生をアクティブに送るコツ・・・登山と恋愛の効能. 第1回東京伝統生薬研究会, 東京, 平成23年7月3日.
13. Yoshida M, Karita K, Inoue M¹, Iwasaki M¹, Tsugane S¹ for the JPHC Study Group (¹Epidemiology and Preventive Division, Research Center for Cancer Prevention and Screening, National Cancer Center, Tokyo, Japan): Association of Body Mass Index with Risk of Age-Related Cataracts in Middle-aged Japanese Population. 19th International Epidemiology Association World Congress of Epidemiology, Edinburgh, Aug. 7-11, 2011.
14. 櫻井拓也, 小笠原準悦, 木崎節子, 井澤鉄也¹, 長澤純一², 芳賀脩光³, 大野秀樹 (¹同志社大, ²電気通信大, ³日本橋学館大): 運動は老化促進モデルマウスの認知機能障害を予防する. 第19回日本運動生理学会大会, 徳島, 平成23年8月25-26日.
15. 小笠原準悦, 北舘健太郎¹, 西岡浩¹, 藤井創¹, 櫻井拓也, 木崎節子, 石橋義永, 炭谷由計², 石田均², 井澤鉄也³, 大野秀樹 (¹(株)アミノアップ化学, ²杏林大・医・3内, ³同志社大): 脂肪細胞の脂肪分解反応に及ぼす新規カテキン型ポリフェノール複合体 Oligonol の効果. 第21回体力・栄養・免疫学会大会, 東京, 平成23年8月27-28日.
16. 角田透 (講演): 粉じんによる疾病と健康管理. 第32回粉じん対策インストラクターコース, 建設業労働災害防止協会, 建設業安全衛生教育センター, 佐倉, 平成23年9月6日.
17. 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 石橋義永, 炭谷由計, 井澤鉄也¹, 宮崎裕美², 大石修司³, 芳賀脩光⁴, 大野秀樹 (¹同志社大, ²防衛医科大, ³東京医科大, ⁴日本橋学館大): 骨格筋から褐色脂肪細胞への分化機構に及ぼす寒冷曝露と水泳運動の効果. 第66回日本体力医学会大会, 下関, 平成23年9月16-18日.
18. 町田正直¹, 武田紘平¹, 横野裕行¹, 池宗佐知子¹, 北岡祐¹, 大野秀樹, 武政徹¹ (¹筑波大): 筋委縮時におけるリボゾーム RNA 合成低下を引き起こす因子の検討. 第66回日本体力医学会大会, 下関, 平成23年9月16-18日.
19. 角田透 (基調講演): 職域におけるメンタルヘルス対策と自殺予防. 日本産業衛生学会関東地方会第254回例会, 高崎, 平成23年10月7日.
20. 吉田正雄 (講演): 「病気にかかりにくい生活習慣」ーがん・心筋梗塞・脳卒中の予防ー. 埼玉回生病院第2回特別講演会, 八潮, 平成23年10月8日.
21. 角田透 (講演): 多量飲酒者にどのように介入するか ~アルコール依存症, 循環器疾患などの生活習慣病対策とともに~. 平成23年度「健康日本21 あいち計画」推進研修会, 名古屋, 平成23年10月14日.
22. 吉田正雄 (講演): 多目的コホート研究 (JPHC Study) における眼科疾患研究の進捗状況. 国立がんセンター, 東京, 2011年10月14-15日.
23. Sakurai T, Kidatate K¹, Nishioka H¹, Wakame K¹, Fujii H¹, Ogasawara J, Kizaki T, Ishibashi Y, Fujiwara T², Akagawa K², Nakano N³, Izawa T⁴ & Ohno H (¹Amino Up Chemical Co. Ltd., ²Dept. of Cell Physiology, Kyorin Univ. School of Med., ³Aino Institute of Regeneration and Rehabilitation, ⁴Doshisha Univ.): Preventive effects of oligonol on cognitive impairment in senescence-accelerated mice and identification of its molecular target in hippocampus. 第19回統合医療機能性食品国際会議, 札幌, 平成23年10月15-16日.
24. 和田貴子¹, 岡本博照 (¹杏林大・保・救急救命): 大都市部の救急隊員の勤務状況と疲労についてー第3報唾液アミラーゼ活性値ー. 第39回日本救急医学会総会, 東京, 平成23年10月18-20日.
25. 荻田香苗, 原田まつ子¹, 吉田正雄, 小風暁² (¹帝京短大・生活科学・食物栄養, ²昭和大・医・公衆衛生): 若年女性の唾液中ストレス指標と質問票による気分・感情状態の評価. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 平成23年10月19-21日.
26. 原田まつ子¹, 吉田正雄, 小風暁², 荻田香苗, (¹帝京短大・生活科学・食物栄養, ²昭和大・医・公衆衛生): 若年女性の味覚閾値と唾液中のストレス指標との関係. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 平成23年10月19-21日.
27. 上村隆元, 岡本博照, 松井知子, 照屋浩司, 角田透, 渡会理映子, 土田幸介: 在宅総合診療におけるケアギバー (care giver) の QOL に影響を与える被介護者側の因子. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 平成23年10月19-21日.
28. 岡本博照: 消防職員の日常業務由来のメンタルヘルスについてー職種間での比較ー. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 平成23年10月19-21日.
29. 照屋浩司, 岡本博照, 岩見文博¹, 大嶺智子², 深澤進次, 福田潤², 松井知子, 土田幸介, 渡会理映子, 上村隆元, 角田透 (¹杏林大・保・公衆衛生, ²杏林大・保・健康教育): 運動相談事業に参加した中高年住民の循環器機能について. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 平成23年10月19-21日.
30. 松井知子, 大嶺智子¹, 岩見文博², 照屋浩司, 岡本博照, 上村隆元, 角田透 (¹杏林大・保・健康教育, ²杏林大・保・公衆衛生): 事例性のある児童・生徒への対応ー校内委員会活動における連携についてー. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 平成23年10月19-21日.
31. 岩見文博¹, 照屋浩司, 片桐朝美², 太田ひろみ³, 石野晶子⁴, 楠田美奈¹, 松井知子, 大嶺智子⁵, 加

- 藤英世⁴ (¹杏林大・保・公衆衛生, ²杏林大・保・心理/社会福祉, ³杏林大・保・地域看護, ⁴杏林大・保・母子保健, ⁵杏林大・保・健康教育) : 幼児における音響的骨評価値の経年的変化と成長および生活習慣との関連性について. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 平成23年10月19-21日.
32. 松井知子, 森崎美奈子¹, 飯島美世子¹, 斎藤照代¹, 角田透, 錦戸典子¹, 松島尚子¹ (¹東京産業保健推進センター) : 医療従事者によるメンタルヘルス支援の向上についての研究—看護職・心理職等を対象とした実態調査と研修マニュアルの提案—. 独立行政法人労働者健康福祉機構産業保健推進センター調査研究報告会, 東京, 平成23年10月20日.
 33. 角田透 (講演) : 過重労働による健康障害防止～エビデンス・具体的措置事例～. 東京産業保健推進センター研修, 東京, 平成23年10月21日.
 34. 木崎節子 (大会長指名講演) : 抗体医薬を支える免疫の仕組み—「自然免疫」の驚異—. 第31回日本核医学技術学会総会学術大会, つくば, 平成23年10月27-29日.
 35. 角田透, 松井知子 (講演) : 産業保健スタッフのためのメンタルヘルス基礎研修会～職場で自ら実践するために～. 東京産業保健推進センター特別研修会, 東京, 平成23年10月29-30日.
 36. 長田昌史¹, 木ノ島知幸¹, 篠塚也寸¹, 開花敏彦¹, 岳真一郎¹, 吉田正雄 (¹埼玉回生病院) : 当院職員における腰痛実態の把握. 第53回全日本病院学会, 宜野湾, 2011年10月29-30日.
 37. 角田透 (講演) : ストレスと生活習慣の改善. 平成23年度健康づくり米食栄養学術講習会, 学術総合センター, 東京, 平成23年10月30日.
 38. 角田透, 松井知子 : メンタルヘルス支援の向上に関する研究—看護職・心理職等を対象とした実態調査から—. 第27回日本ストレス学会, 東京, 平成23年11月18-20日.
 39. 太田ひろみ¹, 照屋浩司, 大木幸子¹, 片桐朝美² (¹杏林大・保・地域看護, ²杏林大・保・精神保健/社会福祉) : 地域における信頼と互酬性が高齢者の健康に及ぼす影響. 第40回杏林医学会総会, 三鷹, 平成23年11月19日.
 40. 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 炭谷由計¹, 高橋和人¹, 石田均¹, 木本紀代子², 大野秀樹 (¹杏林大・医・3内, ²東名裾野病院) : 運動は骨格筋から褐色脂肪細胞への分化を活性化するか. 第40回杏林医学会総会, 三鷹, 平成23年11月19日.
 41. 神山麻由子, 岡本博照, 和田貴子 (杏林大・保・救急救命) : 消防職員の日常業務由来のメンタルヘルスに関する研究. 第40回杏林医学会総会, 三鷹, 平成23年11月19日.
 42. 櫻井拓也, 北館健太郎¹, 西岡浩¹, 若命浩二¹, 藤井創¹, 小笠原準悦, 石橋義永, 木崎節子, 藤原智徳², 赤川公朗², 炭谷由計³, 石田均³, 芳賀脩光⁴, 大野秀樹 (¹(株)アミノアップ化学, ²杏林大・医・細胞生理, ³杏林大・医・3内, ⁴日本橋学館大) : Oligonolは神経細胞において小胞体ストレスを減弱させる. 第9回日本予防医学会学術総会, 東京, 平成23年11月19-20日.
 43. 荻田香苗, 原田まつ子¹, 吉田正雄, 小風暁² (¹帝京短大・生活科学・食物栄養, ²昭和大・医・公衆衛生) : 女子学生の味覚感度と唾液中ストレス指標および気分・感情状態に関する研究. 第76回日本民族衛生学会総会, 福岡, 平成23年11月23-24日.
 44. 原田まつ子¹, 吉田正雄, 小風暁², 荻田香苗 (¹帝京短大・生活科学・食物栄養, ²昭和大・医・公衆衛生) : 女子学生の月経周期と味覚閾値の変動に関する追跡研究. 第76回日本民族衛生学会総会, 福岡, 平成23年11月23-24日.
 45. 松井知子, 若山葉子¹, 武藤三千代¹, 大嶺智子², 朝野聡², 渡部隼二³ (¹杏林大・保・健康教育, ²日本医科大, ³神奈川県立保健福祉大) : 高齢者の運動とメンタルヘルス—ラジオ体操励行者の場合—. 第76回日本民族衛生学会総会, 福岡, 平成23年11月23-24日.
 46. 若山葉子¹, 川田智之¹, 武藤三千代², 松井知子, 渡部隼二³ (¹日本医科大・衛生・公衆衛生, ²日本医科大・スポーツ科学, ³神奈川県立保健福祉大) : 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査—一般地域住民との比較検討—. 第76回日本民族衛生学会総会, 福岡, 平成23年11月23-24日.
 47. 角田透 (講演) : 有機溶剤による疾病及び健康管理. 第37回有機溶剤業務管理者講習, 建設業労働災害防止協会, 東京, 平成23年11月24日.
 48. 角田透 (講演) : 過重労働による健康障害防止～エビデンス・具体的措置事例～. 東京産業保健推進センター研修, 東京, 平成23年12月9日.
 49. 角田透 (講演) : 職場における軽度発達障害—職場における対応の実際 (事例検討) —. 平成23年度三鷹市医師会産業医講習会/第36回日本産業精神保健学会研修セミナー. 三鷹, 平成23年12月17日.
 50. 角田透 (講演) : 有害作業における留意点. 多摩東部地域産業保健センター産業医研修会, 西東京, 平成24年1月18日.
 51. 松井知子 (講演) : 医療従事者のストレスに関する一調査—医療従事者によるメンタルヘルス支援の向上についての調査研究から—. 労働局研修会, 東京, 平成24年1月24日.
 52. 岡本博照, 松井知子, 照屋浩司, 角田透 : 消防職員のメンタルヘルスに悪影響を及ぼす職業性ストレスについて—職種間での比較—. 第19回日本産業ストレス学会総会, 東京, 平成24年1月27~28日.
 53. 森崎美奈子¹, 松井知子, 角田透, 錦戸典子¹, 飯島美世子 (¹東京産業保健推進センター) : 産業現場におけるメンタルヘルス支援の向上に関する研究—看護職・心理職等を対象とした実態調査から—第1報 研修マニュアルの提案. 第18回日本産業ストレス学会総会, 東京, 平成24年1月27-28日.

54. 錦戸典子¹, 角田透, 松井知子, 飯島美世子¹, 森崎美奈子¹ (¹東京産業保健推進センター): 産業現場におけるメンタルヘルス支援の向上に関する研究—看護職・心理職等を対象とした実態調査から—第2報 産業看護職のメンタルヘルス活動状況と保有資格との関連. 第18回日本産業ストレス学会, 東京, 平成24年1月27-28日.
55. 松井知子, 角田透, 森崎美奈子¹, 錦戸典子¹, 飯島美世子¹ (¹東京産業保健推進センター): 産業現場におけるメンタルヘルス支援の向上に関する研究—看護職・心理職等を対象とした実態調査から—第3報 メンタルヘルス体制と産業保健スタッフのメンタルヘルス状態. 第18回日本産業ストレス学会, 東京, 平成24年1月27-28日.
56. 吉田正雄 (講演): 多目的コホート研究 (JPHC Study) 佐久保健所管内における眼科疾患研究の進捗状況. 長野県佐久保健所, 佐久, 2012年1月31日.
57. 松井知子 (講演): 新卒・新入社員のメンタルヘルス～メンタルヘルスと生活習慣～. 東京経営者協会メンタル・ショートセミナー, 東京, 平成24年2月29日.
58. 角田透 (講演): 過重労働による健康障害防止～エビデンス・具体的措置事例～. 東京産業保健推進センター研修, 東京, 平成24年3月16日.
59. 上村隆元, 岡本博照, 松井知子, 照屋浩司, 角田透: 日本語版 HUI 健康効用値を用いたケアギバーの QOL とケアレシーバ側の因子. 第82回日本衛生学会学術総会, 京都, 平成24年3月24-26日.
60. 岩澤聡子¹, 坪井樹¹, 中野真規子¹, 上村隆元, 山田睦子¹, 幸地勇¹, 田中茂², 大前和幸¹ (¹慶應大・医・衛生公衆衛生, ²十文字学園女子大・人間生活・食物栄養 / 公衆衛生): 帰島後5年間の二酸化硫黄曝露による三宅島小児住民の呼吸器影響. 第82回日本衛生学会学術総会, 京都, 平成24年3月24-26日.
61. 櫻井拓也, 北舘健太郎¹, 西岡浩¹, 若命浩二¹, 藤井創¹, 小笠原準悦, 木崎節子, 藤原智徳², 赤川公朗², 大野秀樹 (¹(株)アミノアップ化学, ²杏林大・医・細胞生理): Oligonol は神経細胞において小胞体ストレス減弱作用をもつ. 第82回日本衛生学会学術総会, 京都, 平成24年3月24-26日.
62. 櫻井拓也 (シンポジウム): オリジナリティあふれる衛生学を～社会医学と実験医学のクロストーク～. 第82回日本衛生学会学術総会京都, 平成24年3月24-26日.
63. 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 石橋義永, 炭谷由計¹, 井澤鉄也², 石田均¹, 鈴木健二³, 芳賀脩光⁴, 大野秀樹 (¹杏林大・医・3内, ²同志社大, ³立命館大, ⁴筑波大): 水泳運動は骨格筋前駆細胞から褐色脂肪細胞への分化シグナルを促進する. 第82回日本衛生学会学術総会京都, 平成24年3月24-26日.
64. 原邦夫¹, 本間純一², 田村憲治³, 井上まり子², 荻田香苗, 矢野栄二² (¹帝京平成大・地域医療, ²帝京大・医・衛生公衆衛生, ³独立行政法人国立環境研究所): 1990年以降20年間の東京都のSPMおよびPM2.5濃度減少の要因解析. 京都, 平成24年3月24-26日.
65. 小風暁¹, 石川守, 荻田香苗, 吉田正雄, 島田直樹¹, 大津忠弘¹, 白澤貴子¹, 落合裕隆¹, 星野祐美¹, 高島豊 (¹昭和大学・医・公衆衛生): 長寿関連ミトコンドリアDNA多型における喫煙習慣と脂質異常症リスクとの関係解析. 第82回日本衛生学会学術総会, 京都, 平成24年3月24-26日.

論文

1. Hatano D¹, Ogasawara J, Endoh S¹, Sakurai T, Nomura S², Kizaki T, Ohno H, Komabayashi T³ & Izawa T^{1,4} (¹Tokyo Metropolitan Univ., ²Osaka Univ., ³Musashigaoka College, ⁴Doshisha Univ.): Effect of exercise training on the density of endothelial cells in the white adipose tissue of rats. *Scand. J. Med. Sci. Sports* 21: e115-e121, 2011.
2. Ohno H, Shirato K¹, Sakurai T, Ogasawara J, Sumitani Y², Sato S¹, Imaizumi K¹, Ishida H² & Kizaki T (¹Waseda Univ., ²Third Dept. of Internal Med., Kyorin Univ. School of Med.): Effect of exercise on HIF-1 and VEGF signaling. *J. Phys. Fit. Sports Med.* 1 (1): 5-16, 2012.
3. Arai T¹, Oh-Ishi T¹, Yamamoto H¹, Nunoi H², Kamizono J³, Uehara M⁴, Kubota T⁵, Sakurai T, Kizaki T & Ohno H (¹Saitama Children's Medical Center, ²Univ. of Miyazaki, ³Kitakyusyu City Yahata Hospital, ⁴Health Insurance Hitoyoshi General Hospital, ⁵Univ. of Yamanashi): Copy number variations due to large genomic deletion in x-linked chronic granulomatous disease. *PLoS One.* 7 (2): e27782, 2012.
4. Sakurai T, Ogasawara J, Kizaki T, Ishibashi Y, Fujiwara T¹, Akagawa K¹, Izawa T², Oh-ishi S³, Haga S⁴ & Ohno H (¹Dept. of Cell Physiology, Kyorin Univ. School of Med., ²Doshisha Univ., ³Tokyo Medical Univ. Ibaraki Medical Center, ⁴Univ. of Tsukuba): Involvement of leucine zipper transcription factor-like protein 1 (Lztl1) in the attenuation of cognitive impairment by exercise training. *Biochem Biophys Res Commun.* 416 (1-2): 125-129, 2011.
5. Kizaki T, Maegawa T¹, Sakurai T, Ogasawara J, Ookawara T², Oh-ishi S³, Izawa T⁴, Haga S⁵, & Ohno H (¹Japan Women's College of Physical Education, ²Hyogo Univ. of Health Sciences, ³Tokyo Medical Univ., Ibaraki Medical Center, ⁴Doshisha Univ., ⁵Univ. of Tsukuba): Voluntary exercise attenuates obesity-associated inflammation through ghrelin expressed in macrophages. *Biochem Biophys Res Commun.* 413 (3): 454-459, 2011.

6. Miyazaki H¹, Kinoshita M¹, Ono S¹, Nakashima M¹, Hara E¹, Ohno H, Seki S¹ & Saitoh D¹ (¹National Defense Medical College) : Augmented bacterial elimination by Kupffer cells after IL-18 pretreatment via IFN- γ produced from NK cells in burn-injured mice. *Burns* 37 (7): 1208-1215, 2011.
7. Son HJ¹, Kim HJ¹, Kim JH¹, Ohno H & Kim CK¹ (¹Korean National Univ. of Physical Education) : Erythropoietin, 2, 3 DPG, oxygen transport capacity, and altitude training in adolescent Alpine skiers. *Aviat. Space Environ. Med.* 83 (1): 50-53, 2012.
8. Miyokawa-Gorin K¹, Takahashi K¹, Handa K¹, Kitahara A¹, Sumitani Y¹, Katsuta H¹, Tanaka T¹, Nishida S¹, Yoshimoto K¹, Ohno H & Ishida H¹ (¹Third Dept. of Internal Med. , Kyorin Univ. School of Med.) : Induction of mitochondrial uncoupling enhances VEGF (120) but reduces MCP-1 release in mature 3T3-L1 adipocytes: Possible regulatory mechanism through endogenous ER stress and AMPK-related pathways. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 419 (2): 200-205, 2012.
9. Kizaki T, Sato S, Sakurai T, Ogasawara J, Imaizumi K¹, Izawa T², Nagasawa J³, Saitoh D⁴, Haga S⁵ & Ohno H (¹Waseda Univ. , ²Doshisha Univ. , ³The Univ. of Electro-Communications, ⁴National Defense Medical College Research Institute, ⁵Univ. of Tsukuba) : The effects of exercise on macrophage function. *J. Phys. Fit. Sports Med.* 1 (1): 113-124, 2012.
10. Sato S^{1,2}, Shirato K¹, Kizaki T, Ohno H, Tachiyashiki K³ & Imaizumi K¹ (¹Waseda Univ. , ²Japan Society for the Promotion of Science, ³Joetsu Univ. of Education) : Effects of β_2 -agonists and exercise on β_2 -adrenergic receptor signaling in skeletal muscles. *J. Phys. Fit. Sports Med.* 1 (1): 139-144, 2012.
11. Shirato K¹, Kizaki T, Ohno H & Imaizumi K¹ (¹Waseda Univ.) : Effects of exercise on the hexosamine biosynthetic pathway and glycosylation. *J. Phys. Fit. Sports Med.* 1 (1): 145-150, 2012.
12. Sakurai T, Ogasawara J, Kizaki T, Ishibashi Y, Sumitani Y¹, Takahashi K¹, Ishida H¹, Miyazaki H², Saitoh D², Haga S³, Izawa T⁴ & Ohno H (¹Third Dept. of Internal Med. , Kyorin Univ. School of Med. , ²National Defense Medical College Research Institute, ³Univ. of Tsukuba, ⁴Doshisha Univ.) : Preventive and improvement effects of exercise training and supplement intake in white adipose tissues on obesity and lifestyle-related diseases. *Environ. Health Prev. Med.* , 2012. (公開済み)
13. 長澤純一¹, 内藤祐二郎¹, 杉山康司², 笹尾真美³, 曾我部健³, 新美敬太³, 野口いづみ³, 芳賀脩光⁴, 石橋義永, 木崎節子, 大野秀樹 (¹電気通信大, ²静岡大, ³鶴見大, ⁴日本橋学館大) : 富士登山時の自律神経応答と身体の電気伝導率. *登山医学* 31: 145-152, 2011.
14. 笹尾真美¹, 野口いづみ¹, 新美敬太¹, 曾我部健¹, 井出正道¹, 高野宏二², 杉山康司³, 長澤純一⁴, 大野秀樹 (¹鶴見大, ²埼玉県歯科医師会口腔保健センター, ³静岡大, ⁴電気通信大) : 高度が味覚感度へ及ぼす影響—富士山における味覚定性定量検査—. *登山医学* 31: 127-131, 2011.
15. Sato-Mito N¹, Sasaki S², Murakami K², Okubo H², Takahashi Y³, Shibata S⁴, Yamada K⁵, Kazuto Sato K⁷ & the Freshmen in Dietetic Courses Study II group (¹Azabu Univ. , ²The Univ. of Tokyo, ³Wayo Women's Univ. , ⁴Waseda University, ⁵Kagawa Nutrition Univ. , ⁷Japan Women's Univ.) : The midpoint of sleep is associated with dietary intake and dietary behavior among young Japanese women. *Sleep Med.* 12 (3) : 289-294, 2011.
16. 泉良太¹, 能登真一¹, 上村隆元, 佐野哲也², 美津島隆², 佐藤大樹³, 崎村陽子³ (¹新潟医療福祉大・医療技術・作業療法, ²浜松医大・附属病院・リハビリテーション科, ³新潟リハビリテーション病院・リハビリテーション科) : 健康関連 QOL における日本語版効用値尺度の信頼性の検討—本人回答と代理人回答の一致度について—. *総合リハビリテーション* 39(6): 569-575, 2011.
17. 村田勝敬¹, 荻田香苗, 堀口兵剛¹, 岩田豊人¹, 広瀬明彦² (¹秋田大・医・衛生, ²国立医薬品食品衛生研・総合評価) : ベンチマークドース法の臨床的基準をもつ健康影響指標への適用. *産業衛生学雑誌* 53(3): 67-77, 2011.
18. Jinsart W¹, Kaewmanee C¹, Inoue M², Hara K², Hasegawa S³, Karita K, Tamura K² & Yano E² (¹Chulalongkorn Univ. , ²Teikyo Univ. School of Med. , ³National Institute for Environmental Studies) : Driver exposure to particulate matter in Bangkok. *J Air & Waste Manage. Assoc.* 62 : 64-71, 2011.
19. 村田勝敬¹, 吉田稔², 坂本峰至³, 岩井美幸⁴, 柳沼梢⁴, 龍田希⁴, 岩田豊人¹, 荻田香苗, 仲井邦彦⁴ (¹秋田大・医・衛生, ²八戸大・人間健康, ³国立水俣研, ⁴東北大・医・環境保健) : メチル水銀毒性に関する疫学的研究の動向. *日本衛生学雑誌* 66(4): 682-695, 2011.
20. Kawamoto T, Kokaze A¹, Ishikawa M, Matsunaga N, Karita K, Yoshida M, Shimada N¹, Ohtsu T¹, Shirasawa T¹, Ochiai H¹, Ito T¹, Hoshino H¹ & Takashima Y (¹Showa Univ. School of Med.) : Joint effect of longevity-associated mitochondrial DNA 5178 C/A poly-morphism and alcohol consumption on risk of hyper-LDL

- cholesterolemia in middle-aged Japanese men. *Lipids Health Dis* 10 : 105 (1-6), 2011.
21. Hosoda T¹, Okamoto H, Wada T² & Kurosawa Y¹ (¹Division of Health Administration and Promotion, School of Med., Tottori Univ., ²Dept. of Paramedics, Faculty of Health Sciences, Kyorin Univ.) : Current duty arrangements and circumstances of emergency medical technicians: Findings of an electronic questionnaire survey conducted at the 16th national ambulance-crew symposium. *Yonago Acta Medica* 54: 37-40, 2011.
 22. Honmyo R, Kokaze A¹, Karita K, Yoshida M, Ishikawa M², Ohno H (¹Showa Univ., ²Kashiwa Kousei Clinic) : Influence of mitochondrial DNA 5178 C/A polymorphism on serum cholesterol changes: a short-term follow-up in middle-aged Japanese men. *Environ. Health Prev. Med.* 2012. (公開済み)
 23. 岡本博照 : 消防隊員のメンタルヘルス. 産業精神保健 19: 224-229, 2011.
 24. 岡本博照, 菊川忠臣¹, 細田武伸², 和田貴子¹ (¹杏林大・保・救急救命, ²鳥取大・医・社会医学・健康政策) : 勤務開始時に測定した都市部救急隊員の唾液アミラーゼ活性値についての考察. 日本臨床救急医学会雑誌 14(4): 487-494, 2011.
 25. 岩見文博, 阿部千春¹, 石野晶子¹, 大久保良彦¹, 林幹泰², 加藤英世¹, 照屋浩司 (¹杏林大・保・母子保健, ²杏林大・保・精神保健/社会福祉) : 子の障害を要因とした親子自他殺に関する研究. 保健の科学 53(7): 489-495, 2011.
 26. Takemae R, Uemura T, Okamoto H, Matsui T, Yoshida M, Fukazawa S, Tsuchida K & Teruya K, Tsunoda T : Changes in mental health and quality of life with dental implants as evaluated by General Health Questionnaire (GHQ) and Health Utilities Index (HUI). *Environ. Health Prev. Med.* 2012. (公開済み)
- 著書**
1. 大野秀樹, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 石橋義永, 木崎節子 (分担執筆) : 第 23 章 燃焼系素材と運動. 機能性食品素材と運動療法—生活習慣病予防と運動機能維持向上を目指して—. 大澤俊彦, 佐藤祐造監修. 大阪シーエムシー出版, 2012. p. 177-184.
 2. 角田透 : Q&A 働くあなたのためのこころとからだの健康チェック. 角田透編. 大阪, 清文社, 2011.
 3. 角田透 : 第 84 回日本産業衛生学会を開催して. 産業医学ジャーナル 35(1): 41-51, 2012.
 4. 角田透 : ストレスと生活習慣の改善. 平成 23 年度健康づくり米食栄養学術講習会. 日本栄養士会雑誌 55(2): 65-66, 2011.
 5. 角田透 : 職場におけるアルコール問題 (メンタルヘルスの基礎知識③). 総合健診 38(6): 836-838, 2011.
 6. 小笠原準悦, 木崎節子, 石橋義永, 芳賀脩光¹, 大野秀樹 (¹日本橋学館大) (分担執筆) : エネルギースタンドとしての脂肪組織. 脂肪組織のエクササイズバイオロジー 一冊まるごと脂肪組織と運動の話. 井澤鉄也, 駒林隆夫編. 東京, ナップ, 2011. p. 23-70.
 7. 櫻井拓也, 小笠原準悦, 木崎節子, 炭谷由計¹, 石田均¹, 大野秀樹 (¹杏林大・医・3 内) : 内分泌器官としての脂肪組織 : アディポカインの分泌. 脂肪組織のエクササイズバイオロジー 一冊まるごと脂肪組織と運動の話. 井澤鉄也, 駒林隆夫編. 東京, (有) ナップ, 2011. p. 71-130.
 8. 櫻井拓也, 小笠原準悦, 木崎節子, 石橋義永, 藤原智徳¹, 赤川公朗¹, 井澤鉄也², 芳賀脩光³, 大野秀樹 (¹杏林大・医・細胞生理, ²同志社大, ³筑波大) : 運動は肥満・糖尿病によるアルツハイマー病発症リスクを軽減するか. 第 27 回健康医学研究助成論文集. 東京六法出版, 2012. p. 87-96.
 9. 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 井澤鉄也¹, 大野秀樹 (¹同志社大) : 運動は肥満により肥大した脂肪細胞の細胞応答と脂肪分解反応の亢進を導くか. 公益財団法人中富健康科学振興財団第 22 回研究助成業績集平成 23 年版. 医薬ジャーナル社, 2011. p. 100-105.
 10. 櫻井拓也, 北館健太郎¹, 西岡浩¹, 若命浩二¹, 藤井創¹, 小笠原準悦, 木崎節子, 石橋義永, 藤原智徳¹, 赤川公朗¹, 中野法彦¹, 井澤鉄也¹, 大野秀樹 (¹(株)アミノアップ化学, ¹杏林大・医・細胞生理, ¹藍野再生医療研究所, ¹同志社大) : Oligonol の老化促進モデルマウスの認知機能障害に対する予防効果と海馬におけるターゲット分子の同定. *Proceedings 19th International Congress on Nutrition and Integrative Medicine*, アミノアップ化学, 2011. p. 113-116.
- その他**
1. 大野秀樹 (監修) : 登山ハイキングでもっと元気に! : 山に登って健康になろう. 暮しと健康 66 (10): 102-103, 2011.
 2. 大野秀樹 (監修) : 登山ハイキングでもっと元気に! : 登山向きの体をつくろう. 暮しと健康 66 (11): 102-103, 2011.
 3. 大野秀樹 (監修) : 登山ハイキングでもっと元気に! : 疲れ・痛み知らずの歩き方のコツ, 大公開. 暮らしと健康 66 (12): 102-103, 2011.
 4. 大野秀樹 (監修) : 登山ハイキングでもっと元気に! : 山歩きの力を生む栄養と休憩のとり方. 暮らしと健康 67 (1): 102-103, 2012.
 5. 大野秀樹 (監修) : 登山ハイキングでもっと元気に! : 山で起こる緊急事態に焦らずに対処しよう. 暮らしと健康 67 (2): 102-103, 2012.
 6. 大野秀樹 (監修) : 登山ハイキングでもっと元気に! : 用具や服装を準備して春の山にでかけよう! 暮らしと健康 67 (3): 102-103, 2012.

7. 大野秀樹：三代同居：おばあちゃん仮説．大和会だより 76: 5, 2011.
8. 大野秀樹：悪玉 (LDL) コレステロールよりもっと悪玉のホモシステイン．大和会だより 77: 5, 2011.
9. 大野秀樹：よき睡眠はよき人生をもたらす．大和会だより 78: 7, 2011.
10. 大野秀樹：進化の歴史はどんなミステリ小説よりもおもしろい．大和会だより 79: 5, 2011.
11. 大野秀樹：人間は想定外に弱い．大和会だより 80: 5, 2012.
12. 大野秀樹：運動時の抗酸化サプリメント摂取は単純ではない．大和会だより 81: 5, 2012.
13. 満尾正¹，大野秀樹 (¹満尾クリニック)：公衆衛生 キレーション療法の概要．日本医事新報 4579: 76-77, 2012.
14. 大野秀樹：中高年のみなさん，もっと歩きましょう．墨田川 49: 693, 2011.
15. 大野秀樹：東日本大震災に立ち向かおう．日本山岳文化学会会報 34: 3-4, 2012.
16. 大野秀樹：いびきと夜間頻尿．日本山岳文化学会会報 35: 10, 2011.
17. 大野秀樹：登山におけるお酒の効用と節制，タバコの影響．日本山岳文化学会会報 36: 5-6, 2011.
18. 大野秀樹：登山の付加価値-森林浴の効能-．日本山岳文化学会会報 37: 6, 2011.
19. 大野秀樹：登山は少子化を救うかもしれない．日本山岳文化学会会報 38: 6, 2011.
20. 角田透 (学会主催)：第 84 回日本産業衛生学会，東京，平成 23 年 5 月 18-20 日．
21. 角田透 (研修セミナー主催)：平成 23 年度三鷹市医師会産業医講習会 / 第 36 回日本産業精神保健学会研修セミナー．三鷹，平成 23 年 12 月 17 日．
22. 角田透 (研修セミナー主催)：第 37 回日本産業精神保健学会研修セミナー．東京，平成 24 年 3 月 19 日．
23. 荻田香苗 (分担)：化学物質有害性評価書—グルタルアルデヒド (Glutaraldehyde)．厚生労働省受託 (職場の化学物質のリスク評価推進事業) 中央労働災害防止協会，平成 23 年度報告書．
24. 荻田香苗 (分担)：微小粒子状物質等大気汚染物質に係る疫学文献調査研究．環境省受託 (水・大気環境局) 日本エヌユーエス，平成 23 年度業務報告書．
25. 松井知子 (代表研究者)，森崎美奈子¹，飯島美世子¹，斎藤照代¹，角田透¹，錦戸典子¹，松島尚子¹ (¹東京産業保健推進センター)：医療従事者によるメンタルヘルス支援の向上についての研究—看護職・心理職等を対象とした実態調査と研修マニュアルの提案—．独立行政法人労働者健康福祉機構 平成 23 年度産業保健推進センター調査研究報告書．

法医学教室

口 演

1. 都築民幸¹，岩原香織¹，吉田昌記，上野麻夫，佐藤喜宣 (¹日歯大)：歯科的個人識別に有用な歯科情報の再考．第 95 次日本法医学会学術全国集会，福島，平成 23 年 6 月 17 日．
2. 花岡洋一¹，都築民幸²，中村安孝¹，岩原香織²，吉田昌記，水口清¹，佐藤喜宣 (¹東歯大，²日歯大)：歯科所見採取における新たな画像撮影装置の有用性について．第 95 次日本法医学会学術全国集会，福島，平成 23 年 6 月 16 日．
3. 高篠智，浅原千歩，高木徹也，佐藤喜宣：Heat Shock Protein (HSP 72/73) を用いた死亡時体温の推定に関する基礎的研究．第 95 次日本法医学会学術全国集会，福島，平成 23 年 6 月 17 日．
4. 浅原千歩，高篠智，吉田昌記，須藤孝子，松村桜子，高木徹也，佐藤喜宣：夏季に凍死と診断した 1 例．第 40 回杏林医学会総会，三鷹，平成 23 年 11 月 19 日．
5. 亀田智之¹，菅野均¹，牧田博至¹，上野麻夫¹，岩原香織²，都築民幸²，吉田昌記，佐藤喜宣，山田良広³ (¹東京都港区警察歯科医会，²日歯大，³神奈川歯大)：当会で購入・装備した携帯型ブラックライト (LED117 ナイトライド) の有用性について．第 10 回警察歯科医会全国大会，盛岡，平成 23 年 11 月 4 日．

論 文

1. 佐藤喜宣：虐待症候群—子ども虐待と臨床法医学からのアプローチ—，犯罪学雑誌，77: 165-171, 2011.
2. 佐藤喜宣：IV．虐待・ネグレクトが子どもに残す影響—児童虐待死亡例の検討—法医学の視点から，小児科診療，74: 1531-1535, 2011.

著 書

1. 高篠智：IV - 3 呼吸器．織田銃一，東家一雄，宮木孝昌編．スunksの生物学．東京：学会出版センター；2011；p 137-143.

共同研究施設 放射性同位元素部門

口 演

1. 井原智：放射線を知ろう．野尻湖グリーンタウン勉強会，信濃，平成 23 年 5 月 4 日．
2. 三嶋竜弥¹，藤原智徳¹，真田ますみ¹，小藤剛史，赤川公朗 (¹杏林大・医・細胞生理学)：シタキシシン 1 B ノックアウトマウスの神経機能における表現型の解析：シナプス伝達におけるシタキシシン 1 A とシタキシシン 1 B の機能的差異．第 34 回日本神経科学大会，横浜，平成 23 年 9 月 15 日．
3. 小藤剛史，藤原智徳¹，真田ますみ¹，三嶋竜弥¹，赤川公朗 (¹杏林大・医・細胞生理学)：HPC-1/STX1A 欠損と STX1B 欠損による培養神経細胞

の生存への影響. 第34回日本神経科学大会, 横浜, 平成23年9月16日.

4. 井原智: R I施設の放射線量と環境モニタリング値の比較. 第50回医療放射線管理講習会, 京都, 平成23年10月1日.
5. 井原智: 放射線障害を避けるために. 福島県古殿町町民勉強会, 古殿, 平成23年12月20日.
6. 井原智: 放射線障害を避けるために. 郡山市市民勉強会, 郡山, 平成24年1月21日.

論文

1. Fukushima T¹, Tsuda M¹, Kofuji T, Hori Y¹ (¹Dokkyo Univ. Sch. Med., Dept. Physiol. and Biol. Inform.): Physiological properties of enkephalin-containing neurons in the spinal dorsal horn visualized by expression of green fluorescent protein in BAC transgenic mice. *BMC Neurosci.* 12:36, 2011.
2. Fujiwara T¹, Kofuji T, Akagawa A¹ (¹Kyorin Univ. Sch. Med., Dept. Cell Physiol.): Dysfunction of the Hypothalamic-Pituitary-Adrenal axis in STX1A KO mice. *J. Neuroendocrinol.* 23:1222-1230, 2011.
3. Mishima T¹, Fujiwara T¹, Kofuji T, Akagawa K¹ (¹Kyorin Univ. Sch. Med., Dept. Cell Physiol.): Impairment of catecholamine systems during induction of long-term potentiation at hippocampal CA1 synapses in HPC-1/syntaxin 1A knockout mice. *J. Neurosci.* 32:381-389, 2012.

フローサイトメトリ部門

口演

1. Takahashi R, Sato Y¹, Shiohara T¹ (¹Dept. of Dermatology): Defective anti-viral immune responses and alternative activation of monocytes are triggered by expansions of Treg in eczema herpeticum, The International Investigative Dermatology 2011, Kyoto, Dec. 9-10, 2011.
2. 高橋良: 制御性T細胞とは?, 血液形態学の自己研修プログラム支援塾, 八王子, 平成24年2月25日.

論文

1. 制御性T細胞と重症薬疹: 石田正¹, 高橋良, 塩原哲夫¹ (¹皮膚科), 日本皮膚科学会雑誌 121: 2682-2685, 2011.

著書

1. Shiohara T¹, Sato Y¹, Takahashi R, Kurata M¹, Mizukawa Y¹ (¹Department of Dermatology): Increased susceptibility to cutaneous viral infections in atopic dermatitis: the roles of regulatory T cells and innate immune defects. In: *Current Problems in Dermatology*, vol. 41. Pathomechanisms, diagnosis and management of atopic dermatitis. Shiohara T, ed. Karger AG,

Basel. 2011.

2. Shiohara T¹, Kano Y¹, Takahashi R, Ishida T¹, Mizukawa Y¹ (¹Department of Dermatology): Drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS): Recent advances in the diagnosis, pathogenesis and management. In: *Adverse Cutaneous Drug Eruptions*. French LE, ed. Karger AG, Basel. 2011.

その他

1. 高橋良: 平成23年度科学研究費補助金 若手研究 (B) 研究代表者

実験動物施設部門

口演

1. 蔵田訓¹, 田口晴彦², 大崎敬子¹, 神谷茂 (¹杏林大・医・感染症微生物, ²杏林大・保健・免疫学): マウス実験的肺炎モデルおよび splenocyte を用いた *Mycoplasma pneumoniae* 菌体抗原による Th17 分化誘導機構についての検討. 第85回日本感染症学会総会, 東京, 平成23年4月21-22日.
2. 北条史, 大崎敬子¹, 花輪智子¹, 神谷茂 (¹杏林大・医・感染症微生物): *in vivo* における Phx-3 の抗 *Helicobacter pylori* 活性について. 第17回日本ヘリコバクター学会学術集会, 富山, 平成23年6月24-25日.
3. Kamiya S, Zaman C¹, Yonezawa H¹, Hojo F, Osaki T¹ (¹Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine.): Analysis for microbial ecology between *Helicobacter pylori* and gastric microbiota in Mongolian gerbil. The 16th International Workshop on Campylobacter, Helicobacter, and Related Organisms, Vancouver, Aug. 28-31, 2011.
4. Osaki T¹, Kato S², Yonezawa H¹, Kurata S¹, Zaman C¹, Hanawa T¹, Kamiya S (¹Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine, ²Tokai University, School of Medicine.): Analysis of iron transport and storage gene in *Helicobacter pylori* isolated from iron deficiency anemia patients. The 16th International Workshop on Campylobacter, Helicobacter, and Related Organisms, Vancouver, Aug. 28-31, 2011.
5. Kurata S¹, Taguchi H², Osaki T¹, Hanawa T, Yonezawa H¹, Zaman C¹, Arae K², Kamiya S (¹Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine, ²Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences): In vitro and in vivo analyses of Th17 cells stimulated by *Mycoplasma pneumoniae* antigens. *International*

- Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011), Sapporo, Sep. 6-10, 2011.
6. Osaki T¹, Kato S², Zaman C¹, Yonezawa H¹, Hanawa T¹, Kurata S¹, Hojo F, Kamiya S (¹Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine, ²Tokai University, School of Medicine.) : The characterization of *Helicobacter pylori* strains isolated from the iron deficiency anemia patients. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011), Sapporo, Sep. 6-10, 2011.
 7. Hojo F, Osaki T¹, Hanawa T¹, Tomoda A², Kamiya S (¹Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine. ²Department of Biochemistry and Intractable Immune System Disease Research Center, Tokyo Medical University): *In Vivo* antibacterial activity of PHX-3 against *Helicobacter pylori*. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011), Sapporo, Sep. 6-10, 2011.
 8. Kurata S¹, Taguchi H², Sasaki T³, Kamiya S (¹Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine. ²Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, ³Pharmaceuticals and Medical Devices Agency) : Animal model of macrolide-resistant *Mycoplasma pneumoniae* infection. Joint Congress of The 5th Meeting of the Asian Organization for Mycoplasmology (AOM), The 38th Meeting of the Japanese Society of Mycoplasmology (JSM), Nagasaki, Oct. 19-21, 2011.
 9. Taguchi H¹, Arae K¹, Kurata S², Kamiya S (¹ Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences. ²Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine.) : Host immune response in gnotobiotic model of-*Mycoplasma pneumoniae* inducing pneumonia. Joint Congress of The 5th Meeting of the Asian Organization for Mycoplasmology (AOM) The 38th Meeting of the Japanese Society of Mycoplasmology (JSM), Nagasaki, Oct. 19-21, 2011.
 10. Kamiya S : Microbial ecology between *Helicobacter pylori* and microbiota in gastric mucosa. Presidential Lecture, The Joint Meeting of the XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
 11. Kamiya S : Regulation of probiotics in Japan. Round Table Discussion, The Joint Meeting of the XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
 12. Taguchi H¹, Kurata S², Arae K¹, Onogawa T¹, Kamiya S (¹Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences. ²Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine.) : Immune response of the gnotobiotic mouse model induced mycoplasmal pneumonia and evaluation of antimicrobials using the model. The Joint Meeting of the XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
 13. Kurata S¹, Taguchi H², Osaki T¹, Hanawa T¹, Yonezawa H¹, Kamiya S (¹Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine. ²Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences): Role of IL-10 and IL-17 in the *Mycoplasma pneumoniae* experimental pneumonia model. The Joint Meeting of the XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
 14. Hojo F, Osaki T¹, Hanawa T¹, Tomoda A², Kamiya S (¹Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine. ²Department of Biochemistry and Intractable Immune System Disease Research Center, Tokyo Medical University): *In Vivo* antibacterial activity of PHX-3 against *Helicobacter pylori*. The Joint Meeting of the XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.
 15. 神谷茂, 蔵田訓¹, 大崎敬子¹, 柴森雅文², 中島貴子², 植松直也², 櫻井一志² (¹杏林大・医・感染症微生物, ²大塚製薬株式会社) : NSAIDS 小腸潰瘍における小腸内正常細菌叢の変化とレバミピドの効果. OTSUKA 小腸基礎研究会, 京都, 平成 23 年 12 月 10 日.
 16. 大崎敬子¹, 米澤英雄¹, 花輪智子¹, 蔵田訓¹, Zaman Cynthia¹, 神谷茂 (¹杏林大・医・感染症微生物) : *Helicobacter pylori* の環境中での生存条件についての検討. 第 45 回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 岐阜, 平成 24 年 1 月 12-13 日.

17. 大崎敬子¹, 米澤英雄¹, Zaman Cynthia¹, 北条史, 花輪智子¹, 蔵田訓¹, 神谷茂 (杏林大・医・感染症微生物): Interaction between *Helicobacter pylori* and Caco-2 cells in the co-culture system. 第85回日本細菌学会総会, 長崎, 平成24年3月27-29日.
18. 北条史, 大崎敬子¹, 花輪智子¹, 蔵田訓¹, 山口博之², 神谷茂 (杏林大・医・感染症微生物, ²北大・院・保健科学・病態解析学・感染制御検査学): Analysis of symbiotic conditions between *Helicobacter pylori* and protozoa. 第85回日本細菌学会総会, 長崎, 平成24年3月27-29日.
19. 蔵田訓¹, 大崎敬子¹, 花輪智子¹, 米澤英雄¹, 田口晴彦², 神谷茂 (杏林大・医・感染症微生物, ²杏林大・保健・免疫学): Induction of a Th17 response by *Mycoplasma pneumoniae* antigens. 第85回日本細菌学会総会, 長崎, 平成24年3月27-29日.

論文

1. Mikura S¹, Wada H¹, Higaki M¹, Yasutake T¹, Ishii H¹, Kamiya S, Goto H¹ (Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Erythromycin prevents the pulmonary inflammation induced by exposure to cigarette smoke. *Translational Res* 158:30-37, 2011.
2. Hirao S¹, Wada H¹, Nakagaki K², Saraya T¹, Kurai D¹, Miura S¹, Yasutake T¹, Higaki M¹, Yokoyama T¹, Ishii H¹, Nakata K³, Akashi T⁴, Kamiya S, Goto H¹ (Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Division of Wildlife Medicine, Nippon Veterinary and Life Science University, ³Bioscience Medical Research Center, Niigata University Medical and Dental Hospital, ⁴Medicinal Research Laboratories, Taisho Pharmaceutical Co. Ltd.): Inflammation provoked by *Mycoplasma pneumoniae* extract: implications for combination treatment with clarithromycin and dexamethasone. *FEMS Immunol Med Microbiol* 62:182-189, 2011.
3. Yonezawa H¹, Osaki T¹, Woo T¹, Kurata S¹, Zaman C¹, Hojo F, Hanawa T¹, Kato S², Kamiya S (Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine. ²Department of cell Transplantation and Regenerative Medicine, Tokai University School of Medicine): Analysis of outer membrane vesicle protein involved in biofilm formation of *Helicobacter pylori*. *Anaerobe*, 17:388-390, 2011.
4. Woo T¹, Oka K², Takahashi M², Hojo F, Osaki T¹, Hanawa T¹, Kurata S¹, Yonezawa H¹, Kamiya S (Miyarisan Pharmaceutical Co. Ltd.): Inhibition of the cytotoxic effect of *C. difficile* in vitro by *Clostridium butyricum* MIYAIRI 588 strain. *J*

Med Microbiol 60:1617-1625, 2011.

5. Kamiya S: Effect of probiotics on intestinal infections. *Intestinal Res* 9:171-178, 2011.
6. Saraya T¹, Nakata K², Nakagaki K³, Motoi N², Iihara K⁴, Fujioka Y⁵, Oka T⁶, Kurai D¹, Wada H¹, Ishii H¹, Taguchi H⁷, Kamiya S, Goto H¹ (¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Niigata University Medical & Dental Hospital, Bioscience Medical Research Center, ³Laboratory of Infectious Diseases and Immunology, College of Veterinary Medicine, Nippon Jui Seimeikagaku University, ⁴NTT Medical Center Tokyo, Department of Diagnostic Pathology, ⁵Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ⁶Division of Pathology and Central Clinical Laboratory, Kanto Central Hospital of the Mutual Aid Association of Public School Teachers, ⁷Department of Immunology, Kyorin University, Faculty of Health Sciences): Identification of a mechanism for lung inflammation caused by *Mycoplasma pneumoniae* using a novel mouse model. *Results in Immunology* 1:76-87, 2011.

その他

1. 神谷茂, 花輪智子¹, 米澤英雄¹, 北条史 (杏林大・医・感染症微生物): ドライソープに含有される界面活性剤の細菌バイオフィーム形成能およびHSV-1増殖への作用. 「クリーニングと公衆衛生に関する研究報告書」平成22年度, p13-19, 平成23年4月6日.
2. Young Scientist Award
Hojo F, Osaki T¹, Hanawa T¹, Tomoda A², Kamiya S (Department of Infectious Diseases, Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine. ²Department of Biochemistry and Intractable Immune System Disease Research Center, Tokyo Medical University): *In Vivo* antibacterial activity of PHX-3 against *Helicobacter pylori*. The Joint Meeting of the XVIIth International Symposium on Gnotobiology (ISG) and The XXXIVth Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease (SOMED), Yokohama, Nov. 20-23, 2011.

生物学教室

口演

1. Yamamoto MT, Ueda R, Watada M & Matsuda M: National BioResource Project- *Drosophila*. 1st Asia-Pacific *Drosophila* Research Conference. Taipei, May 22-25, 2011.
2. Tanaka K and Kuwasawa K: Neurotransmitters of the cardiac ganglion in the penaeid shrimp, *Maruspenaeus japonicus*. 第4回国際比較生理生

化学教室

化学会議, 名古屋, 2011年6月3日.

3. 山本雅敏¹, 上田龍², 和多田正義³, 松田宗男
(¹京都工芸繊維大学, ²国立遺伝学研究所, ³愛媛大学): NBRP ショウジョウバエ Resource at the Bench. 第83回日本遺伝学会, 京都, 平成23年9月20-22日.
4. 山本雅敏¹, 上田龍², 和多田正義³, 松田宗男, (¹京都工芸繊維大学, ²国立遺伝学研究所, ³愛媛大学): ショウジョウバエリソース この10年の発展と今後の展望. 第34回日本分子生物学会, 横浜, 平成23年12月13-16日

論文

1. 松田宗男: 逆位と遺伝子多型から追うアナナスショウジョウバエ亜群の種分化 (Evolutionary history of the *Drosophila ananassae* species subgroup inferred from chromosome arrangements and DNA sequences.) 低温科学 69: 29-32. 2011.
2. Tanaka K, Kuwasawa K, Kurokawa M: Neural pathways to cardioaccelerator neurons in the isopod crustacean *Bathynomus doederleini*: cholinergic activation by somatic movements. , Comp. Biochem. Physiol. 159A, 66-74, 2011.
3. 田中浩輔, 山田慎吾¹, 桑澤清明², 黒川信¹ (¹首都大学東京, ²岡山理科大) 等脚甲殻類オオグソクムシ心筋に対する生体アミン類の効果. 杏林大学研究報告 29: 1-8, 2012.

物理学教室

口演

1. 大谷宗久: 核子テンソル荷に対する有限体積効果. 日本物理学会 2011年秋季大会, 弘前, 平成23年9月17日.
2. 遠山満: 基底状態相関と四重極励起. 日本物理学会 2011年秋季大会, 弘前, 平成23年9月18日.
3. Tohyama M: Extended RPA from time dependent density matrix theory. Long-term Workshop on "Dynamics and correlations in exotic nuclei (DCEN2011)", Kyoto, Sep. 23, 2011.

論文

1. Takahara S, Onishi N¹, Shimizu Y R² & Tajima N³ (¹ Univ. of Tokyo, ² Grad. Sch. of Sci. , Kyushu Univ. , ³ Dep. of Appl. Phys. , Univ. of Fukui): The role of spin-orbit potential in nuclear prolate-shape dominance. Phys Lett B 702:429-432, 2011.
2. Tohyama M, Nakatsukasa T¹ (¹RIKEN Nishina Center): Fragmentation of electric dipole strength in N=82 isotones. Phys Rev. C 85: 031302(R) -1-4, 2012.